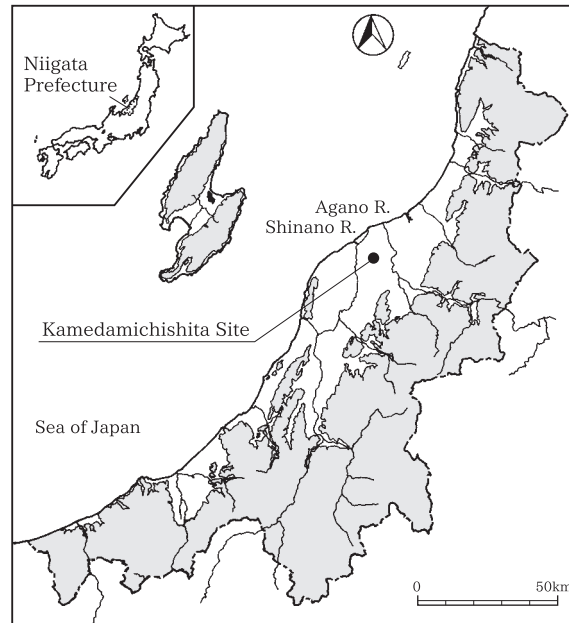


かめ だ みち した
亀田道下遺跡 第2次調査

— 市道亀田南線建設事業に伴う亀田道下遺跡第2次発掘調査報告書 —



2020

新潟市教育委員会

例 言

- 1 本書は新潟県新潟市江南区荻曽根 2 丁目 14-4 ほか^{かめだみちした}に所在する亀田道下遺跡(新潟市遺跡番号 768)の発掘調査記録である。
- 2 調査は新潟市土木部東部地域土木事務所が実施する市道亀田南線建設事業に伴い、新潟市教育委員会(以下「市教委」という)が調査主体となり、新潟市文化スポーツ部文化財センター(以下、「市文化財センター」)が補助執行した。
- 3 平成 29 年度に発掘調査、平成 30 年度に整理作業、令和元年度に報告書刊行を行った。発掘調査と整理作業の体制は第三章に記した。
- 4 発掘調査、出土品ほかの整理作業の支援業務については、株式会社ノガミに、調査に伴う測量業務は株式会社オリスに委託した。
- 5 出土遺物及び調査・整理作業に係る記録類は、一括して市文化財センターが保管・管理している。
- 6 本書の作成・執筆・編集は澤野慶子・遠藤恭雄(市文化財センター)と千田幸生(株式会社ノガミ)、図版レイアウトは澤野・千田が行った。
執筆は、第 I 章第 1・2 節、第 II 章第 1・3 節を遠藤、第三章第 2・3 節、第四章第 2 節を千田・遠藤、第四章第 3 節を澤野・千田、第七章第 1・3 節を澤野・遠藤、そのほかを澤野が行った。なお、第 VI 章については、第 1～3 節を株式会社火山灰考古学研究所、第 4・5 節を株式会社加速器分析研究所に執筆を含めて委託した。
- 7 第 II 章第 1～3 節については、『日水遺跡 II』[立木・細野^{ほか}2013]から一部引用・加筆して掲載した。
- 8 本書で用いた写真は、遺跡写真は遠藤・澤野が、遺物写真は株式会社シン技術コンサル新潟支店と佐藤俊英氏(ビッグヘッド)に委託して撮影した。ただし、写真図版 1 は米軍(国土地理院発行)が撮影したものを使用した。
- 9 遺構図・遺物図のトレースと各種図版作成・編集に関しては、有限会社不二出版に委託してデジタルトレースと DTP ソフトによる編集を実施し、完成データを印刷業者に入稿して印刷した。
- 10 遺物のうち、肥前陶磁器については大橋康二氏(佐賀県立九州陶磁文化館)、渡邊ますみ氏(新潟市教育委員会)から指導・教示を受けた。
- 11 本書で報告する亀田道下遺跡の調査成果の一部については、現地説明会や平成 29 年度新潟市遺跡発掘調査速報会(遠藤 2018)で発表されているが、本報告書と齟齬がある場合は、本書の記載内容をもって正とする。
- 12 調査から本書の作成に至るまで下記の方々・機関より御指導・御協力を賜った。ここに記して厚く御礼申し上げる。
石川博行・宇野 保・宇野トシ・大橋康二・酒井和男・清野周三・関 雅之・戸根与八郎・宮崎芳春
亀田郷土地改良区・新潟県教育庁文化行政課・新潟県考古学会近世部・(公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
(所属・敬称略、五十音順)

凡 例

- 1 本書は本文・別表と巻末図版（図面図版・写真図版）からなる。
- 2 本書で示す方位は全て真北である。磁北は真北から西偏約 8 度である。掲載図面のうち、既存の地形図等を使用したものは、原図の作成者・作成年を示した。
- 3 本文中の注は各章の末尾に記した。引用文献は著者と発行年（西暦）を〔 〕中に示し、巻末に一括して掲載した。
- 4 遺構番号は現場で付したものをを用いた。番号は遺構の種別ごとに付さず、通し番号とした。ただし、掘立柱建物・柱列については、調査終了後に再検討を行ったため、別途通し番号とした。
- 5 土層の土色および遺物の色調観察は『新版 標準土色帖』（小山・竹原 1967）を用いた。
- 6 遺構計測表中における（ ）付きの値は現存値で、遺物観察表中における（ ）付きの値は、推定値を意味する。
- 7 遺構平面図での切り合い関係のある遺構の上端・下端の表現について、切られている遺構の場合、上端の復元が可能ならば破線、下端は切っている遺構より深度が深ければ実線、浅くても復元が可能であれば破線で示した。
- 8 遺構計測表では、遺構の新旧関係を表現する際に「<」や「>」を用いた。例えば、SK1<SK2 とした場合は SK1 が古く、SK2 が新しいことを示す。
- 9 遺物の注記は亀田道下遺跡の略記号「亀田道下」とし、出土地点や層位を続けて記した。略記号の前には「17」を付し 2017 年を表した。
- 10 遺物番号は土器・陶磁器・土製品・石製品・金属製品・木製品を含めて通し番とし、本文および観察表・写真図版の番号は同一番号とした。
- 11 土器実測図の断面は、須恵器を黒塗り、それ以外を白抜きとした。トーンについてはその都度図版中に凡例を提示した。
- 12 土器実測図では全周の 1/12 以下のような遺存率の低いものや、ゆがみが著しいものについては、誤差があるため中軸線の両側に空白を設けた。

目 次

| | |
|----------------|----|
| 第I章 序 章 | 1 |
| 第1節 遺跡概観 | 1 |
| 第2節 発掘調査に至る経緯 | 1 |
| 第II章 遺跡の位置と環境 | 2 |
| 第1節 地理的環境 | 2 |
| 第2節 周辺の遺跡 | 2 |
| 第3節 歴史的環境 | 7 |
| 第III章 調査の概要 | 9 |
| 第1節 試掘調査 | 9 |
| 第2節 本発掘調査 | 10 |
| A 調査方法 | 10 |
| B 調査経過 | 10 |
| C 調査体制 | 11 |
| 第3節 整理作業 | 11 |
| A 整理方法 | 11 |
| B 整理経過 | 11 |
| C 整理体制 | 12 |
| 第IV章 遺 跡 | 13 |
| 第1節 遺跡の概要 | 13 |
| 第2節 層 序 | 13 |
| 第3節 遺 構 | 14 |
| A 古代の遺構 | 14 |
| B 近世以降の遺構 | 18 |
| 第V章 遺 物 | 33 |
| 第1節 概 要 | 33 |
| A 古代土器 | 33 |
| B 近世以降 | 34 |
| 第2節 出土土器・陶磁器各説 | 36 |
| A 古 代 | 36 |
| B 近世以降 | 39 |
| C 土 製 品 | 49 |
| D 石 製 品 | 49 |
| E 金属製品 | 51 |
| F 木 製 品 | 52 |

| | |
|--------------------------------------|----|
| 第Ⅵ章 自然科学分析 | 53 |
| 第1節 微化石分析地点の土層層序 | 53 |
| A 土層 | 53 |
| 第2節 植物珪酸体（プラント・オパール）分析 | 54 |
| A はじめに | 54 |
| B 分析試料 | 54 |
| C 分析方法 | 55 |
| D 分析結果 | 55 |
| E 考察 | 56 |
| F まとめ | 56 |
| 第3節 花粉分析 | 57 |
| A はじめに | 57 |
| B 分析試料 | 57 |
| C 分析方法 | 57 |
| D 結果 | 57 |
| E 考察 | 60 |
| F まとめ | 61 |
| 第4節 樹種および種実同定 | 61 |
| A 分析試料 | 61 |
| B 分析方法 | 62 |
| C 結果 | 62 |
| D 考察 | 63 |
| 第5節 放射性炭素年代（AMS測定）とウィグルマッチングによる暦年代推定 | 63 |
| A 測定対象試料 | 63 |
| B 化学処理工程 | 64 |
| C 測定方法 | 64 |
| D 算出方法 | 64 |
| E 測定結果 | 65 |
| 第Ⅶ章 総括 | 68 |
| 第1節 遺構 | 68 |
| 第2節 遺物 | 71 |
| A 古代の遺物 | 71 |
| B 近世の土器・陶磁器 | 72 |
| 第3節 亀田道下遺跡の性格 | 73 |
| 引用・参考文献 | 75 |
| 別表 | 81 |
| 報告書抄録・奥付 | 巻末 |

挿図目次

| | | | | | |
|--------|------------------------------|----|--------|--|----|
| 第 1 図 | 亀田道下遺跡周辺地形分類図 | 3 | 第 13 図 | 花粉の顕微鏡写真 | 60 |
| 第 2 図 | 亀田道下遺跡周辺の遺跡分布図 | 4 | 第 14 図 | 出土木材と種実写真 | 62 |
| 第 3 図 | 試掘調査 トレンチ配置図 | 9 | 第 15 図 | 試料 No.1 ウィグルマッチング試料写真 | 63 |
| 第 4 図 | 試掘調査 柱状図 | 9 | 第 16 図 | 暦年較正年代グラフ | 66 |
| 第 5 図 | 古代土器分類図 | 34 | 第 17 図 | 試料 No.1 ウィグルマッチングによる 炭化材最外年輪の暦年較正年代グラフ | 67 |
| 第 6 図 | 近世陶磁器分類図 | 35 | 第 18 図 | 試料 No.1 のウィグルマッチング (第 17 図の グラフに表れたピークを最外年輪と見なした場合) | 67 |
| 第 7 図 | 自然科学分析サンプル採取位置図 | 53 | 第 19 図 | 亀田道下遺跡 遺構配置図 | 69 |
| 第 8 図 | ①～④地点土層柱状図 | 53 | 第 20 図 | 亀田道下遺跡 周辺の旧地割図 | 70 |
| 第 9 図 | ⑥～⑧地点土層柱状図 | 54 | 第 21 図 | 亀田道下遺跡 周辺の地形 | 73 |
| 第 10 図 | 植物珪酸体 (プラント・オパール) 分析結果 | 56 | 第 22 図 | 樹木 (ニレ属) 検出状況 | 74 |
| 第 11 図 | 植物珪酸体 (プラント・オパール) の 顕微鏡写真 | 56 | | | |
| 第 12 図 | 花粉ダイアグラム | 59 | | | |

表目次

| | | | | | |
|-------|------------------------|----|-------|---|----|
| 第 1 表 | 亀田道下遺跡周辺の遺跡一覧表 | 5 | 第 7 表 | 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 補正值) | 65 |
| 第 2 表 | 試掘調査 遺構・遺物集計表 | 9 | 第 8 表 | 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、 暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代) | 66 |
| 第 3 表 | 植物珪酸体 (プラント・オパール) 分析結果 | 55 | 第 9 表 | 放射性炭素年代に基づくウィグルマッチング 結果 | 67 |
| 第 4 表 | 花粉分析結果 | 58 | | | |
| 第 5 表 | 出土木材と種実 | 62 | | | |
| 第 6 表 | ウィグルマッチングを行った伐採樹木の特徴 | 63 | | | |

別表目次

| | | | | | |
|------|------------|----|------|---------------|----|
| 別表 1 | 遺構計測表 | 81 | 別表 5 | 石製品観察表 | 92 |
| 別表 2 | 古代土器観察表 | 86 | 別表 6 | 金属製品観察表 | 93 |
| 別表 3 | 近世以降陶磁器観察表 | 88 | 別表 7 | 木製品観察表 | 93 |
| 別表 4 | 土製品観察表 | 92 | 別表 8 | 遺構出土古代土器器種構成率 | 93 |

図版目次

| | | | | | |
|-------|--------------------------------|--|-------|---|--|
| 図版 1 | 周辺の旧地形図 (1/25,000) | | 図版 12 | 基本層序 A・B・C・D・E・F | |
| 図版 2 | 周辺の旧地形図 (1/50,000) | | 図版 13 | 基本層序 G・H・I・J-1・J-2 | |
| 図版 3 | 周辺の旧地割図 (1/7,000) | | 図版 14 | 遺構個別図 1 古代 SK193・195・215・238・ 242・252・254・283 | |
| 図版 4 | 周辺の遺跡 (1/25,000) | | 図版 15 | 遺構個別図 2 古代 SK457・495、SD108・ 239・255・257・272・330・358、SN503・ 504 | |
| 図版 5 | 亀田道下遺跡調査区とグリッド設定図 (1/2,500) | | 図版 16 | 遺構個別図 3 古代 Pit264・449・471・521・ 522・526、近世以降 SE2・27・87、SD251、 Pit293 | |
| 図版 6 | 遺物包含層の小グリッド別土器重量分布図 (1/600) | | 図版 17 | 遺構個別図 4 近世以降 SE102・104・105・ 126 | |
| 図版 7 | 遺構全体図 (1/250) | | | | |
| 図版 8 | 平面部分図 1 (1/150) | | | | |
| 図版 9 | 平面部分図 2 (1/150) | | | | |
| 図版 10 | 平面部分図 3 (1/150) | | | | |
| 図版 11 | 平面部分図 4 (1/150) | | | | |

- 図版 18 遺構個別図 5 近世以降 SE105、SK167、SD9-A
- 図版 19 遺構個別図 6 近世以降 SE107・111・113・118、SD100
- 図版 20 遺構個別図 7 近世以降 SE315、SK19・103・340
- 図版 21 遺構個別図 8 近世以降 SE119・120・135
- 図版 22 遺構個別図 9 近世以降 SE329・367
- 図版 23 遺構個別図 10 近世以降 SK10・18・24・37・38、SD9-A・25・41
- 図版 24 遺構個別図 11 古代 SD108、近世以降 SK39・53・88・109・117・145・160・163・180、SD41
- 図版 25 遺構個別図 12 近世以降 SK181・280・317・319・370・372・375、SD9-B・128・373
- 図版 26 遺構個別図 13 近世以降 SK395・518、SX71・79・83・241、SD9-A・17・248・436、Pit294・394
- 図版 27 遺構個別図 14 近世以降 SE126、SK103、SD25・35・41・100・101・110・124・125・138・368・384、Pit89・366
- 図版 28 遺構個別図 15 近世以降 SD128・133・150・164・192・196・197・248・251・373・374・411・436
- 図版 29 遺構個別図 16 近世以降 SD291・292・308・311・355・359・381・396・409・411・437・438・439・445・450・451・501
- 図版 30 遺構個別図 17 近世以降 SN218・219・220・221・222・223・225・226・227・229
- 図版 31 遺構個別図 18 近世以降 SN228・230・233・234・235・236・237・256・468・469・473・476・477
- 図版 32 遺構個別図 19 近世以降 SB1・2、Pit3・5・6・11・82・84
- 図版 33 遺構個別図 20 近世以降 SB3、SA4・5、Pit28・29・31・62・63・68・156・159・186・187・299・345
- 図版 34 遺構個別図 21 近世以降 SD138、Pit14・47・49・78・95・137・304・305・321・338・339・524
- 図版 35 出土遺物 1 古代 1 SK193・252・254・457、SD108・239
- 図版 36 出土遺物 2 古代 2 SD257・330・358、Pit183、SE105・119・120・329・367、SK340、SD9-B・25
- 図版 37 出土遺物 3 古代 3 SD101・124・128・197・251、Pit186、包含層 (1)
- 図版 38 出土遺物 4 古代 4 包含層 (2)、攪乱
- 図版 39 出土遺物 5 近世以降 1 SE2・27・102・104・105・107
- 図版 40 出土遺物 6 近世以降 2 SE111・113・118・120
- 図版 41 出土遺物 7 近世以降 3 SE126・135・315 (1)
- 図版 42 出土遺物 8 近世以降 4 SE315 (2)・329・367、SK19
- 図版 43 出土遺物 9 近世以降 5 SK103・145・163・167・181・317・319 (1)
- 図版 44 出土遺物 10 近世以降 6 SK319 (2)・340・375、SX83、SD9-A・B (1)
- 図版 45 出土遺物 11 近世以降 7 SD9-B (2)・16・25・101・110・125 (1)
- 図版 46 出土遺物 12 近世以降 8 SD125 (2)・128 (1)
- 図版 47 出土遺物 13 近世以降 9 SD128 (2)・197・311・438、Pit44・293・294・320、包含層 (1)
- 図版 48 出土遺物 14 近世以降 10 包含層 (2)
- 図版 49 出土遺物 15 近世以降 11 包含層 (3)、攪乱、排土 土製品 1 SK317・395、SD110・196、Pit91・393・443
- 図版 50 出土遺物 16 土製品 2 SE102・105・118・315、SK103、SD25、包含層、攪乱、排土 石製品 1 SK242、SD330
- 図版 51 出土遺物 17 石製品 2 SD358、SE27・102・104・107・113 (1)
- 図版 52 出土遺物 18 石製品 3 SE113 (2)・118・126・329・367、SK103
- 図版 53 出土遺物 19 石製品 4 SK145・319・340・395、SD101、Pit159 銭貨 SK340 金属製品 1 SE135・329
- 図版 54 出土遺物 20 金属製品 2 SK317・319・370 木製品 SE2・27・113、SK317、攪乱

写真図版目次

- 写真図版 1 亀田道下遺跡周辺空中写真
- 写真図版 2 亀田道下遺跡空中写真 1 (南から)
亀田道下遺跡空中写真 2 (北西から)
- 写真図版 3 亀田道下遺跡空中写真 3 (西から)
亀田道下遺跡空中写真 4 (上が北東)
- 写真図版 4 亀田道下遺跡空中写真 5 (調査区北側)
- 写真図版 5 亀田道下遺跡空中写真 6 (調査区南側)
調査前現況 (北西から)
調査前現況 (南東から)
基本層序 A、SD41 断面 (南東から)
基本層序 B、SX96、Pit301 断面 (北から)
基本層序 C (北東から)

| | | |
|---------|-------------------------------|-------------------------|
| | 基本層序 D、SD128・373 断面（北東から） | SN503 完掘（南東から） |
| | 基本層序 E（北東から） | SN504 断面（南東から） |
| | 基本層序 F、SD257 断面（南東から） | SN504 完掘（南東から） |
| 写真図版 6 | 基本層序 G、SD251 断面（南西から） | 写真図版 12 Pit264 断面（南東から） |
| | 基本層序 H、SD128・373・374 断面（南西から） | Pit264 完掘（南東から） |
| | 基本層序 I、風倒木検出状況（北西から） | Pit449 断面（南東から） |
| | 基本層序 J、立木検出状況（北西から） | Pit449 完掘（南東から） |
| | SK193 断面（南東から） | Pit471 断面（南東から） |
| | SK193 完掘（南東から） | Pit471 完掘（南東から） |
| | SK195 断面（南東から） | Pit521 断面（東から） |
| | SK195 完掘（南東から） | Pit521 完掘（東から） |
| 写真図版 7 | SK215 断面（南東から） | 写真図版 13 Pit522 断面（南東から） |
| | SK215 完掘（南東から） | Pit522 完掘（南東から） |
| | SK238 断面（北東から） | Pit526 断面（南東から） |
| | SK238 完掘（北東から） | Pit526 完掘（南東から） |
| | SK242 断面（南東から） | SE2 断面・完掘（南西から） |
| | SK242 完掘（南東から） | SE27 断面（南西から） |
| | SK252 断面（南東から） | SE27 完掘（南西から） |
| | SK252 完掘（南東から） | SE87、Pit293 断面（北東から） |
| 写真図版 8 | SK254 断面（南西から） | 写真図版 14 SE87 完掘（北東から） |
| | SK254 完掘（南西から） | SE102 完掘（南西から） |
| | SK254 遺物出土状況（南西から） | SE104 断面（南東から） |
| | SK283 断面（北東から） | SE104 完掘（南東から） |
| | SK283 完掘（北東から） | SE105 断面（東から） |
| | SK457 断面・遺物出土状況（南東から） | SE105 完掘（東から） |
| | SK457 完掘（南東から） | SE107 断面（南東から） |
| | SK495 断面（南東から） | SE107 完掘（南東から） |
| 写真図版 9 | SK495 完掘（南東から） | 写真図版 15 SE111 断面（南東から） |
| | SD108 断面（南東から） | SE111 完掘（南東から） |
| | SD108 完掘（南東から） | SE113 断面（北東から） |
| | SD108 遺物出土状況（南東から） | SE113 完掘（北東から） |
| | SD239 断面（南東から） | SE118 断面（東から） |
| | SD239 完掘（南東から） | SE118 完掘（東から） |
| | SD255 断面（南東から） | SE119・120 断面・完掘（北東から） |
| | SD255 完掘（南東から） | SE120 断面・完掘（北東から） |
| 写真図版 10 | SD257 断面（南東から） | 写真図版 16 SE126 断面（南東から） |
| | SD257 完掘（南東から） | SE126 完掘（南東から） |
| | SD272 断面（北東から） | SE135 断面（南東から） |
| | SD272 完掘（北東から） | SE135 完掘（南東から） |
| | SD330 断面（南東から） | SE315 断面（北東から） |
| | SD330 断面（南から） | SE315 タガ1 段目出土状況（北東から） |
| | SD330 断面（南から） | SE315 タガ2 段目出土状況（北東から） |
| | SD330 断面（北西から） | SE315 完掘（北東から） |
| 写真図版 11 | SD330 完掘（北から） | 写真図版 17 SE316 完掘（南から） |
| | SD330 完掘（南から） | SE329 断面（北東から） |
| | SD358 断面（南から） | SE329 完掘（北東から） |
| | SD358 完掘（南から） | SE367 断面（南から） |
| | SN503 断面（南東から） | SE367 完掘（南から） |
| | | 調査区北東側井戸群（東から） |

| | | | |
|---------|-------------------------------|---------|-------------------------|
| | SK10 断面 (南東から) | 写真図版 24 | SK395、Pit394 完掘 (南東から) |
| | SK10 完掘 (南東から) | | SK518 断面・完掘 (南東から) |
| 写真図版 18 | SK18 断面 (南東から) | | SX71 断面 (南東から) |
| | SK18 完掘 (南東から) | | SX71 完掘 (南東から) |
| | SK19 断面 (北東から) | | SX79、Pit294 断面 (北から) |
| | SK19 完掘 (北東から) | | SX79、Pit294 完掘 (北から) |
| | SK24、SD25 断面 (南東から) | | SX83 断面 (北東から) |
| | SK24 完掘 (南東から) | | SX83 完掘 (北東から) |
| | SK37 断面 (東から) | 写真図版 25 | SX96、Pit301 断面・完掘 (北から) |
| | SK37 完掘 (東から) | | SX241 断面 (南東から) |
| 写真図版 19 | SK38 断面 (南東から) | | SX241 完掘 (南東から) |
| | SK38 完掘 (南東から) | | SX302 完掘 (南東から) |
| | SK39 断面 (南東から) | | SD9-A 断面 (南東から) |
| | SK39 完掘 (南東から) | | SD9-A 完掘 (南東から) |
| | SK53 断面 (北東から) | | SD17 断面 (南東から) |
| | SK53 完掘 (北東から) | | SD16・17 断面・完掘 (南東から) |
| | SK88 断面 (南東から) | 写真図版 26 | SD25 断面 (南東から) |
| | SK88 完掘 (南東から) | | SD25 完掘 (南東から) |
| 写真図版 20 | SK103 断面 (北東から) | | SD35 断面 (南東から) |
| | SK103 完掘 (北東から) | | SD35 完掘 (南東から) |
| | SK109、SD108 断面 (南東から) | | SD41 断面 (南東から) |
| | SK109 完掘 (南東から) | | SD41 完掘 (南東から) |
| | SK117 断面 (南東から) | | SD100・368 断面 (南東から) |
| | SK117 完掘 (南東から) | | SD100・368 断面 (南東から) |
| | SK145 断面 (北東から) | 写真図版 27 | SD100・368 完掘 (南東から) |
| | SK145 完掘 (北東から) | | SD101 断面 (北東から) |
| 写真図版 21 | SK160 断面 (南西から) | | SD101 断面 (北東から) |
| | SK160 完掘 (南西から) | | SD101 完掘 (北東から) |
| | SK163 断面 (北東から) | | SD110 断面 (北東から) |
| | SK163 完掘 (北東から) | | SD110 完掘 (北東から) |
| | SK167 断面 (西から) | | SD124 断面 (南東から) |
| | SK167 完掘 (西から) | | SD124 完掘 (南東から) |
| | SK180 断面 (北東から) | 写真図版 28 | SD125 断面 (北東から) |
| | SK180 完掘 (北東から) | | SD125 断面 (北東から) |
| 写真図版 22 | SK181 断面 (北東から) | | SD125・384 断面 (北東から) |
| | SK181 完掘 (北東から) | | SD125・384 完掘 (北東から) |
| | SK280、SD9-B 断面 (南東から) | | SD128・373 断面 (北東から) |
| | SK280、SD9-B 完掘 (南東から) | | SD128・373・374 断面 (北東から) |
| | SK317 断面 (南東から) | | SD128・373・374 完掘 (北東から) |
| | SK317 完掘 (南東から) | | SD133 断面 (北東から) |
| | SK319 断面 (北東から) | 写真図版 29 | SD133 完掘 (北東から) |
| | SK319 完掘 (北東から) | | SD138、Pit366 断面 (南西から) |
| 写真図版 23 | SK340 断面 (北東から) | | SD138、Pit366 完掘 (南西から) |
| | SK340 完掘 (北東から) | | SD150 断面 (南東から) |
| | SK370・372、SD128・373 断面 (北東から) | | SD150 断面 (南東から) |
| | SK370 完掘 (北東から) | | SD150 完掘 (南東から) |
| | SK372 完掘 (北東から) | | SD164 断面 (南東から) |
| | SK375 断面 (北東から) | | SD164 完掘 (南東から) |
| | SK375 完掘 (北東から) | 写真図版 30 | SD192 断面 (北東から) |
| | SK395、Pit394 断面 (南東から) | | SD192 完掘 (北東から) |

| | | | |
|---------|------------------------------------|---------|-------------------------|
| | SD196・197 断面（北東から） | | Pit11（SB1）断面（南東から） |
| | SD196・197・411 断面（南東から） | | Pit11（SB1）完掘（南東から） |
| | SD197・436 断面（南東から） | 写真図版 37 | SB2 完掘（北西から） |
| | SD248・436 断面（南東から） | | Pit44（SB2）断面（北東から） |
| | SD411・437・438・439 断面（北西から） | | Pit44（SB2）完掘（北東から） |
| | SD196・197・248・411・436～439 完掘（南東から） | | Pit82（SB2）断面（南東から） |
| 写真図版 31 | SD251 断面（南東から） | | Pit82（SB2）完掘（南東から） |
| | SD251 断面（南東から） | 写真図版 38 | Pit84（SB2）断面（東から） |
| | SD251 断面（南東から） | | Pit84（SB2）完掘（東から） |
| | SD251 完掘（南東から） | | Pit86（SB2）断面（北東から） |
| | SD291 断面（南東から） | | Pit86（SB2）完掘（北東から） |
| | SD291 完掘（南東から） | | Pit89（SB2）断面（南東から） |
| | SD292 断面（南東から） | | Pit89（SB2）完掘（南東から） |
| | SD292 完掘（南東から） | | Pit139（SB2）断面（南東から） |
| 写真図版 32 | SD308 断面（南東から） | | Pit139（SB2）完掘（南東から） |
| | SD308 完掘（南東から） | 写真図版 39 | SB3 完掘（北西から） |
| | SD311 断面（南東から） | | Pit28（SB3）断面（南西から） |
| | SD311 完掘（南東から） | | Pit28（SB3）完掘（南西から） |
| | SD355 断面（南東から） | | Pit31（SB3）断面（北東から） |
| | SD355 完掘（南東から） | | Pit31（SB3）完掘（北東から） |
| | SD359 断面（南東から） | 写真図版 40 | Pit62・63（SB3）断面（南東から） |
| | SD359 完掘（南東から） | | Pit62・63（SB3）完掘（南東から） |
| 写真図版 33 | SD381 断面（北東から） | | Pit156（SB3）断面（南東から） |
| | SD381 完掘（北東から） | | Pit156（SB3）完掘（南東から） |
| | SD396 断面（南東から） | | Pit159（SB3）断面（北東から） |
| | SD396 完掘（南東から） | | Pit159（SB3）完掘（北東から） |
| | SD409 断面（北東から） | | Pit186（SB3）断面（南東から） |
| | SD409 完掘（北東から） | | Pit186（SB3）完掘（南東から） |
| | SD445 断面（南から） | 写真図版 41 | Pit187（SB3）断面（南東から） |
| | SD445 完掘（南から） | | Pit187（SB3）完掘（南東から） |
| 写真図版 34 | SD450 断面（北東から） | | Pit365（SB3）断面（南西から） |
| | SD450 完掘（北東から） | | Pit365（SB3）完掘（南西から） |
| | SD451 断面（北東から） | | SA4 完掘（北西から） |
| | SD451 完掘（北東から） | | SA5 完掘（北西から） |
| | SD501 断面（南東から） | | Pit294 断面（北から） |
| | SD501 完掘（南東から） | | Pit294 完掘（北から） |
| | SN218～221 断面（北東から） | 写真図版 42 | 出土遺物 1 古代土器 1 |
| | SN218～221 完掘（北東から） | 写真図版 43 | 出土遺物 2 古代土器 2 |
| 写真図版 35 | SN222 断面（北東から） | 写真図版 44 | 出土遺物 3 古代土器 3 |
| | SN222 完掘（北東から） | 写真図版 45 | 出土遺物 4 近世以降陶磁器 1 |
| | SN223・225～230 断面（北東から） | 写真図版 46 | 出土遺物 5 近世以降陶磁器 2 |
| | SN223・225～230 完掘（北東から） | 写真図版 47 | 出土遺物 6 近世以降陶磁器 3 |
| | SN233～237・468・469 断面（北東から） | 写真図版 48 | 出土遺物 7 近世以降陶磁器 4 |
| | SN233～237・468・469 完掘（北東から） | 写真図版 49 | 出土遺物 8 近世以降陶磁器 5 |
| | SN256 断面（北東から） | 写真図版 50 | 出土遺物 9 近世以降陶磁器 6 |
| | SN256 完掘（北東から） | 写真図版 51 | 出土遺物 10 近世以降陶磁器 7 |
| 写真図版 36 | SB1 完掘（北西から） | 写真図版 52 | 出土遺物 11 近世以降陶磁器 8 |
| | Pit3（SB1）断面（西から） | 写真図版 53 | 出土遺物 12 土製品、石製品 1 |
| | Pit3（SB1）完掘（西から） | 写真図版 54 | 出土遺物 13 石製品 2、銭貨、金属製品 1 |
| | | 写真図版 55 | 出土遺物 14 金属製品 2、木製品 |

第 I 章 序 章

第 1 節 遺 跡 概 観

亀田道下遺跡は、新潟市（平成 17 年の合併前は中蒲原郡亀田町）江南区荻曾根 2 丁目 14-4 ほかに所在する。平成 27（2015）年に市道亀田南線建設事業に伴う試掘調査によって発見され、古代を主体とする遺跡として新たに周知化された。市道亀田南線は、国道 49 号（亀田バイパス）から県道白根亀田線へ接続する道路として計画され、南側の亀田バイパス方面から建設が進められた。本遺跡は事業予定の最終部分である県道白根亀田線との接続部に所在し、当該地の小字名である道下から亀田道下遺跡とされたものである。

遺跡は、旧亀田町市街地を乗せる亀田砂丘の西側縁辺部および南北に延びる自然堤防上に立地する。地表面の標高は 1.5 ～ 2m を測り、現況は宅地および畑・梅林が広がる。周辺には日水遺跡・手代山北遺跡など、古代・中世を主体とする遺跡が点在する地域である。

第 2 節 発掘調査に至る経緯

市道亀田南線道路改良工事は、旧亀田町時代に計画された事業である。平成 17 年に亀田町が新潟市と合併し、事業は合併建設計画として新潟市に引き継がれた。平成 17・18 年は新潟市亀田支所建設課が所管し、平成 19 年からは新潟市の政令指定都市移行に伴い、工事の所管が新潟市土木部東部地域土木事務所（以下、東部土木）に移った。

平成 17・19・24 年に用地買収の進展に伴い、事業予定地内において試掘・確認調査が実施された。調査の結果、事業予定地内の北側で遺構・遺物が発見されたことから、手代山北遺跡（新潟市遺跡番号 734）が新たに登録され、平成 19・20 年と平成 26 年の 3 回に分けて本発掘調査が行われた〔朝岡・丹下ほか 2009、遠藤 2016〕。

その後、事業予定地の用地買収が完了したことを受け、東部土木より市教委に事業予定地の未調査部分について試掘調査の依頼（平成 27 年 3 月 24 日付新東土木建第 645 号）が提出された。対象面積は、2,023.7m² である。これを受けて市教委では平成 27 年 5 月 11・12 日に試掘調査を実施した（第 1 次調査）。7 箇所の特レンチ調査を実施した結果（調査結果については第 3 章第 1 節に記載）、ほぼ全域で遺構・遺物が検出されたことから当該地が新遺跡であることが判明した。平成 27 年 6 月 15 日付新歴 B 第 9 号の 6 にて新潟県教育委員会（以下「県教委」という）あてに新遺跡発見の通知をし、平成 27 年 7 月 2 日付教文第 390 号にて「亀田道下遺跡」が周知化された。

第 1 次調査の結果から、事業予定地内の亀田道下遺跡に該当する約 2,000m² について本調査が必要と判断された。東部土木と市教委で協議を行い、平成 28 年度に本調査を行うことで合意し、東部土木は文化財保護法第 94 条第 1 項の通知（平成 28 年 3 月 11 日付新東土木建第 661 号）を県教委教育長に提出した。平成 28 年 4 月 1 日付教文第 19 号の 2 にて県教委から新潟市長あてに本調査の指示が出された。しかし、平成 28 年度に入り東部土木より事業延期の協議があり、本調査予定を 1 年繰り延べすることとなった。

平成 29 年 5 月 12 日付新東土木建第 54 号で東部土木から市歴史文化課あてに本発掘調査の依頼が提出され、市教委教育長は着手報告（平成 29 年 7 月 28 日付新歴 F 第 37 号の 4）を県教委教育長に提出し、市文化財センターが本発掘調査を実施した（第 2 次調査）。

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境 (第1図、図版1・2、写真図版1)

新潟市の地形は越後平野を中心に、南西の新津丘陵、西の角田山塊により形成されている。南北約100km、東西10～25km、面積約2,070m²と日本第二の平野面積を有する越後平野は、信濃川・阿賀野川をはじめとした大河川の運搬する土砂によって形成された沖積平野である。主に砂丘・潟・低湿地帯から成っており、河川周辺の低湿地帯には自然堤防も発達している。

亀田道下遺跡のある新潟市江南区は越後平野のほぼ中央に位置し、西を信濃川、東を阿賀野川、南を小阿賀野川に囲まれた低湿地帯で、かつては横越島、近年においては亀田郷と呼ばれている。近世における横越島は七割が海面以下の低湿地であったことから、自然排水が困難であり河川や潟の増水や氾濫による水害が絶えない地帯であった。河川の氾濫によってもたらされた土砂により形成された自然堤防は、現河道周辺以外にも広く認められ、河川の流路が頻繁に変動していた事が窺える。このような地理的条件から、近世以降には新田開発や堰水田の乾田化、水害の回避を図るため、放水路の開削が進められてきた。

遺跡は、現在の海岸線からおよそ10kmと最も内陸に位置する新砂丘I-2・3(亀田砂丘)の縁辺および幅100～300mで南北に延びる自然堤防と考えられる微高地上に位置する。砂丘間低地の堆積物から形成時期は、新砂丘Iが約7,600～4,800年前とされており〔新潟古砂丘グループ1974、鴨井2018〕、本遺跡が位置する砂丘縁辺地は遺跡の営まれた時期には土砂の流入が進み比較的地盤が安定していたと考えられる。しかし、低湿地は「葦沼」と称される湛水田地帯であり、近世以降治水工事が継続して実施された。

大河津分水の開削、昭和23(1948)年の栗ノ木排水機場の稼働、昭和31(1956)年の耕地整理の完了といった一連の治水事業により、低湿地は現在美田となり稲作を基幹とした都市近郊型農業の中心を担っている。また、現在では農業や住宅地以外にも、北陸道・磐越道・日東道という3本の高速道路をはじめ国道49・403号や広域幹線道路、JR信越線など交通の利便性から、大型商業施設や工業団地も進出し大きく発展を遂げている。

第2節 周辺の遺跡 (第2図、第1表)

旧石器・縄文時代の遺跡 旧石器時代の遺跡の分布は丘陵部に限定される。新津丘陵の草水町2丁目竊跡(218)〔新潟市国際文化部歴史文化課2007〕でナイフ形石器、古津八幡山遺跡(271)〔渡邊朋・立木ほか2001・2004〕でナイフ形石器と石刃、角田山麓のケカチ堂遺跡〔小野1994a〕で尖頭器や石刃が確認されているが、断片的な資料が出土しているのみである。

縄文時代になると、丘陵上から砂丘や沖積地に遺跡が進出する傾向が窺える。草創期では、神子柴型石斧が6点まとまって出土した新津丘陵の愛宕澤遺跡(219)〔立木・澤野ほか2004a〕、石斧や尖頭器が単独出土した角田山麓の御手洗山遺跡〔小野1994b〕や福井遺跡〔小野1994c〕など旧石器時代と同様の遺跡分布を示す。前期になると前葉の土器が笹山前遺跡(81)〔廣野1997〕から出土しているほか、亀田城山A遺跡(150)や山ノ家遺跡(103)など、亀田道下遺跡周辺の砂丘上にも遺跡が進出するようになる。以後、中期初頭の拠点集落と考えられる砂崩遺跡(106)〔酒井・廣野2002、前山2015〕、後期前葉の上の山遺跡(94)、日水南遺跡(160)や西前郷遺跡(176)、晩期中～後葉の前郷遺跡(104)など多くの遺跡が砂丘上に立地する。晩期後半以降になると、沖積地下に埋没した砂丘上に占地する養海山遺跡(167)などに加え、西郷遺跡(169)〔土橋2009〕や小杉上田遺跡(124)など



新潟県『土地分類基本調査 新潟・新津』1972・1974年より作成 (1/150,000)

第1図 亀田道下遺跡周辺地形分類図



第2図 亀田道下遺跡周辺の遺跡分布図

第1表 亀田道下遺跡周辺の遺跡一覧表

| No. | 名称 | 時代 | No. | 名称 | 時代 | No. | 名称 | 時代 | No. | 名称 | 時代 | No. | 名称 | 時代 |
|-----|-------------|--------------|-----|----------|------------|-----|---------|---------|-----|------------|-------------|-----|----------|------|
| 1 | 笹山 | 縄 | 107 | 砂前前郷 | 縄・平・江 | 215 | 諏訪畑 | 平 | 322 | 庄瀬館跡 | 室 | 431 | 寺本南 | 不明 |
| 2 | 上舟橋 | 古 | 108 | 砂前上ノ山 | 古 | 216 | 諏訪田 | 弥 | 323 | 元屋敷 | 中世 | 432 | 四十九沢 | 不明 |
| 3 | 笹山B | 縄 | 109 | 三條岡 | 古 | 217 | 草水町1丁目跡 | 平 | 324 | 鬼館跡 | 室 | 433 | 大倉山 | 弥 |
| 4 | 笹山D | 平 | 110 | 浦ノ山 | 平 | 218 | 草水町2丁目跡 | 旧・縄・奈・平 | 325 | 行屋崎 | 古墳・飛・奈・平 | 434 | 中倉山尼寺跡 | 中世 |
| 5 | 引越 | 弥 | 111 | 金塚山 | 縄・古 | 219 | 愛宕澤 | 縄・平・中世 | 326 | 護摩堂城跡 | 室 | 435 | 寛下 | 古 |
| 6 | 笹山C | 古 | 112 | 前山 | 古 | 220 | 滝谷跡 | 平 | 327 | 五社神社 | 室 | 436 | 村付 | 古 |
| 7 | あかしやだん | 平 | 113 | 砂前早稲田 | 縄・古・近世 | 221 | 七本松窯跡群 | 平 | 328 | 向屋敷 | 古 | 437 | 中野 | 古 |
| 8 | 内島見B | 平 | 114 | 塚ノ山 | 平 | 222 | 秋葉2丁目跡 | 平 | 329 | 中店 | 古 | 438 | 新田 | 縄 |
| 9 | 横山 | 平 | 115 | 袋津向山 | 縄 | 223 | 前畑 | 平 | 330 | 山田古銭出土地 | 鎌 | 439 | 巳ノ明 | 縄 |
| 10 | 向山 | 平 | 116 | 砂岡 | 平 | 224 | 小手平 | 平 | 331 | 諏訪の前 | 縄 | 440 | 榎表南 | 古・中世 |
| 11 | 神谷内 | 古 | 117 | 茨島 | 古 | 225 | 秋葉 | 縄・弥・奈・平 | 332 | 中軒 | 古 | 441 | 榎表南 | 鎌～南 |
| 12 | たやしき | 縄・古墳・鎌～室 | 118 | 居附B | 不明 | 226 | 本町石仏 | 中世 | 333 | 川の下 | 縄 | 442 | 古百地 | 古 |
| 13 | 尾山A | 平 | 119 | 居附C | 不明 | 227 | 宮免 | 古 | 334 | 塚野 | 縄 | 443 | 新保北 | 平 |
| 14 | 尾山B | 平 | 120 | 小杉中洲 | 古 | 228 | 程島館跡 | 戦 | 335 | 下屋敷跡 | 古 | 444 | 江中 | 古 |
| 15 | 樋ノ入A | 縄 | 121 | 松瀬寺 | 平～室 | 229 | 新津城跡 | 平・南～戦 | 336 | 古屋敷 | 縄 | 445 | 能代の家 | 不明 |
| 16 | 樋ノ入B | 縄 | 122 | 居附A | 平～室 | 230 | 吉岡 | 平 | 337 | 新川 | 縄・平・中世 | 446 | 福島 | 古・中世 |
| 17 | 尾山C | 平 | 123 | 山のハサバ | 平 | 231 | 腰籠 | 室・安 | 338 | 膳土 | 縄・平・中世 | 447 | 五泉城跡 | 室 |
| 18 | 樋ノ入C | 縄 | 124 | 小杉上田 | 縄・古 | 232 | 諏訪神社石仏 | 中世 | 339 | 長沢 | 古 | 448 | 万福寺板碑 | 不明 |
| 19 | 寺ノ山 | 室 | 125 | 江尻 | 平 | 233 | 裏田郷 | 古 | 340 | 三波 | 縄・平 | 449 | 石ノ子 | 奈・平 |
| 20 | 法華塚 | 江 | 126 | 新田郷 | 平 | 234 | 浄栄 | 室 | 341 | 土居下 | 古墳・平 | 450 | 段ノ越 | 奈・平 |
| 21 | 築上山 | 平 | 127 | 宮尻郷 | 古 | 235 | 小戸下組 | 平・鎌～室 | 342 | 館外 | 平 | 451 | 新保 | 奈・平 |
| 22 | 新崎 | 古 | 128 | 下郷 | 平 | 236 | 西沼 | 平 | 343 | 田上館跡 | 室 | 452 | 橋田A | 奈 |
| 23 | 正尺C | 古 | 129 | 下郷郷 | 安 | 237 | 長左門塚 | 平 | 344 | 館内 | 奈・平 | 453 | 橋田C | 古 |
| 24 | 烏屋 | 縄 | 130 | 曾我墓所 | 平 | 238 | 川根 | 古・中世 | 345 | 二段あげ | 平 | 454 | 住吉田 | 奈 |
| 25 | 下前川原 | 平・室 | 131 | 下郷南 | 平・鎌～室・近世 | 239 | 下郷ノ木 | 平・鎌～南 | 346 | ガンゴウ寺 | 平 | 455 | 住吉田南 | 古墳・平 |
| 26 | 森下古銭出土地 | 室 | 132 | 新田郷南 | 古墳・平 | 240 | 曾根 | 平・鎌 | 347 | 上谷内 | 奈・平 | 456 | 中田 | 古 |
| 27 | 高森 | 平 | 133 | 横越館跡 | 室 | 241 | 浦興野 | 古 | 348 | 中谷内 | 奈・平・平 | 457 | 南谷地西 | 縄・平 |
| 28 | 縄内 | 平 | 134 | 上郷D | 平 | 242 | 榎行塚 | 不明 | 349 | 平ノ木 | 縄・奈・平 | 458 | 便住城跡 | 室 |
| 29 | 浦木 | 平 | 135 | 上郷北 | 平 | 243 | 杉行塚 | 不明 | 350 | 八反田 | 奈・平 | 459 | 町屋六条 | 古・中世 |
| 30 | 村下 | 古 | 136 | 上郷B | 古 | 244 | 江左 | 縄 | 351 | 竹ノ花 | 奈・平・平 | 460 | 下ノ坪北 | 古 |
| 31 | 中道B | 古 | 137 | 上郷A | 古墳・平 | 245 | 中郷 | 平 | 352 | 保明通 | 縄・奈・平 | 461 | 下ノ坪南 | 平 |
| 32 | 長場 | 平 | 138 | 上郷C | 平 | 246 | 古通 | 平 | 353 | 川成 | 奈・平・平 | 462 | 下ノ坪 | 古・中世 |
| 33 | 上堀田石仏C | 中世 | 139 | 川根谷内墓所 | 平・室・近世 | 247 | 山崎 | 縄 | 354 | 仲作 | 中世 | 463 | 八幡 | 縄 |
| 34 | 上堀田石仏B | 中世 | 140 | 川根谷内 | 古 | 248 | 城見山 | 縄・古・中世 | 355 | 大手町 | 平 | 464 | 八幡 | 縄 |
| 35 | 池田B | 古 | 141 | 下郷西 | 中世 | 249 | 沢海 | 縄 | 356 | 山鳥屋敷 | 古墳・古・中世 | 465 | 宮古 | 縄 |
| 36 | 上堀田 | 平 | 142 | 上沼 | 古 | 250 | 原 | 縄 | 357 | 栗吉 | 不明 | 466 | 中ノ坪 | 古 |
| 37 | 池田A | 古 | 143 | 茨木 | 奈・平 | 251 | 大坪 | 古 | 358 | 駒林要吉跡 | 不明 | 467 | 中ノ坪東 | 古 |
| 38 | 山飯野神田A | 古 | 144 | 亀田六枚田 | 古墳・飛・奈 | 252 | 平林 | 縄 | 359 | 土居内裏跡 | 不明 | 468 | 中ノ坪南Ⅲ | 平 |
| 39 | 桜曾根 | 古 | 145 | 岡田 | 平 | 253 | 東島城跡 | 室 | 360 | 土居内西 | 平・中世 | 469 | 中ノ坪南Ⅱ | 中世 |
| 40 | 大夫曾根 | 平 | 146 | 所島前 | 縄・古・近世 | 254 | 山境 | 縄・弥・江 | 361 | 轟 | 平・中世 | 470 | 中ノ坪南Ⅰ | 古 |
| 41 | 山飯野神田B | 古 | 147 | 三王山 | 古墳・平・中世 | 255 | 東島大道下 | 古墳・古・鎌 | 362 | 善四郎谷内C | 平・中世 | 471 | 中名沢 | 平 |
| 42 | 並柳 | 古 | 148 | 亀田城山B | 南・室・江 | 256 | 山脇 | 古墳・平・平 | 363 | 善四郎谷内 | 不明 | 472 | 栗木 | 平 |
| 43 | 桜曾根B | 古 | 149 | 齊助山 | 縄・弥・古 | 257 | 森田 | 弥・古墳・平 | 364 | 土居内 | 中世 | 473 | 夜明 | 平 |
| 44 | 上堀田石仏A | 中世 | 150 | 亀田城山A | 縄・弥・古 | 258 | 西島館跡 | 中世 | 365 | 羽登場 | 中世 | 474 | 千原 | 平 |
| 45 | 阿賀野川河口 | 縄・古墳・平・中世 | 151 | 平道 | 平 | 259 | 鎌太門 | 平 | 366 | 大曲川端 | 不明 | 475 | 川端北 | 平 |
| 46 | 津島屋の石仏 | 南 | 152 | 市町裏 | 平・鎌 | 260 | 西島中谷内 | 古 | 367 | はがひ畑 | 不明 | 476 | 川端南 | 平 |
| 47 | 居浦郷 | 古 | 153 | 川西 | 平・鎌 | 261 | 舟戸 | 弥・古墳・古 | 368 | 善四郎谷内 | 平 | 477 | 中坪 | 平 |
| 48 | 古屋敷 | 古・室・江 | 154 | 狐山 | 古 | 262 | 塩辛 | 中世 | 369 | 大割 | 中世 | 478 | 浦西 | 古 |
| 49 | 溜池 | 平 | 155 | 貝塚 | 古 | 263 | 高矢C | 古 | 370 | 彌山 | 弥 | 479 | 笹野町A | 平 |
| 50 | 宮浦 | 平 | 156 | 荒木前 | 縄・平・中世 | 264 | 高矢B | 古 | 371 | 曾郷前 | 中世 | 480 | 香形西Ⅰ・Ⅱ | 平 |
| 51 | 本所居館跡 | 中世 | 157 | 中山の山 | 古墳・古・中世 | 265 | 高矢A | 縄 | 372 | 村下 | 平 | 481 | 香形西Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ | 平 |
| 52 | 堤内 | 平・中世・近世 | 158 | 手代山北 | 弥・古墳・古 | 266 | 下谷地 | 縄 | 373 | 下谷地 | 中世 | 482 | 香形中Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ | 平 |
| 53 | 石動 | 縄・弥・古墳・中世 | 159 | 手代山 | 弥・古墳・古 | 267 | 古津八幡山古墳 | 古 | 374 | 曾根 | 平 | 483 | 三軒屋 | 平 |
| 54 | 岡山の石仏 | 中世 | 160 | 日本南 | 縄・弥・古墳・古 | 268 | 古津初越B | 古 | 375 | 城館跡 | 平 | 484 | 香形東 | 平 |
| 55 | 寺山 | 平 | 161 | 日本 | 古墳・古・中世 | 269 | 古津初越A | 古 | 376 | 本田裏 | 中世 | 485 | 香形東 | 平 |
| 56 | 牡丹山諏訪神社古墳 | 古 | 162 | 日本南 | 古墳・弥・平 | 270 | 古津初越A | 古 | 377 | 町道上 | 中世 | 486 | 香形東 | 平 |
| 57 | 山本戸居下 | 平 | 163 | 亀田道下 | 古・近世 | 271 | 古津八幡山 | 旧・縄・弥・古 | 378 | 城 | 不明 | 487 | 香形東 | 平 |
| 58 | 山本戸 | 古墳・古・中世 | 164 | 城所道下 | 平 | 272 | 金津初越B | 古 | 379 | 村前 | 中世 | 488 | 香形東 | 平 |
| 59 | 山本戸居付 | 弥・平安・中世 | 165 | 武左衛門裏 | 縄・弥・古墳・古 | 273 | 金津初越A | 古 | 380 | 村前B | 不明 | 489 | 香形東 | 平 |
| 60 | 竹尾西 | 平 | 166 | 八幡前 | 弥・平・中世 | 274 | 大入 | 古 | 381 | 山口 | 縄・弥・古・古 | 490 | 香形東 | 平 |
| 61 | 竹尾 | 室 | 167 | 義海山 | 縄・弥・古墳・平 | 275 | 鳥撃(打)場 | 縄 | 382 | 柄目木 | 古・中世 | 491 | 香形東 | 平 |
| 62 | 猿ヶ馬場B | 鎌～江 | 168 | 大蔵 | 古 | 276 | 神田 | 縄・古 | 383 | 清水家石仏 | 中世 | 492 | 香形東 | 平 |
| 63 | 猿ヶ馬場A | 平・室 | 169 | 西郷 | 縄・弥・古 | 277 | 居村A | 平 | 384 | 下の橋館跡 | 中世 | 493 | 坪子東 | 平 |
| 64 | 下場 | 中世 | 170 | 泥郷 | 平 | 278 | 居村B | 弥・古 | 385 | 新屋 | 中世 | 494 | 坪子西 | 平 |
| 65 | 石山 | 中世・近世 | 171 | 下西 | 古 | 279 | 居村C | 縄・弥・古 | 386 | 下屋 | 不明 | 495 | 浦西 | 平 |
| 66 | 近世新島岡跡 | 近代 | 172 | 亀田四ツ興野居付 | 平 | 280 | 十ヶ沢A | 弥 | 387 | 村前東A | 古・中世 | 496 | 夜明南 | 古 |
| 67 | 近世新島岡跡 | 近代 | 173 | 鶴ノ子 | 平 | 281 | 十ヶ沢B | 平 | 388 | 藤の木 | 室 | 497 | 上ノ坪 | 平 |
| 68 | 安池稲荷 | 平 | 174 | 騎高島 | 古墳・平 | 282 | 金津城跡 | 縄 | 389 | 鎌成寺 | 中世 | 498 | 家の中 | 中世 |
| 69 | 親仁山 | 平・中世 | 175 | 早通前 | 平・鎌 | 283 | 坪が入 | 縄 | 390 | 諏訪神社 | 中世 | 499 | 山ノ入 | 平・中世 |
| 70 | 愛宕の塚(三界万蓋塔) | 中世・近世? | 176 | 西前郷 | 縄・古 | 284 | 坪が入 | 縄 | 391 | 掛上り | 不明 | 500 | 山ノ入南 | 平・中世 |
| 71 | 地蔵山 | 鎌・室 | 177 | 原畑 | 中世 | 285 | 西寺石仏 | 中世 | 392 | ナカクラ様 | 不明 | 501 | 上江 | 古 |
| 72 | 鳥屋野 | 中世 | 178 | 円通寺石仏 | 室 | 286 | 三沢B | 平 | 393 | 小河原 | 中世 | 502 | 笹野町B | 平 |
| 73 | 上中沢 | 中世 | 179 | 天玉杉 | 平 | 287 | 三沢A | 縄 | 394 | 七島館跡 | 不明 | 503 | 太田北 | 平 |
| 74 | 江口館跡 | 中世 | 180 | 居屋敷跡 | 古墳・平・中世・近世 | 288 | 三沢A | 室 | 395 | 境塚 | 縄・弥・古・中世・近世 | 504 | 城下北 | 平 |
| 75 | 西野 | 平 | 181 | 長崎(城跡) | 平 | 289 | 九ヶ塚 | 不明 | 396 | 中島神宮の石仏 | 室 | 505 | 城下東 | 平 |
| 76 | 大酒 | 平・中世 | 182 | 寺島 | 平・鎌 | 290 | 三沢南 | 不明 | 397 | 中島の観音様石仏 | 室 | 506 | 太田中 | 平 |
| 77 | 細山石仏 | 室 | 183 | 中新田久保 | 古 | 291 | 五本田館跡 | 室 | 398 | 天神林の石仏 | 室 | 507 | 中丸北Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ | 平・中世 |
| 78 | 中山 | 縄・古墳・古 | 184 | 無頭 | 平 | 292 | 東蔵付 | 奈 | 399 | 嘉瀬島諏訪社 | 中世 | 508 | 上ノ坪南 | 古 |
| 79 | 城山 | 縄・古墳・平・鎌 | 185 | 大下 | 平 | 293 | 大沢谷内北 | 縄・弥・古 | 400 | 鎌倉新田居内 | 縄 | 509 | 上ノ坪南 | 古 |
| 80 | 笹山前 | 縄・弥・古墳・古 | 186 | 山玉浦 | 平 | 294 | 大沢谷内 | 縄・弥・飛・古 | 401 | 鎌倉新田居内 | 縄 | 510 | 古墳 | 古 |
| 81 | 神明社裏 | 平 | 187 | 新久免の塚 | 室～江 | 295 | 横川浜堤外地 | 古・中世 | 402 | 祥雲寺の石仏 | 室 | 511 | 相輪願成寺塔 | 室 |
| 82 | 平山 | 平 | 188 | 中谷内 | 平・中世 | 296 | 浦ノ沢 | 古 | 403 | 上江端の石仏 | 室 | 512 | 願成寺経塚 | 室 |
| 83 | 松山向山 | 平 | 189 | 沖ノ羽 | 古墳・平・中世 | 297 | 西蔵屋山館跡 | 奈・中世 | 404 | 内山王 | 室 | 513 | 町 | 中世 |
| 84 | 松山 | 平 | 190 | 結七島 | 古墳・古 | 298 | 六兵衛渡跡 | 平 | 405 | 玉泉寺の石仏 | 室 | 514 | 八反畑 | 中世 |
| 85 | 松山 | 縄・中世 | 191 | 中田 | 古 | 299 | 鎌倉新田居内 | 縄 | 406 | 中野 | 中世 | 515 | 門後 | 中世 |
| 86 | 直り山A | 平 | 192 | 内畑 | 古 | 300 | 天ヶ沢上谷内 | 古墳・古 | 407 | 大岡家蔵石仏群 | 南～室 | 516 | 門後墳墓 | 室 |
| 87 | 直り山B | 平 | 193 | 内畑 | 古 | 301 | 駒場 | 縄～中世 | 408 | 高山石造物群 | 南 | 517 | 門後北墳墓 | 鎌 |
| 88 | 小丸山東 | 平安 | 194 | 江内 | 平・中世・江 | 302 | 緒立 | 縄～中世 | 409 | 桑山石仏 | 中世 | 518 | 荒原 | 中世 |
| 89 | 小丸山 | 縄・古墳・平・中世・近世 | 195 | 川口甲 | 平 | 303 | 釈迦堂 | 縄～中世 | 410 | 下条館跡 | 不明 | 519 | 荒原 | 中世 |
| 90 | 東岡 | 縄・弥・古 | 196 | 川口乙 | 平 | 304 | 林葉寺の五輪塔 | 室 | 411 | 輪越古銭出土地その1 | 中世 | 520 | 高内西 | 中世 |
| 91 | 茗荷谷墓地 | 古 | 197 | 上浦B | 古墳・古 | 305 | 小坂居付 | 中世 | 412 | 輪越古銭出土地その2 | 中世 | 521 | 高内 | 中世 |
| 92 | 茗荷谷 | 古 | 198 | 上浦A | 古・中世 | 306 | 味方排水機場 | 縄 | 413 | 小美山 | 縄・弥・古 | 522 | 常照寺五輪塔婆 | 鎌 |
| 93 | 藤山 | 平・鎌 | 199 | 結 | 古墳・奈 | 307 | 味方用水路 | 平 | 414 | 下野山 | 縄 | 523 | 馬場西Ⅰ | 中世 |
| 94 | 上ノ山 | 縄・弥・平 | 200 | 長沼 | 飛・平・鎌 | 308 | 味方用水路 | 平 | 415 | 山崎平 | 不明 | 524 | 馬場西Ⅱ | 古・中世 |
| 95 | 駒込小丸山 | 縄・弥・古 | 201 | 下等部 | 古・中世 | 309 | 春日 | 平 | 416 | 山崎平 | 不明 | 525 | 茗荷西Ⅰ | 古・中世 |
| 96 | 丸山 | 平 | 202 | 宅地郷 | 古・中世 | 310 | 浦廻 | 鎌・南 | 417 | 山崎平 | 不明 | 526 | 茗荷西Ⅱ | 古 |
| 97 | 北山 | 平 | 203 | 山谷北 | 古 | 311 | 浦廻 | 鎌・中 | 418 | 日光寺 | 不明 | 527 | 茗荷西Ⅲ | 古 |
| 98 | 清水が丘 | 平 | 204 | 埋堀 | 中世 | 312 | 下曲江内 | 平 | 419 | 馬場館跡 | 室 | 528 | 茗荷南 | 古 |
| 99 | 大道外 | 平・中世 | 205 | 大野中 | 縄・平 | 313 | 西宮場 | 弥 | 530 | 茗荷 | 中世 | 529 | 茗荷南 | 古 |
| 100 | 彦山 | 古 | 206 | 下久保 | 平 | 314 | 西宮場 | 弥 | 531 | | | | | |

沖積地や低湿地へ進出する遺跡が見られるようになる。

弥生時代の遺跡 前述した養海山遺跡(167)〔新潟市国際文化部歴史文化課 2007〕や西郷遺跡(169)は、縄文時代晩期から弥生時代中期まで集落が存続する遺跡である。前期では埋没砂丘上に立地する緒立遺跡(302)が代表例として挙げられる〔金子ほか 1983〕。中期後半になると山ノ家遺跡(103)〔川上 1993、酒井 2000b〕、前郷遺跡(104)、上の山遺跡(94)、駒込小丸山遺跡(95)〔家田 1987、酒井 2000a〕など、砂丘上に多くの遺跡が分布する。隣接するこれらの遺跡からは管玉未製品・石鋸・砥石などが出土しており、連鎖的に一つの玉造集団を構成していたものと考えられている。亀田道下遺跡周辺では、武左衛門裏遺跡(165)、手代山遺跡(159)など砂丘上の遺跡から中期の土器が採集されている。また、新津丘陵沿いの秋葉遺跡(225)、塩辛遺跡(262)からも中期の土器が出土した〔渡邊朋・立木ほか 2004〕。後期の遺跡としては、新津丘陵の古津八幡山遺跡(271)〔川上 1994、渡邊朋 1994a〕や隣接する居村 C 遺跡(279)〔川上 1996b、渡邊・立木ほか 2001〕が挙げられる。古津八幡山遺跡は拠点的な高地性環濠集落で、二重の環濠や竪穴住居、方形周溝墓などの遺構と、東北系と北陸系の遺物が出土しており、その重要性から史跡に指定されている。砂丘上の遺跡としては、石動遺跡(53)〔廣野 1996〕や西川右岸の六地山遺跡〔寺村 1960、中村 1960〕がある。

古墳時代の遺跡 新津丘陵の古津八幡山古墳(268)〔甘粕・川村ほか 1992〕や角田山麓の山谷古墳〔甘粕・小野ほか 1993〕、菖蒲塚古墳〔相田・前山 2003・2005〕など丘陵地に造営される古墳と、緒立八幡神社古墳(緒立 A 遺跡)〔吉田ほか 1982〕や牡丹山諏訪神社古墳(56)〔橋本・小林・奥田 2014〕のように小砂丘上に位置する古墳があり、集落も平野部の砂丘や自然堤防上に占地するようになる。前期では東園遺跡(90)〔朝岡・諫山 2003〕や正尺 C 遺跡(23)〔土橋ほか 2006〕、緒立遺跡(302)〔渡邊 1998〕などで集落の調査が行われているほか、武左衛門裏遺跡(165)〔土橋 2007〕や城山遺跡(80)、小丸山遺跡(89)、山木戸遺跡(58)などでも前期の土器が出土している。中期になると日水遺跡(161)や下西遺跡(171)、駒首渦遺跡(174)など低地の自然堤防上を中心に遺跡が拡大する傾向が窺えるが、集落の詳細は不明である。日水遺跡では古墳時代中期の須恵器直口壺がほぼ完形の状態で検出された〔立木・細野ほか 2013〕。また、沖積地の沖ノ羽遺跡(190)〔立木・澤野・八藤後ほか 2008〕、結七島遺跡(191)〔田中・丹下ほか 2004〕からも、一定量の中期の土器が出土している。後期では住居や土坑墓が検出された笹山前遺跡(81)や、竪穴状遺構等が検出された中田遺跡(192)があり、三王山遺跡(147)や中の山遺跡(157)などでも土器が採集されている。

古代の遺跡 低地への進出が本格化し、自然堤防上に多くの遺跡が分布するようになる。7世紀後半の遺跡として、九九木簡や律令祭祀具が出土した大沢谷内遺跡(294)〔細野・伊比ほか 2012〕や、返りのある須恵器杯蓋が出土した長沼遺跡(200)〔渡邊朋 1991〕が挙げられるが、相対的に遺跡数は少ない。8世紀になると、遺跡数は徐々に増加する。円面硯などが出土した上浦 A 遺跡(198)〔川上 1997、坂上 2003〕や、火葬墓に伴い帯金具が出土した四十石遺跡〔渡邊・奈良ほか 2012〕、的場遺跡(301)〔小池・藤塚 1993〕や緒立遺跡(302)など官衙関連遺跡も多く出現し、また新津丘陵窯跡群(217・218、220～222)も 8 世紀半ばには操業を開始する。9 世紀後半になると、亀田郷にも多くの遺跡が営まれるようになる。砂丘上には富裕層の居住域と想定される小丸山遺跡(89)や荒木前遺跡(156)〔渡邊ま 1991、川上 1996a〕が確認されており、自然堤防上には本遺跡に近接した手代山北遺跡(158)〔朝岡・丹下ほか 2009〕や鍛冶関連遺構が検出された中の山遺跡(157)〔川上 1982〕、畝状遺構が検出された牛道遺跡(151)〔土橋ほか 1999〕などが分布する。この他にも富豪層の集落と考えられる駒首渦遺跡(174)〔渡邊ほか 2009〕、砂丘間低地や後背湿地に水田跡と畝状遺構が検出された上郷 A 遺跡(137)〔上野・春日 1997〕など特徴的な遺跡が多く展開するが、ほとんどの遺跡は 10 世紀中頃には途絶えるようである。

中世の遺跡 丘陵縁辺や低地の微高地に城館が築かれるようになり、集落遺跡の多くは自然堤防や砂丘上に立地する。亀田郷では 14 世紀以降に成立する遺跡がほとんどであり、他時期との複合や近世以降の集落と重複する事が多い。亀田道下遺跡周辺の砂丘上では荒木前遺跡(156)や三王山遺跡(147)〔酒井 1980、朝岡 2010〕、亀田城山 B 遺跡(148)、手代山遺跡(159)、日水南遺跡(160)がある。荒木前遺跡は、船載陶磁器などの出土

遺物から在地領主層の居住域と想定される13世紀の遺跡である。三王山遺跡からは竪穴状遺構や柱列遺構が検出された。また、青磁・白磁などの貿易陶磁器の他に青銅香炉や鉄鉢、硯、刀剣研磨用と考察される砥石のセットなど貴重な遺物が多数出土しており、富豪層や寺院との関係も予想されている。一方、自然堤防上には中の山遺跡(157)や手代山北遺跡(158)がある。中の山遺跡からは鍛冶遺構や井戸が検出されており、船載陶磁器や瀬戸系の天目碗が出土している。

近世の遺跡 近世の集落跡は現在の住宅地と重複して立地することが多く、実態は不明な点が多い。発掘調査例も少ないが、江内遺跡(194)では17世紀前半からの集落の一部が明らかにされている〔春日ほか1996〕。また、細池寺道上遺跡(209)では、屋敷地や道路状遺構、墓などの遺構が確認されており、肥前系の陶磁器を中心に17世紀後半から19世紀の遺物が出土している〔立木・奈良ほか2018〕。一方、近世新潟町跡(68)では湊町新潟の幾層にも重なる生活面が確認されている。肥前系を中心とする各地の陶磁器が多量に出土しており、部分的な調査ではあるが、17～19世紀の町屋の実態に迫る重要な調査例である〔佐藤ほか2008、渡邊2014、今井2015～2018〕。また、角田山東南麓に位置する峰岡上町遺跡では、三根山藩上級武士に関係した遺構や遺物が確認されている。遺物は19世紀中葉ごろの陶磁器が中心で、木製品なども出土している〔前山ほか2015〕。

第3節 歴史的環境

律令以前、日本海側の地域は広く越国と称されていた。大化三(647)年に淳足柵、翌年に磐舟柵が相次いで設置され、漸次北方の整備が図られていたと考えられる。越後国は、当初これら二柵の位置する阿賀野川以北の沼垂郡・岩船郡より北を指していたようである。越後国の領域の確定は、大宝二(702)年に越中国4郡(頸城・古志・魚沼・蒲原)を割いて越後国に編入〔『続日本紀』〕し、和銅五(712)年にそれまで越後国に属していた出羽郡を分割して出羽国を建国したことによる。その後、天平十五(743)年に佐渡国を越後国に合併し、ほぼ現在の新潟県と同一の領域となった。しかし、天平勝宝四(752)年には、渤海朝貢使節の来島により、朝廷による直接把握を目的として佐渡国が復置されている。天平宝字五(761)年に造営が始まった佐渡国分寺には、小泊窯で製作された瓦が大量に運ばれており、古代越後国に膨大な須恵器の供給をもたらす小泊窯操業の契機としてとらえられよう。

亀田道下遺跡のある亀田郷は、旧阿賀野川(現在の通船川)以西を蒲原郡とする一般的な説〔小林編1996〕に従えば蒲原郡に属していたことになるが、遺跡の多い亀田砂丘周辺が沼垂郡に属していた可能性も指摘されている〔坂井ほか1989、上野・春日1997〕。

古代の蒲原郡には宝亀十一(780)年の『西大寺資財流記帳』によって、鶉橋荘・槐田荘という荘園が施入されていた事が知られており、鶉橋荘は五泉市橋田、槐田荘は三条市周辺とされている。これらの西大寺領荘園は、神護景雲三(769)年の『越後国水田并墾田地帳』などから、8世紀中葉以降には確実に成立していたと考えられる。西大寺領荘園は早くに衰退したと思われるが、その理由として、東大寺領荘園に比べ進出が遅かったため、悪条件地に寺田を設定したためと考察されている〔木村1993〕。

中世の亀田郷は、新津地域を中心とした国衙領金津保の保域に含まれると考えられている。金津保の成立時期は、明確ではないが、他の公領と同様に11世紀後半～12世紀後半に至る院政期に考察されている。金津保の文献上の初見は、建武三(1336)年11月18日の『羽黒義成軍忠状写』に、足利(北朝)方の義成が9月2日に金津保新津城に引き籠もり、新田(南朝)方の小国政光らと戦ったと記載がある。しかし、これ以前にも室町期に成立した『義経記』では承安四(1174)年に金津庄の名が見られ、また寿永年間(1182～1183)には、鎌倉幕府成立後金津保の地頭職となり承久の乱(1221年)に際し鎌倉方の北条朝時に従軍し上洛した、平賀(金津)蔵人資義が金津に居館を構えている。亀田道下遺跡に近い茅野山本慶寺「御裏書控」には、金津保という記載のある近世の裏書が4点あり、近世においてもこの地域は金津保と認識されていたと考察される。

蒲原郡における国衙領は、田畑などの生産域のみならず、河川流域や潟湖などを主要素として成立している。信濃川・阿賀野川の最下流域にあり、蒲原津という越後国を代表する港津の背後という立地や、国衙領が凌駕する頸城郡と、大規模な荘園群が在した阿賀野川以北の中間という地理的環境から、金津保の重要性が高かったことは想像できよう。現に、14世紀前半の南北朝の動乱に際しては、蒲原津を軍事的に占拠し中・下越地方を制圧しようとした南朝軍と、阿賀野川を挟んで対峙した北朝軍との蒲原津から新津丘陵周辺での攻防が前記の『羽黒義成軍忠状写』に記されている。この動乱を経て、越後国は守護上杉氏・守護代長尾氏により室町幕府の統治下によって領国支配が推進されることとなる。

『温故之棗』（明治20年代刊行）には「金津荘城所手代山に古城跡あり、孤立せし小山の頂上凡二千坪平坦にして井壺空壕の痕幽に見ゆ、元享年中（1321～1323年）国の守護職北条家に於て蒲原沖日水手代山に柵を構ふと古書に見ゆるは此処なるべし、近辺に日水の地名もあり永禄年中（1558～1569年）より上杉家の一将荒木五郎左衛門為久の居城とす。…略」との記述がある。現在、城所や手代山に古城跡は見当たらないが、手代山は「出城山」、養海山は「要害山」とする説もあり、また城所に「荒木浦」「荒木前」、手代山に「内荒木」「外荒木」という地字があることや、荒木前遺跡が在地領主層の居住域を想定させることから、14世紀には在地領主層の拠点が亀田道下遺跡周辺にあったと考察される。

16世紀になると、守護上杉氏と守護代長尾氏の対立が激化し、越後国内での内乱が勃発するようになり、享禄・天文の乱（1530～1551年）の天文四（1535）年には、金津保周辺も戦場と化したようである。この時期の金津保の実態については不明な部分が多いが、後世の『上杉家御年譜』や『上杉史料集』の「北越軍談」には、金津伊豆守祐高や新津彦二郎など、金津や新津郷を領有した人物の名が見られる。

天文十九（1550）年には長尾景虎（上杉謙信）が越後国主となり、天正六（1578）年3月に上杉謙信が急逝すると養子である景勝・景虎の間で後継地位をめぐる「御館の乱」が起き国内領主層の分裂をもたらした。この間における亀田郷に関する直接的な史料はないが、天正年間に謙信方・景勝方として戦陣に参加した武将として亀田小三郎岳信、亀田小三郎長乗の名が見られる。しかし、史料上では彼らの越後国での活動は皆無である。

景勝の移封に伴い、慶長三（1598）年に加賀国大聖寺から新発田に溝口秀勝が入封し、亀田郷は新発田領となった。関ヶ原の戦いの際に会津国境付近より起きた「越後一揆」が画期となり、新発田藩は徳川方の支配大名としての地位を確立し、兵農分離が推進された。新発田藩は墾田治水に力を注ぎ、秀勝入封時には慶長元（1596）年に開村したとされる袋津村以外は荒野沼沢地であった亀田地域を、慶長15（1610）年の茅野山村の開発から、長潟・丸潟各村の開発年代とされる寛文十（1670）年までの約60年間で各集落は成立をみている。

亀田道下遺跡が所在する荻曾根の草分けは、石本保兵衛といい、船戸山新田の円満寺開基円誉と兄弟で、元和一寛永期（1615～1644）にともに会津から移住し開拓を進めたという。また寛永十四（1637）年清野小右衛門が開発手続きをとって名主となり、同十五（1638）年諏訪神社を勧進したとある〔小村1959〕。荻曾根新田もこうした開発の動きの中で、17世紀前半には成立したと考えられる。寛文七（1667）年と推定される御領内見分之書付（貴船家文書）に家数12・人数91とあり〔宮・山田ほか1986〕、元禄年間（1688～1704）の作成と推定される『横越島絵図』（新発田市立図書館蔵）には「おぎぞね新田」の名がみられる。

村の誕生により商品流通が盛んになり、元禄五（1692）年に交通の要所を占めていた中谷内新田から宿場町・六斎市の開設請願がなされた。元禄六（1693）年には中谷内新田から亀田町と改名し、同年10月に町屋敷の完成、翌七（1694）年には六斎市の開設に至った。

明治時代、亀田道下遺跡のある荻曾根新田は亀田町に含まれた。平成17年には亀田町を含む13市町村が合併し、新しい新潟市となり現在にいたっている〔亀田町史編さん委員会1988、横越町史編さん委員会2003〕。

第2節 本発掘調査

A 調査方法

1) 調査前の状況

調査地は道路用地として取得が行われるまで北側が宅地、南側は梅林および畑地となっていた。現標高は1.5～2mである。

2) グリッドの設定 (図版5)

グリッドを設定するにあたっては、亀田道下遺跡周知範囲内を網羅できるように設定した。グリッドの起点は今回の調査地点の約200m北西を調査基準点として1A杭とした。1A杭は、X座標：207,300.000、Y座標：52,7000.000、緯度：北緯37°51′59.8585″、経度：東経139°05′56.3282″(測地成果2011)である。また、基準点に対して国土地理院の第Ⅷ系座標軸を用いて100mの方眼を組み、これを大グリッドとした。

大グリッドの名称は北西隅の1A杭を起点として南北方向をアラビア数字、東西方向をアルファベットとし、この組み合わせによって表示した。この大グリッドを2m方眼に区分して1から25の小グリッドに分割し、「8H1」のように呼称・表示した。基準杭の打設は測量業者に委託した。

発掘調査区の座標は次のとおりである。

8H (X座標：207230.000、Y座標：52770.000、緯度：37°51′57.5734″、経度：139°05′59.1739″)

11J (X座標：207200.000、Y座標：52790.000、緯度：37°51′56.5961″、経度：139°05′59.9843″)

11J杭で長軸方向を座標北の0度0分0秒とし、座標北は真北に対して0度22分06秒東偏し、磁北は真北に対し8度20分西偏する。

3) 調査方法

① 表土掘削：これまでの試掘調査の成果から、遺構形成面がⅢ層以下にあることが判明していたため、Ⅰ層(近・現代の果樹園の耕作土)・Ⅱ層(畑の耕作土および近代以降の包含層)まで遺物の出土に注意しながら、Ⅲ層上面まで重機(バックホウ)により除去した。排土は調査区外へ搬出した。また、湛水防止のため、表土掘削と並行して調査区の西壁から20cmほど離して幅20cm程度の土側溝を掘削し、2時のポンプで強制排水を行った。

② 包含層掘削・遺構検出・発掘：重機で表土除去の後、ジョレン等を用いて人力で精査を行い、包含層(Ⅲ層)の掘削・遺構の検出にあたった。排土はベルトコンベアーを使用して人力で調査区外へ搬出した。

③ 実測・写真：実測図は断面図を1/20で作成した。平面図や各種測量点は測量業者に委託してトータルステーションを用いて作成し、あわせて俯瞰写真を撮影した。写真撮影は35mm版、6×7版のフィルムカメラおよびデジタル一眼レフカメラを用い、白黒フィルム・カラーポジフィルムを適宜併用した。

④ 遺物取り上げ：包含層出土遺物は小グリッド単位として取り上げた。遺構出土遺物は点数が少ない地点が多く、層位ごとに一括で取り上げた。また、重要遺物についてはトータルステーションを用いて出土位置を記録して取り上げた。

⑤ 自然科学分析：植物珪酸体分析・花粉分析・種実同定・樹種同定・放射性炭素年代測定(AMS法)・ウィグルマッチングによる暦年代推定の科学分析を行った。

B 調査経過

平成29年7月1日より諸準備に入る。7月4日に調査担当者(市文化財センター)、主任調査員1名(榎ノガミ)、現場世話人1名(榎ノガミ)で調査の打ち合わせを行う。7月10日から14日まで調査区の草刈作業を行い、18日に調査前全景写真を撮影する。7月20日に調査事務所を設営し、本格的な調査準備作業を行う。

8月1日より8月21日まで表土掘削作業を行う。表土掘削と平行して作業員7名が入り土側溝掘削、法面仕

上げ、遺構検出作業を行う。8月7日から測量業者によるグリッド杭打ち作業を開始する。8月22日にベルトコンベアーを設置し、登録作業員全員で北側から遺構検出作業及び遺構掘削を行う。遺構・遺物は古代のものは少なく、近世以降が中心となる。10月17日に一部を残して遺構掘削を終了し、ベルトコンベアーを撤去する。10月18日に残っていた南東側の表土掘削を行う。10月24日から南東側の遺構調査と平行して空撮の準備作業を行い、28日にラジコンヘリコプターによる空撮を行う。11月1・2・7日に大グリッドに合わせて東西・南北にトレンチを入れ、古代の遺構の再確認を行う。11月6日から現地説明会の準備作業を行い、11月11日に現地説明会を開催し、140名の参加があった。11月14日に樹木や風倒木・溝・畝間等の分析試料の採取を(株)火山灰考古学研究所に依頼する。11月18日に北西側からの空撮遠景をドローンで撮影し、現地の調査を終了する。11月18日午後から機材整理と並行して排水作業と埋め戻し作業を開始し、11月30日に終了する。11月22日に新潟市下水道部、同土木部と引渡し協議を行った。12月20日に現地でのすべての作業を終了し、12月27日に現場事務所の解体を確認した。

最終的な発掘調査面積は、上端面積 1675.4388m²、下端面積 1598.91m²である。

C 調査体制

平成 29 年度 亀田道下遺跡第 2 次調査本発掘調査の体制は以下のとおりである。

| | |
|---------|---|
| 調査・整理期間 | 平成 29 年 8 月 1 日～平成 29 年 11 月 30 日 |
| 調査主体 | 新潟市教育委員会（教育長 前田秀子） |
| 所管課・事務局 | 新潟市文化スポーツ部歴史文化課 （課長：藤井希伊子 課長補佐：廣野耕造 埋蔵文化財担当係長：朝岡政康） 新潟市文化スポーツ部文化財センター （所長：外山孝幸 所長補佐：渡邊朋和 福地康郎） |
| 調査担当 | 遠藤恭雄（市文化財センター 主幹） |
| 調査員 | 澤野慶子（市文化財センター 非常勤嘱託）・千田幸生（㈱ノガミ） |

第 3 節 整理作業

A 整理方法

1) 遺物

遺物量はコンテナ(内径 54.5×33.6×10.0cm)にして 64 箱である。古代の土器、近世以降の土器・陶磁器、土製品、石製品、鉄製品、木製品などの遺物がある。

遺物の整理作業は次の手順で行った。①洗浄。②注記。③包含層：種別ごとグリッド別に重量計測。④遺構：遺物の器種別の重量・個体数計測。⑤接合。⑥報告書掲載遺物の抽出。⑦実測図・観察表作成。⑧トレース図作成。⑨仮割付作成。⑩版下作製。このうち⑧と⑩は業者に委託してデジタル編集をした。

2) 遺構

平面図を作成するにあたっては、まず測量業者に委託した 1/20 の遺構平面図と手取り断面図との校正作業を行った。報告書の 1/150 と 1/40 の遺構平面図は測量業者が作成し、デジタルデータとした。

B 整理経過

平成 29 年度は発掘調査と並行して出土遺物の水洗・注記・計測・接合を行った。また、写真・図面整理と測量業者に委託した遺構平面図の校正作業、遺構の図面図版・写真図版のレイアウトを支援業務を委託した株式会社ノガミが主体となって行った。遺構平面図は測量業者作成のデジタルデータを用いた。平成 30 年度は遺物の実測図作成、デジタルトレース、遺物写真の撮影、遺物の図面図版・写真図版のレイアウト、報告書の執筆・編

集にあたり、令和元年度に報告書を刊行した。報告書刊行後、遺物や図面など報告書に関わる資料の整理および収蔵作業を行った。

C 整理体制

亀田道下遺跡第2次調査整理作業の年次ごとの体制は以下のとおりである。

【平成30年度】

| | |
|---------|---|
| 調査・整理期間 | 平成30年5月1日～平成31年3月29日 |
| 調査主体 | 新潟市教育委員会（教育長 前田秀子） |
| 所管課・事務局 | 新潟市文化スポーツ部歴史文化課 （課長：小沢昌己 課長補佐：廣野耕造 埋蔵文化財担当係長：朝岡政康） 新潟市文化スポーツ部歴史文化課文化財センター （所長（副参事）：渡邊朋和 主幹：天野泰伸） |
| 整理担当 | 遠藤恭雄（市文化財センター 主幹） |
| 調査員 | 澤野慶子（市文化財センター 非常勤嘱託） |

【令和元年度】

| | |
|---------|---|
| 調査・整理期間 | 平成31年4月1日～令和2年3月31日 |
| 調査主体 | 新潟市教育委員会（教育長 前田秀子） |
| 所管課・事務局 | 新潟市文化スポーツ部歴史文化課 （課長：小沢昌己 課長補佐：廣野耕造 埋蔵文化財担当係長：朝岡政康） 新潟市文化スポーツ部歴史文化課文化財センター （所長（副参事）：渡邊朋和 主幹：天野泰伸） |
| 整理担当 | 遠藤恭雄（市文化財センター 主幹） |
| 調査員 | 澤野慶子（市文化財センター 非常勤嘱託） |

第Ⅳ章 遺 跡

第1節 遺跡の概要

亀田道下遺跡は北東から南西方向に走る新砂丘 I-2・3（亀田砂丘）の西端部にあたる沖積地の微高地上に立地する。調査地は周知の遺跡範囲のほぼ全域にあたる。調査地点周辺における現地表面の標高は、北部の宅地で約 1.8m 前後、南部の旧耕作地・梅林で 1.6m 前後を測る。

調査では古代・近世（近世以降も含む）の遺構・遺物が検出された。間層は形成されておらず、古代の遺構確認面（IVa 層）で近世の遺構も検出した。遺構確認面はほぼ平坦で、標高は 0.6m 前後となる。遺構・遺物はともに近世のものが大半を占める。古代の遺構は土坑や溝が主体で、建物等は検出されなかった。一方、近世は遺構の分布から、調査区北側が居住域、南側が生産域であったと考えられる。

第2節 層 序

基本層序は I～VI 層に大別した。以下、各層の特徴について記すが、色調や粘性、しまり等は地点によって若干異なる。

- I a 層 暗灰黄色砂質シルト (2.5Y5/2) しまりなし 粘性なし 盛土。
- I b 層 黄灰色シルト (2.5Y4/1) しまりややあり 粘性ややあり 盛土。
- I c 層 灰黄褐色シルト (10YR5/2) しまりあり 粘性あり 盛土。
- I d 層 灰色シルト (7.5Y5/1) しまりややあり 粘性あり 盛土。
- I e 層 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) しまり強い 粘性あり 盛土。
- I f 層 暗灰黄色シルト (2.5Y4/2) しまりややあり 粘性あり 盛土。黄褐色シルト (2.5Y5/3) を斑状に微量含む。
- I g 層 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) しまりややあり 粘性あり 盛土。黄灰色シルト (2.5Y6/1)・黄褐色シルト (10YR5/6) を斑状に大量含む。
- I h 層 黄灰色シルト (2.5Y5/1) しまりややあり 粘性あり 盛土。黄灰色シルト (2.5Y6/1)・黄褐色シルト (10YR5/6) を斑状に少量含む。
- I i 層 黄灰色シルト (2.5Y4/1) しまりあり 粘性あり 盛土。黄褐色シルト (2.5Y5/3) を斑状に少量含む。
φ2～5mm の炭化物を微量含む。
- I j 層 灰黄褐色砂質シルト (10YR5/2) しまりあり 粘性なし 盛土。
- I k 層 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) しまり強い 粘性ややあり 盛土。黄褐色シルト (2.5Y5/3) を斑状に少量含む。
- I l 層 黄灰色シルト (2.5Y4/1) しまりなし 粘性ややあり 耕作土。
- I m 層 黄灰色シルト (2.5Y5/1) しまりややあり 粘性ややあり
- I n 層 黄灰色シルト (2.5Y4/1) しまりなし 粘性なし 耕作土。
- I o 層 黄灰色シルト (2.5Y4/1) しまりなし 粘性なし 果樹園の耕作土。
- I p 層 黄灰色シルト (2.5Y4/1) しまりややあり 粘性ややあり
- II 層 褐灰色シルト (10YR4/1) しまりあり 粘性あり 黄褐色シルト (2.5Y5/3) をブロック状に少量含む。

- Ⅲ層 灰褐色シルト (7.5YR5/2) しまりあり 粘性ややあり 黄褐色シルト (2.5Y5/3) を斑状にやや多く含む。
- Ⅳa層 黄褐色シルト (2.5Y5/3) しまり強い 粘性あり 明黄褐色シルト (2.5Y6/6) を斑状に少量含む。
- Ⅳb層 黄灰色シルト (2.5Y6/1) しまりややあり 粘性ややあり 植物根・褐鉄含む。上層砂質シルトとなる。
- Ⅳc層 オリーブ灰色砂質シルト (10Y4/2) しまりややあり 粘性ややあり 植物根・褐鉄含む。
- Ⅴa層 緑灰色砂質シルト (10GY5/1) しまりややあり 粘性ややあり 灰色シルト (7.5Y4/1) を層状に中量含む。
- Ⅴb層 オリーブ黒色腐食土 (7.5Y3/1) しまりややあり 粘性なし Ⅴa～Ⅴc層間に入る層。
- Ⅴc層 暗オリーブ灰色砂 (5GY4/1) しまりややあり 粘性なし 灰色シルト (7.5Y4/1) を層状に中量含む。
- Ⅵ層 オリーブ黒色シルト (10Y3/1) しまりあり 粘性あり Ⅴc層由来の暗オリーブ灰色砂を層状に含む。

I層は近世以降から現代までの盛土及び果樹園の耕作土で、Ia層からIp層まで16層に細別される。盛土は調査区北側の屋敷地、果樹園の耕作土は調査区南側で検出された。調査区北側の近世以降の宅地造成に伴う盛土層の平均層厚が40～50cm、調査区南側の近・現代の果樹園の耕作土の平均層厚は10～20cmである。II層は近世以降の遺物包含層及び畑の耕作土で、近世以降の攪乱以外のほぼ全域で認められる。平均の層厚は5～10cmであった。基本的には褐灰色シルト (10YR4/1) であるが、調査区の南側は黒褐色シルト (2.5Y3/2) となる。III層は古代の遺物包含層である。調査区の南側を中心に認められる。北側は近世以降の遺構・攪乱に破壊され、一部にのみ残存する。平均の層厚は5～10cmである。IV層以下は基盤層とした。IV層はⅣa層からⅣc層の3層に細分される。Ⅳa層は古代の遺構確認面で、調査区全域に広がる。Ⅳb層・Ⅳc層はSD330とSE315に設定した下層確認トレンチの基本層序I・Jでのみ確認した。基本層序I・JにおけるⅣa層の平均の層厚は10～20cmとなる。Ⅳb層は層厚50cm、Ⅳc層は層厚20cmであった。Ⅴ層・Ⅵ層もSE315に設定した下層確認トレンチの基本層序Jでのみ確認した。このトレンチでは立木が検出されている。Ⅴ層はⅤa層からⅤc層の3層に細分した。Ⅴa層は平均の層厚が25～45cmである。Ⅴb層はⅤa～Ⅴc層間に層状に入る層で、層厚は5～10cm、Ⅴc層は層厚50～80cmであった。Ⅵ層は立木が検出した層位である。立木は自然科学分析の結果から、古墳時代前期から中期に枯死したと考えられる (第Ⅵ章第5節参照)。

第3節 遺 構

遺構番号は、遺構の種類に関わらず、検出順に付した。ただし、掘立柱建物・柱列については調査終了後に再検討を行ったため、別途通し番号とした。遺構の説明順は古代、近世以降とし、古代は土坑 (SK)、溝 (SD)、畝間状遺構 (SN)、ピット (Pit) の順に記した。近世以降は井戸 (SE)、土坑 (SK)、性格不明遺構 (SX)、溝 (SD)、畝間状遺構 (SN)、ピット (Pit)、掘立柱建物跡 (SB)、柱列 (SA) の順で記す。

遺構の形態分類は円形・楕円形・方形・長方形・不整形の5種類に、断面形状は台形状・箱状・弧状・半円状・U字状・V字状・漏斗状と記す。堆積状況はレンズ状堆積・ブロック状堆積・水平堆積・斜位堆積・単層などと記す。詳しい遺構の計測表等は別表1に示した。

A 古代の遺構

古代の遺構は基本層序Ⅳa層上面で検出した。遺構は土坑 (SK) 10基、溝 (SD) 7条、畝間状遺構 (SN) 2条、ピット (Pit) 22基である。埋土の様相や出土遺物から古代とした。遺構数は少なく、散発的な分布であるが、調査区南側に多い傾向にある。

1) 土 坑 (SK)

SK193 (図版 10・14、写真図版 6)

12J13 に位置する。平面形は楕円形、断面形はU字状である。埋土は2層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は長軸1.00m、短軸0.72mを測り、深度は0.53mである。主軸方向はN-34°-Wを指す。遺物は土師器無台椀・長甕、須恵器無台杯・大甕が出土した(図版35)。

SK195 (図版 10・14、写真図版 6)

12J7・8・12・13 に位置する。平面形は円形、断面形は台形状である。埋土は2層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は長軸1.27m、短軸1.25mを測り、深度は0.31mである。遺物は土師器長甕、須恵器無台杯・大甕が出土した。

SK215 (図版 10・14、写真図版 7)

12J20・25、12K16・21 に位置する。平面形は楕円形、断面形は台形状である。埋土は2層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は長軸1.41m、短軸0.87mを測り、深度は0.14mである。遺物は土師器長甕が出土した。

SK238 (図版 10・14、写真図版 7)

13K22 に位置する。平面形は円形、断面形は箱状である。埋土は2層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は長軸0.85m、短軸0.75mを測り、深度は0.35mである。遺物は土師器無台椀、須恵器大甕が出土した。

SK242 (図版 10・14、写真図版 7)

13K12・13 に位置する遺構で、Pit442 に切られる。平面形は楕円形、断面形は半円状である。埋土は2層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は長軸1.07m、短軸1.05mを測り、深度は0.46mである。遺物は土師器長甕、石製品(台石)が出土した(図版50)。

SK252 (図版 10・14、写真図版 7)

14J9・14 に位置する。平面形は楕円形、断面形は半円状である。埋土は2層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は長軸1.71m、短軸1.01mを測り、深度は0.25mである。遺物は土師器無台椀・長甕、須恵器無台杯・大甕が出土した(図版35)。

SK254 (図版 10・14、写真図版 8)

14J15・20 に位置する。北西側を攪乱で壊されているが、平面形は楕円形、断面形は弧状と推定される。埋土は2層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は現存部で長軸1.02m、短軸0.70mを測り、深度は0.14mである。遺物は土師器無台椀・長甕、須恵器大甕が出土した(図版35)。

SK283 (図版 11・14、写真図版 8)

14L2 に位置する。北東側を排水用の土側溝で壊されているが、平面形は楕円形、断面形は弧状と推定される。埋土は2層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は現存部で長軸0.92m、短軸0.60mを測り、深度は0.18mである。遺物は土師器無台椀・長甕、須恵器無台杯が出土した。

SK457 (図版 10・15、写真図版 8)

13K2・3・7・8 に位置する。平面形は楕円形、断面形は台形状を呈し、埋土は単層である。規模は長軸1.87m、短軸1.32mを測り、深度は0.18mである。遺物は土師器長甕、須恵器無台杯・有台杯が出土した(図版35)。

SK495 (図版 10・15、写真図版 8・9)

14K1・2 に位置する。平面形は楕円形、断面形は台形状を呈し、埋土は単層である。規模は長軸0.75m、短軸0.63mを測り、深度は0.11mである。遺物は出土していない。

2) 溝 (SD)

SD108 (図版 8・15・24、写真図版 9・20)

9H15・20、9I11・16 に位置する。SK109 に切られているほか、南東端をSD110 に切られる。断面形はV

字状を呈し、主軸方向はN-43° -Wである。埋土は3層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は現存部で長軸2.10m、短軸0.64mを測り、深度は0.36mである。遺物は土師器無台椀・長甕・小甕が出土した(図版35)。

SD239 (図版10・15、写真図版9)

13K16・17・21・22、14K2・3に位置する。断面形は半円状を呈し、主軸方向はN-39° -Wである。埋土は2層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は長軸4.22m、短軸1.31mを測り、深度は0.44mである。遺物は土師器無台椀・長甕・小甕、須恵器無台杯・大甕・長頸瓶が出土した(図版35)。

SD255 (図版10・15、写真図版9)

14J20、14K16・21に位置する。断面形は半円状を呈し、主軸方向はN-44° -Wである。埋土は2層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は長軸2.02m、短軸0.46mを測り、深度は0.21mである。遺物は土師器長甕・鍋が出土した。

SD257 (図版10・12・15、写真図版5・10)

14J8・9に位置する遺構で、北西側は調査区外へ伸びる。断面形は半円状を呈し、主軸方向はN-55° -Wである。埋土は2層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は現存部で長軸1.97m、短軸0.67mを測り、深度は0.35mである。遺物は土師器無台椀・長甕・小甕、須恵器無台杯、金属製品、礫が出土した(図版36)。また、埋土の自然科学分析を行った(第VI章第2・3節)。

SD272 (図版10・15、写真図版10)

14K25、14L21、15K5に位置する。断面形は半円状を呈し、主軸方向はN-49° -Eで、埋土は単層である。規模は長軸2.44m、短軸0.25mを測り、深度は0.08mである。遺物は土師器長甕、礫が出土した。

SD330 (図版9・13・15、写真図版6・10・11)

9I3・8・13・18・23、10I3・8・13・18・23、11I3・8・13に位置する。SE329・367、SK117、SD125・128・373・374・396、Pit121・122・187に切られる。断面形は半円状を呈し、主軸方向はN-5° -Wである。埋土は2層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は長軸22.57m、短軸0.76mを測り、深度は0.34mである。遺物は土師器無台椀・長甕・小甕・鍋、須恵器杯蓋・壺・瓶類・横瓶、石製品(台石)、礫が出土した(図版36・50)。また、埋土の自然科学分析を行った(第VI章第2・3節参照)。

SD330横の9I18付近では、IV層から風倒木が検出された。土地の形成過程を探る良い資料であるため、樹種同定と放射性炭素年代測定を行った(第VI章4・5節)。また、風倒木が生育していた当時の植生を検討するため、風倒木が検出された層位の土壌の花粉分析も行った(第VI章第3節)。

SD358 (図版8・15、写真図版11)

10H9・10・14・15に位置する遺構で、北側がSE113に切られる。断面形は台形状を呈し、埋土は単層である。主軸方向はN-19° -Wである。規模は現存部で長軸1.25m、短軸0.40mを測り、深度は0.30mである。遺物は土師器無台椀・長甕・小甕、須恵器無台杯、石製品(台石)が出土した(図版36・51)。

3) 畝間状遺構(SN)

SN503 (図版10・15、写真図版11)

14K16・17・21・22に位置する遺構で、主軸方向はN-43° -Wを示す。断面形は箱状を呈し、埋土は単層である。規模は長軸1.48m、短軸0.32mを測り、深度は0.10mである。遺物は出土していない。

SN504 (図版10・15、写真図版11)

14K21・22、15K2に位置する遺構で、主軸方向はN-53° -Wを示す。断面形は弧状を呈し、埋土は単層である。規模は長軸2.98m、短軸0.47mを測り、深度は0.11mである。遺物は土師器無台椀が出土した。

4) ピ ッ ト (Pit)

Pit183 (図版 10)

12J18 に位置する。平面形は円形、断面形はU字状である。埋土は3層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は長軸 0.52m、短軸 0.44m を測り、深度は 0.53m である。遺物は土師器長甕・小甕、須恵器無台杯・大甕が出土した (図版 36)。

Pit264 (図版 10・16、写真図版 12)

14K12・13 に位置する。平面形は楕円形、断面形は半円状である。埋土は2層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は長軸 0.65m、短軸 0.56m を測り、深度は 0.40m である。遺物は土師器長甕が出土した。

Pit400 (図版 10)

12J14 に位置する。平面形は円形、断面形は弧状を呈し、埋土は単層である。規模は長軸 0.50m、短軸 0.42m を測り、深度は 0.14m である。遺物は須恵器大甕が出土した。

Pit401 (図版 10)

12J13・14 に位置する。平面形は楕円形、断面形はU字状を呈し、埋土は単層である。規模は長軸 0.29m、短軸 0.19m を測り、深度は 0.19m である。遺物は須恵器大甕が出土した。

Pit403 (図版 10)

12J12・13 に位置する。平面形は楕円形、断面形は箱状を呈し、埋土は単層である。規模は長軸 0.62m、短軸 0.43m を測り、深度は 0.29m である。遺物は土師器長甕、須恵器大甕が出土した。

Pit404 (図版 10)

12J13 に位置する。平面形は円形、断面形はU字状を呈し、埋土は単層である。規模は長軸 0.40m、短軸 0.33m を測り、深度は 0.40m である。遺物は須恵器大甕が出土した。

Pit405 (図版 10)

12J11 に位置する。平面形は楕円形、断面形は箱状である。埋土は2層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は長軸 0.50m、短軸 0.45m を測り、深度は 0.35m である。遺物は須恵器大甕が出土した。

Pit441 (図版 10)

12J13 に位置する。平面形は楕円形、断面形はU字状である。埋土は2層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は長軸 0.52m、短軸 0.35m を測り、深度は 0.27m である。遺物は須恵器大甕が出土した。

Pit449 (図版 10・16、写真図版 12)

14K7・12 に位置する。SD251 の底面で検出しており、上方はSD251 に壊されている。平面形は楕円形、断面形はU字状を呈し、埋土は現存部で単層である。規模は長軸 0.53m、短軸 0.47m を測り、深度は 0.38m である。遺物は土師器無台碗・長甕、須恵器大甕が出土した。

Pit459 (図版 10)

13K16 に位置する。平面形は円形、断面形は弧状を呈し、埋土は単層である。規模は長軸 0.31m、短軸 0.26m を測り、深度は 0.07m である。遺物は土師器長甕が出土した。

Pit461 (図版 10)

14K17 に位置する遺構で、Pit522 を切る。平面形は円形、断面形は半円状を呈し、埋土は単層である。規模は長軸 0.51m、短軸 0.45m を測り、深度は 0.14m である。遺物は土師器無台碗・長甕が出土した。

Pit471 (図版 10・16、写真図版 12)

14J14 に位置する。平面形は円形、断面形は弧状を呈し、埋土は単層である。規模は長軸 0.54m、短軸 0.45m を測り、深度は 0.13m である。遺物は出土していない。

Pit521 (図版 10・16、写真図版 12)

14J5、14K1・6 に位置する。平面形は円形、断面形は台形状である。1層完掘後、2層を確認した。レンズ

状に堆積すると推定される。規模は長軸 0.33m、短軸 0.31m を測り、深度は 0.25m である。遺物は出土していない。

Pit522 (図版 10・16、写真図版 13)

14K12・17 に位置する遺構で、Pit461 に切られる。平面形は円形と推定され、断面形は弧状を呈する。埋土は単層である。規模は現存部で長軸 0.32m、短軸 0.48m を測り、深度は 0.11m である。遺物は出土していない。

Pit526 (図版 10・16、写真図版 13)

14J13 に位置する。平面形は円形、断面形は半円状である。埋土は 2 層に分層され、斜位に堆積する。規模は径 0.19m、深度は 0.14m である。遺物は出土していない。

B 近世以降の遺構

近世以降の遺構は古代同様、基本層序 IVa 層上面で検出しているが、調査区壁面の層序を観察すると II 層上面から掘り込まれているものも多い。

遺構は井戸 (SE) 18 基、土坑 (SK) 27 基、性格不明遺構 (SX) 6 基、溝 (SD) 44 条、畝間状遺構 (SN) 24 条、ピット (Pit) 186 基、掘立柱建物跡 (SB) 3 棟、柱列 (SA) 2 列である。遺構の分布は調査区北西側に掘立柱建物や井戸、土坑が集中し、南東側に畝間状遺構が広がる。調査区は更正図では北西が屋敷地、南東が耕作地となっており、遺構の分布と相関する。また、屋敷地と耕作地の境には区画溝が巡る。

1) 井 戸 (SE)

SE2 (図版 8・16、写真図版 13)

7H9 に位置する。北東側は調査区外へ伸びており、平面形は楕円形と推定される。調査区壁面で確認すると北西側は攪乱で壊されているが、断面形は台形状を呈する。埋土は 13 層に分層され、水平に堆積する。規模は現存部で長軸 1.20m、短軸 1.73m を測り、深度は 1.36m である。遺物は肥前磁器瓶、肥前陶器播鉢、瓶、産地不明の陶器、土瓶、瓦器、木製品 (下駄・棒状)、礫が出土した (図版 39・54)。

SE27 (図版 8・16、写真図版 13)

9I3・4 に位置する。平面形は楕円形、断面形は箱状である。埋土は 4 層に分層され、水平に堆積する。規模は長軸 1.56m、短軸 1.22m を測り、深度は 1.18m である。遺物は土師器長甕・鍋、肥前磁器碗・皿、肥前陶器瓶・壺、東北系壺、産地不明の陶器皿・鉢・播鉢、石製品 (砥石・軽石)、木製品 (漆櫛、棒状、板状、杭状)、礫が出土した (図版 39・51・54)。

SE87 (図版 8・16、写真図版 13・14)

9H2・3 に位置する遺構で、Pit293・325 に切られる。平面形は楕円形、断面形は半円状を呈し、埋土は単層である。規模は長軸 1.09m、短軸 0.93m を測り、深度は 0.53m である。遺物は土師器無台碗・長甕、須恵器大甕、肥前磁器碗・皿、肥前陶器皿・鉢、礫が出土した。

SE102 (図版 8・17、写真図版 14)

8I16・17 に位置する遺構で、SE104・105、SK340 を切る。平面形は楕円形、断面形は台形状と思われる。規模は長軸 2.52m、短軸 1.55m を測り、深度は 1.28m である。遺物は土師器長甕、須恵器大甕、肥前磁器碗・皿・瓶、肥前陶器皿・鉢・播鉢、信楽系陶器碗・皿、須佐唐津播鉢、越中瀬戸壺、産地不明の陶器鉢・瓶・壺・甕、土製品 (磁器面子)、石製品 (砥石・軽石)、金属製品、木製品 (棒状、板状)、礫が出土した (図版 39・50・51)。

SE104 (図版 8・17、写真図版 14)

8I16～18・21～23 に位置する。SE102 に切られ、SK340 を切る。北東端を攪乱に壊されているが、平面形は円形、断面形は台形状と推定される。埋土は 5 層に分層され、水平に堆積する。規模は長軸 2.91m、短軸 2.70m を測り、深度は 1.03m である。遺物は土師器無台碗、肥前磁器碗・皿、産地不明の磁器 (碗)、肥前

陶器皿・播鉢・壺、信楽系碗、須佐唐津播鉢、産地不明の陶器鉢・瓶・甕、瓦器、石製品（砥石・軽石）、木製品（棒状・板状・杭状）、礫が出土した（図版39・51）。

SE105（図版8・17・18、写真図版14）

8H15・20、8I6・11・12・16に位置する。SE102に切られ、SE126、SK340、SD9-Aを切る。平面形は楕円形、断面形は弧状である。埋土は5層に分層され、水平に堆積する。規模は長軸2.99m、短軸2.65mを測り、深度は0.68mである。遺物は土師器長甕・小甕、須恵器無台杯、大甕、肥前磁器碗・皿・瓶・火入、肥前陶器皿・鉢・壺、信楽系碗、産地不明の陶器播鉢、瓦器、土製品（磁器面子）、石製品（軽石）、木製品（漆碗・板状）、礫が出土した（図版36・39・50）。

SE107（図版8・19、写真図版14）

9H20・25、9I16・21に位置する遺構で、SD100・110を切る。平面形は長方形、断面形はU字状である。埋土は3層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は長軸1.19m、短軸0.80mを測り、深度は0.71mである。遺物は土師器長甕・小甕、肥前磁器碗・皿、肥前陶器瓶、信楽系碗、須佐唐津播鉢、産地不明の陶器壺、石製品（台石・軽石）、木製品（板状）、礫が出土した（図版39・51）。

SE111（図版8・19、写真図版15）

9I21・22に位置する遺構で、SD100・368・396を切る。平面形は円形、断面形は箱状である。埋土は4層に分層され1・2層は水平に、3・4層はブロック状に堆積する。規模は長軸1.81m、短軸1.60mを測り、深度は0.72mである。遺物は土師器長甕、肥前磁器碗・皿・鉢・その他の磁器壺、肥前陶器瓶、産地不明の陶器瓶・甕・土瓶、瓦器が出土した（図版40）。

SE113（図版8・19、写真図版15）

10H4・5・9・10に位置する遺構で、SD358を切る。平面形は円形、断面形は台形状である。埋土は5層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は長軸2.99m、短軸2.95mを測り、深度は1.44mである。遺物は土師器長甕・鍋、肥前磁器碗・皿、肥前陶器皿・鉢、須佐唐津播鉢、関西系壺、産地不明の陶器皿・鉢・合子（身）、石製品（砥石・礎石・軽石）、木製品（漆碗・円板・棒状・板状・杭状・柱状・角材）、礫が出土した（図版40・51・52・54）。

SE118（図版8・19、写真図版15）

10I6・7・11・12に位置する遺構で、SE119を切る。平面形は楕円形、断面形は台形状である。埋土は6層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は長軸2.93m、短軸2.26mを測り、深度は1.18mである。遺物は土師器長甕・小甕、須恵器無台杯、肥前磁器碗・皿・瓶・火入、肥前陶器碗・皿・鉢・播鉢・瓶・灯火具、須佐唐津播鉢、土製品（土人形）、石製品（硯・砥石・軽石）、金属製品、木製品（板状）、礫が出土した（図版40・50・52）。

SE119（図版8・21、写真図版15）

10H15・20、10I11・16に位置する。西側は調査区外に伸びており、SE118・120に切られる。平面形は円形、断面形は箱状と推定される。埋土は5層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は現存部で長軸2.87m、短軸2.07mを測り、深度は1.26mである。遺物は土師器長甕、須恵器無台杯、肥前磁器碗が出土した（図版36）。

SE120（図版8・21、写真図版15）

10H15・20、10I11・16に位置する。西側は調査区外に伸びており、SE119を切る。平面形は長方形、断面形は台形状と思われる。埋土は3層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は現存部で長軸1.91m、短軸1.65mを測り、深度は1.22mである。遺物は土師器無台碗・長甕・小甕、肥前磁器碗・皿・瓶・蓋、瀬戸美濃焼皿、肥前陶器鉢・瓶・甕、関西系蓋、瓦器、石製品（軽石）、金属製品、木製品（棒状・板状・杭状）、礫が出土した（図版36・40）。

SE126（図版8・17・27、写真図版16）

8H4・5・9・10・15、8I6・11に位置する。SE105、SD9-Aに切られ、SK340、SD25を切る。平面形は

楕円形、断面形は弧状と推定される。埋土は6層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は現存部で長軸3.62m、短軸2.77mを測り、深度は0.99mである。遺物は土師器無台椀・長甕、須恵器大甕、肥前磁器椀・皿、肥前陶器皿・播鉢・壺・甕、須佐唐津播鉢、石製品（砥石）、木製品（ヘラ状・円板・棒状）、礫・焼礫が出土した（図版41・52）。

SE135（図版9・21、写真図版16）

9I20・24・25、9J21、10I5に位置する。平面形は円形、断面形は箱状である。埋土は7層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は長軸2.78m、短軸2.37mを測り、深度は1.23mである。遺物は土師器無台椀・長甕・小甕、肥前磁器椀・皿、肥前陶器鉢・播鉢・瓶、須佐唐津播鉢、土製品、石製品（軽石）、金属製品（鎌）、木製品（棒状・杭状）、礫・焼礫が出土した（図版41・53）。

SE315（図版8・20、写真図版16）

8H19・20・24・25に位置する遺構で、SK103・340を切る。平面形は円形、断面形は台形状である。埋土は2層に分層され、レンズ状に堆積する。2層中にタガが残存し、底部には底板と浄化施設と見られる砂利が敷かれていた。規模は長軸1.76m、短軸1.56mを測り、深度は1.71mである。遺物は土師器長甕、肥前磁器椀・皿・瓶、産地不明の磁器椀、肥前陶器椀・皿・播鉢・壺蓋・甕、東北系甕、土製品（磁器面子）、石製品（軽石）、金属製品、木製品（漆・井戸側のタガ・竹製品・棒状・板状）、礫が出土した（図版41・42・50）。

一方、SE315横のV層以下の層位で立木が検出された。樹種同定と放射性炭素年代測定のほか、ウィグルマッチングによる暦年代推定も行った（第VI章第4・5節）。また、立木が生育していた当時の植生を検討するため、立木が検出された層位の土壌の花粉分析も行った（第VI章第3節）。

SE316（図版8・18、写真図版17）

8I6に位置する遺構で、SD9-Aの底面で検出した。平面形は楕円形、断面形は箱状である。規模は長軸1.12m、短軸0.90mを測り、深度は0.72mである。遺物は出土していない。

SE329（図版8・13・15・22、写真図版6・17）

9I18・22・23に位置する。SE367、SK319に切られ、SD330を切る。平面形は円形、断面形は半円状と推定される。埋土は6層に分層され、水平に堆積する。規模は現存部で長軸2.86m、短軸2.17mを測る。深度は1.17mである。遺物は土師器無台椀、肥前磁器椀・火入、肥前陶器椀、石製品（砥石・軽石）、金属製品（鎌・包丁）、木製品（杭状）が出土した（図版36・42・52・53）。

SE367（図版9・22、写真図版17）

9I23・24、10I3・4に位置する遺構で、SE329、SD330を切る。平面形は円形、断面形は台形状である。埋土は7層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は長軸2.77m、短軸2.72mを測り、深度は1.45mである。遺物は土師器無台椀・長甕、須恵器杯蓋、肥前磁器椀・皿・瓶・京焼椀、肥前陶器椀・鉢・播鉢・瓶・壺・甕、産地不明の陶器皿、信楽系椀、土製品、石製品（礎石・軽石）、木製品（棒状・板状・杭状）、礫・焼礫が出土した。（図版36・42・52）。

2) 土坑 (SK)

SK10（図版8・23、写真図版17）

7H12・16・17に位置する遺構で、SD16を切る。平面形は円形、断面形は弧状である。埋土は3層に分層され、ブロック状に堆積する。規模は長軸1.34m、短軸1.19mを測り、深度は0.39mである。遺物は石製品（軽石）が出土した。

SK18（図版8・23、写真図版18）

8H7・8に位置する。平面形は円形、断面形は弧状である。埋土は3層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は長軸1.36m、短軸1.20mを測り、深度は0.27mである。遺物は肥前磁器椀、肥前陶器皿・鉢、石製品（軽石）、礫が出土した。

SK19 (図版 8・20、写真図版 18)

8H13 に位置する遺構で、SK103 を切る。平面形は楕円形、断面形は台形状である。埋土は 2 層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は長軸 1.16m、短軸 0.92m を測り、深度は 0.29m である。遺物は肥前磁器碗・皿・瓶・灯火具、産地不明の磁器碗、肥前陶器鉢・壺、産地不明の陶器皿・甕、瓦器、土製品、石製品（軽石）、金属製品、礫が出土した（図版 42）。

SK24 (図版 8・23、写真図版 18)

8H8・9 に位置する遺構で、SD25 を切る。平面形は円形、断面形は弧状である。埋土は 2 層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は長軸 1.06m、短軸 0.97m を測り、深度は 0.30m である。遺物は肥前磁器碗・瓶、信楽系碗、土製品、石製品（軽石）、礫が出土した。

SK37 (図版 8・23、写真図版 18)

8G14・15 に位置する。平面形は長方形、断面形は弧状である。埋土は 2 層に分層され、水平に堆積する。規模は長軸 0.82m、短軸 0.70m を測り、深度は 0.12m である。遺物は土師器長甕が出土した。

SK38 (図版 8・23、写真図版 19)

8G4・5・9・10 に位置する遺構で、SD41 を切る。平面形は楕円形、断面形は弧状である。埋土は 2 層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は長軸 1.09m、短軸 0.92m を測り、深度は 0.26m である。遺物は肥前陶器鉢・甕、土製品が出土した。

SK39 (図版 8・24、写真図版 19)

8G10・15、8H6・11 に位置する遺構で、SD41 を切る。平面形は楕円形、断面形は弧状である。埋土は 2 層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は長軸 1.12m、短軸 0.89m を測り、深度は 0.20m である。遺物は出土していない。

SK53 (図版 8・24、写真図版 19)

8G5・10 に位置する遺構で、Pit54・55 を切る。平面形は楕円形、断面形は弧状を呈し、埋土は単層である。規模は長軸 1.58m、短軸 0.96m を測り、深度は 0.23m である。遺物は肥前磁器碗・皿、肥前陶器碗が出土した。

SK88 (図版 8・24、写真図版 19)

9H8・13 に位置する遺構で、SD100 を切る。平面形は円形、断面形は弧状を呈し、埋土は単層である。規模は長軸 0.89m、短軸 0.74m を測り、深度は 0.19m である。遺物は土師器長甕、肥前磁器碗が出土した。

SK103 (図版 8・20、写真図版 20)

8H13・14・18・19 に位置する。SE315、SK19、SD25 に切られ、SK340 を切る。遺構の切り合いが激しく、南東側の上端は確認できなかったが、断面図から推定される平面形は楕円形である。断面形は台形状を呈する。埋土は 5 層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は断面図から推定し、現存部で長軸 2.89m、短軸 2.49m を測り、深度は 0.79m である。遺物は土師器無台碗・長甕、肥前磁器碗・皿・瓶・火入・蓋、肥前陶器皿・鉢・播鉢・瓶・甕・灯火具、産地不明の陶器皿・鉢、瓦器、土製品（磁器面子）、石製品（砥石・軽石）、木製品（漆碗・円板・棒状・板状・杭状・柱状）、礫が出土した（図版 43・50・52）。

SK109 (図版 8・24、写真図版 20)

9I16 に位置する遺構で、SD108 を切る。平面形は円形、断面形は台形状である。埋土は 3 層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は長軸 0.86m、短軸 0.79m を測り、深度は 0.45m である。遺物は土師器長甕、肥前磁器碗、肥前陶器碗・皿・播鉢、瓦器、木製品（漆碗）が出土した。

SK117 (図版 8・24、写真図版 20)

10I7・8 に位置する遺構で、SD330・396 を切る。平面形は楕円形、断面形は弧状を呈し、埋土は単層である。規模は長軸 1.93m、短軸 0.67m を測り、深度は 0.08m である。遺物は土師器長甕が出土した。

SK145 (図版9・24、写真図版20)

10I10、10J1・2・6・7に位置する。平面形は楕円形、断面形は台形状である。埋土は3層に分層され、斜位に堆積する。規模は長軸2.46m、短軸2.07mを測り、深度は0.56mである。遺物は土師器長甕、肥前磁器碗・皿、産地不明の磁器、肥前陶器皿・鉢・壺、産地不明の陶器播鉢、信楽系碗、石製品(砥石)、木製品(棒状)、礫・焼礫が出土した(図版43・53)。

SK160 (図版9・24、写真図版21)

9I10・15に位置する。平面形は円形、断面形は弧状である。埋土は2層に分層され、水平に堆積する。規模は長軸0.90m、短軸0.88mを測り、深度は0.18mである。遺物は土師器長甕、肥前陶器皿が出土した。

SK163 (図版9・24、写真図版21)

11J6に位置する。平面形は円形、断面形は弧状を呈し、埋土は単層である。規模は長軸1.00m、短軸0.94mを測り、深度は0.21mである。遺物は土師器長甕、肥前磁器碗、産地不明の陶器急須、木製品(板状)、礫が出土した(図版43)。

SK167 (図版8・18、写真図版21)

8I1・6に位置する遺構である。SK340、SD9-Aを切っており、東端は調査区外へ伸びる。平面形は楕円形、断面形は台形状である。埋土は4層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は残存部で長軸1.06m、短軸0.66mを測り、深度は0.32mである。遺物は肥前磁器碗が出土した(図版43)。

SK180 (図版9・24、写真図版21)

11J1・6に位置する遺構で、SD381を切る。平面形は楕円形、断面形は台形状である。埋土は2層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は長軸0.99m、短軸0.82mを測り、深度は0.25mである。遺物は肥前磁器碗、石製品(軽石)が出土した。

SK181 (図版9・25、写真図版22)

11J1・2に位置する遺構で、SD381・450を切る。平面形は円形、断面形は箱状である。埋土は3層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は長軸1.35m、短軸1.32mを測り、深度は0.58mである。遺物は土師器長甕、肥前磁器碗・皿、産地不明の磁器碗、肥前陶器甕、産地不明の陶器鉢、信楽系碗、土製品、石製品(軽石)、木製品(棒状)、礫が出土した(図版43)。

SK280 (図版8・25、写真図版22)

8I13・14に位置する遺構で、SD9-Bに切られる。平面形は楕円形、断面形は弧状と推定される。埋土は2層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は現存部で長軸2.33m、残存短軸0.67mを測り、深度は0.44mである。遺物は出土していない。

SK317 (図版8・25、写真図版22)

9H15、9I11に位置する遺構で、Pit362を切る。平面形は方形、断面形は台形状である。埋土は3層に分層され、水平に堆積する。規模は長軸1.42m、短軸1.22mを測り、深度は0.58mである。遺物は土師器長甕、須恵器大甕、肥前磁器碗・皿・瓶・火入、瀬戸美濃焼碗、肥前陶器皿・播鉢・瓶・急須、信楽系皿、須佐唐津播鉢、産地不明の陶器鉢・播鉢・壺、土製品(泥面子)、石製品(軽石)、金属製品(鎌)、木製品(漆櫛・漆板・櫛・棒状・板状・杭状・柱状)、礫が出土した(図版43・49・54)。

SK319 (図版8・25、写真図版22)

9I17・18・22に位置する遺構で、SE329を切る。平面形は長方形、断面形は弧状である。埋土は2層に分層され、水平に堆積する。規模は長軸1.95m、短軸1.11mを測り、深度は0.26mである。遺物は土師器長甕、肥前磁器碗・皿・鉢・瓶、産地不明の磁器急須、肥前陶器鉢・甕、産地不明の陶器瓶・壺・甕、瓦器、土製品、石製品(砥石・軽石)、金属製品(包丁)、木製品(板状・杭状)、礫・焼礫が出土した(図版43・44・53・54)。

SK340 (図版 8・20・27、写真図版 23)

8H14・15・18～20・23～25、8I3・7・11・12・16・17・21、9H5、9I1 に位置する。SE102・104・105・126・315、SK103・167、SD9-A・25 に切られる。遺構の切り合いが激しいため、平面形は不整形、断面形は弧状と思われる。埋土は4層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は現存部で長軸 5.83m、短軸 4.51m を測り、深度は 0.52m である。遺物は土師器長甕、須恵器無台杯、肥前磁器椀・皿・瓶、肥前陶器灯火具・鉢・播鉢・壺・甕、産地不明の陶器甕、瓦器、土製品、石製品(砥石、軽石)、銭貨、礫が出土した(図版 36・44・53)。

SK370 (図版 9・25、写真図版 23)

11I2・7 に位置する遺構で、SK372 に切られ、SD128 を切る。SD373 とも隣接するが、切り合い関係は不明である。平面形は楕円形、断面形は弧状と推定される。埋土は2層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は現存部で長軸 0.63m、短軸 0.72m を測り、深度は 0.25m である。遺物は肥前磁器椀、産地不明の陶器壺、金属製品(鎌)、礫が出土した(図版 54)。

SK372 (図版 9・25、写真図版 23)

11I7 に位置する遺構で、SK370、SD128・373 を切る。平面形は楕円形、断面形は弧状を呈し、埋土は単層である。規模は長軸 0.91m、短軸 0.76m を測り、深度は 0.12m である。遺物は土師器長甕、肥前磁器椀、礫が出土した。

SK375 (図版 9・25、写真図版 23)

10I19・20・24・25 に位置する遺構で、SD128・373・374 を切る。平面形は楕円形、断面形は半円状である。埋土は2層に分層され、水平に堆積する。規模は長軸 2.41m、短軸 1.32m を測り、深度は 0.48m である。遺物は肥前磁器椀・皿・瓶、肥前陶器椀・鉢・甕、東北系蓋、産地不明の陶器椀・播鉢・壺、土製品、石製品(軽石)、金属製品、礫が出土した(図版 44)。

SK395 (図版 9・26、写真図版 23・24)

11J7・8・12・13 に位置する遺構で、SD192、Pit394 を切る。平面形は楕円形、断面形は半円状である。埋土は3層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は長軸 1.42m、短軸 0.99m を測り、深度は 0.48m である。遺物は土師器長甕、須恵器無台杯、肥前磁器椀・皿・瓶、肥前陶器椀・瓶、土製品(泥面子)、石製品(砥石)、礫が出土した(図版 49・53)。

SK518 (図版 8・26、写真図版 24)

7G24 に位置する遺構で、北西側が調査区外へ伸びる。平面形は楕円形と推測される。断面形は台形状を呈し、埋土は単層である。規模は現存部で長軸 0.49m、短軸 0.69m を測り、深度は 0.54m である。遺物は肥前磁器椀が出土した。

3) 性格不明遺構 (SX)**SX71** (図版 8・26、写真図版 24)

9I7 に位置する遺構で、Pit72 に切られる。平面形は不整形、断面形は弧状を呈し、埋土は単層である。規模は長軸 1.39m、短軸 0.60m を測り、深度は 0.22m である。遺物は土師器長甕、肥前磁器椀・皿、肥前陶器皿・瓶、石製品(軽石)、礫が出土した。

SX79 (図版 8・26、写真図版 24)

8H21・22 に位置する遺構で、SD100、Pit78・80・294 に切られる。平面形は楕円形、断面形は弧状と推定される。埋土は2層に分層され、水平に堆積する。規模は現存部で長軸 1.98m、短軸 1.33m を測り、深度は 0.20m である。遺物は須恵器大甕、肥前磁器椀、肥前陶器播鉢・瓶、土製品が出土した。

SX83 (図版 8・26、写真図版 24)

8H17・22 に位置する遺構で、Pit81・82 に切られる。平面形は楕円形、断面形は半円状である。埋土は4

層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は長軸 1.37m、短軸 0.51m を測り、深度は 0.42m である。遺物は肥前磁器皿が出土した (図版 44)。

SX96 (図版 8・12、写真図版 5・25)

8G14・19 に位置する遺構で、Pit301 を切る。南側は調査区外へ伸びる。I i 層上面で検出した。平面形は楕円形と推定され、断面形は弧状である。埋土は単層である。規模は現存部で長軸 0.86m、短軸 1.41m を測り、深度は 0.49m である。盛土の I 層中から掘り込まれている。遺物は肥前磁器碗・皿、肥前陶器播鉢、礫が出土した。

SX241 (図版 10・26、写真図版 25)

13K12 に位置する遺構で、SD248 に切られる。平面形は楕円形と推定され、断面形は台形状である。埋土は 3 層に分層され、水平に堆積する。規模は現存部で長軸 0.71m、短軸 0.47m を測り、深度は 0.22m である。遺物は出土していない。

SX302 (図版 8、写真図版 25)

8H6 に位置する。平面形は楕円形である。規模は長軸 0.61m、短軸 0.31m を測り、深度は 0.07m である。遺物は出土していない。

4) 溝 (SD)

SD9-A (図版 8・18・23・26、写真図版 25)

7H11～13・17～19・23～25、8H5、8I1・6・7・12 に位置する。SE105、SK167 に切られ、SE126・316、SK340 を切る。断面形は V 字状や台形状で、主軸方向は N-46° -W である。埋土は 3 層に分層され、レンズ状に堆積する。北西側が調査区外へ伸びており、規模は現存部で長軸 16.02m、短軸 1.56m を測り、深度は 0.65m である。遺物は肥前磁器碗・皿、肥前陶器皿・鉢・播鉢、須佐唐津播鉢、産地不明の陶器碗・鉢・瓶・壺・急須・灯火具、瓦器、木製品 (下駄・棒状・板状)、礫が出土した (図版 44)。

SD9-B (図版 9・25、写真図版 22)

8I12～14・18・19・24・25 に位置する遺構で、SK280 を切る。断面形は台形状を呈し、主軸方向は N-50° -W である。埋土は 3 層に分層され、レンズ状に堆積する。南東側が調査区外へ伸びており、規模は現存部で長軸 6.44m、短軸 1.18m を測り、深度は 0.66m である。前述の SD9-A とは同一遺構と思われたが、8I12 付近で両遺構とも立ち上がりが見られることから、別遺構の可能性もあり、それぞれで記述した。遺物は土師器長甕、須恵器無台杯、肥前磁器碗・皿・瓶、肥前陶器瓶、関西系陶器鉢、産地不明の陶器灯火具・片口鉢・甕・土瓶、瓦器、石製品 (軽石)、木製品 (板状) が出土した (図版 36・44・45)。

SD16 (図版 8、写真図版 25)

7H11・16・17・22・23 に位置する遺構で、SK10 に切られる。北西側が調査区外に伸び、南東側は試掘坑で切られる。主軸方向は N-46° -W で、断面形は弧状と推定される。規模は現存部で長軸 4.91m、短軸 0.29m を測り、深度は 0.22m である。遺物は肥前陶器鉢が出土した (図版 45)。

SD17 (図版 8・26、写真図版 25)

7H22・23、8H2・3 に位置する。断面形は半円状を呈し、埋土は単層である。主軸方向は N-59° -W である。規模は長軸 3.16m、短軸 0.48m を測り、深度は 0.15m である。遺物は肥前陶器鉢が出土した。

SD25 (図版 8・23・27、写真図版 18・26)

8H3・8・9・14・15・19・20 に位置する。SK24 に切られ、SK103・340 を切る。底面の凹凸が著しいが、断面形はおおむね台形状を呈する。主軸方向は N-42° -W である。埋土は 3 層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は長軸 7.64m、短軸 1.83m を測り、深度は 0.48m である。遺物は土師器無台碗・長甕・鍋、肥前磁器碗・皿、産地不明の磁器瓶、肥前陶器皿・鉢・播鉢・甕、信楽系碗、東北系壺・灯火具、産地不明の陶器皿、鉢・播鉢・壺、瓦器、土製品 (土人形)、石製品 (軽石)、金属製品、木製品 (赤漆碗)、礫が出土した (図版 36・45・50)。

SD35 (図版 8・27、写真図版 26)

8G8・13・14 に位置する。断面形は半円状を呈し、主軸方向は N-37° -W である。埋土は 2 層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は長軸 1.81m、短軸 0.26m を測り、深度は 0.06m である。遺物は出土していない。

SD41 (図版 8・12・23・24・27、写真図版 5・26)

8G3・4・9・10・14・15、8H11 に位置する。SK38・39、Pit324 に切られており、北西側は調査区外へ伸びる。断面形は台形状を呈し、主軸方向は N-41° -W である。埋土は 5 層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は現存部で長軸 7.47m、短軸 0.74m を測り、深度は 0.32m である。遺物は土師器無台椀、肥前磁器椀・皿が出土した。

SD100 (図版 8・19・27、写真図版 26・27)

8G20・25、8H21・22、9H1・2・7～9・13・14・19・20・25、9I21 に位置する。SE107・111、SK88、SD101、Pit89・141・318 に切られ、SX79、SD368、Pit78 を切る。断面形は台形状を呈し、主軸方向は N-47° -W である。埋土は 2 層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は南東側が SE111 に切られており、現存部で長軸 15.67m、短軸 0.70m を測り、深度は 0.22m である。遺物は土師器無台椀・長甕・小甕、須恵器無台杯・長頸瓶、肥前磁器椀、肥前陶器皿が出土した。

SD101 (図版 8・27、写真図版 27)

9H14・15・18～20・23 に位置する。南西側は調査区外へ伸びており、SD100、Pit93 を切る。断面形は U 字状を呈し、主軸方向は N-49° -E である。埋土は 4 層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は現存部で長軸 4.26m、短軸 0.95m を測り、深度は 0.61m である。遺物は土師器無台椀・長甕、須恵器杯蓋、肥前磁器椀・皿・瓶・火入・香炉、肥前陶器皿・鉢・播鉢・壺、産地不明の陶器蓋、信楽系椀、須佐唐津播鉢、土製品、石製品(硯・軽石)、礫が出土した(図版 37・45・53)。

SD110 (図版 8・27、写真図版 27)

9I12・16・17・21 に位置する。SE107 に切られ、SD108 を切る。断面形は U 字状を呈し、主軸方向は N-43° -E である。埋土は 2 層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は長軸 2.92m、短軸 0.44m を測り、深度は 0.44m である。遺物は肥前磁器椀、肥前陶器皿・鉢・播鉢、須佐唐津播鉢、産地不明の陶器土瓶、土製品(泥面子)、石製品(軽石)が出土した(図版 45・49)。

SD124 (図版 8・27、写真図版 27)

9H1・2・6・7 に位置する。断面形は U 字状を呈し、主軸方向は N-34° -W である。埋土は 2 層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は長軸 2.31m、短軸 0.33m を測り、深度は 0.32m である。遺物は須恵器長胴壺、肥前磁器椀が出土した(図版 37)。

SD125 (図版 9・27、写真図版 28)

10I10・13～15・17～19・21・22、10J6、11I1 に位置する。南西側は調査区外へ伸びており、SD330・384・396 を切る。断面形は台形状を呈し、主軸方向は N-50° -E である。埋土は 2 層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は現存部で長軸 12.06m、短軸 0.90m を測り、深度は 0.50m である。遺物は土師器無台椀・長甕・小甕、肥前磁器椀・皿・鉢・瓶・火入、肥前陶器皿・鉢・播鉢・瓶・甕、信楽系椀、須佐唐津播鉢、土製品、石製品(砥石・軽石)、金属製品が出土した(図版 45・46)。

SD128 (図版 9・12・13・25・28、写真図版 5・6・23・28)

10I15・19・20・23・24、10J3・7・8・11・12・16、11I2・3・6・7 に位置する遺構で、調査区を北東-南西方向に横断する。II 層上面で検出した。SK370・372・375 に切られ、SD330・373 を切る。断面形は台形状を呈し、主軸方向は N-49° -E である。埋土は 5 層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は両端が調査区外へ伸びており、現存部で長軸 16.87m、短軸 1.31m を測り、深度は 0.66m である。遺物は土師器無台椀・長甕、須恵器無台杯・大甕、肥前磁器椀・皿・瓶・水滴、肥前陶器皿・鉢・播鉢・瓶・壺・甕、須佐唐津播鉢、東北系鍋、備前播鉢、産地不明の陶器鉢・急須、瓦器、土製品、石製品(軽石)、木製品(棒状)、礫・焼礫が出土した(図

版 37・46・47)。

SD133 (図版 9・28、写真図版 28・29)

10I25、10J21 に位置する。断面形は弧状を呈し、埋土は単層である。主軸方向は N-41° -E である。規模は長軸 2.28m、短軸 0.71m を測り、深度は 0.08m である。遺物は礫が出土した。

SD138 (図版 9・27・34、写真図版 29)

9J17・21・22 に位置する遺構で、Pit137・366 を切る。断面形は台形状を呈し、主軸方向は N-53° -E である。埋土は 4 層に分層され、水平に堆積する。規模は長軸 2.14m、短軸 0.65m を測り、深度は 1.06m である。遺物は須恵器大甕、肥前磁器碗・皿・瓶、信楽系碗、土製品、石製品(軽石)、金属製品、木製品(棒状・板状)、礫が出土した。

SD150 (図版 9・10・28、写真図版 29)

10J16・17・22・23、11J3・4・9・10・14・15・20、11K16・21・22、12K2・3 に位置する遺構である。Ⅱ層上面で検出した。南東側が調査区外へ伸びており、北東側は SD373 に切られる。断面形は半円状を呈し、主軸方向は N-35° -W である。埋土は 4 層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は一部を攪乱で破壊されているが、現存部で長軸 19.22m、短軸 0.63m を測り、深度は 0.40m である。遺物は土師器長甕、須恵器大甕が出土した。

SD164 (図版 9・28、写真図版 29)

11I10、11J6 に位置する。断面形は半円状を呈し、埋土は単層である。主軸方向は N-47° -W である。規模は長軸 1.05m、短軸 0.31m を測り、深度は 0.13m である。遺物は金属製品が出土した。

SD192 (図版 9・28、写真図版 30)

11J8・13 に位置する遺構で、南西側を SK395 に切られる。断面形は台形状を呈し、主軸方向は N-22° -E である。埋土は 2 層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は現存部で長軸 0.71m、短軸 0.58m を測り、深度は 0.12m である。遺物は土師器長甕、肥前磁器碗が出土した。

SD196 (図版 10・12・28、写真図版 30)

12J16・21・22、13J2～4・9・10 に位置する遺構で、SD197・411・436 に切られる。断面形は弧状を呈し、主軸方向は N-55° -W である。埋土は 2 層に分層され、レンズ状に堆積する。北西側は調査区外へ伸びており、現存部の規模は長軸 9.61m、短軸 0.84m を測り、深度は 0.34m である。遺物は土師器長甕、須恵器大甕、肥前磁器碗、信楽系碗、土製品(泥面子)、木製品(板状)、礫が出土した(図版 49)。

SD197 (図版 10・28、写真図版 30)

12J16・17・21～23、13J3・4・9・10、13K6・11 に位置する遺構で、北西側は調査区外へ伸びる。SD248・436 に切られ、SD196 を切る。断面形は半円状を呈し、主軸方向は N-54° -W である。埋土は 2 層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は現存部で長軸 13.81m、短軸 0.59m を測り、深度は 0.16m である。遺物は土師器長甕、須恵器有台杯・大甕、肥前磁器碗、肥前陶器挿鉢・蓋、産地不明の陶器蓋、礫が出土した(図版 37・47)。

SD248 (図版 10・26・28、写真図版 30)

13K11・12・17 に位置する。南西側を SD436 に切られ、SX241、SD197 を切る。断面形は箱状を呈し、主軸方向は N-55° -W である。埋土は 2 層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は長軸 2.67m、現存部で短軸 0.52m を測り、深度は 0.16m である。遺物は出土していない。

SD251 (図版 10・11・13・16・28、写真図版 6・31)

14J4・5・10、14K6・7・12・13・15・20、14L16・17・21～25、15L3～5 に位置する遺構で、北西・南東方向に調査区を横断する。Ⅲ層上面で検出した。SN473・476、Pit464・496 に切られ、Pit449 を切る。断面形は弧状を呈し、主軸方向は N-64° -W である。埋土は 4 層に分層され、レンズ状に堆積する。中央部分が

攪乱で壊されており、両端は調査区外へ伸びる。規模は現存部で長軸 24.11m、短軸 0.95m を測り、深度は 0.46m である。遺物は土師器無台碗・長甕・小甕、須恵器無台杯・大甕、肥前磁器碗・皿、石製品（軽石）、礫が出土した（図版 37）。

SD291（図版 8・29、写真図版 31）

8H22・23 に位置する。断面形は半円状、主軸方向は N-38° -W である。埋土は 2 層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は長軸 0.48m、短軸 0.16m を測り、深度は 0.06m である。遺物は出土していない。

SD292（図版 8・29、写真図版 31）

9H3 に位置する遺構で、Pit86・293 に切られる。断面形は半円状を呈し、主軸方向は N-40° -W である。埋土は 2 層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は長軸 0.60m、短軸 0.24m を測り、深度は 0.10m である。遺物は出土していない。

SD308（図版 8・29、写真図版 32）

8H12 に位置する。断面形は半円状を呈し、主軸方向は N-30° -W である。埋土は 2 層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は長軸 1.04m、短軸 0.23m を測り、深度は 0.08m である。遺物は出土していない。

SD311（図版 8・29、写真図版 32）

8H23・24、9H4 に位置する。断面形は U 字状を呈し、主軸方向は N-44° -W である。埋土は 3 層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は長軸 2.54m、短軸 0.45m を測り、深度は 0.48m である。遺物は土師器無台碗、肥前磁器碗・皿・鉢、肥前陶器皿、産地不明の陶器碗、石製品（軽石）、金属製品が出土した（図版 47）。

SD355（図版 8・29、写真図版 32）

9H5・10 に位置する。断面形は弧状を呈し、主軸方向は N-50° -W である。埋土は単層である。規模は長軸 1.16m、短軸 0.33m を測り、深度は 0.10m である。遺物は出土していない。

SD359（図版 8・29、写真図版 32）

9H10 に位置する。断面形は台形状を呈し、主軸方向は N-49° -W である。埋土は 2 層に分層され、ブロック状に堆積する。長軸 1.04m、短軸 0.35m を測り、深度は 0.12m である。遺物は肥前磁器碗が出土した。

SD368（図版 8・27、写真図版 26・27）

9H13・14・20・25、9I21 に位置する遺構で、SE111、SD100、Pit328 に切られる。断面形は台形状と推定され、主軸方向は N-45° -W である。埋土は単層である。規模は現存部で長軸 7.77m、残存短軸 0.30m を測り、深度は 0.13m である。遺物は土師器長甕が出土した。

SD373（図版 9・12・13・25・28、写真図版 5・6・23・28）

10I20・24・25、10J7・8・11・12・16、11I2・3・7・8 に位置する。SD128 と並行し、調査区を北東 - 南西方向で横断する。SK372・375、SD128・374 に切れ、SD150・330 を切る。主軸方向は N-50° -E である。断面形は台形状を呈し、埋土は単層である。規模は両端が調査区外へ伸びており、現存部で長軸 16.96m、短軸 0.31m を測り、深度は 0.34m である。遺物は肥前磁器碗・瓶、東北系鍋が出土した。

SD374（図版 9・13・28、写真図版 6・28）

10I20・24・25、10J8・16、11I3・4・7・8・12 に位置する。SD128 と並行し、一部途切れるが、調査区を北東 - 南西方向に横断する。SK375 に切れ、SD330・373 を切る。断面形は漏斗状を呈し、主軸方向は N-52° -E である。埋土は単層である。規模は両端が調査区外に伸びており、現存部で長軸 17.01m、短軸 0.96m を測り、深度は 0.22m である。遺物は土師器無台碗・長甕、産地不明の磁器瓶が出土した。

SD381（図版 9・29、写真図版 33）

10J21・22、11J1 に位置する遺構で、SK180・181 に切られる。断面形は台形状を呈し、主軸方向は N-31° -E である。埋土は 3 層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は現存部で長軸 1.51m、短軸 0.72m を測り、深度は 0.36m である。遺物は土師器長甕、肥前磁器碗、産地不明の磁器瓶、礫が出土した。

SD384 (図版9・27、写真図版28)

10I10に位置する遺構で、南西側をSD125に切られる。断面形は台形状と推定され、主軸方向はN-45°-Eである。埋土は2層に分層され、水平に堆積する。規模は現存部で長軸0.71m、短軸0.41mを測り、深度は0.18mである。遺物は土師器無台椀、肥前磁器椀、石製品(軽石)、礫が出土した。

SD396 (図版9・29、写真図版33)

9I21・22、10I1～3・7・8・14に位置する。SE111、SK117、SD125に切られ、SD330を切る。断面形は弧状を呈し、主軸方向はN-46°-Wである。埋土は単層である。途切れながらも連続し、規模は現存部で8.33m、短軸0.37mを測り、深度は0.06mを測る。遺物は出土していない。

SD409 (図版9・29、写真図版33)

11J8・9・13・14・18に位置する。断面形は弧状を呈し、主軸方向はN-38°-Eである。埋土は単層である。規模は長軸3.32m、短軸0.43mを測り、深度は0.10mである。遺物は土師器長甕が出土した。

SD411 (図版10・12・28・29、写真図版30)

12J21・22、13J2～4・8・9、13K17・18・23に位置する。北西側が調査区外へ伸び、南東側は攪乱に壊されている。SD436に切られ、SD196・437を切る。断面形は台形状を呈し、主軸方向はN-56°-Wである。埋土は2層に分層され、斜位に堆積する。規模は一部途切れるが、現存部で長軸18.14m、短軸0.39mを測り、深度は0.34mである。遺物は土師器無台椀、東北系鍋が出土した。

SD436 (図版10・26・28、写真図版30)

13J10・15、13K6・11・12・16～18に位置する。SD196・197・248・411・437を切る。断面形は弧状を呈し、主軸方向はN-55°-Wである。埋土は2層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は長軸7.44m、短軸1.14mを測り、深度は0.32mである。遺物は出土していない。

SD437 (図版10・29、写真図版30)

13K18・23・24に位置する遺構で、SD411・436・438に切られる。断面形は弧状を呈し、主軸方向はN-59°-Wである。埋土は単層である。北西側がSD436に、北東側は攪乱によって壊されている。規模は現存部で長軸1.67m、短軸0.58mを測り、深度は0.09mである。遺物は出土していない。

SD438 (図版10・29、写真図版30)

13K18・19・23・24に位置する遺構で、SD437・439を切る。断面形は半円状を呈し、主軸方向はN-63°-Wである。埋土は3層に分層され、レンズ状に堆積する。東側は攪乱によって壊されている。規模は現存部で長軸1.47m、短軸0.55mを測り、深度は0.23mである。遺物は肥前磁器火入が出土した(図版47)。

SD439 (図版10・29、写真図版30)

13K18・19に位置する遺構で、SD438に切られる。断面形は弧状を呈し、主軸方向はN-64°-Wである。埋土は2層に分層され、レンズ状に堆積する。東側は攪乱によって壊されている。規模は現存部で長軸1.44m、短軸0.66mを測り、深度は0.26mである。遺物は土師器長甕、礫が出土した。

SD445 (図版9・29、写真図版33)

11J19・24に位置する。断面形は弧状を呈し、主軸方向はN-13°-Wである。埋土は単層である。規模は長軸1.83m、短軸0.35mを測り、深度は0.03mである。遺物は出土していない。

SD450 (図版9・29、写真図版34)

11J1・2・6・7に位置する遺構で、北側をSK181に切られる。断面形は弧状を呈し、主軸方向はN-22°-Eである。埋土は単層である。規模は現存部で長軸2.36m、短軸0.55mを測り、深度は0.10mである。遺物は土師器長甕が出土した。

SD451 (図版9・29、写真図版34)

11J2・6・7・11、11I15に位置する遺構で、Pit206・207・385・386・389・422・423に切られる。断

面形は弧状を呈し、主軸方向はN-37°-Eである。埋土は単層である。規模は長軸6.05m、短軸0.62mを測り、深度は0.10mである。遺物は出土していない。

SD501 (図版8・29、写真図版34)

8H12・17に位置する遺構で、北西側をPit342に切られる。断面形は半円状を呈し、主軸方向はN-50°-Wである。埋土は単層である。規模は現存部で長軸0.64m、短軸0.23mを測り、深度は0.09mである。遺物は出土していない。

5) 畝間状遺構群 (SN)

調査区の南側で複数の小型の溝が並行して検出されており、これらを畝間状遺構群 (SN) とした。調査区南西壁では畝間の溝だけでなく、畝状の高まりもわずかに確認できた。調査区の確認面はIVa層であるが、壁面での検出面はⅢ層上面であることから、畝間状遺構群の上面は削平され、底部付近のみが残存している可能性が高い。また、主軸が北東-南西方向の一群と北-南方向の一群があり、記述については群ごとに行う。

SN218 (図版10・12・30、写真図版34)

13J1・2に位置する。平面形は楕円形、断面形は弧状である。主軸方向はN-28°-Eで、現存部での長軸は0.42m、短軸は0.20mである。平面形は短小であるが、調査区南西壁の基本層序EでSN218と同軸方向上に畝間の溝が確認されており、SN218が壁際まで続き、さらに調査区外へ伸びていると想定される。壁面ではⅢ層上面で検出された。深度は0.14mを測り、埋土は単層である。遺物は出土していない。

SN219 (図版10・12・30、写真図版34)

13J2に位置する。平面形は楕円形、断面形は箱状である。主軸方向はN-15°-Eで、現存部の長軸は0.24m、短軸0.18mである。平面形は北西側を土側溝に壊されているが、調査区南西壁の基本層序EでSN219と同軸方向上に畝間の溝が確認されており、SN219が壁際まで続き、さらに調査区外へ伸びていると想定される。壁面ではⅢ層上面で検出された。深度は0.09mを測り、埋土は単層である。遺物は出土していない。SN218とSN219の畝間間隔は0.6m程である。

SN220 (図版10・12・30、写真図版34)

13J2・7に位置する。平面形は楕円形、断面形は弧状である。主軸方向はN-32°-Eで、現存部の長軸は0.48m、短軸は0.21mである。平面形は短小であるが、調査区南西壁の基本層序EでSN220と同軸方向上に畝間の溝が確認されており、SN220が壁際まで続き、さらに調査区外へ伸びていると想定される。壁面ではⅢ層上面で検出しており、畝状の高まりもわずかであるが確認できる。深度は0.16mを測り、埋土は単層である。遺物は出土していない。

SN221 (図版10・12・30、写真図版34)

13J2・3・7に位置する。平面形は楕円形、断面形はV字状である。主軸方向はN-23°-Eで、現存部の長軸は0.77m、短軸は0.20mである。平面形は短小であるが、調査区南西壁の基本層序EでSN221と同軸方向上に畝間の溝が確認されており、SN221が壁際まで続き、さらに調査区外へ伸びていると想定される。壁面ではⅢ層上面で検出しており、畝状の高まりもわずかであるが確認できる。深度は0.20m、埋土は2層に分層され、水平に堆積する。遺物は出土していない。

SN223 (図版10・12・30、写真図版35)

13J8・12に位置する。平面形は楕円形、断面形は弧状である。主軸方向はN-27°-Eで、現存部の長軸は0.59m、短軸は0.21mである。平面形は短小であるが、調査区南西壁の基本層序EでSN223と同軸方向上に畝間の溝が確認されており、SN223が壁際まで続き、さらに調査区外へ伸びていると想定される。壁面ではⅢ層上面で検出しており、畝状の高まりもわずかであるが確認できる。深度は0.08mを測り、埋土は単層である。遺物は出土していない。

SN226 (図版 10・30、写真図版 35)

13J9 に位置する。平面形は楕円形、断面形は箱状である。主軸方向は N-26° -E で、埋土は単層である。規模は長軸 0.98m、短軸 0.25m を測り、深度は 0.12m である。遺物は出土していない。SN220・221・223・226 の各畝間間隔は 0.5m から 1.4m 程である。

SN222 (図版 10・30、写真図版 35)

12J25 に位置する。平面形は楕円形、断面形は半円状である。主軸方向は N-28° -E で、埋土は単層である。規模は長軸 0.81m、短軸 0.28m を測り、深度は 0.11m である。遺物は出土していない。

SN225 (図版 10・30、写真図版 35)

13J8・9 に位置する。平面形は楕円形、断面形は弧状である。主軸方向は N-27° -E で、埋土は単層である。規模は長軸 0.60m、短軸 0.22m を測り、深度は 0.04m である。遺物は出土していない。

SN227 (図版 10・30、写真図版 35)

13J9・14 に位置する。平面形は楕円形、断面形は台形状である。主軸方向は N-31° -E で、埋土は単層である。規模は長軸 0.92m、短軸 0.23m を測り、深度は 0.10mm である。遺物は出土していない。

SN229 (図版 10・30、写真図版 35)

13J15 に位置する。平面形は楕円形、断面形は台形状である。主軸方向は N-30° -E で、埋土は単層である。規模は長軸 0.44m、短軸 0.19m を測り、深度は 0.10m である。遺物は出土していない。SN225・227・229 の各畝間間隔は 1.4m 程である。

SN228 (図版 10・31、写真図版 35)

13J10・14・15 に位置する。平面形は楕円形、断面形は半円状である。主軸方向は N-28° -E で、埋土は単層である。規模は長軸 0.72m、短軸 0.24m を測り、深度 0.10m はである。遺物は出土していない。

SN230 (図版 10・31、写真図版 35)

13J15 に位置する。平面形は楕円形、断面形は台形状である。主軸方向は N-29° -E で、埋土は単層である。規模は長軸 0.69m、短軸 0.21m を測り、深度は 0.10m である。遺物は出土していない。

SN233 (図版 10・31、写真図版 35)

13K11・16 に位置する。平面形は楕円形、断面形は半円状である。主軸方向は N-26° -E で、埋土は単層である。規模は長軸 0.90m、短軸 0.24m を測り、深度は 0.10m である。遺物は出土していない。

SN235 (図版 10・31、写真図版 35)

13K16・17 に位置する。平面形は楕円形、断面形は台形状である。主軸方向は N-29° -E である。埋土は 2 層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は長軸 0.60m、短軸 0.27m を測り、深度は 0.12m である。遺物は出土していない。SN228・230・233・235 の各畦間間隔は 1.4m から 1.5m 程である。

SN234 (図版 10・31、写真図版 35)

13K16 に位置する。平面形は楕円形、断面形は箱状である。主軸方向は N-26° -E である。埋土は 2 層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は長軸 0.49m、短軸 0.18m を測り、深度は 0.11m である。遺物は出土していない。

SN236 (図版 10・31、写真図版 35)

13K17・22 に位置する。平面形は楕円形、断面形は半円状である。主軸方向は N-10° -E で、埋土は単層である。規模は長軸 0.40m、短軸 0.19m を測り、深度は 0.09m である。遺物は出土していない。SN234 と SN236 の畝間間隔は 1.5m 程である。

SN237 (図版 10・31、写真図版 35)

13K17・22 に位置する。平面形は楕円形、断面形は半円状である。主軸方向は N-32° -E である。埋土は 2 層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は長軸 0.70m、短軸 0.27m を測り、深度は 0.11m である。遺物は出土していない。

SN468 (図版 10・31、写真図版 35)

13K22・23 に位置する。平面形は楕円形、断面形は弧状である。主軸方向は N-21° -E で、埋土は単層である。規模は長軸 0.36m、短軸 0.16m を測り、深度は 0.06m である。遺物は出土していない。

SN469 (図版 10・31、写真図版 35)

13K23 に位置する。平面形は楕円形、断面形は弧状である。主軸方向は N-22° -E で、埋土は単層である。規模は長軸 0.46m、短軸 0.18m を測り、深度は 0.04m である。遺物は出土していない。SN237・468・469 の各畝間間隔は 0.6m 程である。

SN256 (図版 10・31、写真図版 35)

14K16・17 に位置する。平面形は楕円形、断面形は半円状である。主軸方向は N-56° -E で、埋土は単層である。規模は長軸 0.75m、短軸 0.34m を測り、深度は 0.11m である。遺物は土師器長甕が出土した。

以上、上記までの SN218～223・225～230・233～237・256・468・469 が主軸を北東－南西方向とした一群である。

SN473 (図版 11・31)

15L4・5・9・14・19・24 に位置する。断面形は台形状で、主軸方向は N-10° -E である。埋土は 2 層に分層され、レンズ状に堆積する。一部途切れるが、規模は全体で長軸 9.36m、短軸 0.54m を測り、深度は 0.20m である。遺物は須恵器無台杯、肥前磁器碗、信楽系碗が出土した。

SN476 (図版 11・31)

15L4・9・13・14・18 に位置する遺構で、南側が攪乱で壊されている。断面形は台形状で、主軸方向は N-12° -E である。埋土は 2 層に分層され、レンズ状に堆積する。一部途切れるが、規模は現存部で長軸 6.61m、短軸 0.45m を測り、深度は 0.20m である。遺物は肥前磁器碗が出土した。

SN477 (図版 11・31)

15L8・13・18・23 に位置する遺構で、南側が攪乱で壊されている。断面形は台形状、主軸方向は N-12° -E である。埋土は 2 層に分層され、レンズ状に堆積する。一部途切れるが、規模は現存部で長軸 6.65m、短軸 0.41m を測り、深度は 0.18m である。遺物は出土していない。SN473・476・477 の各畝間間隔は 0.4m から 0.7m 程である。

SN290 (図版 11)

15L2・3・7・12・17・21・22 に位置する遺構で、主軸方向は N-10° -E である。一部途切れるが、規模は全体で長軸 8.52m、短軸 0.46m を測り、深度は 0.25m である。遺物は出土していない。

以上の SN473・476・477・290 が主軸を北－南方向とした一群である。

6) Pit

近世以降の Pit は 186 基確認されている。調査区全域に分布するが、特に北西側に多い。これらは掘立柱建物や柵、柱列等を構成するものと推察される。これまでに掘立柱建物 3 棟、柱列 2 列を確認したが、Pit 総数から言えば、ほかにも建物等が存在する可能性は高い。別表 1 の遺構計測表には断面図があるものと、遺物が出土した Pit を記載した。Pit294 から柱根を検出したほか、Pit14・29・47・49・78・95・299・305・321・338・339 では断面で柱痕が確認できた (図版 33・34)。掲載遺物が出土した Pit は、Pit91・293・294・320・393・443 である (図版 47・49)。

7) 掘立柱建物跡 (SB)**SB1** (図版 8・32、写真図版 36)

7G25、7H16・21 位置する遺構で、主軸方向は N-48° -E である。南西側の柱構成が不明瞭であるが、現存部で梁行 1 間 (1.70m) × 桁行 2 間 (5.36m) の側柱建物である。床面積は 5.36m² である。各 Pit の平面形は円形が多く、規模は、径 0.23～0.48m、深さは 0.15～0.26m を測る。柱間間隔は梁行側で 1.70m、桁行側

で1.44～2.20mである。Pit3・5・6・11では断面で柱痕が確認できた。また、Pit11で須恵器無台杯が出土した。

SB2 (図版8・32、写真図版37)

8H11・16・17・22・23、9H2・3・6・7に位置する遺構で、Pit82がSX83を、Pit89がSD100を切る。主軸方向はN-47°-Wである。北西側が調査区外へ続いており、現存部で梁行2間(3.40m)×桁行3間(5.08m)の側柱建物である。床面積は15.75m²である。各Pitの平面形は円形が多く、規模は、径0.28～0.85m、深さは0.18～0.53mを測る。柱間隔は梁行側で1.50～1.90m、桁行側で1.25～2.23mである。Pit82・84では断面で柱痕が確認できた。また、Pit44で信楽系蓋、瓦器(図版47)、須佐唐津、石製品、Pit82・84・89で肥前磁器、Pit86で肥前磁器、土製品が出土した。

SB3 (図版9・33、写真図版39)

9I3～5・8～10・13・14・19・20、9J6に位置する遺構で、Pit187・121がSD330を切る。主軸方向はN-47°-Wである。南東側が調査区外へ続いており、現存部で梁行3間(4.45m)×桁行3間(4.45m)の側柱建物である。北西側の梁行に庇が付く。床面積は19.80m²である。各Pitの平面形は楕円形が多く、規模は、径0.25～0.60m、深さは0.10～0.33mを測る。柱間隔は桁行側が2.30m前後とやや広く、梁行側は1.40m前後を推移する。Pit28・31・159では断面で柱痕が確認できた。また、Pit28で石製品、Pit30で土師器長甕、Pit31で土師器長甕、肥前磁器、Pit121で肥前磁器、Pit159で肥前磁器、石製品(図版53)、Pit186で土師器無台椀、須恵器無台杯(図版37)、礫、Pit365で肥前磁器が出土している。

8) 柱 列 (SA)

SA4 (図版8・33、写真図版41)

7G25、7H16・21、8G4・5に位置する。主軸方向はN-42°-Eである。Pit4・52・298・322の柱穴で構成され、規模は4.56mである。柱穴はほぼ直線上に並んでおり、中央のPit298・322の間が1.73mとやや広く、ほかは1.26m、1.40mとなっている。各Pitの規模は0.20～0.31mである。これらのPitから遺物は出土していない。

SA5 (図版8・33、写真図版41)

8H11・16に位置する。主軸方向はN-30°-Eである。Pit510・512・513・514の柱穴で構成され、規模は2.68mを測る。柱穴間隔は0.88～0.90mで、ほぼ等間隔で並ぶ。各Pitの規模は0.10～0.14mと、遺跡の中でも小型の部類である。これらのPitから遺物は出土していない。

第V章 遺 物

亀田道下遺跡の調査では古代から近世以降の遺物が出土した。遺物総量はコンテナ（内径 54.5×33.6×10.0cm）換算で 64 箱である。内訳は古代の土器 21 箱、近世以降の陶磁器 31 箱、土製品 1 箱、石製品 6 箱、金属製品 1 箱、木製品 4 箱である。この他、種実や風倒木・立木といった自然遺物が出土している。

本章ではまず、古代の土器、近世以降の土器・陶磁器の順に概要を記す。次に各遺構から出土した土器・陶磁器について古代、近世以降の順に詳細を記述する。続いて土製品・石製品・金属製品・木製品の順に概要と掲載遺物の詳細を述べる。各遺物の詳細な観察表は別表 2～7 に示した。

第 1 節 概 要

A 古 代 土 器

亀田道下遺跡で出土した古代の土器の総点数は 2,165 点、総重量は 16,108g である。土師器・須恵器が出土しており、各種別の割合は土師器が点数比で 75.1%（1,627 点）、重量比で 73.5%（11,845g）と主体を占める。遺構出土土器の点数は 766 点、重量が 6,394g で、包含層からは 1,127 点、7,874g が出土している。このほかに近世の遺構にも混入して出土している。包含層出土土器の重量分布図を図版 6 に示した。散発的な出土であるが、9H・9I グリッド周辺と 13J グリッド周辺で比較的多く分布している。

遺構出土土器のうち土師器の割合は点数比で 60.4%（463 点）、重量比で 75.3%（4,815g）を占める。主体となる時期は 9 世紀代である。

1) 土器の分類と記述（第 5 図）

成形・調整の表現・名称は山三賀遺跡〔坂井ほか 1989〕や駒首湯遺跡〔渡邊ほか 2009〕、細池寺道上遺跡Ⅶ〔立木・奈良ほか 2018〕の記載を参考に以下の通りとした。

「ロクロナデ」：ロクロ・回転台使用、「ナデ」：ロクロ・回転台未使用

「ケズリ」：ロクロ・回転台使用、「ヘラケズリ」：ロクロ・回転台未使用

「カキメ」：ロクロ・回転台使用、「ハケメ」：ロクロ・回転台未使用

「ミガキ」：ロクロ・回転台未使用

「タタキメ」：叩き工具を用いた外面の成形痕、「当て具痕」：叩き工具に対する内面の成形痕

底部切り離し技法の「ヘラ切り」「糸切り」は両者ともロクロ回転を利用したものである。

次に、須恵器の胎土について、これまでの研究成果〔坂井ほか 1989、春日ほか 2004〕などを参考に A～C 群に分類した。

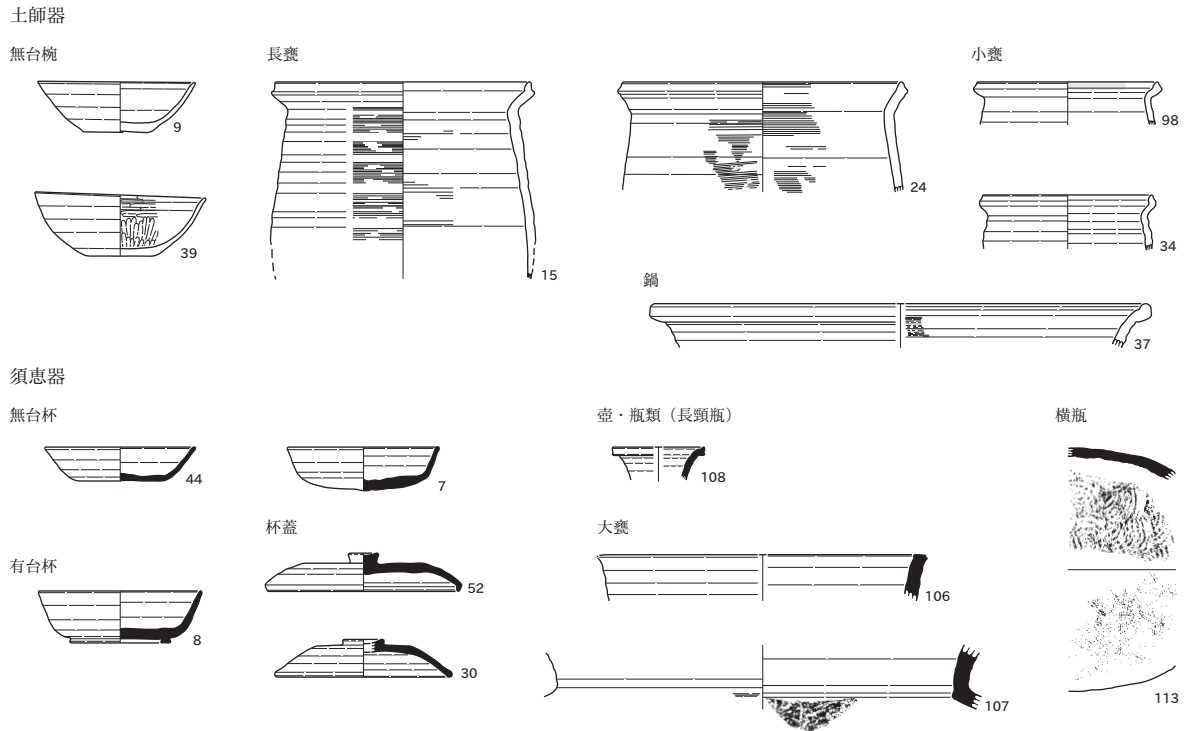
A 群：胎土そのものが相対的に粗く、石英・長石・金雲母を多く含む。器面はざらついたものが一般的で、小礫が露出する。阿賀北地方の窯跡の須恵器と推定される一群である。

B 群：胎土そのものが精良で、白色小粒子を多く含む。器面に黒色の斑点、吹き出しが見られる。佐渡の小泊窯跡群の須恵器と推定される一群である。

C 群：胎土そのものは比較的精良であり、石英・長石の小粒子を少量含む。器面は滑らかである。新津丘陵窯跡群の須恵器と推定される。

続いて、器種分類を行う。個体数が少ないため、同一器種での細分は行っていない。

土師器 食膳具と煮炊具が出土している。



第5図 古代土器分類図 (1/6)

無台椀 器面にミガキを施すものとロクロナデ後無調整のものが見られる。底部切り離しはすべて糸切りである。

長甕 ロクロ成形で、口縁端部は上方に摘まれるものが多い。体部下半は叩き成形である。一部、非ロクロ成形の長甕もみられる。

小甕 ロクロ成形で、平底を持つ。口縁端部は長甕と類似する。

鍋 ロクロ成形で、体部が大きく開く形態である。体部下半は叩き成形であるが、今回の調査では口縁部付近の破片のみが出土した。

須恵器 食膳具と貯蔵具が出土した。

無台杯 杯のうち高台を持たないもの。底部切り離しはすべてヘラ切りであった。

有台杯 杯のうち高台を持つもの。出土数は少ない。

杯蓋 有台杯に伴う蓋である。

壺・瓶類 壺や長頸瓶などと考えられるもので、破片資料のため器種を特定できないものを一括した。器種が特定されたものについては本文中に示した。

大甕 叩き成形による大型で丸底の甕と推定される。今回の調査では口縁部と体部の破片のみが出土した。

横瓶 俵形の体部に「く」の字状の短い口縁部が付く。今回の調査では体部破片のみが出土した。

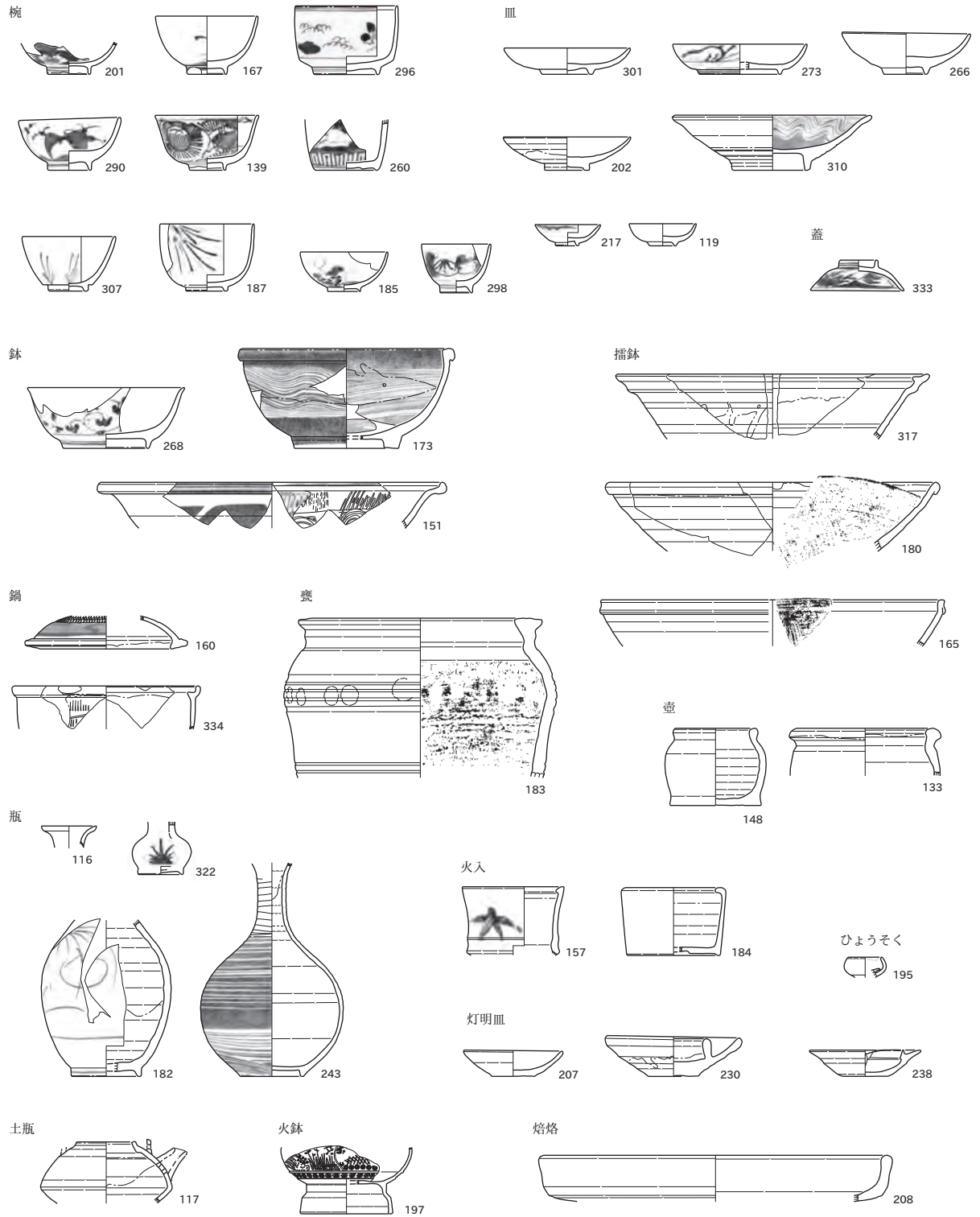
B 近世以降

亀田道下遺跡で出土した近世以降の土器・陶磁器の総点数は2,190点(全体の50.3%)、総重量は41,563g(全体の72.1%)である。磁器・陶器・土師質土器(瓦器)が出土しており、各種別の割合は点数比で磁器61.0%(1,336点)、陶器34.0%(744点)、土師質土器5.0%(110点)、重量比で磁器26.6%(11,066g)、陶器62.3%(25,868g)、土師質土器11.1%(4,629g)である。産地別では大半が肥前陶磁器である。割合としては、点数比で73.5%(1,610点)、重量比で50.9%(41,563g)を占める。これに関西系(京焼・信楽焼など)・須佐唐津・越中瀬戸・瀬戸美濃・東北系のほか、在地産の陶磁器や土師質土器が数%の割合に伴う。また、産地を特定できなかった陶磁器が点

数比で15%、重量比で30%程度を占めている。包含層出土土器・陶磁器の重量分布を図版6に示した。調査区の北西側で多く出土しており、遺構の検出状況と相関的な分布を示す。

遺構出土の土器・陶磁器は1,440点、19,692g、包含層・攪乱出土が750点、21,871gである。遺構出土の各種別の割合は、点数比で磁器67.9% (978点)、陶器28.3% (407点)、土師質土器3.8% (55点)、重量比で磁器33.7% (6,645g)、陶器55.7% (10,958g)、土師質土器10.6% (2,089g)である。

遺跡全体と遺構出土のいずれも点数比で磁器が60%以上を占め、主体となる。一方、重量比では陶器が主体で、



第6図 近世陶磁器分類図 (197のみ1/12、その他1/6)

割合が逆転する。ただ、陶器は大型の器種が多い傾向にあり、個体数を考えると主体となるのは磁器であると推定される。

主体となる年代は17世紀後半から18世紀前半で、17世紀前半や19世紀後半のものも出土している。近世遺物の主体を占める肥前陶磁器の器種分類や編年観は、大橋康二氏の研究〔大橋1989〕や『九州陶磁の編年』〔九州近世陶磁学会編2000〕を参考とした。

種別については、大きく磁器・陶器・土師質土器（瓦器）に分け、器種については第6図のようにした。器種の細分については全体では行わず、細分が可能な場合は本文中に示した。

第2節 出土土器・陶磁器各説

A 古 代

1) 古代遺構出土土器

SK193（図版35、写真図版42）

須恵器無台杯(1)、大甕(2)を図化した。1は口縁部から体部下半にかけての破片である。やや厚みのある器壁で、体部は口縁端部で緩く外反する。胎土はA群である。2は大甕の口縁部の破片資料である。口縁端部が内側に肥厚する。頸部外面に自然釉が見られる。

SK252（図版35、写真図版42）

須恵器大甕(3)を図化した。底部付近の体部破片と推定される。外面は平行タタキメ、内面には同心円当て具痕が見られる。

SK254（図版35、写真図版42）

土師器無台椀(4・5)、長甕(6)を図化した。4は厚手の土師器無台椀である。体部は直線的に立ち上がり、口縁端部でわずかに外反する。底部切り離しは右回転の糸切りである。胎土は緻密で焼成も良好である。須恵器無台杯の酸化炎焼成とも思われたが、形態から土師器無台椀とした。5は口縁部から体部下半の資料で、体部は丸みを持って立ち上がる形態である。長甕6は口縁部から体部にかけての破片である。口縁端部は上方に長く摘まれる形態で、外面にはカキメが施される。

SK457（図版35、写真図版42）

須恵器無台杯(7)、有台杯(8)を図化した。7は丸底気味の厚手の底部を持ち、体部の立ち上がりは急である。底部切り離しは左回転のヘラ切りで、胎土はC群であった。有台杯8は口縁部から底部にかけての資料である。底径が大きく、低い高台が付く。胎土はC群で、底部切り離しは右回転のヘラ切りであった。

SD108（図版35、写真図版42・43）

土師器無台椀(9～14)、長甕(15～18)を図化した。9は体部が直線的に立ち上がる形態で、内外面ともに磨耗が著しい。底部切り離しは糸切りである。10～12は口縁部から体部にかけての破片資料である。いずれも体部は丸みを持って立ち上がり、口縁端部で外反する。12は内面にミガキが施されているようであるが明確でない。13・14は土師器無台椀の底部破片である。13は体部が大きく開いて立ち上がる器形で、底部切り離しは左回転の糸切りである。14も体部が大きく開くが、13より直線的に立ち上がる。底部切り離しは右回転の糸切りであった。15～18は長甕である。いずれも口縁部から体部上半にかけての資料で、叩き成形となる底部付近は接合しなかった。15は口縁端部が上方に摘まれ、内外面ともにカキメが施される。16も口縁端部が上方に摘まれる。体部上半には内外面にカキメが施され、下半は外面に平行タタキメ、内面には平行当て具痕が見られる。SE367・SD358と接合関係にある。15・16は口縁部形態や胎土の様相が類似しており、同一個体の可能性も考えられるが、接合点がなかったため別個体として掲載した。17は外面にカキメが施され、ススが附着している。18の口縁端部は丸く収まる形態で、外面にはカキメが施される。

SD239 (図版 35、写真図版 43)

須恵器無台杯 (19・20)、土師器小甕 (21・22) を図化した。19 は口縁部破片で、口縁端部外面には自然釉が見られる。20 は底部資料である。内外面とも磨耗が著しい。底部切り離しは右回転のヘラ切りである。19・20 とも胎土は B 群である。小甕 21 は口縁部から体部までの破片である。口縁端部は上方に摘まれる。22 は小甕の底部破片で、底部切り離しは右回転の糸切りであった。

SD257 (図版 36、写真図版 42・43)

須恵器無台杯 (23)、土師器長甕 (24)、小甕 (25) を図化した。23 は底部から丸みを持って立ち上がる形態で、口縁端部外面には自然釉が見られる。底部切り離しはヘラ切りで、胎土は A 群である。24 は土師器長甕の口縁部から体部にかけての資料である。内外面ともにカキメが施される。25 は土師器小甕の底部資料で、底部切り離しは糸切りである。

SD330 (図版 36、写真図版 43)

土師器無台椀 (26～29)、須恵器杯蓋 (30)、土師器長甕 (31・32)、小甕 (33～36)、鍋 (37)、須恵器壺・瓶類 (38) を図化した。26 は口縁部の破片資料である。胎土は緻密で焼成も良好である。27 は体部が直線的に伸びる形態で、底部切り離しは右回転の糸切りであった。28・29 は土師器無台椀の底部破片である。28 は体部が直線的に立ち上がる器形で、29 の体部は丸みを持って立ち上がる。ともに底部切り離しは右回転の糸切りであった。須恵器杯蓋 30 はボタン状の摘みを持ち、口縁端部は丸く収まる。外面の体部から天井部への屈曲部にケズリを施し、角を消している。口縁端部外面には自然釉が確認された。一方、内面の磨滅が著しく、転用硯の可能性が考えられる。胎土は B 群で、SE367 と接合関係にある。31・32 は土師器長甕である。31 は口縁部から体部までの破片で、外面にはカキメが施される。32 は体部資料である。外面上半にカキメ、下半には平行タタキメが施され、体部下半にススの付着が見られる。内面下半には平行当て具痕が確認された。33～36 は土師器小甕である。33 は外面にススが付着し、口縁部の内面には炭化物の付着が見られる。34 は口縁端部で屈曲し、上方に伸びる形態で、SD358 と接合関係にある。35・36 は小甕の底部破片である。いずれも底部切り離しは糸切りである。37 は土師器鍋の口縁部資料で、内面にはカキメが施される。38 は須恵器壺・瓶類の底部資料である。高台を持ち、底部外面はヘラ切り後にナデで調整されている。

SD358 (図版 36、写真図版 42・43)

土師器無台椀 (39)、須恵器無台杯 (40)、土師器小甕 (41) を図化した。39 は薄手の土師器無台椀で、内外面ともにミガキが施されるが、外面は磨耗している。底部は糸切り後ケズリを施す。SK369 と接合関係にある。須恵器無台杯 40 は底部が厚く、体部が立ち上がる際に段が付く。底部切り離しはヘラ切りで、胎土は C 群である。41 は土師器小甕の口縁部破片で、受け口状の口縁部を持つ。

Pit183 (図版 36、写真図版 43)

須恵器無台杯 (42)、土師器小甕 (43) を図化した。42 は口縁部の破片資料で、胎土は A 群と推定される。43 は底部破片である。内面には底面までカキメが施されており、底部切り離しは糸切りであった。

2) 近世遺構出土土器

近世遺構からも古代の土器が出土した。これらは流れ込みによるものと判断されるが、参考資料として一部を掲載した。

SE105 (図版 36、写真図版 43)

須恵器無台杯 (44) を図化した。底部から口縁部にかけての資料で、器壁は薄い。口縁端部外面に自然釉が見られる。底部切り離しは右回転のヘラ切りで、胎土は B 群である。

SE119 (図版 36、写真図版 43)

須恵器無台杯 (45) を図化した。口縁部の破片資料で、体部は丸みを持って立ち上がる。胎土は B 群であった。

SE120 (図版 36、写真図版 43)

土師器無台椀(46)を図化した。底部資料で、体部は開いて立ち上がる。底部切り離しは右回転の糸切りであった。

SE329 (図版 36、写真図版 43)

土師器無台椀(47)を図化した。底部資料で、体部は直線的に立ち上がる。底部切り離しは糸切りであった。

SE367 (図版 36、写真図版 43)

土師器無台椀(48)を図化した。底部から体部にかけての破片資料である。体部は丸みを持って立ち上がる。底部切り離しは糸切りであった。

SK340 (図版 36、写真図版 43)

須恵器無台杯(49)を図化した。口縁部から体部下半までの破片である。体部の傾きから有台杯の可能性もある。胎土はA群と推定される。

SD9-B (図版 36、写真図版 43)

須恵器無台杯(50)を図化した。厚手の底部から体部が立ち上がる部分に段が見られる。底部切り離しはヘラ切りで、胎土はC群である。

SD25 (図版 36、写真図版 43)

土師器長甕(51)を図化した。口縁部の破片資料で、口縁端部は受け口状を呈する。

SD101 (図版 37、写真図版 43)

須恵器杯蓋(52)を図化した。ボタン状の摘みを持つ須恵器杯蓋で、外面全体に自然釉が付着する。胎土はB群である。

SD124 (図版 37、写真図版 43)

須恵器壺・瓶類(53)を図化した。底部の破片資料で、高台が付かない形態である。

SD128 (図版 37、写真図版 43)

須恵器大甕(54)を図化した。体部の破片資料である。外面は平行タタキメ、内面は同心円当て具痕が見られる。

SD197 (図版 37、写真図版 43)

須恵器有台杯(55)を図化した。底部の破片で、わずかに高台の痕跡が残る。焼成は不良で、灰白色を呈する。底部切り離しはヘラ切りで、胎土はC群と推定される。

SD251 (図版 37、写真図版 43)

土師器長甕(56)、小甕(57)を図化した。56は底部の破片である。非ロクロ成形の長甕で、外面に縦方向のヘラケズリ、内面には横方向のヘラケズリが見られる。底部は平底気味であった。57はロクロ成形の小甕の底部破片である。外面にはケズリが施されており、底部切り離しは糸切りである。

Pit186 (図版 37、写真図版 43)

須恵器無台杯(58)を図化した。口縁部の破片で、体部は外反して伸びる。胎土はB群で、口縁端部外面に自然釉が見られる。

3) 包含層出土土器 (図版 37・38、写真図版 44)

土師器無台椀(59～70)、須恵器無台杯(71～87)、杯蓋(88～90)、土師器長甕(91～96)、小甕(97～103)、鍋(104)、須恵器大甕(105～107)、壺・瓶類(108～110)、横瓶(111～113)を図化した。

59～70は土師器無台椀である。59・60は口縁部から体部にかけての破片である。丸みを持って立ち上がり、59は口縁端部でわずかに外反する。61は底部から体部下半までの破片資料で、内外面ともに磨耗している。底部切り離しは糸切りであった。62～70は底部資料である。底部切り離しはいずれも糸切りで、62～65は右回転の糸切りであった。また、63・65は底部外面にヘラ書き「×」が確認された。66は内外面ともに剥落しているが、底部糸切り後、なんらかの再調整を行った痕跡が確認できる。70は無台椀としたが、器壁が厚く底径も比較的大きいことから、鉢の可能性も考えられる。底部は糸切り後に再調整されたようである。

71～87は須恵器無台杯である。71・72は口縁部から底部にかけての資料で、底部切り離しはヘラ切りであった。いずれも口縁端部が外反する器形で、72は口縁端部外面に自然釉が見られる。胎土は71がA群である。73～81は口縁部から体部までの破片資料である。76～79・81は口縁端部外面に自然釉が見られた。73は焼成が不良である。80は外面全面に自然釉が見られ、傾きから有台杯の可能性もある。81は体部が大きく開いて立ち上がる形態である。胎土は76～81がB群、73～75がC群であった。82～87は底部資料である。底部切り離しはいずれもヘラ切りで、85が右回転であるのが確認できた。84は他の底部資料と比較して薄手の作りである。胎土は86・87がA群、84・85がB群、82・83がC群であった。88～90は須恵器杯蓋である。88は口縁端部が丸く収まる形態で、口縁端部外面に自然釉が見られる。胎土は88がB群、89・90がC群である。

91～96は土師器長甕である。91・92は口縁部から体部にかけての資料である。91は外面にはカキメが施されており、口縁端部は上方に長くつままれる。92は内外面ともにカキメが施される。93～96は口縁部の破片である。93・94はともに口縁端部が上方に短く屈曲しており、外面にはカキメが施される。この2点は同一個体の可能性も考えられる。95は内面にヘラケズリが施される。96は非ロクロ成形の長甕である。内外面はナデで調整されており、口縁端部は面を持つ。97～99は小甕の口縁部破片である。97は外面にススが付着しており、98は口縁部の内面に炭化物の付着が見られる。99は口縁部が長く伸びる形態で、内外面ともに磨耗が著しい。100～103は小甕の底部資料で、底部切り離しはいずれも糸切りである。100は体部外面の底部付近にケズリが施される。底部の糸切りは右回転で、ナデ等で再調整されている。101の底部は糸切り後ケズリを施す。また、底部外面にヘラ書き「一」が確認された。102は外面にヘラケズリ、内面は底面までハケメが施される。底部には糸切り後ヘラケズリを施す。103は内面の底面付近にハケメが施される。鍋104は口縁部資料である。口縁端部は上方に短くつままれる。

105～107は須恵器大甕である。105は体部の破片で、外面に平行タタキメとカキメ、内面に同心円当て具痕が見られる。106は口縁部の破片である。直立気味に伸びる口縁部で、端部は内外に肥厚する。頸部外面には自然釉が見られた。107は頸部から体部にかけての破片資料である。106同様、頸部が直立気味に立ち上がる器形で、外面はカキメ、内面には平行当て具痕が見られる。108～110は壺・瓶類である。108は口縁部の形態から長頸瓶とした。内外面ともに自然釉が見られる。109は高台を持つ底部破片で、底部切り離しはヘラ切りであった。110は体部の破片資料である。109と胎土・焼成が類似しており、同一個体の可能性もある。111～113は横瓶の体部破片である。111は外面に平行タタキメとカキメ、内面は同心円当て具痕が見られる。外面には自然釉が確認された。112は側部の資料である。外面は平行タタキメ、内面は同心円当て具痕が見られる。閉塞部には内外面から蓋をした痕跡が確認された。113は体部から肩部にかけての破片で、外面に平行タタキメとカキメ、内面は同心円当て具痕が見られる。外面には自然釉が確認された。

攪乱（図版38、写真図版44）

土師器無台椀（114）、須恵器大甕（115）を図化した。114は底部資料で、底部切り離しはヘラ切りである。体部が直線的に立ち上がる箱型の形状で、酸化炎焼成の須恵器無台杯の可能性もある。115は須恵器大甕の口縁部の破片資料で、口縁端部内面に段を持つ。内外面ともに自然釉が確認された。

B 近世以降

1) 遺構出土土器

SE2（図版39、写真図版45）

磁器瓶（116）、陶器土瓶（117）を図化した。116は肥前系磁器の瓶である。口縁部は外反し、端部外面に面を持つ。17世紀後半から18世紀前半に位置付けられる。117は産地不明の陶器の土瓶である。ソロバン玉形の体部で、弦用の耳が前後に1箇所ずつ付くと推定される。外面全体と内面の口縁部付近に鉄釉を施す。19世紀の所産である。

SE27 (図版 39、写真図版 45)

磁器碗 (118)、磁器皿 (119)、陶器播鉢 (120)、陶器壺 (121・122) を図化した。118 は肥前系磁器の染付碗である。内外面に網目文が描かれており、外面は二重になる。見込みには菊花文を描く。高台内には銘が記されているが判読はできなかった。18世紀前半の所産である。119 は肥前系磁器の小型の皿で、小坏に分類されるものであろう。内外面とも無文で、18世紀の所産である。120 は産地不明の播鉢で、内面に櫛描の卸目が密に施される。18世紀以降の所産である。121 は肥前系陶器の壺の体部資料である。体部上半に鉄釉が施され、外面下半は被熱の痕が見られる。17世紀後半から18世紀前半の所産である。122 は東北系陶器の壺である。口縁部は短く立ち上がり、端部が肥厚する。薄手の作りで、内外面に鉄釉が施される。SD25 出土陶器と接合関係にある。

SE102 (図版 39、写真図版 45)

磁器碗 (123・124)、陶器皿 (125～127)、陶器播鉢 (128)、陶器壺 (129) を図化した。123・124 は肥前系磁器の染付碗である。123 は外面に二重網目文が描かれる。18世紀前半の所産であるが、内面が無文であることから118より新相を示す。124 は見込みに花文が描かれており、外面にも文様が見られる。文様は細い筆致で、輪郭をシャープに描いている。18世紀末から19世紀中葉の所産である。125 は肥前系陶器の皿で、内野山地区で製作されたと考える。内面には銅緑釉が掛かり、見込みは蛇ノ目状に釉剥ぎされる。外面は上半に透明釉が掛かり、下半は無釉となる。SK340と接合関係にある。17世紀第4四半世紀から18世紀前半の所産である。126 は肥前系陶器皿の底部資料である。見込みは蛇ノ目状に釉剥ぎされており、外面は体部から高台にかけて無釉である。高台内は高台脇より深く削り込まれている。127 は信楽系陶器の皿である。内外面に透明釉が掛かるが、外面の腰部から高台にかけては無釉である。128 は肥前系陶器の播鉢である。タタキ成形で口縁部は外反し、端部は肥厚する。内外面全面に鉄釉が施釉され、内面の卸目は密に入る。18世紀の所産である。129 は越中瀬戸の壺である。頸部の括れは弱く、肩部の張りも弱い。灰落として使用されていたと思われる。

SE104 (図版 39、写真図版 45)

磁器碗 (130・131)、陶器播鉢 (132)、陶器壺 (133) を図化した。130・131 は肥前系磁器の染付碗である。130 は厚手の器壁で、外面に丸文と菱形文が描かれている。見込みにはコンニャク印判の五弁花文が用いられ、蛇ノ目状に釉剥ぎされる。内面に重ね焼痕があり、SE315 出土磁器と接合した。波佐見地区で製作されたもので、18世紀後半の所産である。131 は薄手の作りで、外面に染付を確認した。18世紀前半に位置付けられ、SE105 出土磁器と接合関係にある。132 は須佐唐津の播鉢で、内外面に鉄釉が施される。外面の体部下半は横位のケズリ調整を行う。卸目は1単位12条で、見込みには胎土目と思われる痕跡が確認された。底部は削り出してわずかに高台を作り出している。17世紀後半から18世紀前半の所産である。133 は肥前系陶器の壺である。内外面に鉄釉が施されるが、口縁端部は無釉であった。口縁は短く屈曲し、端部は肥厚する。

SE105 (図版 39、写真図版 45)

磁器碗 (134・135)、陶器皿 (136)、青磁火入 (137) を図化した。134・135 は肥前系磁器の染付碗である。134 は薄手の作りで、外面に唐草文が描かれている。18世紀前半の所産で、SE104 出土磁器と接合関係にある。135 は底部の破片資料で、外面には丸文と思われる文様の一部が確認できる。18世紀前半から中葉の所産である。136 は肥前系陶器の皿で、内面にのみ鉄釉が施される。口縁部が大きく外反する器形で、口縁端部内面には溝が巡る。137 は肥前系青磁の火入の口縁部破片で、波佐見地区で製作されたと考える。口縁を内側に折り返して端部を肥厚させている。内面は口縁部付近のみ青磁釉が掛かる。18世紀の所産である。

SE107 (図版 39、写真図版 45)

磁器碗 (138) を図化した。肥前系磁器の染付碗で、外面に文様の一部と圏線が巡る。波佐見地区で製作されたもので、高台内には崩れた「大明年製」の銘が記されている。

SE111 (図版 40、写真図版 45)

磁器椀 (139)、磁器皿 (140)、磁器鉢 (141)、陶器壺 (142) を図化した。139 は肥前系磁器の染付椀である。口縁部が緩く外反しており、端反椀に分類される。外面は花文、内面口縁部には崩れた鋸歯文が描かれる。また、見込みには「寿」字が記される。呉須の発色が鮮やかで、220・221 と様相が類似する。19 世紀後半の所産である。140 は肥前系磁器の染付皿で、手塩皿に分類されるものであろう。型打成形の輪花皿で、内面に山水文が描かれている。SK319 出土磁器と接合しており、年代は 1820 ~ 1860 年であろう。141 は肥前系磁器の染付鉢である。口縁部が直線的に伸びる筒形で、段重の可能性が高い。端部は釉剥ぎされており、外面は二重線で鋸歯状に区画された中に花文が描かれる。SK319 出土磁器と接合関係にある。18 世紀第 4 四半世紀から 19 世紀初頭に位置付けられる。142 は産地不明の陶器壺で、内外面に鉄釉が施される。

SE113 (図版 40、写真図版 45)

磁器椀 (143・144)、陶器皿 (145)、陶器合子 (146)、陶器播鉢 (147)、陶器壺 (148) を図化した。143・144 は肥前系磁器の染付椀である。143 は丸みを帯びた形態で、高台が小さい作りとなる。外面に網目文、内面口縁部に四方櫓が描かれており、見込みには手書きの五弁花文が見られる。144 は外面に竹文・雪持笹文・筍文が描かれる。内面の口縁部には 3 重の圏線が巡る。143・144 は 18 世紀後半の所産で、「茶飲み用」の椀であると考えられる。145 は肥前系陶器の刷毛目の皿である。稜花形の器形で、外面下半は無釉である。見込みには蛇ノ目状に釉剥ぎをした痕跡が確認された。18 世紀中葉の所産である。146 は産地不明の陶器合子の身部分である。147 は須佐唐津の播鉢である。内外面に鉄釉を施釉し、内面の卸目は 1 単位 9 条であった。17 世紀後半から 18 世紀前半の所産である。148 は丹波系陶器と推定される壺である。口縁は直立し、端部は若干肥厚する。全面に鉄釉が施され、底部切り離しは回転糸切りである。灰落としとして使用されていたと思われる。

SE118 (図版 40、写真図版 46)

磁器皿 (149・150)、陶器鉢 (151)、陶器播鉢 (152 ~ 155)、陶器灯明皿 (156)、磁器火入 (157) を図化した。149 は肥前系磁器の染付皿で、波佐見地区で製作されたものであろう。内面に二重斜格子文が描かれ、見込みは蛇ノ目状に釉剥ぎされる。18 世紀後半の所産である。150 は肥前系磁器の小型の皿である。内外面とも無文で、小坏に分類されるものであろう。18 世紀に位置付けられる。151 は肥前系陶器の鉢である。二彩手で、頸部が外側に屈曲し、口縁端部は上方に摘ままれる。内面は刷毛目で装飾される。17 世紀後半から 18 世紀前半の所産である。152・153 は肥前系陶器の播鉢である。152 は口縁部分の破片資料である。口縁部の上端に内傾する面が作られる。内側への引き出しは弱く、外側に長く突出する形態である。内外面ともに鉄釉が施釉されているが、体部は無釉であろう。17 世紀前半の所産である。153 は口縁端部を外側に折り返して玉縁状に肥厚させている。口縁部直下の体部に穴をあけ、外側から粘土板を張り付けて注口を作製している。内外面の口縁部分に鉄釉が施釉され、内面には卸目が見られる。152 より新しく、17 世紀後半に位置付けられる。154・155 は須佐唐津の播鉢である。154 は口縁部資料である。口縁端部を外側に折り返し、口縁下部に突帯を巡らせる。内外面に鉄釉を施釉しており、Pit337 出土陶器と接合関係にある。155 は底部の破片で、高台は削り出しで製作される。内外面に鉄釉が施釉されており、見込み部分の卸目の磨滅が著しい。154・155 とともに 17 世紀後半から 18 世紀前半の所産である。156 は肥前系陶器の灯明皿である。内外面に鉄釉が施されるが、底部は無釉である。見込みと底部に重ね焼痕が見られる。底部切り離しは右回転の糸切りであった。18 世紀の所産であろう。157 は肥前系磁器の染付の火入である。筒形の器形で、体部下半に沈線が巡る。口縁端部は内傾し、外面には写実的な笹文が描かれている。18 世紀前葉から中葉の所産であると考えられる。

SE120 (図版 40、写真図版 46)

磁器皿 (158・159)、陶器鍋蓋 (160)、陶器甕 (161) を図化した。158 は肥前系磁器の染付皿である。小型の皿で、手塩皿に分類されるものであろう。外面には帆掛船が描かれており、18 世紀の所産である。159 は瀬戸美濃系磁器の皿である。型打ち成形で、端反の口縁を持つ。見込みには「寿」字が描かれる。19 世紀後半の所産である。

160 は行平鍋の蓋である。関西系の陶器で、外面の一部に鉄釉を施釉し、天井部分には飛鉋が施される。内面には透明釉が掛かる。19世紀の所産である。161 は肥前系の陶器甕である。内外面に白化粧土が施され、透明釉が掛かる。17世紀後半から18世紀の所産である。

SE126 (図版41、写真図版46)

磁器皿(162・163)、陶器皿(164)、陶器播鉢(165・166)を図化した。162・163 は肥前系磁器の染付皿である。162の釉は生掛けで、高台付近に釉が厚く溜まっている。内面には草花文が描かれており、SD41出土磁器と接合関係にある。17世紀中葉の所産である。163は内面と見込みに文様が入っており、外面の体部と高台の境に段が生じている。1640～1660年の所産である。164は肥前系陶器皿の口縁部破片である。内野山地区の製作である。内面に銅緑釉、外面に透明釉が施釉されており、外面の体部下半は無釉となる。17世紀第4四半世紀から18世紀前半の所産である。165・166は須佐唐津の播鉢である。2点とも内外面に鉄釉を施釉し、内面には卸目が見られる。165は口縁を折り返し、外面の口縁下部に突帯を作る。口縁部は受け口状に直立し、口縁上端は面を持つ。166は削り出しで高台を成形している。165・166ともに17世紀後半から18世紀前半の所産である。

SE135 (図版41、写真図版46)

磁器椀(167～169)、磁器皿(170・171)、陶器鉢(172～174)、陶器播鉢(175)を図化した。167～169は肥前系磁器の染付椀である。167は外面に文様の一部が見られ、高台内には崩れた「大明年製」の銘が記されている。168は外面に草花文が描かれている。169は外面の文様は判別不明であるが、腰部と高台に圏線が巡る。これらの椀はいずれも18世紀前半の所産である。170・171は肥前系磁器の染付皿である。170は波佐見地区で製作された皿で、内面に折松葉文と思われる文様が見られる。見込みは蛇ノ目状に釉剥ぎしており、高台は無釉である。17世紀末から18世紀前半の所産である。171は内面に草花文が描かれ、見込みにも文様が見られる。外面下半と高台内には圏線が巡る。18世紀前葉から中葉の所産である。172～174は肥前系陶器の鉢である。172は体部から口縁部が直線的に立ち上がり、端部でわずかに肥厚する器形である。内外面ともに鉄釉を施釉し、口縁部外面は刷毛目で装飾後、銅緑釉を掛ける。17世紀後半の所産であろう。173は刷毛目の鉢である。体部が丸みを持って立ち上がり、口縁端部は外側に折り返して玉縁状に肥厚させている。器形は片口になると考える。口縁部の内外面と外面下半に鉄釉を施釉し、外面上半と内面に透明釉を掛ける。口縁端部と高台は無釉である。底部は削り出し高台で、17世紀第4四半世紀から18世紀第1四半世紀の所産であろう。174は鉢の底部資料である。内面に白化粧土が施されており、見込みには砂胎土目の重ね焼痕が見られる。底部は削り出し高台で、二彩手の可能性も考えられる。17世紀末から18世紀前半の所産である。175は須佐唐津の播鉢の底部資料である。内外面に鉄釉が施釉され、外面の体部と高台の境目には段が形成されている。底部は削り出し高台で、見込みには胎土目の目痕が残る。17世紀末から18世紀前半の所産である。

SE315 (図41・42、写真図版46・47)

磁器椀(176～178)、磁器皿(179)、陶器播鉢(180)、陶器壺蓋(181)、磁器瓶(182)、陶器甕(183)を図化した。176・177はともに肥前系磁器の染付椀で、外面に草花文が描かれるが、176は余白が多く、177は外面全面に描いている。178は薄手で無地の肥前系磁器椀で、色絵の下地の可能性もある。SK340出土磁器と接合関係にある。これらの椀はいずれも18世紀前半の所産である。179は肥前系磁器の染付皿である。やや粗製の皿で、内面に菊花文が描かれており、裏文様には唐草文が入る。18世紀第2～3四半世紀の所産である。180は肥前系陶器の播鉢である。口縁部を折り返して玉縁状に肥厚させ、口縁部のみに鉄釉を施釉する。17世紀後半の所産である。181は肥前系陶器の蓋である。外面に鉄釉が施され、内面は無釉である。また、内面に左方向の回転糸切りが確認された。壺に伴うもので、17世紀の所産である。182は肥前系磁器の染付の瓶である。外面には笹文や草文と思われる文様が描かれており、17世紀後半に位置付けられる。183は肥前系陶器の甕である。口縁端部が内外面に突出し、外面の肩部と体部に数条の沈線が巡る。鉄釉を施釉しており、口縁上面

は釉剥ぎされる。叩き成形で、格子目文のタタキが見られる。肩部の沈線部分には内外面に指頭圧痕が見られる。17世紀後半から18世紀前半の所産である。

SE329 (図版 42、写真図版 47)

青磁火入(184)を図化した。肥前系青磁で、波佐見地区で製作された良品である。筒形で、体部からそのまま直線的に高台に続く。口縁端部は内側へ直線的に屈曲しており、内面は口縁部付近のみに青磁釉が掛かる。底部は蛇ノ目凹形高台で、高台内を釉剥ぎした後に鉄錆を塗っている。17世紀後半から18世紀第1四半世紀に位置付けられる。

SE367 (図版 42、写真図版 47)

磁器碗(185・186)、陶器碗(187・188)、陶器皿(189)、磁器瓶(190・191)、陶器播鉢(192)を図化した。185は京焼の碗で、大きさから小坏に分類される。外面の草花文は細い筆致で描かれており、薄手半球碗の良品である。18世紀前半の所産である。186は肥前系磁器の染付碗である。内外面に網目文が描かれており、外面は二重網目文となっている。見込みには菊花文が描かれる。高台内には方形枠のある銘が記されているが、文字は判別できなかった。18世紀前半の所産である。187・188は信楽系陶器で、いずれも色絵の碗である。187は外面に草花文が描かれ、高台は無釉である。18世紀前半の所産である。188は外面に笹文が描かれており、18世紀の所産である。189は産地不明の陶器皿で、内面と高台は無釉であった。190は肥前系磁器の染付瓶である。外面の頸部と体部下半に圈線が巡り、胴部には太い筆致の文様が見られる。17世紀後半の所産である。191は肥前系の瓶で陶胎染付である。体部には貫入が入り、高台の外面には圈線が巡る。192は肥前系陶器の播鉢の口縁部資料である。口縁部が上方に屈曲し、口縁帯を作り出している。口縁部の上端は水平で、中央はくぼむ。口縁端部は内側に突出しており、鉄釉は内外面の口縁部分にのみ施される。17世紀前半の所産である。

SK19 (図版 42、写真図版 47)

陶器皿(193)、陶器鉢(194)、磁器ひょうそく(195)、瓦器火鉢(196・197)を図化した。193は産地不明の陶器皿である。透明釉が掛かり、高台は無釉である。高台内には墨書「二八」が確認された。19世紀以降の所産である。194は肥前系陶器の鉢で、鉄釉が施釉される。内面は刷毛目で装飾され、見込みを蛇ノ目状に釉剥ぎする。重ね焼き痕も見られる。外面は腰部から下が無釉で、底部は削り出し高台である。高台には白化粧土が塗られていた。145と同様の口縁が付くと推定される。18世紀第2～3四半世紀の所産である。195は肥前系磁器の灯火具で、灯心立てが付随するひょうそくである。内外面に鉄釉が施釉されているが、脚部は無釉である。196・197は瓦器の火鉢である。196は体部資料で、体部上方に沈線を入れ、文様帯を区画している。外面には鋸歯状の文様が入る。この文様は木製の円柱状の工具に文様を刻印し、回転させて施文していると考えられる。また、粘土板を張り付けてヘラで文様を描いたり、獅子頭が付いていた痕跡が確認された。197は底部から体部にかけての資料である。薄手の器壁で、長く伸びる高台を持つ。金属器(青銅か)模倣と考えられる。体部の文様は型押し成形であろう。文様ごとに区画され、菊や垣根、星と思われる文様などもみられる。腰部には梅花が巡る。

SK103 (図版 43、写真図版 47・48)

磁器碗(198～201)、陶器皿(202・203)、陶器鉢(204)、磁器火入(205)、青磁蓋(206)、陶器灯明皿(207)、瓦器焙烙(208)を図化した。198～201は肥前系磁器の染付碗である。198の外面には丸文の中に菊花文が描かれ、一部は菊花重ねとなっている。その余白に青海波文を充填している。高台内には二重方形枠内に「渦福」の銘が記されている。199は198同様、丸文内に花文を描き、これを配置して花散文としている。余白には氷裂文を充填している。200は若松文が描かれる。201は薄手の作りで、素地に貫入が入る。外面の草花文は細い筆致で描かれる。高台内には「大口年製」の銘が記される。198～201はいずれも17世紀後半から18世紀前半の所産である。202・203は肥前系陶器の皿である。いずれも内面に銅緑釉、外面に透明釉を施釉し、見込みを蛇ノ目状に釉剥ぎしている。体部下半から高台にかけては無釉である。内野山地区で製作されたと考え

られ、17世紀第4四半世紀から18世紀前半に位置付けられる。204は肥前系陶器の鉢である。口縁部が外側に大きく折れ曲がり、口縁端部は肥厚する。内外面に鉄釉が施される。205は肥前系磁器の染付の火入である。筒状の器形で、口縁部を内側に折り曲げて玉縁状に肥厚させている。外面には草花文と思われる文様が描かれる。18世紀以降の所産である。206は肥前系青磁の蓋で、波佐見地区で製作されたと考える。内面の口縁端部は釉剥ぎされている。207は肥前系陶器の灯明皿である。鉄釉が施されるが、外面の下半は無釉である。内面には重ね焼痕が見られる。底部切り離しは回転系切りであった。208は瓦器の焙烙で、口縁部が体部から垂直に伸びている。外面の一部にススが付着していた。

SK145 (図版 43、写真図版 48)

陶器皿(209)、陶器壺(210)、陶器播鉢(211)を図化した。209は肥前系陶器の皿である。底部の破片資料で、内面には鉄釉が施されるが、見込みと外面は無釉である。210は肥前系陶器の壺である。口縁部が外側に大きく開く器形で、内外面に鉄釉が施される。211は産地不明の陶器播鉢である。口縁部が外側にわずかに肥厚し、口縁上端に面を持つ。内外面に鉄釉を施している。

SK163 (図版 43、写真図版 48)

産地不明陶器の急須(212)を図化した。注口部分のみの破片であるが、取手を作り付けている形態のものとして推定される。内外面に鉄釉が施され、注口の内部にまで及ぶが、口縁部内面と口縁端部は無釉であった。

SK167 (図版 43、写真図版 48)

肥前系磁器の染付碗(213)を図化した。外面の染付は草花文で、花部分はコンニャク印判、草部分は手書きで描かれている。18世紀の所産である。

SK181 (図版 43、写真図版 48)

磁器碗(214)、陶器鉢(215)を図化した。214は産地不明磁器の小型の碗で、小坏に分類されるものであろう。型押し成形で、底部は方形を呈す。19世紀以降の所産と推定される。215は産地不明陶器の鉢である。体部は丸みを持って立ち上がり、口縁部は外側に折り返して玉縁状に肥厚させている。内外面に鉄釉が施されている。

SK317 (図版 43、写真図版 48)

磁器碗(216)、磁器皿(217)、陶器播鉢(218・219)を図化した。216は瀬戸美濃系磁器の色絵の碗である。外面に草花文と思われる文様が色絵で描かれており、見込みにも色絵で文様が描かれる。19世紀後半の所産である。217は肥前系磁器の染付皿である。小型の皿で、手塩皿に分類される。口縁端部外面に笹文が描かれる。218は産地不明の陶器播鉢である。口縁部は外側に肥厚し、口縁端部は丸く収まる。内外面に鉄釉が施される。219は須佐唐津の播鉢底部である。内外面に鉄釉を施し、体部と高台の境には段が形成される。底部は削り出し高台で、17世紀後半から18世紀前半の所産である。

SK319 (図版 43・44、写真図版 48)

磁器碗(220・221)、磁器皿(222)、瓦器焙烙(223)を図化した。220・221は肥前系磁器の染付碗で、端反碗である。220は外面が縦方向の平行線で区画されており、半菊文や宝文等が見られる。腰部には圏線も巡っており、圏線と高台の間に井桁文が入る。内面口縁部には鋸歯文が描かれ、見込みにも文様が入るが判読はできなかった。221は外面に簡略化した花文が連続して巡り、余白を縦縞で充填している。内面口縁部には渦文が描かれ、見込みにも文様が見られるが判読はできなかった。220・221とも呉須の発色が鮮やかであるため、19世紀以降の所産と考える。222は肥前系磁器の染付皿である。内面は草花文が描かれており、裏文様には唐草文が見られる。高台内にも圏線が描かれている。223は瓦器の焙烙である。外面にススの付着が見られる。

SK340 (図版 44、写真図版 48)

磁器碗(224・225)、陶器播鉢(226～228)、陶器壺(229)、陶器灯明皿(230)を図化した。224・225は肥前系磁器の染付碗である。224は外面に草花文を描く。高台内には4文字の銘が記されており、崩れた「大明年製」と推定される。18世紀の所産である。225は外面の菊花文と楓文にコンニャク印判が用いられている。18世

紀前半の所産である。226～228は肥前系陶器の播鉢である。このうち226・227は体部破片である。内外面無釉で、底部切り離しは回転系切りである。226の卸目は1単位15条であった。いずれも17世紀代の所産である。228は口縁部資料で、口縁部を外側に折り返して玉縁状に肥厚させている。口縁のみに鉄釉を施釉し、内面は口縁と卸目の間に段を形成する。17世紀後半の所産である。229は肥前系陶器壺の底部資料である。体部上半に掛かる鉄釉が一部滴り落ちている。底部切り離しは回転系切りであった。230は肥前系陶器の灯明皿で、受皿が付く器形である。見込みと口縁部付近に鉄釉を施釉する。底部切り離しは回転系切りであった。

SK375 (図版 44、写真図版 48)

肥前系陶器の椀(231)を図化した。底部資料で、体部外面に鉄釉を施釉する。

SX83 (図版 44、写真図版 48)

肥前系青磁の皿(232)を図化した。波佐見地区で製作されたと考える。脚部が付随することから、獣面の三足を伴う皿の破片と推定される。内面は片切り彫りで草花文が描かれている。

SD9-A (図版 44、写真図版 48・49)

磁器皿(233・234)、陶器皿(235)、陶器播鉢(236)、陶器鉢(237)、陶器灯明皿(238)を図化した。233は肥前系磁器の染付皿で、波佐見地区で製作されたと考える。内面に二重斜格子文を描き、見込みは蛇ノ目状に釉剥ぎしている。18世紀の所産である。234は肥前系磁器の染付皿である。内面には草花文が描かれている。17世紀後半の所産であると推定される。235は肥前系陶器の皿である。内面に銅緑釉、外面には透明釉を施釉し、見込みを蛇ノ目状に釉剥ぎしている。腰部に段を持ち、高台は無釉であった。18世紀の所産である。236は肥前系陶器の播鉢である。口縁部は外側に折り返し、口縁下部に突帯を作る。内外面全面に鉄釉を施している。18世紀以降の所産である。237は産地不明の陶器鉢である。内面と体部外面に釉が掛かる。底部は削り出し高台で、高台は無釉であった。238は産地不明の陶器灯明皿で、受け皿が付く器形である。スス等の付着が無く、未使用と考えられる。

SD9-B (図版 44・45、写真図版 49)

磁器椀(239)、陶器鉢(240・241)、陶器土瓶(242)、陶器瓶(243)、陶器灯明皿(244)を図化した。239は肥前系磁器の椀である。釉は生掛けで、高台は無釉である。17世紀中葉の所産である。240は産地不明の陶器鉢である。口縁端部を外側に折り返して玉縁状に肥厚させている。口縁に片口が付く形態である。241は関西系の陶器鉢で、内面と体部外面に施釉される。高台は無釉であった。242は産地不明の陶器土瓶である。口縁端部が短く屈曲し、外面に鉄釉が施される。口縁端部上面は釉剥ぎされている。243は肥前系陶器の瓶である。長頸で胴部が球形を呈し、底部は削り底となる。頸部と体部で釉を掛け分けており、体部は刷毛目で装飾される。18世紀前半の所産である。244は産地不明陶器の灯明皿で、受部が付く器形である。透明釉を施釉する。

SD16 (図版 45、写真図版 49)

肥前系陶器の鉢(245)を図化した。口縁が外側に折れ、端部は肥厚する。外面の口縁付近に鉄釉を施釉し、内面には刷毛目が見られる。18世紀の所産である。

SD25 (図版 45、写真図版 49)

磁器椀(246)、陶器椀(247)、陶器皿(248)、陶器壺(249)、陶器播鉢(250)、陶器灯明皿(251)、瓦器焙烙(252)を図化した。246は肥前系磁器の染付椀である。外面の菊花文と葉文はコンニャク印判が用いられている。18世紀の所産である。247は信楽系陶器の椀である。口縁端部は外反し、腰部に段が付く。底部は無釉である。248は産地不明の陶器皿である。高台は無釉で、内面に鉄釉が施される。249は産地不明の陶器壺で、口縁部は直立して伸びる。外面と口縁部内面に鉄釉が施される。250は肥前系陶器の播鉢である。口縁下に窪みを作り出し、口縁端部を外反させている。鉄釉は内外面全面に施釉される。卸目は1単位12条であった。18世紀の所産である。251は東北系陶器の灯明皿で、産地は会津地方と推定される。鉄釉が施釉されているが、見込みの一部と底部は無釉となる。底部切り離しは回転系切りであった。18世紀後半以降の所産である。252は瓦

器の焙烙である。体部は薄く、丸みを帯びて伸び、口縁部は肥厚して直立する。外面にススの付着が見られる。

SD101 (図版 45、写真図版 49)

磁器椀 (253)、磁器皿 (254)、陶器鉢 (255)、磁器瓶 (256)、陶器壺 (257)、青磁火入・香炉 (258)、陶器蓋 (259) を図化した。253 は肥前系磁器の染付椀で、外面に草花文が描かれている。18 世紀前半の所産である。254 は肥前系磁器の染付皿である。焼成は不良で、内面と見込みには型紙摺りで草花文を描く。口縁端部が外側に折れ、端部上面に列点文が描かれている。1630～1640 年の所産であろう。255 は肥前系陶器の鉢である。内面は刷毛目で装飾し、見込みには重ね焼痕が残る。外面は無釉で、底部は削り出し高台である。17 世紀第 2～3 四半世紀の所産である。256 は肥前系磁器の瓶の口縁部破片である。口縁端部は上方に摘まれ、端部外面に面が形成される。17 世紀後半の所産である。257 は肥前系陶器の壺の底部資料である。体部には鉄釉が施されており、底部内面には格子目タタキが見られる。17 世紀後半から 18 世紀に位置付けられる。258 は肥前系青磁の火入または香炉である。波佐見地区で製作されたと考える。筒形の器形で、体部に沈線が数条巡る。内面と高台付近は無釉である。足付であれば香炉となるが、残存部にその痕跡は確認できなかった。1630～1660 年の所産である。259 は産地不明の陶器蓋で、外面に鉄釉が施される。

SD110 (図版 45、写真図版 49)

磁器椀 (260)、陶器皿 (261) を図化した。260 は肥前系磁器の染付椀である。器形から猪口に分類されよう。外面は胴部に山水文が描かれ、底部付近に記号化された連弁文が巡る。見込みには手書きの五弁花文を描く。底部は蛇ノ目凹高台で、高台内には色絵で「田」の銘が記されている。この銘は後入れと考えられる。鉛ガラスの痕跡が見られることから、「焼き継ぎ」を行った可能性が高く、その際に入れられたものであろうか。261 は肥前系陶器の皿である。口縁端部が外反し、内面は刷毛目で装飾される。

SD125 (図版 45・46、写真図版 49・50)

磁器椀 (262・263)、陶器椀 (264)、磁器皿 (265・266)、陶器皿 (267)、磁器鉢 (268)、陶器播鉢 (269・270) を図化した。262・263 は肥前系磁器の染付椀である。262 は外面に草花文が描かれる。高台内には崩れた「大明年製」の銘が記されている。18 世紀後半の所産である。263 は内外面に網目文が描かれており、外面は二重になる。見込みにはコンニャク印判を用いた菊花文が描かれる。18 世紀前半の所産である。264 は信楽系陶器の椀である。内外面に透明釉を施釉するが、高台は無釉である。265・266 は肥前系磁器の皿で、波佐見地区で製作されたと考える。いずれも内面に二重斜格子文が描かれ、見込みは蛇ノ目状に釉剥ぎしている。ただ、265 は文様が崩れており、折松葉文にも類似する。いずれも 18 世紀後半の所産である。267 は肥前系陶器の皿である。見込みに山水文が描かれ、高台は無釉である。京焼の写しと思われる。18 世紀前半に位置付けられる。268 は肥前系磁器の染付鉢である。口縁端部は外反する。内面の文様は区画されており、区画内には竹文、区画間には唐草文が描かれている。見込みには桃と思われる文様が見られる。裏文様は唐草文であった。底部は一部欠損しているが、高台内の銘は「大明年製」と推定される。18 世紀前半の所産である。269 は肥前系陶器の播鉢である。口縁端部は大きく外反し、内外面全面に鉄釉が施される。18 世紀以降の所産である。270 は須佐唐津の播鉢である。口縁を外側に折り返し、突帯を形成している。内外面に鉄釉を施釉し、外面の体部下半にはケズリが施される。内面の卸目は 1 単位 20 条であった。底部は削り出し高台で、高台内に工具痕が見られる。17 世紀後半から 18 世紀前半の所産である。

SD128 (図版 46・47、写真図版 50)

磁器椀 (271・272)、磁器皿 (273)、陶器皿 (274)、陶器播鉢 (275～278)、陶器甕 (279)、陶器瓶 (280)、磁器水滴 (281) を図化した。271・272 は肥前系磁器の染付椀である。271 は外面に型紙摺りによる団鶴文と思われる文様が描かれている。272 は薄手半球椀で、外面には若松文と思われる文様がわずかに見られる。18 世紀前半の所産である。273 は肥前系磁器の染付皿で、口縁端部に鉄釉が施されている。内面は扇文と花唐草文が交互に入る。見込みにはコンニャク印判を使用した五弁花文と思われる文様が確認できる。裏文様には唐

草文が見られ、高台内には「□□□製」の銘が記されている。18世紀前半の所産である。274は肥前系陶器の皿で、内外面に白化粧土の刷毛目が施される。18世紀前半の所産である。275は須佐唐津の播鉢である。口縁を外側に折り返し、突帯を作る。内外面に鉄釉を施釉し、卸目は口縁付近から書かれている。17世紀後半から18世紀前半の所産である。276・277は肥前系陶器の播鉢である。口縁端部は外側に折り返して玉縁状に肥厚させている。口縁帯にのみ鉄釉を施釉し、他は無釉である。276の内面は磨滅が著しい。どちらも17世紀後半の所産である。278は備前播鉢の口縁部破片である。厚く幅広い口縁帯を持ち、口縁外面には沈線が入る。口縁帯外面に鉄釉が施釉される。279は肥前系陶器甕の底部資料である。内面に当て具痕が見られる。280は肥前系陶器の瓶である。肩から体部にかけての破片資料で、外面に白化粧土の刷毛目を施し、一部に釉が掛かる。18世紀の所産である。281は肥前系磁器の水滴である。板作りで、外面には透明釉を施釉するが、体部下半から底部は無釉であった。

SD197 (図版 47、写真図版 50)

陶器蓋 (282) を図化した。産地不明の陶器蓋で、行平鍋に伴うと考える。

SD311 (図版 47、写真図版 50)

肥前系青磁の鉢 (283) を図化した。口縁端部でわずかに外反する器形で、波佐見地区で製作されたと考える。

SD438 (図版 47、写真図版 50)

肥前系青磁の火入 (284) を図化した。波佐見地区で製作されたと考える。口縁を内側に直角に屈曲させ、折り返している。口縁端部上面には面が形成され、外面と内面の口縁部付近に青磁釉が施釉されている。

Pit44 (図版 47、写真図版 50)

陶器蓋 (285)、瓦器焙烙 (286) を図化した。285は信楽系陶器の蓋である。内側は透明釉が施され、外側は無釉となる。土瓶等に付随するものと考え。286は瓦器の焙烙である。外面にはススの付着が見られる。

Pit293 (図版 47、写真図版 50)

陶器の香炉 (287) を図化した。産地は不明で、筒形の器形である。腰部に釉が剥がれている箇所があり、三足等が付属していた可能性がある。

Pit294 (図版 47、写真図版 50)

肥前系陶器の灯明皿 (288) を図化した。内面に鉄釉を施釉しており、底部切り離しは回転系切りである。

Pit320 (図版 47、写真図版 50)

肥前系陶器の皿 (289) を図化した。口縁が大きく外反し、口縁端部上面に溝が巡る器形から、溝縁皿と考えられる。内面に鉄釉を施釉する。

2) 包含層出土土器 (図版 47～49、写真図版 51・52)

磁器碗 (290～300)、磁器皿 (301～306)、陶器碗 (307～309)、陶器皿 (310)、陶器鉢 (311～314)、陶器播鉢 (315～320)、磁器瓶 (321～325)、陶器壺 (326～328)、陶器鍋 (329・330)、陶器ひょうそく (331) を図化した。

290～296は肥前系磁器の染付碗である。290～292は厚手のくらわんか手で、いずれも外面に雪輪草花文が描かれている。292の高台内には記号のような銘が記されている。3点とも18世紀代の所産である。293は外面に鉄絵で若松文が描かれる。294は外面に扇文と草文、内面口縁部に斜格子文が描かれている。見込みには崩れた渦福と思われる文様が記される。攪乱で出土した碗蓋333とセットになると考える。1820～1860年の所産である。295は高台が小さく、腰部が張り出す器形である。外面に草花文、見込みには虫文が描かれている。18世紀後半の所産である。296は蓋物の染付碗である。筒形碗で、口縁端部内面は釉剥ぎされている。外面には草花文が描かれる。17世紀末から18世紀初頭の所産である。297～300は大きさから肥前系磁器の小坏に分類した。297・298はいずれも染付で、297は笹文、298は貝文と松文と花文が描かれる。299は釉が厚く掛かっており、高台の一部は無釉となっている。300は高台全体が無釉である。

301～306は肥前系磁器の染付皿である。301は体部内面と見込みに草花文が描かれる。1630～1640年の所産である。302は見込みを蛇ノ目状に釉剥ぎしており、高台は無釉である。17世紀後半の所産である。303も見込みを蛇ノ目釉剥ぎしている。内面には唐草文が描かれ、見込みにはコンニャク印判の五弁花文と思われる文様が見られる。外面の体部と底部の境には段を形成している。304は底部資料で、見込みには草花文が描かれる。1640～1650年の所産である。305は瀬戸美濃系磁器の皿である。内面に唐草文、見込みに花文を描く。306は肥前系磁器の小型の皿で、外面に雨降り文を描いている。底部付近まで残存しているが、高台の痕跡が見られないことから、仏飯器の可能性も考えられる。18世紀前半の所産である。

307・308は信楽系陶器の椀である。307は外面に鉄絵で若松文と思われる文様を描く。内外面に透明釉を施釉するが、高台は無釉である。18世紀後半～19世紀の所産である。308も内外面に施釉されているが、高台は無釉である。309は産地不明の陶器椀である。貼り付け輪高台で、高台部分は無釉である。310は肥前系陶器の皿である。内外面に鉄釉を施釉し、内面は刷毛目で装飾される。外面の腰部から高台にかけては無釉である。見込みは蛇ノ目状に釉を剥いているが、中央部分は釉の上から白化粧土を重ね、蛇ノ目釉剥ぎのように見せているようである。底部は削り出し高台で、18世紀中葉から後葉の所産である。

311～313は肥前系陶器の鉢である。311は鉢の底部資料である。底部切り離しは糸切りで高台がなく、内面に鉄釉を施釉する。312は外面に鉄釉（錆釉か）を施釉した後、白化粧土を施す。体部の立ち上がりが急で、内面のロクロナデがナデ消されていないため、瓶・壺類の可能性もある。17世紀後半から18世紀初頭に位置付けられる。313は口縁部を外側に折り返して玉縁状に肥厚させている。口縁部の直下を台形状に切り取り、外側から粘土板を張り付けて片口を製作している。内面と口縁付近に透明釉を施釉し、体部下半のケズリを施した部分に鉄釉を施釉する。また、内外面の一部に白化粧土の文様も見られる。18世紀後半の所産であろう。314は関西系陶器の鉢で、口縁を外側に折り返して玉縁状に肥厚させている。313同様、口縁部の下に切り込みを入れ、その部分の体部を外側に折り曲げて片口を製作している。内外面には透明釉が施釉されている。19世紀の所産である。

315は産地不明の陶器播鉢の底部資料である。底部は貼り付け輪高台で、内外面に鉄釉（錆釉か）が施される。卸目は1単位11条で、放射状に密に施されている。316～318は肥前系陶器の播鉢である。316は底部資料で、内外面とも無釉であった。内面には1単位13条の卸目を施しており、底部切り離しは糸切りである。17世紀中葉の所産である。317は口縁の両端を内外に突出させ、口縁断面がT字状を呈する。口縁端部上面は内傾する。鉄釉は口縁部の内外面に施釉される。17世紀中葉の所産である。318は内外面全面に鉄釉が施釉される。口縁端部は外反し、外面の口縁下に段ができる。内面は1単位12条の卸目を施す。18世紀の所産である。319・320は須佐唐津の播鉢である。319は口縁を外側に折り返し、口縁部下半に突帯を作る。320は底部資料で、底部は削り出し高台である。いずれも内外面に鉄釉を施釉し、内面に卸目を施す。ともに17世紀後半から18世紀前半の所産である。

321・322・324は肥前系磁器の染付瓶である。321は器形から耳付の仏花器に分類されると考える。体部外面に山水文、腰部と高台に連弁文を描く。内面も全体に透明釉が施釉されている。1820～1860年の所産である。322は小型の瓶で、これも仏花器と思われる。外面の草花文の一面は菖蒲に類似する。18世紀後半～末の所産である。324は口縁部資料である。頸部は長く伸び、上方に向かってわずかに狭まる。口縁端部はそのまま収まる形態である。花生または仏花器で、外面に蛸唐草文が描かれている。19世紀の所産であろう。323は底部資料で、関西系磁器と推定される。胴部は筒形で、頸部や口縁形態は不明であるが、「爛徳利」と類推される。底部は高台がなく、無釉であった。19世紀第2四半世紀から後半の所産である。325は地元産と思われる磁器の瓶で、肥前磁器を模倣した「笹絵徳利」である。明治以降の所産であると考えられる。

326は丹波系陶器の壺である。筒形の器形で頸部の括れが弱く、口縁部は胴部からそのまま伸び、わずかに外反する。内外面は錆釉が施釉されているため、赤褐色で光沢がなくザラついている。胎土には小礫が多く含ま

れている。327は越中瀬戸の壺である。胴部中位に最大径を持ち、口縁部は短く直立する。口縁部付近は歪みが著しい。内外面に鉄釉が施釉され、底部を回転糸切りで切り離す。326・327はいずれも灰落ととして使用されていたと考える。328は東北系の陶器と推定される。外面にはカキメ状のロク口痕がある壺で、底部は糸切り後ケズリで調整している。内外面に鉄釉が施釉されており、底部外面にも鉄釉が掛かる。灰落ととして使用されていたと考える。329・330は関西系陶器の行平鍋で、いずれも外面には飛鉋が見られる。329は口縁部破片で、330は体部資料である。330は外面の飛鉋部分に鉄釉が掛かり、内面には透明釉が施釉される。331は陶器のひょうそくで、越中瀬戸と推定される。内面の芯立て部分は欠損している。内面と受部外面に鉄釉を施し、脚部は無釉である。底部切り離しは回転糸切りであった。

攪乱 (図版 49、写真図版 52)

磁器碗 (332)、磁器碗蓋 (333)、陶器行平鍋 (334) を図化した。332は肥前系磁器で、大きさから小坏に分類される。18世紀の所産で、色絵の下地の可能性がある。333は肥前系磁器の染付の碗蓋である。外面に扇文と草文が交互に描かれ、内面の口縁部には斜格子文を描く。見込みは崩れた渦福と思われる文様が見られる。包含層出土の磁器碗 294 とセットの可能性があり、1820～1860年の所産である。334は関西系陶器の行平鍋である。外面には飛鉋が見られ、一部に鉄釉が施釉される。

排土 (図版 49、写真図版 52)

陶器鉢 (335)、陶器播鉢 (336)、陶器灯明皿 (337) を図化した。335は肥前系陶器の鉢である。口縁が外側に折れ、口縁端部は上方に肥厚する。二彩手で、内面には刷毛目が見られるが、一部にくすんだ釉が掛かる。17世紀後半から18世紀前半の所産である。336は肥前系陶器の播鉢である。外面の口縁下に段を作り、口縁端部は大きく外反する。内外面全面に鉄釉が施釉される。18世紀の所産である。337は越中瀬戸の灯明皿である。内面に受けを作り、底部切り離しは回転糸切りである。内面と外面上半に鉄釉が施釉される。

C 土製品 (図版 49・50、写真図版 53)

土製品は泥面子、面子、土人形がある。すべて近世以降の所産である。

泥面子 (338～373)

36点出土した。このうち15点がSK317から出土し、14点が遺構外から出土した。モチーフは不明なものも多いが、植物や器物、記号などが見られる。

面子 (374～377)

肥前系磁器の破片を円形に打ち欠いて面子にしたものである。4点出土した。374は「福」の銘が中心になるよう加工している。375・376は染付の文様が見られるが、377は無地の部分で作られている。また、376は他の面子や泥面子より一回り大きく製作されている。

土人形 (378～380)

378・379は土製の人形である。378は馬、379は大黒天である。378の馬は鞍や鎧なども細かく表現されている。379の大黒天は半身が欠損しており、裏面も摩耗して文様が欠落している。380は磁器製で、色絵が施されている。人形と思われるが、形状は不明である。いずれも型押し成形で作られている。

D 石製品

石製品は251点出土した。古代の遺構からは台石が4点出土しており、すべて掲載している。近世以降の遺構からは247点が出土した。内訳は砥石39点、硯2点、台石1点、箱状石製品1点、礎石2点、軽石製石製品202点で、軽石製石製品が全体の80%を占める。軽石製石製品は井戸からの出土が多く、12基から127点が出土した。複数出土する例が多く、10点以上出土した井戸はSE102 (15点)・SE104 (18点)・SE113 (14点)・SE118 (10点)・SE135 (26点)・SE329 (16点)・SE367 (10点) である。軽石製石製品の多くは平坦面

や平滑面を有しており、代表的なものを図化した。これら石製品のほかに礫・焼礫が378点出土している。

1) 古代遺構出土石製品

SK242 (図版 50、写真図版 53)

台石(381)を図化した。砂岩で、形状は直方体である。上面は平坦に加工され、側部と下面は欠損している。

SD330 (図版 50、写真図版 53)

台石(382・383)を図化した。いずれも凝灰岩である。382は楕円形であったと推定され、下半は欠損している。正面の中央部分は凹みが見られる。383は破片資料であるが、382と同一個体の可能性がある。

SD358 (図版 51、写真図版 53)

台石(384)を図化した。石材は花崗岩である。大型の台石の一部で、形状は楕円形と推定される。

2) 近世遺構出土石製品

SE27 (図版 51、写真図版 53)

砥石(385)、軽石製石製品(386)を図化した。385は凝灰岩である。板状の砥石で、下半は欠損している。側面や上面も平坦に加工されている一方、正面や裏面は「欠け」や「割れ」が著しい。386は円盤型の軽石製石製品で、平坦面の上下に抉るような使用痕が見られる。

SE102 (図版 51、写真図版 53)

砥石(387)を図化した。石材は凝灰岩で、側面が欠損しており、形状は不明である。

SE104 (図版 51、写真図版 53)

砥石(388)を図化した。石材は凝灰岩である。四角錘状の形状で、全面が砥面となる。

SE107 (図版 51、写真図版 53)

台石(389)を図化した。石材は安山岩である。半分が欠けているが、円盤状の台石である。

SE113 (図版 51・52、写真図版 53・54)

砥石(390・391)、箱状石製品(392)、軽石製石製品(393)を図化した。390は粘板岩である。板状で、側面も平坦に加工されている。394と形状や加工の具合が類似しているため、硯の可能性も考えられる。391は凝灰岩の砥石である。形状は直方体で、砥面は4面ある。このうち一面が使用により抉れた形状になっている。また、細く溝状に擦痕が残る面も見られた。392は緑色凝灰岩製の石製品である。端部は箱状に加工されており、流し台のような形状になると推定される。393は円形の軽石製石製品で、平坦面が2面ある。正面は全面が平坦面で、裏面は半分が擦り面となる。

SE118 (図版 52、写真図版 54)

硯(394)、砥石(395)、軽石製石製品(396)を図化した。394は粘板岩製の硯の破片資料で、おそらく「海」部分に当たると推定される。側面も丁寧に平坦に加工されている。裏面は欠損しており、もう少し厚くなる可能性もある。395は凝灰岩の砥石である。形状は直方体で、正面の砥面には細かい打痕が残る。これ以外の面は欠損しているが、欠けた後の面にも使用痕が見られる。軽石製石製品396は2面の平坦面がほぼ直角に形成されている。

SE126 (図版 52、写真図版 54)

砥石(397)を図化した。石材は凝灰岩である。形状は直方体で、裏面や下半は欠損している。側面には加工痕が見られる。

SE329 (図版 52、写真図版 54)

砥石(398)、軽石製石製品(399・400)を図化した。398は凝灰岩の砥石である。形状は直方体で、下半は欠損している。砥面は5面ある。399は楕円形の軽石製石製品である。表裏両面が使用により抉れた形状になっており、一方の側面も使用により平坦面が形成されている。400も軽石製石製品で、表裏両面と側面に平坦面が形成されている。

SE367 (図版 52、写真図版 54)

礎石 (401) を図化した。石材は緑色凝灰岩である。392 と類似する形状であるが、401 は片面が平坦で、もう一面は小溝状の加工が全体に入っている。

SK103 (図版 52、写真図版 54)

砥石 (402) を図化した。石材は粘板岩である。板状で、側面も平坦に整えられている。中央部分は使用により磨り減って、抉れたような形状になっている。

SK145 (図版 53、写真図版 54)

砥石 (403) を図化した。粘板岩製の小型の砥石で、形状は直方体である。下半は欠損していた。

SK319 (図版 53、写真図版 54)

砥石 (404) を図化した。凝灰岩製の直方体の砥石で、下半は欠損している。使用により、2 面が抉れたような形状になっている。

SK340 (図版 53、写真図版 54)

砥石 (405 ~ 407) を図化した。いずれも凝灰岩で、一部が欠損しているが、形状は直方体と推定される。405・407 はやや大型の砥石で、407 は一面に打痕が見られる。406 は上面に線状痕がある。また、裏面は中央に割れ面があり、その両端が砥面となっている。

SK395 (図版 53、写真図版 54)

砥石 (408) を図化した。石材は凝灰岩である。円盤状で端部も平端に整形されている。

SD101 (図版 53、写真図版 54)

硯 (409) を図化した。石材は粘板岩である。破片資料で、「陸」から「波止」にかけての部分である。墨痕らしきものも確認された。「縁」は一部欠損しているが、欠けた痕が削られて平滑面となっている部分がある。破損後、砥石として転用された可能性も考えられる。

Pit159 (図版 53、写真図版 54)

砥石 (410) を図化した。石材は凝灰岩である。欠損しているが、直方体であったと推定される。割れた面にもわずかに砥面が認められた。

E 金属製品

金属製品は 146 点出土した。いずれも近世以降の遺構から出土しており、近・現代の製品が含まれている可能性がある。このうち銭貨 3 点、鉄製品 6 点を図化した。

図化したものについては、同じ遺構出土遺物の様相から、近世の所産と考える。

1) 銭貨 (図版 53、写真図版 54)

3 点が出土し、すべて図化した (411 ~ 413)。いずれも SK340 から出土した「寛永通寶」である。411・412 と比較すると 413 の文字がやや小さい

2) 鉄製品

SE135 (図版 53、写真図版 54)

鎌 (414) を図化した。刃部分の平面形は半月状で、刃先と柄側の先端が欠損している。背側は緩やかな弧状を示し、刃部側は直線的に伸びる形態である。

SE329 (図版 53、写真図版 54)

鎌 (415)、包丁 (416) を図化した。415 は刃の部分がほぼ完全に残存しており、柄を固定する際に使用する口金も付属して出土した。柄に差し込まれる茎側の先端は鉤状に曲がっている。416 は木製の柄がほぼ完全に残る包丁である。刃の部分は切っ先側が半分以上欠損しており、刃元部分のみ残存する。

SK317 (図版 54、写真図版 55)

鎌(417)を図化した。414・415と比較して刃が長く伸びる形状である。平面形は背側、刃部側とも緩やかな弧状を示す。

SK319 (図版 54、写真図版 55)

包丁(418)を図化した。表面が厚い酸化土砂に覆われているが、透過X線像によればほぼ完形の刀身が残存していることがわかる。416と比較してやや小型の形状であるため、刀子の可能性も考えられる。

SK370 (図版 54、写真図版 55)

鎌(419)を図化した。418同様、厚い酸化土砂に覆われている。透過X線像によれば、ほぼ完形で刃先のみ欠損している。また、口金部分も残存していることが判明した。背側は弧状となるが、刃先に向かって直線的に伸びる。刃部側は直線的な形状となっている。

F 木製品

木製品は184点出土した。近世以降の遺構からのみ出土しており、古代のものは確認できなかった。板状や棒状の部材が中心であるが、装身具である「櫛」も出土している。このうち10点を図化した。

SE2 (図版 54、写真図版 55)

下駄(420)を図化した。差歯下駄で、台部は板状ではなく前後にのめりを持つ三角柱状で、ほぞ穴は前後2か所に見られる。後歯と思われる差歯が1枚残存しており(420b)、左側面の図では差歯を差し込んだ状態を図化した(420a)。鼻緒穴は3か所すべて残存する。木取りは台部が二方柾目で、差歯(420b)が板目である。

SE27 (図版 54、写真図版 55)

櫛(421)を図化した。背が直線的に伸びる形態で、両端と櫛歯の大部分が欠損している。表面には赤色漆が塗布されており、銅板の飾りが裏表に付属している。銅板の飾りにも装飾が施されているが、詳細は不明である。

SE113 (図版 54、写真図版 55)

板状木製品(422)、円板状木製品(423・424)を図化した。422は表面にケビキのような工具痕が無数に入っており、数か所に穿孔していることから、曲物の一部である可能性も考えられる。423は半円の板状木製品である。直線側の側面には木釘の穴が4か所開いており、そのうち1か所で木釘本体が残存している。木釘で連結し、円板状木製品になると推定される。表面にも小さな穿孔が数か所確認された。424は円板状木製品で一部が欠損している。表面には径8mm前後の穴が規則正しく並んで穿孔されている。木取りは422と423が柾目、424が板目であった。

SK317 (図版 54、写真図版 55)

櫛(425・426)、板状木製品(427)を図化した。425は櫛歯の大部分が欠損しているが、本体部分はほぼ完全な形で出土した。背は弓形で肩部はほぼ直角に屈曲する形態である。全面に黒色漆が塗布されている。426は櫛の破片資料で、全面に赤色漆が塗布されている。肩は丸みを帯びて屈曲し、背の残存部は直線的な形態である。板状木製品427には両面と側面に黒色漆が塗布されている。木取りは426が板目、427が柾目である。

攪乱 (図版 54、写真図版 55)

漆器椀(428)を図化した。内面は赤色漆で、外面は黒色漆に赤色漆絵が描かれる。文様は草花文で、金彩も使われているようである。高台内も黒色漆が塗布されており、赤色漆で記号のような銘が描かれているが、判読はできなかった。木取りは柾目である。

陶器皿・播鉢・壺、信楽系椀、須佐唐津播鉢、産地不明の陶器鉢・瓶・甕、瓦器、石製品（砥石・軽石）、木製品（棒状・板状・杭状）、礫が出土した（図版39・51）。

SE105（図版8・17・18、写真図版14）

8H15・20、8I6・11・12・16に位置する。SE102に切られ、SE126、SK340、SD9-Aを切る。平面形は楕円形、断面形は弧状である。埋土は5層に分層され、水平に堆積する。規模は長軸2.99m、短軸2.65mを測り、深度は0.68mである。遺物は土師器長甕・小甕、須恵器無台杯、大甕、肥前磁器椀・皿・瓶・火入、肥前陶器皿・鉢・壺、信楽系椀、産地不明の陶器播鉢、瓦器、土製品（磁器面子）、石製品（軽石）、木製品（漆椀・板状）、礫が出土した（図版36・39・50）。

SE107（図版8・19、写真図版14）

9H20・25、9I16・21に位置する遺構で、SD100・110を切る。平面形は長方形、断面形はU字状である。埋土は3層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は長軸1.19m、短軸0.80mを測り、深度は0.71mである。遺物は土師器長甕・小甕、肥前磁器椀・皿、肥前陶器瓶、信楽系椀、須佐唐津播鉢、産地不明の陶器壺、石製品（台石・軽石）、木製品（板状）、礫が出土した（図版39・51）。

SE111（図版8・19、写真図版15）

9I21・22に位置する遺構で、SD100・368・396を切る。平面形は円形、断面形は箱状である。埋土は4層に分層され1・2層は水平に、3・4層はブロック状に堆積する。規模は長軸1.81m、短軸1.60mを測り、深度は0.72mである。遺物は土師器長甕、肥前磁器椀・皿・鉢、産地不明の磁器壺、肥前陶器瓶、産地不明の陶器瓶・甕・土瓶、瓦器が出土した（図版40）。

SE113（図版8・19、写真図版15）

10H4・5・9・10に位置する遺構で、SD358を切る。平面形は円形、断面形は台形状である。埋土は5層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は長軸2.99m、短軸2.95mを測り、深度は1.44mである。遺物は土師器長甕・鍋、肥前磁器椀・皿、肥前陶器皿・鉢、須佐唐津播鉢、関西系壺、産地不明の陶器皿・鉢・合子（身）、石製品（砥石・礎石・軽石）、木製品（漆椀・円板・棒状・板状・杭状・柱状・角材）、礫が出土した（図版40・51・52・54）。

SE118（図版8・19、写真図版15）

10I6・7・11・12に位置する遺構で、SE119を切る。平面形は楕円形、断面形は台形状である。埋土は6層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は長軸2.93m、短軸2.26mを測り、深度は1.18mである。遺物は土師器長甕・小甕、須恵器無台杯、肥前磁器椀・皿・瓶・火入、肥前陶器椀・皿・鉢・播鉢・瓶・灯火具、須佐唐津播鉢、土製品（土人形）、石製品（硯・砥石・軽石）、金属製品、木製品（板状）、礫が出土した（図版40・50・52）。

SE119（図版8・21、写真図版15）

10H15・20、10I11・16に位置する。西側は調査区外に伸びており、SE118・120に切られる。平面形は円形、断面形は箱状と推定される。埋土は5層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は現存部で長軸2.87m、短軸2.07mを測り、深度は1.26mである。遺物は土師器長甕、須恵器無台杯、肥前磁器椀が出土した（図版36）。

SE120（図版8・21、写真図版15）

10H15・20、10I11・16に位置する。西側は調査区外に伸びており、SE119を切る。平面形は長方形、断面形は台形状と思われる。埋土は3層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は現存部で長軸1.91m、短軸1.65mを測り、深度は1.22mである。遺物は土師器無台椀・長甕・小甕、肥前磁器椀・皿・瓶・蓋、瀬戸美濃焼皿、肥前陶器鉢・瓶・甕、関西系蓋、瓦器、石製品（軽石）、金属製品、木製品（棒状・板状・杭状）、礫が出土した（図版36・40）。

SE126（図版8・17・27、写真図版16）

8H4・5・9・10・15、8I6・11に位置する。SE105、SD9-Aに切られ、SK340、SD25を切る。平面形は

SN226 (図版 10・30、写真図版 35)

13J9 に位置する。平面形は楕円形、断面形は箱状である。主軸方向は N-26° -E で、埋土は単層である。規模は長軸 0.98m、短軸 0.25m を測り、深度は 0.12m である。遺物は出土していない。SN220・221・223・226 の各畝間間隔は 0.5m から 1.4m 程である。

SN222 (図版 10・30、写真図版 35)

12J25 に位置する。平面形は楕円形、断面形は半円状である。主軸方向は N-28° -E で、埋土は単層である。規模は長軸 0.81m、短軸 0.28m を測り、深度は 0.11m である。遺物は出土していない。

SN225 (図版 10・30、写真図版 35)

13J8・9 に位置する。平面形は楕円形、断面形は弧状である。主軸方向は N-27° -E で、埋土は単層である。規模は長軸 0.60m、短軸 0.22m を測り、深度は 0.04m である。遺物は出土していない。

SN227 (図版 10・30、写真図版 35)

13J9・14 に位置する。平面形は楕円形、断面形は台形状である。主軸方向は N-31° -E で、埋土は単層である。規模は長軸 0.92m、短軸 0.23m を測り、深度は 0.10mm である。遺物は出土していない。

SN229 (図版 10・30、写真図版 35)

13J15 に位置する。平面形は楕円形、断面形は台形状である。主軸方向は N-30° -E で、埋土は単層である。規模は長軸 0.44m、短軸 0.19m を測り、深度は 0.10m である。遺物は出土していない。SN225・227・229 の各畝間間隔は 1.4m 程である。

SN228 (図版 10・31、写真図版 35)

13J10・14・15 に位置する。平面形は楕円形、断面形は半円状である。主軸方向は N-28° -E で、埋土は単層である。規模は長軸 0.72m、短軸 0.24m を測り、深度は 0.10m である。遺物は出土していない。

SN230 (図版 10・31、写真図版 35)

13J15 に位置する。平面形は楕円形、断面形は台形状である。主軸方向は N-29° -E で、埋土は単層である。規模は長軸 0.69m、短軸 0.21m を測り、深度は 0.10m である。遺物は出土していない。

SN233 (図版 10・31、写真図版 35)

13K11・16 に位置する。平面形は楕円形、断面形は半円状である。主軸方向は N-26° -E で、埋土は単層である。規模は長軸 0.90m、短軸 0.24m を測り、深度は 0.10m である。遺物は出土していない。

SN235 (図版 10・31、写真図版 35)

13K16・17 に位置する。平面形は楕円形、断面形は台形状である。主軸方向は N-29° -E である。埋土は 2 層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は長軸 0.60m、短軸 0.27m を測り、深度は 0.12m である。遺物は出土していない。SN228・230・233・235 の各畝間間隔は 1.4m から 1.5m 程である。

SN234 (図版 10・31、写真図版 35)

13K16 に位置する。平面形は楕円形、断面形は箱状である。主軸方向は N-26° -E である。埋土は 2 層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は長軸 0.49m、短軸 0.18m を測り、深度は 0.11m である。遺物は出土していない。

SN236 (図版 10・31、写真図版 35)

13K17・22 に位置する。平面形は楕円形、断面形は半円状である。主軸方向は N-10° -E で、埋土は単層である。規模は長軸 0.40m、短軸 0.19m を測り、深度は 0.09m である。遺物は出土していない。SN234 と SN236 の畝間間隔は 1.5m 程である。

SN237 (図版 10・31、写真図版 35)

13K17・22 に位置する。平面形は楕円形、断面形は半円状である。主軸方向は N-32° -E である。埋土は 2 層に分層され、レンズ状に堆積する。規模は長軸 0.70m、短軸 0.27m を測り、深度は 0.11m である。遺物は出土していない。

SE27 (図版 39、写真図版 45)

磁器碗 (118)、磁器皿 (119)、陶器播鉢 (120)、陶器壺 (121・122) を図化した。118 は肥前系磁器の染付碗である。内外面に網目文が描かれており、外面は二重になる。見込みには菊花文を描く。高台内には銘が記されているが判読はできなかった。18世紀前半の所産である。119 は肥前系磁器の小型の皿で、小坏に分類されるものであろう。内外面とも無文で、18世紀の所産である。120 は産地不明の播鉢で、内面に櫛描の卸目が密に施される。18世紀以降の所産である。121 は肥前系陶器の壺の体部資料である。体部上半に鉄釉が施され、外面下半は被熱の痕が見られる。17世紀後半から18世紀前半の所産である。122 は東北系陶器の壺である。口縁部は短く立ち上がり、端部が肥厚する。薄手の作りで、内外面に鉄釉が施される。SD25 出土陶器と接合関係にある。

SE102 (図版 39、写真図版 45)

磁器碗 (123・124)、陶器皿 (125～127)、陶器播鉢 (128)、陶器壺 (129) を図化した。123・124 は肥前系磁器の染付碗である。123 は外面に二重網目文が描かれる。18世紀前半の所産であるが、内面が無文であることから118より新相を示す。124 は見込みに花文が描かれており、外面にも文様が見られる。文様は細い筆致で、輪郭をシャープに描いている。18世紀末から19世紀中葉の所産である。125 は肥前系陶器の皿で、内野山地区で製作されたと考える。内面には銅緑釉が掛かり、見込みは蛇ノ目状に釉剥ぎされる。外面は上半に透明釉が掛かり、下半は無釉となる。SK340と接合関係にある。17世紀第4四半世紀から18世紀前半の所産である。126 は肥前系陶器皿の底部資料である。見込みは蛇ノ目状に釉剥ぎされており、外面は体部から高台にかけて無釉である。高台内は高台脇より深く削り込まれている。127 は信楽系陶器の皿である。内外面に透明釉が掛かるが、外面の腰部から高台にかけては無釉である。128 は肥前系陶器の播鉢である。叩き成形で口縁部は外反し、端部は肥厚する。内外面全面に鉄釉が施釉され、内面の卸目は密に入る。18世紀の所産である。129 は越中瀬戸の壺である。頸部の括れは弱く、肩部の張りも弱い。灰落としに使用されていたと思われる。

SE104 (図版 39、写真図版 45)

磁器碗 (130・131)、陶器播鉢 (132)、陶器壺 (133) を図化した。130・131 は肥前系磁器の染付碗である。130 は厚手の器壁で、外面に丸文と菱形文が描かれている。見込みにはコンニャク印判の五弁花文が用いられ、蛇ノ目状に釉剥ぎされる。内面に重ね焼痕があり、SE315 出土磁器と接合した。波佐見地区で製作されたもので、18世紀後半の所産である。131 は薄手の作りで、外面に染付を確認した。18世紀前半に位置付けられ、SE105 出土磁器と接合関係にある。132 は須佐唐津の播鉢で、内外面に鉄釉が施される。外面の体部下半は横位のケズリ調整を行う。卸目は1単位12条で、見込みには胎土目と思われる痕跡が確認された。底部は削り出してわずかに高台を作り出している。17世紀後半から18世紀前半の所産である。133 は肥前系陶器の壺である。内外面に鉄釉が施されるが、口縁端部は無釉であった。口縁は短く屈曲し、端部は肥厚する。

SE105 (図版 39、写真図版 45)

磁器碗 (134・135)、陶器皿 (136)、青磁火入 (137) を図化した。134・135 は肥前系磁器の染付碗である。134 は薄手の作りで、外面に唐草文が描かれている。18世紀前半の所産で、SE104 出土磁器と接合関係にある。135 は底部の破片資料で、外面には丸文と思われる文様の一部が確認できる。18世紀前半から中葉の所産である。136 は肥前系陶器の皿で、内面にのみ鉄釉が施される。口縁部が大きく外反する器形で、口縁端部内面には溝が巡る。137 は肥前系青磁の火入の口縁部破片で、波佐見地区で製作されたと考える。口縁を内側に折り返して端部を肥厚させている。内面は口縁部付近のみ青磁釉が掛かる。18世紀の所産である。

SE107 (図版 39、写真図版 45)

磁器碗 (138) を図化した。肥前系磁器の染付碗で、外面に文様の一部と圏線が巡る。波佐見地区で製作されたもので、高台内には崩れた「大明年製」の銘が記されている。

SE367 (図版 52、写真図版 54)

礎石 (401) を図化した。石材は緑色凝灰岩である。392 と類似する形状であるが、401 は片面が平坦で、もう一面は小溝状の加工が全体に入っている。

SK103 (図版 52、写真図版 54)

砥石 (402) を図化した。石材は粘板岩である。板状で、側面も平坦に整えられている。中央部分は使用により磨り減って、抉れたような形状になっている。

SK145 (図版 53、写真図版 54)

砥石 (403) を図化した。粘板岩製の小型の砥石で、形状は直方体である。下半は欠損していた。

SK319 (図版 53、写真図版 54)

砥石 (404) を図化した。凝灰岩製の直方体の砥石で、下半は欠損している。使用により、2 面が抉れたような形状になっている。

SK340 (図版 53、写真図版 54)

砥石 (405 ~ 407) を図化した。いずれも凝灰岩で、一部が欠損しているが、形状は直方体と推定される。405・407 はやや大型の砥石で、407 は一面に打痕が見られる。406 は上面に線状痕がある。また、裏面は中央に割れ面があり、その両端が砥面となっている。

SK395 (図版 53、写真図版 54)

砥石 (408) を図化した。石材は凝灰岩である。円盤状で端部も平端に整形されている。

SD101 (図版 53、写真図版 54)

硯 (409) を図化した。石材は粘板岩である。破片資料で、「陸」から「波止」にかけての部分である。墨痕らしきものも確認された。「縁」は一部欠損しているが、欠けた痕が削られて平滑面となっている部分がある。破損後、砥石として転用された可能性も考えられる。

Pit159 (図版 53、写真図版 54)

砥石 (410) を図化した。石材は凝灰岩である。欠損しているが、直方体であったと推定される。割れた面にもわずかに砥面が認められた。

E 金属製品

金属製品は 146 点出土した。いずれも近世以降の遺構から出土しており、近・現代の製品が含まれている可能性がある。このうち銭貨 3 点、鉄製品 6 点を図化した。

図化したものについては、同じ遺構出土遺物の様相から、近世の所産と考える。

1) 銭貨 (図版 53、写真図版 54)

3 点が出土し、すべて図化した (411 ~ 413)。いずれも SK340 から出土した「寛永通寶」である。411・412 と比較すると 413 の文字がやや小さい。

2) 鉄製品

SE135 (図版 53、写真図版 54)

鎌 (414) を図化した。刃部分の平面形は半月状で、刃先と柄側の先端が欠損している。背側は緩やかな弧状を示し、刃部側は直線的に伸びる形態である。

SE329 (図版 53、写真図版 54)

鎌 (415)、包丁 (416) を図化した。415 は刃の部分がほぼ完全に残存しており、柄を固定する際に使用する口金も付属して出土した。柄に差し込まれる茎側の先端は鉤状に曲がっている。416 は木製の柄がほぼ完全に残る包丁である。刃の部分は切っ先側が半分以上欠損しており、刃元部分のみ残存する。

第VI章 自然科学分析

第1節 微化石分析地点の土層層序

(株) 火山灰考古学研究所

亀田道下遺跡における微化石分析（プラント・オパール分析および花粉分析）に先立ち、現地で土層観察を行った上で、高純度の分析試料の採取作業を実施した。採取した地点を第7図に示した。各地点における土層の層序は次のとおりである。また、その他の分析試料の採取地点についても第7図に示した。

A 土 層

1) ①地点 (SD257)

14J-3 グリッドにおけるSD257の埋土は、下位より黄色がかった灰色土（層厚13cm, 2層）と、黄灰色土ブロック混じり灰色土（層厚19cm, 1層）からなる（第8図）。この遺構の年代は古代と推定されている。

2) ②地点 (SN221)

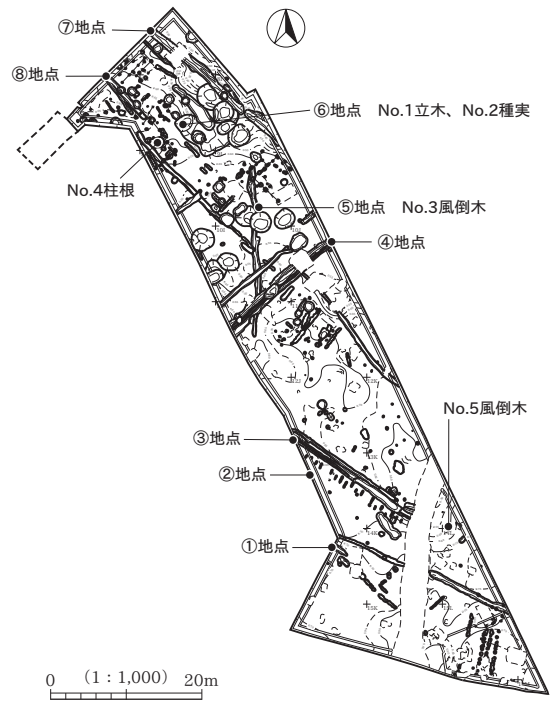
畠遺構のサク部にあたる可能性があるSN221の埋土は、黄灰色土ブロック層（層厚17cm）で、基本層序は下位より灰褐色土（層厚16cm）、やや暗い灰褐色土（層厚16cm）からなる（第8図）。

3) ③地点 (SD196)

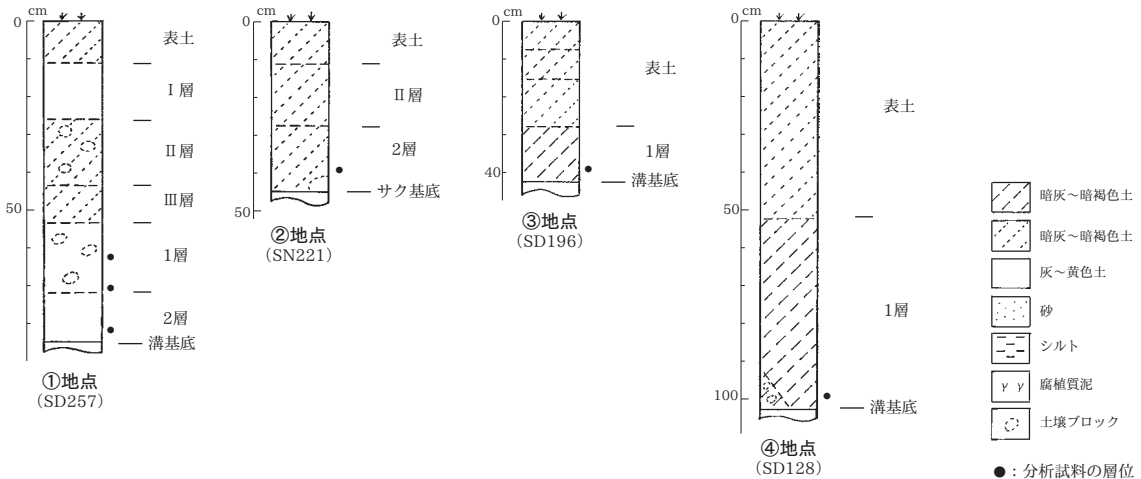
SD196の埋土は、やや暗い灰褐色土（層厚14cm）で、基本層序は下位より灰褐色土（層厚13cm）、やや暗い灰褐色土（層厚8cm）からなる（第8図）。

4) ④地点 (SD128)

SD128の埋土は、下位より白色土ブロック混じり暗灰



第7図 自然科学分析サンプル採取位置図



第8図 ①~④地点土層柱状図

色粘質土（層厚 8cm）、暗灰色粘質土（層厚 49cm）からなる（第8図）。

5) ⑤地点（SD330・SD330 横）

SD330 の埋土と SD330 横の風倒木が検出された層位で採取した。風倒木の下位には、炭化物混じりでやや暗い灰褐色粘質土が認められる。

6) ⑥地点（SE315 横、立木基本層序）

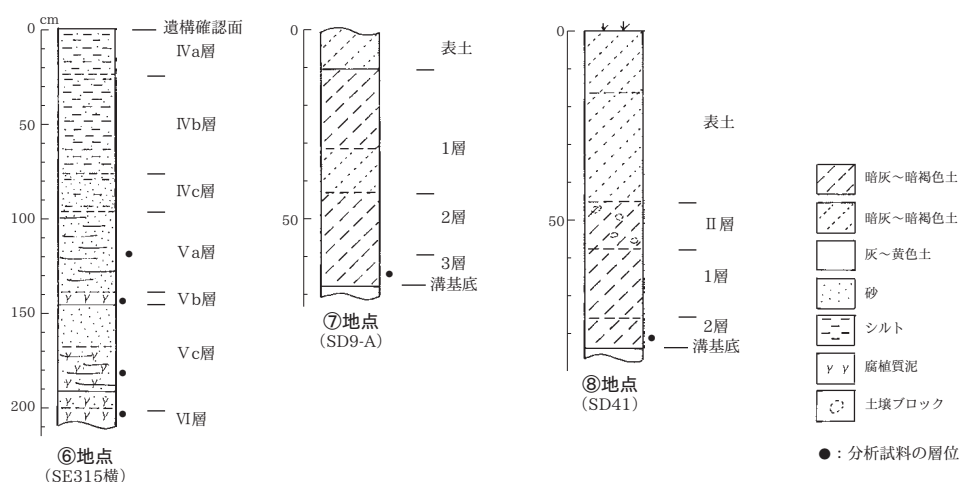
埋没した立木が検出された SE315 横の土層断面では、下位より暗褐色泥層（層厚 8cm 以上、VI層）、褐灰色泥質砂層（層厚 9cm）、層理が細かく発達した暗褐色泥と青灰色砂の互層（層厚 18cm）、粒径が良く揃った青灰色砂層（層厚 23cm、以上 Vc 層）、色調がとくに暗い暗褐色木本質泥炭層（層厚 6cm、Vb 層）、層理が細かく発達した暗灰色泥と青灰色砂の互層（層厚 43cm、Va 層）、かすかに成層した青灰色シルト質砂層（層厚 20cm、IVc 層）、灰白色砂質シルト層（層厚 52cm、IVb 層）、黄褐色砂質シルト層（層厚 24cm、IVa 層）が認められる（第9図）。

7) ⑦地点（SD9-A）

SD9-A の埋土は、下位より暗灰色土（層厚 25cm）、やや褐色がかった暗灰色土（層厚 12cm）、鉄分をやや多く含む暗灰褐色土（層厚 21cm）からなる（第9図）。

8) ⑧地点（SD41）

SD41 の埋土は、下位より暗灰褐色土（層厚 8cm）、暗灰褐色土（層厚 18cm）で、基本層序は黄色土ブロック混じり暗灰褐色土（層厚 13cm）からなる（第9図）。



第9図 ⑥～⑧地点土層柱状図

第2節 植物珪酸体（プラント・オパール）分析

A はじめに

プラント・オパールは、植物の細胞内に珪酸 (SiO₂) が蓄積したもので、植物が枯れたあともガラス質の微化石（植物珪酸体）となって土壤中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法で、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている〔杉山 2000〕。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である〔藤原・杉山 1984〕。

B 分析試料

分析の対象となった試料は、① SD257（古代溝）、③ SD196（近世遺構区画溝）、④ SD128（近世遺構区画溝）、⑤ SD330（古代溝）、⑦ SD9-A（近世以降溝）、⑧ SD41（近世以降溝）の底部付近から採取された合計 8 点である。

試料採取層位を柱状図に示す（第8・9図）。

C 分析方法

植物珪酸体の抽出と定量は、ガラスビーズ法〔藤原 1976〕を用いて次の手順で行った。

- (1) 試料を 105℃で 24 時間乾燥（絶乾）。
- (2) 試料約 1g に対し直径約 40 μm のガラスビーズを約 0.02g 添加（0.1mg の精度で秤量）。
- (3) 電気炉灰化法（550℃・6 時間）による脱有機物処理。
- (4) 超音波水中照射（300W・42KHz・10 分間）による分散。
- (5) 沈底法による 20 μm 以下の微粒子除去。
- (6) 封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成。
- (7) 検鏡・計数。

同定は、400 倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が 400 以上になるまで行った。これはほぼプレパラート 1 枚分の精査に相当する。試料 1g あたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料 1g 中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重（1.0 と仮定）と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体 1 個あたりの植物体乾重）をかけて、単位面積で層厚 1cm あたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる〔杉山 2000〕。タケ亜科については、植物体生産量の推定値から各分類群の比率を求めた。

D 分析結果

検出された植物珪酸体の分類群は次のとおりである（未分類等を除く）。これらの分類群について定量を行い、その結果を第 3 表および第 10 図に示した。また、おもなものの顕微鏡写真を第 11 図に示す。

〔イネ科〕

イネ、イネ（穎の表皮細胞由来）、ヨシ属、キビ族型、ススキ属型（おもにススキ属）、ウシクサ族 A（チガヤ属など）

〔イネ科－タケ亜科〕

ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節）、チマキザサ節型（ササ属チマキザサ節・チシマザサ節など）、ミヤコザサ節

第 3 表 植物珪酸体（プラント・オパール）分析結果

| 検出密度（単位：×100個/g） | | 地点・試料 | | | | | | | |
|--|--|---------|------|---------|---------|---------|------|---------|--------|
| 分類群 | 学名 | ① SD257 | | ③ SD196 | ④ SD128 | ⑤ SD330 | | ⑦ SD9-A | ⑧ SD41 |
| | | 1層 | 2層 | 1層 | 1層 | 1層 | 2層 | 3層 | 2層 |
| イネ科 | Gramineae | | | | | | | | |
| イネ | <i>Oryza sativa</i> | 55 | 12 | 37 | 58 | 34 | 83 | 71 | 6 |
| イネ籾殻（穎の表皮細胞） | <i>Oryza sativa</i> (husk Phytolith) | | | | | | | 5 | |
| ヨシ属 | <i>Phragmites</i> | 12 | 6 | 53 | 17 | 34 | 18 | 38 | 35 |
| キビ族型 | Panicaceae type | 6 | | 5 | | | | | 6 |
| ススキ属型 | <i>Miscanthus</i> type | 6 | | 5 | 12 | 6 | 6 | 5 | 6 |
| ウシクサ族A | Andropogoneae A type | 12 | 12 | 16 | 17 | 11 | 18 | 5 | 12 |
| タケ亜科 | Bambusoideae | | | | | | | | |
| ネザサ節型 | <i>Pleiblastus</i> sect. <i>Nezasa</i> | | | | 6 | 6 | | 16 | |
| チマキザサ節型 | <i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc. | 24 | 36 | 16 | 12 | 28 | 30 | 33 | 24 |
| ミヤコザサ節型 | <i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i> | 6 | | | 6 | | 6 | | 6 |
| 未分類等 | Others | 18 | 6 | 11 | 12 | 6 | 6 | 22 | 6 |
| 植物珪酸体総数 | Total | 141 | 72 | 144 | 140 | 123 | 172 | 197 | 100 |
| おもな分類群の推定生産量（単位：kg/m ² ・cm）：試料の仮比重を1.0と仮定して算出 | | | | | | | | | |
| イネ | <i>Oryza sativa</i> | 1.62 | 0.35 | 1.09 | 1.71 | 0.99 | 2.45 | 2.09 | 0.17 |
| ヨシ属 | <i>Phragmites</i> | 0.77 | 0.38 | 3.35 | 1.10 | 2.12 | 1.13 | 2.41 | 2.23 |
| ススキ属型 | <i>Miscanthus</i> type | 0.08 | | 0.07 | 0.14 | 0.07 | 0.07 | 0.07 | 0.07 |
| ネザサ節型 | <i>Pleiblastus</i> sect. <i>Nezasa</i> | | | | 0.03 | 0.03 | 0.03 | 0.08 | |
| チマキザサ節型 | <i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc. | 0.18 | 0.27 | 0.12 | 0.09 | 0.21 | 0.22 | 0.25 | 0.18 |
| ミヤコザサ節型 | <i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i> | 0.02 | | | 0.02 | | 0.02 | | 0.02 |

型（ササ属ミヤコザサ節など）、未分類等

E 考 察

1) 稲作跡の検討

① SD257、③ SD196、④ SD128、⑤ SD330、⑦ SD9-A、⑧ SD41 の底部付近から採取された8点の試料について分析を行った結果、すべての試料からイネが検出された。このうち、① SD257 の1層 (P1)、③ SD128 の1層 (P1)、⑤ SD330 の2層 (P2)、⑦ SD9-A の底部 (P1) では密度が5,500～8,300個/gと高い値で、稲作跡の検証や探査を行う場合の判断基準としている5,000個/g（状況により3,000個/gとする場合もある）を上回っている。また、③ SD196 の1層 (P1)、⑤ SD330 の1層 (P1) でも3,400～3,700個/gと比較的高い値であり、⑦ SD9-A の底部 (P1) ではイネの籾殻（穎の表皮細胞）に由来する植物珪酸体も検出された。

以上のことから、各層準の堆積当時は周辺で稲作が行われていたと考えられ、そこから何らかの形で遺構内にイネの植物珪酸体が混入したと推定される。また、ここで検出されたイネについては周辺で利用された稲藁に由来する可能性も考えられる。稲藁の利用としては、藁製品（俵、縄、ムシロ、草履など）、建物の屋根材や壁材、敷き藁、堆肥、燃料など多様な用途が想定される。

2) 植生と環境の推定

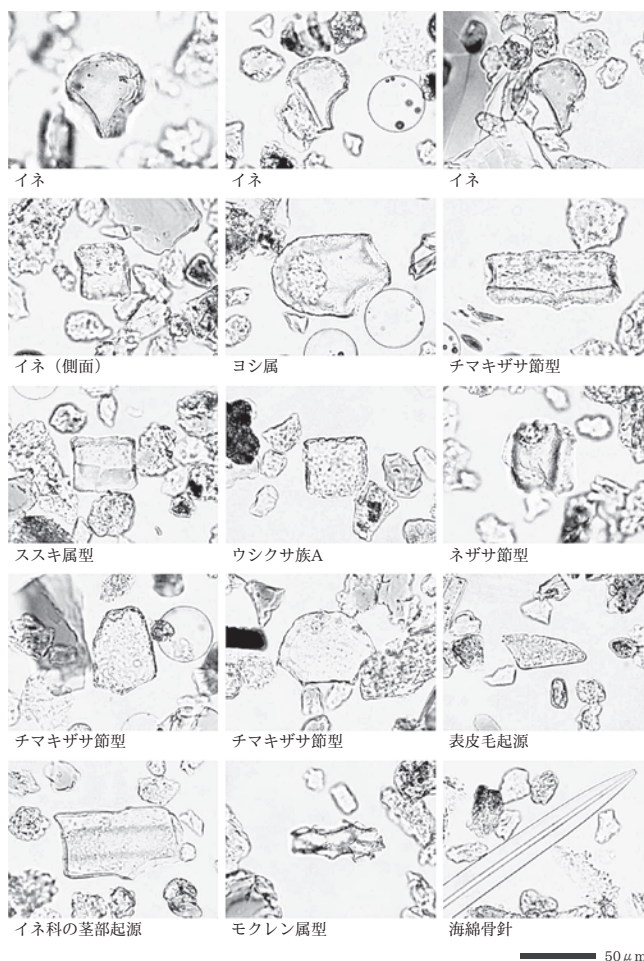
イネ以外の分類群では、ヨシ属、ススキ属型、ウシクサ族A、ネザサ節型、チマキザサ節型などが検出されたが、いずれも少量である。おもな分類群の植物体生産量をみると、イネ以外ではほとんどの試料でヨシ属が優勢であり、その他の分類群は少量である。以上のことから、各遺構の埋土の堆積当時は、ヨシ属が生育するような湿潤な環境であったと考えられ、周辺の比較的乾燥したところにはススキ属、ウシクサ族（チガヤ属など）、ササ属（おもにチマキザサ節）などが生育していたと推定される。

F ま と め

植物珪酸体（プラント・オパール）分析の結果、① SD257（古代溝）、③ SD196（近世遺構区画溝）、④ SD128（近世遺構区画溝）、⑤ SD330（古代溝）、⑦ SD9-A（近世以降溝）、⑧ SD41（近世以降溝）



第10図 植物珪酸体（プラント・オパール）分析結果



第11図 植物珪酸体（プラント・オパール）の顕微鏡写真

の底部付近では、すべての試料からイネが検出され、周辺で稲作が行われていた可能性が認められた。各遺構の埋土の堆積当時は、もともとヨシ属が生育するような湿潤な環境であったと考えられ、周辺の比較的乾燥したところにはススキ属、ウシクサ族（チガヤ属など）、ササ属（おもにチマキザサ節）などが生育していたと推定される。

第3節 花粉分析

A はじめに

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復原に応用されており、考古遺跡の調査では、遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている（たとえば〔金原 1993〕）。花粉などの植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

B 分析試料

分析の対象となった試料は、① SD257（古代溝）1層、② SN221 南西壁 2層、⑤ SD330（古代溝）1層、風倒木腐植土、⑥ SE315 横の基本層序 Va層、Vb層、Vc層、VI層の合計 8点である。

C 分析方法

花粉の分離抽出は、中村〔中村 1967〕の方法をもとに次の手順で行った。

- (1) 試料から 1cm³ を採量。
- (2) 0.5% リン酸三ナトリウム（12 水）溶液を加え 15 分間湯煎。
- (3) 水洗処理の後、0.25mm の篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去。
- (4) 25% フッ化水素酸溶液を加えて 30 分放置。
- (5) 水洗処理の後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理（無水酢酸 9：濃硫酸 1 のエルドマン氏液を加え 1 分間湯煎）を施す。
- (6) 再び氷酢酸を加えて水洗処理。
- (7) 沈渣にチール石炭酸フクシン染色液を加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作製。
- (8) 検鏡・計数。

検鏡は生物顕微鏡により 300～1000 倍で行った。花粉の分類は、同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン（-）で結んで示した。同定分類には所有の現生花粉標本、島倉〔島倉 1973〕、中村〔中村 1980〕を参照して行った。イネ属については、中村〔中村 1974・1977〕を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種もあることからイネ属型とする。

D 結果

1) 分類群

分析により検出された花粉の分類群は、樹木花粉 29、樹木花粉と草本花粉を含むもの 6、草本花粉 20、シダ植物孢子 2 形態の計 57 である。これらの学名と和名および粒数を第 4 表に示し、花粉数が 200 個以上計数できた試料については、周辺の植生を復原するために花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを第 12 図に示す。なお、200 個未満であっても 100 個以上計数できた試料については傾向をみるため参考に図示し、おもな分類群を顕微鏡写真で示した（第 13 図）。なお、同時に寄生虫卵についても、金原〔金原 1999〕の方法にしたがって観察したものの検出されなかった。次に出現した分類群を記載する。

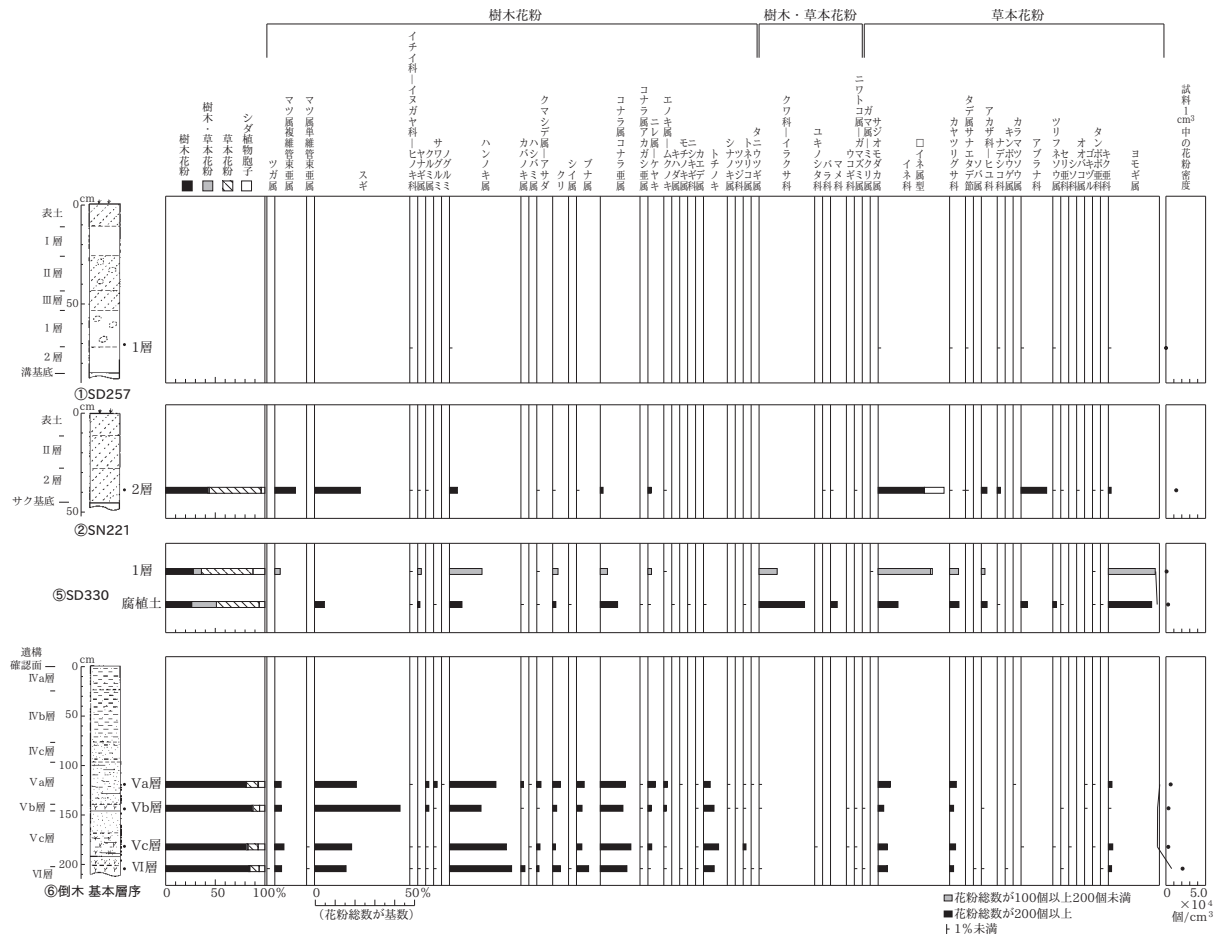
第3節 花粉分析

〔樹木花粉〕

ツガ属、マツ属複維管束亜属、マツ属単維管束亜属、スギ、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、ヤナギ属、クルミ属、サワグルミ、ノグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、ハシバミ属、クマシデ属-アサダ、クリ、シイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属-ケヤキ、エノキ属-ムクノキ、キハダ属、モチノキ属、ニシキギ科、カエデ属、トチノキ、シナノキ属、ツツジ科、トネリコ属、タニウツギ属

第4表 花粉分析結果

| 学名 | 分類群 | 和名 | ①SD257 | ②SN221 | ⑤SD330 | | ⑥SE315横 | | 基本層序 | |
|---|-----|---------------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| | | | 1層 | 2層 | 1層 | 腐植土 | Va層 | Vb層 | Vc層 | VI層 |
| Arboreal pollen | | 樹木花粉 | | | | | | | | |
| <i>Tsuga</i> | | ツガ属 | | | | | | | | 2 |
| <i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i> | | マツ属複維管束亜属 | | 44 | 3 | | 12 | 8 | 17 | 15 |
| <i>Pinus</i> subgen. <i>Haploxylon</i> | | マツ属単維管束亜属 | | | | | | | 1 | 1 |
| <i>Cryptomeria japonica</i> | | スギ | | 98 | | 19 | 80 | 106 | 69 | 70 |
| Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae | | イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科 | 1 | 2 | 1 | 1 | 2 | | 2 | 1 |
| <i>Salix</i> | | ヤナギ属 | | 2 | 2 | 4 | | | 2 | 1 |
| <i>Juglans</i> | | クルミ属 | | 2 | | | 6 | 4 | 1 | 3 |
| <i>Pterocarya rhoifolia</i> | | サワグルミ | | | | 3 | 7 | 2 | 2 | 2 |
| <i>Platycarya strobilacea</i> | | ノグルミ | | | | | 1 | | | |
| <i>Alnus</i> | | ハンノキ属 | 4 | 17 | 18 | 24 | 89 | 39 | 106 | 138 |
| <i>Betula</i> | | カバノキ属 | | | | 1 | 5 | 1 | | 9 |
| <i>Corylus</i> | | ハシバミ属 | | | | | 1 | | 1 | 1 |
| <i>Carpinus-Ostrya japonica</i> | | クマシデ属-アサダ | | 1 | 1 | 2 | 8 | 1 | 6 | 5 |
| <i>Castanea crenata</i> | | クリ | | 4 | 3 | 6 | 15 | 5 | 5 | 17 |
| <i>Castanopsis</i> | | シイ属 | | | | 3 | | | | 1 |
| <i>Fagus</i> | | ブナ属 | | 1 | | | 15 | 7 | 10 | 27 |
| <i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i> | | コナラ属コナラ亜属 | | 6 | 4 | 33 | 48 | 28 | 57 | 59 |
| <i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i> | | コナラ属アカガシ亜属 | | | | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 |
| <i>Ulmus-Zelkova serrata</i> | | ニレ属-ケヤキ | | 7 | 2 | 1 | 14 | 4 | 7 | 4 |
| <i>Celtis-Aphananthe aspera</i> | | エノキ属-ムクノキ | | 4 | 1 | | 7 | 3 | 2 | 2 |
| <i>Phellodendron</i> | | キハダ属 | | | | 2 | | | | |
| <i>Ilex</i> | | モチノキ属 | | | | | 1 | | | 1 |
| Celastraceae | | ニシキギ科 | | | | 3 | | | | |
| <i>Acer</i> | | カエデ属 | | | | | 2 | 1 | 1 | 4 |
| <i>Aesculus turbinata</i> | | トチノキ | | | | 2 | 13 | 13 | 28 | 24 |
| <i>Tilia</i> | | シナノキ属 | | | | | 1 | 1 | | |
| Ericaceae | | ツツジ科 | | | | | | 1 | | |
| <i>Fraxinus</i> | | トネリコ属 | | | | 1 | 2 | 1 | 5 | 4 |
| <i>Weigela</i> | | タニウツギ属 | | | | | 1 | | | 1 |
| Arboreal · Nonarboreal pollen | | 樹木 · 草本花粉 | | | | | | | | |
| Moraceae-Urticaceae | | クワ科-イラクサ科 | | | 10 | 87 | 2 | 1 | | 4 |
| Saxifragaceae | | ユキノシタ科 | | | | | | | 3 | |
| Rosaceae | | バラ科 | | 3 | | | | | | |
| Leguminosae | | マメ科 | | 2 | | 13 | | | | |
| Araliaceae | | ウコギ科 | | | | | | 1 | 1 | |
| <i>Sambucus-Viburnum</i> | | ニワトコ属-ガマズミ属 | | 1 | | | | 1 | 1 | 1 |
| Nonarboreal pollen | | 草本花粉 | | | | | | | | |
| <i>Typha-Sparganium</i> | | ガマ属-ミクリ属 | | | | | | 1 | | 1 |
| <i>Alisma</i> | | サジオモダカ属 | | | 1 | | | | | |
| Gramineae | | イネ科 | 5 | 99 | 29 | 38 | 23 | 7 | 17 | 20 |
| <i>Oryza type</i> | | イネ属型 | | 42 | 1 | | | | | 1 |
| Cyperaceae | | カヤツリグサ科 | 1 | 4 | 5 | 18 | 13 | 5 | 11 | 9 |
| <i>Polygonum</i> sect. <i>Persicaria</i> | | タデ属サナエタデ節 | 1 | 1 | | | | | | |
| <i>Fagopyrum</i> | | ソバ属 | | 1 | | | | | | 1 |
| Chenopodiaceae-Amaranthaceae | | アカザ科-ヒコ科 | | 12 | 2 | 11 | | 1 | | 2 |
| Caryophyllaceae | | ナデシコ科 | 1 | 7 | | 1 | | | | |
| <i>Ranunculus</i> | | キンボウゲ属 | | | | | | | | 1 |
| <i>Thalictrum</i> | | カラマツソウ属 | | | | | 1 | | | |
| Cruciferae | | アブラナ科 | 1 | 55 | | 12 | | | 1 | |
| <i>Impatiens</i> | | ツリフネソウ属 | 4 | 1 | | 7 | | | 1 | |
| Apioidae | | セリ亜科 | | 1 | | 1 | | | | 1 |
| Labiatae | | シソ科 | | | | | | | 1 | |
| <i>Plantago</i> | | オオバコ属 | | 1 | | | | | | |
| <i>Actinostemma lobatum</i> | | ゴキツル | | | | | 1 | 1 | | |
| Lactucoideae | | タンポポ亜科 | | 1 | 1 | 2 | 3 | | 1 | |
| Asteroidae | | キク亜科 | | 1 | | 1 | | | | 1 |
| <i>Artemisia</i> | | ヨモギ属 | 6 | 6 | 26 | 83 | 7 | 1 | 8 | 7 |
| Fern spore | | シダ植物胞子 | | | | | | | | |
| Monolate type spore | | 単条溝胞子 | 26 | 12 | 13 | 16 | 25 | 12 | 25 | 24 |
| Trilate type spore | | 三条溝胞子 | 1 | 5 | 2 | 7 | 1 | 2 | 2 | 3 |
| Arboreal pollen | | 樹木花粉 | 5 | 188 | 35 | 106 | 330 | 226 | 324 | 392 |
| Arboreal · Nonarboreal pollen | | 樹木 · 草本花粉 | 0 | 6 | 10 | 100 | 2 | 3 | 5 | 5 |
| Nonarboreal pollen | | 草本花粉 | 19 | 232 | 65 | 174 | 48 | 17 | 40 | 44 |
| Total pollen | | 花粉総数 | 24 | 426 | 110 | 380 | 380 | 246 | 369 | 441 |
| Pollen frequencies of 1cm ³ | | 試料1cm ³ 中の花粉密度 | 1.8 | 1.3 | 8.5 | 2.8 | 5.9 | 3.2 | 3.1 | 2.1 |
| | | | ×10 ² | ×10 ⁴ | ×10 ² | ×10 ³ | ×10 ³ | ×10 ³ | ×10 ³ | ×10 ⁴ |
| Unknown pollen | | 未同定花粉 | 2 | 4 | 11 | 14 | 15 | 3 | 13 | 9 |
| Fern spore | | シダ植物胞子 | 27 | 17 | 15 | 23 | 26 | 14 | 27 | 27 |
| Helminth eggs | | 寄生虫卵 | (-) | (-) | (-) | (-) | (-) | (-) | (-) | (-) |
| Stone cell | | 石細胞 | (-) | (-) | (-) | (-) | (-) | (-) | (-) | (-) |
| Digestion rimeins | | 明らかな消化残渣 | (-) | (-) | (-) | (-) | (-) | (-) | (-) | (-) |
| Charcoal · woods fragments | | 微細炭化物 · 微細木片 | (+) | (+) | (<+) | (+) | (<+) | (<+) | (<+) | (<+) |
| 微細植物遺体 (Charcoal · woods fragments) | | (×10 ⁵) | | | | | | | | |
| 未分解遺体片 | | | 2.9 | 7.9 | | 4.0 | 7.0 | 3.4 | 1.4 | 6.1 |
| 分解質遺体片 | | | | | | | 2.3 | 1.4 | 1.4 | 5.4 |
| 炭化遺体片 (微粒炭) | | | 0.4 | 0.8 | | 0.7 | | | | 2.7 |



第 12 図 花粉ダイアグラム

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

クワ科－イラクサ科、ユキノシタ科、バラ科、マメ科、ウコギ科、ニワトコ属－ガマズミ属

〔草本花粉〕

ガマ属－ミクリ属、サジオモダカ属、イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、タデ属サナエタデ節、ソバ属、アカザ科－ヒユ科、ナデシコ科、キンボウゲ属、カラマツソウ属、アブラナ科、ツリフネソウ属、セリ亜科、シソ科、オオバコ属、ゴキヅル、タンポポ亜科、キク亜科、ヨモギ属

〔シダ植物胞子〕

単条溝胞子、三条溝胞子

2) 花粉群集の特徴

a ① SD257 (古代溝) 1層

花粉密度が極めて低く、花粉はほとんど検出されない。わずかに樹木花粉のハンノキ属、草本花粉のイネ科、ヨモギ属、ツリフネソウ属などが検出される。

b ② SN221 南西壁 2層

草本花粉の占める割合がやや高く、樹木花粉が 43%、草本花粉が 52% を占める。草本花粉では、イネ科（イネ属型を含む）の出現率が高く、次いでアブラナ科が多く、アカザ科－ヒユ科、ナデシコ科が伴われ、ソバ属が出現する。樹木花粉では、スギを主にマツ属複維管束亜属の出現率が高く、ハンノキ属、ニレ属－ケヤキ、コナラ属コナラ亜属が低率で出現する。

c ⑤ SD330 (古代溝) 1層・風倒木腐植土

1層では花粉の検出密度がやや低いが、草本花粉が 52% を占め、樹木花粉が 28%、樹木・草本花粉が 8%、

シダ植物胞子が12%である。樹木花粉では、ハンノキ属を主にマツ属複雑維管束亜属、ヤナギ属、クリ、コナラ属コナラ亜属、ニレ属ーケヤキが低率に出現する。樹木・草本花粉では、クワ科ーイラクサ科が優占する。草本花粉では、イネ科（イネ属型を含む）、ヨモギ属の出現率が高く、カヤツリグサ科、アカザ科ーヒユ科が伴われる。

風倒木腐植土では、草本花粉が43%を占め、樹木花粉が26%、樹木・草本花粉が25%、シダ植物胞子が6%である。樹木花粉では、コナラ属コナラ亜属、ハンノキ属、スギの出現率がやや高く、樹木・草本花粉のクワ科ーイラクサ科は増加し、マメ科が出現する。草本花粉では、ヨモギ属を主にイネ科、カヤツリグサ科、アカザ科ーヒユ科、アブラナ科、ツリフネソウ属が検出される。

d ⑥ SE315 横 基本層序

(Va層・Vb層・Vc層・VI層)

樹木花粉の占める割合が高く、いずれの試料も80%以上を占める。下部のVI層、Vc層では、ハンノキ属の出現率が高く次いでスギ、コナラ属コナラ亜属が多く、トチノキ、マツ属複雑維管束亜属、クリ、ブナ属が伴われる。草本花粉では、イネ科、カヤツリグサ科、ヨモギ属が低率に出現する。VI層からソバ属が検出される。Vb層では、ハンノキ属が減少してスギが高率に出現することで特徴づけられ、他は下部のVI層、Vc層から継続して出現する。Va層では、スギが半減し、ハンノキ属、コナラ属コナラ亜属がやや増加する。他にクリ、ニレ属ーケヤキ、ブナ属、トチノキ、クルミ属、サワグルミ、クマシデ属ーアサダが微増する。

E 考 察 —花粉分析から推定される植生と環境

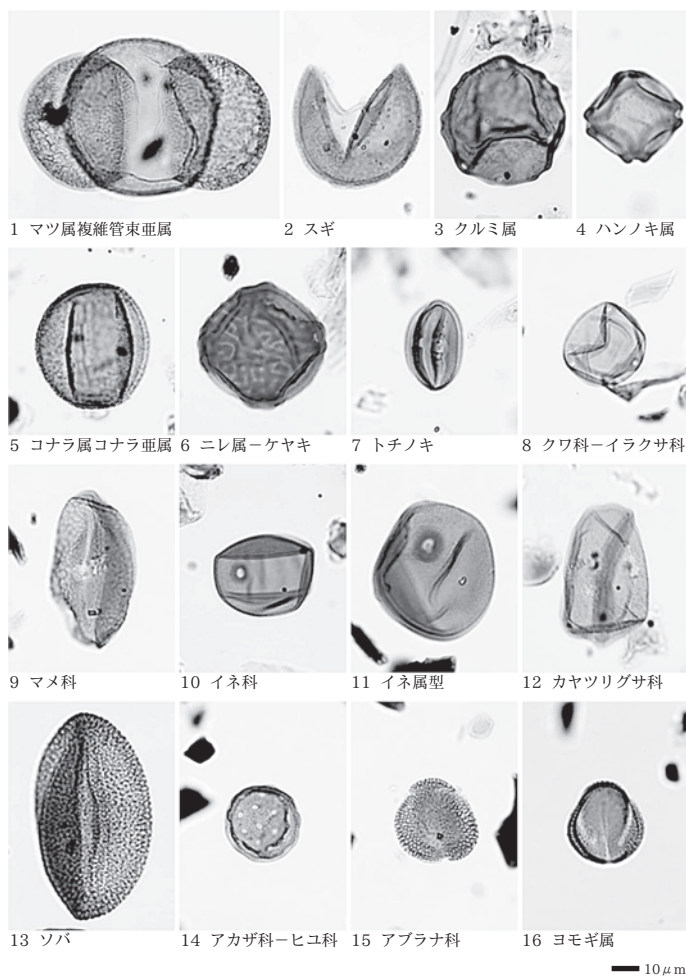
ここでは、花粉群集の特徴から植生および環境の復原を行い、畑作における栽培植物を検討する。

a ① SD257 (古代溝) 1層

花粉密度が極めて低く、花粉などの有機質遺体が分解される乾燥ないし乾湿を繰り返す堆積環境であったか、堆積速度が速く花粉が集積しなかったと考えられる。SD257は乾いた溝であったと推定されるが、栽培植物に明らかに由来する花粉は検出されなかった。

b ② SN221 南西壁 2層

この試料からは、イネ科・イネ属型の花粉が検出されたことから、試料採取地ないしその周囲に水田が分布していたと考えられる。また、栽培植物が多く含まれるアブラナ科、ソバ属、耕地雑草のアカザ科ーヒユ科などが検出されることから、アブラナ科植物（アブラナ、カブなど）、ソバなどの畑作も行われていた可能性がある。地域的森林植生としては、スギ林のほかマツの二次林も分布していたと考えられる。



第13図 花粉の顕微鏡写真

c ⑤ SD330 (古代溝) 1層・風倒木腐植土

SD330 1層では、イネ科のうち水田雑草のサジオモダカ属が検出されることから、1層形成時に溝では滞水していた可能性がある。また、乾燥した環境を好むヨモギ属、クワ科-イラクサ科の草本が多く検出されることから、この溝の周囲にはそれらの草本類が生育していたとみられる。周辺の適潤地には、ハンノキ属が生育し、やや乾燥したところにはクリ、コナラ属コナラ亜属などの落葉広葉樹が分布していたとみなされる。

風倒木腐植土からは、水生植物の花粉は検出されないことから、この土壌の形成当時には陽当たりの良い乾燥した環境を好むヨモギ属を主として、イネ科、カヤツリグサ科、ツリフネソウ属、乾燥した環境を好むアカザ科-ヒユ科、アブラナ科などが生育していたと推定される。ここで出現率が高いクワ科-イラクサ科としては、カナムグラなどの路傍や荒地に生育する草本が考えられ、溝の周囲に繁茂していたものとみなされる。周辺には、ハンノキ属、コナラ属コナラ亜属などの落葉広葉樹とスギ林が分布していたと考えられる。

d ⑥ SE315 横 基本層序 (Va層・Vb層・Vc層・VI層)

本地点の下位のVI層やVc層では、花粉の構成や組成がよく似ている。これらの土層ではハンノキ属の出現率が高く、湿地林を形成するハンノキの存在が想定され、堆積地周辺にハンノキの湿地林が分布し、トチノキもその構成要素であったとみなされる。周辺の森林植生はスギとコナラ属コナラ亜属をおもな要素としており、ブナ属、クリなども構成要素とする落葉広葉樹林も分布していたと考えられる。さらにマツ属複維管束亜属も分布していたようである。草本類の花粉は少ないが、イネ科、カヤツリグサ科などの湿地性草本が生育していた。また、VI層では、ソバの栽培が示唆される。Vb層の形成時期になるとスギ林が拡大し、ハンノキの湿地林が縮小する。Va層の時期にはスギ林が縮小し、下部のVI層、Vc層と極めて類似した堆積環境に戻ったようである。

F ま と め

8試料を対象にした花粉分析の結果をもとに、本遺跡における植生変遷や土地利用を考えると、⑥ SE315 横基本層序の土層のうち、Va層、Vb層、Vc層、VI層の形成時期にはハンノキの湿地林が分布し、周辺にはスギとコナラ属コナラ亜属の森林が分布していたと推定される。この時期の気候は冷涼で湿潤であったと推定される。風倒木腐植土の形成時期には、クワ科-イラクサ科やヨモギ属を主とするやや乾燥した草本域が拡大し、森林は減少する。⑤ SD330 (古代溝) 1層の形成時期には、イネ属型を含むイネ科花粉が増加し、人為改変地および農耕地が拡大したようである。また② SN221 南西壁 2層の形成時期には、イネ属型花粉が多くなることから本遺跡での水田化あるいは周囲域での水田拡大が行われたと推定される。

第4節 樹種および種実同定

(株) 加速器分析研究所

A 分析試料

亀田道下遺跡は、新潟県新潟市江南区荻曽根に所在し、亀田砂丘西端部にあたる沖積地の微高地に位置する。分析対象試料は、近世から近代とされる井戸 SE315 横 (⑥地点) で出土した埋没した立木 1点 (No.1) と種実 1点 (No.2)、平安時代とされる溝 SD330 横 (⑤地点) で出土した風倒木 1点 (No.3)、近世以降とされる小土坑 Pit294 で出土した柱根 1点 (No.4)、本調査終了後の工事に伴う掘削により発見された風倒木 1点 (No.5) の合計 5点である。No.1 ~ 3・5 は基盤層の下位から出土し、平安時代より古いと考えられている。

なお、これらの試料については放射性炭素年代測定が実施され、No.1 は古墳時代前期から中期頃、No.2・5 は弥生時代後期頃、No.3 は平安時代の後半頃、No.4 は近世から現代頃の年代値が示されている (第5節参照)。

B 分析方法

木片からはステンレス剃刀で横断面、放射断面、接線断面の3方向の切片を採取した。封入剤ガムクロラルでプレパラートを作成、生物顕微鏡で観察し、現生標本の形態に基づき同定を行った。種実試料は肉眼および実体顕微鏡で観察し、現生標本の形態に基づき同定を行った。

C 結果

第5表に同定結果を示す。本遺跡の木片は4試料のうち2点がトネリコ属、1点がクリ、もう1点はニレ属であった。種実はテウチグルミと同定された。以下に同定の根拠を示す。

1) 木材の形態記載

・トネリコ属 (*Fraxinus*)

年輪初めに大径の道管が数列並ぶ。その後、径を減しながら厚壁の小さい道管が、単独ないし放射方向や斜めに結合して散在する環孔材である。道管は単穿孔であり、放射組織は同性の平伏細胞で、1-2細胞幅と高さは低い。

・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.)

年輪初めに径が大きい道管が数列配列する。その後、急に径を減じて薄壁の角ばった小径管が、火炎状や波状に配列する環孔材である。道管は単穿孔であり、放射組織はすべて平伏細胞の同性で、単列ないし2列である。

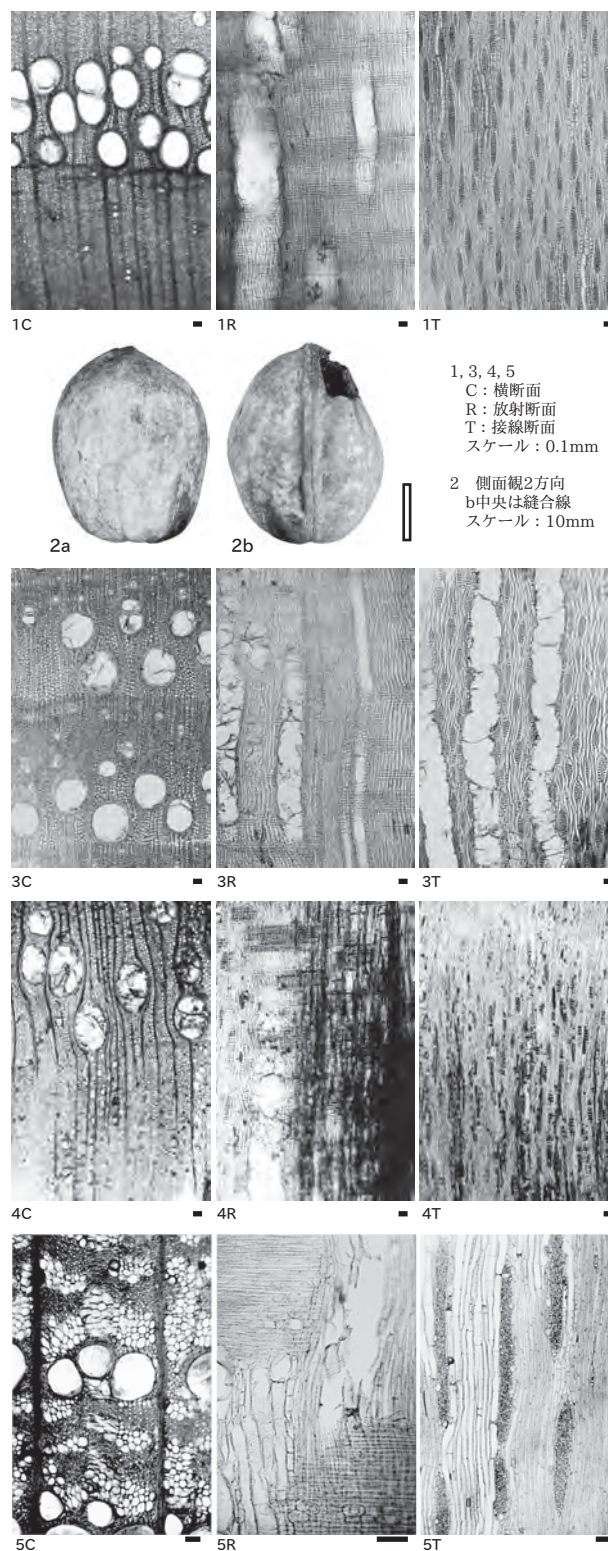
・ニレ属 (*Ulmus*)

年輪最初に大きな道管が1, 2列配列し、急に径を減じて小さい管孔が多数集合して接線状や斜めに配列する環孔材。道管は単穿孔で小径管の内壁にらせん肥厚がある。放射組織はすべて平伏細胞からなる同性で1-6細胞幅程度、軸方向柔細胞と放射細胞に結晶がある。

2) 種実の形態記載

・テウチグルミ (*Juglans regia* L. var. *orientis* (Dode) Kitam.)

内果皮は楕円球で、上下方向に縫合線があり縫合線付近は若干盛り上がる。表面は光沢がなく、平滑



第14図 出土木材と種実写真

第5表 出土木材と種実

| 試料名 | 採取場所 | 試料形態 | 出土部位 | 分類群名 |
|------|--------------|------|------|--------|
| No.1 | SE315横 V~VI層 | 立木 | - | トネリコ属 |
| No.2 | SE315横 Va層 | 種実 | 内果皮 | テウチグルミ |
| No.3 | SD330横 IV層 | 風倒木 | - | トネリコ属 |
| No.4 | Pit294 3層 | 柱根 | - | クリ |
| No.5 | 13L21V~VI層 | 風倒木 | - | ニレ属 |

で浅い凹凸がある。日本原産のオニグルミよりも頂部が丸く、表面が平滑で内果皮壁が薄い。カシグルミとも呼ばれ、原産地は現在のイラン西北部カスピ海沿岸とされ、古く中国に伝来し、日本に渡来した。

日本への渡来時期は、①仏教とともに6世紀頃伝来した、②16世紀頃養蚕教師として朝鮮から入国した者が持参した、③16世紀末頃に豊臣秀吉が朝鮮と頻繁な交流を重ねた時期に持ち込まれた、という3通りの説がある。しかし、本格的な植栽が始まったのは江戸時代中期以降～末期であろうとされている〔町田2000〕。本試料(No.2)は、年代測定の結果、町田〔町田2000〕によって指摘された渡来時期より古い弥生時代後期頃の年代値を示した。

D 考 察

トネリコ属は、種により高山から平野部まで自生する広葉樹である。本遺跡では、根張が確認されていることから底地部に生育していた個体と考えられ、落葉性のトネリコ属と考えられる。北陸の平野部では、刈り取ったイネを干す稲架木としてトネリコやヤチダモを植栽する。

本遺跡で柱材として出土したクリは、東日本ではコナラ節とともに建築材として多用される傾向にある。新潟市の出土例は不明だが、新潟県内の近世では、柱材として安田町の大坪遺跡で16点、見附市の坂井遺跡で3点の出土例がある〔伊東ほか2012〕。ニレ属は丘陵や山地に生育する落葉高木で、一部種類は河川や谷沿いに生育し、崩落地を好んで生育することがある。本試料の場合も、河川沿いに生育していた個体が倒れて、地下水位が高い状態の堆積物中に包含され、良好な保存状態であったと考えられる。近隣に根株が確認されないとのことで、増水時の水流により流下してきた可能性もある。なお、No.5の分析については古代の森研究舎の協力を得て行った。

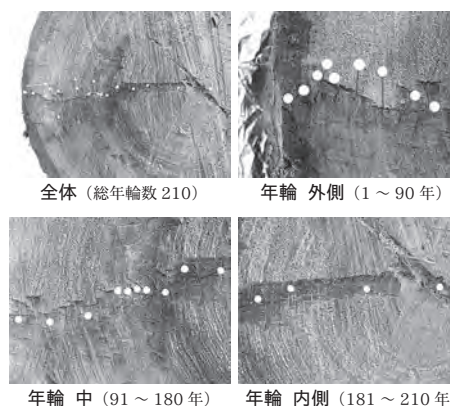
第5節 放射性炭素年代(AMS測定)と ウィグルマツチングによる暦年代推定

A 測定対象試料

亀田道下遺跡は、新潟県新潟市江南区荻曾根に所在し、亀田砂丘西端部にあたる沖積地の微高地に位置する。測定対象試料は、立木と風倒木、柱根から採取した木片4点と、種実1点の合計5点である(第7表)。なお、これらの試料を対象に樹種同定および種実同定も実施されている(第4節参照)。

このうち、立木(No.1)について、年輪を数えてその位置を確認しながら複数箇所より測定試料を採取し(試料の採取位置を第15図に記載)、ウィグルマツチング(D算出方法(5)参照)の手法により、樹木の最外年輪の暦年代を推定する。試料は、分析用に切り出された円盤の木口面で年輪を観察して採取した。このNo.1の特徴と測定に用いた試料の採取状況等を第6表にまとめた。なお、この木は外側約20年輪分は腐食が進み、特に最外年輪部の約5年輪分は正確な年輪の読み取りが困難だった。

遺跡の基本層序は、I層、II層が近世以降、III層が古代の遺物包含層、IV層が上面で古代の遺構が確認される基盤層(地山層)となっている。試料は、立木No.1と風倒木No.5がV～VI層、種実No.2がVa層、風倒木No.3がIV層で出土した。これらについては、No.1、2が近世から近代とされる井戸跡SE315の横、No.3が平安時代とされる溝跡SD330の横、No.5が本発掘調査終了後の工事に伴う掘削により調査区南東側から出土したが、いずれも基盤層以下に属するため、平安時代より古いと考えられている。柱根No.4は、近世以降とされ



第15図 試料No.1ウィグルマツチング試料写真

第6表 ウィグルマツチングを行った伐採樹木の特徴

| 試料名 | 木取り | 大きさ (cm) | 総年 輪数 | 年輪幅 (mm) | 試料採取部位 |
|------|---------------|-------------|----------|-------------|--|
| No.1 | 芯持丸木、 樹皮あり | 直径 約42 | 210 | 0.3～4 | 外側より1-5、56-60、106-110、 166-170、206-210年輪の部位 |

る小土坑内で出土している。

B 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸（AAA : Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常 $1\text{mol}/\ell$ （1M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001M から 1M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1M に達した時には「AAA」、1M 未満の場合は「AaA」と第7表に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素（ CO_2 ）を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。
- (6) グラファイトを内径 1mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

C 測定方法

加速器をベースとした ^{14}C -AMS 専用装置（NEC 社製）を使用し、 ^{14}C の計数、 ^{13}C 濃度（ $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ ）、 ^{14}C 濃度（ $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ ）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（ HOx II ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

D 算出方法

- (1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の ^{13}C 濃度（ $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ ）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（第7表）。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) ^{14}C 年代（Libby Age : yrBP）は、過去の大気中 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期（5568 年）を使用する〔Stuiver and Polach 1977〕。 ^{14}C 年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を第7表に、補正していない値を参考値として第8表に示した。 ^{14}C 年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、 ^{14}C 年代の誤差（ $\pm 1\sigma$ ）は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2% であることを意味する。
- (3) pMC（percent Modern Carbon）は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMC が小さい（ ^{14}C が少ない）ほど古い年代を示し、pMC が 100 以上（ ^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上）の場合 Modern とする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を第7表に、補正していない値を参考値として第8表に示した。
- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1 標準偏差（ $1\sigma=68.2\%$ ）あるいは 2 標準偏差（ $2\sigma=95.4\%$ ）で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13 データベース〔Reimer et al. 2013〕を用い、OxCalv4.3 較正プログラム〔Bronk Ramsey 2009〕を使用した。暦年較正年代については、特定のデー

データベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として第8表に示した。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」) という単位で表される。

- (5) 暦年較正を高精度に行うための方法として、ウィグルマッチングが行われる。暦年較正曲線には過去の大気や海洋中における ^{14}C 濃度の変動を反映した起伏が表れる。この起伏はウィグル (wiggle) と呼ばれ、 ^{14}C 年代に対応する暦年代の絞り込みを困難にする原因の一つとなっている。このウィグルを利用して暦年代を求めるのがウィグルマッチングである。まず年輪を持つ測定対象から年輪によって相互の年代差を確認できるように複数の試料を採取し、各々の ^{14}C 年代を求める。次に試料間の年代差と ^{14}C 年代値の変動パターンを較正曲線に重ね合わせ、最外年輪の暦年代を算出する。こうすることで、単独の試料の ^{14}C 年代に対して算出される暦年代よりも範囲を絞り込むことが可能となる場合がある。ウィグルマッチングの計算に用いる ^{14}C 年代値は、暦年較正の場合と同様 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない ^{14}C 年代値で、算出される最外年輪の暦年代は1標準偏差 ($1\sigma=68.2\%$) あるいは2標準偏差 ($2\sigma=95.4\%$) の範囲で表示される。ウィグルマッチングの結果を表すグラフは、縦軸が ^{14}C 年代、横軸が最外年輪の暦年代を表す (第16図)。なお、ウィグルマッチングの結果は、A測定試料に含まれる年輪数、試料の間隔の取り方など、試料の状況によって異なる可能性がある。また測定結果の重ね合わせに用いる較正曲線や較正プログラムの種類によっても結果が異なってくる可能性がある。このため、年代値の利用に当たっては試料採取の状況、使用した較正曲線とプログラムの種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、試料採取の状況について「A測定対象試料」と第7・9表に記載した。ウィグルマッチングの計算には IntCal13 データベース [Reimer et al. 2013]、OxCalv4.3 較正プログラム [Bronk Ramsey et al. 2001, Bronk Ramsey 2009] を使用し、結果を第7表に示した。ウィグルマッチングによる最外年輪の暦年代は較正された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」) という単位で表される (第9表)。

E 測定結果

計9試料に関する個別の ^{14}C 年代測定結果を第7表に、暦年較正の結果を第8表と第16図に、立木 No.1 のウィグルマッチングの結果を第9表と第17・18図に示す。以下、ウィグルマッチングを行った No.1 を1)、その他4点を2)に分けて記述する。

1) 試料 No.1 について

No.1 の最外年輪部 No.1-1-5 の ^{14}C 年代は、 $1660 \pm 20\text{yrBP}$ 、暦年較正年代 (1σ) は $356 \sim 417\text{cal AD}$ の間に2つの範囲で示される。この試料の最外年輪のウィグルマッチングによる暦年代は、 1σ で $360 \sim 377\text{cal AD}$ 、 2σ で $353 \sim 391\text{cal AD}$ の範囲となり、最外年輪部試料単独の場合に比べて4割程度に絞られている。この木片の最外年輪の暦年代範囲の中で確率分布の高い 367cal AD 頃に最外年輪を合わせた場合のマッチング図を第18図に示す。ウィグルマッチングの結果は良好で、この試料の最外年輪の年代は古墳時代前期から中期頃に相当する [佐原 2005]。

第7表 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 補正值)

| 測定番号 | 試料名 | 採取場所 | 試料形態 | 処理方法 | $\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS) | $\delta^{13}\text{C}$ 補正あり | |
|-------------|--------------|--------------|-----------|------|------------------------------------|----------------------------|------------------|
| | | | | | | Libby Age (yrBP) | pMC (%) |
| IAAA-171516 | No.1-1-5 | SE315横 V~VI層 | 木片 (立木) | AAA | -26.87 ± 0.35 | $1,660 \pm 20$ | 81.35 ± 0.23 |
| IAAA-171517 | No.1-56-60 | SE315横 V~VI層 | 木片 (立木) | AAA | -26.62 ± 0.44 | $1,780 \pm 20$ | 80.10 ± 0.23 |
| IAAA-171518 | No.1-106-110 | SE315横 V~VI層 | 木片 (立木) | AAA | -25.37 ± 0.46 | $1,720 \pm 20$ | 80.69 ± 0.23 |
| IAAA-171519 | No.1-166-170 | SE315横 V~VI層 | 木片 (立木) | AAA | -25.61 ± 0.37 | $1,850 \pm 20$ | 79.44 ± 0.23 |
| IAAA-171520 | No.1-206-210 | SE315横 V~VI層 | 木片 (立木) | AAA | -25.60 ± 0.40 | $1,850 \pm 20$ | 79.42 ± 0.23 |
| IAAA-171521 | No.2 | SE315横 Va層 | 種実 (クルミ殻) | AAA | -26.79 ± 0.26 | $1,800 \pm 20$ | 79.91 ± 0.24 |
| IAAA-171522 | No.3 | SD330横 IV層 | 木片 (風倒木) | AAA | -27.50 ± 0.44 | 950 ± 20 | 88.85 ± 0.25 |
| IAAA-171523 | No.4 | Pit294 3層 | 木製品 (柱根) | AAA | -25.22 ± 0.36 | 220 ± 20 | 97.33 ± 0.27 |
| IAAA-182533 | No.5 | 13L21 V~VI層 | 木片 (風倒木) | AAA | -30.19 ± 0.36 | $1,830 \pm 20$ | 79.64 ± 0.23 |

[No.1 ~ 4 IAA登録番号: #8780] [No.5 IAA登録番号: #9476]

この立木には樹皮が残存していることから、2) に述べる古木効果の影響はないと考えられる。基盤層下位に属し、平安時代より古いとする発掘調査の所見と一致する結果である。

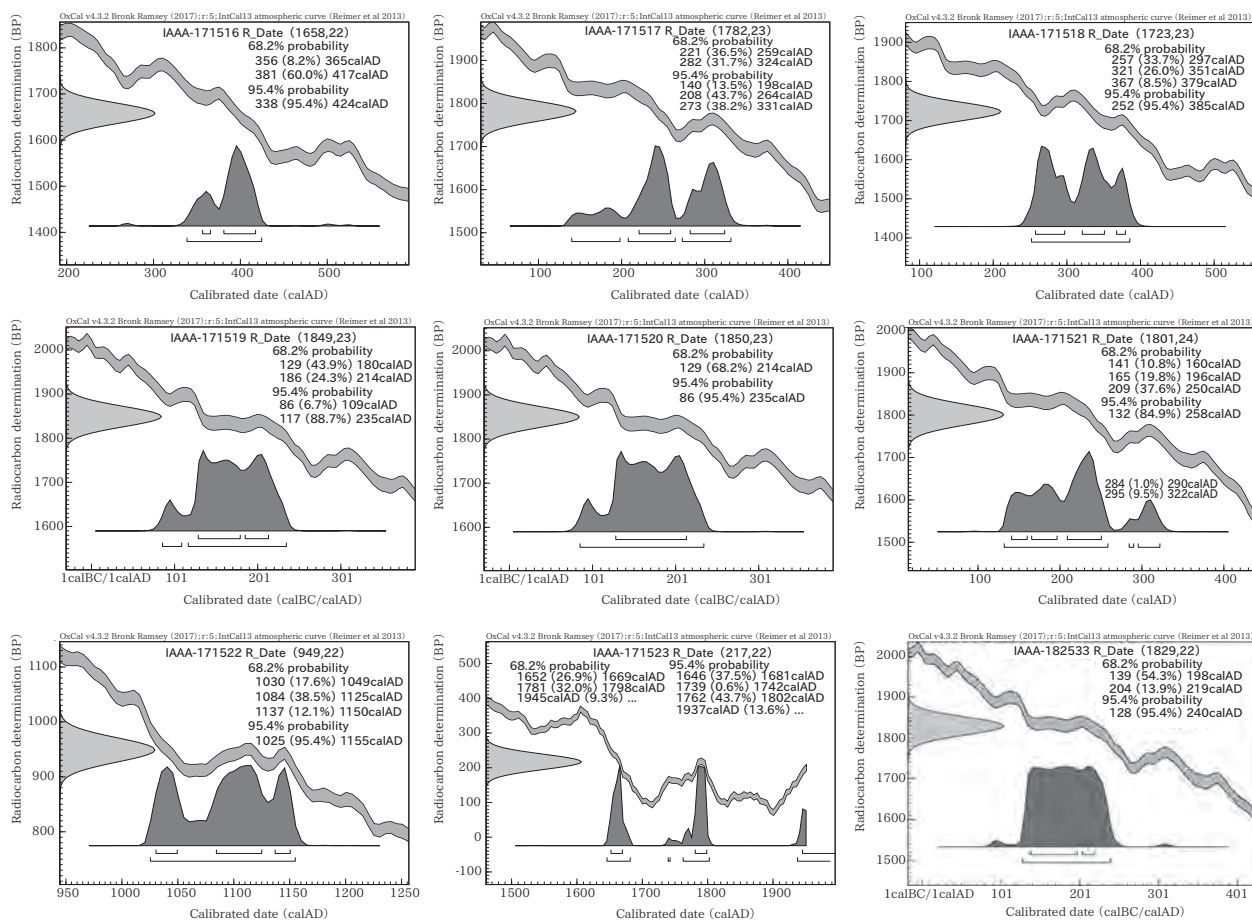
試料の炭素含有率は 52% (No.1-106-110) ~ 58% (No.1-1-5) の適正な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

第 8 表 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代)

| 測定番号 | $\delta^{13}\text{C}$ 補正なし | | 暦年較正用 (yrBP) | 1 σ 暦年代範囲 | 2 σ 暦年代範囲 |
|-------------|----------------------------|------------------|----------------|---|---|
| | Age (yrBP) | pMC (%) | | | |
| IAAA-171516 | 1,690 \pm 20 | 81.03 \pm 0.22 | 1,658 \pm 22 | 356calAD - 365calAD (8.2%) 381calAD - 417calAD (60.0%) | 338calAD - 424calAD (95.4%) |
| IAAA-171517 | 1,810 \pm 20 | 79.83 \pm 0.22 | 1,782 \pm 23 | 221calAD - 259calAD (36.5%) 282calAD - 324calAD (31.7%) | 140calAD - 198calAD (13.5%) 208calAD - 264calAD (43.7%) 273calAD - 331calAD (38.2%) |
| IAAA-171518 | 1,730 \pm 20 | 80.63 \pm 0.22 | 1,723 \pm 23 | 257calAD - 297calAD (33.7%) 321calAD - 351calAD (26.0%) 367calAD - 379calAD (8.5%) | 252calAD - 385calAD (95.4%) |
| IAAA-171519 | 1,860 \pm 20 | 79.34 \pm 0.22 | 1,849 \pm 23 | 129calAD - 180calAD (43.9%) 186calAD - 214calAD (24.3%) | 86calAD - 109calAD (6.7%) 117calAD - 235calAD (88.7%) |
| IAAA-171520 | 1,860 \pm 20 | 79.32 \pm 0.22 | 1,850 \pm 23 | 129calAD - 214calAD (68.2%) | 86calAD - 235calAD (95.4%) |
| IAAA-171521 | 1,830 \pm 20 | 79.62 \pm 0.24 | 1,801 \pm 24 | 141calAD - 160calAD (10.8%) 165calAD - 196calAD (19.8%) 209calAD - 250calAD (37.6%) | 132calAD - 258calAD (84.9%) 284calAD - 290calAD (1.0%) 295calAD - 322calAD (9.5%) |
| IAAA-171522 | 990 \pm 20 | 88.40 \pm 0.23 | 949 \pm 22 | 1030calAD - 1049calAD (17.6%) 1084calAD - 1125calAD (38.5%) 1137calAD - 1150calAD (12.1%) | 1025calAD - 1155calAD (95.4%) |
| IAAA-171523 | 220 \pm 20 | 97.28 \pm 0.26 | 217 \pm 22 | 1652calAD - 1669calAD (26.9%)* 1781calAD - 1798calAD (32.0%)* 1945calAD - ... (9.3%)* | 1646calAD - 1681calAD (37.5%)* 1739calAD - 1742calAD (0.6%)* 1762calAD - 1802calAD (43.7%)* 1937calAD - ... (13.6%)* |
| IAAA-182533 | 1,910 \pm 20 | 78.79 \pm 0.22 | 1,829 \pm 22 | 139calAD - 198calAD (54.3%) 204calAD - 219calAD (13.9%) | 128calAD - 240calAD (95.4%) |

[参考値]

* Warning! Date may extend out of range (この警告は較正プログラムOxCalが発するもので、試料の ^{14}C 年代に対応する較正年代が、当該暦年較正曲線で較正可能な範囲を超える新しい年代となる可能性があることを表す。)

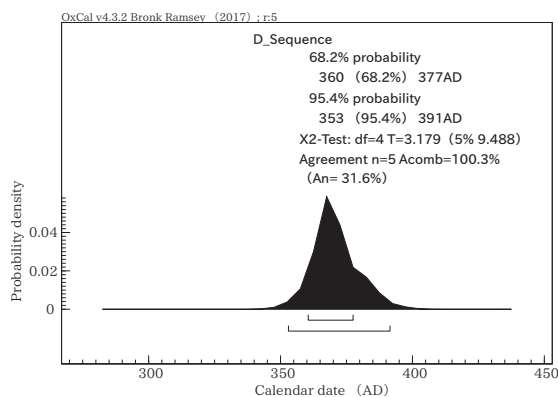


第 16 図 暦年較正年代グラフ

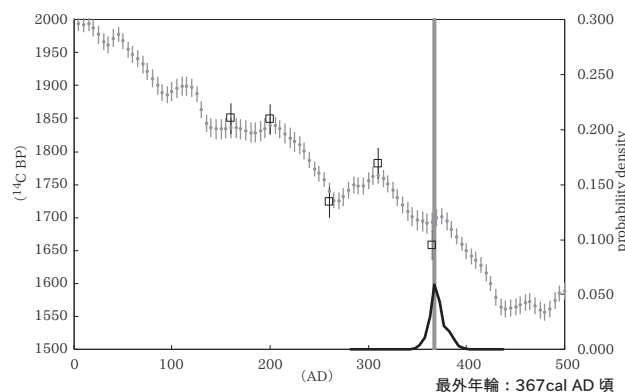
第9表 放射性炭素年代に基づくウィグルマッチング結果

| 測定番号 | 採取位置 (最外年輪から) | 暦年較正用 (yrBP) | 1 σ 暦年代範囲 | 2 σ 暦年代範囲 |
|-------------|---------------|----------------|-----------------------------|-----------------------------|
| IAAA-171516 | 1 ~ 5年輪 | 1,658 \pm 22 | 358calAD - 375calAD (68.2%) | 351calAD - 389calAD (95.4%) |
| IAAA-171517 | 56 ~ 60年輪 | 1,782 \pm 23 | 303calAD - 320calAD (68.2%) | 296calAD - 334calAD (95.4%) |
| IAAA-171518 | 106 ~ 110年輪 | 1,723 \pm 23 | 253calAD - 270calAD (68.2%) | 246calAD - 284calAD (95.4%) |
| IAAA-171519 | 166 ~ 170年輪 | 1,849 \pm 23 | 193calAD - 210calAD (68.2%) | 186calAD - 224calAD (95.4%) |
| IAAA-171520 | 206 ~ 210年輪 | 1,850 \pm 23 | 153calAD - 170calAD (68.2%) | 146calAD - 184calAD (95.4%) |
| | | 試料No.1の最外年輪年代 | 360calAD - 377calAD (68.2%) | 353calAD - 391calAD (95.4%) |

[参考値]



第17図 試料 No.1 ウィグルマッチングによる炭化材最外年輪の暦年較正年代グラフ

第18図 試料 No.1 のウィグルマッチング
(第17図のグラフに表れたピークを最外年輪と見なした場合)

2) 試料 No.2 ~ 5 について

ウィグルマッチングを行わない試料4点の¹⁴C年代は、No.2が1800 \pm 20yrBP、No.3が950 \pm 20yrBP、No.4が220 \pm 20yrBP、No.5が1,830 \pm 20yrBPである。暦年較正年代(1 σ)は、No.2が141 ~ 250cal AD、No.3が1030 ~ 1150cal ADの間にそれぞれ3つの範囲、No.4が1652 ~ 1798cal ADの間に2つの範囲と、1945cal AD以降の範囲、No.5が139 ~ 219cal ADの間に2つの範囲で示される。No.2・5が弥生時代後期頃、No.3が平安時代の後半頃、No.4が近世から現代頃に相当する〔小林2009、佐原2005〕。基盤層より下から出土し、平安時代より古いとされるNo.2・5、近世以降と推定されるNo.4については、発掘調査の所見と整合する結果である。No.3は、平安時代の遺構が確認されるIV層中から出土したため、平安時代より古いと考えられたが、測定結果は平安時代となった。なお、No.4の較正年代については、記載された値よりも新しい可能性がある点に注意を要する(第8表下の警告参照)。

試料No.2・5とNo.4の年代については、以下の点を考慮する必要がある。

試料No.2・5が含まれる1 ~ 3世紀頃の暦年較正に関しては、北半球で広く用いられる較正曲線IntCalに対して日本産樹木年輪試料の測定値が系統的に異なるとの指摘がある〔尾崎2009、坂本2010など〕。その日本産樹木のデータを用いて、この試料の測定結果を暦年較正した場合、ここで報告する較正年代値よりも新しくなる可能性がある。

試料No.4については、次に記す古木効果と、較正曲線に関する注意点がある。

樹木は外側に年輪を形成しながら成長するため、その木が伐採等で死んだ年代を示す試料は最外年輪から得られ、内側の試料は年輪数の分だけ古い年代値を示す(古木効果)。この柱根は角柱状に加工され、本来の最外年輪を確認できないことから、柱根の実際の年代は測定された年代値より新しい可能性がある。

またNo.4が含まれる日本列島周辺の近世における暦年較正に関しては、IntCalに表れない較正曲線のウィグルの存在など、細部においてIntCalと異なる可能性が指摘されている〔中尾ほか2015、坂本ほか2015〕。このため、今回IntCalで較正されたNo.4の較正年代についても、日本産樹木年輪試料のデータに基づいて較正すれば、若干異なる年代値となる可能性がある。

試料の炭素含有率は、No.2・3が57%、No.4が51%、No.5が60%の適正な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

第七章 総括

第1節 遺構

亀田道下遺跡では、古代と近世以降の遺構が確認された。古代の遺構と近世以降の井戸の分布を第19図に、遺跡周辺の旧地割図を図版3に、調査地周辺を拡大した旧土地利用図を第20図に示した。遺構確認はIV層上面で行った。遺構確認面の標高は0.6～0.7mで推移し、調査区全体に北東から南西に向かって緩やかに高くなる地形である。第19図で示したように調査区は南西から北東に横断するSD128によって区画され、近世以降の井戸はこの溝から北側に集中する。土層においてもSD128以北では、層厚約0.5mで盛土層がみられ、近世以降に宅地として利用するため改変が行われたものと推定される。一方、SD128以南は畑や果樹栽培に利用され、近世以降の土地利用の影響が比較的少ない。古代の遺構が調査区南側を主体とした分布となることは、近世以降の土地利用の結果を反映したものといえよう。

古代の遺構

調査区南側を主体に、土坑10基、溝7条、畑の畝間と推定される小溝2条、小土坑22基が確認された。後述のように出土遺物は春日編年VI期(9世紀後半)を主体とし、一部にIV期(8世紀後半)のものが含まれる。出土遺物から概ね9世紀後半の遺構と考えられる。掘立柱建物は確認されず、溝と土坑に限られることから、調査地は集落の縁辺から生産域に至る地点と推察される。以下、自然科学分析の結果を加えて特徴的な遺構について触れておく。

SK457は調査区南側の13Kグリッドに位置する遺構で、8世紀代に遡る新津丘陵産とみられる須恵器杯が出土しており、他の遺構より古い時期のものと考えられる。

一方、SD330は調査区北半の9～11Iグリッドにおいて検出され、ほぼ南北に延びる全長22.5mの溝である。9世紀後半に位置付けられる土師器煮炊具や須恵器杯蓋などが比較的まとまって出土しており、同時期の所産と考えられる。SD330以西において古代の遺物出土が比較的多く(図版6参照)、SD108・SD358といった古代の遺構が検出されている。これに対し、SD330より東側では古代の遺構は検出されず、遺物量も少なくなる。微地形の上でも調査区南西側に向かって高くなることから、SD330の西側に集落域が存在し、SD330は集落境界を区画する性格を有する可能性がある。

また、SD330の埋土では3,400～3,700個/gと比較的高い密度のイネの植物珪酸体やイネ科の花粉が認められた。SD257においても5,500個/gのイネの植物珪酸体が検出されている。構成は明らかでないが、SD257の南東側に断続的に続くSD255・SN504・SN503と合わせ、周辺部において稲作が行われていたと推定され、生産に関連した遺構の可能性はある。

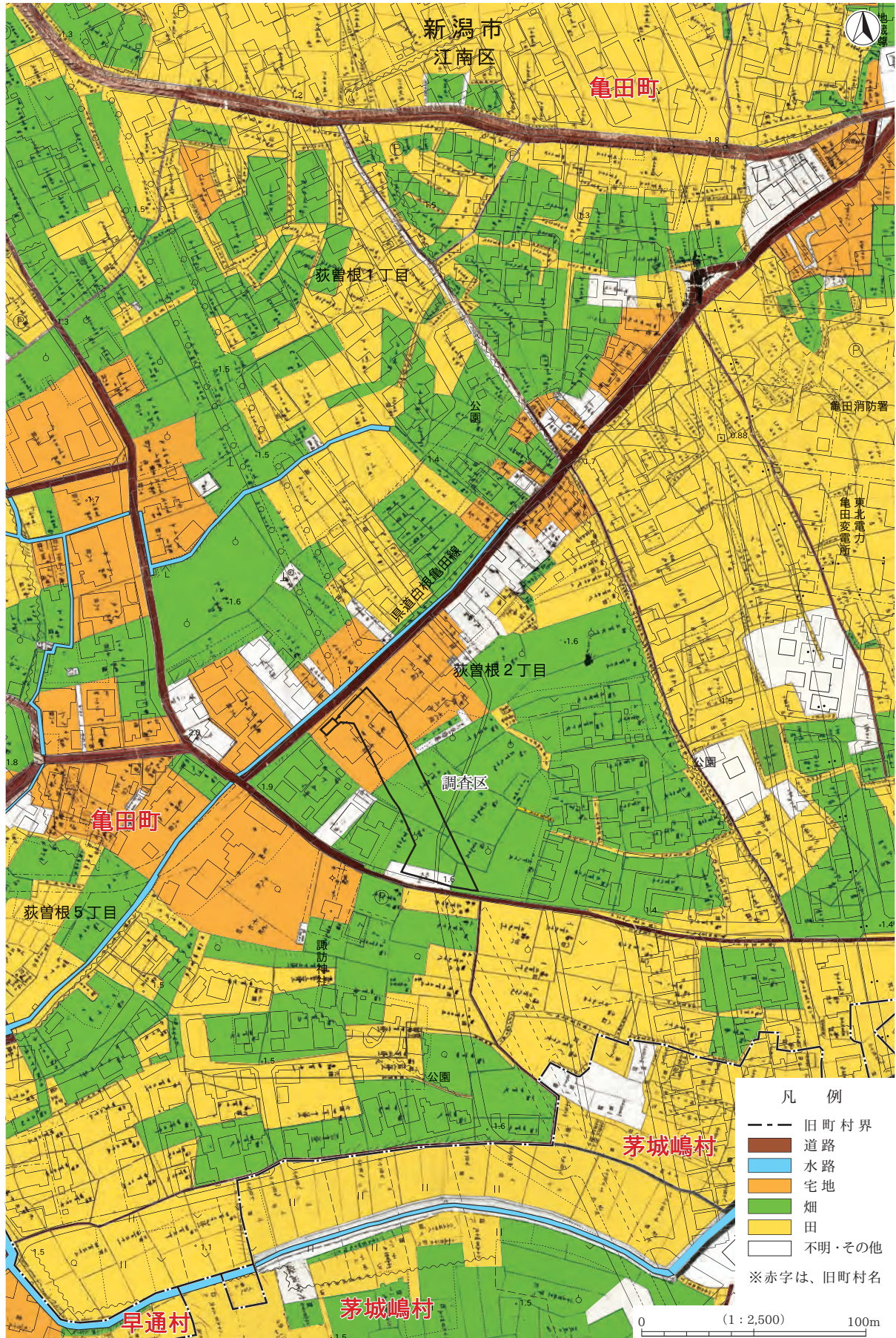
近世以降の遺構

近世以降の遺構としては、北西から南東方向及びこれに直交する区画溝、3棟の掘立柱建物、井戸18基などが確認された。遺構の大部分が調査区中央やや北寄りを横断する区画溝SD128より北西側に分布する。第20図の旧地割図では、調査区北側に面する道路が確認できる。また、北側が宅地で南側が果樹園・畑となっており、調査で確認された近世以降の遺構配置との一致が見られた。これらのことから、区画溝SD128より北西側を屋敷地としてとらえ、ここでは屋敷地内の遺構について考察していく。

今回の調査で確認された近世以降の井戸18基は、すべて区画溝SD128より北西側の屋敷地内で検出された。特に調査区北東側では複数の井戸が重なるように集中しており、繰り返し掘り直された様子がうかがえる。以下、



第 19 図 亀田道下遺跡 遺構配置図



第 20 図 亀 田 道 下 遺 跡 周 辺 の 旧 地 割 図

出土遺物から大まかな変遷を検討する。

調査区北東側に位置する井戸群では、SE126で17世紀中葉から18世紀前半の陶磁器が出土しており、井戸群の中で最も古いと推定される。SE104・SE105からは18世紀代を中心とする陶磁器が出土しており、SE126より新しいと考える。これに続くのがSE102で、18世紀末から19世紀中頃の陶磁器が出土している。最も新しいと考えられるのはSE315で、掲載はしていないが19世紀代の陶磁器のほか、銅線が出土しており、近・現代まで下る可能性もある。また、井戸側の名残である箍が残存しており、底部には浄化施設と考えられる砂利が敷かれていた。

一方、調査区中央付近でも井戸が集中して検出されている。この調査区中央の井戸群では、SE135で17世紀後葉から18世紀中葉の陶磁器が出土しており、古手の様相を示している。SE135の西側に位置するSE329・SE367は、出土陶磁器からSE135と同様の時期に比定されると考える。これに続くのが調査区西側のSE113・SE118で、18世紀後半の陶磁器が出土している。隣接するSE111・SE120では19世紀後半の陶磁器が出土しており、SE113・SE118より新しく、近代まで使用されていたと推定される。

調査区北東側の井戸群と中央部の井戸群は、それぞれ近接した場所に掘り直しながら、近代まで継続して使用していたことがうかがえる。使用用途が異なるかは不明であるが、いずれの井戸群も18世紀には使用が開始されており、出土陶磁器の年代から同時期に使用されていた可能性が高いと考える。

次に、屋敷地内の遺構配置について概観していく。前述したように、調査区中央に伸びるSD128は屋敷地の区画溝である。また、第20図を見ると、調査区北東端に隣家との境が示されており、この境界の線とSD9がほぼ一致していることから、SD9も区画溝として機能していたと考える。屋敷地内の2か所に分布する井戸群はいずれもこの区画溝に隣接していることから、これらの井戸群は屋敷地の端に配置されていたと推察される。

一方、屋敷地内では掘立柱建物が3棟確認されており、主軸方向等も概ね共通性が認められた。屋敷地の北西側に2棟、東側に1棟分布している。いずれも小規模で、主屋に相当する建物ではなく作業小屋的な建物と推測される。ただ、北西側の掘立柱建物周辺には柱穴跡と思われるピットが多く分布しており、他にも建物があったことが推察される。また、調査区西端に位置するPit294からは比較的大きな柱根が検出している。これらのことから、調査区北西側が居住の中心で、主屋に相当する建物が調査区外西側に展開していた可能性が高いと考える。

第2節 遺物

A 古代の遺物

亀田道下遺跡では古代の土器が出土した。遺構出土の土器は少なく、良好な一括資料も得られなかった。ここでは個別の遺構についての検討は行わず、包含層も含めた出土土器全体の様相について概観していく。新潟県内の古代の土器編年は春日真実氏によってまとめられている〔春日1999・2005ほか〕（以下、「春日編年」という）。これをもとに亀田道下遺跡出土土器の編年的位置付けを行う。

今回の調査で出土した古代の土器は土師器が主体で、全体の重量比で75%を占める。器種別では煮炊具が多く出土している。一方、食膳具の比率では、土師器無台椀が重量比で65%を占め、主体となる。個別にみていくと、土師器無台椀は薄手の作りで、底部から口縁部が大きく開いて立ち上がる形態が主体となる。また、口縁端部で外反するものも多く見られる。須恵器食膳具は佐渡小泊窯跡群産を中心に、新津丘陵窯跡群産や阿賀北地方産が確認される。佐渡小泊産須恵器の無台杯は全体的に口縁部の開きが大きい。新津丘陵産の無台杯は底部が丸底気味で、有台杯は底径が大きく浅い器形となっている。土師器長甕はロクロ成形で、口縁部の形態は端部を摘み上げるものが主体となっており、小甕も同様の様相を示す。この他に非ロクロ成形の長甕もわずかではあるが出土している。

古代全体で土師器が主体となり、食膳具において土師器無台碗が高い割合で確認できることから、本遺跡の古代の土器は春日編年Ⅵ期の範疇であると考えられる。土師器無台碗や長甕、佐渡小泊産の須恵器無台杯の形態も春日編年Ⅵ期の様相を示しており、本遺跡における古代の中心的な時期と考える。一方、新津丘陵産や阿賀北地方産の須恵器食膳具で佐渡小泊産より古相を示す資料が確認された。また、これらの須恵器と同時期と思われる非ロクロ成形の長甕も出土している。これらの土器は形態から春日編年Ⅳ期に位置付けられると考える。以上のことから、亀田道下遺跡の古代の土器は春日編年Ⅳ期からⅥ期の時期幅が想定され、このうち春日編年Ⅵ期が主体となる。

B 近世の土器・陶磁器

今回の調査では多くの近世陶磁器や土師質土器が出土した。ここでは最も編年研究が進んでいる肥前陶磁器を中心に整理し、亀田道下遺跡の位置付けを考察していく。

本遺跡から出土した近世陶磁器の点数比・重量比を改めて見ていくと、出土陶磁器の総数は2,190点、総重量は41,563gである。産地別では肥前系陶磁器が圧倒的に多く、点数で1,610点、重量は21,166gに及ぶ。次に関西系陶磁器（京・信楽系など）が多く、そのほかに須佐唐津、越中瀬戸、瀬戸美濃焼などが確認できる。器種については碗・皿などの食膳具が半数以上を占めており、次いで鉢、播鉢、瓶、壺、甕などが続く。そのほか、嗜好品である火入や香炉が一定量出土している。

次に、種別ごとに検討する。肥前系陶器は主に皿や鉢、播鉢が出土した。17世紀前半～19世紀前半までの資料が確認されている。17世紀前半に位置付けられるのは口縁端部が水平方向に肥厚し、口縁部だけに鉄釉が施釉されるロクロ成形の播鉢で、今回の調査で出土した近世陶磁器の中で最も古い段階の資料である。出土量は少ないが、本遺跡の存続期間を考えるうえで重要な資料である。続く17世紀後半～18世紀前半には播鉢の他に皿や鉢などの器種が確認できるようになり、遺物量は増加する。播鉢は17世紀後半のロクロ成形で玉縁状の口縁部だけに鉄釉をかける形態と、18世紀に位置付けられる叩き成形で鉄釉も全面にかかる形態のものが出土している。皿は外面に透明釉、内面に銅緑釉を施釉する「掛け分け」タイプが主体で、鉢は白化粧土で刷毛目文様を施すものが多く確認できる。その後、18世紀後半から19世紀になると遺物量は減少する。

肥前磁器は碗や皿などの食膳具が主体で、これに瓶や火入が伴う。17世紀中葉～19世紀後半にわたって出土しており、18世紀に比定されるものが多く出土している。肥前磁器で最も古い段階に位置付けられるのは17世紀中葉の資料である。皿が多く、高台無釉の碗や青磁の火入（香炉）などが確認される。続く17世紀後半には碗や皿のほか、瓶も出土している。18世紀に入ると遺物量は増加し、器種が豊富になる。特に碗が急増しており、器種の主体となる。19世紀には碗が一定量見られるが、肥前陶器同様、遺物量は減少している。

関西系の陶磁器としては信楽焼や京焼が見られる。陶器が主体で、18世紀～19世紀の資料が確認されている。器種は碗のほかには鉢や行平鍋が出土している。また、出土数は少ないが、丹波焼の壺も確認された。

須佐唐津は播鉢が出土した。ロクロ成形で、口縁を折り返して口縁帯を作る。体部が直線的に伸びるものと丸みを帯びるものがあり、底部は無台と削り出し高台の両方が確認された。新潟県内では「17世紀後半～18世紀前半に流通する」〔渡邊2009〕と指摘されており、本遺跡でも同様の時期と考える。

このほかに越中瀬戸や19世紀の瀬戸美濃焼、18世紀後半頃の東北系の陶磁器などがわずかに見られる。また、19世紀後半には地元産の磁器も出土している。

以上のように、亀田道下遺跡における近世陶磁器の年代幅は17世紀前半から19世紀後半にわたる。17世紀代から器種は多様であるが、18世紀に遺物量が増加し、本遺跡の中心の時期となる。傾向としては、新潟県内の他の遺跡と同様に肥前陶磁器が卓越している。出土した遺物は食膳具や調理器具など一般的なものが大半を占めるが、中には優良品や火入・香炉といった嗜好品も確認できる。これらは経済力の高さをうかがわせる遺物で、本遺跡の性格を考える上で重要な資料といえる。

第 3 節 亀田道下遺跡の変遷と性格

本報告にて述べてきたように、亀田道下遺跡は亀田砂丘後列（新砂丘 I -3）の西端部にあたる沖積地の微高地上に立地し、古代と 17 世紀後半以降の遺構・遺物が出土した。古代の遺構確認面より下層において立木や風倒木が検出され、遺跡形成以前の古環境に関する成果が得られた。自然科学分析結果から得られた古環境の変遷と遺跡の性格について触れ、まとめたい。

近現代の井戸 SE315 横で根を張った状態の立木が出土した。根の部分は遺構確認面下 1.5m、標高 -1.0m の地点にあり、幹部分 1.3m が残存した。根の上 0.5m の部分で輪切りにして試料採取を行った（試料 No.1）。試料採取位置で直径 0.42m、幹回り 1.3m、年輪数は 210 を数える。自然科学分析の結果、トネリコ属と同定され、ウィグルマツチング法による年代は 4 世紀後半（古墳時代前期後半から中期前半）であった（第Ⅵ章第 5 節）。幹が残存する深度では、表皮が残存し風化の影響が少ないことから急速な埋没に伴い枯死したものと推察された。立木の埋土である V a ～ c 層・VI 層は青灰色砂質シルトと暗褐色シルトの互層となっており、その形成期にはハンノキの湿地林が、周辺にはスギとコナラ属コナラ亜属の森林が分布し、気候は冷涼で湿潤であったと推定される（第Ⅵ章第 3 節）。一方、調査区南端部では、工事に伴う掘削により V 層（現地表下約 1.0m）から直径約 1m の



第 21 図 亀田道下遺跡 周辺の地形（〔立木・細野ほか 2013〕より一部改変）

風倒木が出土した（試料 No.5）。自然科学分析の結果、ニレ属と同定され、放射性炭素年代測定により 2 世紀中頃から 3 世紀前半（弥生時代後期）とされた。根株が確認されず水流等により移動した可能性も否定できないものの、本遺跡周辺は、こうした樹木の存在から試料 No.1 の立木が埋没する前の数百年間に渡り高木が繁茂する森林が広がり、比較的安定した地盤が形成されていたと推定される。なお、先述のように本遺跡は亀田砂丘西端部に位置するが、今回の調査に伴う掘削深度内では、砂丘砂やこれに伴う黒色砂層は検出されていない。



第 22 図 樹木（ニレ属）検出状況

続く古代の遺構が確認される IV 層の形成時には、やや乾燥した草本域が拡大し、森林が減少する。また、古代の溝 SD330 の 1 層形成時にはイネ属型を含むイネ科花粉が増加し、人為的改変地および農耕地が拡大したものと推定された。古代では建物跡などの居住に関連する遺構は検出されなかったが、土坑や畝間状遺構、溝が確認されており、古代集落の一部あるいは縁辺部と考えられる。出土遺物から主体となる時期は 9 世紀後半である。9 世紀後半の集落は、住耕一体型が一般的とされている（坂井 1999）。今回の調査では調査区南側に畝間状遺構が検出され、北西側で遺構や遺物が多く確認されていることから、調査区南側に生産域、調査区北西側から調査区外の西側に居住域が広がっていたと推察される。また、第 21 図や図版 2 をみると本遺跡の東側は低湿地であったことがわかる。これは鳥屋野潟方面から亀田砂丘を縦貫し、阿賀野川へ至る旧河道の痕跡と推察される。この旧河道沿いには駒首潟遺跡（渡邊ほか 2009）や手代山北遺跡（朝岡・丹下ほか 2009）、日水遺跡（今井ほか 2007、立木・細野ほか 2013）、筑木遺跡（龍田ほか 2018）など、多くの遺跡が点在しており、亀田道下遺跡もこれらの遺跡と関連した小集落の一つであったと考える。

10 世紀代には活動痕跡がいったん途絶える。中世の集落は、三王山遺跡（酒井 1980、朝岡ほか 2010）・荒木前遺跡（渡邊ま 1991、川上 1996a）などのように、主に亀田砂丘前列上および付近の砂丘間の低地に所在する。一方、亀田砂丘後列西端部では、中世に存続する遺跡は希薄になり、9 世紀後半の拠点集落である駒首潟遺跡も 10 世紀代には廃絶する。本遺跡周辺の自然堤防が居住に適さない環境となったことがうかがわれる。

再び当地において活動痕跡がみられるのは 17 世紀後半以降である。近世以降の遺構として、掘立柱建物や井戸、区画溝、畝間状遺構が検出されており、生産域が隣接する屋敷地として機能していたと考えられる。本遺跡の所在する荻曾根新田は、江戸時代初期の元和一寛永（1615～1644）年間から開発が進められたとされる（小村 1959）。旧地割図（第 20 図）では、調査地周辺の土地利用について、北側が宅地、南側が果樹園・畑となっており、調査で確認された近世以降の遺構配置との一致が見られた。また、調査区北東端側の 10m 四方の範囲では、井戸 7 基が切り合う形で確認され、17 世紀後半から近現代の遺物が出土しており、継続的に水源として利用されたと推定される。各遺構からは 18 世紀代を中心に 17 世紀中頃から 19 世紀代の肥前陶磁器や越中瀬戸、京焼などの陶磁器や、漆器の椀や櫛、銭貨といった各種製品が出土した。このほか、鎌や多様な砥石の出土から、農業への関連が推定される。これら遺構・遺物の様相から、近世以降の調査地は、開村後の遅くとも 18 世紀代から継続して道路沿いに営まれた屋敷地の一部と推定され、同時期の農村の一様相を示す成果と評価される。

ところで、当地一帯は、文化一文政（1804～1829）年間頃、宇野藤五郎が広めたといわれる「藤五郎梅」の産地として知られ、付近には梅林が広がる。道路用地となるまで、調査区北側は宇野藤五郎の自家である宇野保氏（昭和 27 年生まれ）の居宅となっていた。宇野家の先祖は水害を避けるために江戸時代に当地に移ってきたとのことである。保氏は 15 代目で、代々農業を営み、また、保氏の母親トシ氏によれば、昭和 30 年頃に上水道（共同水道）が入るまでは井戸水を使っていたとのことである。金気（金属臭）があり、そのままでは飲水や調理には適さないため、井戸小屋があって井戸から汲んだ水を炭や砂で濾して使っていたという。調査で確認された屋敷地が宇野家であったかは判然としないが、遺構・遺物の様相に一致する点が見られる点を挙げておきたい。

引用・参考文献

- ア 相澤裕子 2015 「Ⅱ 2(2) 下郷南遺跡 第1・2次調査」『新潟市文化財センター年報』第2号 新潟市文化財センター
- 相田泰臣ほか 2012 『林付遺跡 第2次調査 -新潟市立潟東小学校体育館建設工事に伴う林付遺跡第2次発掘調査報告書-』新潟市教育委員会
- 相田泰臣・前山精明 2003 『菖蒲塚古墳・隼人塚古墳 - 2002年度確認調査の概要』巻町教育委員会
- 相田泰臣・前山精明 2005 『菖蒲塚古墳・隼人塚古墳Ⅱ - 2003年度確認調査の概要』巻町教育委員会
- 相田泰臣・渡邊朋和ほか 2014 『史跡 古津八幡山遺跡発掘調査報告書 -第15・16・17・18・19次調査-』新潟市教育委員会
- 相田泰臣・金田拓也・八藤後智人ほか 2015 『大沢谷内遺跡Ⅳ 第19・20・21次調査 -一般国道403号小須戸田上バイパス整備工事に伴う大沢谷内遺跡第12・13・14次調査-』新潟市教育委員会
- 相羽重徳 2003 「越中瀬戸広口壺に関する粗描」『研究紀要』第4号 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 相羽重徳 2010 「新潟県における近世播鉢の流通Ⅰ(上越編)」『三面川流域の考古学』第8号 奥三面を考える会
- 相羽重徳 2011 「出土資料にみる近世会津藩領への陶磁器流通とその周辺」『三面川流域の考古学』第9号 奥三面を考える会
- 相羽重徳・竹部佑介 2011 「新潟県における近世播鉢の流通Ⅱ(佐渡・三島郡・古志郡編)」『三面川流域の考古学』第10号 奥三面を考える会
- 相羽重徳・渡邊大士ほか 2011 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第226集 北陸新幹線関係発掘調査報告書XX 竹花遺跡Ⅱ』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 赤羽正春・高橋知之 1994 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第62集 横雲バイパス関係発掘調査報告書 上郷遺跡Ⅰ』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 朝岡政康ほか 2010 『三王山遺跡Ⅱ 第4・7次調査 -新潟市立亀田中学校校舎・体育館改築工事に伴う三王山遺跡第2・4次発掘調査報告書-』新潟市教育委員会
- 朝岡政康・丹下昌之ほか 2009 『手代山北遺跡 第2・3次調査 -市道亀田南線建設事業に伴う手代山北遺跡第2・3次発掘調査報告書-』新潟市教育委員会
- 朝岡政康・諫山えりか 2003 『東團遺跡 卸売市場建設に伴う市道東8-273建設事業用地内発掘調査報告書』新潟市教育委員会
- 甘粕 健・小野 昭ほか 1993 『越後山谷古墳』巻町教育委員会・新潟大学考古学研究室
- 甘粕 健・川村浩司ほか 1992 『古津八幡山古墳Ⅰ 1991年測量調査報告書』新潟市教育委員会
- 荒川隆史ほか 2006 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第153集 一般国道49号安田バイパス関係発掘調査報告書Ⅰ 大坪遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 荒川隆史・加藤 学ほか 1999 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第93集 和泉A遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- イ 飯坂盛泰・山崎忠良ほか 2017 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第269集 一般国道253号上越三和道路関係発掘調査報告書 堂古遺跡 下割遺跡Ⅵ 二反割遺跡Ⅱ』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 家田順一郎 1987 『小丸山遺跡(小丸山遺跡緊急発掘調査報告書)』横越村教育委員会
- 伊藤秀和 2005 『加茂市文化財調査報告(14) 馬越遺跡 -国道403号線道路改良工事に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書-』加茂市教育委員会
- 伊藤啓雄 2012 「北陸信越地域における近世六道銭 新潟県」『宮田進一氏追悼集』出土銭貨研究会・北陸信越出土銭貨研究会
- 今井さやか 2015 「Ⅱ 2(11) 近世新潟町跡 試掘・確認調査及び工事立会」『新潟市文化財センター年報』第2号 新潟市文化財センター
- 今井さやか 2016 「Ⅱ 2(11) 近世新潟町跡第19～22次調査」『新潟市文化財センター年報』第3号 新潟市文化財センター
- 今井さやか 2017 「Ⅱ 2(7) 近世新潟町跡第23・24・27次調査」『新潟市文化財センター年報』第4号 新潟市文化財センター

- 今井さやか 2018 「Ⅱ 2 (11) 近世新潟町跡第 32・38 次調査、第 27 次調査に伴う工事立会」『新潟市文化財センター年報』第 5 号 新潟市文化財センター
- 今井さやかほか 2007 『日水遺跡第 3 次調査 - 鍋田土地区画整理事業に伴う日水遺跡発掘調査報告書-』新潟市教育委員会
- ウ 上野一久・春日真実 1997 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 87 集 横雲バイパス関係発掘調査報告書 上郷遺跡Ⅱ』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 宇佐美亮・川村 尚ほか 2005 『小泊窯跡群Ⅰ』佐渡市教育委員会
- 宇野隆夫 1991 『律令社会の考古学的研究 北陸を舞台として』桂書房
- 宇野隆夫 1992 「食器計量の意義と方法」『国立歴史民俗博物館研究報告』第 40 集 国立歴史民俗博物館
- エ 江口友子 2001 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 102 集 国道 49 号横雲バイパス関係発掘調査報告書Ⅳ 川根谷内墓所遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 江戸遺跡研究会 2017 『江戸遺跡研究会第 30 回大会 江戸の遊び〔発表要旨〕』
- 遠藤恭雄 2004 『下前川原遺跡 新潟県豊栄市下前川原遺跡発掘調査報告』豊栄市教育委員会
- 遠藤恭雄 2016 「Ⅲ 2 (3) 手代山北遺跡 第 4 次調査」『新潟市文化財センター年報』第 3 号 新潟市文化財センター
- 遠藤恭雄 2018 「亀田道下遺跡」『平成 29 年度 新潟市遺跡発掘調査速報会 最新調査成果が語る新潟市の歴史』新潟市埋蔵文化財センター
- 遠藤恭雄・澤野慶子ほか 2014 『沖ノ羽遺跡Ⅴ 第 18・19 次調査 - 県営ほ場整備事業(担い手育成型) 満日地区に伴う沖ノ羽遺跡第 11・12 次発掘調査報告書-』新潟市教育委員会
- 遠藤恭雄・澤野慶子ほか 2016 『沖ノ羽遺跡Ⅵ 第 19・22・24 次調査 - 県営ほ場整備事業(担い手育成型) 満日地区に伴う沖ノ羽遺跡第 12・15・17 次発掘調査報告書-』新潟市教育委員会
- オ 大橋康二 1989 『肥前陶磁』考古学ライブラリー 55 ニューサイエンス社
- 大橋康二 1994 『古伊万里の文様 初期肥前磁器を中心に』理工学社
- 大橋康二ほか 1988 『古伊万里』別冊太陽 No.63 平凡社
- 小野 昭 1994a 「ケカチ堂遺跡」『巻町史』資料編 1 考古 巻町
- 小野 昭 1994b 「御手洗山遺跡」『巻町史』資料編 1 考古 巻町
- 小野 昭 1994c 「福井遺跡」『巻町史』資料編 1 考古 巻町
- カ 春日真実 1991 「古代佐渡小泊窯における須恵器の生産と流通」『新潟考古学談話会会報』第 8 号 新潟考古学談話会
- 春日真実 1995a 「古代集落の展開」『研究紀要』(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実 1995b 「越後・佐渡における 8 世紀中葉の画期」『北陸古代土器研究』第 5 号 北陸古代土器研究会
- 春日真実 1997a 「越後・佐渡における 9 世紀中葉の画期」『北陸古代土器研究』第 6 号 北陸古代土器研究会
- 春日真実 1997b 「越後における 10・11 世紀の土器様相」『北陸古代土器研究』第 7 号 北陸古代土器研究会
- 春日真実 1999 「第Ⅳ章 古代 第 2 節 土器編年と地域性」『新潟県の考古学』新潟県考古学会編 高志書院
- 春日真実 2000 「考古編 第 5 章 まとめ」『吉田町史 資料編 1 考古・古代・中世』吉田町
- 春日真実 2003 「消費遺跡出土佐渡小泊産須恵器のロクロ回転方向 - 越後出土の資料を中心に -」『研究紀要』第 4 号 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実 2005 「越後における奈良・平安時代土器編年の対応関係について - 「今池編年」・「下ノ西編年」・「山三賀編年」の検討を中心に -」『新潟考古』第 16 号 新潟県考古学会
- 春日真実 2007 「越後における古代の煮炊具について」『新潟考古』第 18 号 新潟県考古学会
- 春日真実 2009 「越後における古代掘立柱建物」『新潟県の考古学Ⅱ』新潟県考古学会
- 春日真実ほか 1996 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 76 集 磐越自動車道関係発掘調査報告書 江内遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実ほか 2004 『越後阿賀北地域の古代土器様相』新潟古代土器研究会
- 春日真実・笹澤正史 1999 「越後・佐渡の様相」『北陸古代土器研究』第 8 号 北陸古代土器研究会
- 金子拓男ほか 1983 『緒立遺跡発掘調査報告書』黒崎町教育委員会
- 亀田町史編さん委員会 1988 『亀田の歴史』通史編上巻 亀田町
- 鴨井幸彦 2018 『越後平野の地盤と防災 - 腐植土層(軟弱地盤)の厚さと平野のなりたちをめぐるなぞ-』一般社団法人北陸地域づくり協会
- 川上貞雄 1981 『五泉市文化財調査報告(2) 山崎須恵窯跡緊急発掘報告書』五泉市教育委員会

- 川上貞雄 1982 『亀田町文化財調査報告 2 中の山遺跡発掘調査報告書』 亀田町教育委員会
- 川上貞雄 1993 『横越村文化財調査報告 2 山ノ家遺跡緊急発掘調査報告書』 横越村教育委員会
- 川上貞雄 1994 『八幡山遺跡 I 遺構編』 新津市教育委員会
- 川上貞雄 1996a 『亀田町文化財調査報告 2 荒木前遺跡第 2 次調査 新潟県中蒲原郡亀田町・荒木前遺跡発掘調査報告書』 亀田町教育委員会
- 川上貞雄 1996b 『金津丘陵製鉄遺跡群 居村 B・D 地区』 新津市教育委員会
- 川上貞雄 1997 『上浦 A 遺跡 新津市工業団地第 2 期工事地内発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 川上貞雄・木村宗文・鈴木郁夫 1989 『新津市史』資料編第 1 巻 原始・古代・中世 新津市
- 川村 尚 2002 『佐渡郡羽茂町小泊窯跡』『新潟県考古学会第 14 回大会 研究発表会発表要旨』 新潟県考古学会
- 川村 尚・鹿取 渉ほか 2010 『佐渡市内遺跡発掘調査報告Ⅱ 平成 19・20 年度の調査 佐渡金銀山遺跡の調査 小泊窯跡群の調査』 佐渡市教育委員会
- キ 北野博司 1999 「須恵器貯蔵具の器種分類案」『北陸古代土器研究』第 8 号 北陸古代土器研究会
- 木村宗文 1989 「資料解説 一古代越後国と蒲原郡」『新津市史』資料編第 1 巻 原始・古代・中世 新津市
- 木村宗文 1993 「初期荘園の成立」『新津市史』通史編 上巻 新津市史編さん委員会
- 九州近世陶磁学会編 2000 『九州陶磁の編年 一九州近世陶磁学会 10 周年記念一』
- コ 小池邦明 1999 『山木戸遺跡第 2 次発掘調査概要』 新潟市教育委員会
- 小池邦明ほか 1992 『山木戸遺跡第 1 次発掘調査概報』 新潟市教育委員会
- 小池邦明・藤塚 明 1993 『新潟市の場遺跡 的場土地区画整理事業用地内発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
- 小池邦明・本間圭吉 1995 『新潟市小丸山遺跡 直り山団地建設事業用地内発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
- 小池義人 1999 「第 4 章 古代 第 4 節 生産と流通 第 1 項 水田遺構」『新潟県の考古学』 高志書院
- 小林昌二編 1996 『越と古代の北陸』 名著出版
- 小林 存 1952 『新津市誌』 新津市
- 小林 等・石田明夫 2000 『会津若松市史 14 文化編 1 陶磁器 会津のやきもの』 会津若松市
- 小村 弐 1959 『亀田町史』 亀田町
- 小山正忠・竹原秀雄 1967 『新版標準土色帖』 農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所監修
- サ 酒井和男 1980 『三王山遺跡』 亀田町教育委員会
- 酒井和男 2000a 「小丸山遺跡」『横越町史』資料編 横越町
- 酒井和男 2000b 「山ノ家遺跡」『横越町史』資料編 横越町
- 酒井和男ほか 1987 『大江山地区の遺跡』 新潟市教育委員会
- 酒井和男・廣野耕造 2002 「新潟砂丘における居住の初源」『新潟考古』第 13 号 新潟県考古学会
- 坂井秀弥 1988 「越後・佐渡における古代土器の生産と流通 一 8～10 世紀を中心として一」『シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題』報告編 石川考古学会・北陸古代土器研究会
- 坂井秀弥 1989a 「第 VII 章 まとめ 2 奈良・平安時代の土器」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 53 集 新新バイパス関係発掘調査報告書 山三賀Ⅱ遺跡』 新潟県教育委員会・建設省北陸地方建設局新潟国道工事事務所
- 坂井秀弥 1989b 「北陸型土師器長甕の製作技法」『新潟考古学談話会会報』第 3 号 新潟考古学談話会
- 坂井秀弥 1990a 「山三賀Ⅱ遺跡からみた阿賀北地方の古代土器」『新潟考古学談話会会報』第 4 号 新潟考古学談話会
- 坂井秀弥 1990b 「古代ロクロ土師器甕の二系譜と須恵器との関係」『新潟考古学談話会会報』第 6 号 新潟考古学談話会
- 坂井秀弥 1994 「庁と館、集落と屋敷 一東国古代遺跡における館の形成一」『城と館を掘る・読む 一古代から中世へ一』 山川出版社
- 坂井秀弥 1996 「水辺の古代官衛遺跡 一越後平野の内水面・舟運・漁業」『越と古代の北陸』 名著出版
- 坂井秀弥 1999 「第 IV 章 古代 第 1 節 総論」『新潟県の考古学』 高志書院
- 坂井秀弥 2008 『古代地域社会の考古学』 同成社
- 坂井秀弥ほか 1984 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 35 集 上新バイパス関係遺跡発掘調査報告書Ⅰ 今池遺跡・下新町遺跡・子安遺跡』 新潟県教育委員会
- 坂井秀弥ほか 1989 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 53 集 新新バイパス関係発掘調査報告書 山三賀Ⅱ遺跡』 新潟県教育委員会・建設省北陸地方建設局新潟国道工事事務所

- 坂井秀弥・鶴間正昭・春日真実 1991「佐渡の須恵器」『新潟考古』第2号 新潟県考古学会
- 坂上有紀 2003 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第118集 磐越自動車道関係発掘調査報告書 上浦遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 佐賀県立九州陶磁文化館 2012 『古伊万里の文様集成』
- 笹澤正史 2004 「第IV章 各論 1 須恵器生産の概要」『越後阿賀北地域の古代土器様相』新潟古代土器研究会
- 佐藤友子ほか 2008 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第187集 一般国道7号線万代橋下流橋関係発掘調査報告書 近世新潟町跡(広小路堀地点)』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 佐藤友子ほか 2012 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第238集 一般国道8号白根バイパス関係発掘調査報告書II 小坂居付遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- ス 鈴木俊成・春日真実・高橋一功 1994 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第60集 北陸自動車道 上越市春日・木田地区発掘調査報告書IV 一之口遺跡東地区』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- タ 田口昭二 1983 『美濃焼』考古学ライブラリー17 ニューサイエンス社
- 田口昭二 1993 「美濃窯の焼物」『多治見の古窯』第3号 多治見市教育委員会
- 田嶋明人 1988 「古代土器編年軸の設定」『シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題』報告編 石川考古研究会・北陸古代土器研究会
- 龍田優子ほか 2018 『笹木遺跡 第3次調査 - 主要地方道新潟中央環状線道路整備事業に伴う第3次発掘調査報告書-』新潟市教育委員会
- 田中一廣・丹下昌之ほか 2004 『結七島遺跡発掘調査報告書III』新津市教育委員会
- ツ 立木宏明ほか 1999 『中谷内遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 立木宏明・澤野慶子ほか 2004 『愛宕澤遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- 立木宏明・澤野慶子・八藤後智人ほか 2008 『沖ノ羽遺跡発掘報告書IV 第15次調査 - 県営ほ場整備事業(担い手育成型)満日地区に伴う沖ノ羽遺跡第8次発掘調査報告書-』新潟市教育委員会
- 立木宏明・奈良佳子ほか 2017 『細池寺道上遺跡VI 第44次調査 - 県営ほ場整備事業(担い手育成型)両新地区に伴う細池寺道上遺跡第19次発掘調査報告書-』新潟市教育委員会
- 立木宏明・奈良佳子ほか 2018 『細池寺道上遺跡VII 第46次調査 - 県営ほ場整備事業(担い手育成型)両新地区に伴う細池寺道上遺跡第21次発掘調査報告書-』新潟市教育委員会
- 立木宏明・奈良佳子ほか 2019 『細池寺道上遺跡VIII 第48次調査 - 県営ほ場整備事業(担い手育成型)両新地区に伴う細池寺道上遺跡第28次発掘調査報告書-』新潟市教育委員会
- 立木宏明・細野高伯ほか 2013 『日水遺跡II 第6次調査 - 市道亀田300号線道路改良工事に伴う日水遺跡第2次発掘調査報告書-』新潟市教育委員会
- テ 出越茂和 1999 「北加賀・能登地方の古代須恵器貯蔵具」『北陸古代土器研究』第8号 北陸古代土器研究会
- 寺村光晴 1960 「越後六地山遺跡」『上代文化』30 国学院大学考古学会
- ト 土橋由理子 2007 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第177集 一般国道49号亀田バイパス関係発掘調査報告書I 城所道上遺跡 武左衛門裏遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 土橋由理子 2009 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第200集 一般国道49号亀田バイパス関係発掘調査報告書II 西郷遺跡 大蔵遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 土橋由理子ほか 1999 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第91集 一般国道49号横雲バイパス関係発掘調査報告書III 牛道遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 土橋由理子ほか 2006 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第165集 日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書XVIII 馬見坂遺跡 正尺A遺跡 正尺C遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- ナ 中川成夫・倉田芳郎 1956 『新津田家七本松須恵器窯跡発掘調査報告書』北方文化博物館
- 中村孝三郎 1960 「西蒲原郡中野小屋村曾和弥生式六地山遺跡」『日本考古学年報』9 日本考古学協会
- 奈良国立文化財研究所 1985 『奈良国立文化財研究所 史料第27冊 木器集成図録 近畿古代篇』
- ニ 新潟県 1962 『新潟県市町村合併誌』
- 新潟県 1983 『新潟県史 資料編4』中世二 文書編III
- 新潟県 1984 『新潟県史 資料編5』中世三 文書編IV
- 新潟古砂丘グループ 1974 「新潟砂丘と人類遺跡 - 新潟砂丘の形成史I -」『第四紀研究』第13巻第2号 日本第四紀学会
- 新潟市国際文化部歴史文化課 2007 『新・新潟市歴史双書2 新潟市の遺跡』新潟市

- 新潟市史編さん原始古代中世史部会 1994 『新潟市史』資料編1 原始 古代 中世 新潟市
 新津市史編さん委員会 1987 『新津市史 資料編第二巻 近世一』 新津市
 新津市史編さん委員会 1990 『新津市史 資料編第三巻 近世二』 新津市
 新津市図書館 1979 『新津市誌 金津・小合・新関地区編』 新津市役所
 新津市立記念図書館 1974 『新津市史略年表 新津市のあゆみ』 新潟県新津市
- ノ 能登 健 1996 「6 中・近世の農業」『考古学による日本歴史 16 産業 I 狩猟・漁業・農業』 雄山閣
- ハ 橋本博文 2015 「新潟市東区牡丹山諏訪神社古墳をめぐって ～2014 発掘調査で分かったこと～」『平成 26 年度新潟市発掘調査速報会 ～最新成果が語る新潟市の歴史』 新潟市文化財センター
 橋本博文 2016 「新潟市牡丹山諏訪神社古墳 ー第 2 次発掘調査の成果ー」『新潟県考古学会第 28 回大会研究発表会発表要旨』 新潟県考古学会
 橋本博文・小林隆幸・奥田 尚 2014 「新潟県内初発見の円筒埴輪 ー新潟市東区牡丹山諏訪神社採集の埴輪片をめぐって」『人文科学研究』第 134 輯 新潟大学人文学部
- ヒ 廣野耕造 1996 『石動遺跡 平成 7 年度発掘調査概報』 新潟市教育委員会
 廣野耕造 1997 『笹山前遺跡・神明社裏遺跡・城山遺跡』 新潟市教育委員会
 廣野耕造 2000 『新潟市前田遺跡 県営かんがい排水事業に伴う発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
 廣野耕造・朝岡政康 1999 『大淵遺跡 宅地開発事業に伴う発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
- フ 藤塚 明・小池邦明 1989 『1988 年度埋蔵文化財発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
 藤塚 明・小池邦明・渡邊朋和 1987 『新潟市小丸山遺跡発掘調査概報』 新潟市教育委員会
 文化庁文化財部記念物課監修 2010 『発掘調査のてびき』 文化庁文化財部記念物課
- ホ 細井佳浩 2014 「新潟県における古代の「畝状小溝」(畠)について ー越後国域の検出事例からー」『三面川流域の考古学』第 12 号 奥三面を考える会
 細野高伯・伊比博和ほか 2012 『大沢谷内遺跡Ⅱ 第 7・9・11・12・14 次調査 ー一般国道 403 号小須戸田上バイパス整備工事に伴う大沢谷内遺跡第 2・4・6・7・9 次発掘調査報告書ー』 新潟市教育委員会
 本間嘉晴・椎名仙卓 1958 「佐渡小木半島周辺の考古学的調査」『新潟県文化財年報第二 南佐渡 ー南佐渡学術調査報告書ー』 新潟県教育委員会
 本間敏則・春日真実ほか 2000 『吉田町史 資料編 1 考古・古代・中世』 吉田町
- マ 前山精明 2015 「V2 新潟市江南区砂崩遺跡の縄文時代遺物 ー神林慎一氏採集資料からー」『新潟市文化財センター年報』第 2 号 新潟市文化財センター
 前山精明ほか 2015 『峰岡上町遺跡第 3 次調査 ー国道 460 号線改良工事に伴う峰岡上町遺跡第 3 次発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
 宮 栄二・山田英雄ほか 1986 『日本歴史地名大系 新潟』 平凡社
- ヨ 横越町史編さん委員会 2003 『横越町史 通史編』 横越町
 横山勝榮・竹田和夫ほか 1987 『新潟県中世城跡等分布調査報告書』 新潟県教育委員会
 吉田恵二ほか 1982 『緒立八幡神社遺跡』 黒埼町教育委員会
 米沢 康 1965 「大化前代における越の史的位罫」『信濃』17-1 信濃史学会
 米沢 康 1980 「大宝二年の越中国四郡分割をめぐって」『信濃』32-6 信濃史学会
- ワ 渡邊朋和 1991 『長沼遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
 渡邊朋和 1992 『上浦遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
 渡邊朋和 1994a 『八幡山遺跡発掘調査報告書 ー平成 5 年度範囲確認調査ー』 新津市教育委員会
 渡邊朋和 1994b 『平成 5 年度 新津市内遺跡確認調査報告書』 新津市教育委員会
 渡邊朋和ほか 1997 『金津丘陵製鉄遺跡群発掘調査報告書Ⅱ 居村遺跡 E・A・C 地点、大入遺跡 A 地点』 新津市教育委員会
 渡邊朋和・立木宏明ほか 2001 『八幡山遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
 渡邊朋和・立木宏明ほか 2004 『八幡山遺跡群発掘調査報告書 ー第 11・12・13・14 次調査ー』 新津市教育委員会
 渡邊ますみ 1991 『亀田町文化財調査報告書第 3 集 荒木前遺跡』 亀田町教育委員会
 渡邊ますみ 1993 『緒立 A 遺跡確認調査報告書』 黒埼町教育委員会
 渡邊ますみ 1994 『緒立 C 遺跡発掘調査報告書』 黒埼町教育委員会
 渡邊ますみ 1998 「第二章 原始・古代 ー緒立遺跡ー 第三節 出土遺物 第三項 奈良・平安時代の遺物」『黒埼町史資料編 1 原始・古代・中世』 黒埼町

- 渡邊ますみ 2009 「新潟県出土の近世播鉢について -近世前半(16世紀末~18世紀)を中心とした流通の様相-」『新潟考古』第20号 新潟県考古学会
- 渡邊ますみ 2014 「Ⅲ4(9) 近世新潟町跡工事立会(2012119)」『新潟市文化財センター一年報』第1号 新潟市文化財センター
- 渡邊ますみほか 2009 『駒首潟遺跡第3・4次調査 -大型小売店舗建設に伴う駒首潟遺跡第3・4次発掘調査報告書-』新潟市教育委員会
- 渡邊ますみ・奈良貴史ほか 2012 『四十石遺跡 第2調査 - (仮称)新赤塚埋立処分地整備工事に伴う四十石遺跡第2次発掘調査報告書-』新潟市教育委員会

第Ⅵ章

- イ 伊東隆夫 1997 「日本産広葉樹林の解剖学的記載」『木材研究・資料』第31号別刷 京都大学木質科学研究所
伊東隆夫・山田昌久 2012 「木の考古学」『出土木製品用材データベース』海青社
- オ 尾寄大真 2009 「日本産樹木年輪試料の炭素14年代からみた弥生時代の実年代」設楽博己・藤尾慎一郎・松木武彦編『弥生時代の考古学1 弥生文化の輪郭』同成社 p.225-235
- カ 金原正明 1993 「花粉分析法による古環境復原」木下正史編『新版古代の日本 第10巻 古代資料研究の方法』角川書店 p.248-262
金原正明 1999 「寄生虫」西本豊弘・松井 章編『考古学と動物学 考古学と自然科学2』同成社 p.151-158
- コ 小林謙一 2009 「近畿地方以東の地域への拡散」西本豊弘編『新弥生時代のはじまり 第4巻 弥生農耕のはじまりとその年代』雄山閣 p.55-82
- サ 坂本 稔 2010 「較正曲線と日本産樹木 -弥生から古墳へ-」『第5回年代測定と日本文化研究シンポジウム予稿集』(株)加速器分析研究所 p.85-90
坂本 稔ほか 2015 「近世日本産樹木年輪の炭素14年代 -較正曲線からの特徴的な乖離」『日本文化財科学会第32回大会研究発表要旨集』日本文化財科学会 p.38-39
佐原 眞 2005 「日本考古学・日本歴史学の時代区分」佐原 眞、ウエルナー・シュタインハウス監修『独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所編集 ドイツ展記念概説 日本の考古学 上巻』学生社 p.14-19
- シ 島倉巳三郎 1973 「日本植物の花粉形態」『大阪市立自然科学博物館収蔵目録 第5集』p.60
島地 謙・伊東隆夫 1982 『図説 木材組織』地球社 p.176
- ス 杉山真二 2000 「植物珪酸体(プラント・オパール)」辻誠一郎編『考古学と植物学』同成社 p.189-213
杉山真二・藤原宏志 1986 「機動細胞珪酸体の形態によるタケ亜科植物の同定 -古環境推定の基礎資料として-」『考古学と自然科学』no.19 p.69-84
- ナ 中尾七重ほか 2015 「近世日本産樹木年輪の炭素14年代 -建築部材とのマッチング」『日本文化財科学会第32回大会研究発表要旨集』日本文化財科学会 p.134-135
中村 純 1967 『花粉分析』古今書院 p.232
中村 純 1974 「イネ科花粉について、とくにイネ(*Oryza sativa*)を中心として」『第四紀研究』13 p.187-193
中村 純 1977 「稲作とイネ花粉」『考古学と自然科学』no.10 p.21-30
中村 純 1980 「日本産花粉の標徴」『大阪自然史博物館収蔵目録』第13集 p.91
- フ 藤原宏志 1976 「プラント・オパール分析法の基礎的研究(1) -数種イネ科植物の珪酸体標本と定量分析法-」『考古学と自然科学』no.9 p.15-29
藤原宏志・杉山真二 1984 「プラント・オパール分析法の基礎的研究(5) -プラント・オパール分析による水田址の探査-」『考古学と自然科学』no.17 p.73-85
- マ 町田 博 2000 「栽培の基礎 -クルミ- 原産と来歴」『果樹園芸大百科 16 落葉特産果樹』社団法人農山漁村文化協会 p.81-88
- B Bronk Ramsey, C. et al. 2001 「'Wiggle matching' radiocarbon dates」『Radiocarbon』43 (2A) p.381-389
Bronk Ramsey, C. 2009 「Bayesian analysis of radiocarbon dates」『Radiocarbon』51 (1) p.337-360
- R Reimer, P.J. et al. 2013 「IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP」『Radiocarbon』55 (4) p.1869-1887
- S Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 「Discussion : Reporting of ¹⁴C data」『Radiocarbon』19 (3) p.355-363

別表 1 遺構計測表

| 図版No. | 写真 図版 No. | 遺構 | | グリッド | 時代 | 確認 層位 | 主軸方向 | 規模 (m) | | | | | 底面座標 (m) | 形態 | | 埋土 | 重複関係 | 遺物 | | | 遺物 図版 No. | 備考 | | |
|----------|-----------------|-----|-----|--|------|----------|---------|--------|------|--------|------|------|-------------|-----|-----|----|---|--------|----------------------------|------------------------------|----------------------------|--------------------|----------|--|
| | | 種別 | 番号 | | | | | 上端 | | 下端 | | 深度 | | 平面 | 断面 | | | 土器・陶磁器 | | その他 | | | | |
| | | | | | | | | 長軸 | 短軸 | 長軸 | 短軸 | | | | | | | 古代 | 近世 | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10・14 | 6 | SK | 193 | 12J13 | 古代 | IVa | N-34°-W | 1.00 | 0.72 | 0.27 | 0.25 | 0.53 | 0.12 | 楕円形 | U字状 | 2 | | | 土師器無台碗・長甕、須恵器無台杯・大甕 | | 35 | | | |
| 10・14 | 6 | SK | 195 | 12J7・8・12・13 | 古代 | IVa | N-2°-W | 1.27 | 1.25 | 1.08 | 0.89 | 0.31 | 0.38 | 円形 | 台形状 | 2 | | | 土師器長甕、須恵器無台杯・大甕 | | | | | |
| 10・14 | 7 | SK | 215 | 12J20・25、12K16・21 | 古代 | IVa | N-28°-W | 1.41 | 0.87 | 1.24 | 0.75 | 0.14 | 0.53 | 楕円形 | 台形状 | 2 | | | 土師器長甕 | | | | | |
| 10・14 | 7 | SK | 238 | 13K22 | 古代 | IVa | N-25°-E | 0.85 | 0.75 | 0.58 | 0.34 | 0.35 | 0.33 | 円形 | 箱状 | 2 | | | 土師器無台碗、須恵器大甕 | | | | | |
| 10・14 | 7 | SK | 242 | 13K12・13 | 古代 | IVa | N-36°-W | 1.07 | 1.05 | 0.40 | 0.26 | 0.46 | 0.14 | 楕円形 | 半円状 | 2 | <Pit442 | | | 土師器長甕 | 石製品 | 50 | | |
| 10・14 | 7 | SK | 252 | 14J9・14 | 古代 | IVa | N-41°-W | 1.71 | 1.01 | 1.34 | 0.40 | 0.25 | 0.38 | 楕円形 | 半円状 | 2 | | | 土師器無台碗・長甕、須恵器無台杯・大甕 | | 35 | | | |
| 10・14 | 8 | SK | 254 | 14J15・20 | 古代 | IVa | N-42°-W | (1.02) | 0.70 | (0.81) | 0.50 | 0.14 | 0.52 | 楕円形 | 弧状 | 2 | | | 土師器無台碗・長甕、須恵器大甕 | | 35 | | | |
| 11・14 | 8 | SK | 283 | 14L2 | 古代 | IVa | N-50°-E | (0.92) | 0.60 | 0.76 | 0.29 | 0.18 | 0.54 | 楕円形 | 弧状 | 2 | | | 土師器無台碗・長甕、須恵器無台杯 | | | | | |
| 10・15 | 8 | SK | 457 | 13K2・3・7・8 | 古代 | IVa | N-28°-W | 1.87 | 1.32 | 1.66 | 1.15 | 0.18 | 0.38 | 楕円形 | 台形状 | 1 | | | 土師器長甕、須恵器無台杯・有台杯 | | 35 | | | |
| 10・15 | 8・9 | SK | 495 | 14K1・2 | 古代 | IVa | N-85°-W | 0.75 | 0.63 | 0.55 | 0.42 | 0.11 | 0.62 | 楕円形 | 台形状 | 1 | | | | | | | | |
| 8・15・24 | 9・20 | SD | 108 | 9H15・20、9I11・16 | 古代 | IVa | N-43°-W | (2.10) | 0.64 | 1.62 | 0.23 | 0.36 | 0.40 | - | V字状 | 3 | <SK109、SD110 | | | 土師器無台碗・小甕・長甕 | | 35 | | |
| 10・15 | 9 | SD | 239 | 13K16・17・21・22、14K2・3 | 古代 | IVa | N-39°-W | 4.22 | 1.31 | 3.73 | 0.82 | 0.44 | 0.28 | - | 半円状 | 2 | | | 土師器無台碗・小甕・長甕、須恵器無台杯・大甕・長頸瓶 | | 35 | | | |
| 10・15 | 9 | SD | 255 | 14J20、14K16・21 | 古代 | IVa | N-44°-W | 2.02 | 0.46 | 1.82 | 0.21 | 0.21 | 0.47 | - | 半円状 | 2 | | | 土師器長甕・鍋 | | | | | |
| 10・12・15 | 5・10 | SD | 257 | 14J8・9 | 古代 | IVa | N-55°-W | (1.97) | 0.67 | (1.89) | 0.42 | 0.35 | 0.41 | - | 半円状 | 2 | | | 土師器無台碗・小甕・長甕、須恵器無台杯 | 金属製品・碟 | 36 | | | |
| 9・15 | 10 | SD | 272 | 14K25、14L21、15K5 | 古代 | IVa | N-49°-E | 2.44 | 0.25 | 2.21 | 0.12 | 0.08 | 0.62 | - | 半円状 | 1 | | | 土師器長甕 | 碟 | | | | |
| 9・13・15 | 10・11 | SD | 330 | 9I3・8・13・18・23、10I3・8・13・18・23、11I3・8・13 | 古代 | IVa | N-5°-W | 22.57 | 0.76 | 22.41 | 0.24 | 0.34 | 0.25 | - | 半円状 | 2 | <SE329・367、SK117、SD125・128・373・374・396、Pit121・122・187 | | | 土師器無台碗・小甕・長甕・鍋、須恵器杯蓋・壺・瓶類・横瓶 | 石製品・碟 | 36・50 | | |
| 8・15 | 11 | SD | 358 | 10H9・10・14・15 | 古代 | IVa | N-19°-W | (1.25) | 0.40 | (1.19) | 0.15 | 0.30 | 0.32 | - | 台形状 | 1 | <SE113 | | | 土師器無台碗・小甕・長甕、須恵器無台杯 | 石製品 | 36・51 | | |
| 10・15 | 11 | SN | 503 | 14K16・17・21・22 | 古代 | IVa | N-43°-W | 1.48 | 0.32 | 1.35 | 0.18 | 0.10 | 0.57 | - | 箱状 | 1 | | | | | | | | |
| 10・15 | 11 | SN | 504 | 14K21・22、15K2 | 古代 | IVa | N-53°-W | 2.98 | 0.47 | 2.32 | 0.29 | 0.11 | 0.56 | - | 弧状 | 1 | | | 土師器無台碗 | | | | | |
| 10 | - | Pit | 183 | 12J18 | 古代 | IVa | N-49°-W | 0.52 | 0.44 | 0.25 | 0.14 | 0.53 | 0.12 | 円形 | U字状 | 3 | | | 土師器小甕・長甕、須恵器無台杯・大甕 | | 36 | | | |
| 10・16 | 12 | Pit | 264 | 14K12・13 | 古代 | IVa | N-42°-W | 0.65 | 0.56 | 0.06 | 0.06 | 0.40 | 0.30 | 楕円形 | 半円状 | 2 | | | 土師器長甕 | | | | | |
| 10 | - | Pit | 400 | 12J14 | 古代 | IVa | N-27°-W | 0.50 | 0.42 | 0.40 | 0.35 | 0.14 | 0.59 | 円形 | 弧状 | 1 | | | 須恵器大甕 | | | | | |
| 10 | - | Pit | 401 | 12J13・14 | 古代 | IVa | N-8°-W | 0.29 | 0.19 | 0.11 | 0.06 | 0.19 | 0.48 | 楕円形 | U字状 | 1 | | | 須恵器大甕 | | | | | |
| 10 | - | Pit | 403 | 12J12・13 | 古代 | IVa | N-52°-E | 0.62 | 0.43 | 0.43 | 0.26 | 0.29 | 0.36 | 楕円形 | 箱状 | 1 | | | 土師器長甕、須恵器大甕 | | | | | |
| 10 | - | Pit | 404 | 12J13 | 古代 | IVa | N-63°-E | 0.40 | 0.33 | 0.23 | 0.16 | 0.40 | 0.26 | 円形 | U字状 | 1 | | | 須恵器大甕 | | | | | |
| 10 | - | Pit | 405 | 12J11 | 古代 | IVa | N-59°-E | 0.50 | 0.45 | 0.31 | 0.30 | 0.35 | 0.34 | 楕円形 | 箱状 | 2 | | | 須恵器大甕 | | | | | |
| 10 | - | Pit | 441 | 12J13 | 古代 | IVa | N-42°-E | 0.52 | 0.35 | 0.33 | 0.21 | 0.27 | 0.37 | 楕円形 | U字状 | 2 | | | 須恵器大甕 | | | | | |
| 10・16 | 12 | Pit | 449 | 14K7・12 | 古代 | IVa | N-53°-E | 0.53 | 0.47 | 0.30 | 0.28 | 0.38 | 0.36 | 楕円形 | U字状 | 1 | <SD251 | | | 土師器無台碗・長甕、須恵器大甕 | | | | |
| 10 | - | Pit | 459 | 13K16 | 古代 | IVa | N-25°-W | 0.31 | 0.26 | 0.19 | 0.17 | 0.07 | 0.61 | 円形 | 弧状 | 1 | | | 土師器長甕 | | | | | |
| 10 | - | Pit | 461 | 14K17 | 古代 | IVa | N-20°-W | 0.51 | 0.45 | 0.32 | 0.26 | 0.14 | 0.53 | 円形 | 半円状 | 1 | >Pit522 | | | 土師器無台碗・長甕 | | | | |
| 10・16 | 12 | Pit | 471 | 14J14 | 古代か | IVa | N-41°-E | 0.54 | 0.45 | 0.32 | 0.24 | 0.13 | 0.50 | 円形 | 弧状 | 1 | | | | | | | | |
| 10・16 | 12 | Pit | 521 | 14J5、14K1・6 | 古代か | IVa | N-56°-W | 0.33 | 0.31 | 0.18 | 0.16 | 0.25 | 0.51 | 円形 | 台形状 | 2 | | | | | | | | |
| 10・16 | 13 | Pit | 522 | 14K12・17 | 古代か | IVa | N-29°-E | (0.32) | 0.48 | (0.24) | 0.36 | 0.11 | 0.56 | 円形 | 弧状 | 1 | <Pit461 | | | | | | | |
| 10・16 | 13 | Pit | 526 | 14J13 | 古代か | IVa | N-33°-E | 0.19 | 0.19 | 0.12 | 0.09 | 0.14 | 0.58 | 円形 | 半円状 | 2 | | | | | | | | |
| 8・16 | 13 | SE | 2 | 7H9 | 近世以降 | IVa | N-47°-E | (1.20) | 1.73 | (0.74) | 0.95 | 1.36 | 0.32 | 楕円形 | 台形状 | 13 | | | 肥前磁器・陶器、瓦器、産地不明 | 木製品・碟 | 39・54 | | | |
| 8・16 | 13 | SE | 27 | 9I3・4 | 近世以降 | IVa | N-45°-W | 1.56 | 1.22 | 0.69 | 0.44 | 1.18 | 0.56 | 楕円形 | 箱状 | 4 | | | 土師器長甕・鍋 | 肥前磁器・陶器、東北系、産地不明 | 石製品・木製品・碟 | 39・51・54 | | |
| 8・16 | 13・14 | SE | 87 | 9H2・3 | 近世以降 | IVa | N-18°-E | 1.09 | 0.93 | 0.62 | 0.56 | 0.53 | 0.19 | 楕円形 | 半円状 | 1 | <Pit293・325 | | | 土師器無台碗・長甕、須恵器大甕 | 肥前磁器・陶器 | 碟 | | |
| 8・17 | 14 | SE | 102 | 8I16・17 | 近世以降 | IVa | N-63°-E | 2.52 | 1.55 | 1.10 | 0.89 | 1.28 | (0.89) | 楕円形 | 台形状 | - | >SE104・105、SK340 | | | 土師器長甕、須恵器大甕 | 肥前磁器・陶器、信楽系、須佐唐津、越中瀬戸、産地不明 | 土製品・石製品・金属製品・木製品・碟 | 39・50・51 | |
| 8・17 | 14 | SE | 104 | 8I16~18・21~23 | 近世以降 | IVa | N-60°-E | 2.91 | 2.70 | 1.89 | 1.42 | 1.03 | (0.61) | 円形 | 台形状 | 5 | <SE102 >SK340 | | | 土師器無台碗 | 肥前磁器・陶器、信楽系、須佐唐津、瓦器、産地不明 | 石製品・木製品・碟 | 39・51 | |
| 8・17・18 | 14 | SE | 105 | 8H15・20、8I6・11・12・16 | 近世以降 | IVa | N-23°-E | 2.99 | 2.65 | 1.53 | 1.36 | 0.68 | (0.24) | 楕円形 | 弧状 | 5 | <SE102 >SE126、SK340、SD9-A | | | 土師器小甕・長甕、須恵器無台杯・大甕 | 肥前磁器・陶器、信楽系、瓦器、産地不明 | 土製品・石製品・木製品・碟 | 36・39・50 | |
| 8・19 | 14 | SE | 107 | 9H20・25、9I16・21 | 近世以降 | IVa | N-48°-W | 1.19 | 0.80 | 0.43 | 0.30 | 0.71 | (0.04) | 長方形 | U字状 | 3 | >SD100・110 | | | 土師器小甕・長甕 | 肥前磁器・陶器、信楽系、須佐唐津、産地不明 | 石製品・木製品・碟 | 39・51 | |

| 図版No. | 写真 図版 No. | 遺構 | | グリッド | 時代 | 確認 層位 | 主軸方向 | 規模 (m) | | | | | 底面座標 (m) | 形態 | | 埋土 | 重複関係 | 遺物 | | | 遺物 図版 No. | 備考 | |
|------------|-----------------|----|-----|--|------|----------|---------|--------|--------|--------|--------|------|-------------|-----|-----|----|---|-----------------|----------------------------|-----------------------|-----------------|----|--|
| | | 種別 | 番号 | | | | | 上端 | | 下端 | | 深度 | | 平面 | 断面 | | | 土器・陶磁器 | | その他 | | | |
| | | | | | | | | 長軸 | 短軸 | 長軸 | 短軸 | | | | | | | 古代 | 近世 | | | | |
| 8・19 | 15 | SE | 111 | 9I21・22 | 近世以降 | IVa | N-46°-W | 1.81 | 1.60 | 1.53 | 1.39 | 0.72 | (0.08) | 円形 | 箱状 | 4 | >SD100・368・396 | 土師器長甕 | 肥前磁器・陶器、瓦器、産地不明 | | 40 | | |
| 8・19 | 15 | SE | 113 | 10H4・5・9・10 | 近世以降 | IVa | N-80°-E | 2.99 | 2.95 | 1.40 | 1.16 | 1.44 | (0.79) | 円形 | 台形状 | 5 | >SD358 | 土師器長甕・鍋 | 肥前磁器・陶器、須佐唐津、関西系、産地不明 | 石製品・木製品・礫 | 40・51・52・54 | | |
| 8・19 | 15 | SE | 118 | 10I6・7・11・12 | 近世以降 | IVa | N-74°-W | 2.93 | 2.26 | 1.34 | 1.12 | 1.18 | (0.60) | 楕円形 | 台形状 | 6 | >SE119 | 土師器小甕・長甕、須恵器無台杯 | 肥前磁器・陶器、須佐唐津 | 土製品・石製品・金属製品・木製品・礫 | 40・50・52 | | |
| 8・21 | 15 | SE | 119 | 10H15・20、10I11・16 | 近世以降 | IVa | N-39°-W | (2.87) | (2.07) | (0.46) | (1.28) | 1.26 | (0.65) | 円形 | 箱状 | 5 | <SE118・120 | 土師器長甕、須恵器無台杯 | 肥前磁器 | | 36 | | |
| 8・21 | 15 | SE | 120 | 10H15・20、10I11・16 | 近世以降 | IVa | N-64°-E | (1.91) | 1.65 | (1.35) | 0.96 | 1.22 | (0.68) | 長方形 | 台形状 | 3 | >SE119 | 土師器無台碗・小甕・長甕 | 肥前磁器・陶器、瀬戸美濃、関西系、瓦器 | 石製品・金属製品・木製品・礫 | 36・40 | | |
| 8・17・27 | 16 | SE | 126 | 8H4・5・9・10・15、8I6・11 | 近世以降 | IVa | N-65°-W | (3.62) | (2.77) | 1.76 | 1.42 | 0.99 | (0.57) | 楕円形 | 弧状 | 6 | <SE105、SD9-A >SK340、SD25 | 土師器無台碗・長甕、須恵器大甕 | 肥前磁器・陶器、須佐唐津 | 石製品・木製品・礫・焼礫 | 41・52 | | |
| 9・21 | 16 | SE | 135 | 9I20・24・25、9J21、10I5 | 近世以降 | IVa | N-54°-E | 2.78 | 2.37 | 1.88 | 1.18 | 1.23 | (0.47) | 円形 | 箱状 | 7 | | 土師器無台碗・小甕・長甕 | 肥前磁器・陶器、須佐唐津 | 土製品・石製品・金属製品・木製品・礫 | 41・53 | | |
| 8・20 | 16 | SE | 315 | 8H19・20・24・25 | 近世以降 | IVa | N-63°-W | 1.76 | 1.56 | 1.06 | 0.92 | 1.71 | (1.18) | 円形 | 台形状 | 2 | >SK103・340 | 土師器長甕 | 肥前磁器・陶器、東北系、産地不明 | 土製品・石製品・金属製品・木製品・礫 | 41・42・50 | | |
| 8 | 17 | SE | 316 | 8I6 | 近世以降 | IVa | N-33°-W | 1.12 | 0.90 | 0.67 | 0.60 | 0.72 | (0.56) | 楕円形 | 箱状 | — | <SD9-A | | | | | | |
| 8・13・15・22 | 17 | SE | 329 | 9I18・22・23 | 近世以降 | IVa | N-61°-E | (2.86) | (2.17) | 1.45 | (1.33) | 1.17 | (0.58) | 円形 | 半円状 | 6 | <SE367、SK319 >SD330 | 土師器無台碗 | 肥前磁器・陶器 | 石製品・金属製品・木製品 | 36・42・52・53 | | |
| 9・22 | 17 | SE | 367 | 9I23・24、10I3・4 | 近世以降 | IVa | N-74°-E | 2.77 | 2.72 | 1.87 | 1.37 | 1.45 | (0.89) | 円形 | 台形状 | 7 | >SE329、SD330 | 土師器無台碗・長甕、須恵器杯蓋 | 肥前磁器・陶器、京・信楽系、産地不明 | 土製品・石製品・木製品・礫・焼礫 | 36・42・52 | | |
| 8・23 | 17 | SK | 10 | 7H12・16・17 | 近世以降 | IVa | N-45°-E | 1.34 | 1.19 | 0.81 | 0.63 | 0.39 | 0.13 | 円形 | 弧状 | 3 | >SD16 | | | 石製品 | | | |
| 8・23 | 18 | SK | 18 | 8H7・8 | 近世以降 | IVa | N-52°-E | 1.36 | 1.20 | 0.73 | 0.70 | 0.27 | 0.39 | 円形 | 弧状 | 3 | | | 肥前磁器・陶器 | 土製品・礫 | | | |
| 8・20 | 18 | SK | 19 | 8H13 | 近世以降 | IVa | N-50°-W | 1.16 | 0.92 | 0.76 | 0.53 | 0.29 | 0.35 | 楕円形 | 台形状 | 2 | >SK103 | | 肥前磁器・陶器、瓦器、産地不明 | 土製品・石製品・金属製品・礫 | 42 | | |
| 8・23 | 18 | SK | 24 | 8H8・9 | 近世以降 | IVa | N-55°-E | 1.06 | 0.97 | 0.73 | 0.65 | 0.30 | 0.24 | 円形 | 弧状 | 2 | >SD25 | | 肥前磁器、信楽系 | 土製品・石製品・礫 | | | |
| 8・23 | 18 | SK | 37 | 8G14・15 | 近世以降 | IVa | N-80°-W | 0.82 | 0.70 | 0.65 | 0.50 | 0.12 | 0.54 | 長方形 | 弧状 | 2 | | 土師器長甕 | | | | | |
| 8・23 | 19 | SK | 38 | 8G4・5・9・10 | 近世以降 | IVa | N-75°-E | 1.09 | 0.92 | 0.32 | 0.25 | 0.26 | 0.38 | 楕円形 | 弧状 | 2 | >SD41 | | 肥前陶器 | 土製品 | | | |
| 8・24 | 19 | SK | 39 | 8G10・15、8H6・11 | 近世以降 | IVa | N-24°-W | 1.12 | 0.89 | 0.69 | 0.52 | 0.20 | 0.48 | 楕円形 | 弧状 | 2 | >SD41 | | | | | | |
| 8・24 | 19 | SK | 53 | 8G5・10 | 近世以降 | IVa | N-57°-W | 1.58 | 0.96 | 0.86 | 0.57 | 0.23 | 0.41 | 楕円形 | 弧状 | 1 | >Pt54・55 | | 肥前磁器・陶器 | | | | |
| 8・24 | 19 | SK | 88 | 9H8・13 | 近世以降 | IVa | N-34°-E | 0.89 | 0.74 | 0.59 | 0.54 | 0.19 | 0.34 | 円形 | 弧状 | 1 | >SD100 | 土師器長甕 | 肥前磁器 | | | | |
| 8・20・27 | 20 | SK | 103 | 8H13・14・18・19 | 近世以降 | IVa | N-41°-W | (2.89) | 2.49 | 1.54 | 1.00 | 0.79 | (0.16) | 楕円形 | 台形状 | 5 | <SE315、SK19、SD25 >SK340 | 土師器無台碗・長甕 | 肥前磁器・陶器、瓦器、産地不明 | 土製品・石製品・木製品・礫 | 43・50・52 | | |
| 8・24 | 20 | SK | 109 | 9I16 | 近世以降 | IVa | N-52°-W | 0.86 | 0.79 | 0.47 | 0.30 | 0.45 | 0.20 | 円形 | 台形状 | 3 | >SD108 | 土師器長甕 | 肥前磁器・陶器、瓦器 | 木製品 | | | |
| 8・24 | 20 | SK | 117 | 10I7・8 | 近世以降 | IVa | N-53°-W | 1.93 | 0.67 | 1.72 | 0.51 | 0.08 | 0.49 | 楕円形 | 弧状 | 1 | >SD330・396 | 土師器長甕 | | | | | |
| 9・24 | 20 | SK | 145 | 10I10、10J1・2・6・7 | 近世以降 | IVa | N-42°-E | 2.46 | 2.07 | 2.15 | 1.27 | 0.56 | 0.07 | 楕円形 | 台形状 | 3 | | 土師器長甕 | 肥前磁器・陶器、信楽系、産地不明 | 石製品・木製品・礫・焼礫 | 43・53 | | |
| 9・24 | 21 | SK | 160 | 9I10・15 | 近世以降 | IVa | N-10°-E | 0.90 | 0.88 | 0.74 | 0.69 | 0.18 | 0.47 | 円形 | 弧状 | 2 | | 土師器長甕 | 肥前陶器 | | | | |
| 9・24 | 21 | SK | 163 | 11I6 | 近世以降 | IVa | N-84°-E | 1.00 | 0.94 | 0.71 | 0.61 | 0.21 | 0.49 | 円形 | 弧状 | 1 | | 土師器長甕 | 肥前磁器、産地不明 | 木製品・礫 | 43 | | |
| 8・18 | 21 | SK | 167 | 8I1・6 | 近世以降 | IVa | N-39°-W | (1.06) | 0.66 | 0.62 | 0.33 | 0.32 | 0.05 | 楕円形 | 台形状 | 4 | >SK340、SD9-A | | 肥前磁器 | | | 43 | |
| 9・24 | 21 | SK | 180 | 11J1・6 | 近世以降 | IVa | N-44°-E | 0.99 | 0.82 | 0.64 | 0.58 | 0.25 | 0.37 | 楕円形 | 台形状 | 2 | >SD381 | | 肥前磁器 | 石製品 | | | |
| 9・25 | 22 | SK | 181 | 11J1・2 | 近世以降 | IVa | N-42°-W | 1.35 | 1.32 | 1.02 | 0.89 | 0.58 | 0.10 | 円形 | 箱状 | 3 | >SD381・450 | 土師器長甕 | 肥前磁器・陶器、信楽系、産地不明 | 土製品・石製品・木製品・礫 | 43 | | |
| 8・25 | 22 | SK | 280 | 8I13・14 | 近世以降 | IVa | N-55°-W | (2.33) | (0.67) | (1.03) | (0.30) | 0.44 | 0.12 | 楕円形 | 弧状 | 2 | <SD9-B | | | | | | |
| 8・25 | 22 | SK | 317 | 9H15、9I11 | 近世以降 | IVa | N-46°-E | 1.42 | 1.22 | 0.84 | 0.83 | 0.58 | 0.11 | 方形 | 台形状 | 3 | >Pt362 | 土師器長甕、須恵器大甕 | 肥前磁器・陶器、瀬戸美濃、信楽系、須佐唐津、産地不明 | 土製品・石製品・金属製品・木製品・礫 | 43・49・54 | | |
| 8・25 | 22 | SK | 319 | 9I17・18・22 | 近世以降 | IVa | N-50°-E | 1.95 | 1.11 | 1.44 | 0.74 | 0.26 | 0.34 | 長方形 | 弧状 | 2 | >SE329 | 土師器長甕 | 肥前磁器・陶器、瓦器、産地不明 | 土製品・石製品・金属製品・木製品・礫・焼礫 | 43・44・53・54 | | |
| 8・20 | 23 | SK | 340 | 8H14・15・18~20・23~25、8I3・7・11・12・16・17・21、9H5、9I1 | 近世以降 | IVa | N-40°-W | (5.83) | (4.51) | (5.00) | (4.20) | 0.52 | (0.12) | 不整形 | 弧状 | 4 | <SE102・104・105・126・315、SK103・167、SD9-A・25 | 土師器長甕、須恵器無台杯 | 肥前磁器・陶器、瓦器、産地不明 | 土製品・石製品・銭貨・礫 | 36・44・53 | | |
| 9・25 | 23 | SK | 370 | 11I2・7 | 近世以降 | IVa | N-32°-W | (0.63) | 0.72 | (0.43) | 0.37 | 0.25 | 0.36 | 楕円形 | 弧状 | 2 | <SK372 >SD128 | | 肥前磁器、産地不明 | 金属製品・礫 | 54 | | |
| 9・25 | 23 | SK | 372 | 11I7 | 近世以降 | IVa | N-24°-E | 0.91 | 0.76 | 0.84 | 0.66 | 0.12 | 0.48 | 楕円形 | 弧状 | 1 | >SK370、SD128・373 | 土師器長甕 | 肥前磁器 | 礫 | | | |
| 9・25 | 23 | SK | 375 | 10I19・20・24・25 | 近世以降 | IVa | N-45°-E | 2.41 | 1.32 | 0.95 | 0.75 | 0.48 | 0.13 | 楕円形 | 半円状 | 2 | >SD128・373・374 | | 肥前磁器・陶器、東北系、産地不明 | 土製品・石製品・金属製品・礫 | 44 | | |
| 9・26 | 23・24 | SK | 395 | 11I7・8・12・13 | 近世以降 | IVa | N-32°-E | 1.42 | 0.99 | 0.97 | 0.57 | 0.48 | 0.20 | 楕円形 | 半円状 | 3 | >SD192、Pt394 | 土師器長甕、須恵器無台杯 | 肥前磁器・陶器 | 土製品・石製品・礫 | 49・53 | | |
| 8・26 | 24 | SK | 518 | 7G24 | 近世以降 | IVa | N-43°-W | (0.49) | 0.69 | (0.31) | 0.39 | 0.54 | 0.20 | 楕円形 | 台形状 | 1 | | | 肥前磁器 | | | | |
| 8・26 | 24 | SX | 71 | 9I7 | 近世以降 | IVa | N-49°-E | 1.39 | 0.60 | 1.04 | 0.15 | 0.22 | 0.46 | 不整形 | 弧状 | 1 | <Pt72 | 土師器長甕 | 肥前磁器・陶器 | 石製品・礫 | | | |
| 8・26 | 24 | SX | 79 | 8H21・22 | 近世以降 | IVa | N-75°-E | (1.98) | 1.33 | (1.94) | (1.19) | 0.20 | 0.50 | 楕円形 | 弧状 | 2 | <SD100、Pt78・80・294 | 須恵器大甕 | 肥前磁器・陶器 | 土製品 | | | |
| 8・26 | 24 | SX | 83 | 8H17・22 | 近世以降 | IVa | N-32°-W | 1.37 | 0.51 | 0.31 | 0.29 | 0.42 | 0.29 | 楕円形 | 半円状 | 4 | <Pt81・82 | | 肥前磁器 | | | 44 | |
| 8・12 | 5・25 | SX | 96 | 8G14・19 | 近世以降 | Ii | N-8°-E | (0.86) | 1.41 | (0.56) | 0.87 | 0.49 | 0.33 | 楕円形 | 弧状 | 1 | >Pt301 | | 肥前磁器・陶器 | 礫 | | | |
| 10・26 | 25 | SX | 241 | 13K12 | 近世以降 | IVa | N-38°-E | (0.71) | 0.47 | (0.65) | 0.25 | 0.22 | 0.41 | 楕円形 | 台形状 | 3 | <SD248 | | | | | | |
| 8 | 25 | SX | 302 | 8H6 | 近世以降 | IVa | N-38°-E | 0.61 | 0.31 | 0.48 | 0.22 | 0.07 | 0.60 | 楕円形 | — | — | | | | | | | |

| 図版No. | 写真 図版 No. | 遺構 | | グリッド | 時代 | 確認 層位 | 主軸方向 | 規模 (m) | | | | | 底面座標 (m) | 形態 | | 埋土 | 重複関係 | 遺物 | | | 遺物 図版 No. | 備考 | |
|----------------|-----------------|----|-----|---|------|----------|---------|---------|--------|---------|--------|------|-------------|----|------------|----|--|-----------------------------|-------------------------------------|------------------------|-----------------|----|--|
| | | 種別 | 番号 | | | | | 上端 | | 下端 | | 深度 | | 平面 | 断面 | | | 土器・陶磁器 | | その他 | | | |
| | | | | | | | | 長軸 | 短軸 | 長軸 | 短軸 | | | | | | | 古代 | 近世 | | | | |
| 8・18・23・26 | 25 | SD | 9-A | 7H11~13・17~19・23~25, 8H5, 8I1・6・7・12 | 近世以降 | IVa | N-46°-W | (16.02) | 1.56 | (15.76) | 0.46 | 0.65 | (0.06) | - | V字状 台形状 | 3 | <SE105, SK167 >SE126・316, SK340 | | 肥前磁器・陶器・須佐唐津、 瓦器、産地不明 | 木製品・礫 | 44 | | |
| 9・25 | 22 | SD | 9-B | 8I12~14・18・19・24・25 | 近世以降 | IVa | N-50°-W | (6.44) | 1.18 | (5.50) | 0.36 | 0.66 | (0.18) | - | 台形状 | 3 | >SK280 | 土師器長甕、須恵器無台杯 | 肥前磁器・陶器、関西系、 瓦器、産地不明 | 石製品・木製品 | 36・44・ 45 | | |
| 8 | 25 | SD | 16 | 7H11・16・17・22・23 | 近世以降 | IVa | N-46°-W | (4.91) | 0.29 | (4.91) | 0.11 | 0.22 | 0.36 | - | 弧状 | - | <SK10 | | 肥前陶器 | | 45 | | |
| 8・26 | 25 | SD | 17 | 7H22・23, 8H2・3 | 近世以降 | IVa | N-59°-W | 3.16 | 0.48 | 3.04 | 0.41 | 0.15 | 0.41 | - | 半円状 | 1 | | | 肥前陶器 | | | | |
| 8・23・27 | 18・26 | SD | 25 | 8H3・8・9・14・15・19・20 | 近世以降 | IVa | N-42°-W | 7.64 | 1.83 | (4.36) | 1.23 | 0.48 | 0.02 | - | 台形状 | 3 | <SK24 >SK103・340 | 土師器無台碗・長甕・鍋 | 肥前磁器・陶器、信楽系、 東北系、瓦器、産地不明 | 土製品・石製品・金属製品、 木製品・礫 | 36・45・ 50 | | |
| 8・27 | 26 | SD | 35 | 8G8・13・14 | 近世以降 | IVa | N-37°-W | 1.81 | 0.26 | 1.66 | 0.13 | 0.06 | 0.56 | - | 半円状 | 2 | | | | | | | |
| 8・12・23・24・27 | 5・26 | SD | 41 | 8G3・4・9・10・14・15、 8H11 | 近世以降 | IVa | N-41°-W | (7.47) | 0.74 | (7.36) | 0.51 | 0.32 | 0.35 | - | 台形状 | 5 | <SK38・39, Pit324 | 土師器無台碗 | 肥前磁器 | | | | |
| 8・19・27 | 26・27 | SD | 100 | 8G20・25, 8H21・22, 9H1・2・ 7~9・13・14・19・20・25、 9I21 | 近世以降 | IVa | N-47°-W | (15.67) | 0.70 | (15.56) | 0.48 | 0.22 | 0.47 | - | 台形状 | 2 | <SE107・111, SK88, SD101, Pit89・141・318 >SX79, SD368, Pit78 | 土師器無台碗・小甕・長甕、 須恵器無台杯・長頸瓶 | 肥前磁器・陶器 | | | | |
| 8・27 | 27 | SD | 101 | 9H14・15・18~20・23 | 近世以降 | IVa | N-49°-E | (4.26) | 0.95 | (4.21) | 0.67 | 0.61 | 0.06 | - | U字状 | 4 | >SD100, Pit93 | 土師器無台碗・長甕、須恵器 杯蓋 | 肥前磁器・陶器、信楽系、 須佐唐津、産地不明 | 土製品・石製品・礫 | 37・45・ 53 | | |
| 8・27 | 27 | SD | 110 | 9I12・16・17・21 | 近世以降 | IVa | N-43°-E | 2.92 | 0.44 | 2.73 | 0.23 | 0.44 | 0.20 | - | U字状 | 2 | <SE107 >SD108 | | 肥前磁器・陶器、須佐唐津、 産地不明 | 土製品・石製品 | 45・49 | | |
| 8・27 | 27 | SD | 124 | 9H1・2・6・7 | 近世以降 | IVa | N-34°-W | 2.31 | 0.33 | 1.71 | 0.22 | 0.32 | 0.40 | - | U字状 | 2 | | 須恵器長胴壺 | 肥前磁器 | | 37 | | |
| 9・27 | 28 | SD | 125 | 10I10・13~15・17~19・21・ 22, 10J6, 11I1 | 近世以降 | IVa | N-50°-E | (12.06) | 0.90 | (11.71) | 0.46 | 0.50 | 0.06 | - | 台形状 | 2 | >SD330・384・396 | 土師器無台碗・小甕・長甕 | 肥前磁器・陶器、信楽系、 須佐唐津 | 土製品・石製品・金属製品 | 45・46 | | |
| 9・12・13・25・28 | 5・6・28 | SD | 128 | 10I15・19・20・23・24、 10J3・7・8・11・12・16、 11I2・3・6・7 | 近世以降 | II | N-49°-E | (16.87) | 1.31 | (17.02) | 0.32 | 0.66 | 0.00 | - | 台形状 | 5 | <SK370・372・375 >SD330・373 | 土師器無台碗・長甕、須恵器 無台杯・大甕 | 肥前磁器・陶器、須佐唐津、 東北系、備前、瓦器、産地 不明 | 土製品・石製品・木製品・ 礫・焼礫 | 37・46・ 47 | | |
| 9・28 | 28・29 | SD | 133 | 10I25, 10J21 | 近世以降 | IVa | N-41°-E | 2.28 | 0.71 | 2.10 | 0.44 | 0.08 | 0.58 | - | 弧状 | 1 | | | | 礫 | | | |
| 9・27・34 | 29 | SD | 138 | 9J17・21・22 | 近世以降 | IVa | N-53°-E | 2.14 | 0.65 | 1.25 | 0.28 | 1.06 | (0.40) | - | 台形状 | 4 | >Pit137・366 | 須恵器大甕 | 肥前磁器、信楽系 | 土製品・石製品・金属製品、 木製品・礫 | | | |
| 9・10・28 | 29 | SD | 150 | 10J16・17・22・23, 11J3・4・ 9・10・14・15・20, 11K16・ 21・22, 12K2・3 | 近世以降 | II | N-35°-W | (19.22) | 0.63 | (19.28) | 0.46 | 0.40 | 0.44 | - | 半円状 | 4 | <SD373 | 土師器長甕、須恵器大甕 | | 金属製品 | | | |
| 9・28 | 29 | SD | 164 | 11I10, 11J6 | 近世以降 | IVa | N-47°-W | 1.05 | 0.31 | 0.85 | 0.23 | 0.13 | 0.59 | - | 半円状 | 1 | | | | | | | |
| 9・28 | 30 | SD | 192 | 11J8・13 | 近世以降 | IVa | N-22°-E | (0.71) | 0.58 | (0.68) | 0.42 | 0.12 | 0.56 | - | 台形状 | 2 | <SK395 | 土師器長甕 | 肥前磁器 | | | | |
| 10・12・28 | 30 | SD | 196 | 12J16・21・22, 13J2~4・9・ 10 | 近世以降 | IVa | N-55°-W | (9.61) | (0.84) | (9.59) | 0.37 | 0.34 | 0.44 | - | 弧状 | 2 | <SD197・411・436 | 土師器長甕、須恵器大甕 | 肥前磁器、信楽系 | 土製品・木製品・礫 | 49 | | |
| 10・28 | 30 | SD | 197 | 12J16・17・21~23, 13J3・4・ 9・10, 13K6・11 | 近世以降 | IVa | N-54°-W | (13.81) | 0.59 | (13.81) | 0.23 | 0.16 | 0.51 | - | 半円状 | 2 | <SD248・436 >SD196 | 土師器長甕、須恵器有台杯・ 大甕 | 肥前磁器・陶器、産地不明 | 礫 | 37・47 | | |
| 10・26・28 | 30 | SD | 248 | 13K11・12・17 | 近世以降 | IVa | N-55°-W | 2.67 | (0.52) | 2.46 | 0.43 | 0.16 | 0.48 | - | 箱状 | 2 | <SD436 >SX241, SD197 | | | | | | |
| 10・11・13・16・28 | 6・31 | SD | 251 | 14J4・5・10, 14K6・7・12・ 13・15・20, 14L16・17・21 ~25, 15L3~5 | 近世以降 | III | N-64°-W | (24.11) | 0.95 | (24.11) | 0.58 | 0.46 | 0.40 | - | 弧状 | 4 | <SN473・476, Pit464・ 496 >Pit449 | 土師器無台碗・小甕・長甕、 須恵器無台杯・大甕 | 肥前磁器 | 石製品・礫 | 37 | | |
| 8・29 | 31 | SD | 291 | 8H22・23 | 近世以降 | IVa | N-38°-W | 0.48 | 0.16 | 0.36 | 0.11 | 0.06 | 0.64 | - | 半円状 | 2 | | | | | | | |
| 8・29 | 31 | SD | 292 | 9H3 | 近世以降 | IVa | N-40°-W | 0.60 | 0.24 | 0.44 | 0.11 | 0.10 | 0.62 | - | 半円状 | 2 | <Pit86・293 | | | | | | |
| 8・29 | 32 | SD | 308 | 8H12 | 近世以降 | IVa | N-30°-W | 1.04 | 0.23 | 0.97 | 0.13 | 0.08 | 0.60 | - | 半円状 | 2 | | | | | | | |
| 8・29 | 32 | SD | 311 | 8H23・24, 9H4 | 近世以降 | IVa | N-44°-W | 2.54 | 0.45 | 2.10 | 0.31 | 0.48 | 0.22 | - | U字状 | 3 | | 土師器無台碗 | 肥前磁器・陶器、産地不明 | 石製品・金属製品 | 47 | | |
| 8・29 | 32 | SD | 355 | 9H5・10 | 近世以降 | IVa | N-50°-W | 1.16 | 0.33 | 0.93 | 0.19 | 0.10 | 0.57 | - | 弧状 | 1 | | | | | | | |
| 8・29 | 32 | SD | 359 | 9H10 | 近世以降 | IVa | N-49°-W | 1.04 | 0.35 | 0.84 | 0.23 | 0.12 | 0.56 | - | 台形状 | 2 | | | 肥前磁器 | | | | |
| 8・27 | 26・27 | SD | 368 | 9H13・14・20・25, 9I21 | 近世以降 | IVa | N-45°-W | (7.77) | (0.30) | (7.25) | (0.20) | 0.13 | 0.56 | - | 台形状 | 1 | <SE111, SD100, Pit328 | 土師器長甕 | | | | | |
| 9・12・13・25・28 | 5・6・28 | SD | 373 | 10I20・24・25, 10J7・8・ 11・12・16, 11I2・3・7・8 | 近世以降 | IVa | N-50°-E | (16.96) | 0.31 | (16.94) | 0.15 | 0.34 | 0.34 | - | 台形状 | 1 | <SK372・375, SD128・ 374 >SD150・330 | | 肥前磁器、東北系 | | | | |
| 9・13・28 | 6・28 | SD | 374 | 10I20・24・25, 10J8・16、 11I3・4・7・8・12 | 近世以降 | IVa | N-52°-E | (17.01) | 0.96 | (17.02) | 0.62 | 0.22 | 0.42 | - | 漏斗状 | 1 | <SK375 >SD330・373 | 土師器無台碗・長甕 | 産地不明 | | | | |
| 9・29 | 33 | SD | 381 | 10J21・22, 11J1 | 近世以降 | IVa | N-31°-E | (1.51) | 0.72 | (1.32) | 0.24 | 0.36 | 0.28 | - | 台形状 | 3 | <SK180・181 | 土師器長甕 | 肥前磁器、産地不明 | 礫 | | | |
| 9・27 | 28 | SD | 384 | 10I10 | 近世以降 | IVa | N-45°-E | (0.71) | 0.41 | (0.58) | 0.24 | 0.18 | 0.33 | - | 台形状 | 2 | <SD125 | 土師器無台碗 | 肥前磁器 | 石製品・礫 | | | |
| 9・29 | 33 | SD | 396 | 9I21・22, 10I1~3・7・8・14 | 近世以降 | IVa | N-46°-W | (8.33) | 0.37 | (8.23) | 0.27 | 0.06 | 0.54 | - | 弧状 | 1 | <SE111, SK117, SD125 >SD330 | | | | | | |
| 9・29 | 33 | SD | 409 | 11J8・9・13・14・18 | 近世以降 | IVa | N-38°-E | 3.32 | 0.43 | 3.24 | 0.26 | 0.10 | 0.62 | - | 弧状 | 1 | | 土師器長甕 | | | | | |
| 10・12・28・29 | 30 | SD | 411 | 12J21・22, 13J2~4・8・9、 13K17・18・23 | 近世以降 | IVa | N-56°-W | (18.14) | 0.39 | (18.19) | 0.13 | 0.34 | 0.41 | - | 台形状 | 2 | <SD436 >SD196・437 | 土師器無台碗 | 東北系 | | | | |
| 10・26・28 | 30 | SD | 436 | 13J10・15, 13K6・11・12・ 16~18 | 近世以降 | IVa | N-55°-W | 7.44 | 1.14 | 6.69 | 0.74 | 0.32 | 0.38 | - | 弧状 | 2 | >SD196・197・248・ 411・437 | | | | | | |
| 10・29 | 30 | SD | 437 | 13K18・23・24 | 近世以降 | IVa | N-59°-W | (1.67) | (0.58) | (1.67) | (0.38) | 0.09 | 0.46 | - | 弧状 | 1 | <SD411・436・438 | | | | | | |
| 10・29 | 30 | SD | 438 | 13K18・19・23・24 | 近世以降 | IVa | N-63°-W | (1.47) | 0.55 | (1.37) | 0.22 | 0.23 | 0.28 | - | 半円状 | 3 | >SD437・439 | | 肥前磁器 | | 47 | | |

| 図版No. | 写真 図版 No. | 遺構 | | グリッド | 時代 | 確認 層位 | 主軸方向 | 規模 (m) | | | | | | 底面座標 (m) | 形態 | | 埋土 | 重複関係 | 遺物 | | | 遺物 図版 No. | 備考 | |
|-------|-----------------|------|----------------------|-----------------------------|---------|----------|---------|---------|--------|--------|------|------|------|-------------|-----|-----|----------------|------|---------------|-------------|------|-----------------|----|-----|
| | | 種別 | 番号 | | | | | 上端 | | | 下端 | | | | 深度 | 平面 | | | 断面 | 土器・陶磁器 | | | | その他 |
| | | | | | | | | 長軸 | 短軸 | 長軸 | 短軸 | 古代 | 近世 | | | | | | | | | | | |
| 8・34 | - | Pit | 338 | 9H3 | 近世以降 | IVa | N-29°-E | 0.27 | 0.24 | 0.15 | 0.09 | 0.15 | 0.57 | 円形 | 半円状 | 2 | | | | | | | | |
| 8・34 | - | Pit | 339 | 9H3・8 | 近世以降 | IVa | N-3°-W | 0.35 | 0.24 | 0.21 | 0.13 | 0.10 | 0.60 | 楕円形 | 弧状 | 2 | | | | | | | | |
| 8・33 | - | Pit | 345 | 9I8・9 | 近世以降 | IVa | N-53°-E | (0.28) | 0.23 | (0.17) | 0.11 | 0.19 | 0.44 | 楕円形 | 半円状 | 1 | <Pit68 | | | 礫 | | | | |
| 9・27 | 29 | Pit | 366 | 9J21・22 | 近世以降 | IVa | N-23°-W | (0.19) | 0.20 | (0.11) | 0.14 | 0.08 | 0.54 | 楕円形 | 弧状 | 1 | <SD138 | | | | | | | |
| 9 | - | Pit | 393 | 11J12 | 近世以降 | IVa | N-32°-W | 0.48 | 0.31 | 0.25 | 0.19 | 0.22 | 0.51 | 楕円形 | 半円状 | 1 | | | | | 土製品 | 49 | | |
| 9・26 | 23・24 | Pit | 394 | 11J12・13 | 近世以降 | IVa | N-77°-W | 0.34 | (0.22) | (0.14) | 0.19 | 0.12 | 0.57 | 円形 | 半円状 | 2 | <SK395 | | | | | | | |
| 9 | - | Pit | 398 | 12J2 | 近世以降 | IVa | N-29°-E | 0.34 | 0.29 | 0.20 | 0.16 | 0.12 | 0.61 | 円形 | 半円状 | 1 | | | | | 金属製品 | | | |
| 9 | - | Pit | 443 | 11I9・10・14 | 近世以降 | IVa | N-23°-W | 0.23 | 0.19 | 0.12 | 0.09 | 0.08 | 0.64 | 楕円形 | 半円状 | 2 | | | | | 土製品 | 49 | | |
| 8・34 | - | Pit | 524 | 7G25 | 近世以降 | IVa | N-44°-E | 0.29 | 0.18 | 0.05 | 0.04 | 0.26 | 0.32 | 楕円形 | 漏斗状 | 1 | | | | | | | | |
| 8・32 | 36 | SB | 1 | 7G25, 7H16・21 | 近世以降 | IVa | N-48°-E | 3.15 | 1.70 | - | - | - | - | 側柱 2間×1間 | - | - | | | | | | | | |
| | 36 | Pit | 3 | 7H16 | 近世以降 | IVa | N-35°-E | 0.48 | (0.44) | 0.06 | 0.04 | 0.24 | 0.38 | 円形 | 半円状 | 2 | | | | | | | | |
| | - | Pit | 5 | 7G25 | 近世以降 | IVa | N-48°-E | 0.34 | (0.25) | 0.09 | 0.08 | 0.24 | 0.32 | 円形 | V字状 | 3 | | | | | | | | |
| | - | Pit | 6 | 7G24・25 | 近世以降 | IVa | N-63°-W | (0.23) | 0.28 | 0.07 | 0.05 | 0.22 | 0.38 | 楕円形 | V字状 | 1 | | | | | | | | |
| | - | Pit | 7 | 7G25, 7H21 | 近世以降 | IVa | N-60°-W | 0.36 | 0.35 | 0.11 | 0.04 | 0.26 | 0.54 | 円形 | U字状 | 1 | | | | | | | | |
| 8・32 | 36 | Pit | 11 | 7H21 | 近世以降 | IVa | N-42°-W | 0.37 | 0.33 | 0.06 | 0.05 | 0.15 | 0.37 | 円形 | 半円状 | 2 | | | 須恵器無台杯 | | | | | |
| 8・32 | 37 | SB | 2 | 8H11・16・17・22・23, 9H2・3・6・7 | 近世以降 | IVa | N-47°-W | 5.08 | (3.40) | - | - | - | - | 側柱 3間×2間 | - | - | | | | | | | | |
| | 37 | Pit | 44 | 8H11・16 | 近世以降 | IVa | N-45°-E | 0.85 | 0.65 | 0.14 | 0.11 | 0.53 | 0.15 | 円形 | 半円状 | 2 | >Pit43 | | | 信楽系、須佐唐津、瓦器 | 石製品 | 47 | | |
| | 37 | Pit | 82 | 8H17・22 | 近世以降 | IVa | N-26°-E | 0.48 | 0.36 | 0.17 | 0.10 | 0.32 | 0.40 | 楕円形 | 台形状 | 3 | >SX83 | | | 肥前磁器 | | | | |
| | 38 | Pit | 84 | 8H22 | 近世以降 | IVa | N-74°-E | 0.36 | 0.34 | 0.06 | 0.05 | 0.30 | 0.40 | 円形 | 漏斗状 | 3 | | | | | | | | |
| | 38 | Pit | 86 | 8H23, 9H3 | 近世以降 | IVa | N-9°-W | 0.52 | 0.48 | 0.14 | 0.14 | 0.47 | 0.25 | 円形 | U字状 | 1 | | | | | 土製品 | | | |
| | 38 | Pit | 89 | 9H2 | 近世以降 | IVa | N-45°-E | 0.56 | 0.35 | 0.05 | 0.04 | 0.31 | 0.40 | 楕円形 | 漏斗状 | 3 | >SD100 | | | 肥前磁器 | | | | |
| | 38 | Pit | 139 | 9H6・7 | 近世以降 | IVa | N-65°-E | 0.28 | 0.24 | 0.22 | 0.20 | 0.18 | 0.56 | 円形 | 半円状 | 1 | | | | | | | | |
| 9・33 | 39 | SB | 3 | 9I3~5・8~10・13・14・19・20, 9J6 | 近世以降 | IVa | N-47°-W | (4.45) | 4.45 | - | - | - | - | 側柱 3間×3間 | - | - | | | | | | | | |
| | 39 | Pit | 28 | 9I4・5 | 近世以降 | IVa | N-50°-E | (0.41) | 0.51 | 0.04 | 0.03 | 0.20 | 0.40 | 不整形 | 台形状 | 2 | | | | | 石製品 | | | |
| | - | Pit | 30 | 9I13・14 | 近世以降 | IVa | N-69°-W | 0.57 | 0.53 | 0.11 | 0.09 | 0.30 | 0.38 | 円形 | 半円状 | 2 | | | 土師器長囊 | | | | | |
| | 39 | Pit | 31 | 9I14 | 近世以降 | IVa | N-49°-W | 0.51 | 0.46 | 0.07 | 0.06 | 0.26 | 0.42 | 楕円形 | 半円状 | 2 | | | 土師器長囊 | 肥前磁器 | | | | |
| | - | Pit | 57 | 9I4 | 近世以降 | IVa | N-40°-W | 0.25 | 0.24 | 0.08 | 0.05 | 0.28 | 0.36 | 円形 | V字状 | 1 | | | | | | | | |
| | 40 | Pit | 62 | 9I4 | 近世以降 | IVa | N-22°-E | 0.33 | 0.26 | 0.18 | 0.12 | 0.19 | 0.44 | 楕円形 | 台形状 | 2 | <Pit63 | | | | | | | |
| | 40 | Pit | 63 | 9I4・9 | 近世以降 | IVa | N-83°-W | 0.42 | 0.33 | 0.18 | 0.17 | 0.20 | 0.44 | 楕円形 | 台形状 | 1 | >Pit62 | | | | | | | |
| | - | Pit | 68 | 9I8 | 近世以降 | IVa | N-40°-E | 0.45 | 0.40 | 0.29 | 0.19 | 0.19 | 0.46 | 円形 | 半円状 | 1 | >Pit345 | | | | | | | |
| | - | Pit | 121 | 9I8・13 | 近世以降 | IVa | N-2°-W | 0.60 | 0.46 | 0.30 | 0.22 | 0.26 | 0.42 | 楕円形 | 半円状 | 1 | >SD330, Pit122 | | | 肥前磁器 | | | | |
| | 40 | Pit | 156 | 9I8 | 近世以降 | IVa | N-2°-W | 0.31 | 0.31 | 0.20 | 0.15 | 0.14 | 0.54 | 円形 | 半円状 | 1 | | | | | | | | |
| 8・33 | 40 | Pit | 159 | 9I20 | 近世以降 | IVa | N-48°-W | 0.40 | 0.34 | 0.08 | 0.07 | 0.22 | 0.36 | 円形 | 漏斗状 | 2 | | | | | 石製品 | 53 | | |
| | 40 | Pit | 186 | 9I3 | 近世以降 | IVa | N-49°-E | 0.29 | 0.18 | 0.14 | 0.11 | 0.14 | 0.47 | 楕円形 | 台形状 | 2 | | | 土師器無台椀、須恵器無台杯 | | | 礫 | 37 | |
| | 41 | Pit | 187 | 9I8 | 近世以降 | IVa | N-62°-E | 0.30 | 0.19 | 0.05 | 0.05 | 0.10 | 0.56 | 楕円形 | 箱状 | 1 | >SD330 | | | | | | | |
| | 41 | Pit | 365 | 9I10, 9J6 | 近世以降 | IVa | N-54°-W | 0.52 | 0.42 | 0.10 | 0.08 | 0.33 | 0.30 | 楕円形 | 台形状 | 1 | | | 肥前磁器 | | | | | |
| | SA | 4 | 7G25, 7H16・21, 8G4・5 | 近世以降 | IVa | N-42°-E | 4.56 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | | | | | | | | |
| | Pit | 4 | 7H16 | 近世以降 | IVa | N-5°-W | 0.23 | 0.22 | 0.16 | 0.15 | 0.14 | 0.43 | 円形 | 半円状 | 2 | | | | | | | | | |
| | Pit | 52 | 8G4 | 近世以降 | IVa | N-88°-W | 0.22 | 0.20 | 0.13 | 0.12 | 0.16 | 0.44 | 円形 | U字状 | 2 | | | | | | | | | |
| | Pit | 298 | 7G25 | 近世以降 | IVa | N-12°-E | 0.20 | 0.16 | 0.15 | 0.12 | 0.12 | 0.44 | 楕円形 | U字状 | 1 | | | | | | | | | |
| | Pit | 322 | 7G25, 8G5 | 近世以降 | IVa | N-52°-E | 0.31 | 0.18 | 0.18 | 0.08 | 0.16 | 0.44 | 楕円形 | 台形状 | 1 | | | | | | | | | |
| | SA | 5 | 8H11・16 | 近世以降 | IVa | N-30°-E | 2.68 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | | | | | | | | |
| | 8・33 | 41 | Pit | 510 | 8H11 | 近世以降 | IVa | N-69°-E | 0.14 | 0.13 | 0.08 | 0.05 | 0.20 | 0.46 | 円形 | U字状 | 1 | | | | | | | |
| | Pit | 512 | 8H11 | 近世以降 | IVa | N-38°-E | 0.12 | 0.06 | 0.05 | 0.04 | 0.13 | 0.52 | 楕円形 | U字状 | 1 | | | | | | | | | |
| Pit | 513 | 8H11 | 近世以降 | IVa | N-55°-W | 0.10 | 0.08 | 0.04 | 0.03 | 0.10 | 0.53 | 円形 | U字状 | 1 | | | | | | | | | | |
| Pit | 514 | 8H16 | 近世以降 | IVa | N-41°-W | 0.11 | 0.09 | 0.05 | 0.04 | 0.16 | 0.46 | 円形 | U字状 | 1 | | | | | | | | | | |

| 図版No. | 写真図版No. | 報告No. | 遺構名 | 出土位置 グリッド | 層位 | 種別 | 器種 | 法量 (cm) | | | 器高 指数 | 底径 指数 | 胎土 含有物 | | 焼成 | 手法 | | | 回転 方向 | 遺存率 | | | 付着物 | | 備考 | |
|-------|---------|-------|-----|--------------|----|-----|---------------|---------|-----|----|----------|----------|-----------|----|-------------|----|------------|---------|----------|-----|------|------|-----|-----|-----------|--------------------------|
| | | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | 産地 | 色調 | | 外面 | 内面 | 底部 | | 口縁部 | 底部 | 全体 | 内面 | 外面 | | |
| 38 | 44 | 108 | | 13J10 | Ⅲ | 須恵器 | 壺・瓶類 (長頸瓶) | (7.2) | | | | | 長 | | 灰(5Y4/1) | 還元 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | 3/36 | | | 自然釉 | 自然釉 | |
| 38 | 44 | 109 | | 8G14 | Ⅲ | 須恵器 | 壺・瓶類 | (9.6) | | | | | 長 | | 灰白(10YR7/1) | 還元 | ロクロナデ | ロクロナデ | ヘラ切り | | | 3/36 | | | | 110と同一個体か |
| 38 | 44 | 110 | | 9H14 | Ⅲ | 須恵器 | 壺・瓶類 | | | | | | 長 | | 灰白(10YR8/1) | 還元 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | | | | 109と同一個体か | |
| 38 | 44 | 111 | | 12J21 | | 須恵器 | 横瓶 | | | | | | 石・長 | | 褐灰(10YR6/1) | 還元 | 平行タタキメ・カキメ | 同心円当て具痕 | | | | | | | 自然釉 | |
| 38 | 44 | 112 | | 14J14 | Ⅲ | 須恵器 | 横瓶 | | | | | | 長 | | 灰白(10YR8/2) | 還元 | 平行タタキメ | 同心円当て具痕 | | | | | | | | 横瓶の側部 風船技法の痕跡 内外から蓋をしている |
| 38 | 44 | 113 | | 14L21 | Ⅲ | 須恵器 | 横瓶 | | | | | | 石・長 | | 灰(N4/0) | 還元 | 平行タタキメ・カキメ | 同心円当て具痕 | | | | | | | 自然釉 | |
| 38 | 44 | 114 | 攪乱 | 14K10 | | 土師器 | 無台碗 | | 9.0 | | | | 長・赤 | | 橙(7.5YR7/6) | 酸化 | ロクロナデ | ロクロナデ | ヘラ切り | | | 7/36 | | | | 酸化炭焼成の須恵器無台杯か |
| 38 | 44 | 115 | 攪乱 | 10J18 | | 須恵器 | 大甕 | (18.6) | | | | | 長 | | 灰(N5/0) | 還元 | ロクロナデ | ロクロナデ | | | | 3/36 | | 自然釉 | 自然釉 | |

別表 3 近世以降陶磁器観察表

凡例は別表2に準じるが、色調は断面の色を記した

| 図版No. | 写真図版No. | 報告No. | 遺構名 | 出土位置 グリッド | 層位 | 種別 | 器種 | 法量 (cm) | | | 産地 | 色調 | 年代 | 給付・釉薬 | 成形・文様・調整ほか | 備考 |
|-------|---------|-------|-------|--------------|--------|----|-----|---------|--------|-----|---------|-----------------|-------------------|-------------|---|----|
| | | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | | | |
| 39 | 45 | 116 | SE2 | 7H14 | | 磁器 | 瓶 | 5.4 | | | 肥前 | 灰白(N8/0) | 17世紀後半～18世紀前半 | | | |
| 39 | 45 | 117 | SE2 | 7H14 | | 陶器 | 土瓶 | 5.8 | | | 不明 | 灰白(2.5Y8/1) | 19世紀(江戸後期) | 鉄釉 | | |
| 39 | 45 | 118 | SE27 | 9I3 | | 磁器 | 碗 | | 4.0 | | 肥前 | 灰白(N8/0) | 18世紀前半 | 染付 | 外:二重網目文・圏線 内:網目文 見込:菊花 銘:不明 | |
| 39 | 45 | 119 | SE27 | 9I3 | 3・4 | 磁器 | 皿 | 6.6 | 2.6 | 2.2 | 肥前 | 灰白(2.5Y7/1) | 18世紀 | | | |
| 39 | 45 | 120 | SE27 | 9I3 | | 陶器 | 播鉢 | 32.4 | | | 不明 | 橙(5YR7/6) | 18世紀以降 | | 内:鉞目 | |
| 39 | 45 | 121 | SE27 | 8G9,9I3 | 1・2, I | 陶器 | 壺 | | | | 肥前 | にぶい赤褐(5YR5/4) | 17世紀後半～18世紀前半 | 鉄釉 | 被熱 | |
| 39 | 45 | 122 | SE27 | 8H9,9I3 | 2 | 陶器 | 壺 | 7.4 | | | 東北系か | 浅黄橙(7.5YR8/3) | | 鉄釉 | | |
| 39 | 45 | 123 | SE102 | 8I16 | | 磁器 | 碗 | 8.8 | | | 肥前 | 灰白(N8/0) | 18世紀前半 | 染付 | 外:二重網目文 | |
| 39 | 45 | 124 | SE102 | 8I16 | | 磁器 | 碗 | | 4.0 | | 肥前 | 灰白(N8/0) | 18世紀末～19世紀中葉 | 染付 | 外:文様あり・圏線 見込:花文・圏線 | |
| 39 | 45 | 125 | SE102 | 8H20,8I16 | | 陶器 | 皿 | | 4.6 | | 肥前(内野山) | 灰白(10YR8/2) | 17世紀第4四半世紀～18世紀前半 | 外:透明釉 内:銅緑釉 | 内:蛇ノ目釉剥ぎ | |
| 39 | 45 | 126 | SE102 | 8I16 | | 陶器 | 皿 | | 8.0 | | 肥前 | 灰(N4/0) | | 内:透明釉か | 内:蛇ノ目釉剥ぎ | |
| 39 | 45 | 127 | SE102 | 8I16 | | 陶器 | 皿 | | 3.6 | | 信楽か | 灰白(2.5Y8/2) | 18世紀後半～19世紀初頭 | 透明釉 | | |
| 39 | 45 | 128 | SE102 | 8I16 | | 陶器 | 播鉢 | (32.0) | | | 肥前 | 橙(2.5YR7/6) | 18世紀 | 鉄釉 | タタキ成形 内:鉞目 | |
| 39 | 45 | 129 | SE102 | 8I16 | | 陶器 | 壺 | 9.6 | | | 越中瀬戸 | 灰黄(2.5Y7/2) | | 錯釉か | | |
| 39 | 45 | 130 | SE104 | 8H24,8I22 | | 磁器 | 碗 | 11.8 | 4.4 | 4.7 | 肥前(波佐見) | 灰白(N8/0) | 18世紀後半 | 染付 | 外:丸文・菱形文・圏線 内:蛇ノ目釉剥ぎ・重ね焼痕 見込:コンニャク印判五弁花文・圏線 | |
| 39 | 45 | 131 | SE104 | 8I11 | 3 | 磁器 | 碗 | 9.0 | | | 肥前 | 灰白(N8/0) | 18世紀前半 | 染付 | 外:文様有 | |
| 39 | 45 | 132 | SE104 | 8I11・17・22 | 1 | 陶器 | 播鉢 | | 11.0 | | 須佐唐津 | 浅黄橙(10YR8/4) | 17世紀後半～18世紀前半 | 鉄釉 | 外:体部下半横ケズリ 内:鉞目(1単位12条) 見込:胎土目か 底部:削り出し高台 | |
| 39 | 45 | 133 | SE104 | 8I22 | | 陶器 | 壺 | 13.4 | | | 肥前 | にぶい橙(7.5YR7/4) | | 鉄釉 | | |
| 39 | 45 | 134 | SE105 | 8I11 | 2 | 磁器 | 碗 | 9.8 | | | 肥前 | 灰白(N8/0) | 18世紀前半 | 染付 | 外:唐草文 | |
| 39 | 45 | 135 | SE105 | 8I12 | | 磁器 | 碗 | | 6.6 | | 肥前 | 灰白(N8/0) | 18世紀前半～中葉 | 染付 | 外:文様有・圏線 高台内:圏線 | |
| 39 | 45 | 136 | SE105 | 8I11 | | 陶器 | 皿 | (15.0) | | | 肥前 | 黄灰(2.5Y4/1) | | 内:鉄釉 | 溝縁皿か | |
| 39 | 45 | 137 | SE105 | 8I11 | | 磁器 | 火入 | (11.6) | | | 肥前(波佐見) | 灰白(N8/0) | 18世紀 | 青磁釉 | | |
| 39 | 45 | 138 | SE107 | 9I16 | | 磁器 | 碗 | | 4.0 | | 肥前(波佐見) | 灰白(2.5Y8/1) | | 染付 | 外:文様有・圏線 銘:大明年製 | |
| 40 | 45 | 139 | SE111 | 9I21 | | 磁器 | 碗 | 10.0 | 3.6 | 5.4 | 肥前 | 灰白(2.5Y8/1) | 19世紀後半 | 染付 | 蓋付碗 端反碗 外:花文・圏線 内:鋸歯文か 見込:「寿」か・圏線 | |
| 40 | 45 | 140 | SE111 | 9I21・22 | | 磁器 | 皿 | 7.4 | 4.2 | 2.2 | 肥前 | 灰白(N8/0) | 1820～1860年 | 染付 | 型打成形 輪花 内:山水文 | |
| 40 | 45 | 141 | SE111 | 9I21・22 | | 磁器 | 鉢 | 14.4 | | | 肥前 | 灰白(N8/0) | 18世紀第4四半世紀～19世紀初頭 | 染付 | 外:区画内花文 口縁部軸剥ぎ | |
| 40 | 45 | 142 | SE111 | 9I21,10J18 | | 陶器 | 壺 | 10.0 | | | 不明 | 灰白(2.5Y8/1) | | 鉄釉・透明釉 | 段重 SK319接合 | |
| 40 | 45 | 143 | SE113 | 10H5 | | 磁器 | 碗 | 8.6 | 3.0 | 5.4 | 肥前 | 灰白(N8/0) | 18世紀後半 | 染付 | 外:網目文・圏線 内:四方襷 見込:五弁花文・圏線 | |
| 40 | 45 | 144 | SE113 | 10H5 | | 磁器 | 碗 | 8.8 | | | 肥前 | 灰白(N8/0) | 18世紀後半 | 染付 | 外:竹文・雪持笹文・箭文 内:圏線 | |
| 40 | 45 | 145 | SE113 | 10H4・10 | | 陶器 | 皿 | 20.4 | | | 肥前 | 褐灰(10YR6/1) | 18世紀中葉 | 鉄釉 | 稜花形 内外:白化粧土刷毛目 見込:蛇ノ目釉剥ぎ | |
| 40 | 45 | 146 | SE113 | 10H5 | | 陶器 | 合子身 | | 2.8 | | 不明 | にぶい橙(7.5YR7/3) | | | | |
| 40 | 45 | 147 | SE113 | 10H5 | | 陶器 | 播鉢 | | 12.0 | | 須佐唐津 | にぶい赤褐(2.5YR5/4) | 17世紀後半～18世紀前半 | 鉄釉 | 内:鉞目(1単位9条) | |
| 40 | 45 | 148 | SE113 | 10H5 | | 陶器 | 壺 | 7.8 | 9.0 | 7.6 | 丹波か | 灰白(2.5Y8/2) | | 鉄釉 | 底部回転系切り | |
| 40 | 46 | 149 | SE118 | 10I11 | | 磁器 | 皿 | 13.0 | 4.3 | 3.7 | 肥前(波佐見) | 灰白(N8/0) | 18世紀後半 | 染付 | 内:二重斜格子文 見込:圏線・蛇ノ目釉剥ぎ | |
| 40 | 46 | 150 | SE118 | 10I12 | | 磁器 | 皿 | 8.4 | | | 肥前 | 灰白(N8/0) | 18世紀 | 透明釉 | 小坏か | |
| 40 | 46 | 151 | SE118 | 10I12 | | 陶器 | 鉢 | 34.0 | | | 肥前 | 赤褐(5YR4/6) | 17世紀後半～18世紀前半 | | 二彩手 外:口縁部白化粧土 内面白化粧土刷毛目 | |
| 40 | 46 | 152 | SE118 | 10I12 | | 陶器 | 播鉢 | (26.0) | | | 肥前 | 灰(N4/0) | 17世紀前半 | 鉄釉(口縁部分) | ロク口成形 | |
| 40 | 46 | 153 | SE118 | 10I11 | | 陶器 | 播鉢 | (23.8) | | | 肥前 | 暗灰(N3/0) | 17世紀後半 | 鉄釉(口縁部分) | 注口 ロク口成形 内:鉞目 | |
| 40 | 46 | 154 | SE118 | 8H21,10I12 | | 陶器 | 播鉢 | (30.0) | | | 須佐唐津 | 淡黄(2.5Y8/3) | 17世紀後半～18世紀前半 | 鉄釉 | | |
| 40 | 46 | 155 | SE118 | 10I11 | | 陶器 | 播鉢 | | (12.0) | | 須佐唐津 | にぶい橙(7.5YR7/4) | 17世紀後半～18世紀前半 | 鉄釉 | 内:鉞目 削り出し高台 | |
| 40 | 46 | 156 | SE118 | 10I11 | | 陶器 | 灯明皿 | | 3.8 | | 肥前 | 灰黄(2.5Y6/2) | 18世紀か | 鉄釉 | 底部回転系切り 見込:底部重ね焼痕 | |
| 40 | 46 | 157 | SE118 | 10I12 | | 磁器 | 火入 | 10.0 | | | 肥前 | 灰白(N8/0) | 18世紀前葉～中葉 | 染付 | 外:笹文 | |

| 図版 No. | 写真図 版No. | 報告 No. | 出土位置 | | 層位 | 種別 | 器種 | 法量 (cm) | | | 産地 | 色調 | 年代 | 絵付・釉薬 | 成形・文様・調整ほか | 備考 |
|-----------|-------------|-----------|-------|-----------------------|-----|----|-------|---------|--------|-----|---------|------------------|-----------------------|----------------|--|-----------------|
| | | | 遺構名 | グリッド | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | | | |
| 40 | 46 | 158 | SE120 | 10H20 | | 磁器 | 皿 | 7.0 | | | 肥前 | 灰白 (N8/0) | 18世紀 | 染付 | 外: 帆掛船 | 手塩皿 |
| 40 | 46 | 159 | SE120 | 10I16 | | 磁器 | 皿 | 9.8 | 7.4 | 1.9 | 瀬戸美濃 | 灰白 (N8/0) | 19世紀後半 | | 型打ち成形 見込:「寿」字 | |
| 40 | 46 | 160 | SE120 | 10I16 | | 陶器 | 行平鍋蓋 | 13.0 | | | 関西系 | にふい黄橙 (10YR7/3) | 19世紀 | 外: 一部鉄軸 内: 透明釉 | 飛焼 | 京焼か |
| 40 | 46 | 161 | SE120 | 10I16 | | 陶器 | 甕 | (30.0) | | | 肥前 | 黄灰 (2.5Y6/1) | 17世紀後半~18世紀 | 透明釉 | 内: 白化粧土 | |
| 41 | 46 | 162 | SE126 | 8G3, 8H10 | 3 | 磁器 | 皿 | | 6.0 | | 肥前 | 橙 (5YR6/6) | 17世紀中葉 | 染付 | 内: 草花文 生掛け・陶胎染付か | SD41接合 |
| 41 | 46 | 163 | SE126 | 8H5 | 3 | 磁器 | 皿 | | 5.0 | | 肥前 | 灰白 (N8/0) | 1640~1660年 | 染付 | 内: 文様有 見込: 文様有・圏線 | |
| 41 | 46 | 164 | SE126 | 8I6 | | 陶器 | 皿 | 12.0 | | | 肥前(内野山) | 灰白 (2.5Y7/1) | 17世紀第4四半世紀~18世紀前半 | 外: 透明釉 内: 銅緑釉 | | |
| 41 | 46 | 165 | SE126 | 8H5 | 1 | 陶器 | 播鉢 | (34.0) | | | 須佐唐津 | 橙 (7.5YR7/6) | 17世紀後半~18世紀前半 | 鉄軸 | 内: 鈿目 | |
| 41 | 46 | 166 | SE126 | 8H10 | 5 | 陶器 | 播鉢 | | 10.0 | | 須佐唐津 | 浅黄橙 (10YR8/4) | 17世紀後半~18世紀前半 | 鉄軸 | 内: 鈿目 削り出し高台 | |
| 41 | 46 | 167 | SE135 | 9I25 | | 磁器 | 椀 | 10.0 | 3.8 | 5.7 | 肥前 | 灰白 (N8/0) | 18世紀前半 | 染付 | 外: 文様有・圏線 高台内: 圏線 銘: 大明年製 | |
| 41 | 46 | 168 | SE135 | 9I25 | | 磁器 | 椀 | 9.9 | | | 肥前 | 灰白 (N8/0) | 18世紀前半 | 染付 | 外: 草花文 | |
| 41 | 46 | 169 | SE135 | 9I25 | | 磁器 | 椀 | | 4.6 | | 肥前 | 灰白 (N8/0) | 18世紀前半 | 染付 | 外: 文様有・圏線 | |
| 41 | 46 | 170 | SE135 | 8H15, 9I25 | | 磁器 | 皿 | 13.0 | 4.4 | 4.1 | 肥前(波佐見) | 灰白 (N8/0) | 17世紀末~18世紀前半 | 染付 | 内: 折松葉文か 見込: 蛇ノ目軸剥ぎ 高台無軸 | SK103接合 |
| 41 | 46 | 171 | SE135 | 9I25 | | 磁器 | 皿 | 14.0 | 8.4 | 3.2 | 肥前 | 灰白 (N8/0) | 18世紀前半 | 染付 | 内: 草花文 見込: 文様有 外: 圏線 高台内: 圏線 | |
| 41 | 46 | 172 | SE135 | 9I25 | | 陶器 | 鉢 | 30.0 | | | 肥前 | 灰褐 (5YR6/2) | 17世紀後半 | 鉄軸・銅緑釉 | 外: 白化粧土刷毛目 | |
| 41 | 46 | 173 | SE135 | 8H18, 9I12・25 | | 陶器 | 鉢 | 20.2 | 10.2 | 9.9 | 肥前 | 赤褐 (10R4/4) | 17世紀第4四半世紀~18世紀第1四半世紀 | 鉄軸・透明釉 | 内外: 白化粧土刷毛目 削り出し高台 | 片口か SK103, 攪乱接合 |
| 41 | 46 | 174 | SE135 | 9I25 | | 陶器 | 鉢 | | 11.7 | | 肥前 | にふい赤褐 (2.5YR4/4) | 17世紀末~18世紀前半 | | 内: 白化粧土 重ね焼き痕 (砂胎土目) 削り出し高台 二彩手か | |
| 41 | 46 | 175 | SE135 | 9I25, 10I11 | | 陶器 | 播鉢 | | 11.8 | | 須佐唐津 | 浅黄 (2.5Y7/3) | 17世紀末~18世紀前半 | 鉄軸 | 内: 鈿目 見込: 目痕 胎土目か 削り出し高台 | SE118接合 |
| 41 | 46 | 176 | SE315 | 8H24 | | 磁器 | 椀 | 12.0 | | | 肥前 | 灰白 (N8/0) | 18世紀前半 | 染付 | 外: 草花文 | |
| 41 | 46 | 177 | SE315 | 8H25 | | 磁器 | 椀 | | 4.0 | | 肥前 | 灰白 (N8/0) | 18世紀前半 | 染付 | 外: 草花文・圏線 | |
| 41 | 46 | 178 | SE315 | 8H19・25 | | 磁器 | 椀 | | 3.6 | | 肥前 | 灰白 (N8/0) | 18世紀前半 | 透明釉 | | SK340接合 色絵の下地か |
| 42 | 46 | 179 | SE315 | 8H25, 8I17 | | 磁器 | 皿 | 12.6 | | | 肥前 | 灰白 (N8/0) | 18世紀第2~3四半世紀 | 染付 | 内: 菊花文 (半菊か) 外: 唐草文・圏線 やや粗製 | SE104接合 |
| 42 | 47 | 180 | SE315 | 8H15・18・24 | | 陶器 | 播鉢 | 32.0 | | | 肥前 | 褐灰 (10YR5/1) | 17世紀後半 | 鉄軸 (口縁部分) | ロクロ成形 内: 鈿目 | SK103接合 |
| 42 | 47 | 181 | SE315 | 8H24 | | 陶器 | 壺蓋 | 9.0 | | 3.0 | 肥前 | 黄灰 (2.5Y6/2) | 17世紀 | 外: 鉄軸 | | |
| 42 | 47 | 182 | SE315 | 8H19・24・25, 9H5 | 1 | 磁器 | 瓶 | | 6.8 | | 肥前 | 灰白 (N7/0) | 17世紀後半 | 染付 | 外: 笹文・草文か・圏線 | SK103・340接合 |
| 42 | 47 | 183 | SE315 | 8H19, 10J18・23, 11I18 | | 陶器 | 甕 | 21.6 | | | 肥前 | 赤 (10R4/6) | 17世紀後半~18世紀前半 | 外: 鉄軸 | 外: 沈線・指頭圧痕・格子目文タタキ 内: 指頭圧痕 | 攪乱接合 |
| 42 | 47 | 184 | SE329 | 9H5, 9I18 | 1 | 磁器 | 火入 | 9.4 | 9.0 | 6.7 | 肥前(波佐見) | 灰白 (N8/0) | 17世紀後半~18世紀第1四半世紀 | 青磁釉 | 蛇ノ目凹形高台 高台内: 軸剥ぎ後鉄錆 | 良品 |
| 42 | 47 | 185 | SE367 | 9I23, 10I4 | | 磁器 | 椀 | 8.6 | 3.2 | 3.9 | 京焼 | 灰白 (N8/0) | 18世紀前半 | 染付 | 薄手半球椀 良品 外: 草花文 | 小坏 |
| 42 | 47 | 186 | SE367 | 10I3 | | 磁器 | 椀 | | 4.0 | | 肥前 | 灰白 (N8/0) | 18世紀前半 | 染付 | 外: 二重網目文・圏線 内: 網目文 見込: 菊花 銘: 不明 (方形棒有) | |
| 42 | 47 | 187 | SE367 | 10I4 | | 陶器 | 椀 | 9.2 | 4.0 | 6.6 | 京・信楽系 | 灰白 (5Y8/1) | 18世紀前半 | 透明釉 | 色絵 外: 草花文 高台無軸 | |
| 42 | 47 | 188 | SE367 | 9I23, 10I3 | | 陶器 | 椀 | 9.2 | | | 信楽系 | 灰白 (5Y8/1) | 18世紀 | 透明釉 | 色絵 外: 笹文 | |
| 42 | 47 | 189 | SE367 | 10I4 | | 陶器 | 皿 | | (4.6) | | 不明 | にふい橙 (5YR7/4) | | | 外: 白化粧土か 生掛けか 高台無軸 | |
| 42 | 47 | 190 | SE367 | 9I23, 10I20 | | 磁器 | 瓶 | | | | 肥前 | 灰白 (N8/0) | 17世紀後半 | 染付 | 外: 圏線・文様有 | SD128接合 |
| 42 | 47 | 191 | SE367 | 9I23, 10I12 | | 磁器 | 瓶 | | 6.4 | | 肥前 | 灰白 (7.5Y8/1) | | 染付 | 陶胎染付 高台: 圏線 | SE118接合 |
| 42 | 47 | 192 | SE367 | 9I23 | | 陶器 | 播鉢 | (28.0) | | | 肥前 | にふい橙 (7.5YR6/4) | 17世紀前半 | 鉄軸 (口縁部分) | ロクロ成形 | |
| 42 | 47 | 193 | SK19 | 8H13 | | 陶器 | 皿 | | 6.4 | | 不明 | 黄灰 (2.5Y6/2) | 19世紀以降 | 透明釉 | 底部外面墨書「二八」 内: 重ね焼き痕 | |
| 42 | 47 | 194 | SK19 | 8H13 | 1 | 陶器 | 鉢 | | 8.2 | | 肥前 | にふい赤褐 (2.5YR5/3) | 18世紀第2~3四半世紀 | 鉄軸 | 内: 白化粧土刷毛目・蛇ノ目軸剥ぎ・重ね焼き痕 削り出し高台 | |
| 42 | 47 | 195 | SK19 | 8H13 | 1 | 磁器 | ひょうそく | 3.4 | | | 肥前 | 灰白 (N8/0) | | 鉄軸か | | |
| 42 | 47 | 196 | SK19 | 8H13 | 2 | 瓦器 | 火鉢 | | | | 不明 | 黒 (2.5GY2/1) | | | 鋤歯状回転文 獅子頭持ち手痕 斜め方向ヘラケズリ (雲・風か) | |
| 42 | 47 | 197 | SK19 | 8H13 | 1・1 | 瓦器 | 火鉢 | | 18.0 | | 不明 | 灰白 (5Y7/2) | | | 型押し成形か 菊・垣根 (格子・斜め格子)・草・柳・星・梅花 | 金属器模倣か |
| 43 | 47 | 198 | SK103 | 8H25 | | 磁器 | 椀 | 10.4 | 4.0 | 5.5 | 肥前 | 灰白 (N8/0) | 1690~1730年 | 染付 | 外: 丸文内に菊花文・菊花重ね・青海波文・圏線 銘: 二重方形枠に満福 | |
| 43 | 47 | 199 | SK103 | 8H15・18 | | 磁器 | 椀 | 10.0 | | | 肥前 | 灰白 (N8/0) | 17世紀末~18世紀前半 | 染付 | 外: 丸文内に花文・花散文・米裂文 | |
| 43 | 47 | 200 | SK103 | 8H18 | 2 | 磁器 | 椀 | 10.4 | | | 肥前 | 灰白 (7.5YR8/1) | 17世紀末~18世紀前半 | 染付 | 外: 若松文 | |
| 43 | 47 | 201 | SK103 | 8H15 | | 磁器 | 椀 | | 4.0 | | 肥前 | 灰白 (5Y8/1) | 17世紀後半 | 染付 | 外: 草花文・圏線 高台内: 圏線 銘: 大口年製 | 薄手 |
| 43 | 48 | 202 | SK103 | 8H15, 9I17 | 1 | 陶器 | 皿 | 12.4 | 4.4 | 3.3 | 肥前 | 灰白 (2.5Y7/1) | 17世紀第4四半世紀~18世紀前半 | 外: 透明釉 内: 銅緑釉 | 内: 蛇ノ目軸剥ぎ | |
| 43 | 48 | 203 | SK103 | 8H15・19 | Ⅲ | 陶器 | 皿 | 11.8 | 4.4 | 3.7 | 肥前 | 灰白 (2.5Y8/2) | 17世紀第4四半世紀~18世紀前半 | 外: 透明釉 内: 銅緑釉 | 内: 蛇ノ目軸剥ぎ | |
| 43 | 48 | 204 | SK103 | 8H18 | 2 | 陶器 | 鉢 | 35.0 | | | 肥前 | にふい赤褐 (2.5YR5/4) | | 鉄軸 | | |
| 43 | 48 | 205 | SK103 | 8H18 | | 磁器 | 火入 | 8.4 | | | 肥前 | 灰白 (2.5Y7/1) | 18世紀~ | 染付 | 外: 草花文か・圏線 | |
| 43 | 48 | 206 | SK103 | 8H15 | | 磁器 | 蓋 | 8.6 | 4.8 | 1.7 | 肥前(波佐見) | 灰白 (5Y8/1) | | 青磁釉 | | |
| 43 | 48 | 207 | SK103 | 8H18 | 1 | 陶器 | 灯明皿 | 9.6 | 4.3 | 2.6 | 肥前 | 褐灰 (10YR5/1) | | 鉄軸 | 底部回転系切り 内: 重ね焼き痕 | |
| 43 | 48 | 208 | SK103 | 8I21 | | 瓦器 | 焙烙 | 34.0 | 29.6 | | 不明 | 浅黄橙 (7.5YR8/4) | | | 外: 一部スス | |
| 43 | 48 | 209 | SK145 | 10J1 | | 陶器 | 皿 | | (14.0) | | 肥前 | 橙 (5YR6/6) | | 内: 鉄軸 | | |
| 43 | 48 | 210 | SK145 | 10J6 | | 陶器 | 壺 | 14.0 | | | 肥前 | 黒 (N1.5/0) | | 鉄軸 | | |
| 43 | 48 | 211 | SK145 | 10J6 | | 陶器 | 播鉢 | 16.8 | | | 不明 | にふい黄橙 (10YR7/3) | | 鉄軸 | 内: 鈿目 | |
| 43 | 48 | 212 | SK163 | 11J6 | | 陶器 | 急須 | 6.2 | | | 不明 | 浅黄 (2.5Y8/3) | | 鉄軸 | | |
| 43 | 48 | 213 | SK167 | 9I1 | | 磁器 | 椀 | | 3.6 | | 肥前 | 灰白 (N8/0) | 18世紀 | 染付 | 外: 草花文 (花: コンニヤク印判・草: 手書き)・圏線 | |
| 43 | 48 | 214 | SK181 | 11J2 | | 磁器 | 椀 | 5.8 | 2.1 | 2.8 | 不明 | 黄灰 (2.5Y7/2) | 19世紀以降 | 透明釉 | 型押し成形か | 小坏 |
| 43 | 48 | 215 | SK181 | 11J2 | | 陶器 | 鉢 | 13.0 | | | 不明 | 灰 (5Y6/1) | | 緑軸か | | |
| 43 | 48 | 216 | SK317 | 9I11 | | 磁器 | 椀 | | 3.0 | | 瀬戸美濃 | 灰白 (N8/0) | 19世紀後半 | 透明釉 | 色絵 外: 文様有 (草花文か)・圏線 見込: 文様有 | |

| 図版No. | 写真図版No. | 報告No. | 出土位置 遺構名 グリッド | 層位 | 種別 | 器種 | 法量 (cm) | | | 産地 | 色調 | 年代 | 絵付・釉薬 | 成形・文様・調整ほか | 備考 |
|-------|---------|-------|--------------------------|----|----|-------|---------|------|------|---------|------------------|-------------------|---------------|------------|---|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | | | |
| 43 | 48 | 217 | SK317 9111 | | 磁器 | 皿 | 6.4 | 2.1 | 2.1 | 肥前 | 灰白 (N8/0) | | 染付 | 外: 笹文 | 手塩皿 |
| 43 | 48 | 218 | SK317 9111 | | 陶器 | 播鉢 | 27.2 | | | 不明 | 淡黄 (2.5Y8/3) | | 鉄釉 | | |
| 43 | 48 | 219 | SK317 9111 | | 陶器 | 播鉢 | | 11.0 | | 須佐唐津 | 浅黄橙 (10YR8/3) | 17世紀後半～18世紀前半 | 鉄釉 | | 内: 鉾目 削り出し高台 |
| 43 | 48 | 220 | SK319 9122 | | 磁器 | 碗 | 11.0 | 3.6 | 5.4 | 肥前 | 灰白 (N8/0) | 19世紀以降 | 染付 | | 端反 外: 区画・半菊か・宝文・記号・圏線 内: 顔面文 見込: 圏線・不明 |
| 43 | 48 | 221 | SK319 9122 | | 磁器 | 碗 | 10.6 | 3.4 | 5.8 | 肥前 | 灰白 (N8/0) | 19世紀以降 | 染付 | | 端反 外: 丸文 (花文か)・縦縞・圏線 内: 満文か 見込: 圏線・不明 |
| 43 | 48 | 222 | SK319 9117 | | 磁器 | 皿 | 15.0 | 10.0 | 4.3 | 肥前 | 灰白 (N8/0) | | 染付 | | 内: 草花文 外: 唐草文・圏線 高台内: 圏線 |
| 44 | 48 | 223 | SK319 9122 | | 瓦器 | 焙烙 | 30.0 | | | 不明 | にふい橙 (7.5YR7/4) | | | | 外: スス |
| 44 | 48 | 224 | SK340 8H25 | | 磁器 | 碗 | 9.3 | 2.0 | 5.5 | 肥前 | 灰白 (N8/0) | 18世紀 | 染付 | | 外: 草花文・圏線 高台内: 圏線 銘: 不明4文字 (「大明年製」か) |
| 44 | 48 | 225 | SK340 8H20, 8I6 | | 磁器 | 碗 | 10.0 | | | 肥前 | 灰白 (N8/0) | 18世紀前半 | 染付 | | 外: コニヤク印判 (菊花・楓) |
| 44 | 48 | 226 | SK340 8H20 | | 陶器 | 播鉢 | | 10.0 | | 肥前 | 褐灰 (10YR6/1) | 17世紀代 | | | ロクロ成形 底部回転系切り 内: 鉾目 (1単位15条) |
| 44 | 48 | 227 | SK340 8H20 | | 陶器 | 播鉢 | | 12.0 | | 肥前 | 褐灰 (7.5YR5/1) | 17世紀代 | | | ロクロ成形 底部回転系切り 内: 鉾目 |
| 44 | 48 | 228 | SK340 8H21 | | 陶器 | 播鉢 | (27.6) | | | 肥前 | 灰 (N6/0) | 17世紀後半 | 鉄釉 (口縁部分) | | ロクロ成形 内: 鉾目 |
| 44 | 48 | 229 | SK340 8H25 | | 陶器 | 壺 | | 8.5 | | 肥前 | 灰白 (2.5Y7/1) | | 鉄釉 | | 底部回転系切り |
| 44 | 48 | 230 | SK340 8H25 | | 陶器 | 灯明皿 | 13.0 | 5.0 | 4.0 | 肥前 | にふい橙 (7.5YR5/3) | | 一部鉄釉 | | 底部回転系切り |
| 44 | 48 | 231 | SK375 10124 | | 陶器 | 碗 | | 5.4 | | 肥前 | にふい赤褐 (2.5YR5/4) | | 鉄釉 | | |
| 44 | 48 | 232 | SX83 8H17 | 1 | 磁器 | 皿 | | | | 肥前(波佐見) | 灰白 (N8/0) | | 青磁釉 | | 脚部 (三足か) 内: 片切り彫り・草花文 |
| 44 | 48 | 233 | SD9-A 8I1・6 | 1 | 磁器 | 皿 | 13.0 | 4.4 | 3.6 | 肥前(波佐見) | 灰白 (N8/0) | 18世紀 | 染付 | | 内: 二重斜格子文 見込: 圏線・蛇ノ目軸刺ぎ |
| 44 | 48 | 234 | SD9-A 8I12 | | 磁器 | 皿 | 12.4 | | | 肥前 | 灰白 (2.5Y8/1) | 17世紀後半か | 染付 | | 内: 草花文 |
| 44 | 49 | 235 | SD9-A 7H25 | | 陶器 | 皿 | | 4.3 | | 肥前 | 灰白 (10YR8/1) | 17世紀第4四半世紀～18世紀前半 | 外: 透明釉 内: 銅鉢釉 | | 内: 蛇ノ目軸刺ぎ |
| 44 | 49 | 236 | SD9-A 8I7 | | 陶器 | 播鉢 | 39.4 | | | 肥前 | 灰褐 (5YR5/2) | 18世紀後半～19世紀前半 | 鉄釉 | | タタキ成形 |
| 44 | 49 | 237 | SD9-A 7H19 | | 陶器 | 鉢 | | 8.2 | | 不明 | 灰黄 (2.5Y7/2) | | 釉 | | 高台無釉 |
| 44 | 49 | 238 | SD9-A 8I6 | | 陶器 | 灯明皿 | 11.0 | 4.6 | 2.6 | 不明 | 明赤褐 (2.5YR5/6) | | | | 未使用か |
| 44 | 49 | 239 | SD9-B 8I18 | | 磁器 | 碗 | | 4.0 | | 肥前 | 灰白 (2.5Y7/1) | 17世紀中葉 | | | 高台無釉 生掛けか |
| 44 | 49 | 240 | SD9-B 8I19 | 1 | 陶器 | 鉢 | 12.4 | | | 不明 | にふい黄橙 (10YR6/3) | | | | 片口 |
| 44 | 49 | 241 | SD9-B 8I18 | | 陶器 | 鉢 | | 8.4 | | 関西系 | 灰黄 (2.5Y7/2) | 19世紀 | 釉 | | 内: 重ね焼き痕 (目痕か) 高台無釉 |
| 44 | 49 | 242 | SD9-B 8I18 | | 陶器 | 土瓶 | 9.2 | | | 不明 | にふい橙 (2.5YR6/4) | | 鉄釉 | | |
| 45 | 49 | 243 | SD9-B 8I13・18 | 3 | 陶器 | 瓶 | | 6.2 | | 肥前 | 灰黄 (2.5Y6/2) | 18世紀前半 | 鉄釉 | | 頸部・体部掛け分け 体部白化粧土刷毛目 |
| 45 | 49 | 244 | SD9-B 8I19 | | 陶器 | 灯明皿 | 11.0 | | | 不明 | にふい橙 (7.5YR7/4) | | 透明釉 | | |
| 45 | 49 | 245 | SD16 7H23, 8H2 | | 陶器 | 鉢 | 39.6 | | | 肥前 | にふい赤褐 (2.5YR5/4) | 18世紀 | 鉄釉 | | 内: 白化粧土刷毛目 |
| 45 | 49 | 246 | SD25 8H20, 8I7・17 | 1 | 磁器 | 碗 | 9.0 | 3.8 | 5.0 | 肥前 | 灰白 (N8/0) | 18世紀 | 染付 | | 外: コニヤク印判 (菊花・葉) |
| 45 | 49 | 247 | SD25 8H9・15 | 1 | 陶器 | 碗 | 9.4 | 3.0 | 5.2 | 信楽系 | 灰白 (2.5Y8/2) | | 釉 | | |
| 45 | 49 | 248 | SD25 8H15 | | 陶器 | 皿 | | 6.0 | | 不明 | 灰黄 (2.5Y7/1) | | 内: 鉄釉 | | 高台無釉 |
| 45 | 49 | 249 | SD25 8H9 | 3 | 陶器 | 壺 | 10.4 | | | 不明 | 灰黄 (2.5Y7/2) | | 鉄釉 | | |
| 45 | 49 | 250 | SD25 8H14 | | 陶器 | 播鉢 | 38.8 | | | 肥前 | にふい橙 (5YR6/4) | 18世紀 | 鉄釉 | | タタキ成形 内: 鉾目 (1単位12条) |
| 45 | 49 | 251 | SD25 8H14 | | 陶器 | 灯明皿 | 9.4 | 4.0 | 2.1 | 東北系か | 灰白 (10YR8/2) | 18世紀後半～ | 鉄釉 | | 底部回転系切り |
| 45 | 49 | 252 | SD25 8H8 | | 瓦器 | 焙烙 | 32.2 | | | 不明 | にふい黄橙 (10YR7/4) | | | | 外: スス |
| 45 | 49 | 253 | SD101 9H19 | | 磁器 | 碗 | 9.8 | | | 肥前 | 灰白 (N8/0) | 18世紀前半 | 染付 | | 外: 草花文・圏線 |
| 45 | 49 | 254 | SD101 9H18 | | 磁器 | 皿 | | 8.0 | | 肥前 | 灰白 (N8/0) | 1630～1640年 | 染付 | | 内: 列点文・草花文・圏線 型紙摺りか 焼成不良 |
| 45 | 49 | 255 | SD101 9H19 | | 陶器 | 鉢 | | 11.0 | | 肥前 | にふい黄橙 (10YR7/3) | 17世紀第2～3四半世紀 | 内: 透明釉 | | 内: 白化粧土刷毛目・重ね焼き痕 (砂目か) 削り出し高台 |
| 45 | 49 | 256 | SD101 9H19 | | 磁器 | 瓶 | 5.0 | | | 肥前 | 灰白 (N8/0) | 17世紀後半 | 透明釉 | | |
| 45 | 49 | 257 | SD101 9H19 | | 陶器 | 壺 | | 10.3 | | 肥前 | にふい赤褐 (2.5YR4/4) | 17世紀後半～18世紀 | 鉄釉か | | 内: 格子目タタキ |
| 45 | 49 | 258 | SD101 9H18 | | 磁器 | 火入・香炉 | | | | 肥前(波佐見) | 灰白 (N8/0) | 1630～1660年 | 青磁釉 | | 高台付近無釉 |
| 45 | 49 | 259 | SD101 9H18 | | 陶器 | 蓋 | (10.0) | | | 不明 | 灰黄 (2.5Y6/2) | | 鉄釉 | | |
| 45 | 49 | 260 | SD110 9I21 | | 磁器 | 碗 | | 6.2 | | 肥前 | 灰白 (7.5YR8/1) | | 染付 | | 外: 山水文・連弁文・圏線 見込: 五弁花文・圏線 銘: 田 (色絵) 蛇ノ目凹高台 |
| 45 | 49 | 261 | SD110 9I16 | | 陶器 | 皿 | 13.6 | | | 肥前 | 灰白 (10YR8/2) | | 透明釉 | | 内: 白化粧土刷毛目 |
| 45 | 49 | 262 | SD125 10I15 | | 磁器 | 碗 | | 4.2 | | 肥前 | 灰白 (2.5Y8/1) | 18世紀後半 | 染付 | | 外: 草花文・圏線 銘: 大明年製 |
| 45 | 50 | 263 | SD125 10I15 | | 磁器 | 碗 | 10.4 | 4.2 | 5.0 | 肥前 | 灰白 (N8/0) | 18世紀前半 | 染付 | | 外: 二重網目文・圏線 内: 網目文 見込: コニヤク印判 (菊花) |
| 45 | 50 | 264 | SD125 10I14 | | 陶器 | 碗 | | 2.8 | | 京・信楽系 | 灰白 (2.5Y8/2) | | 透明釉 | | |
| 46 | 50 | 265 | SD125 10I15 | | 磁器 | 皿 | 11.8 | 4.0 | 3.7 | 肥前(波佐見) | 灰白 (2.5Y8/1) | 18世紀後半 | | | 内: 二重斜格子文 (折松葉文か) 見込: 圏線・蛇ノ目軸刺ぎ |
| 46 | 50 | 266 | SD125 10I15 | | 磁器 | 皿 | 12.6 | 4.4 | 4.1 | 肥前(波佐見) | 灰白 (2.5Y8/1) | 18世紀後半 | 染付 | | 内: 二重斜格子文 見込: 圏線・蛇ノ目軸刺ぎ |
| 46 | 50 | 267 | SD125 10I14 | | 陶器 | 皿 | 12.6 | 3.8 | 4.9 | 肥前 | 灰黄 (2.5Y7/2) | 18世紀前半 | 透明釉か | | 京焼写し良品 見込: 山水文か 高台無釉 |
| 46 | 50 | 268 | SD125 10I14 | | 磁器 | 鉢 | 15.6 | 8.2 | 6.0 | 肥前 | 灰白 (2.5Y8/1) | 18世紀前半 | 染付 | | 内: 区画内竹文・区画間唐草文・圏線 見込: 桃か・圏線 外: 唐草文 高台内: 圏線 銘: 「□□年製」 |
| 46 | 50 | 269 | SD125 10I14 | | 陶器 | 播鉢 | 40.0 | | | 肥前 | 灰褐 (5YR5/2) | 18世紀以降 | 鉄釉 | | タタキ成形 |
| 46 | 50 | 270 | SD125 10I10・15, 10J16・23 | | 陶器 | 播鉢 | 31.6 | 10.2 | 13.5 | 須佐唐津 | にふい橙 (7.5YR7/3) | 17世紀後半～18世紀前半 | 鉄釉 | | 外: 体部下半ケズリ 内: 鉾目 (1単位20条) 削り出し高台 高台内: 工具痕 |
| 46 | 50 | 271 | SD128 10J7 | | 磁器 | 碗 | (11.0) | | | 肥前 | 灰白 (2.5Y8/1) | | 染付 | | 外: 団鶴文か 型紙摺りか |
| 46 | 50 | 272 | SD128 11I3 | 1 | 磁器 | 碗 | 10.0 | | | 肥前 | 灰白 (2.5Y8/1) | 18世紀前半 | 染付 | | 薄手半球碗か 外: 若松文か |
| 46 | 50 | 273 | SD128 10I24 | | 磁器 | 皿 | 13.2 | 8.0 | 3.0 | 肥前 | 灰白 (2.5Y8/1) | 18世紀前半 | 染付 | | 内: 扇文・花唐草文か 見込: 圏線・コニヤク印判 (五弁花文か) 外: 唐草文・圏線 高台内: 圏線 銘: 「□□年製」 |
| 46 | 50 | 274 | SD128 9I7, 10I20 | 1 | 陶器 | 皿 | (19.8) | | | 肥前 | 灰黄 (2.5Y7/2) | 18世紀前半 | 透明釉 | | 内外: 白化粧土刷毛目 |
| 46 | 50 | 275 | SD128 10J11 | | 陶器 | 播鉢 | (24.5) | | | 須佐唐津 | にふい橙 (7.5Y7/4) | 17世紀後半～18世紀前半 | 鉄釉 | | 内: 鉾目 |

| 図版No. | 写真図版No. | 報告No. | 遺構名 | 出土位置 | 層位 | 種別 | 器種 | 法量 (cm) | | | 産地 | 色調 | 年代 | 絵付・釉薬 | 成形・文様・調整ほか | 備考 |
|-------|---------|-------|--------|------------|-----|----|-------|---------|-------|-------|---------|------------------|-----------------|-----------|--|------------|
| | | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | | | |
| 46 | 50 | 276 | SD128 | 10I20 | | 陶器 | 播鉢 | 29.8 | | | 肥前 | 褐灰 (10YR5/1) | 17世紀後半 | 鉄軸 (口縁部分) | ロクロ成形 内: 鉚目 体部無軸 | 内面磨滅著しい |
| 46 | 50 | 277 | SD128 | 10J7 | | 陶器 | 播鉢 | (30.4) | | | 肥前 | 黄灰 (2.5Y5/1) | 17世紀後半 | 鉄軸 (口縁部分) | ロクロ成形 内: 鉚目 体部無軸 | |
| 46 | 50 | 278 | SD128 | 11I3 | 1 | 陶器 | 播鉢 | (29.6) | | | 肥前 | にふい橙 (5YR6/3) | | 鉄軸 (口縁部分) | | |
| 46 | 50 | 279 | SD128 | 11I3 | 1 | 陶器 | 甕 | | 11.8 | | 肥前 | 灰赤 (2.5YR4/2) | | | 内: 当て具痕か | |
| 47 | 50 | 280 | SD128 | 10I20 | | 陶器 | 瓶 | | | | 肥前 | にふい赤褐 (2.5YR5/4) | 18世紀 | 軸 (一部) | 外: 白化粧土刷毛目 | |
| 47 | 50 | 281 | SD128 | 10I20 | | 磁器 | 水滴 | | (3.2) | | 肥前 | 灰白 (2.5Y8/1) | | 透明軸 | 板作り 底部無軸 | |
| 47 | 50 | 282 | SD197 | 13K6 | | 陶器 | 行平鍋蓋 | 10.0 | | | 不明 | 黄灰 (2.5Y6/1) | | 軸 | | |
| 47 | 50 | 283 | SD311 | 8H24 | | 磁器 | 鉢 | 20.0 | | | 肥前(波佐見) | 灰白 (N8/0) | | 青磁軸 | | |
| 47 | 50 | 284 | SD438 | 13K18 | | 磁器 | 火入 | 10.4 | | | 肥前(波佐見) | 灰白 (N8/0) | | 青磁軸 | | |
| 47 | 50 | 285 | Pit44 | 8H16 | | 陶器 | 蓋 | 6.0 | | | 信楽系か | 淡黄 (2.5Y8/3) | | 内: 透明軸 | 土瓶等の蓋 | |
| 47 | 50 | 286 | Pit44 | 8H16 | | 瓦器 | 焙烙 | 30.0 | | | 不明 | 灰黄 (2.5Y7/2) | | | 外: スス | |
| 47 | 50 | 287 | Pit293 | 9H2 | | 陶器 | 香炉 | | 6.2 | | 不明 | 灰白 (2.5Y8/2) | 17世紀中葉 | 軸 | 体部に脚部の痕跡あり | |
| 47 | 50 | 288 | Pit294 | 8H22 | | 陶器 | 灯明皿 | | 5.0 | | 肥前 | 黄灰 (2.5Y5/1) | | 内: 鉄軸 | 底部回転系切り | |
| 47 | 50 | 289 | Pit320 | 9H2 | | 陶器 | 皿 | 11.6 | | | 肥前 | にふい褐 (7.5YR5/3) | | 内: 鉄軸 | 清緑皿か | |
| 47 | 51 | 290 | | 8I1 | I | 磁器 | 碗 | 9.9 | 4.2 | 5.2 | 肥前 | 灰白 (N8/0) | 18世紀 | 染付 | 外: 雪輪草花文・圏線 | くらわんか手 |
| 47 | 51 | 291 | | 7H13 | I | 磁器 | 碗 | 9.6 | 4.0 | 5.1 | 肥前 | 灰白 (N8/0) | 18世紀 | 染付 | 外: 雪輪草花文・圏線 | くらわんか手 |
| 47 | 51 | 292 | | 8I21, 9H14 | I | 磁器 | 碗 | 9.6 | 3.8 | 4.8 | 肥前 | 灰白 (N8/0) | 18世紀代 | 染付 | 外: 雪輪草花文・圏線 銘: 不明 | くらわんか手 |
| 47 | 51 | 293 | | 8H3 | I | 磁器 | 碗 | 9.0 | | | 肥前 | 灰白 (5Y7/1) | | 鉄絵か | 外: 若松文 | |
| 47 | 51 | 294 | | 8I1 | I | 磁器 | 碗 | 10.8 | 4.0 | 6.0 | 肥前 | 灰白 (N8/0) | 1820~1860年 | 染付 | 外: 扇文・草文か・圏線 内: 斜格子・圏線 見込: 圏線・渦福か | 333とセットか |
| 47 | 51 | 295 | | 8H13 | I | 磁器 | 碗 | | 3.5 | | 肥前 | 灰白 (N8/0) | 18世紀後半 | 染付 | 外: 草花文・圏線 見込: 圏線・虫文 | |
| 47 | 51 | 296 | | 7H22 | I | 磁器 | 碗 | 10.0 | 6.2 | 6.8 | 肥前 | 灰白 (10Y8/1) | 17世紀末~18世紀初頭 | 染付 | 外: 草花文・圏線 内: 口縁端部釉剥ぎ | 蓋物 |
| 47 | 51 | 297 | | 8I1 | I | 磁器 | 碗 | 7.8 | 3.2 | 3.7 | 肥前 | 灰白 (N8/0) | | 染付 | 外: 笹文・圏線 | 小坏 |
| 47 | 51 | 298 | | 10I1 | I | 磁器 | 碗 | 6.8 | 3.0 | 4.8 | 肥前 | 灰白 (N8/0) | | 染付 | 外: 貝文・松文・花文・圏線 | 小坏 |
| 47 | 51 | 299 | | 8H25 | I | 磁器 | 碗 | | 3.0 | | 肥前 | 灰白 (N8/0) | | 軸 | 高台一部無軸 | 小坏 |
| 47 | 51 | 300 | | 9H18 | I | 磁器 | 碗 | | 3.0 | | 肥前か | 灰白 (2.5Y8/1) | | 軸 | 高台無軸 | 小坏 |
| 47 | 51 | 301 | | 8G15 | I | 磁器 | 皿 | 12.4 | 5.0 | 2.6 | 肥前 | 灰白 (N7/0) | 1630~1640年 | 染付 | 内: 文様有・圏線 見込: 草花文 | |
| 47 | 51 | 302 | | 8H25 | I | 磁器 | 皿 | 12.0 | 4.0 | 3.6 | 肥前 | 灰白 (N8/0) | 17世紀後半 | 染付 | 内: 文様有 見込: 蛇ノ目釉剥ぎ 高台無軸 | |
| 47 | 51 | 303 | | 11I7 | I | 磁器 | 皿 | 13.2 | 6.8 | 2.9 | 肥前 | 灰白 (10YR8/1) | | 染付 | 内: 唐草文・圏線 見込: 蛇ノ目釉剥ぎ・コンニャク印判の五弁花文か 碁碁底 | |
| 47 | 51 | 304 | | 8G9 | I | 磁器 | 皿 | | 5.0 | | 肥前 | 灰白 (N8/0) | 1640~1650年 | 染付 | 見込: 草花文・圏線 | |
| 47 | 51 | 305 | | 8H15 | I | 磁器 | 皿 | 13.0 | 5.9 | 3.5 | 瀬戸美濃 | 灰白 (5Y8/1) | | 染付 | 内: 唐草文・圏線 見込: 花文 | |
| 47 | 51 | 306 | | 9I16 | I | 磁器 | 皿 | 7.8 | | | 肥前 | 灰白 (2.5Y8/1) | 18世紀前半 | 染付 | 外: 雨降り文・圏線 | 仏版器か |
| 47 | 51 | 307 | | 10I14 | I | 陶器 | 碗 | 9.2 | 3.7 | 5.4 | 京・信楽系 | 灰白 (2.5Y8/2) | 18世紀後半~19世紀 | 鉄絵・透明軸 | 外: 若松文か 高台無軸 | |
| 47 | 51 | 308 | | 9H4 | I | 陶器 | 碗 | | 3.4 | | 京・信楽系か | 淡黄 (2.5Y8/3) | | 軸 | 高台無軸 | |
| 47 | 51 | 309 | | 10I19 | I | 陶器 | 碗 | | 4.0 | | 不明 | にふい黄 (2.5Y6/3) | | 軸 | 高台無軸 | |
| 48 | 51 | 310 | | 8I1 | I | 陶器 | 皿 | 19.2 | 7.3 | 5.4 | 肥前 | にふい赤褐 (2.5YR4/3) | 18世紀中葉~後半 | 鉄軸 | 内: 蛇ノ目釉剥ぎ・白化粧土刷毛目 削り出し高台 | |
| 48 | 51 | 311 | | 11I4 | I | 陶器 | 鉢 | | 6.0 | (2.7) | 肥前 | にふい橙 (5YR6/4) | | 内: 鉄軸 | 底部系切り | |
| 48 | 51 | 312 | | 9I11 | I | 陶器 | 鉢 | | 10.4 | | 肥前 | 明赤褐 (2.5YR5/6) | 17世紀後半~18世紀初頭 | 鉄軸 | 外: 白化粧土刷毛目 | |
| 48 | 51 | 313 | | 7H22 | I | 陶器 | 鉢 | 19.6 | | | 肥前 | オリーブ黒 (5Y3/1) | 18世紀後半 | 透明軸・鉄軸 | 内外: 白化粧土文様有 | 片口 |
| 48 | 51 | 314 | | 10I12 | I | 陶器 | 鉢 | 21.0 | | | 関西系 | 灰白 (2.5Y8/2) | 19世紀 | 軸 | | 片口 |
| 48 | 51 | 315 | | 11I2 | I | 陶器 | 播鉢 | | 13.4 | | 不明 | にふい橙 (7.5YR7/4) | | 鉄軸 | 内: 鉚目 (1単位11条) | |
| 48 | 52 | 316 | | 8I21 | I | 陶器 | 播鉢 | | 10.0 | | 肥前 | 明赤褐 (2.5YR5/6) | 17世紀中葉 | | ロクロ成形 内: 鉚目 (1単位13条) 底部系切り | |
| 48 | 52 | 317 | | 9H5 | I | 陶器 | 播鉢 | 30.6 | | | 肥前 | にふい橙 (7.5YR6/4) | 17世紀中葉 | 鉄軸 (口縁部分) | ロクロ成形 内: 鉚目 | |
| 48 | 52 | 318 | | 8I1 | I | 陶器 | 播鉢 | 36.0 | | | 肥前 | 橙 (5YR6/6) | 18世紀 | 鉄軸 | タタキ成形 内: 鉚目 (1単位12条) | |
| 48 | 52 | 319 | | 8H19 | I | 陶器 | 播鉢 | 26.0 | | | 須佐唐津 | 黄灰 (2.5Y6/1) | 17世紀後半~18世紀前半 | 鉄軸 | 内: 鉚目 | |
| 48 | 52 | 320 | | 8H19 | I | 陶器 | 播鉢 | | 11.0 | | 須佐唐津 | にふい黄橙 (10YR7/4) | 17世紀後半~18世紀前半 | 鉄軸 | 内: 鉚目 削り出し高台 | |
| 48 | 52 | 321 | | 7H13 | I | 磁器 | 瓶 | | 5.0 | | 肥前 | 灰白 (N8/0) | 1820~1860年 | 染付 | 耳付 外: 山水文・連弁文・圏線 内: 透明軸 | 仏花器か |
| 48 | 52 | 322 | | 8I1 | I | 磁器 | 瓶 | | 4.4 | | 肥前 | 灰白 (N8/0) | 18世紀後半~末 | 染付 | 外: 草花文 (菖蒲か) | 仏花器か |
| 48 | 52 | 323 | | 10I23 | III | 磁器 | 瓶 | | 5.0 | | 関西系 | 灰白 (2.5Y8/1) | 19世紀第2四半世紀~後半 | 染付 | 外: 圏線 底部無軸 | 爛徳利か |
| 48 | 52 | 324 | | 9I16 | I | 磁器 | 瓶 | 1.6 | | | 肥前 | 灰白 (N8/0) | 19世紀 (江戸時代後期) | 染付 | 外: 蜻蛉草 | 花生または仏花器 |
| 49 | 52 | 325 | | 11I14 | I | 磁器 | 瓶 | | 7.8 | | 地元産か | 灰白 (2.5Y8/1) | 19世紀後半 (明治時代以降) | 染付 | 外: 山水文・笹文 | 肥前横敏「笹経徳利」 |
| 49 | 52 | 326 | | 8I1 | I | 陶器 | 壺 | 9.2 | 9.2 | 7.0 | 丹波 | 浅黄橙 (10YR8/3) | 18世紀代か | 錆軸 | 灰落とし 小礫多く含む | |
| 49 | 52 | 327 | | 10H5 | I | 陶器 | 壺 | 8.2 | 8.0 | 6.6 | 越中瀬戸 | 浅黄 (2.5Y7/3) | | 鉄軸 | 底部回転系切り | 灰落とし |
| 49 | 52 | 328 | | 8I1 | I | 陶器 | 壺 | | 6.0 | | 東北系か | 浅黄橙 (7.5YR8/4) | | 鉄軸 | 外: カキメか 底部系切り後ケズリ | 灰落としか |
| 49 | 52 | 329 | | 13K17 | III | 陶器 | 行平鍋 | 17.6 | | | 関西系 | にふい橙 (7.5YR6/4) | | 鉄軸 | 外: 飛龍 | 京焼か |
| 49 | 52 | 330 | | 9I11 | I | 陶器 | 行平鍋 | | | | 関西系 | 浅黄橙 (10YR8/3) | | 鉄軸 | 外: 飛龍 | 京焼か |
| 49 | 52 | 331 | | 7H22 | I | 陶器 | ひょうそく | | 3.8 | | 越中瀬戸か | 橙 (5YR6/6) | | 鉄軸 | 底部回転系切り | |
| 49 | 52 | 332 | 攪乱 | 7H18 | | 磁器 | 碗 | 6.6 | 2.8 | 3.4 | 肥前 | 灰白 (N8/0) | 18世紀 | 透明軸 | | 小坏 色絵の下地か |
| 49 | 52 | 333 | 攪乱 | 10J19 | | 磁器 | 碗蓋 | 9.2 | 3.6 | 3.0 | 肥前 | 灰白 (N8/0) | 1820~1860年 | 染付 | 外: 扇文・草文か・圏線 内: 斜格子・圏線 見込: 圏線・渦福か | 294とセットか |
| 49 | 52 | 334 | 攪乱 | 11I4 | | 陶器 | 行平鍋 | 18.0 | | | 関西系 | 橙 (7.5YR7/6) | | 外: 一部鉄軸 | 京焼か | |
| 49 | 52 | 335 | 排土 | | | 陶器 | 鉢 | 39.9 | | | 肥前 | 明赤褐 (2.5YR5/6) | 17世紀後半~18世紀前半 | | 二彩手 内外: 白化粧土刷毛目 | |
| 49 | 52 | 336 | 排土 | | | 陶器 | 播鉢 | 48.0 | | | 肥前 | にふい赤褐 (2.5YR4/3) | 18世紀 | 鉄軸 | タタキ成形 内: 鉚目 | |
| 49 | 52 | 337 | 排土 | | | 陶器 | 灯明皿 | 9.8 | 5.4 | 2.9 | 越中瀬戸 | 浅黄橙 (10YR8/4) | | 鉄軸 | 底部回転系切り | |

別表4 土製品観察表

| 図版No. | 写真図版No. | 報告No. | 出土位置 | | 層位 | 時期 | 種別 | 素材 | モチーフ | 法量 (cm) | | | 重量 (g) | 色調 | 備考 |
|-------|---------|-------|--------|-------|----|----|-----|-----|----------|---------|-------|-----|--------|--------------------------------|-----------------|
| | | | 遺構名 | グリッド | | | | | | 長さ | 幅 | 厚さ | | | |
| 49 | 53 | 338 | SK317 | 9I11 | | 近世 | 泥面子 | 土製品 | 三つ星の一つ引き | 1.7 | 1.8 | 0.6 | 1.0 | 橙 (7.5YR7/6) | 型押し成形 |
| 49 | 53 | 339 | SK317 | 9I11 | | 近世 | 泥面子 | 土製品 | 三つ星の一つ引き | 1.6 | 1.7 | 0.5 | 1.0 | 橙 (7.5YR7/6) | 型押し成形 |
| 49 | 53 | 340 | SK317 | 9I11 | | 近世 | 泥面子 | 土製品 | 星梅鉢 | 1.7 | 1.7 | 0.6 | 1.0 | 橙 (7.5YR6/6) | 型押し成形 |
| 49 | 53 | 341 | SK317 | 9I11 | | 近世 | 泥面子 | 土製品 | 星梅鉢 | 1.6 | 1.6 | 0.5 | 1.0 | 浅黄橙 (7.5YR8/4) | 型押し成形 裏面に指紋 |
| 49 | 53 | 342 | SK317 | 9I11 | | 近世 | 泥面子 | 土製品 | 笹 | 1.6 | 1.6 | 0.5 | 1.0 | 浅黄橙 (7.5YR8/3) | 型押し成形 裏面に指紋 |
| 49 | 53 | 343 | SK317 | 9I11 | | 近世 | 泥面子 | 土製品 | 鳥 | 1.7 | 1.7 | 0.5 | 1.0 | 橙 (5YR6/6) | 型押し成形 裏面に指紋 |
| 49 | 53 | 344 | SK317 | 9I11 | | 近世 | 泥面子 | 土製品 | 茶碗と箸 | 1.6 | 1.6 | 0.5 | 1.0 | 橙 (5YR7/6) | 型押し成形 |
| 49 | 53 | 345 | SK317 | 9I11 | | 近世 | 泥面子 | 土製品 | 針と糸巻き | 1.8 | 1.7 | 0.6 | 1.0 | 橙 (7.5YR6/6) | 型押し成形 |
| 49 | 53 | 346 | SK317 | 9I11 | | 近世 | 泥面子 | 土製品 | 帆掛け船 | 1.6 | 1.7 | 0.4 | 1.0 | 浅黄橙 (7.5YR8/3) | 型押し成形 |
| 49 | 53 | 347 | SK317 | 9I11 | | 近世 | 泥面子 | 土製品 | 「イ」か | 1.7 | 1.7 | 0.8 | 1.0 | 橙 (7.5YR7/6) | 型押し成形 |
| 49 | 53 | 348 | SK317 | 9I11 | | 近世 | 泥面子 | 土製品 | 不明 | 1.7 | 1.7 | 0.6 | 1.0 | にぶい橙 (7.5YR7/4) | 型押し成形 |
| 49 | 53 | 349 | SK317 | 9I11 | | 近世 | 泥面子 | 土製品 | 不明 | 1.9 | 1.7 | 0.5 | 1.0 | にぶい橙 (7.5YR7/4) | 型押し成形 |
| 49 | 53 | 350 | SK317 | 9I11 | | 近世 | 泥面子 | 土製品 | 不明 | (1.4) | 1.7 | 0.6 | 1.0 | 橙 (7.5YR7/6) | 型押し成形 |
| 49 | 53 | 351 | SK317 | 9I11 | | 近世 | 泥面子 | 土製品 | 花か (桜か) | 1.9 | 1.7 | 0.6 | 1.0 | 橙 (5YR7/8) | 型押し成形 不整形 |
| 49 | 53 | 352 | SK317 | 9I11 | | 近世 | 泥面子 | 土製品 | 不明 | 1.5 | 2.3 | 0.7 | 1.0 | 橙 (5YR6/8) | 型押し成形 不整形 |
| 49 | 53 | 353 | SK395 | 11J13 | | 近世 | 泥面子 | 土製品 | 梅花 | 1.7 | 1.7 | 0.4 | 1.0 | 淡橙 (5YR8/4) | 型押し成形 裏面に指紋 |
| 49 | 53 | 354 | SD110 | 9I17 | | 近世 | 泥面子 | 土製品 | 不明 | 1.5 | 1.6 | 0.5 | 1.0 | 橙 (5YR7/6) | 型押し成形 |
| 49 | 53 | 355 | SD110 | 9I21 | | 近世 | 泥面子 | 土製品 | 不明 | 1.9 | 1.9 | 0.5 | 1.0 | 淡橙 (5YR8/4) | 型押し成形 |
| 49 | 53 | 356 | SD196 | 13K11 | | 近世 | 泥面子 | 土製品 | 「十」 | 1.7 | 1.7 | 0.5 | 1.0 | 橙 (7.5YR7/6) | 型押し成形 |
| 49 | 53 | 357 | Pit91 | 9H14 | | 近世 | 泥面子 | 土製品 | 三つ星の一つ引き | 1.6 | 1.7 | 0.5 | 1.0 | にぶい橙 (7.5YR7/4) | 型押し成形 |
| 49 | 53 | 358 | Pit393 | 11J12 | | 近世 | 泥面子 | 土製品 | 松 | 1.6 | 1.6 | 0.4 | 1.0 | 橙 (7.5YR7/6) 明赤褐 (2.5YR5/6) | 型押し成形 裏面に指紋 |
| 49 | 53 | 359 | Pit443 | 11I10 | | 近世 | 泥面子 | 土製品 | 不明 | 1.8 | 1.8 | 0.7 | 1.0 | 橙 (7.5YR7/6) | 型押し成形 |
| 50 | 53 | 360 | | 9H14 | I | 近世 | 泥面子 | 土製品 | 梅花 | 1.6 | 1.6 | 0.5 | 1.0 | 橙 (5YR7/8) | 型押し成形 裏面に指紋 |
| 50 | 53 | 361 | | 9I6 | I | 近世 | 泥面子 | 土製品 | 「三」 | 1.8 | 1.8 | 0.7 | 1.0 | 淡橙 (5YR8/4) | 型押し成形 |
| 50 | 53 | 362 | | 10J19 | I | 近世 | 泥面子 | 土製品 | 花か | 1.7 | 1.6 | 0.5 | 1.0 | にぶい橙 (5YR6/4) | 型押し成形 |
| 50 | 53 | 363 | | 12J25 | I | 近世 | 泥面子 | 土製品 | 不明 | 1.7 | 1.6 | 0.6 | 1.0 | にぶい橙 (7.5YR6/4) | 型押し成形 |
| 50 | 53 | 364 | | 12K22 | I | 近世 | 泥面子 | 土製品 | 不明 | 1.8 | 1.8 | 0.6 | 1.0 | 橙 (5YR7/6) | 型押し成形 |
| 50 | 53 | 365 | | 14K6 | I | 近世 | 泥面子 | 土製品 | 不明 | (1.1) | 1.5 | 0.5 | 1.0 | 浅黄橙 (10YR8/3) | 型押し成形 |
| 50 | 53 | 366 | | 14K6 | I | 近世 | 泥面子 | 土製品 | 不明 | 1.7 | 1.7 | 0.6 | 1.0 | 橙 (5YR7/6) | 型押し成形 |
| 50 | 53 | 367 | 攪乱 | 11I8 | | 近世 | 泥面子 | 土製品 | 不明 | 1.7 | 1.7 | 0.6 | 1.0 | 橙 (5YR7/6) | 型押し成形 |
| 50 | 53 | 368 | 攪乱 | 11I8 | | 近世 | 泥面子 | 土製品 | 梅花 | 1.7 | 1.8 | 0.5 | 1.0 | 橙 (5YR6/6) | 型押し成形 |
| 50 | 53 | 369 | 攪乱 | 11I13 | | 近世 | 泥面子 | 土製品 | 不明 | 1.8 | (1.5) | 0.7 | 1.0 | 橙 (5YR6/6) | 型押し成形 |
| 50 | 53 | 370 | 攪乱 | 11J20 | | 近世 | 泥面子 | 土製品 | 不明 | 1.7 | 1.7 | 0.6 | 1.0 | にぶい橙 (7.5YR7/4) | 型押し成形 |
| 50 | 53 | 371 | 攪乱 | 15L20 | | 近世 | 泥面子 | 土製品 | 針と糸巻き | 1.8 | 1.7 | 0.4 | 1.0 | にぶい橙 (10YR7/3) | 型押し成形 裏面に指紋 |
| 50 | 53 | 372 | 排土 | | | 近世 | 泥面子 | 土製品 | 団扇か | 1.6 | 1.6 | 0.4 | 1.0 | 橙 (5YR7/6) | 型押し成形 |
| 50 | 53 | 373 | 排土 | | | 近世 | 泥面子 | 土製品 | ※ | 1.7 | 1.6 | 0.5 | 1.0 | 浅黄橙 (10YR8/3) | 型押し成形 裏面に指紋 |
| 50 | 53 | 374 | SE102 | 8H16 | | 近世 | 面子 | 磁器 | 「福」 | 2.1 | 2.1 | 0.6 | 4.0 | 灰白 (N8/0) | 肥前系磁器轆転用 染付 |
| 50 | 53 | 375 | SE105 | 8I11 | | 近世 | 面子 | 磁器 | 草花文 | 1.5 | 1.5 | 0.4 | 1.0 | 灰白 (N8/0) | 肥前系磁器轆転用 染付 |
| 50 | 53 | 376 | SE315 | 8H19 | | 近世 | 面子 | 磁器 | 草花文 | 2.6 | 2.7 | 0.4 | 4.0 | 灰白 (N8/0) | 肥前系磁器轆転用 染付 |
| 50 | 53 | 377 | SK103 | 8H15 | | 近世 | 面子 | 磁器 | 無地 | 1.8 | 1.9 | 0.5 | 2.0 | 灰白 (N8/0) | 肥前系磁器轆転用 |
| 50 | 53 | 378 | SE118 | 10I11 | | 近世 | 人形 | 土製品 | 鳥 | 4.0 | 2.1 | 4.0 | 21.0 | 浅黄橙 (10YR8/4) | 前後型押し成形 |
| 50 | 53 | 379 | SD25 | 8H3 | | 近世 | 人形 | 土製品 | 大黒天 | 3.6 | 2.7 | 1.3 | 9.0 | にぶい橙 (5YR6/4) | 前後型押し成形 |
| 50 | 53 | 380 | SE315 | 8H19 | | 近世 | 人形 | 磁器 | 不明 | 2.9 | 3.8 | 1.5 | 8.0 | 灰白 (N8/0) | 型押し成形・色絵 17世紀後半 |

別表5 石製品観察表

| 図版No. | 写真図版No. | 報告No. | 出土地点 | | 層位 | 時期 | 種別 | 石材 | 法量 (cm) | | | 重量 (g) | 備考 |
|-------|---------|-------|--------|---------|----|----|-------------|-------|---------|------|------|--------|-----------|
| | | | 遺構名 | グリッド | | | | | 長さ | 幅 | 厚さ | | |
| 50 | 53 | 381 | SK242 | 13K12 | | 古代 | 台石 | 砂岩 | 19.4 | 11.5 | 9.0 | 2099.0 | |
| 50 | 53 | 382 | SD330 | 9I13・18 | | 古代 | 台石 | 凝灰岩 | 9.8 | 14.2 | 8.7 | 865.0 | 382と同一個体か |
| 50 | 53 | 383 | SD330 | 9I13 | | 古代 | 台石 | 凝灰岩 | 6.8 | 7.2 | 8.3 | 299.0 | 382と同一個体か |
| 51 | 53 | 384 | SD358 | 10H4 | | 古代 | 台石 | 花崗岩 | 14.5 | 11.6 | 12.1 | 1692.0 | |
| 51 | 53 | 385 | SE27 | 9I3 | | 近世 | 砥石 | 凝灰岩 | 5.8 | 6.0 | 1.7 | 70.5 | |
| 51 | 53 | 386 | SE27 | 9I3 | 4 | 近世 | 砥石 (軽石製石製品) | 軽石 | 10.3 | 9.4 | 4.7 | 203.0 | |
| 51 | 53 | 387 | SE102 | 8I16 | | 近世 | 砥石 | 凝灰岩 | 10.9 | 4.2 | 5.4 | 260.5 | |
| 51 | 53 | 388 | SE104 | 8I17 | | 近世 | 砥石 | 凝灰岩 | 6.3 | 5.3 | 4.9 | 133.5 | |
| 51 | 53 | 389 | SE107 | 9H20 | | 近世 | 台石 | 安山岩 | 14.8 | 7.7 | 4.3 | 566.0 | |
| 51 | 53 | 390 | SE113 | 10H10 | | 近世 | 砥石 | 粘板岩 | 6.8 | 5.7 | 1.4 | 70.0 | 硯か |
| 51 | 54 | 391 | SE113 | 10H5 | | 近世 | 砥石 | 凝灰岩 | 12.5 | 6.8 | 7.3 | 677.0 | |
| 52 | 54 | 392 | SE113 | 10H4 | | 近世 | 箱状石製品 | 緑色凝灰岩 | 14.0 | 15.9 | 4.9 | 616.5 | |
| 52 | 54 | 393 | SE113 | 10H4 | | 近世 | 砥石 (軽石製石製品) | 軽石 | 5.1 | 5.5 | 1.8 | 29.5 | |
| 52 | 54 | 394 | SE118 | 10I12 | | 近世 | 硯 | 粘板岩 | 3.2 | 2.3 | 1.3 | 9.5 | |
| 52 | 54 | 395 | SE118 | 10I12 | | 近世 | 砥石 | 凝灰岩 | 10.6 | 5.1 | 4.8 | 299.5 | |
| 52 | 54 | 396 | SE118 | 10I16 | | 近世 | 砥石 (軽石製石製品) | 軽石 | 7.2 | 4.8 | 2.5 | 31.5 | |
| 52 | 54 | 397 | SE126 | 8I6 | | 近世 | 砥石 | 凝灰岩 | 5.6 | 3.2 | 1.9 | 38.5 | |
| 52 | 54 | 398 | SE329 | 9I18 | | 近世 | 砥石 | 凝灰岩 | 6.7 | 3.4 | 2.6 | 103.5 | |
| 52 | 54 | 399 | SE329 | 9I22 | 4 | 近世 | 砥石 (軽石製石製品) | 軽石 | 7.9 | 6.5 | 2.8 | 62.0 | |
| 52 | 54 | 400 | SE329 | 9I22 | 4 | 近世 | 砥石 (軽石製石製品) | 軽石 | 8.9 | 7.3 | 3.7 | 142.5 | |
| 52 | 54 | 401 | SE367 | 9I23 | | 近世 | 礎石 | 緑色凝灰岩 | 19.3 | 14.9 | 3.1 | 766.5 | |
| 52 | 54 | 402 | SK103 | 8H18 | 1 | 近世 | 砥石 | 粘板岩 | 9.0 | 5.9 | 1.5 | 72.0 | |
| 53 | 54 | 403 | SK145 | 10J1 | | 近世 | 砥石 | 粘板岩 | 6.7 | 2.5 | 1.0 | 29.5 | |
| 53 | 54 | 404 | SK319 | 9I17 | | 近世 | 砥石 | 凝灰岩 | 4.7 | 2.9 | 3.0 | 50.5 | |
| 53 | 54 | 405 | SK340 | 8H20・25 | | 近世 | 砥石 | 凝灰岩 | 14.1 | 8.8 | 6.9 | 405.0 | |
| 53 | 54 | 406 | SK340 | 8H20 | | 近世 | 砥石 | 凝灰岩 | 6.1 | 6.4 | 4.1 | 188.5 | |
| 53 | 54 | 407 | SK340 | 8H20 | | 近世 | 砥石 | 凝灰岩 | 11.7 | 7.7 | 10.0 | 1134.0 | |
| 53 | 54 | 408 | SK395 | 11J13 | | 近世 | 砥石 | 凝灰岩 | 3.3 | 3.4 | 1.0 | 11.5 | |
| 53 | 54 | 409 | SD101 | 9H18 | | 近世 | 硯 | 粘板岩 | 5.2 | 6.0 | 1.6 | 51.0 | |
| 53 | 54 | 410 | Pit159 | 9I20 | | 近世 | 砥石 | 凝灰岩 | 7.4 | 4.0 | 4.9 | 174.0 | |

別表 6 金属製品観察表

| 図版 No. | 写真図版 No. | 報告 No. | 出土位置 | | 層位 | 時期 | 種別 | 素材 | 法量 (cm) | | | 重量 (g) | 備考 |
|--------|----------|--------|-------|------|----|----|----|----|---------|-----|-----|--------|----------------|
| | | | 遺構名 | グリッド | | | | | 長さ | 幅 | 厚さ | | |
| 53 | 54 | 411 | SK340 | 8H20 | | 近世 | 銭貨 | 銅 | 2.4 | 2.4 | 0.1 | 3.0 | 「寛永通寶」 |
| 53 | 54 | 412 | SK340 | 8H20 | | 近世 | 銭貨 | 銅 | 2.2 | 2.2 | 0.1 | 3.0 | 「寛永通寶」 |
| 53 | 54 | 413 | SK340 | 8H20 | | 近世 | 銭貨 | 銅 | 2.2 | 2.3 | 0.1 | 4.0 | 「寛永通寶」 |
| 53 | 54 | 414 | SE135 | 9I25 | | 近世 | 鎌 | 鉄 | 9.6 | 3.3 | 0.2 | 20.0 | |
| 53 | 54 | 415 | SE329 | 9I22 | 4 | 近世 | 鎌 | 鉄 | 13.0 | 3.6 | 0.3 | 51.0 | 口金残存 |
| 53 | 54 | 416 | SE329 | 9I23 | | 近世 | 包丁 | 鉄 | 20.0 | 6.0 | 2.6 | 117.5 | 木製の柄残存 |
| 54 | 55 | 417 | SK317 | 9I11 | | 近世 | 鎌 | 鉄 | 17.6 | 4.5 | 1.0 | 60.0 | 表面に厚い酸化土砂 |
| 54 | 55 | 418 | SK319 | 9I22 | | 近世 | 包丁 | 鉄 | 15.0 | 3.5 | 1.3 | 67.0 | 表面に厚い酸化土砂 刀子か |
| 54 | 55 | 419 | SK370 | 11I7 | 1 | 近世 | 鎌 | 鉄 | 13.3 | 7.8 | 1.6 | 107.0 | 表面に厚い酸化土砂 口金残存 |

別表 7 木製品観察表

| 図版 No. | 写真図版 No. | 報告 No. | 出土位置 | | 時期 | 器種 | 法量 (cm) | | | | 木取り | 備考 | |
|--------|----------|--------|-------|-------|----|---------|---------|--------|--------|----|-----|----------------|--|
| | | | 遺構名 | グリッド | | | 長さ | 幅 | 厚さ | 器厚 | | | |
| 54 | 55 | 420a | SE2 | 7H14 | 近世 | 下駄 | 24.2 | 8.0 | 5.0 | | 二方根 | 差歯下駄 | |
| 54 | 55 | 420b | SE2 | 7H14 | 近世 | 下駄・歯 | 9.7 | 5.6 | 1.2 | | 板目 | | |
| 54 | 55 | 421 | SE27 | 9I3 | 近世 | 櫛 | 2.6 | 3.1 | 0.7 | | 榫目 | 赤色漆 銅板飾り付き | |
| 54 | 55 | 422 | SE113 | 10H5 | 近世 | 板状 | 26.6 | 12.3 | 0.9 | | 榫目 | | |
| 54 | 55 | 423 | SE113 | 10H5 | 近世 | 円板状(半円) | 19.5 | 9.9 | 1.5 | | 榫目 | 木釘穴4か所中1か所木釘残存 | |
| 54 | 55 | 424 | SE113 | 10H5 | 近世 | 円板状 | 12.3 | 9.5 | 1.0 | | 板目 | 穿孔7か所 | |
| 54 | 55 | 425 | SK317 | 9I11 | 近世 | 櫛 | 15.8 | 3.9 | | | | 黒色漆 | |
| 54 | 55 | 426 | SK317 | 9I11 | 近世 | 櫛 | 3.0 | 4.5 | 0.7 | | 板目 | 赤色漆 | |
| 54 | 55 | 427 | SK317 | 9I11 | 近世 | 板状 | 14.6 | 5.1 | 0.7 | | 榫目 | 黒色漆 | |
| 54 | 55 | 428 | 覆乱 | 11I18 | 近世 | 漆器櫛 | | 底径 5.7 | 器高 1.6 | | 0.4 | 榫目 | 外：黒色漆、草花文(赤色漆・金彩か) 高台内：黒色漆、銘「口」(赤色漆) 内：赤色漆 |

別表 8 遺構出土古代土器器種構成率

- 1 古代の遺構から出土した土器(土器器・須恵器)の構成比率を示した表である。
- 2 土器の計測法は口縁部残存率法〔宇野1992・春日1994〕とそれを応用した底部残存率法により計測した。また、併せて口縁数・底部数を示した。
- 3 口縁・底部残存率によって得られた数値は/36を示し、それぞれ口縁値・底残値と略記した。

| 遺構名 | 種別 | 計測法 | 食器 | | | | 煮炊具 | | | 貯蔵具 | | | 合計 | | |
|-------|--------|--------|---------|---------|--------|--------|---------|---------|---------|--------|--------|---------|---------|---------|---------|
| | | | 土器器 | 須恵器 | 土器器 | 須恵器 | 大甕 | 壺・瓶類 | 横瓶 | | | | | | |
| SK193 | 口縁値 | | 0.03 | 33.33% | | | | | | 0.06 | 66.67% | | 0.09 | 100.00% | |
| | 口縁数(点) | | 1 | 33.33% | | | | | | 2 | 66.67% | | 3 | 100.00% | |
| | 底残値 | | 0.08 | 100.00% | | | | | | | | | 0.08 | 100.00% | |
| | 底部数(点) | | 1 | 100.00% | | | | | | | | | 1 | 100.00% | |
| | 総点数(点) | 2 | 0.87% | 2 | 0.87% | | | 4 | 1.76% | | 220 | 96.50% | | 228 | 100.00% |
| | | 2.0 | 0.34% | 17.0 | 2.96% | | 10.0 | 1.75% | | 545.0 | 94.95% | | 574.0 | 100.00% | |
| SK195 | 口縁値 | | 0.06 | 66.67% | | 0.03 | 33.33% | | | | | | 0.09 | 100.00% | |
| | 口縁数(点) | | 2 | 66.67% | | 1 | 33.33% | | | | | | 3 | 100.00% | |
| | 底残値 | | | 0.00% | | 0.03 | 100.00% | | | | | | 0.03 | 100.00% | |
| | 底部数(点) | | | 0.00% | | 1 | 100.00% | | | | | | 1 | 100.00% | |
| | 総点数(点) | 2 | 7.70% | 2 | 7.70% | | | 13 | 50.00% | | 11 | 42.30% | | 26 | 100.00% |
| | | 4.0 | 2.59% | 4.0 | 2.59% | | 90.0 | 58.06% | | 61.0 | 39.35% | | 155.0 | 100.00% | |
| SK215 | 口縁値 | | | | | 0.03 | 100.00% | | | | | | 0.03 | 100.00% | |
| | 口縁数(点) | | | | | 1 | 100.00% | | | | | | 1 | 100.00% | |
| | 底残値 | | | | | 4 | 100.00% | | | | | | 4 | 100.00% | |
| | 底部数(点) | | | | | 4 | 100.00% | | | | | | 4 | 100.00% | |
| | 総点数(点) | | | | | 39.0 | 100.00% | | | | | | 39.0 | 100.00% | |
| SK238 | 口縁値 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 口縁数(点) | | | | | | | | | | | | | | |
| | 底残値 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 底部数(点) | 1 | 50.00% | | | | | | | | | | 1 | 50.00% | |
| | 総点数(点) | 1.0 | 3.03% | | | | | | | | | | 32.0 | 96.97% | |
| | | | | | | | | | | | | | | 33.0 | 100.00% |
| SK242 | 口縁値 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 口縁数(点) | | | | | | | | | | | | | | |
| | 底残値 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 底部数(点) | | | | | | | | | | | | | | |
| | 総点数(点) | | | | | | | 4 | 100.00% | | | | | 4 | 100.00% |
| | | | | | | | 74.0 | 100.00% | | | | | 74.0 | 100.00% | |
| SK252 | 口縁値 | 0.03 | 33.33% | 0.06 | 66.67% | | | | | | | | 0.09 | 100.00% | |
| | 口縁数(点) | 2 | 66.67% | 1 | 33.33% | | | | | | | | 3 | 100.00% | |
| | 底残値 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 底部数(点) | | | | | | | | | | | | | | |
| | 総点数(点) | 9 | 50.00% | 1 | 5.66% | | | 7 | 38.88% | | 1 | 5.56% | | 18 | 100.00% |
| | 9.0 | 3.33% | 2.0 | 0.74% | | | 172.0 | 63.70% | | 87.0 | 32.23% | | 270.0 | 100.00% | |
| SK254 | 口縁値 | 0.69 | 78.40% | | | 0.19 | 21.60% | | | | | | 0.88 | 100.00% | |
| | 口縁数(点) | 3 | 75.00% | | | 1 | 25.00% | | | | | | 4 | 100.00% | |
| | 底残値 | 1.00 | 100.00% | | | | | | | | | | 1.00 | 100.00% | |
| | 底部数(点) | 1 | 100.00% | | | | | | | | | | 1 | 100.00% | |
| | 総点数(点) | 4 | 40.00% | | | | | 4 | 40.00% | | 2 | 20.00% | | 10 | 100.00% |
| | 167.0 | 33.55% | | | | | 319.0 | 64.05% | | 12.0 | 2.40% | | 498.0 | 100.00% | |
| SK283 | 口縁値 | | 0.03 | 100.00% | | | | | | | | | 0.03 | 100.00% | |
| | 口縁数(点) | | 1 | 100.00% | | | | | | | | | 1 | 100.00% | |
| | 底残値 | | 3 | 21.43% | 3 | 21.43% | | | 8 | 57.14% | | | 14 | 100.00% | |
| | 底部数(点) | | 2.0 | 5.88% | 2.0 | 5.88% | | | 30.0 | 88.24% | | | 34.0 | 100.00% | |
| | 総点数(点) | | 2.0 | 5.88% | 5.88% | | | | | | | | 7.77 | 100.00% | |
| | | 2.0 | 5.88% | 5.88% | | | | | | | | 4 | 100.00% | | |
| SK457 | 口縁値 | | 0.58 | 75.32% | 0.19 | 24.68% | | | | | | | 0.77 | 100.00% | |
| | 口縁数(点) | | 2 | 50.00% | 2 | 50.00% | | | | | | | 4 | 100.00% | |
| | 底残値 | | 1.00 | 68.03% | 0.47 | 31.97% | | | | | | | 1.47 | 100.00% | |
| | 底部数(点) | | 1 | 50.00% | 1 | 50.00% | | | | | | | 2 | 100.00% | |
| | 総点数(点) | | 2 | 22.22% | 2 | 22.22% | | | 5 | 55.56% | | | 9 | 100.00% | |
| | | 138.0 | 40.23% | 78.0 | 22.74% | | | 127.0 | 37.03% | | | 343.0 | 100.00% | | |
| SD108 | 口縁値 | 1.61 | 76.30% | | | 0.50 | 23.70% | | | | | | 2.11 | 100.00% | |
| | 口縁数(点) | 17 | 80.95% | | | 4 | 19.05% | | | | | | 21 | 100.00% | |
| | 底残値 | 3.06 | 100.00% | | | | 0.00% | | | | | | 3.06 | 100.00% | |
| | 底部数(点) | 6 | 100.00% | | | | 0.00% | | | | | | 6 | 100.00% | |
| | 総点数(点) | 63 | 50.80% | | | 56 | 45.16% | 5 | 4.04% | | | | 124 | 100.00% | |
| | 333.0 | 26.90% | | | 892.0 | 72.05% | 13.0 | 1.05% | | | | 1,238.0 | 100.00% | | |
| SD239 | 口縁値 | | 0.03 | 7.15% | | 0.31 | 73.80% | 0.08 | 19.05% | | | | 0.42 | 100.00% | |
| | 口縁数(点) | | 1 | 12.50% | | 6 | 75.00% | | 1 | 12.50% | | | 8 | 100.00% | |
| | 底残値 | | 0.89 | 82.40% | | | | | 0.19 | 17.60% | | | 1.08 | 100.00% | |
| | 底部数(点) | | 2 | 66.67% | | | | | 1 | 33.33% | | | 3 | 100.00% | |
| | 総点数(点) | 2 | 2.85% | 9 | 12.86% | | 49 | 70.00% | 3 | 4.29% | | 4 | 5.71% | 70 | 100.00% |
| | 3.0 | 0.50% | 51.0 | 8.65% | | 341.0 | 57.90% | 40.0 | 6.79% | | 130.0 | 22.08% | 24.0 | 4.08% | |
| | | | | | | | | | | | | | 589.0 | 100.00% | |

別 表

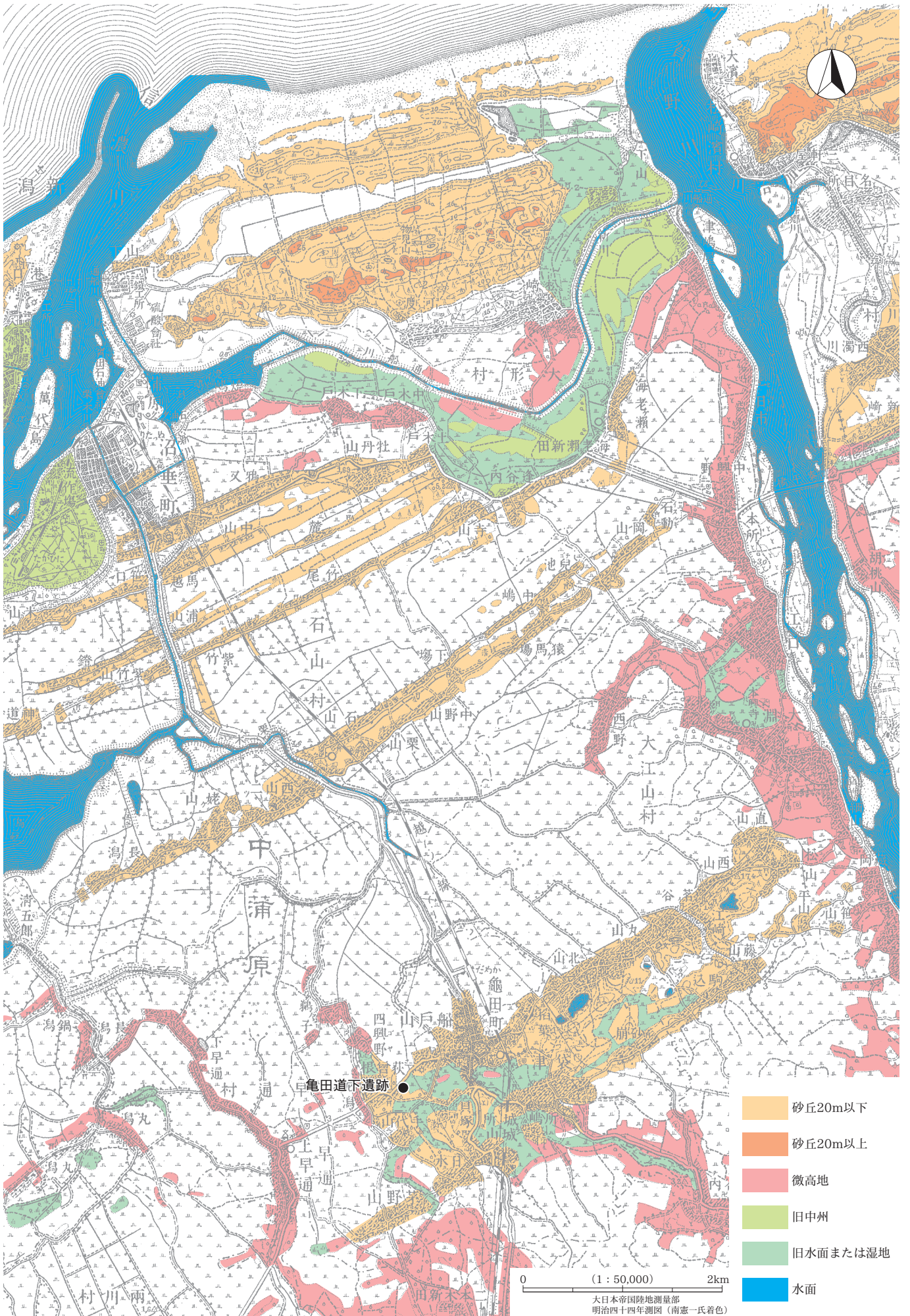
| 遺構名 | 種別 計測法 | 食膳具 | | | | | 煮炊具 | | | 貯蔵具 | | | 合計 |
|--------|-----------|---------------|--------------|-----|----|-------------|-------------|--------------|--------------|--------------|--------------|----------|------------|
| | | 土師器 | | 須恵器 | | 杯蓋 | 土師器 | | 大甕 | 須恵器 | | | |
| | | 無台碗 | 無台杯 | 有台杯 | 長甕 | | 小甕 | 甕・瓶類 | | 横瓶 | | | |
| SD225 | 口残値 | | | | | | | | | | | | |
| | 口縁数(点) | | | | | | | | | | | | |
| | 底残値 | | | | | | | | | | | | |
| | 底部数(点) | | | | | | | | | | | | |
| | 総点数(点) | | | | | | | | | | | | 2:100.00% |
| SD257 | 口残値 | 0.06: 12.00% | 0.36: 72.00% | | | | | | | | | | |
| | 口縁数(点) | 3: 42.86% | 3: 42.86% | | | | | | | | | | |
| | 底残値 | | 0.36: 67.93% | | | | | 0.17: 32.07% | | | | | |
| | 底部数(点) | | 1: 50.00% | | | | | 1: 50.00% | | | | | |
| | 総点数(点) | 4: 22.22% | 3: 16.67% | | | | | 10: 55.56% | 1: 5.55% | | | | |
| SD272 | 口残値 | | | | | | | | | | | | |
| | 口縁数(点) | | | | | | | | | | | | |
| | 底残値 | | | | | | | | | | | | |
| | 底部数(点) | | | | | | | | | | | | |
| | 総点数(点) | | | | | | | | | | | | 2:100.00% |
| SD330 | 口残値 | 0.39: 34.22% | | | | 0.11: 9.65% | 0.08: 7.01% | 0.50: 43.86% | 0.06: 5.26% | | | | |
| | 口縁数(点) | 8: 38.10% | | | | 1: 4.76% | 2: 9.52% | 8: 38.10% | 2: 9.52% | | | | |
| | 底残値 | 1.67: 76.96% | | | | | 0.03: 1.38% | 0.28: 12.90% | | | 0.19: 8.76% | | |
| | 底部数(点) | 5: 55.56% | | | | | 1: 11.11% | 2: 22.22% | | | 1: 11.11% | | |
| | 総点数(点) | 43: 29.26% | | | | | 1: 0.68% | 65: 44.22% | 29: 19.72% | 7: 4.76% | 1: 0.68% | 1: 0.68% | |
| SD358 | 口残値 | 0.39: 60.94% | | | | | | 0.08: 12.50% | 0.17: 26.56% | | | | |
| | 口縁数(点) | 2: 40.00% | | | | | | 1: 20.00% | 2: 40.00% | | | | |
| | 底残値 | 1.00: 80.00% | 0.25: 20.00% | | | | | | | | | | |
| | 底部数(点) | 1: 50.00% | 1: 50.00% | | | | | | | | | | |
| | 総点数(点) | 15: 48.39% | 1: 3.23% | | | | | | 12: 38.70% | 3: 9.68% | | | |
| SN504 | 口残値 | 110.0: 22.63% | 33.0: 6.79% | | | | | | | | | | |
| | 口縁数(点) | | | | | | | | | | | | |
| | 底残値 | | | | | | | | | | | | |
| | 底部数(点) | | | | | | | | | | | | |
| | 総点数(点) | 1: 100.00% | | | | | | | | | | | 1: 100.00% |
| Pit183 | 口残値 | | 0.08: 47.06% | | | | | 0.06: 35.29% | | 0.03: 17.65% | | | |
| | 口縁数(点) | | 1: 33.33% | | | | | 1: 33.33% | | 1: 33.34% | | | |
| | 底残値 | | 0.17: 50.00% | | | | | 0.17: 50.00% | | | | | |
| | 底部数(点) | | 1: 50.00% | | | | | 1: 50.00% | | | | | |
| | 総点数(点) | | 2: 8.69% | | | | | 9: 39.13% | 3: 13.05% | 9: 39.13% | | | |
| Pit264 | 口残値 | | 19.0: 12.58% | | | | | 52.0: 34.44% | 35.0: 23.18% | 0.00% | 45.0: 29.80% | | |
| | 口縁数(点) | | | | | | | | | | | | |
| | 底残値 | | | | | | | | | | | | |
| | 底部数(点) | | | | | | | | | | | | |
| | 総点数(点) | | | | | | | | 4: 100.00% | | | | |
| Pit400 | 口残値 | | | | | | | | | | | | |
| | 口縁数(点) | | | | | | | | | | | | |
| | 底残値 | | | | | | | | | | | | |
| | 底部数(点) | | | | | | | | | | | | |
| | 総点数(点) | | | | | | | | | | | | 9: 100.00% |
| Pit401 | 口残値 | | | | | | | | | | | | |
| | 口縁数(点) | | | | | | | | | | | | |
| | 底残値 | | | | | | | | | | | | |
| | 底部数(点) | | | | | | | | | | | | |
| | 総点数(点) | | | | | | | | | | | | 1: 100.00% |
| Pit403 | 口残値 | | | | | | | | | | | | |
| | 口縁数(点) | | | | | | | | | | | | |
| | 底残値 | | | | | | | | | | | | |
| | 底部数(点) | | | | | | | | | | | | |
| | 総点数(点) | | | | | | | | | | | | 1: 100.00% |
| Pit404 | 口残値 | | | | | | | | | | | | |
| | 口縁数(点) | | | | | | | | | | | | |
| | 底残値 | | | | | | | | | | | | |
| | 底部数(点) | | | | | | | | | | | | |
| | 総点数(点) | | | | | | | | | | | | 1: 100.00% |
| Pit405 | 口残値 | | | | | | | | | | | | |
| | 口縁数(点) | | | | | | | | | | | | |
| | 底残値 | | | | | | | | | | | | |
| | 底部数(点) | | | | | | | | | | | | |
| | 総点数(点) | | | | | | | | | | | | 1: 100.00% |
| Pit441 | 口残値 | | | | | | | | | | | | |
| | 口縁数(点) | | | | | | | | | | | | |
| | 底残値 | | | | | | | | | | | | |
| | 底部数(点) | | | | | | | | | | | | |
| | 総点数(点) | | | | | | | | | | | | 1: 100.00% |
| Pit449 | 口残値 | | | | | | | | | | | | |
| | 口縁数(点) | | | | | | | | | | | | |
| | 底残値 | | | | | | | | | | | | |
| | 底部数(点) | | | | | | | | | | | | |
| | 総点数(点) | 2: 22.22% | | | | | | | 1: 11.11% | | | | |
| Pit459 | 口残値 | | | | | | | | | | | | |
| | 口縁数(点) | | | | | | | | | | | | |
| | 底残値 | | | | | | | | | | | | |
| | 底部数(点) | | | | | | | | | | | | |
| | 総点数(点) | | | | | | | | | | | | 1: 100.00% |
| Pit461 | 口残値 | | | | | | | | | | | | |
| | 口縁数(点) | | | | | | | | | | | | |
| | 底残値 | | | | | | | | | | | | |
| | 底部数(点) | | | | | | | | | | | | |
| | 総点数(点) | 1: 50.00% | | | | | | | 1: 50.00% | | | | |

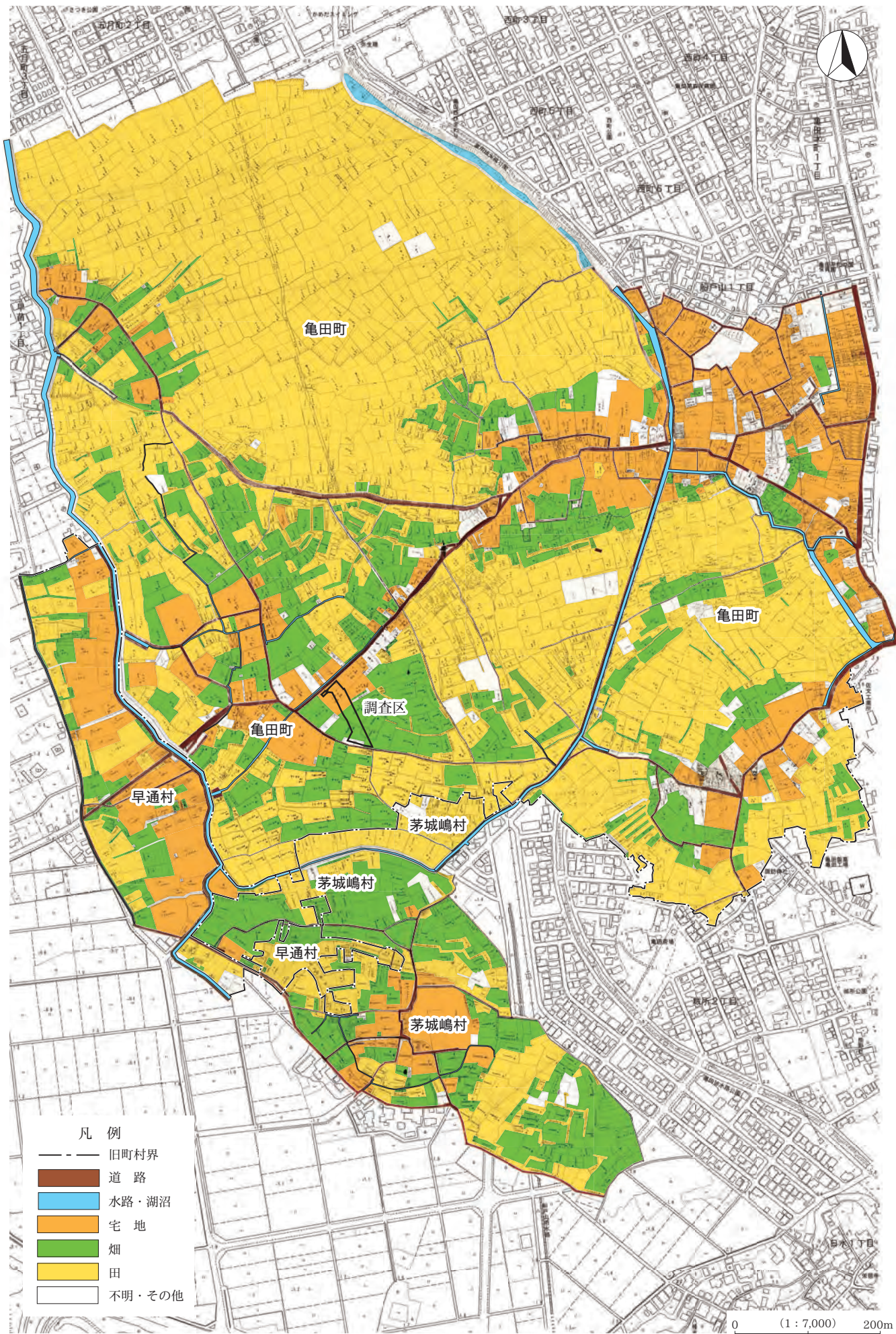
版 图

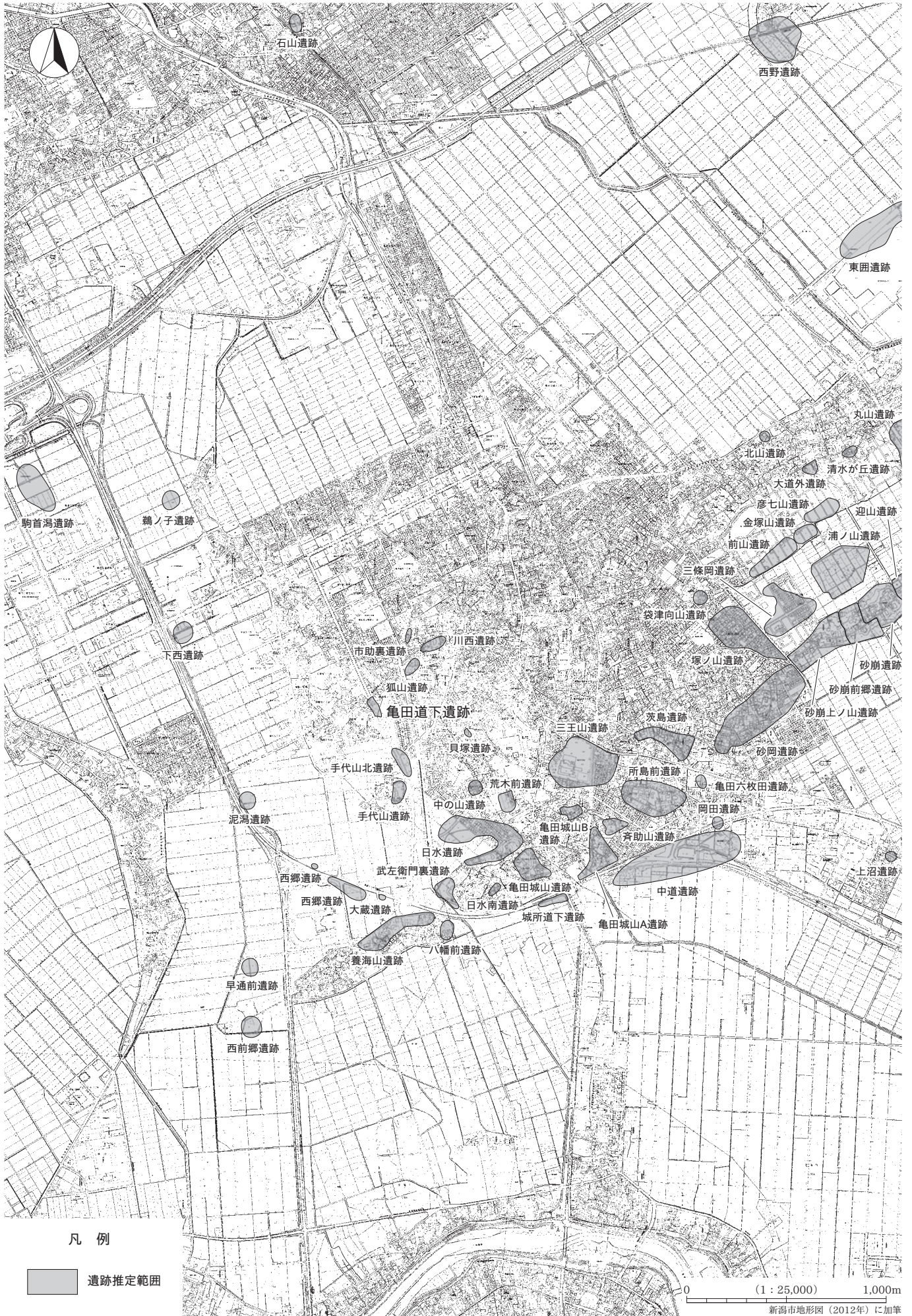


0 (1 : 25,000) 1,000m

大日本帝国陸地測量部発行明治四十四年測図





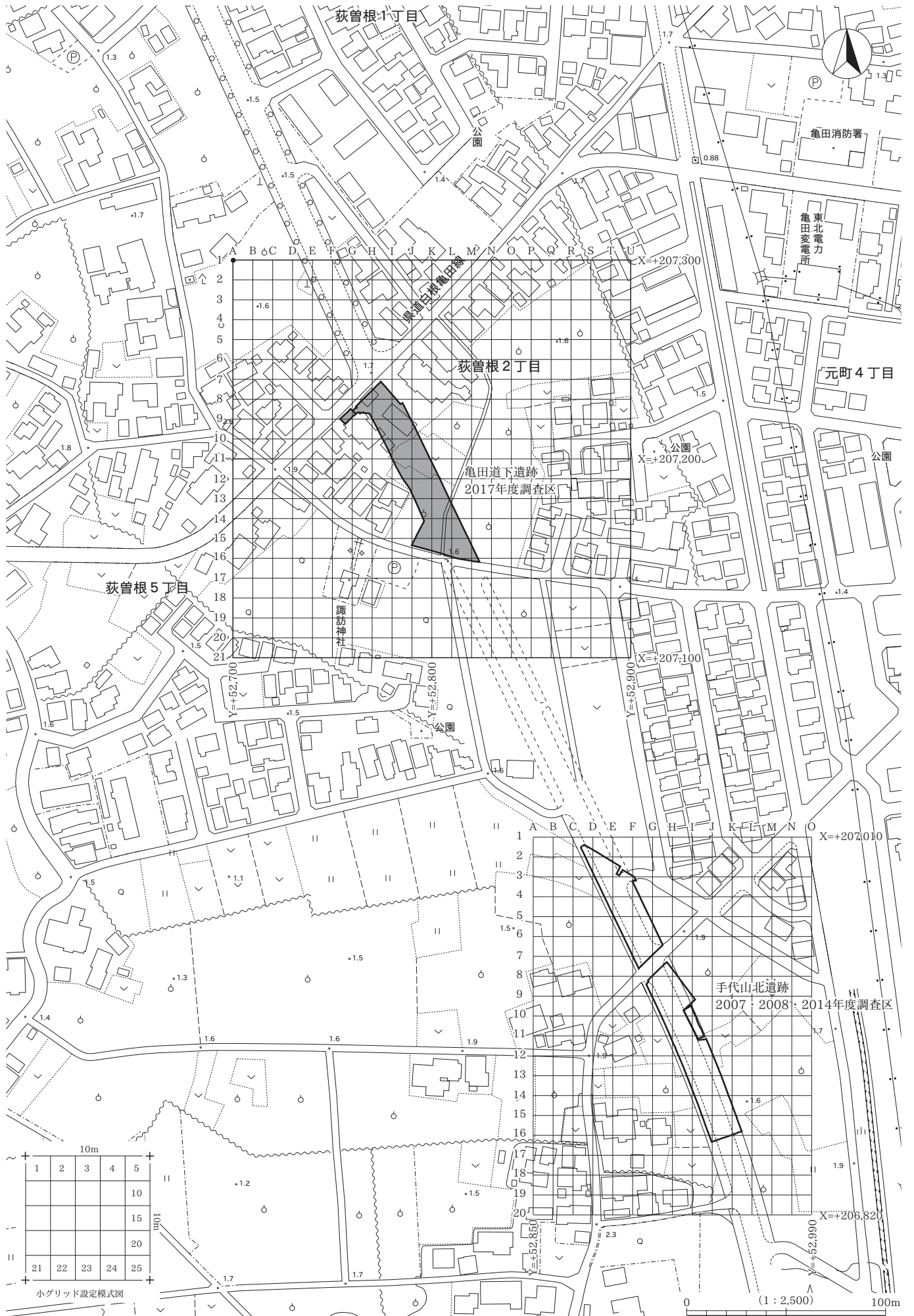


凡例

遺跡推定範囲

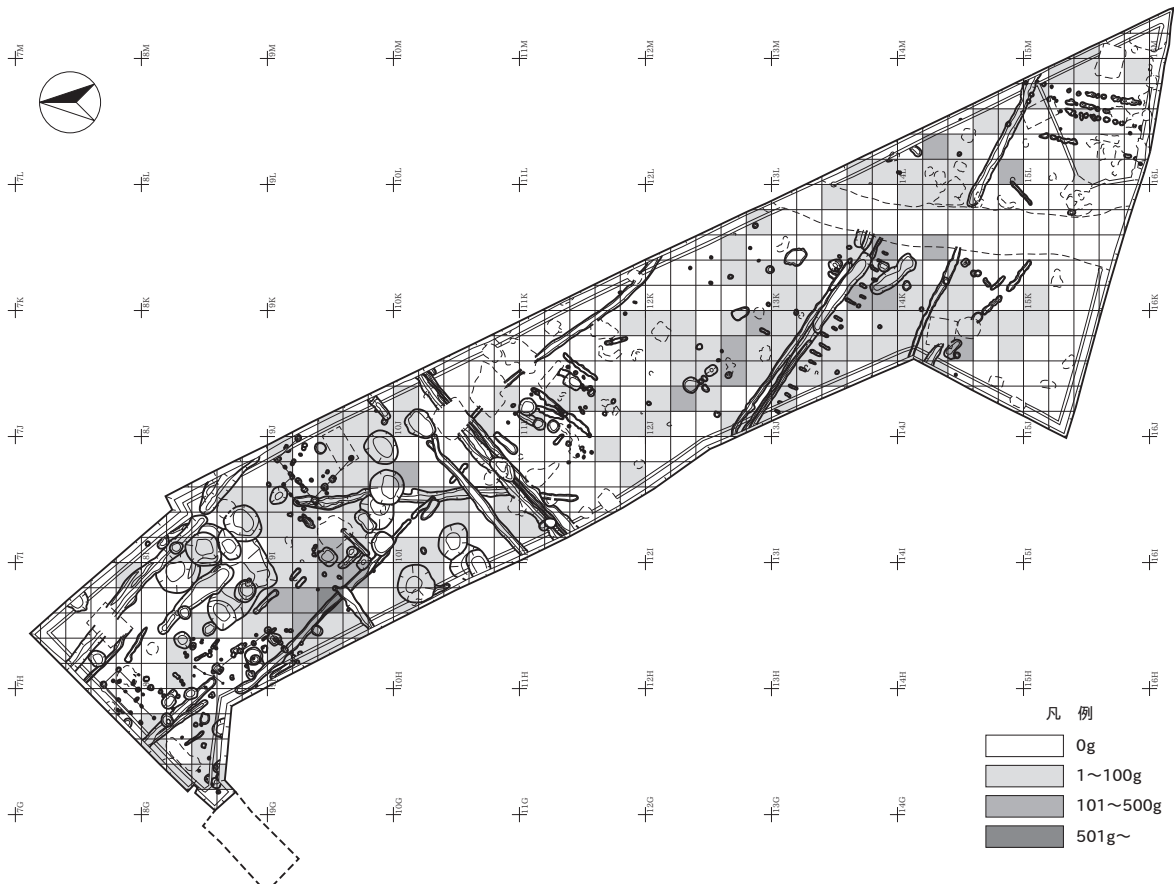
0 (1:25,000) 1,000m

新潟市地形図 (2012年) に加筆

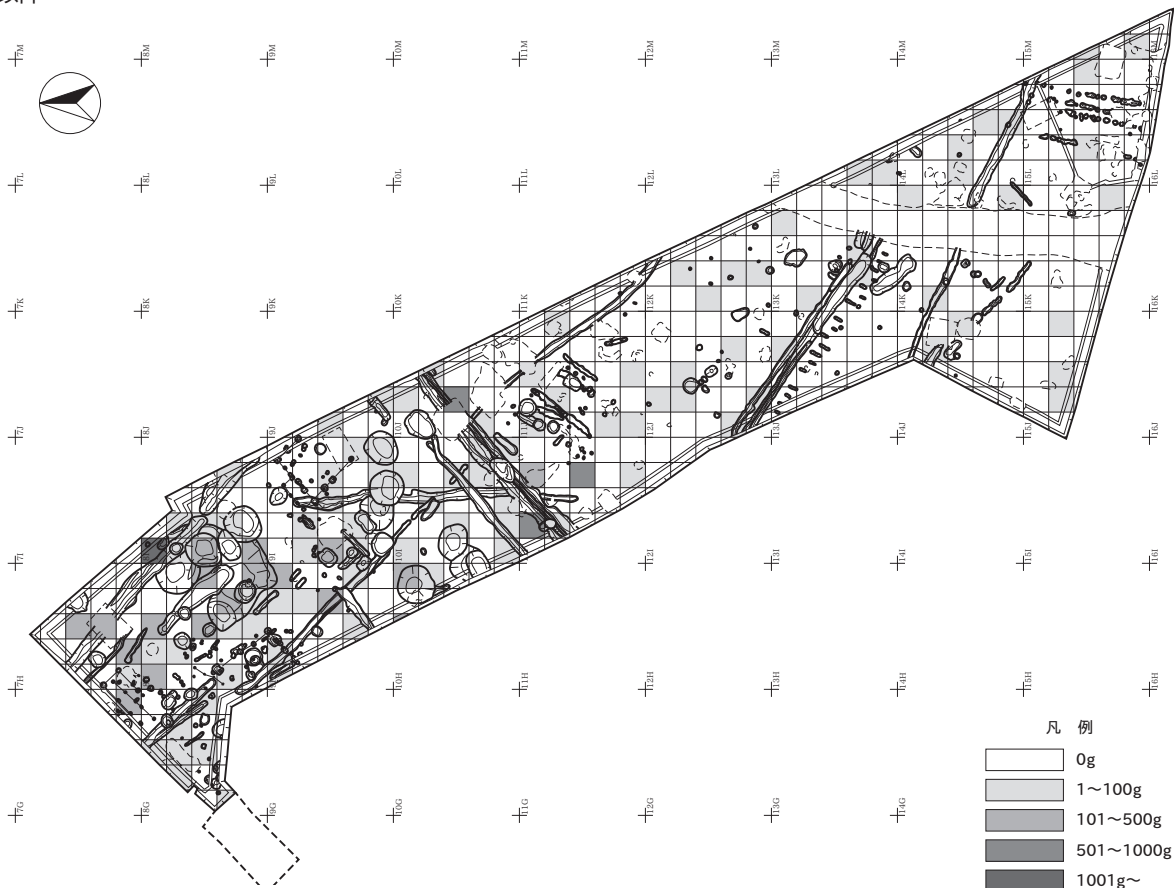


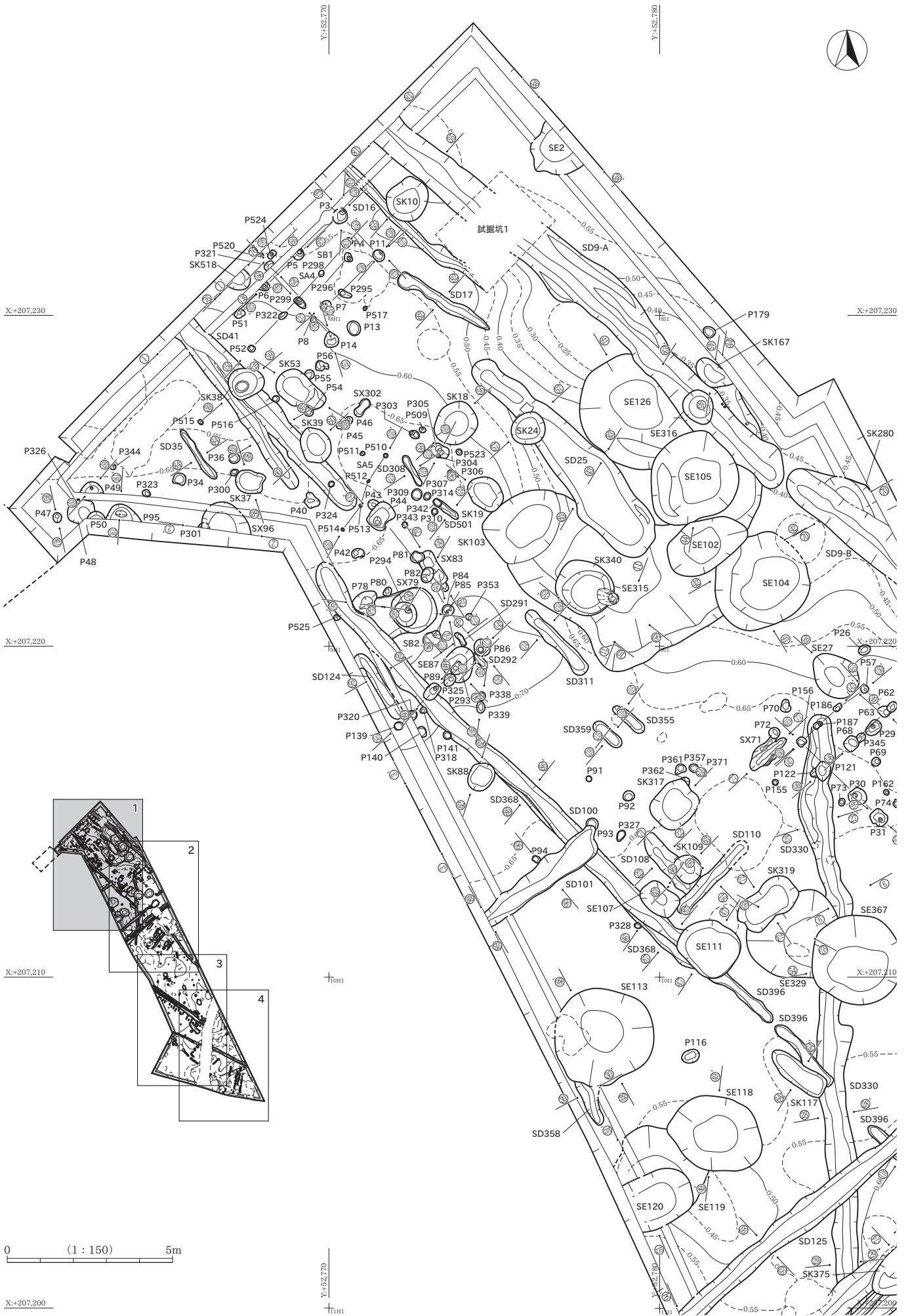
平面直角座標値は世界測地系（測地成果2011）による。
2012年発行「新潟市地形図 1:2,500」を加筆修正

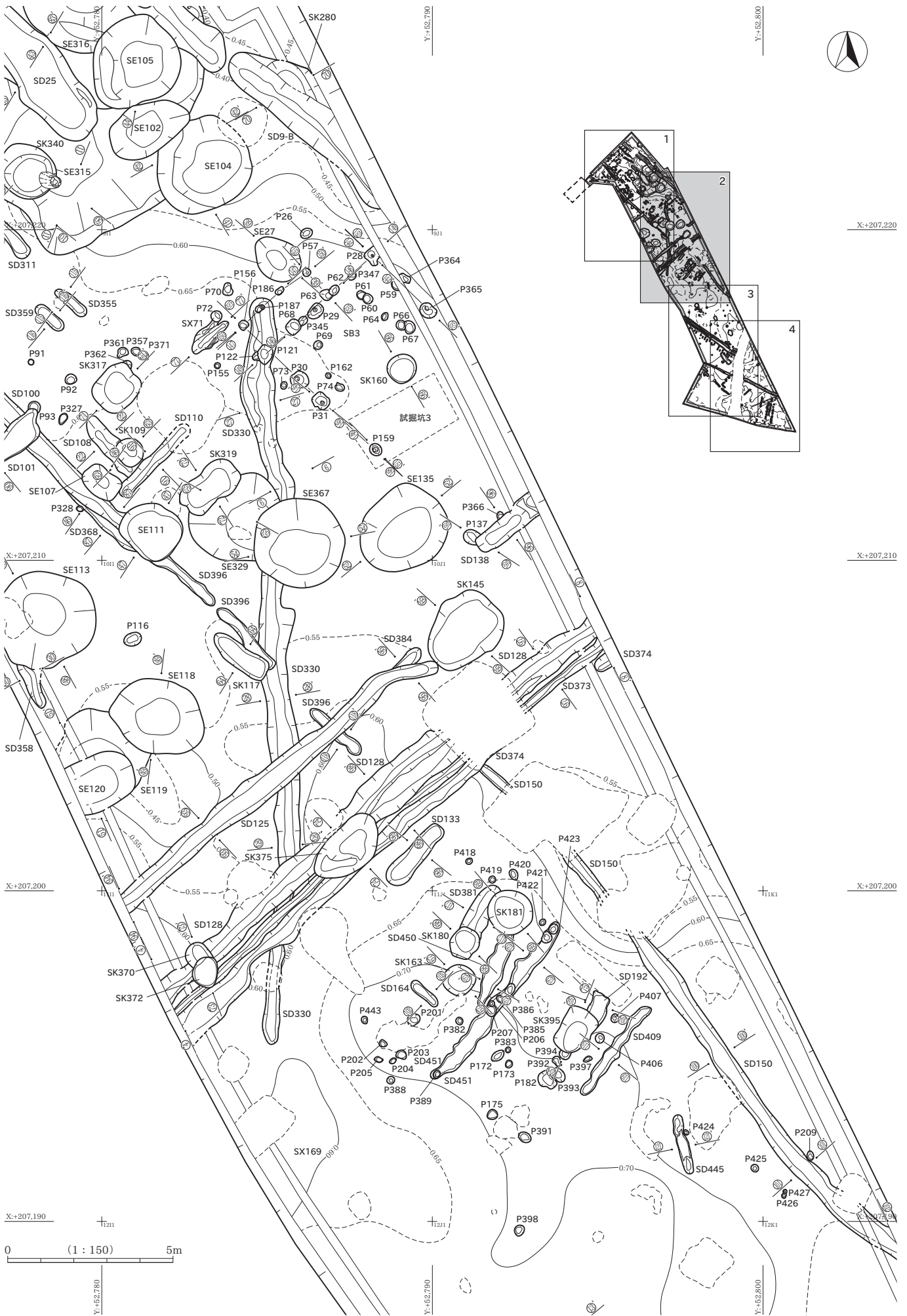
古代

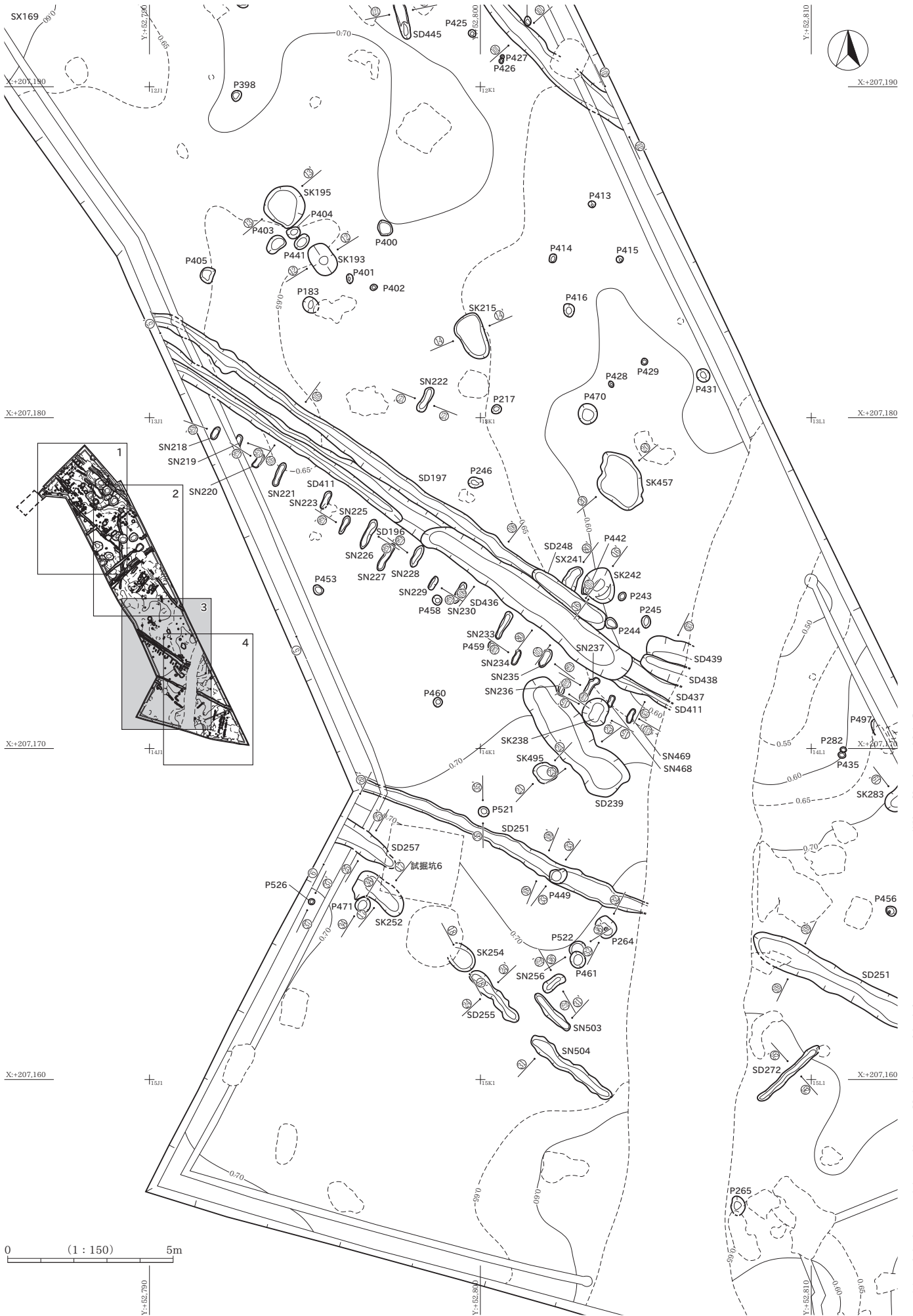


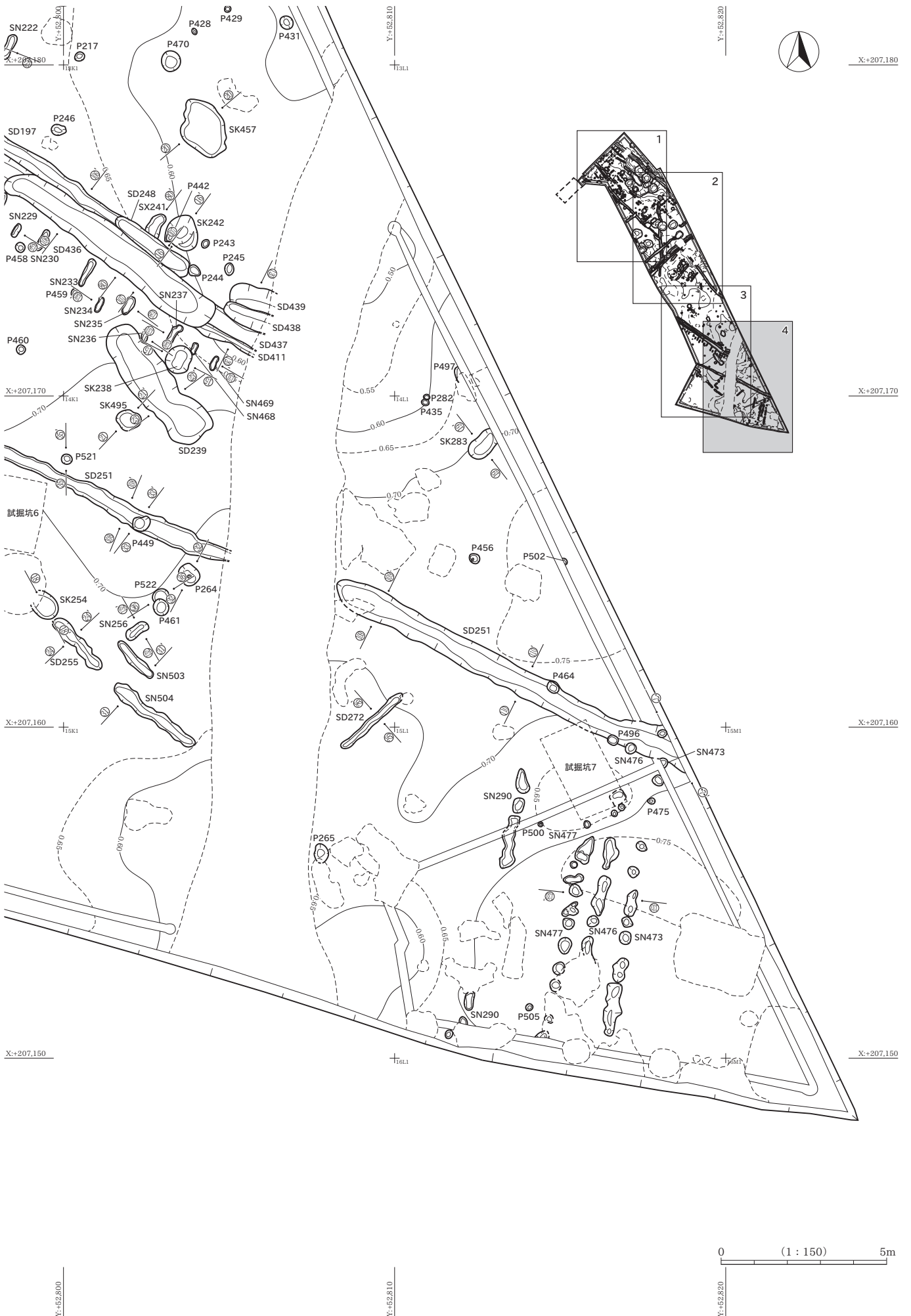
近世以降

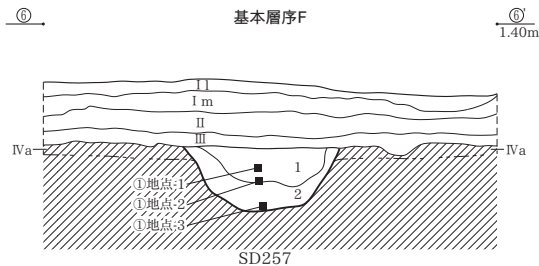
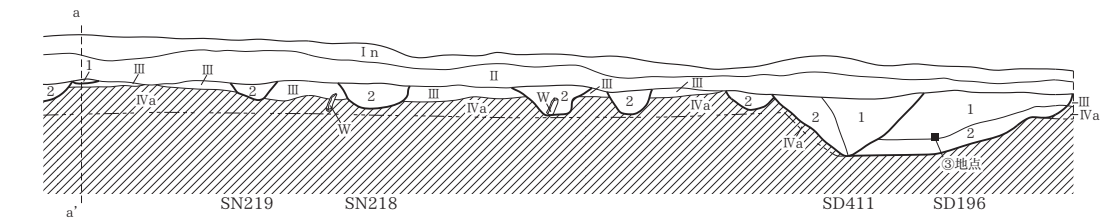
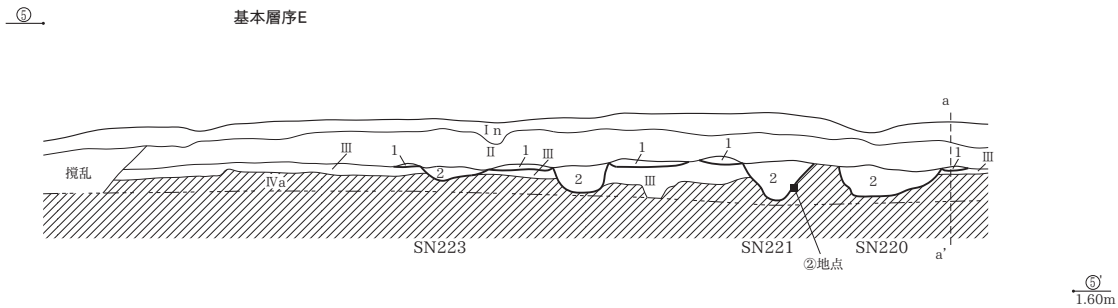
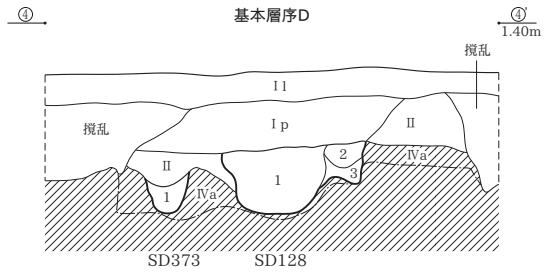
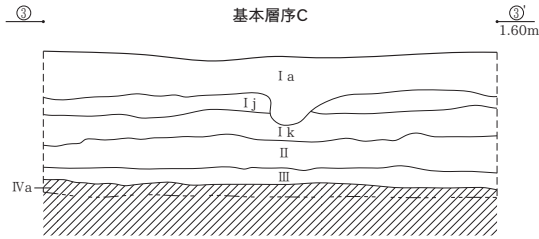
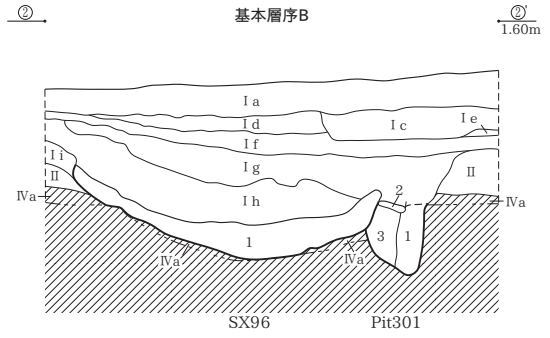
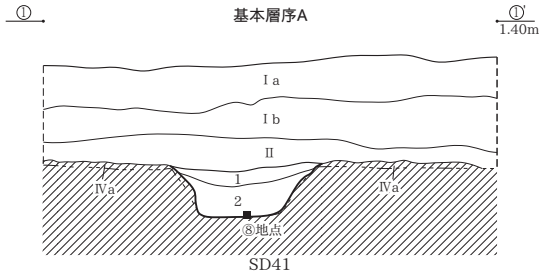








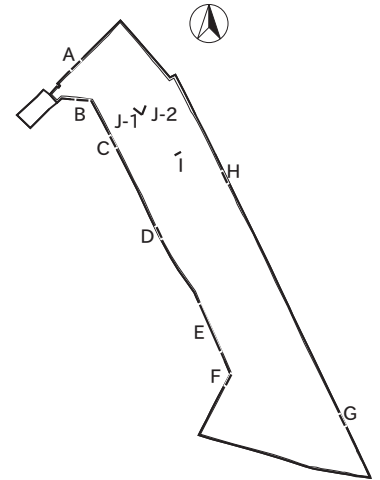




- SD196**
 1 黄灰色シルト (2.5Y5/1) しまりあり 粘性あり にぶい黄褐色シルト(10YR7/2)を粒子状に微量含む。
 2 黄灰色シルト (2.5Y6/1) しまりあり 粘性あり にぶい黄褐色シルト(10YR7/2)を斑状に中量含む。
- SD411**
 1 黄灰色シルト (2.5Y5/1) しまりあり 粘性ややあり にぶい黄褐色シルト(10YR7/2)を粒子状に少量含む。
 2 暗黄灰色シルト (2.5Y5/2) しまりあり 粘性あり にぶい黄褐色シルト(10YR7/2)を斑状にやや多く含む。
- SN**
 1 (畝) 暗黄灰色シルト (2.5Y4/2) しまりあり 粘性ややあり 黄褐色シルト(2.5Y5/3)を斑状に少量含む。
 2 (畝間) 黒褐色シルト (10YR3/2) しまりあり 粘性ややあり 黄褐色シルト(2.5Y5/3)を斑状に少量含む。

土層注記

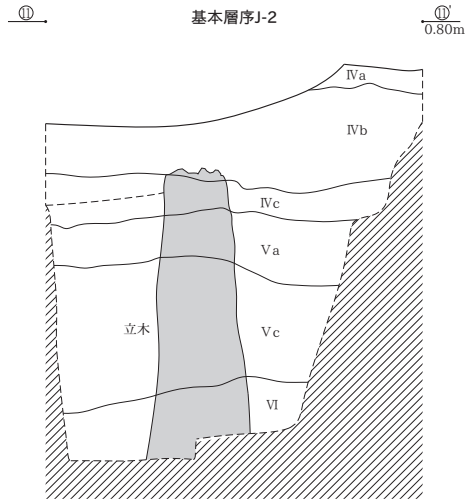
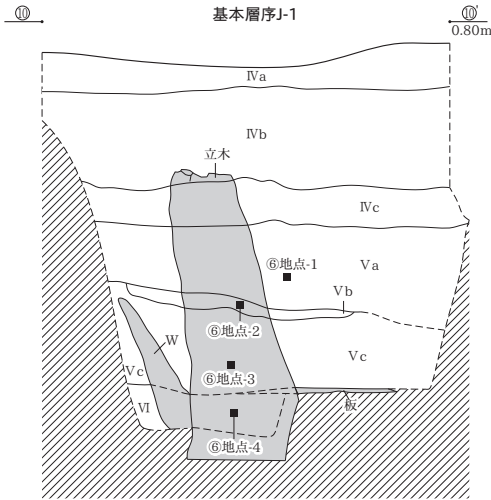
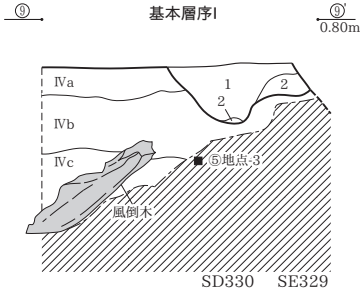
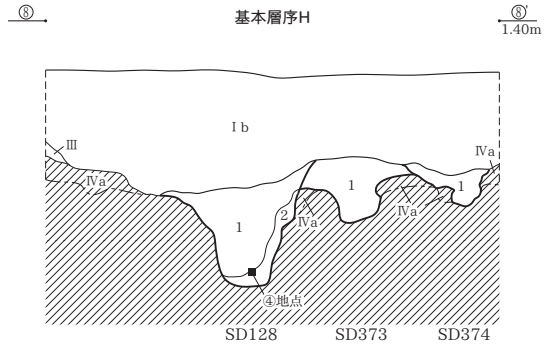
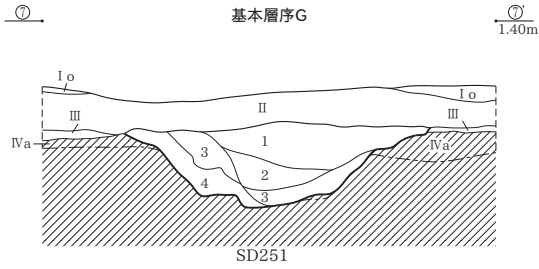
- | | |
|-------------------------|--|
| Ia 暗黄褐色砂質シルト (2.5Y5/2) | しまりなし 粘性なし 盛土。 |
| Ib 黄灰色シルト (2.5Y4/1) | しまりややあり 粘性ややあり 盛土。 |
| Ic 灰黄褐色シルト (10YR5/2) | しまりあり 粘性あり 盛土。 |
| Id 灰色シルト (7.5Y5/1) | しまりややあり 粘性あり 盛土。 |
| Ie 暗黄灰色シルト (2.5Y5/2) | しまり強い 粘性あり 盛土。 |
| If 暗黄灰色シルト (2.5Y4/2) | しまりややあり 粘性あり 盛土。黄褐色シルト(2.5Y5/3)を斑状に微量含む。 |
| Ig 暗黄灰色シルト (2.5Y5/2) | しまりややあり 粘性あり 盛土。黄灰色シルト(2.5Y6/1)・黄褐色シルト(10YR5/6)を斑状に大量含む。 |
| Ih 黄灰色シルト (2.5Y5/1) | しまりややあり 粘性あり 盛土。黄灰色シルト(2.5Y6/1)・黄褐色シルト(10YR5/6)を斑状に少量含む。 |
| Ii 黄灰色シルト (2.5Y4/1) | しまりあり 粘性あり 盛土。黄褐色シルト(2.5Y5/3)を斑状に少量含む。φ2~5mmの炭化物を微量含む。 |
| Ij 灰黄褐色砂質シルト (10YR5/2) | しまりあり 粘性なし 盛土。 |
| Ik 暗黄灰色シルト (2.5Y5/2) | しまり強い 粘性ややあり 盛土。黄褐色シルト(2.5Y5/3)を斑状に少量含む。 |
| Il 黄灰色シルト (2.5Y4/1) | しまりなし 粘性ややあり 耕作土。 |
| Im 黄灰色シルト (2.5Y5/1) | しまりややあり 粘性ややあり |
| In 黄灰色シルト (2.5Y4/1) | しまりなし 粘性なし 耕作土。 |
| Io 黄灰色シルト (2.5Y4/1) | しまりなし 粘性なし 果樹園の耕作土。 |
| Ip 黄灰色シルト (2.5Y4/1) | しまりややあり 粘性ややあり |
| II 褐灰色シルト (10YR4/1) | しまりあり 粘性あり 黄褐色シルト(2.5Y5/3)をブロック状に少量含む。 |
| III 灰褐色シルト (7.5YR5/2) | しまりあり 粘性ややあり 黄褐色シルト(2.5Y5/3)を斑状にやや多く含む。 |
| IVa 黄褐色シルト (2.5Y5/3) | しまり強い 粘性あり 明黄褐色シルト(2.5Y6/6)を斑状に少量含む。 |
| IVb 黄灰色シルト (2.5Y5/1) | しまりややあり 粘性ややあり 植物根・腐鉄含む。上層砂質シルトとなる。 |
| IVc オリブ灰色砂質シルト (10Y4/2) | しまりややあり 粘性ややあり 植物根・腐鉄含む。 |
| Va 緑灰色砂質シルト (10GY5/1) | しまりややあり 粘性ややあり 灰色シルト(7.5Y4/1)を層状に中量含む。 |
| Vb オリブ黒色腐食土 (7.5Y3/1) | しまりややあり 粘性なし Va~Vc層間に入る層。 |
| Vc 暗オリブ灰色砂 (5GY4/1) | しまりややあり 粘性なし 灰色シルト(7.5Y4/1)を層状に中量含む。 |
| VI オリブ黒色シルト (10Y3/1) | しまりあり 粘性あり Vc層由来の暗オリブ灰色砂を層状に含む。 |



■ 自然科学分析土壌サンプル採取地点

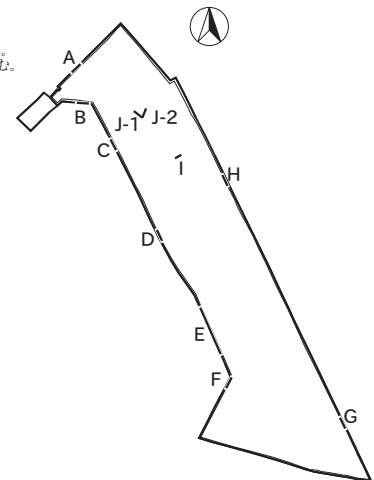
(平面図) 0 (1:1,500) 50m

(断面図) 0 (1:40) 2m



土層注記

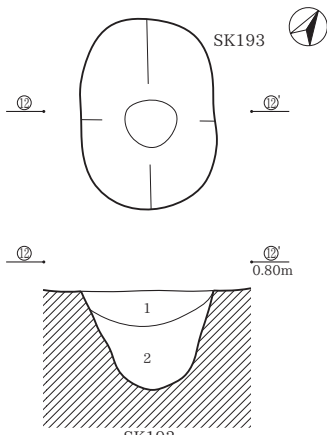
- | | |
|--------------------------|--|
| Ia 暗灰黄色砂質シルト (2.5Y5/2) | しまりなし 粘性なし 盛土。 |
| Ib 黄灰色シルト (2.5Y4/1) | しまりややあり 粘性ややあり 盛土。 |
| Ic 灰黄褐色シルト (10YR5/2) | しまりあり 粘性あり 盛土。 |
| Id 灰シルト (7.5Y5/1) | しまりややあり 粘性あり 盛土。 |
| Ie 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) | しまり強い 粘性あり 盛土。 |
| If 暗灰黄色シルト (2.5Y4/2) | しまりややあり 粘性あり 盛土。黄褐色シルト(2.5Y5/3)を斑状に微量含む。 |
| Ig 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) | しまりややあり 粘性あり 盛土。黄灰色シルト(2.5Y6/1)・黄褐色シルト(10YR5/6)を斑状に大量含む。 |
| Ih 黄灰色シルト (2.5Y5/1) | しまりややあり 粘性あり 盛土。黄灰色シルト(2.5Y6/1)・黄褐色シルト(10YR5/6)を斑状に少量含む。 |
| Ii 黄灰色シルト (2.5Y4/1) | しまりあり 粘性あり 盛土。黄褐色シルト(2.5Y5/3)を斑状に少量含む。φ2~5mmの炭化物を微量含む。 |
| Ij 灰黄褐色砂質シルト (10YR5/2) | しまりあり 粘性なし 盛土。 |
| Ik 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) | しまり強い 粘性ややあり 盛土。黄褐色シルト(2.5Y5/3)を斑状に少量含む。 |
| Il 黄灰色シルト (2.5Y4/1) | しまりなし 粘性ややあり 耕作土。 |
| Im 黄灰色シルト (2.5Y5/1) | しまりややあり 粘性ややあり |
| In 黄灰色シルト (2.5Y4/1) | しまりなし 粘性なし 耕作土。 |
| Io 黄灰色シルト (2.5Y4/1) | しまりなし 粘性なし 果樹園の耕作土。 |
| Ip 黄灰色シルト (2.5Y4/1) | しまりややあり 粘性ややあり |
| II 褐灰色シルト (10YR4/1) | しまりあり 粘性あり 黄褐色シルト(2.5Y5/3)をブロック状に少量含む。 |
| III 灰褐色シルト (7.5YR5/2) | しまりあり 粘性ややあり 黄褐色シルト(2.5Y5/3)を斑状にやや多く含む。 |
| IVa 黄褐色シルト (2.5Y5/3) | しまり強い 粘性あり 明黄褐色シルト(2.5Y6/6)を斑状に少量含む。 |
| IVb 黄褐色シルト (2.5Y6/1) | しまりややあり 粘性ややあり 植物根・褐鉄含む。土層砂質シルトとなる。 |
| IVc オリーブ灰色砂質シルト (10Y4/2) | しまりややあり 粘性ややあり 植物根・褐鉄含む。 |
| Va 緑灰色砂質シルト (10GY5/1) | しまりややあり 粘性ややあり 灰色シルト(7.5Y4/1)を層状に中量含む。 |
| Vb オリーブ黒色腐食土 (7.5Y3/1) | しまりややあり 粘性なし Va~Vc層間に入る層。 |
| Vc 暗オリーブ灰色砂 (5GY4/1) | しまりややあり 粘性なし 灰色シルト(7.5Y4/1)を層状に中量含む。 |
| VI オリーブ黒色シルト (10Y3/1) | しまりあり 粘性あり Vc層由来の暗オリーブ灰色砂を層状に含む。 |



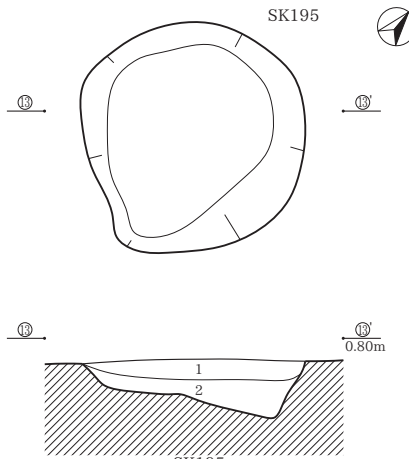
■ 自然科学分析土壌サンプル採取地点

(平面図) 0 (1:1,500) 50m

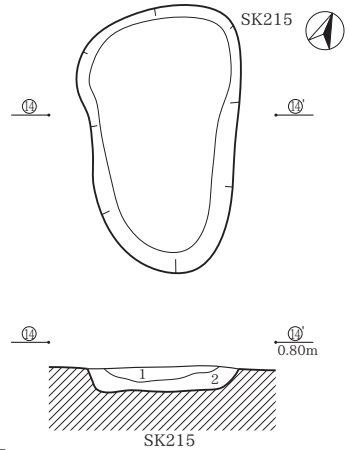
(断面図) 0 (1:40) 2m



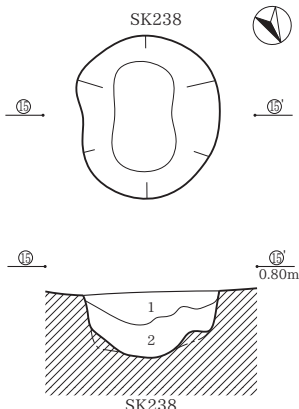
SK193
 1 灰黄褐色シルト (10YR6/2) しまりあり 粘性あり にぶい黄褐色シルト(10YR5/3)を斑状に少量含む。φ2~10mmの炭化物を少量含む。
 2 にぶい黄褐色シルト (10YR7/2) しまりあり 粘性ややあり にぶい黄褐色シルト(10YR5/3)を斑状にやや多く含む。



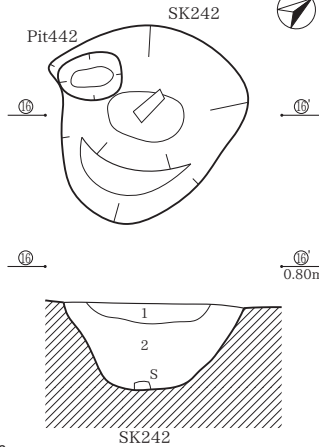
SK195
 1 灰黄色シルト (2.5Y6/2) しまりあり 粘性ややあり 黄褐色シルトを斑状に少量含む。
 2 にぶい黄色シルト (2.5Y6/3) しまりあり 粘性あり 黄褐色シルトを斑状に多量に含む。



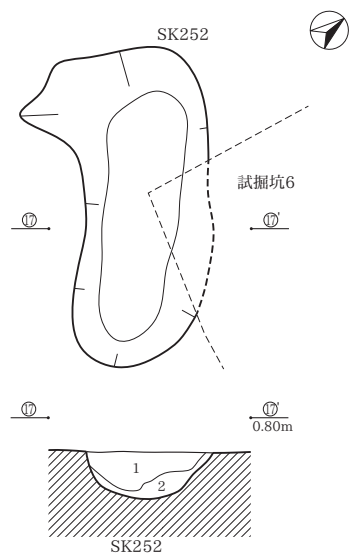
SK215
 1 黄灰色シルト (2.5Y5/1) しまりあり 粘性あり φ1~5mmの炭化物を少量含む。
 2 にぶい黄色シルト (2.5Y6/3) しまりあり 粘性あり 黄褐色シルトを斑状に中量含む。



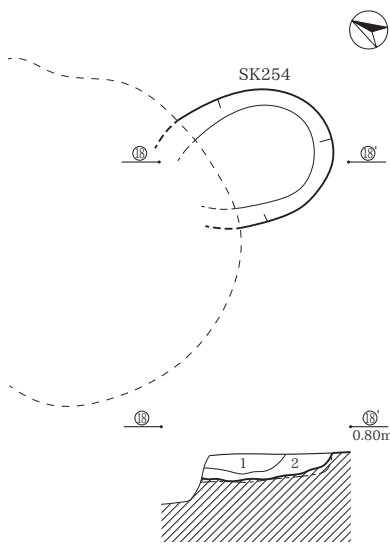
SK238
 1 暗褐色シルト (10YR3/3) しまり強い 粘性あり にぶい黄褐色シルト(10YR5/4)を斑状に中量含む。
 2 にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) しまりあり 粘性あり 1層由来の暗褐色シルト(10YR3/3)をブロック状に少量含む。



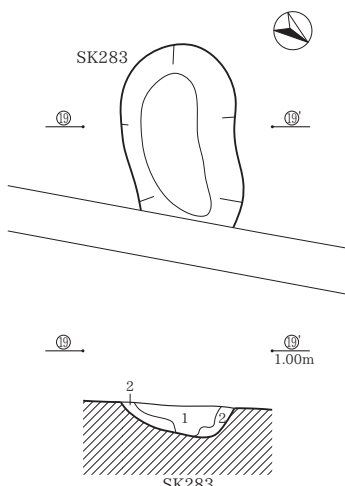
SK242
 1 灰シルト (5Y4/1) しまりあり 粘性ややあり にぶい黄色シルト(2.5Y6/3)を粒子状に少量含む。
 2 灰黄色シルト (2.5Y6/2) しまりあり 粘性あり にぶい黄色シルト(2.5Y6/3)を斑状に多量に含む。



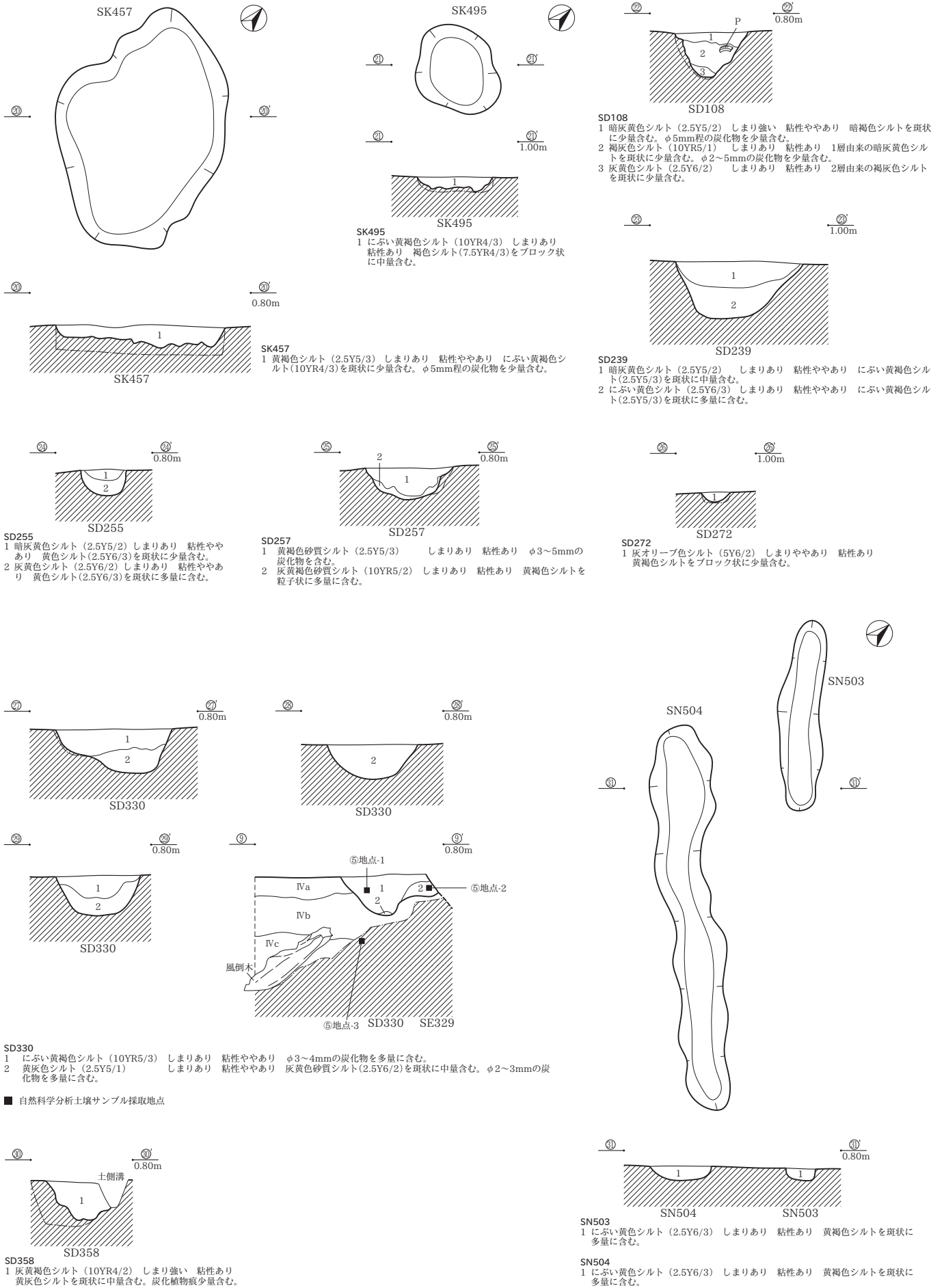
SK252
 1 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) しまりあり 粘性強い φ1~3mmの炭化物を少量含む。
 2 にぶい黄褐色砂質シルト (10YR5/3) しまりややあり 粘性強い黄褐色シルトを粒子状に含む。

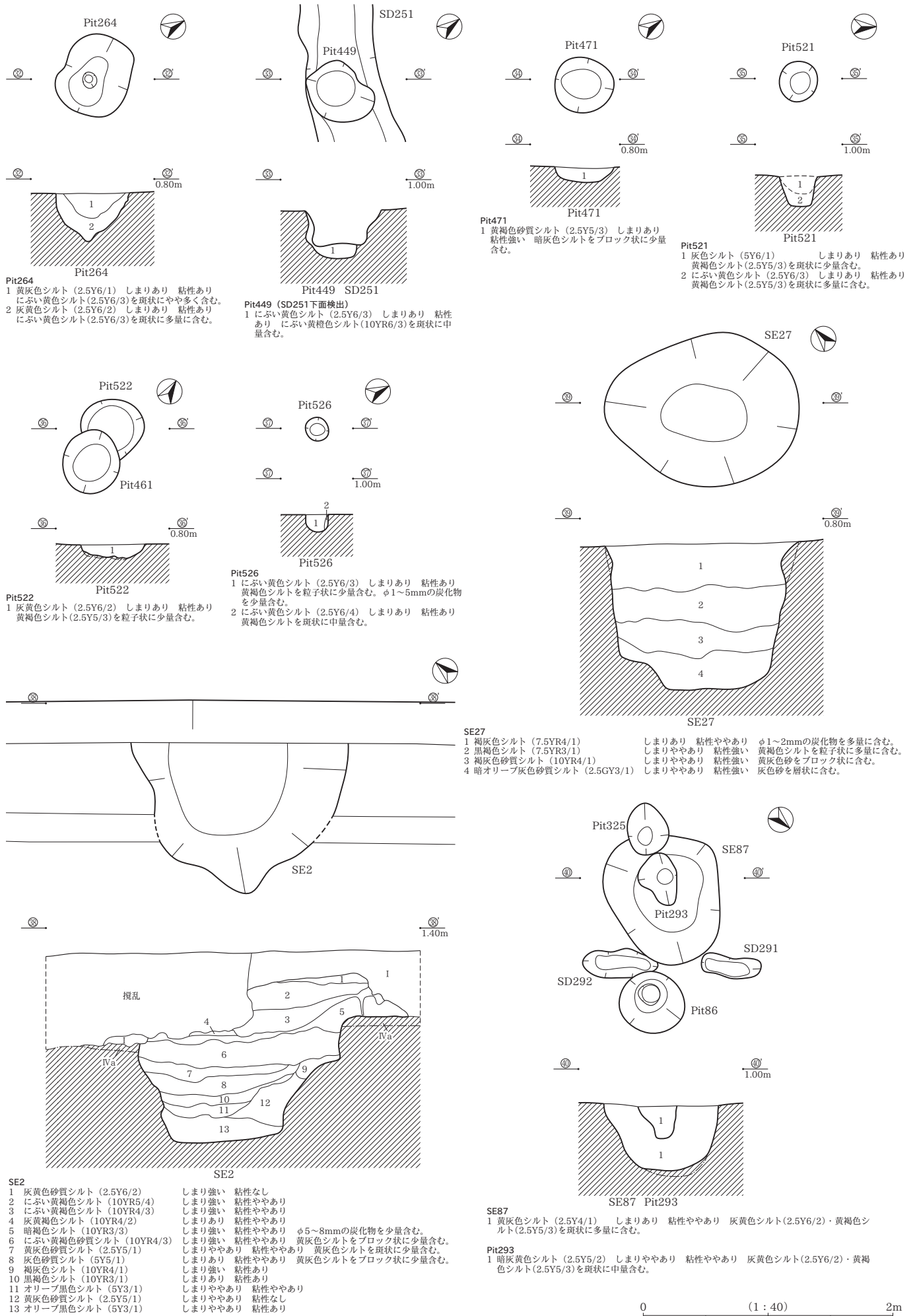


SK254
 1 灰黄褐色シルト (10YR4/2) しまりあり 粘性あり 黒褐色シルトをブロック状に含む。
 2 黄褐色砂質シルト (2.5Y5/3) しまりあり 粘性強い 暗灰色シルトをブロック状に含む。



SK283
 1 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) しまりあり 粘性あり 黄褐色シルトを粒子状に少量含む。
 2 灰黄色シルト (2.5Y6/2) しまりややあり 粘性あり 黄褐色シルトを斑状に多量に含む。





Pit264
 1 黄灰色シルト (2.5Y6/1) しまりあり 粘性あり
 にぶい黄色シルト(2.5Y6/3)を斑状にやや多く含む。
 2 灰黄色シルト (2.5Y6/2) しまりあり 粘性あり
 にぶい黄色シルト(2.5Y6/3)を斑状に多量に含む。

Pit449 (SD251下面検出)
 1 にぶい黄色シルト (2.5Y6/3) しまりあり 粘性あり
 にぶい黄褐色シルト(10YR6/3)を斑状に中量含む。

Pit471
 1 黄褐色砂質シルト (2.5Y5/3) しまりあり
 粘性強い 暗灰色シルトをブロック状に少量含む。

Pit521
 1 灰色シルト (5Y6/1) しまりあり 粘性あり
 黄褐色シルト(2.5Y5/3)を斑状に少量含む。
 2 にぶい黄色シルト (2.5Y6/3) しまりあり 粘性あり
 黄褐色シルト(2.5Y6/3)を斑状に多量に含む。

Pit522
 1 灰黄色シルト (2.5Y6/2) しまりあり 粘性あり
 黄褐色シルト (2.5Y5/3)を粒子状に少量含む。

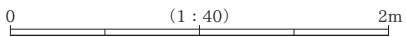
Pit526
 1 にぶい黄色シルト (2.5Y6/3) しまりあり 粘性あり
 黄褐色シルトを粒子状に少量含む。φ1~5mmの炭化物を少量含む。
 2 にぶい黄色シルト (2.5Y6/4) しまりあり 粘性あり
 黄褐色シルトを斑状に中量含む。

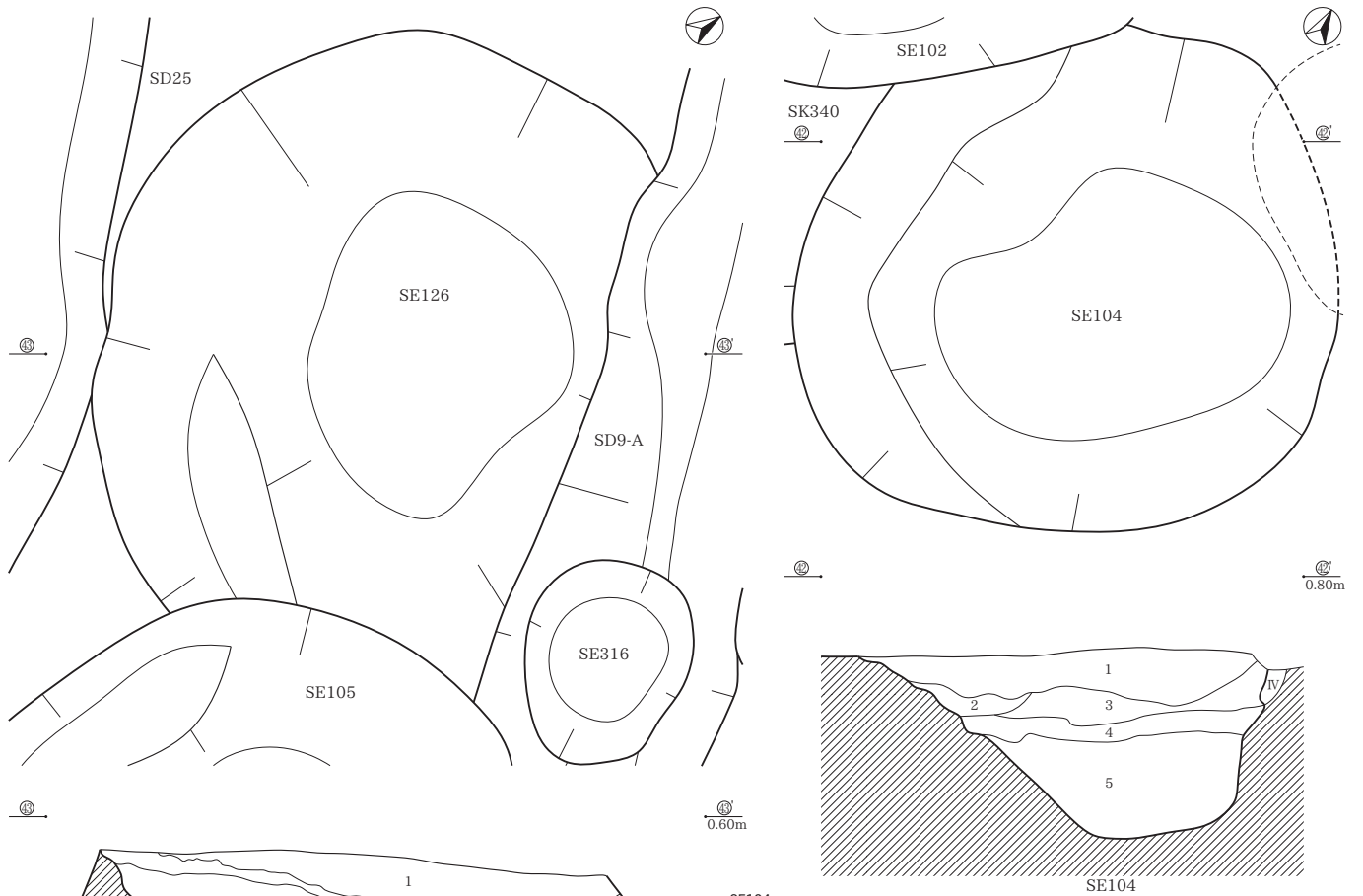
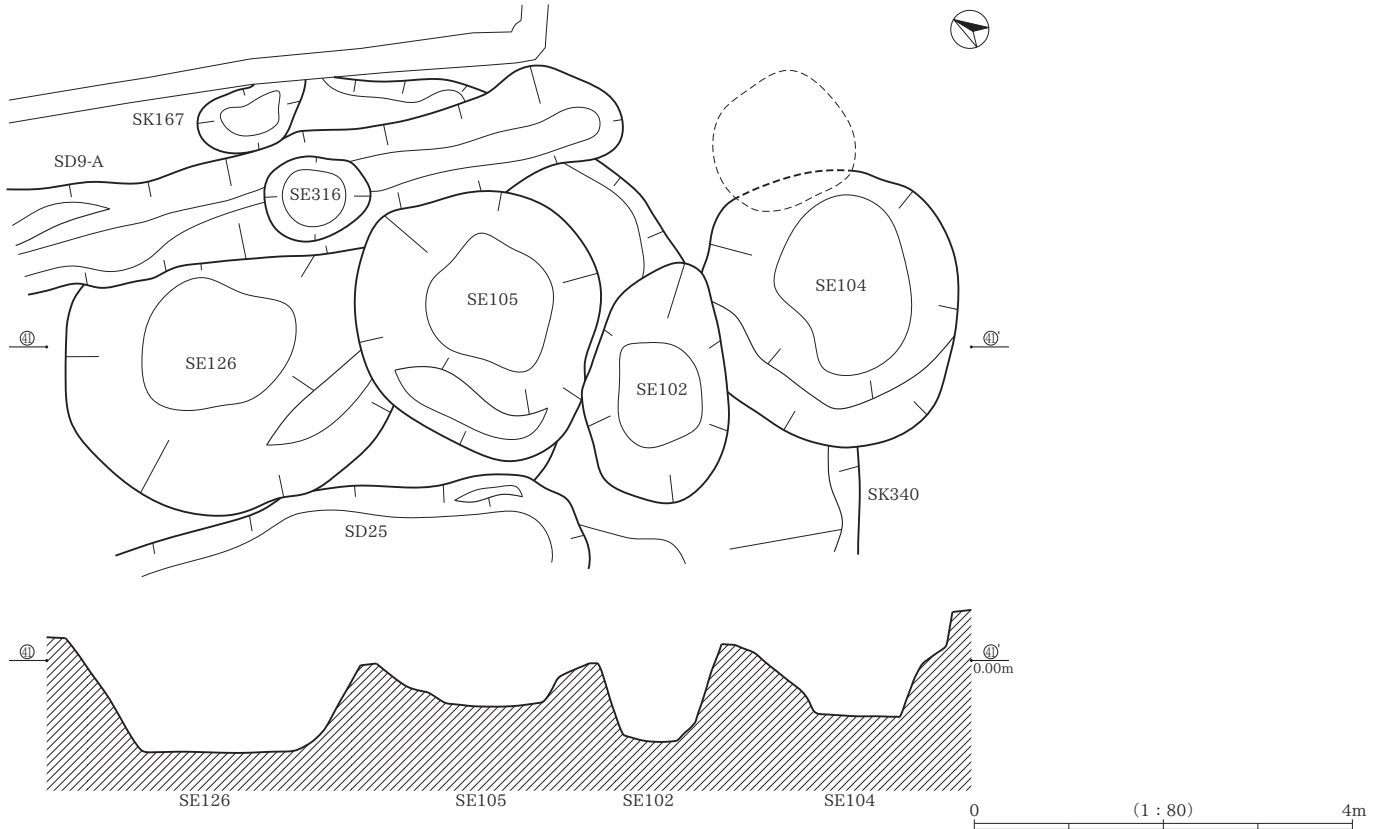
SE27
 1 褐色シルト (7.5YR4/1) しまりあり 粘性ややあり φ1~2mmの炭化物を多量に含む。
 2 黒褐色シルト (7.5YR3/1) しまりややあり 粘性強い 黄褐色シルトを粒子状に多量に含む。
 3 褐色砂質シルト (10YR4/1) しまりややあり 粘性強い 黄褐色シルトを粒子状に多量に含む。
 4 暗オリーブ灰色砂質シルト (2.5GY3/1) しまりややあり 粘性強い 灰色砂を層状に含む。

SE2
 1 灰黄色砂質シルト (2.5Y6/2) しまり強い 粘性なし
 2 にぶい黄褐色シルト (10YR5/4) しまり強い 粘性ややあり
 3 にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) しまり強い 粘性ややあり
 4 灰黄褐色シルト (10YR4/2) しまりあり 粘性ややあり
 5 暗褐色シルト (10YR3/3) しまり強い 粘性ややあり φ5~8mmの炭化物を少量含む。
 6 にぶい黄褐色砂質シルト (10YR4/3) しまり強い 粘性ややあり 黄灰色シルトをブロック状に少量含む。
 7 黄灰色砂質シルト (2.5Y5/1) しまりややあり 粘性ややあり 黄灰色シルトを斑状に少量含む。
 8 灰色砂質シルト (5Y5/1) しまりあり 粘性ややあり 黄灰色シルトをブロック状に少量含む。
 9 褐色シルト (10YR4/1) しまり強い 粘性あり
 10 黒褐色シルト (10YR3/1) しまりあり 粘性あり
 11 オリーブ黒色シルト (5Y3/1) しまりややあり 粘性ややあり
 12 黄灰色砂質シルト (2.5Y5/1) しまりややあり 粘性なし
 13 オリーブ黒色シルト (5Y3/1) しまりややあり 粘性あり

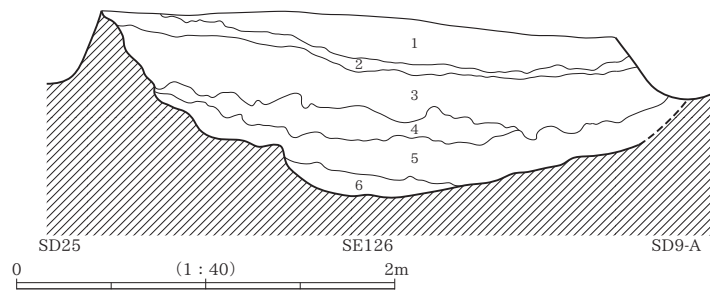
SE87
 1 黄灰色シルト (2.5Y4/1) しまりあり 粘性ややあり 灰黄色シルト(2.5Y6/2)・黄褐色シルト(2.5Y5/3)を斑状に多量に含む。

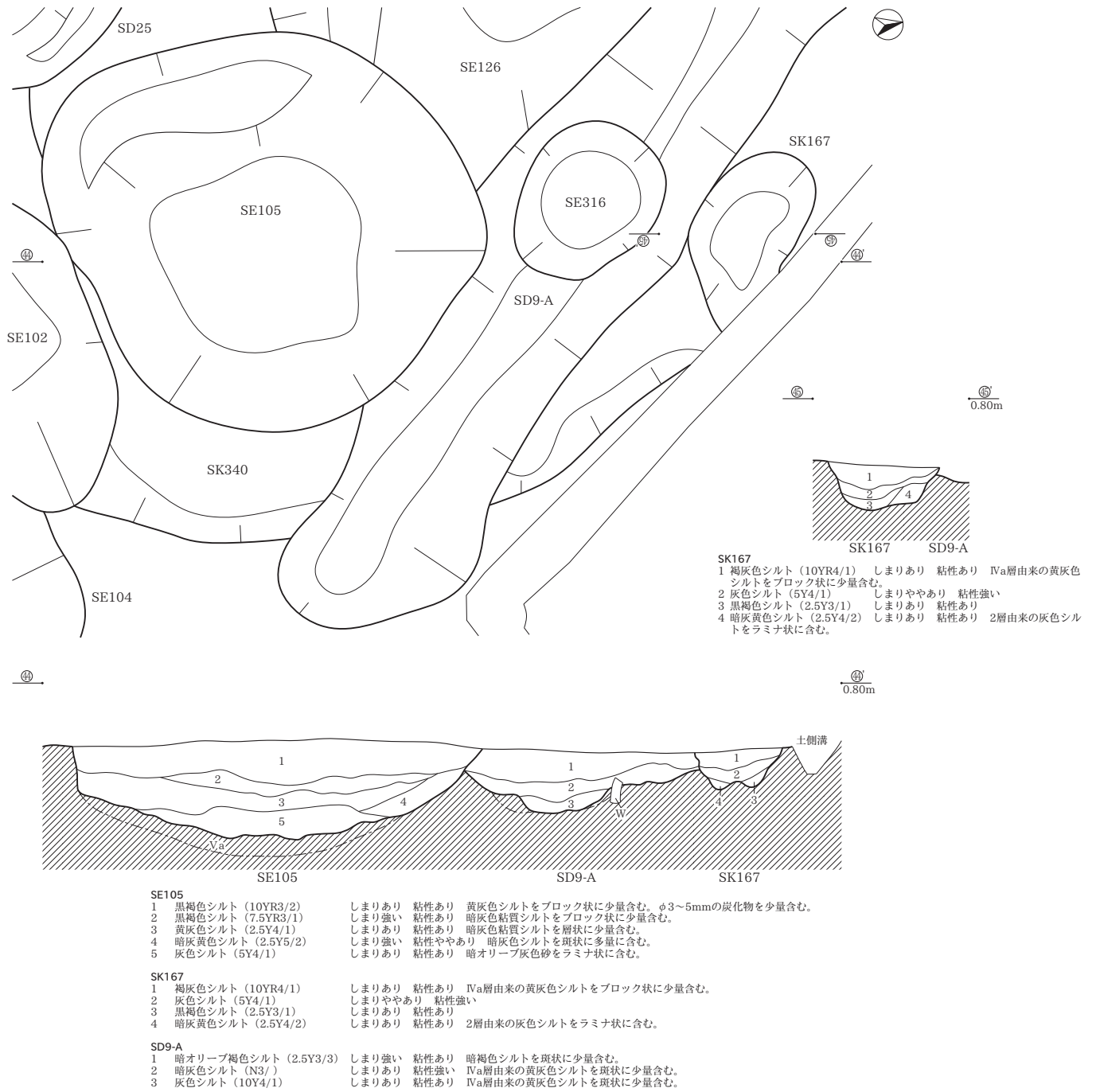
Pit293
 1 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) しまりややあり 粘性ややあり 灰黄色シルト(2.5Y6/2)・黄褐色シルト(2.5Y5/3)を斑状に中量含む。

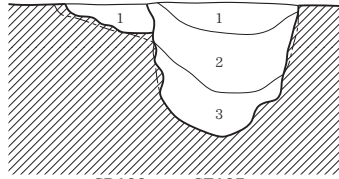
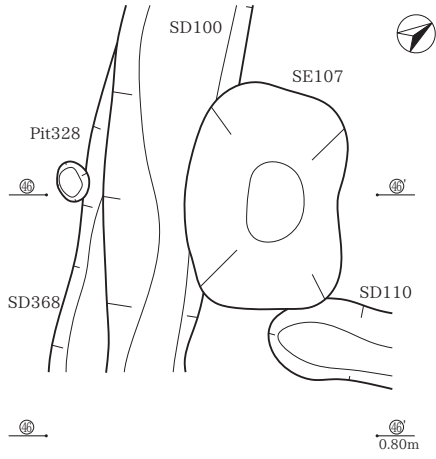




- SE104**
- | | | |
|----------------------|--------------|-------------------------|
| 1 褐灰色シルト (10YR4/1) | しまりあり 粘性ややあり | 灰黄色シルトをブロック状に少量含む。 |
| 2 黄灰色シルト (2.5Y4/1) | しまりややあり 粘性あり | 灰黄色シルトを斑状に少量含む。 |
| 3 灰色シルト (5Y4/1) | しまりややあり 粘性あり | 灰白色シルトを斑状に少量含む。 |
| 4 オリーブ黒色シルト (10Y3/1) | しまりややあり 粘性あり | 灰黄色シルトを斑状に少量含む。 |
| 5 暗灰色シルト (N3/) | しまりややあり 粘性あり | オリーブ灰色砂質シルトをブロック状に中量含む。 |
- SE126**
- | | | |
|-----------------------|----------------|------------------------|
| 1 暗灰色シルト (2.5Y5/2) | しまり強い 粘性ややあり | 黒褐色シルトを層状・ブロック状に多量に含む。 |
| 2 黒褐色シルト (10YR3/1) | しまり強い 粘性ややあり | 暗灰色シルトを斑状に少量含む。 |
| 3 黄灰色シルト (2.5Y4/1) | しまりあり 粘性あり | 暗灰色シルトをブロック状に多量に含む。 |
| 4 にぶい黄色シルト (2.5Y6/3) | しまりあり 粘性あり | オリーブ黒色シルトをブロック状に少量含む。 |
| 5 オリーブ黒色シルト (7.5Y3/1) | しまりややあり 粘性あり | 灰色砂質シルトを斑状に中量含む。 |
| 6 灰色砂質シルト (10Y4/1) | しまりややあり 粘性ややあり | |

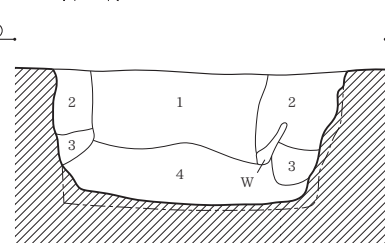
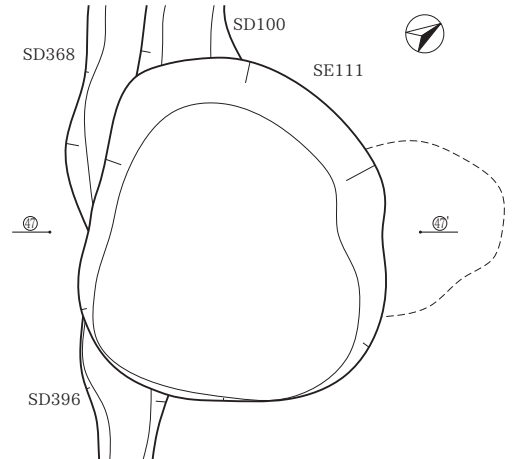




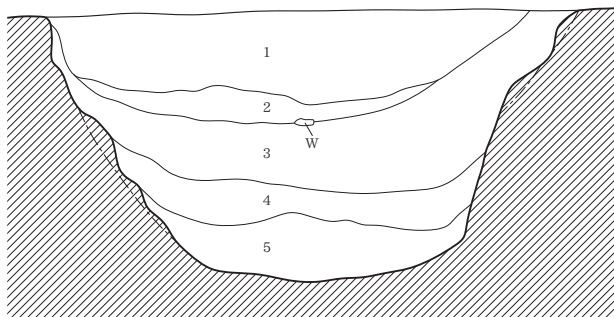
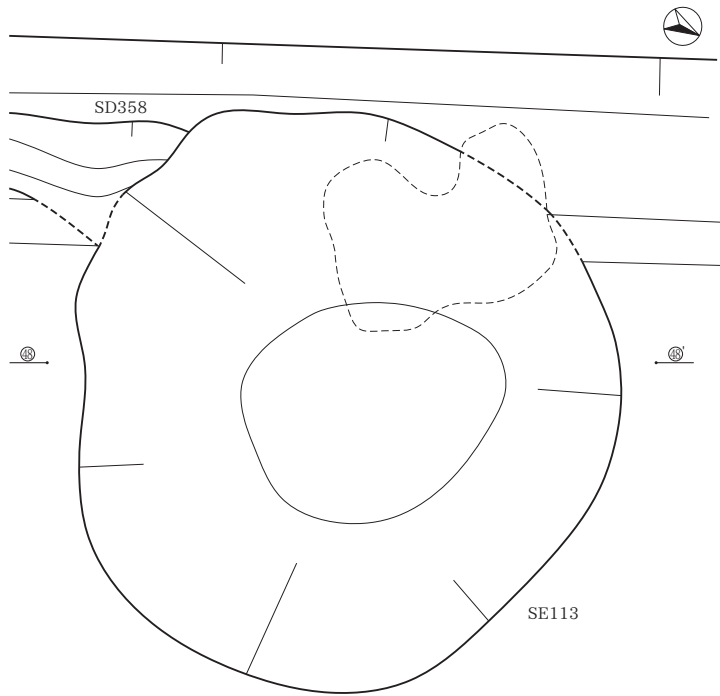


- SE107**
 1 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) しまりあり 粘性ややあり 灰黄色シルトを斑状に少量含む。φ1~5mmの炭化物を微量含む。
 2 暗灰黄色シルト (2.5Y4/2) しまりややあり 粘性あり 灰黄色シルトを斑状に多量に含む。φ2~10mmの炭化物を少量含む。
 3 黄灰色シルト (2.5Y4/1) しまりややあり 粘性あり 灰黄色シルトを斑状に少量含む。

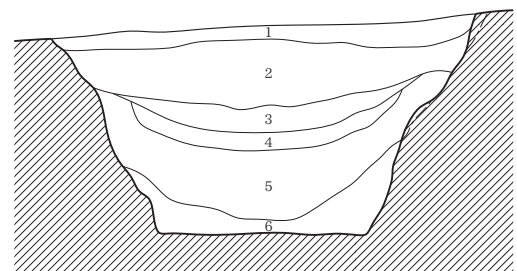
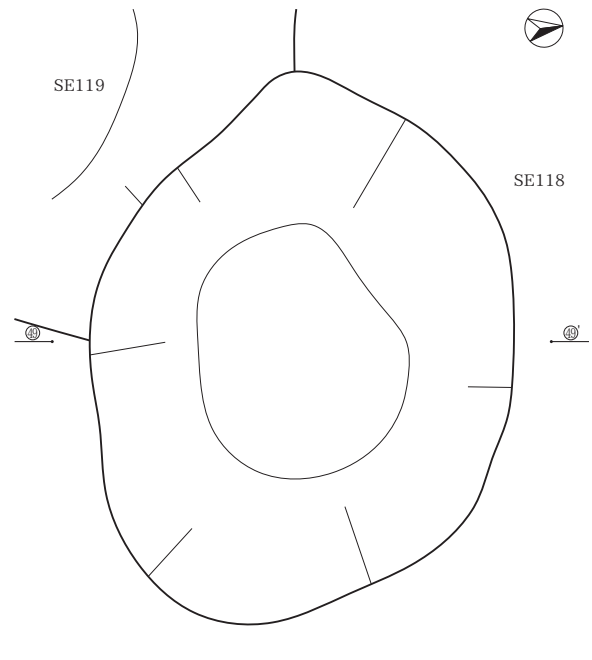
- SD100 (SE107との切り合い部分)**
 1 黄灰色シルト (2.5Y4/1) しまりあり 粘性ややあり 灰黄色シルトを粒子状に少量含む。



- SE111**
 1 黄灰色シルト (2.5Y5/1) しまりあり 粘性あり 灰黄褐色シルトを斑状に少量含む。
 2 灰黄褐色シルト (10YR5/2) しまりあり 粘性ややあり 灰黄褐色シルト (10YR6/2) を粒子状にやや多く含む。
 3 黄灰色シルト (2.5Y4/1) しまりあり 粘性強い 酸化鉄分を微量含む。
 4 黒褐色シルト (2.5Y3/1) しまりなし 粘性なし 腐食土層。

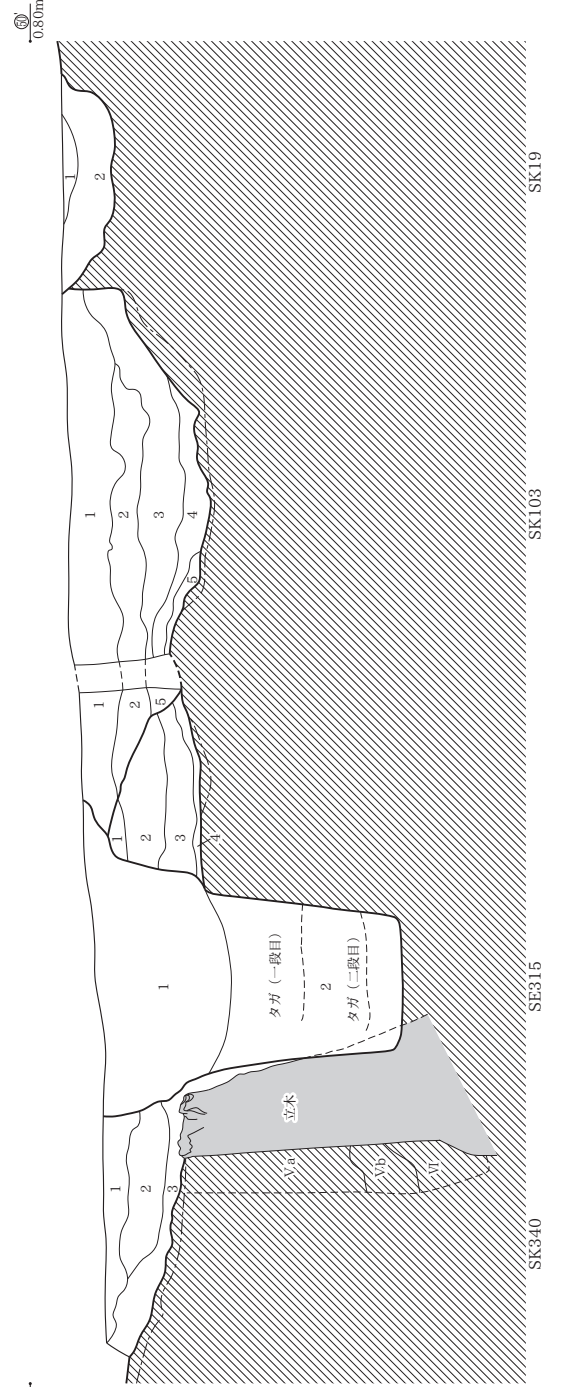
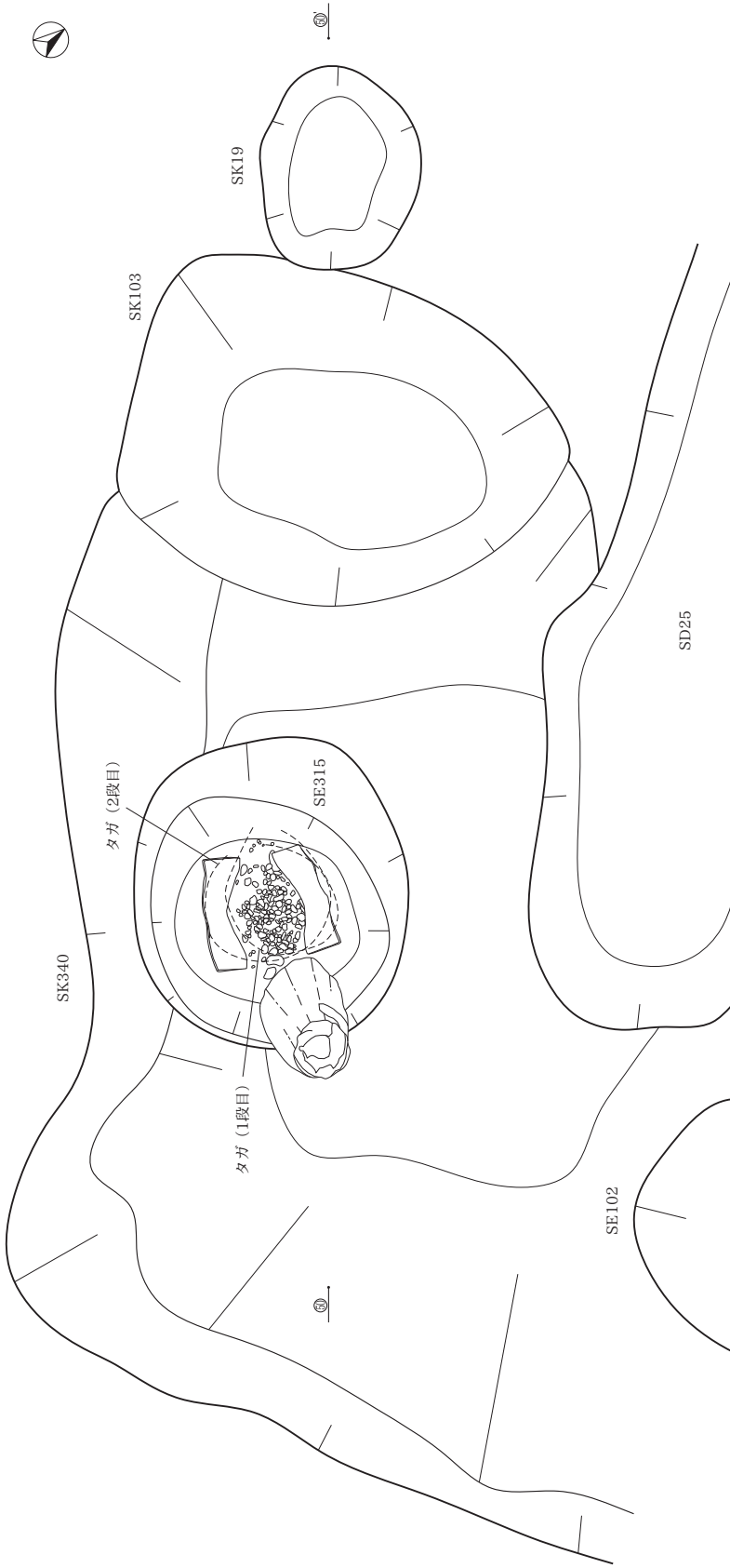


- SE113**
 1 褐灰色シルト (10YR4/1) しまりあり 粘性ややあり 黄灰色シルトをブロック状に中量含む。
 2 灰色シルト (10Y4/1) しまりややあり 粘性ややあり 緑灰色砂質シルトをブロック状に中量含む。
 3 オリーブ黒色シルト (10Y3/1) しまりあり 粘性あり 未分解有機物を少量含む。
 4 灰色砂質シルト (10Y4/1) しまりややあり 粘性あり 緑灰色砂質シルトを斑状に中量含む。
 5 オリーブ黒色シルト (10Y3/1) しまりあり 粘性あり 4層由来の灰色砂質シルトをブロック状に少量含む。



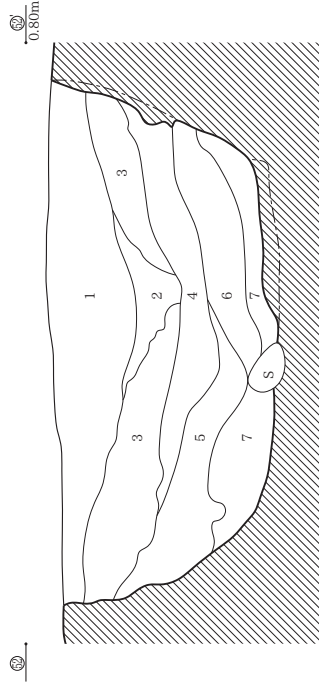
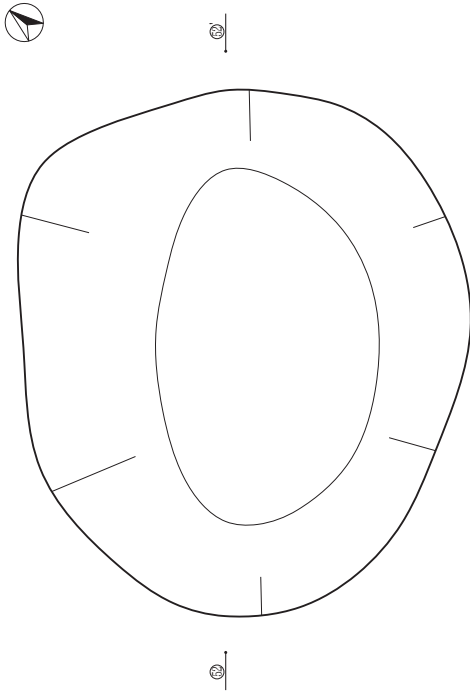
- SE118**
 1 褐灰色シルト (10YR4/1) しまりあり 粘性あり
 2 オリーブ黒色シルト (5Y3/1) しまりあり 粘性あり 黒褐色シルトを層状に少量含む。
 3 黒褐色シルト (10YR3/1) しまりややあり 粘性ややあり 黒色シルトを層状に少量含む。
 4 オリーブ黒色シルト (10Y3/1) しまりややあり 粘性あり
 5 褐灰色シルト (10YR4/1) しまりややあり 粘性強い 灰色シルトをブロック状に少量含む。φ5~10mmの炭化物を少量含む。
 6 オリーブ灰色シルト (5GY5/1) しまりややあり 粘性あり 黒色シルトを層状に少量含む。

0 (1:40) 2m



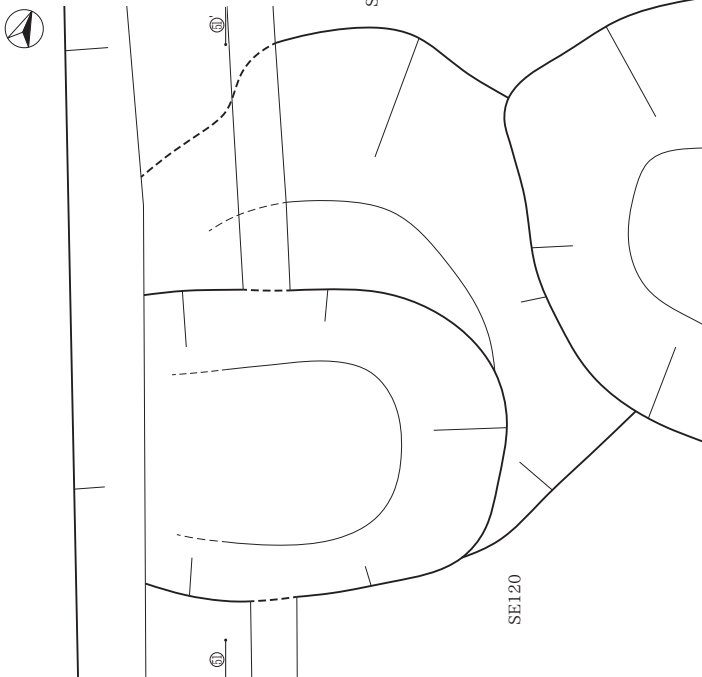
- SE315**
 1 灰黄褐色シルト (10YR5/2) しまりややあり 粘性ややあり 灰白色シルト(10YR7/1)をブロック状に中量含む。 暗緑灰
 2 オリーブ黒色砂質シルト (10Y3/1) しまりややあり 粘性ややあり 暗緑灰色砂質シルトをブロック状に少量含む。
- SK19**
 1 暗灰黄色シルト (2.5Y4/2) しまり強い 粘性ややあり 黄褐色シルトを少量含む。
 2 黒褐色シルト (10YR3/3) しまりあり 粘性あり 黄褐色シルト・褐色シルトを混状に少量含む。φ5~10mmの炭化物を少量含む。
- SK103 (SK19との切り合い部分)**
 1 暗褐色シルト (10YR3/3) 褐灰色シルトをブロック状に多量に含む。
 2 褐灰色シルト (10YR4/1) しまり強い 粘性あり 黄褐色シルトを混状に少量含む。
 3 黒色シルト (10YR2/1) しまりややあり 粘性ややあり
 4 黄褐色シルト (2.5Y4/1) しまりあり 粘性あり
 5 黒色炭化物層 (2.5Y2/1) しまりややあり 粘性ややあり
- SK340**
 1 暗灰黄色シルト (2.5Y4/2) しまり強い 粘性あり 褐灰色シルトを少量含む。
 2 褐灰色シルト (10YR4/1) しまり強い 粘性あり
 3 黄褐色シルト (2.5Y4/1) しまりあり 粘性あり
 4 黒色炭化物層 (2.5Y2/1) しまりややあり 粘性ややあり
- 0 2m (1:40)

SE135

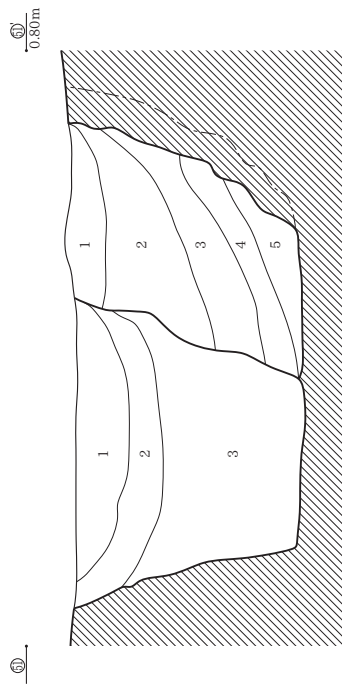


- SE135
- SE135 1 黄褐色シルト (2.5Y4/2) しまりあり 粘性あり 黄灰色シルトをブロック状に少量含む、φ1~2mmの炭化物を少量に含む。
 - 2 黄褐色シルト (7.5YR4/1) しまりややあり 粘性あり 黄灰色シルトをブロック状に少量含む。
 - 3 黄褐色シルト (10YR4/2) しまりあり 粘性あり 黄灰色砂質シルトをブロック状に少量含む。
 - 4 黄褐色シルト (2.5Y3/2) しまりあり 粘性強い 灰褐色シルトをブロック状に少量含む。
 - 5 黒褐色シルト (2.5Y3/1) しまりややあり 粘性強い 腐食植物ミナホ状を含む。
 - 6 黄褐色シルト (10YR4/1) しまりあり 粘性強い 灰褐色シルトをブロック状に少量含む。
 - 7 暗緑灰色シルト (7.5GY3/1) しまりあり 粘性強い 黄灰色砂質シルト (2.5Y5/1) を多量に含む。

SE119

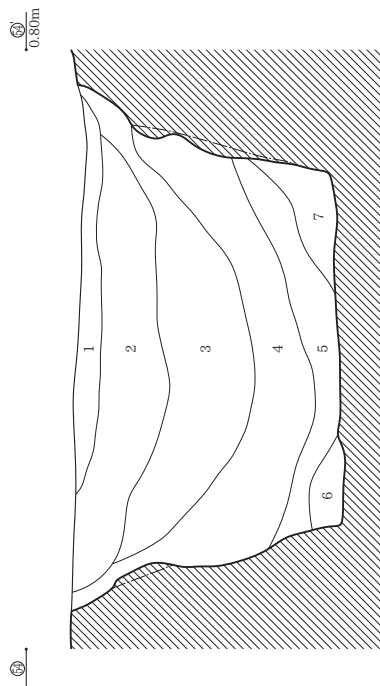
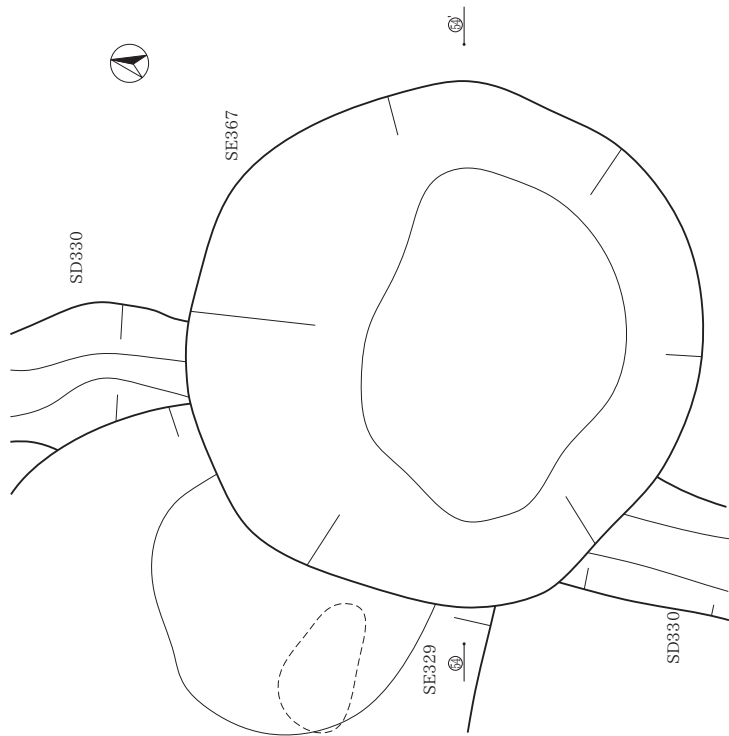


SE118

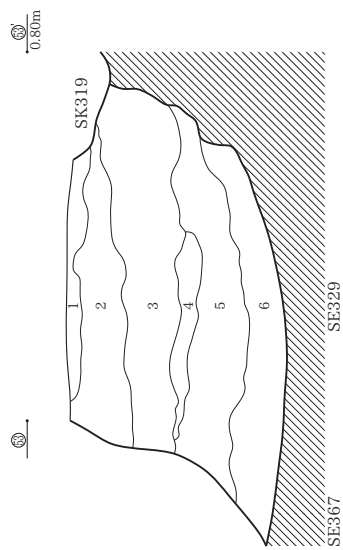
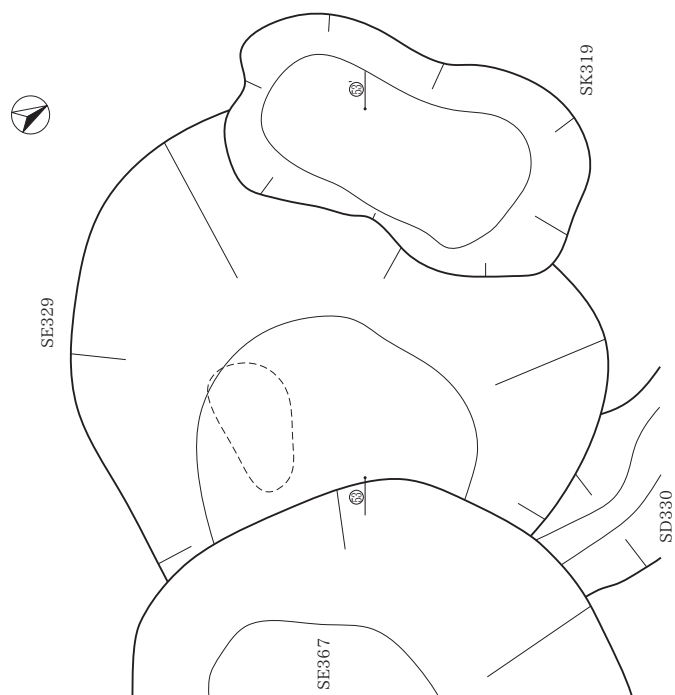


- SE119
- SE119 1 にぶい、黒褐色シルト (7.5Y R5/3) しまりあり 粘性ややあり 酸化鉄分を多量に含む。
 - 2 黄褐色シルト (2.5Y5/1) しまりややあり 粘性あり 灰褐色シルト (2.5Y6/2) を斑状にやや多く含む。
 - 3 黄褐色シルト (2.5Y4/1) しまりややあり 粘性ややあり 灰褐色シルト (2.5Y6/2) を斑状に中量含む。
 - 4 黄褐色砂質シルト (2.5Y6/1) しまりなし 粘性ややあり 黒褐色シルト (2.5Y3/1) を斑状に中量含む。
 - 5 黄褐色シルト (2.5Y6/1) しまりややあり 粘性ややあり
- SE120
- SE120 1 しまりあり 粘性あり φ5~20mmの炭化物を少量含む、酸化鉄分少量含む。
 - 2 しまりなし 粘性なし 腐食土層、米分層不片含む。
 - 3 しまりあり 粘性あり

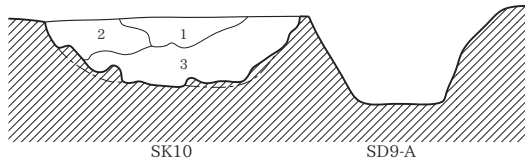
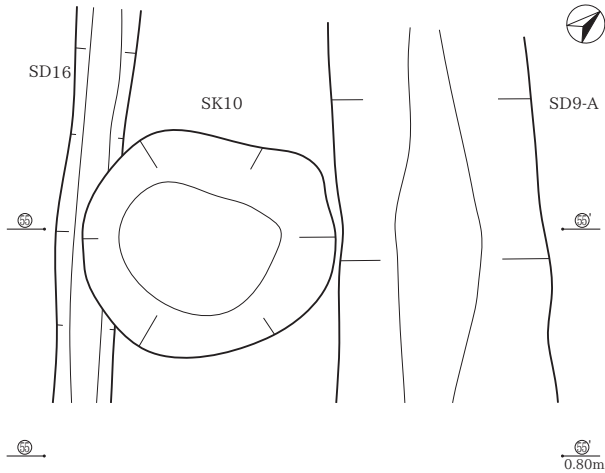




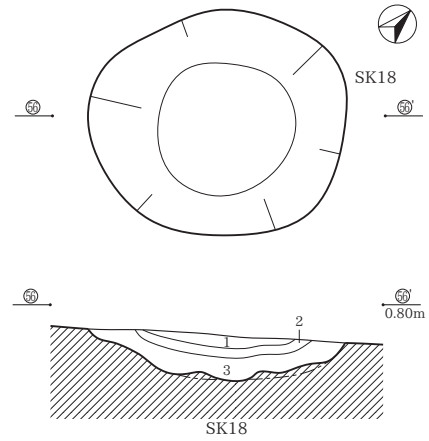
SE329
 1 灰黄褐色シルト (10YR5/2) しまりあり 粘性なし、 ϕ 2~10mmの炭化物を少量含む。酸化鉄分を中量含む。
 2 灰黄褐色シルト (10YR4/2) しまりあり 粘性ややあり にぶい炭褐色シルトを斑状に少量含む。炭化物を斑状にやや多く含む。
 3 黒褐色粘質シルト (2.5Y3/1) しまりなし 粘性ややあり 腐食土層。炭化物を斑状に少量含む。
 4 黒灰色シルト (2.5Y4/1) しまりあり 粘性ややあり
 5 黒褐色シルト (5Y3/1) しまりなし 粘性ややあり やや酸化
 6 黒褐色シルト (5Y3/1) しまりなし 粘性ややあり
 7 ガリープ褐色シルト (2.5Y4/3) しまりなし 酸化鉄分を少量含む。



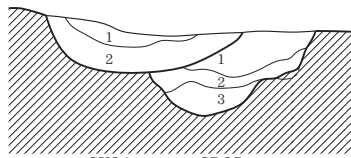
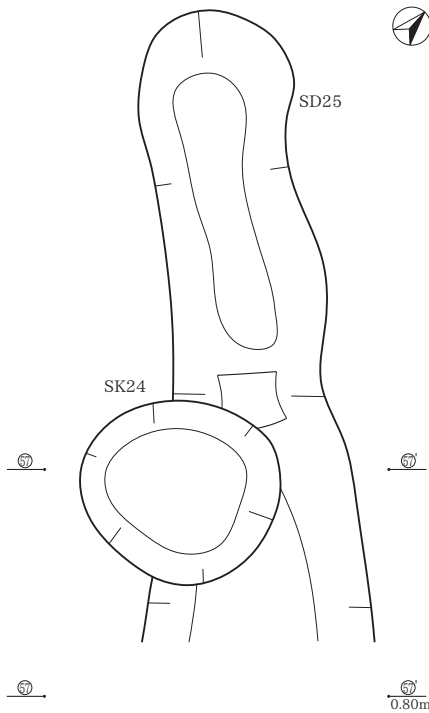
SE367
 1 黄褐色シルト (2.5Y4/1) しまりあり 粘性あり ϕ 2~4mmの炭化物を少量含む。
 2 灰黄色粘質シルト (2.5Y4/1) しまりあり 粘性強い、1層由来の灰黄色シルトをブロック状に含む。
 3 黄褐色シルト (10YR3/3) しまりあり 粘性強い、1層由来の灰黄色シルトをブロック状に少量含む。黄褐色シルトを斑状に含む。
 4 黒褐色粘質シルト (10YR4/1) しまりあり 粘性強い、粘性強い、灰黄色シルトをブロック状に少量含む。
 5 黒褐色シルト (10YR3/1) しまりあり 粘性強い、粘性強い、灰黄色シルトを斑状に少量含む。
 6 緑灰色砂 (7.5GY5/1) しまりなし 粘性なし、黄褐色シルトを斑状に含む。



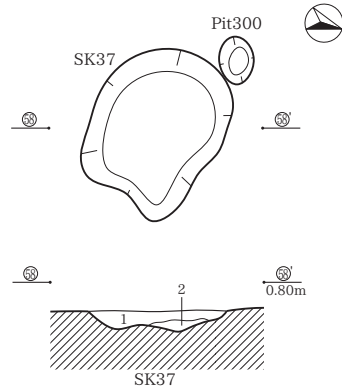
- SK10**
 1 灰黄色シルト (2.5Y6/2) しまり強い 粘性ややあり 2層由来の灰黄色シルトをブロック状に少量含む。φ2~3mmの炭化物を少量含む。
 2 黄灰色シルト (2.5Y4/1) しまりあり 粘性ややあり 1層由来の灰黄色シルトをブロック状に少量含む。φ2~3mmの炭化物を少量含む。
 3 灰黄褐色シルト (10YR4/2) しまりややあり 粘性あり 1層由来の灰黄色シルトをブロック状に少量含む。



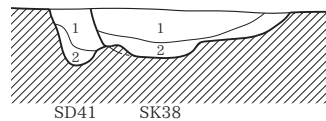
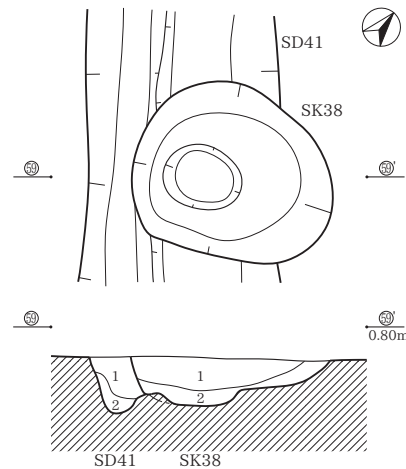
- SK18**
 1 褐灰色シルト (10YR5/1) しまりあり 粘性ややあり 黄灰色シルト(2.5Y6/1)をブロック状に少量含む。
 2 黄灰色シルト (2.5Y6/1) しまりあり 粘性ややあり 褐灰色シルト(10YR5/1)をブロック状にやや多く含む。
 3 褐灰色シルト (10YR4/1) しまりややあり 粘性ややあり 褐灰色シルトをブロック状に少量含む。φ1mmの炭化物を微量含む。



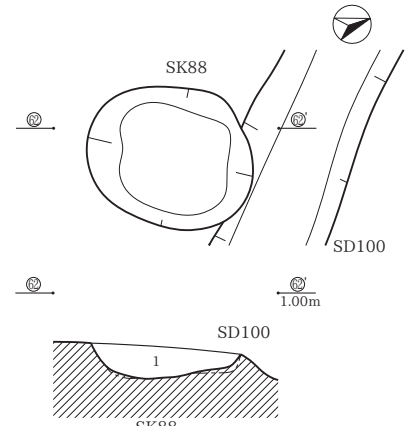
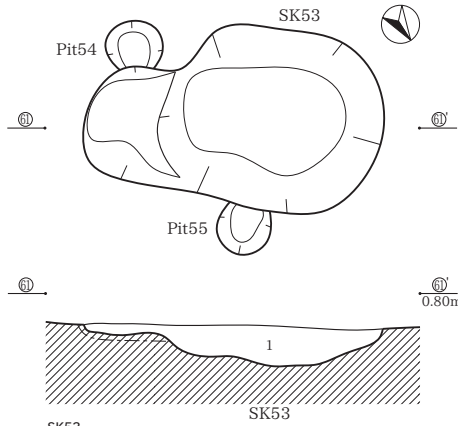
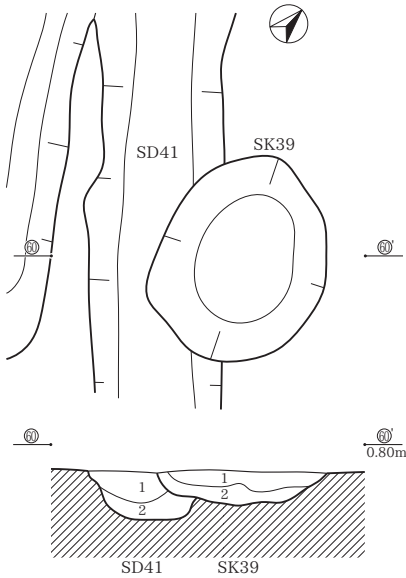
- SK24**
 1 黒褐色シルト (10YR3/1) しまり強い 粘性あり φ5~10mmの炭化物を少量含む。
 2 褐灰色シルト (10YR4/1) しまりあり 粘性あり 黒褐色シルトを層状に中量含む。
- SD25 (SK24との切り合い部分)**
 1 黒褐色シルト (2.5Y3/1) しまり強い 粘性あり
 2 暗褐色シルト (10YR3/3) しまりあり 粘性あり 灰黄色シルトをブロック状に中量含む。
 3 褐灰色シルト (10YR4/1) しまりややあり 粘性あり 緑灰色シルトを斑状に少量含む。



- SK37**
 1 灰黄褐色シルト (10YR5/2) しまりややあり 粘性ややあり にぶい黄褐色シルト(2.5Y6/3)を粒子状にやや多く含む。φ1~5mmの炭化物を微量含む。
 2 灰黄色シルト (2.5Y6/2) しまりややあり 粘性ややあり 灰黄褐色シルト(10YR5/2)を粒子状に少量含む。



- SK38**
 1 灰黄色シルト (2.5Y4/1) しまりあり 粘性ややあり にぶい黄色シルト(2.5Y6/3)をブロック状に微量含む。φ2mmの炭化物を微量含む。
 2 黄灰色シルト (2.5Y5/1) しまりややあり 粘性ややあり にぶい黄色シルト(2.5Y6/3)を粒子状にやや多く含む。
- SD41 (SK38との切り合い部分)**
 1 灰黄褐色シルト (10YR4/2) しまりややあり 粘性ややあり にぶい黄色シルト(2.5Y6/3)をブロック状に少量含む。φ1~2mmの炭化物を微量含む。
 2 灰黄褐色シルト (10YR4/2) しまりややあり 粘性ややあり にぶい黄色シルト(2.5Y6/3)を粒子状に少量含む。

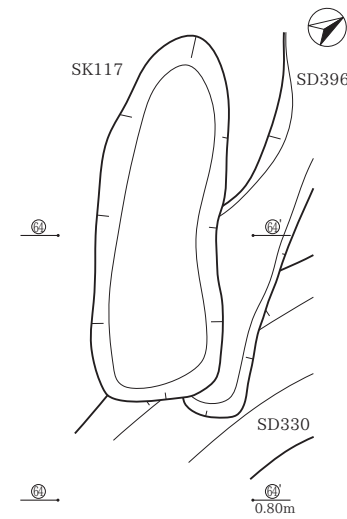
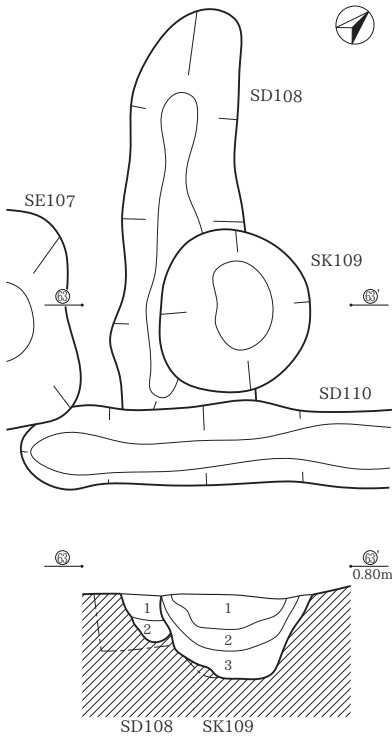


SK39

1 黄灰色シルト (2.5Y5/1) しまりあり 粘性ややあり にぶい黄色シルト(2.5Y6/3)を粒子状にやや多く含む。
 2 黄灰色シルト (2.5Y4/1) しまりややあり 粘性ややあり にぶい黄色シルト(2.5Y6/3)を粒子状に少量含む。

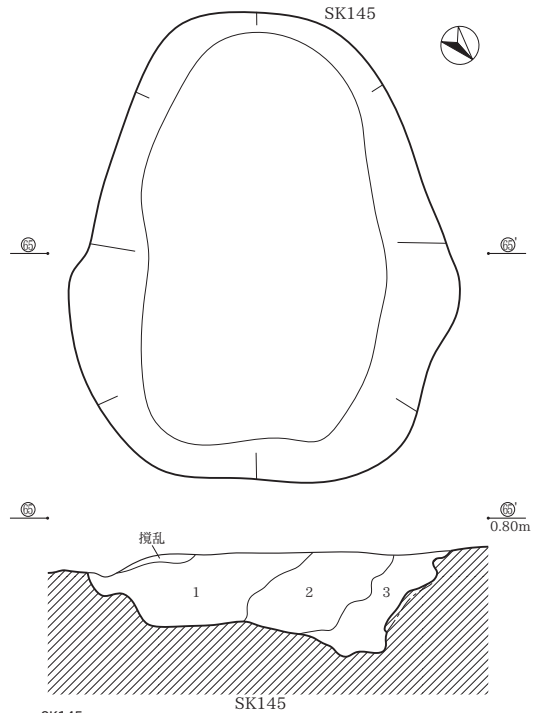
SD41 (SK39との切り合い部分)

1 灰黄褐色シルト (10YR4/2) しまりややあり 粘性ややあり にぶい黄色シルト(2.5Y6/3)をブロック状に少量含む。φ1~2mmの炭化物を微量含む。
 2 灰黄褐色シルト (10YR4/2) しまりややあり 粘性ややあり にぶい黄色シルト(2.5Y6/3)を粒子状に少量含む。



SK117

1 黒褐色シルト (2.5Y3/2) しまり強い 粘性ややあり 黄灰色シルトを斑状に少量含む。



SK145

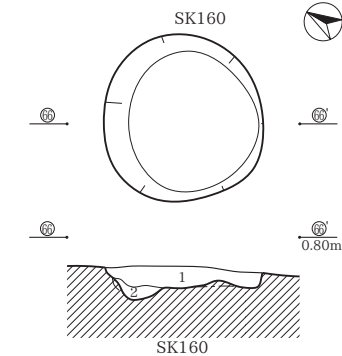
1 褐灰色砂質シルト (10YR5/1) しまりあり 粘性なし 灰黄色シルト (2.5Y6/2) を斑状・ブロック状に中量含む。
 2 黄褐色砂質シルト (2.5Y5/3) しまり強い 粘性ややあり 1層由来の褐灰色砂質シルト(10YR5/1)をブロック状に中量含む。
 3 灰黄褐色砂質シルト (10YR4/2) しまりあり 粘性あり 灰黄色シルト(2.5Y6/2)をブロック状に中量含む。

SK109

1 暗黄灰色シルト (2.5Y5/2) しまりあり 粘性ややあり 灰黄色シルトをブロック状に少量含む。φ2~10mmの炭化物を微量含む。
 2 黄褐色シルト (2.5Y5/3) しまりあり 粘性あり 灰黄色シルトを斑状にやや多く含む。
 3 黄灰色シルト (2.5Y4/1) しまりややあり 粘性あり 灰黄色シルトを斑状に中量含む。

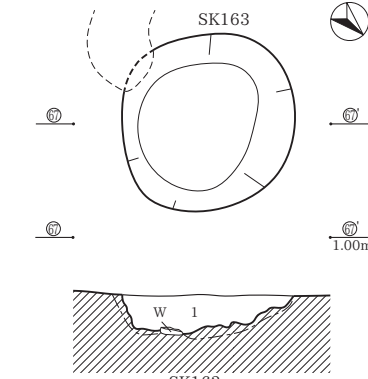
SD108 (SK109との切り合い部分)

1 灰オリーブ色シルト (5Y5/2) しまりあり 粘性あり 灰黄色シルトを斑状に少量含む。φ2~10mmの炭化物を微量含む。
 2 暗黄灰色シルト (2.5Y5/2) しまりあり 粘性あり 灰黄色シルトを斑状にやや多く含む。



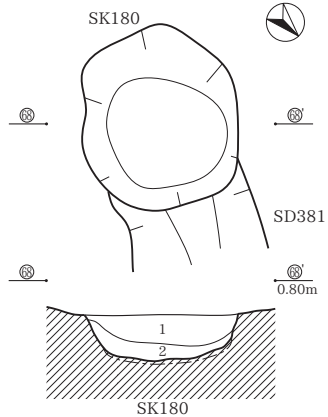
SK160

1 灰褐色シルト (7.5YR4/2) しまり強い 粘性ややあり 黄灰色シルトをブロック状に少量含む。φ1~2mmの炭化物を多量に含む。
 2 暗褐色シルト (7.5YR3/3) しまりややあり 粘性あり 黄灰色シルトをブロック状に少量含む。



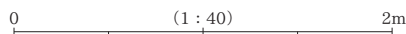
SK163

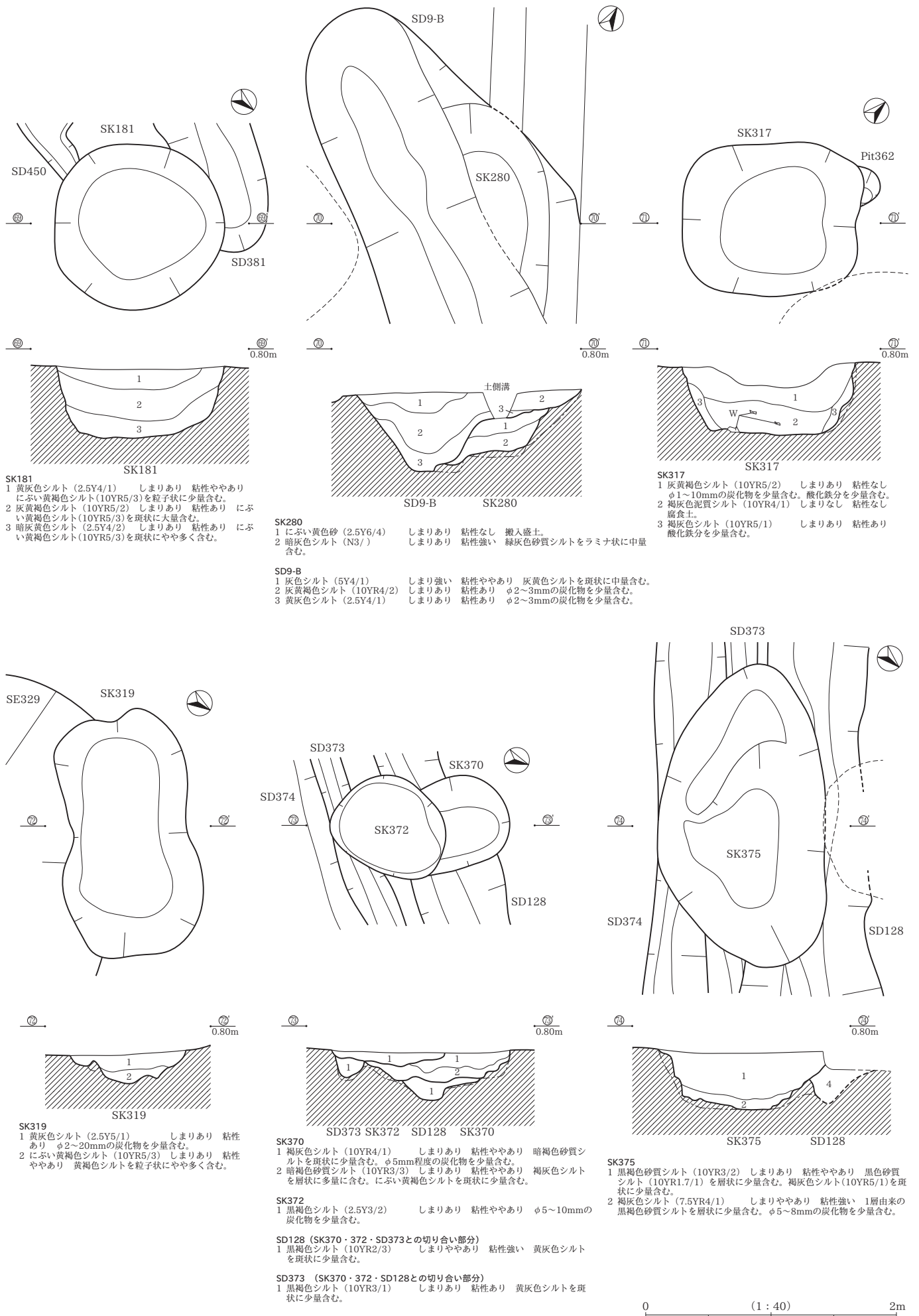
1 黒褐色砂質シルト (10YR3/2) しまりあり 粘性なし 黄灰色シルトをブロック状に少量含む。φ5~10mmの炭化物を少量含む。

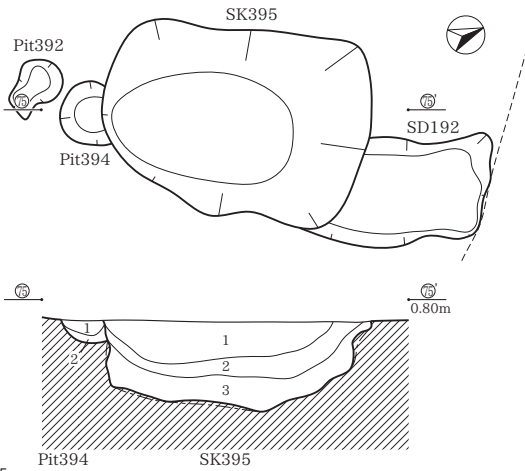


SK180

1 灰黄褐色シルト (10YR5/2) しまりややあり 粘性ややあり 黄褐色シルトを斑状にやや多く含む。φ2~10mmの炭化物を少量含む。
 2 黄灰色シルト (2.5Y5/1) しまりあり 粘性あり 黄褐色シルトを斑状に少量含む。

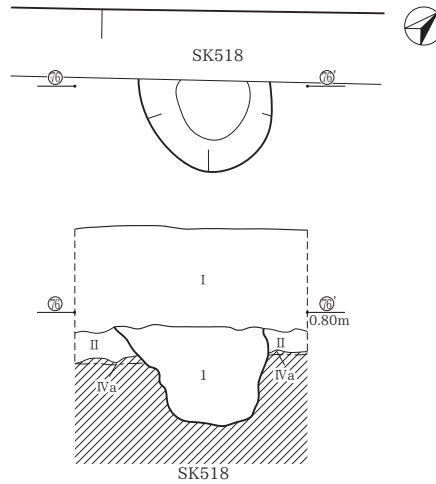




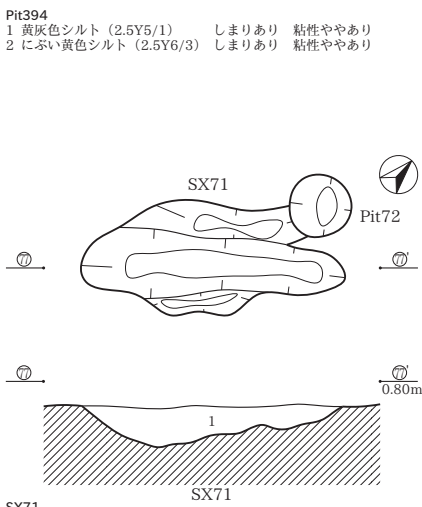


SK395
 1 黄灰色シルト (2.5Y5/1) しまりあり 粘性ややあり 黄灰色シルトを斑状に少量含む。φ2~10mmの炭化物を少量含む。
 2 にぶい黄色シルト (2.5Y6/3) しまりあり 粘性ややあり 黄灰色シルトを斑状に多量に含む。
 3 黄灰色シルト (2.5Y4/1) しまりややあり 粘性ややあり 黄灰色シルトを斑状に少量含む。φ2~20mmの炭化物を多量に含む。

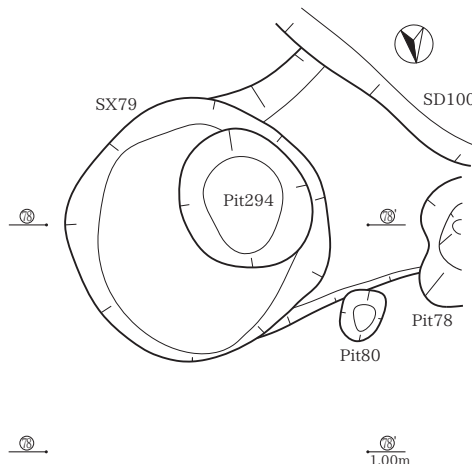
Pit394
 1 黄灰色シルト (2.5Y5/1) しまりあり 粘性ややあり
 2 にぶい黄色シルト (2.5Y6/3) しまりあり 粘性ややあり



SK518
 1 灰色砂質シルト (5Y4/1) しまりあり 粘性ややあり

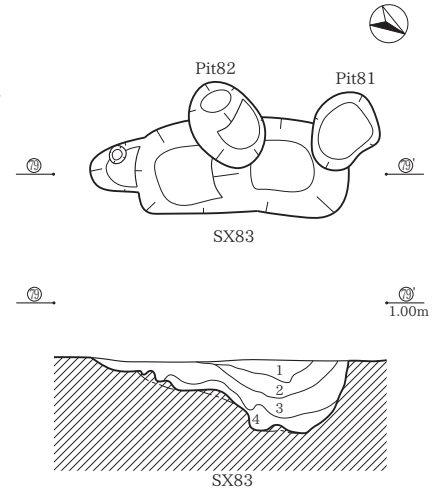


SX71
 1 暗褐色シルト (10YR3/3) しまりあり 粘性ややあり 黄灰色砂質シルトをブロック状に中量含む。φ3~5mmの炭化物を含む。

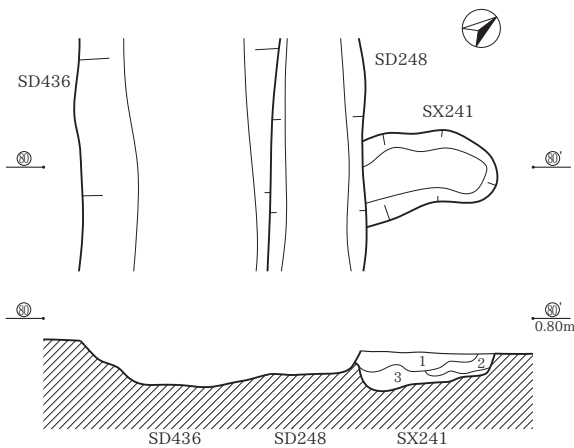


SX79
 1 黄灰色シルト (2.5Y4/1) しまりややあり 粘性あり φ2~20mmの炭化物を少量含む。
 2 黒褐色シルト (2.5Y3/1) しまりあり 粘性あり φ1~5mmの炭化物をやや多く含む。

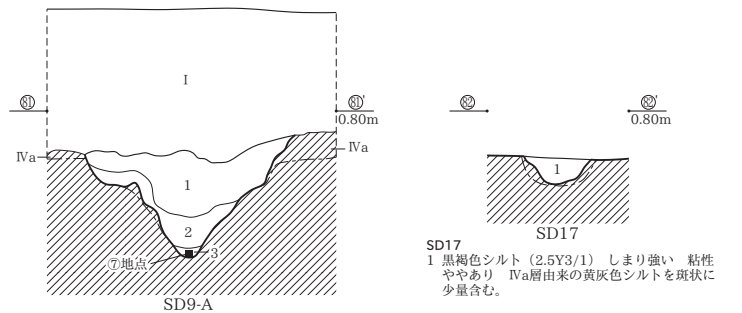
Pit294
 1 黄灰色シルト (2.5Y4/1) しまりなし 粘性ややあり 灰黄色シルト (2.5Y6/2) を斑状に少量含む。下部柱根残存。
 2 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) しまりややあり 粘性ややあり 灰黄色シルト (2.5Y6/2)・黄褐色シルト (2.5Y5/3) を斑状にやや多く含む。
 3 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) しまりややあり 粘性ややあり にぶい黄色シルト (2.5Y6/3) をブロック状に多量に含む。



SX83
 1 黒褐色シルト (10YR3/1) しまり強い 粘性ややあり 黄灰色シルト・暗褐色シルトを斑状に少量含む。
 2 黒色シルト (7.5YR2/1) しまり強い 粘性ややあり にぶい黄褐色シルトをブロック状に少量含む。
 3 黒褐色シルト (10YR2/3) しまり強い 粘性ややあり 灰黄褐色シルトを斑状に少量含む。
 4 明黄褐色シルト (10YR7/6) しまりあり 粘性あり 黒褐色シルトをブロック状に少量含む。



SX241
 1 黄灰色シルト (2.5Y5/1) しまりややあり 粘性ややあり 黄褐色シルト (2.5Y5/3) を斑状に少量含む。
 2 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) しまりあり 粘性ややあり 黄褐色シルト (2.5Y5/3) を斑状にやや多く含む。
 3 にぶい黄色シルト (2.5Y6/3) しまりあり 粘性あり 黄褐色シルト (2.5Y5/3) を斑状に多量に含む。

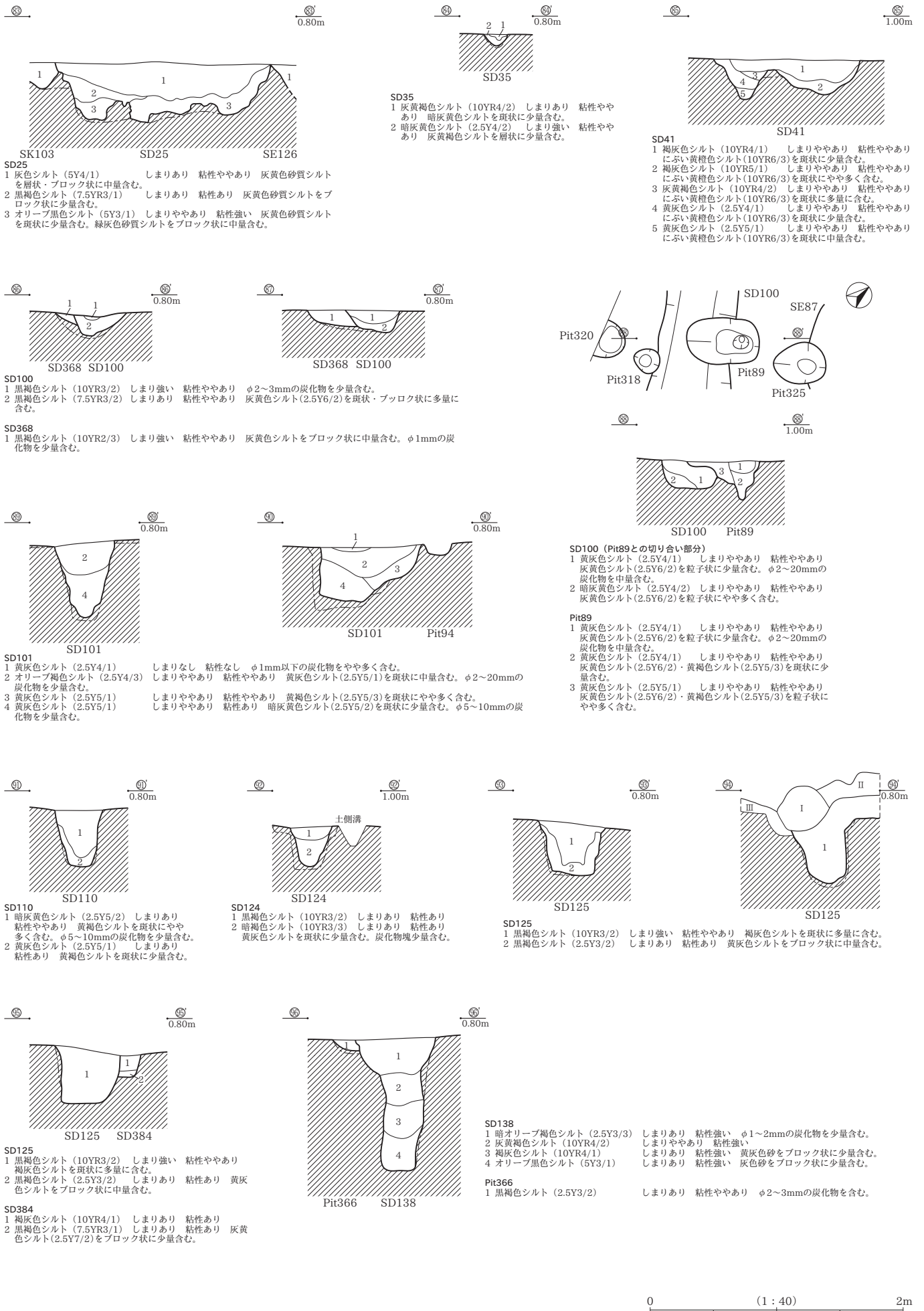


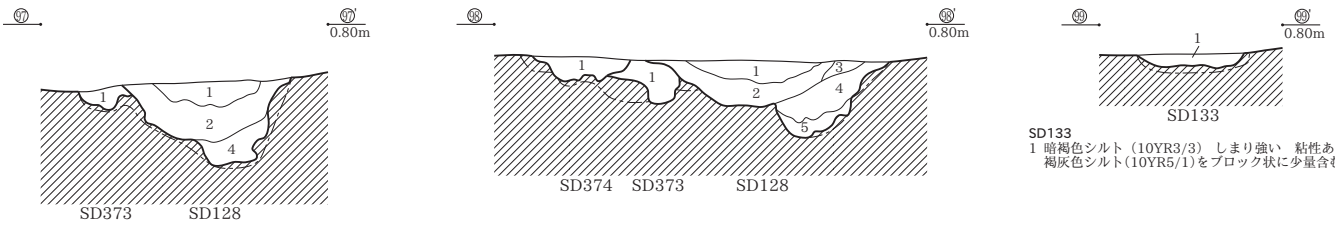
SD9-A
 1 暗オリーブ褐色シルト (2.5Y3/3) しまり強い 粘性あり 暗褐色シルトを斑状に少量含む。
 2 暗灰色シルト (N3/) しまりあり 粘性強い
 IVa層由来の黄灰色シルトを斑状に少量含む。
 3 灰色シルト (10Y4/1) しまりあり 粘性あり
 IVa層由来の黄灰色シルトを斑状に少量含む。

SD17
 1 黒褐色シルト (2.5Y3/1) しまり強い 粘性ややあり IVa層由来の黄灰色シルトを斑状に少量含む。

■ 自然科学分析土壌サンプル採取地点

図版 27



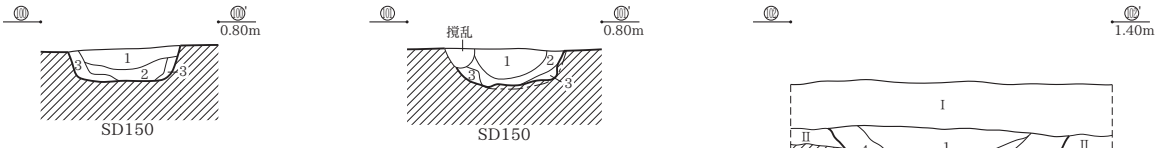


SD133
1 暗褐色シルト (10YR3/3) しまり強い 粘性あり
褐色シルト(10YR5/1)をブロック状に少量含む。

SD128
1 灰色シルト (5Y4/1) しまりあり 粘性あり 灰色砂質シルト(5Y4/1)をブロック状に少量含む。
2 褐色シルト (10YR4/1) しまりあり 粘性強い 灰黄色シルト(2.5Y7/2)をブロック状に少量含む。
3 黒褐色シルト (10YR3/2) しまりあり 粘性ややあり 灰色シルトを斑状に少量含む。
4 黒褐色シルト (10YR3/1) しまりあり 粘性あり 明赤褐色シルト(5YR5/6)をラミナ状に少量含む。
5 暗灰黄色シルト (2.5Y4/2) しまりあり 粘性ややあり 4層由来の黒褐色シルトを斑状に少量含む。

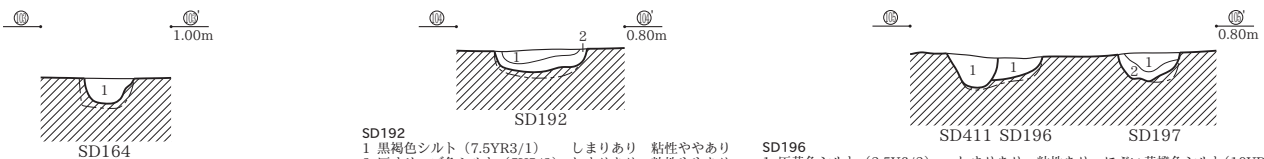
SD373 (SD128・374との切り合い部分)
1 黄灰色シルト (2.5Y4/1) しまりあり 粘性あり

SD374 (SD128・373との切り合い部分)
1 黒褐色シルト (2.5Y3/2) しまりあり 粘性あり 灰黄色シルト(2.5Y7/2)を斑状に少量含む。



SD150
1 褐色シルト (10YR4/1) しまりややあり 粘性ややあり にぶい黄褐色シルト(10YR5/3)を粒子状に少量含む。
2 褐色シルト (10YR5/1) しまりややあり 粘性ややあり にぶい黄褐色シルト(10YR5/3)を斑状に中量含む。
3 灰黄褐色シルト (10YR5/2) しまりあり 粘性ややあり にぶい黄褐色シルト(10YR5/3)を斑状に多量に含む。

SD150
1 暗灰黄色シルト (2.5Y4/2) しまりややあり 粘性あり 黄褐色シルトを粒子状に少量含む。
2 褐色シルト (10YR4/1) しまりややあり 粘性ややあり にぶい黄褐色シルト(10YR5/3)を粒子状に少量含む。
3 褐色シルト (10YR5/1) しまりややあり 粘性ややあり にぶい黄褐色シルト(10YR5/3)を斑状に中量含む。
4 灰黄褐色シルト (10YR5/2) しまりあり 粘性ややあり にぶい黄褐色シルト(10YR5/3)を斑状に多量に含む。



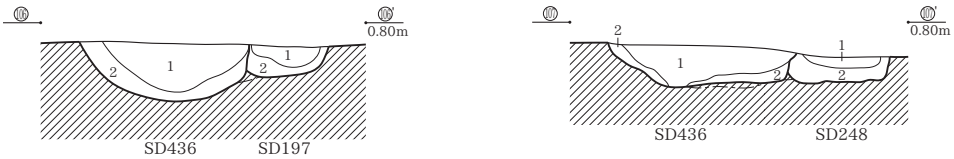
SD164
1 暗褐色砂質シルト (10YR3/3) しまり強い 粘性なし 褐色シルトを斑状に少量含む。

SD192
1 黒褐色シルト (7.5YR3/1) しまりあり 粘性ややあり
2 灰オリープ色シルト (5Y5/2) しまりあり 粘性ややあり
1層由来の黒褐色シルトをブロック状に少量含む。

SD196
1 灰黄色シルト (2.5Y6/2) しまりあり 粘性あり にぶい黄褐色シルト(10YR7/2)を斑状に多量に含む。

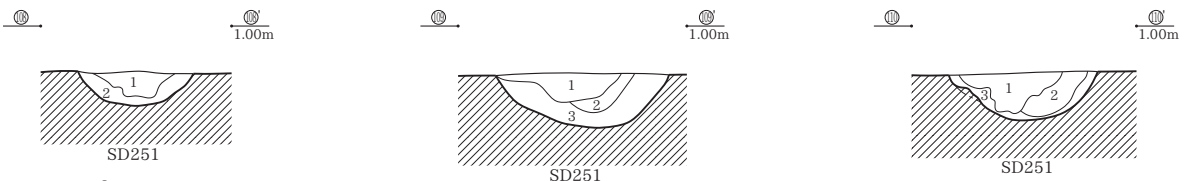
SD197
1 灰黄色シルト (2.5Y4/1) しまりややあり 粘性ややあり にぶい黄褐色シルト(10YR7/2)を粒子状に中量含む。
2 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) しまりあり 粘性ややあり にぶい黄褐色シルト(10YR7/2)を斑状にやや多く含む。

SD411 (SD196との切り合い部分)
1 灰黄色シルト (2.5Y5/1) しまりあり 粘性ややあり にぶい黄褐色シルト(10YR7/2)を粒子状に少量含む。



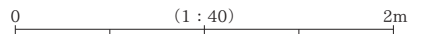
SD248
1 黄灰色シルト (2.5Y4/1) しまりあり 粘性ややあり にぶい黄色シルト(2.5Y6/3)を粒子状に少量含む。
2 黄褐色シルト (2.5Y5/3) しまりあり 粘性ややあり にぶい黄色シルト(2.5Y6/3)を斑状に多量に含む。

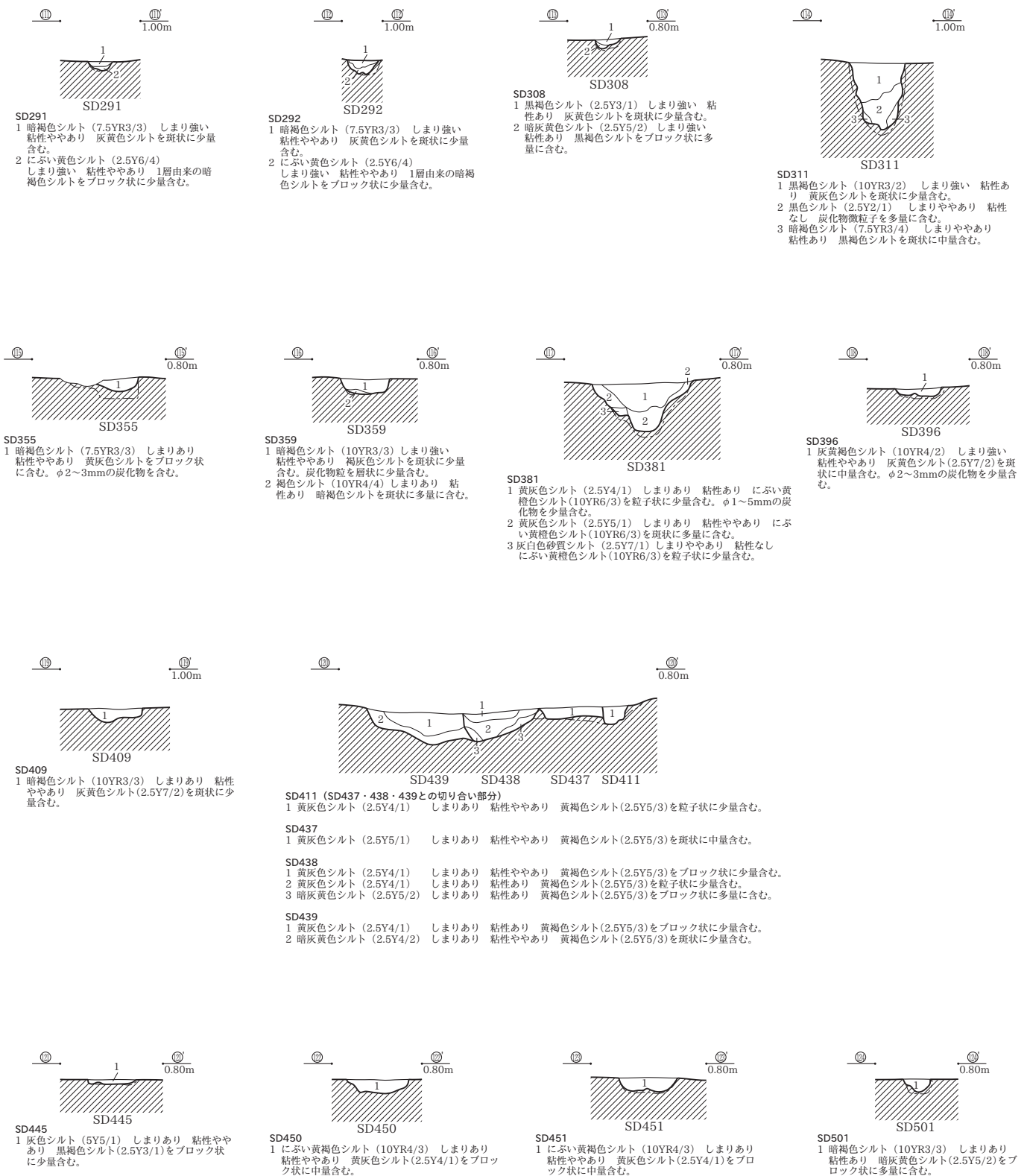
SD436
1 黄灰色シルト (2.5Y4/1) しまりあり 粘性あり にぶい黄褐色シルト(10YR7/2)を粒子状に微量含む。
2 にぶい黄色シルト (2.5Y6/3) しまりややあり 粘性ややあり にぶい黄褐色シルト(10YR7/2)を斑状に多量に含む。

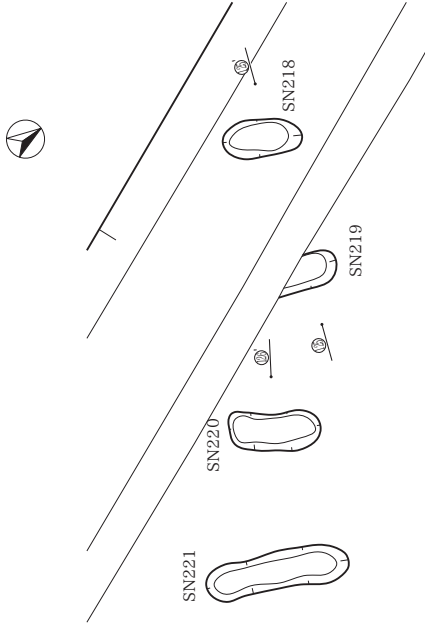


SD251 ㊦断面
1 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) しまりあり 粘性ややあり 黄褐色シルト(2.5Y5/3)を粒子状に少量含む。
2 黄灰色シルト (2.5Y6/1) しまりあり 粘性あり 浅黄色シルト(2.5Y7/3)をブロック状に多量に含む。

SD251 ㊧・㊨断面
1 黄灰色シルト (2.5Y4/1) しまり強い 粘性あり 黄褐色シルトを粒子状に少量含む。
2 黄灰色シルト (2.5Y5/1) しまり強い 粘性あり 黄褐色シルトを粒子状に中量含む。
3 灰黄色シルト (2.5Y6/2) しまり強い 粘性ややあり 黄褐色シルトを斑状に多量に含む。

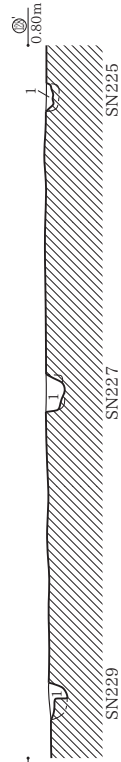
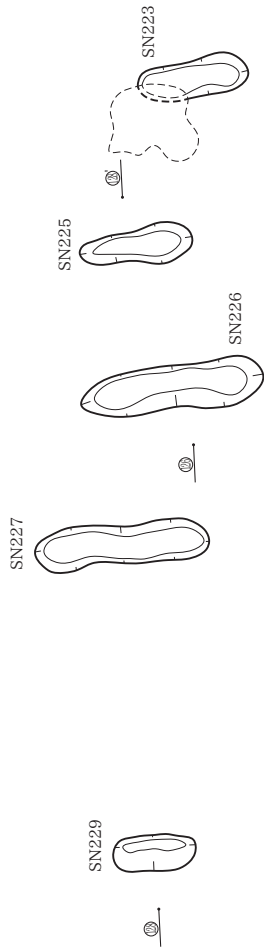






SN218
1 灰黄褐色シルト (10YR4/2) しまりあり 粘性あり 黄褐
色シルト (2.5Y5/3) を頭状に多量に含む。

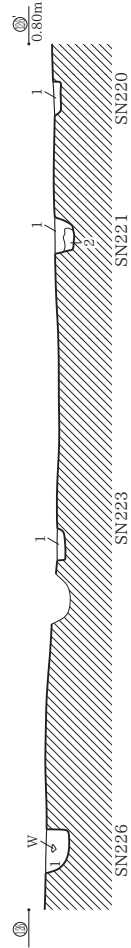
SN219
1 灰黄褐色シルト (10YR4/2) しまりあり 粘性ややあり
黄褐色シルト (2.5Y5/3) を頭状に多量に含む。



SN225
1 黒褐色シルト (10YR3/2) しまりあり 粘性ややあり 黄褐色シルト (2.5Y5/3) を頭状に少量含む。

SN227
1 黒褐色シルト (10YR3/2) しまり強い 粘性ややあり 黄褐色シルト (2.5Y5/3) を頭状に少量含む。

SN229
1 黒褐色シルト (10YR3/2) しまりあり 粘性ややあり 黄褐色シルト (2.5Y5/3) を頭状に少量含む。

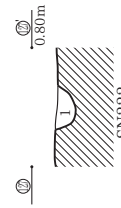
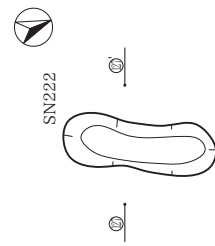


SN220
1 黒褐色シルト (10YR3/2) しまり強い 粘性ややあり 黄褐色シルト (2.5Y5/3) を頭状に少量含む。

SN221
1 黒褐色シルト (10YR3/2) しまり強い 粘性ややあり 黄褐色シルト (2.5Y5/3) を頭状に少量含む。
2 黄褐色シルト (2.5Y5/3) しまりあり 粘性あり 1層田米の黒褐色シルトを頭状に中量含む。

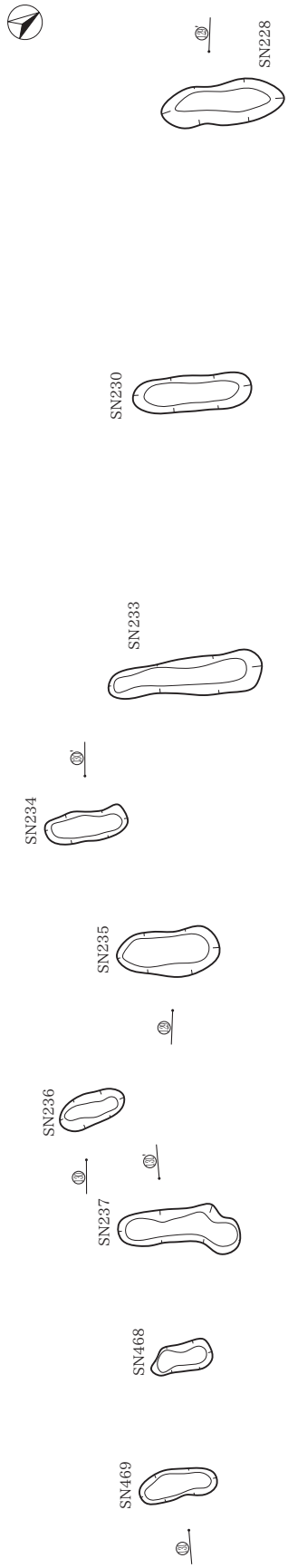
SN223
1 黒褐色シルト (10YR3/2) しまりあり 粘性ややあり 黄褐色シルト (2.5Y5/3) を頭状に少量含む。

SN226
1 黒褐色シルト (10YR3/2) しまりあり 粘性ややあり 黄褐色シルト (2.5Y5/3) を頭状に少量含む。



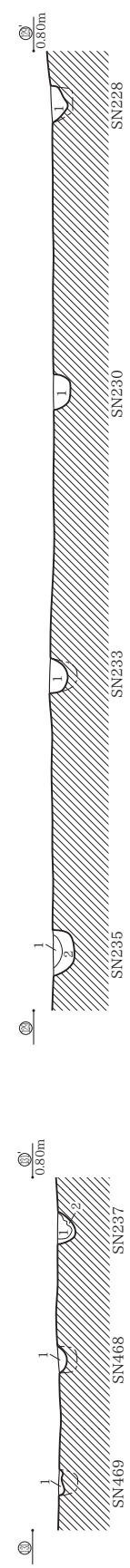
SN222
1 黒褐色砂質シルト (7.5YR3/2) しまりややあり 粘性ややあり





SN234
 1 粘土質、黄褐色シルト (2.5Y5/3) を頭状に少量含む。
 2 褐色砂質シルト (10YR4/4) 1層由来の、黄褐色シルトを頭状に少量含む。

SN236
 1 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性あり 黄褐色シルト (2.5Y5/3) を頭状に少量含む。



SN237
 1 灰黄褐色シルト (10YR4/2) しまりあり 粘性ややあり
 2 暗灰黄色シルト (2.5Y4/2) しまりあり 粘性あり 黄灰色砂質シルトをブロック状に含む。

SN468
 1 暗灰黄色シルト (2.5Y4/2) しまりあり 粘性あり 黄灰色砂質シルトをブロック状に少量含む。

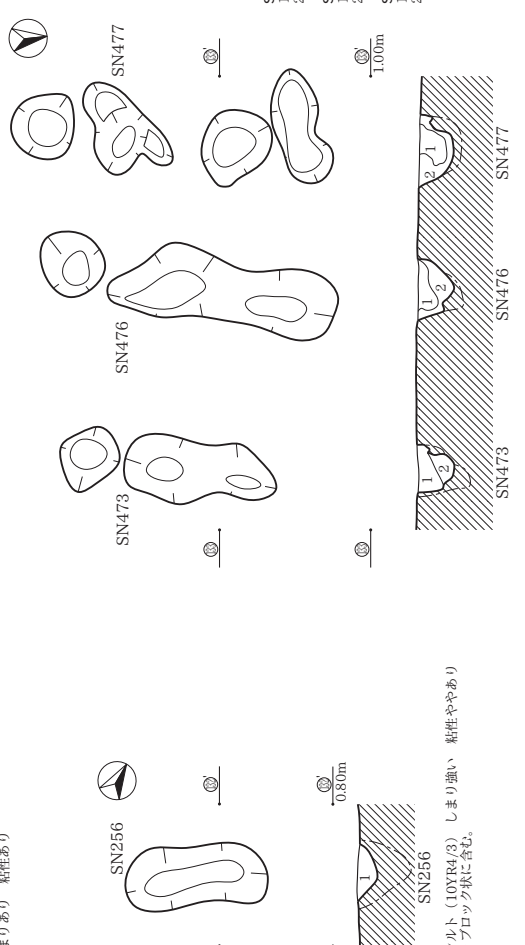
SN469
 1 灰黄褐色シルト (10YR4/2) しまりあり 粘性あり

SN228
 1 黒褐色シルト (10YR3/2) しまりあり 粘性ややあり 黄褐色シルト (2.5Y5/3) を頭状に少量含む。

SN230
 1 灰黄褐色シルト (10YR4/2) しまりあり 粘性ややあり 黄褐色シルト (2.5Y5/3) を頭状に少量含む。

SN233
 1 黒褐色シルト (10YR3/2) しまり強い、粘性ややあり 黄褐色シルト (2.5Y5/3) を頭状に少量含む。

SN235
 1 灰黄褐色シルト (10YR4/2) しまりあり 粘性ややあり 黄褐色シルト (2.5Y5/3) を頭状に少量含む。
 2 粘土質、黄褐色シルト (10YR4/3) しまりあり 粘性ややあり 1層由来の灰黄褐色シルトを頭状に少量含む。

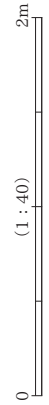


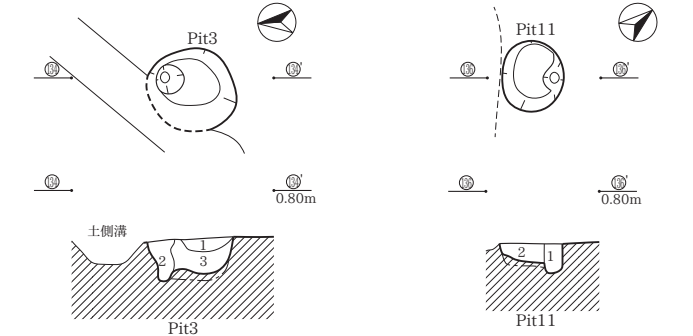
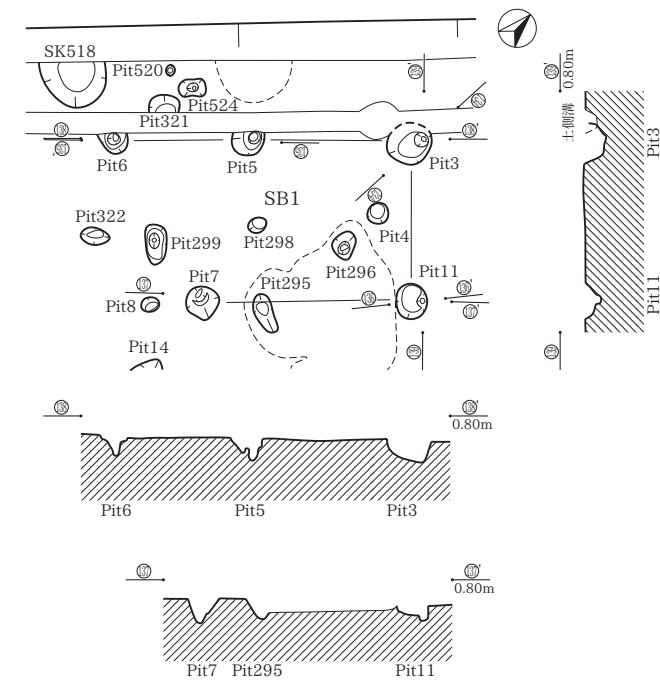
SN473
 1 黄灰色シルト (2.5Y4/1) しまりあり 粘性ややあり 黄褐色シルト (2.5Y5/3) を頭状に少量含む。
 2 灰黄色シルト (2.5Y6/2) しまりあり 粘性ややあり 黄褐色シルト (2.5Y5/3) を頭状にやや多く含む。

SN476
 1 黄灰色シルト (2.5Y4/1) しまりあり 粘性ややあり 黄褐色シルト (2.5Y5/3) を頭状に少量含む。
 2 灰黄色シルト (2.5Y7/2) しまりあり 粘性ややあり 黄褐色シルト (2.5Y5/3) を頭状に多量に含む。

SN477
 1 黄灰色シルト (2.5Y4/1) しまりあり 粘性ややあり 黄褐色シルト (2.5Y5/3) を頭状に少量含む。
 2 灰黄色シルト (2.5Y7/2) しまりあり 粘性ややあり 黄褐色シルト (2.5Y5/3) を頭状に多量に含む。

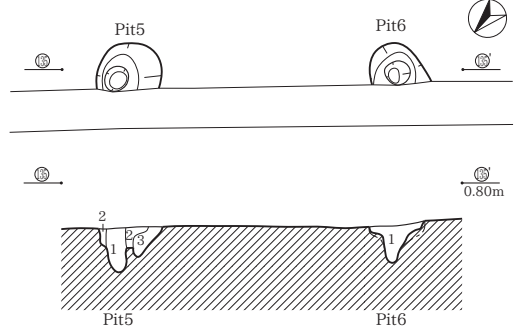
SN256
 1 粘土質、黄褐色シルト (10YR4/3) しまり強い、粘性ややあり 黄灰色シルトをブロック状に含む。





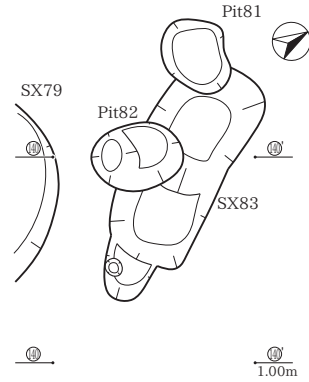
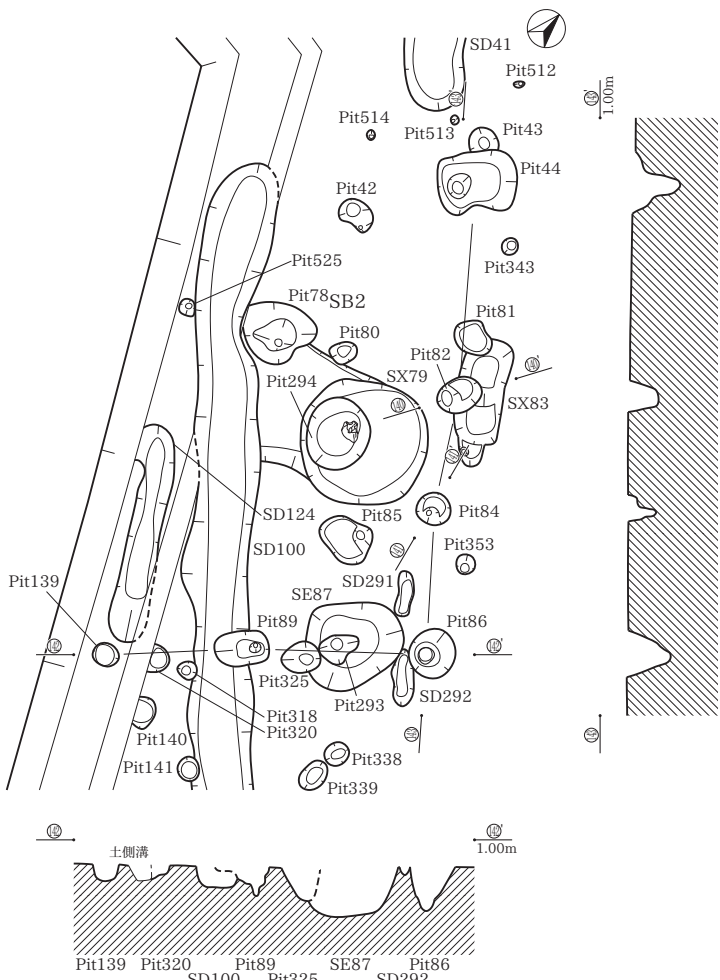
Pit3
1 黒褐色シルト (2.5Y3/1) しまり強い 粘性
ややあり
2 暗オリーブ褐色シルト (2.5Y3/1) しまりあり 粘性
あり
3 黒褐色シルト (10YR3/2) しまりあり 粘性
あり 黄灰色シルトを斑状に少量含む。

Pit11
1 灰黄褐色シルト (10YR4/2) しまりあり
粘性あり
2 暗褐色シルト (7.5YR3/3) しまりあり
粘性あり

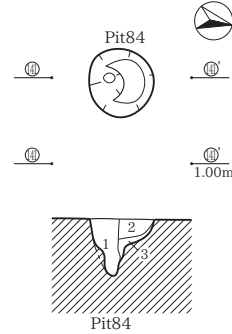


Pit5
1 黒褐色シルト (10YR2/2) しまりあり 粘性ややあり
2 暗灰黄色シルト (2.5Y4/2) しまり強い 粘性ややあり
3 黒褐色シルト (2.5Y3/1) しまり強い 粘性ややあり
黄灰色シルトをブロック状・斑状に多量に含む。

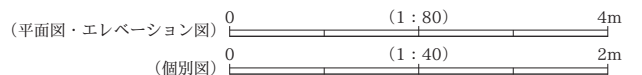
Pit6
1 黒褐色シルト (2.5Y3/1) しまりあり 粘性あり 黄褐色シルトをブロック状・斑状に少量含む。



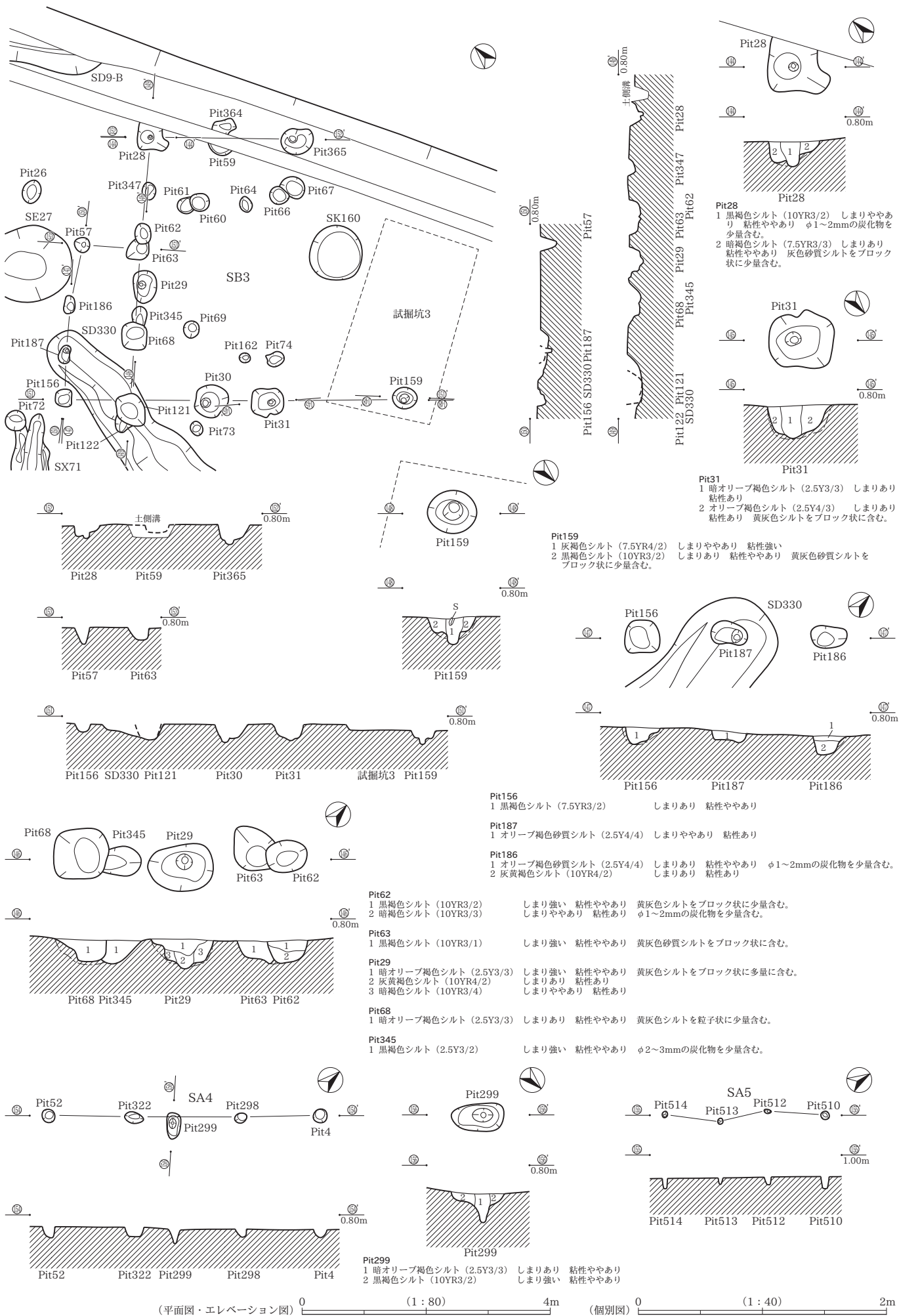
Pit82
1 灰黄褐色シルト (10YR4/2) しまりあり 粘性
あり 灰褐色シルトを斑状に少量含む。
2 黒褐色シルト (7.5YR3/1) しまりあり 粘性
あり 黄灰色シルトを斑状に少量含む。
3 黄灰色シルト (2.5Y4/1) しまり強い 粘性
ややあり 黄灰色シルトをブロック状に多量に
含む。

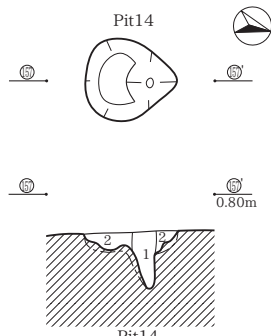


Pit84
1 黒褐色シルト (10YR3/2) しまりあり 粘性あり
2 灰黄褐色シルト (10YR4/2) しまりあり 粘性あり
3 にふい黄色シルト (2.5Y6/4) しまりあり 粘性あり
黄褐色シルトを斑状に中量含む。

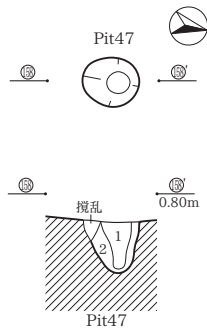


図版 33

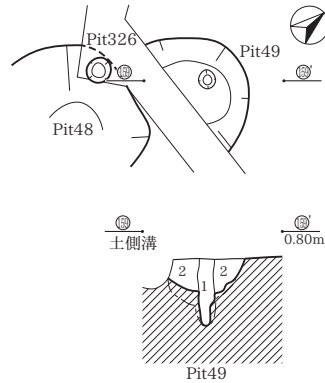




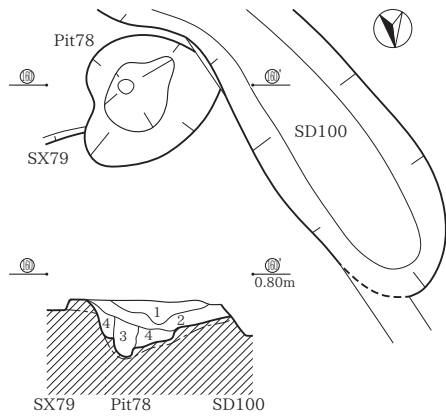
Pit14
 1 黒褐色シルト (10YR3/2) しまり強い 粘性ややあり 黄灰色シルトを斑状に少量含む。
 2 黒褐色シルト (7.5YR3/2) しまり強い 粘性ややあり 黄灰色シルトを斑状に少量含む。



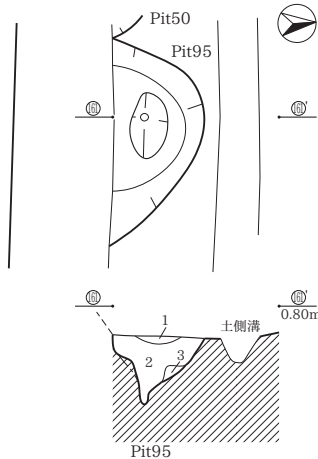
Pit47
 1 にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) しまりあり 粘性あり
 2 暗褐色シルト (10YR3/3) しまり強い 粘性ややあり 黄灰色シルトをブロック状に中量含む。



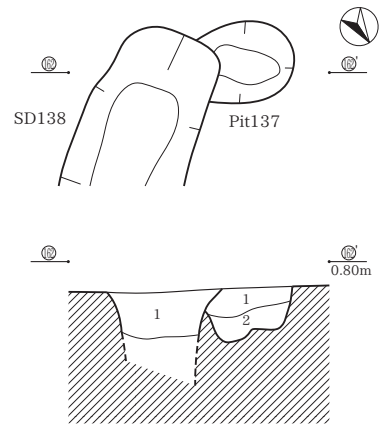
Pit49
 1 にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) しまりあり 粘性あり
 2 暗褐色シルト (10YR3/3) しまり強い 粘性ややあり 黄灰色シルトをブロック状に中量含む。



Pit78
 1 黒褐色シルト (2.5Y3/2) しまり強い 粘性ややあり 灰黄色シルトを斑状に多量に含む。
 2 黒褐色シルト (10YR3/1) しまり強い 粘性あり 灰黄色シルトを斑状に中量含む。
 3 暗褐色シルト (10YR3/3) しまりあり 粘性あり 灰黄色シルトを斑状に少量含む。
 4 黒褐色シルト (2.5Y3/1) しまりあり 粘性あり 灰黄色シルトをブロック状に少量含む。

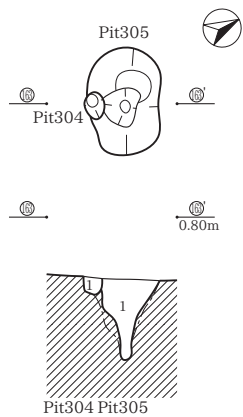


Pit95
 1 黄灰色シルト (2.5Y4/1) しまりややあり 粘性ややあり
 2 暗灰黄色シルト (2.5Y5/2) しまりややあり 粘性ややあり 灰黄色シルト (2.5Y6/2) を斑状に少量含む。
 3 暗灰黄色シルト (2.5Y4/2) しまりややあり 粘性ややあり 灰黄色シルト (2.5Y6/2) を斑状にやや多く含む。



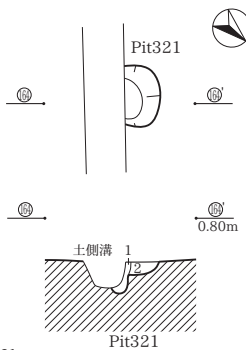
Pit137
 1 黒褐色シルト (7.5YR3/2) しまり強い 粘性ややあり 黄褐色シルトをブロック状に含む。
 2 黒褐色シルト (10YR3/2) しまりあり 粘性あり 褐色シルト (10YR4/4) をブロック状に黒褐色シルトと同量含む。

SD138
 1 暗オリーブ褐色シルト (2.5Y3/3) しまりあり 粘性強い ϕ 1~2mmの炭化物を少量含む。

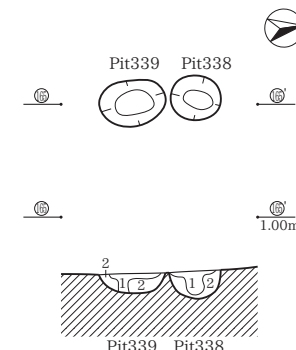


Pit304
 1 黒褐色シルト (10YR2/2) しまりあり 粘性ややあり

Pit305
 1 黒褐色シルト (10YR2/3) しまり強い 粘性あり 黄灰色シルトを斑状に少量含む。 ϕ 2~3mmの炭化物を少量含む。

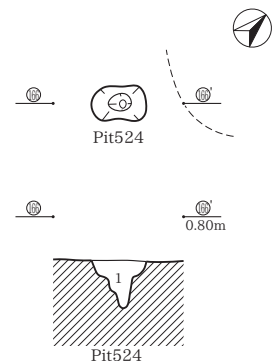


Pit321
 1 暗褐色シルト (10YR3/3) しまりあり 粘性あり
 2 黒褐色シルト (7.5YR3/1) しまり強い 粘性ややあり 黄灰色シルトを斑状に少量含む。

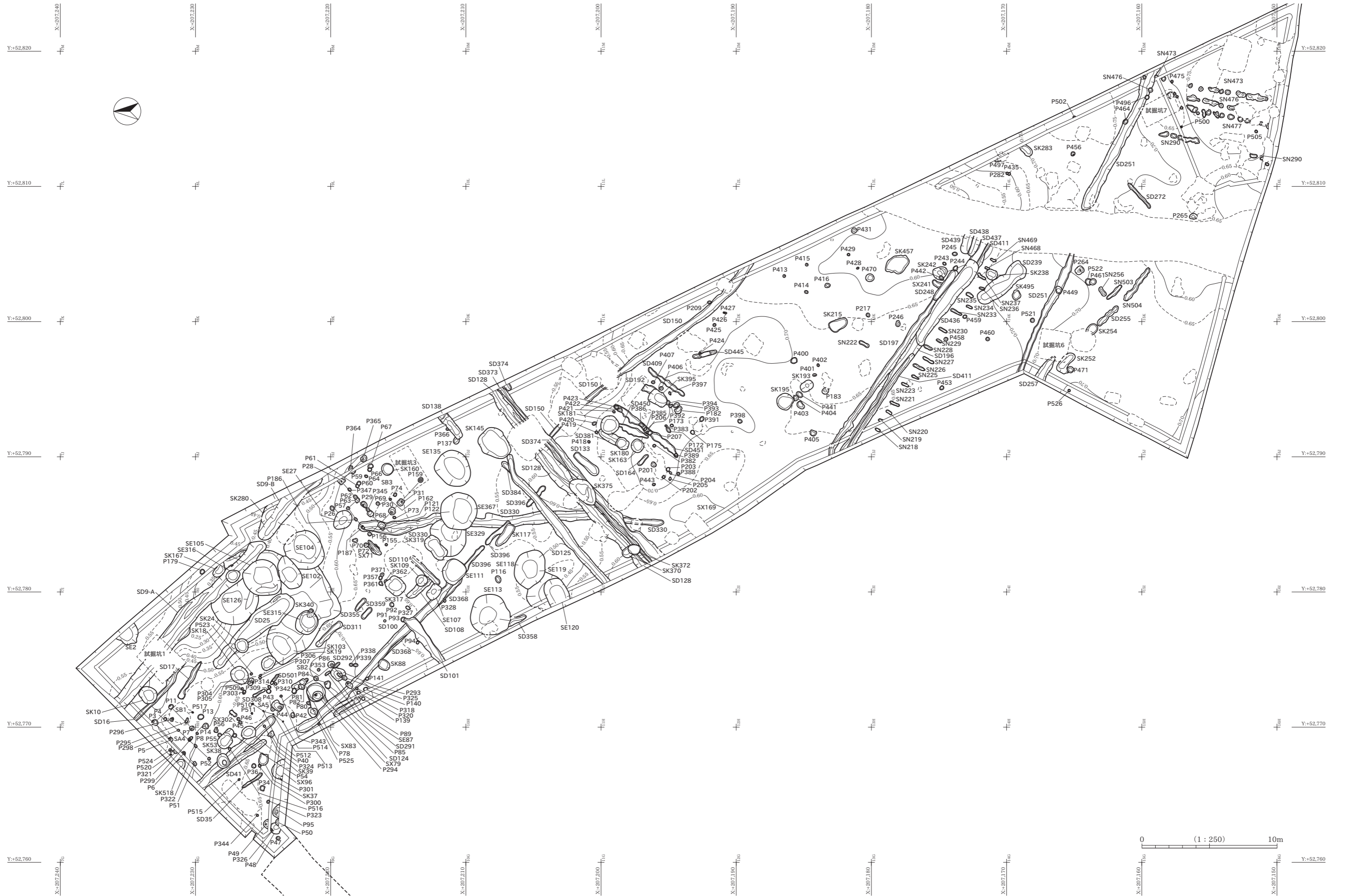


Pit338
 1 黒褐色シルト (10YR3/2) しまりあり 粘性あり 黄灰色シルトをブロック状に少量含む。
 2 褐色シルト (10YR4/1) しまりあり 粘性あり

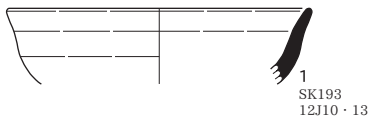
Pit339
 1 黒褐色シルト (10YR3/2) しまりあり 粘性あり
 2 褐色シルト (10YR5/1) しまりあり 粘性あり



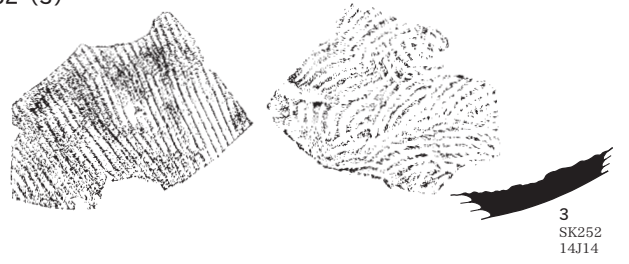
Pit524
 1 黒褐色シルト (2.5Y3/1) しまりあり 粘性あり にぶい黄褐色シルト (10YR5/3) をブロック状に少量含む。



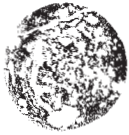
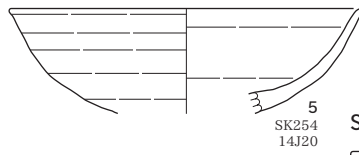
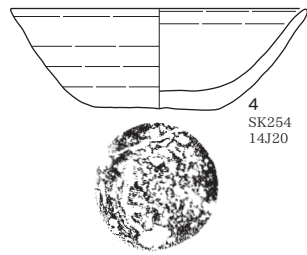
SK193 (1・2)



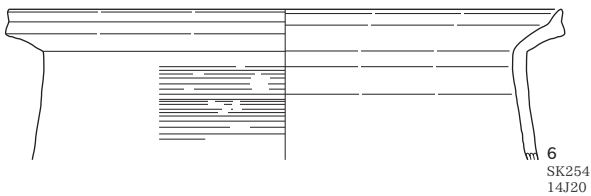
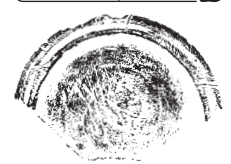
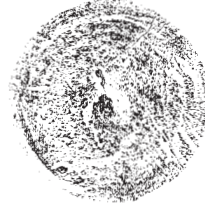
SK252 (3)



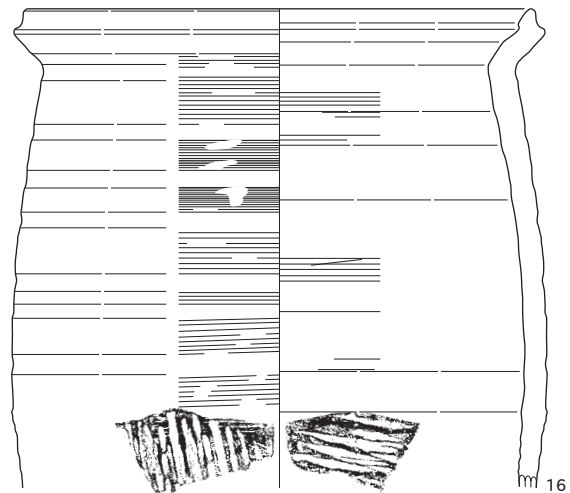
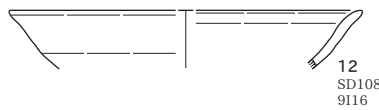
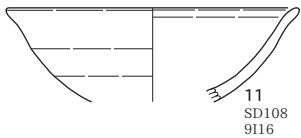
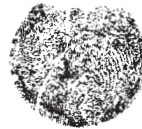
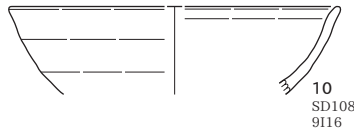
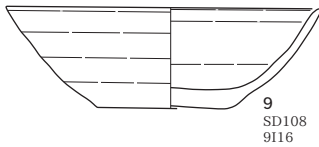
SK254 (4~6)



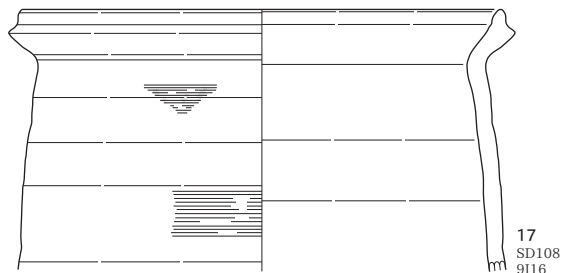
SK457 (7・8)



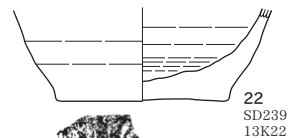
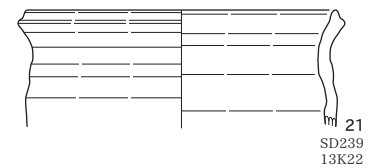
SD108 (9~18)



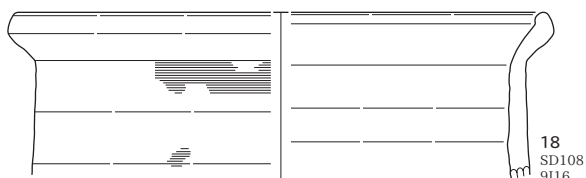
SD108 9I16,10H9,10I3



SD239 (19~22)



スス

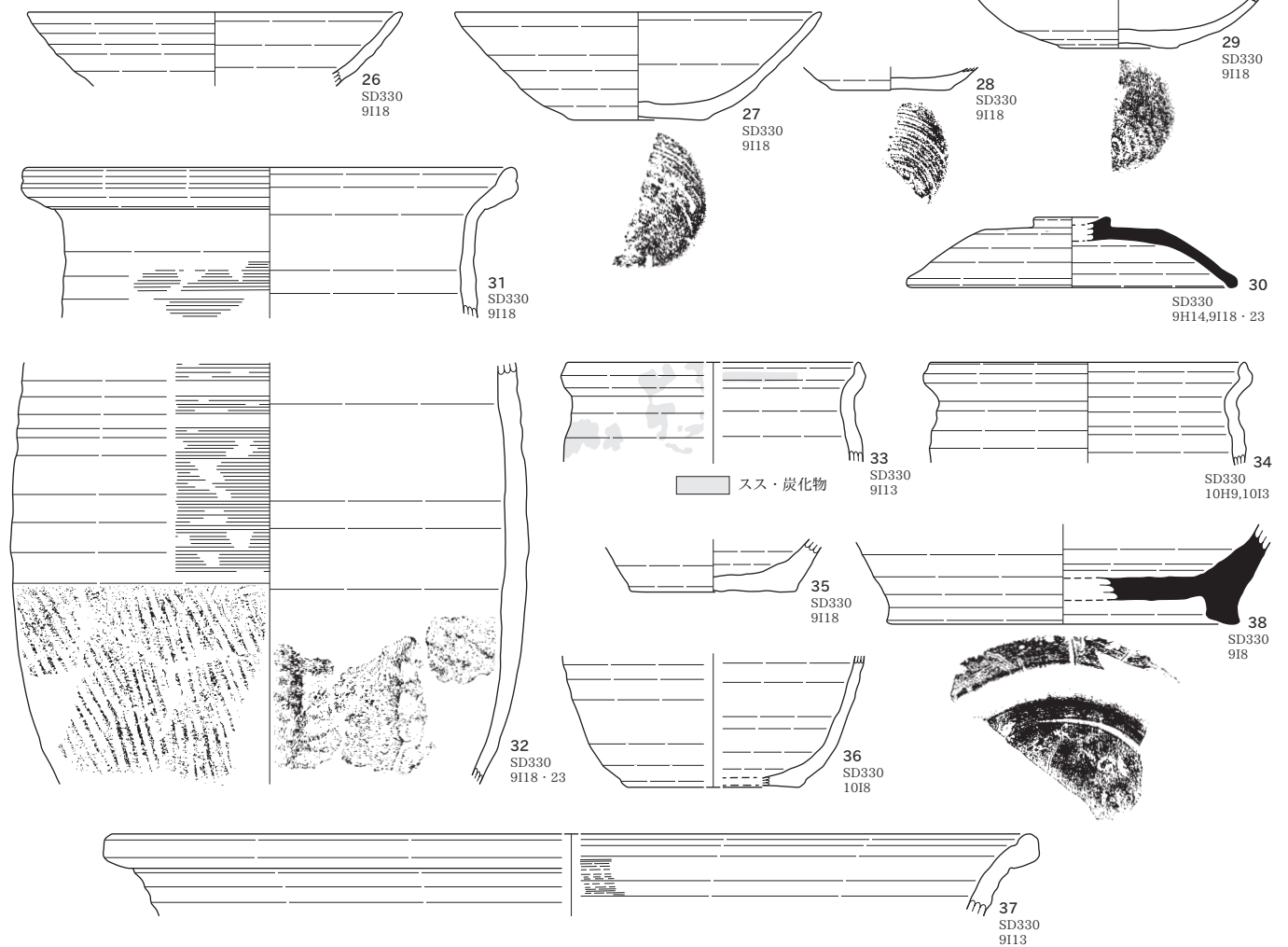


0 (1:3) 10cm

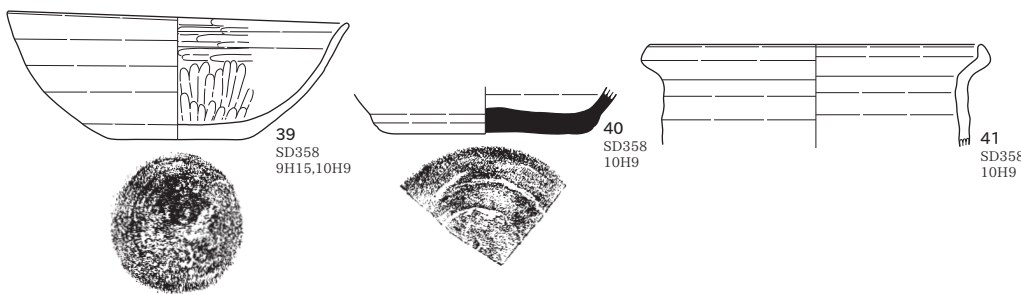
SD257 (23~25)



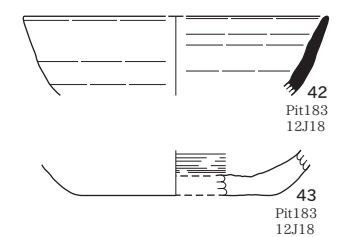
SD330 (26~38)



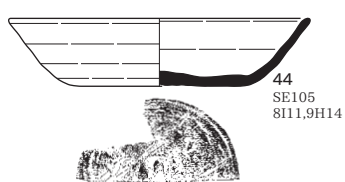
SD358 (39~41)



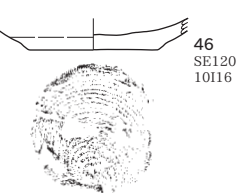
Pit183 (42・43)



SE105 (44)



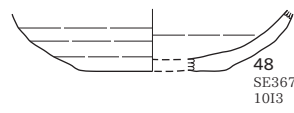
SE120 (46)



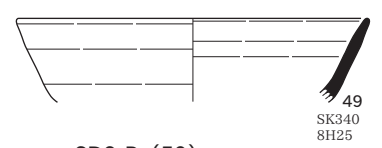
SE329 (47)



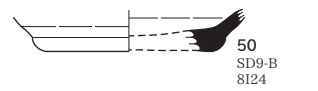
SE367 (48)



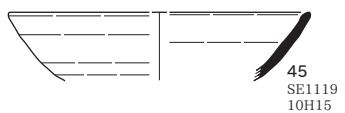
SK340 (49)



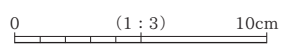
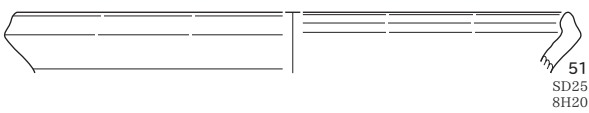
SD9-B (50)



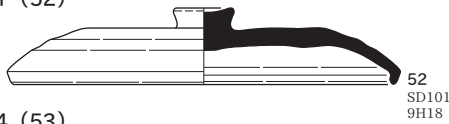
SE119 (45)



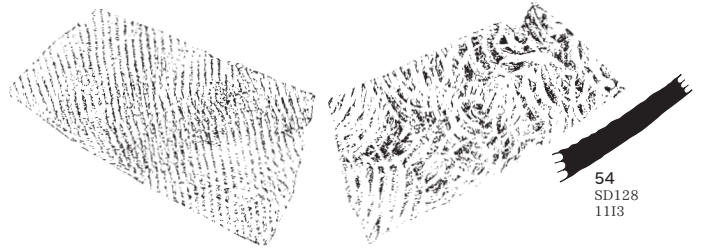
SD25 (51)



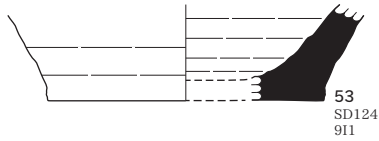
SD101 (52)



SD128 (54)



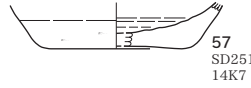
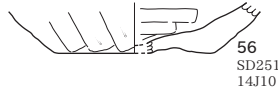
SD124 (53)



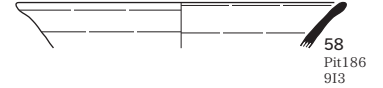
SD197 (55)



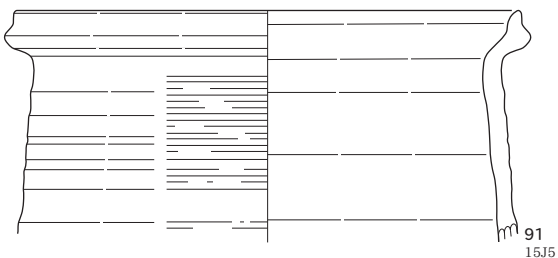
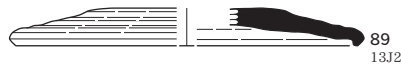
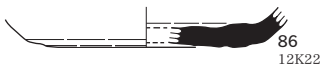
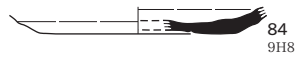
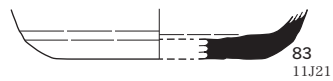
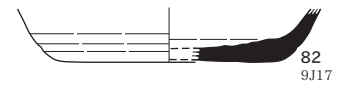
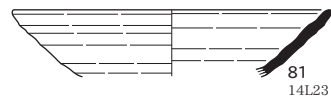
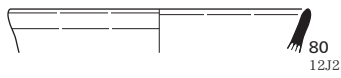
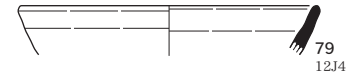
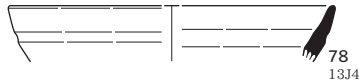
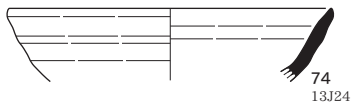
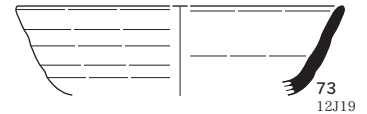
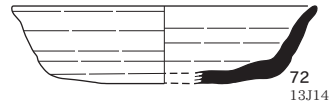
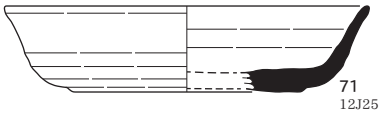
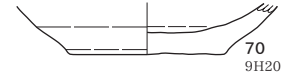
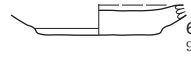
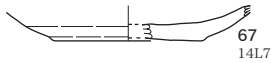
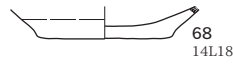
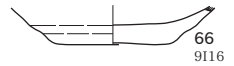
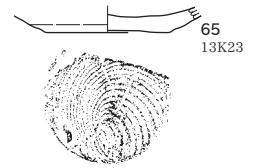
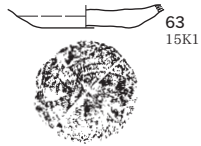
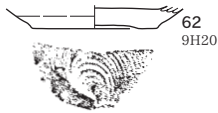
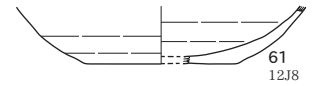
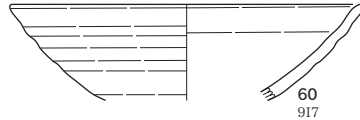
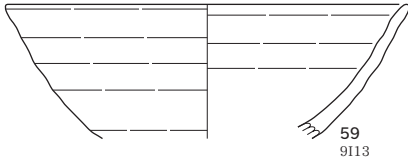
SD251 (56・57)



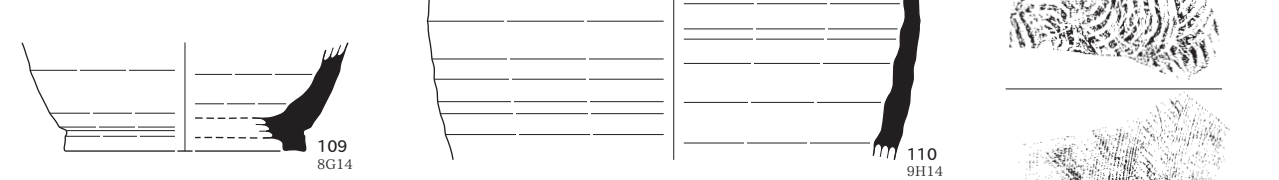
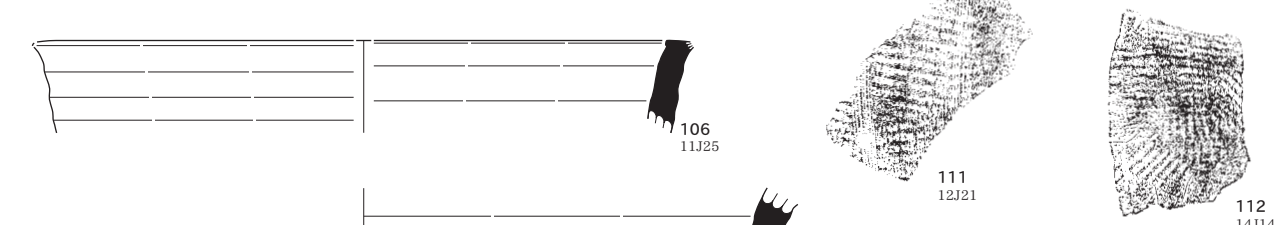
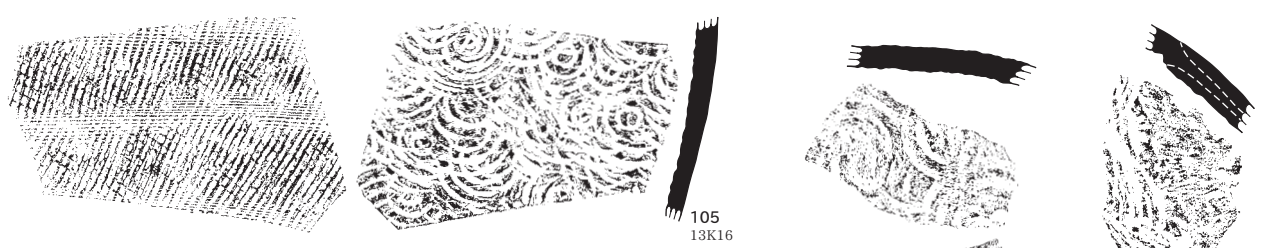
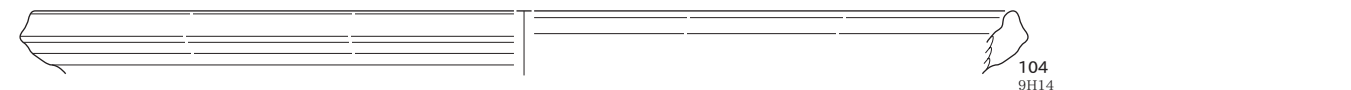
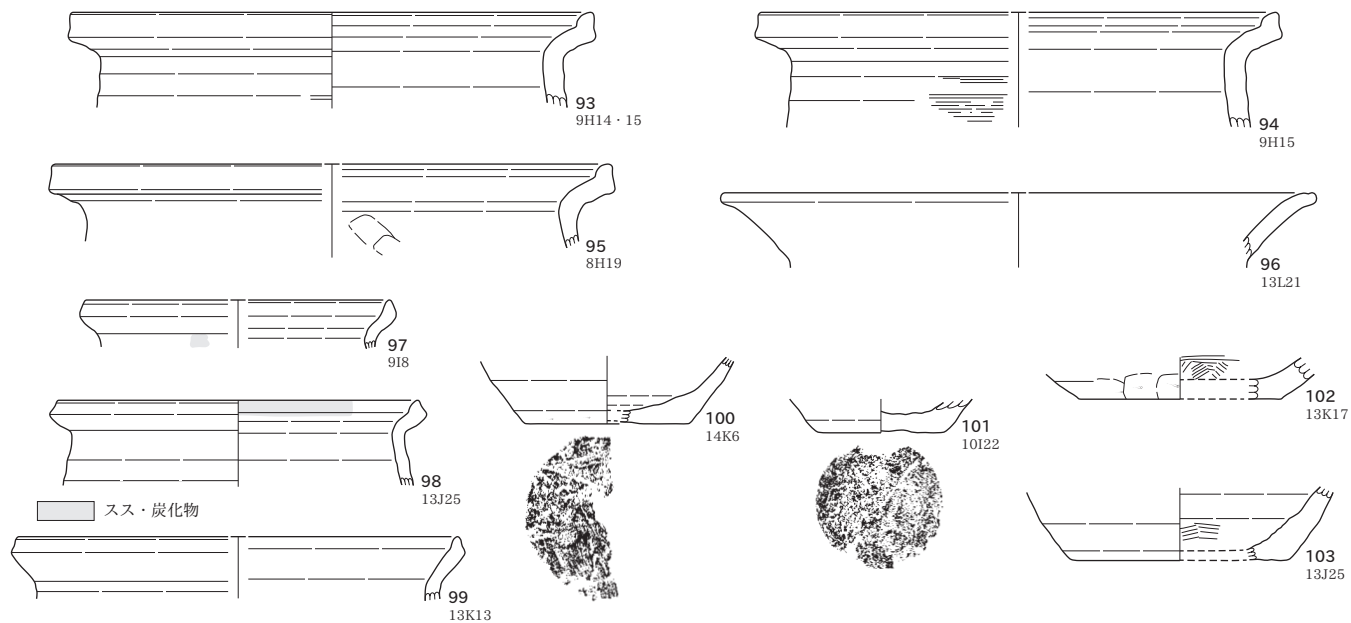
Pit186 (58)



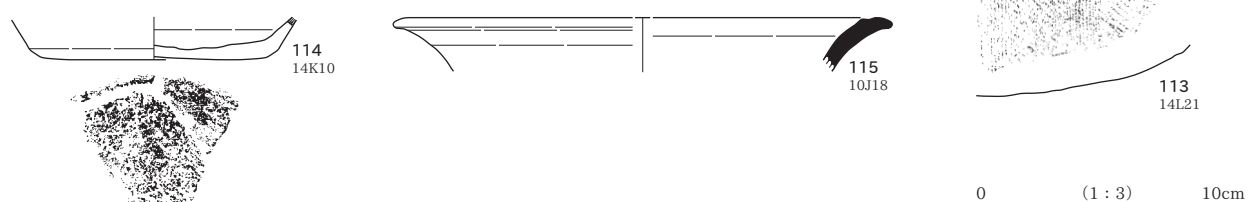
包含層 (59~92)



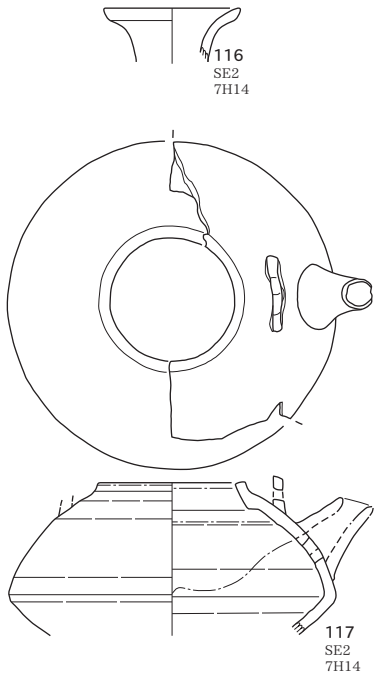
包含層 (93~113)



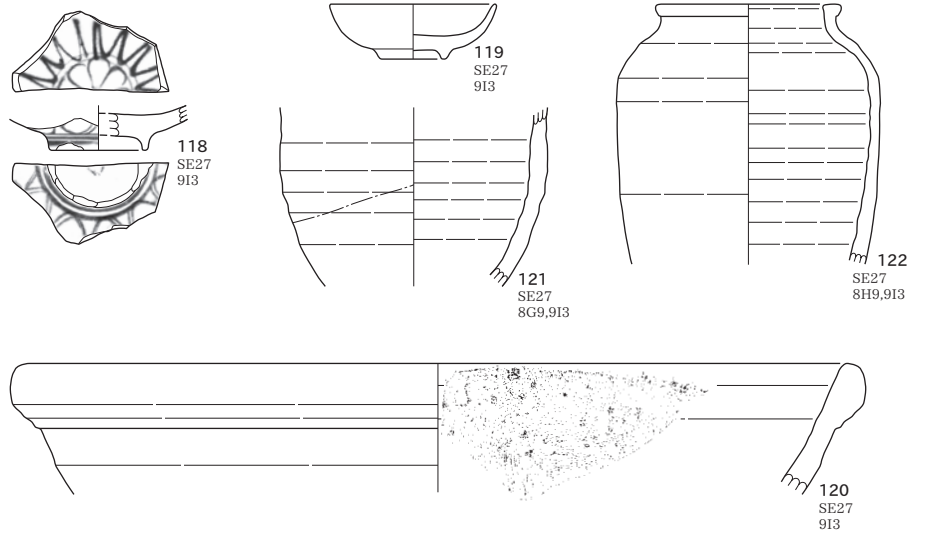
攪乱 (114・115)



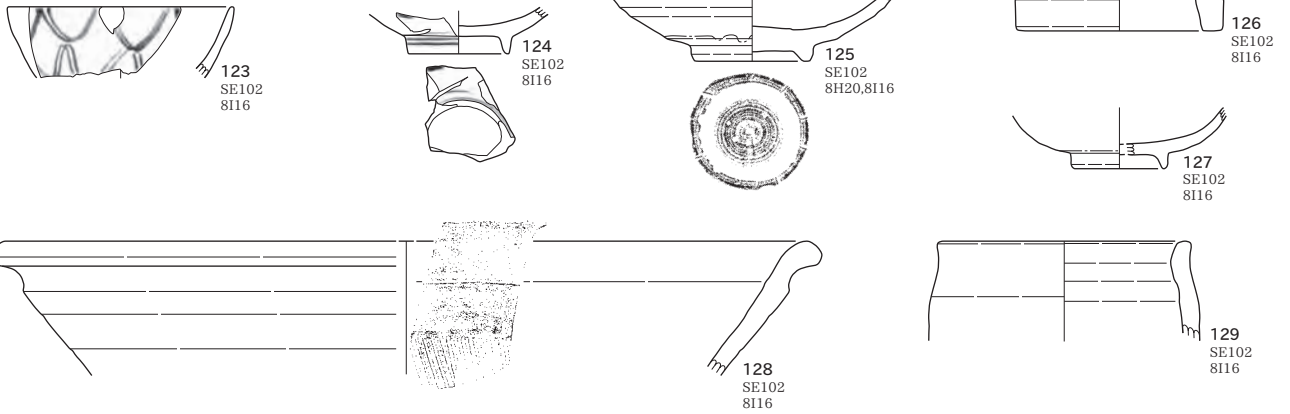
SE2 (116・117)



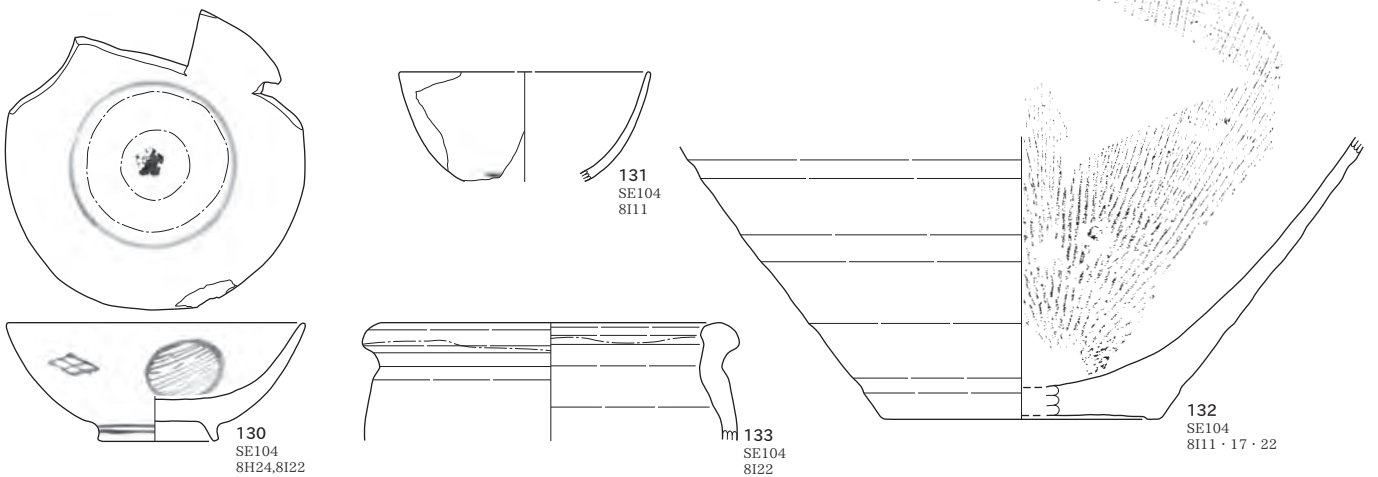
SE27 (118~122)



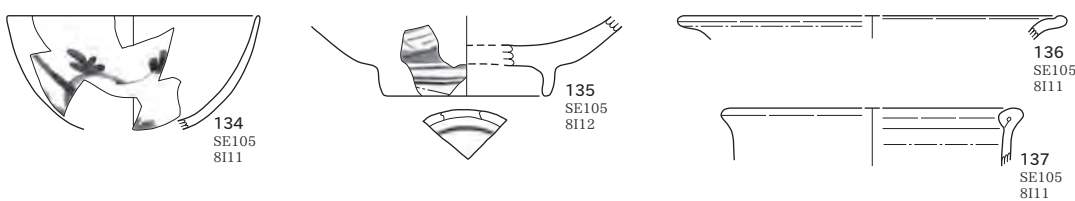
SE102 (123~129)



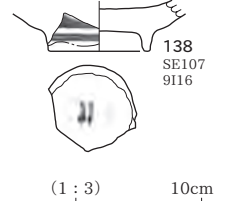
SE104 (130~133)



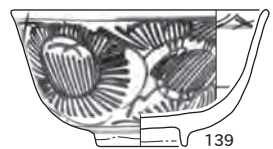
SE105 (134~137)



SE107 (138)



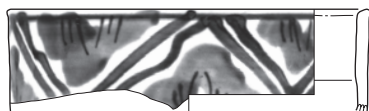
SE111 (139~142)



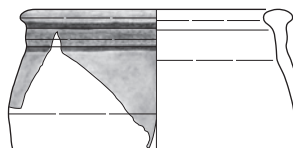
139
SE111
9I21



140
SE111
9I21・22



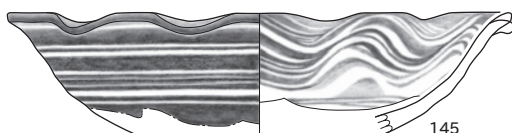
141
SE111
9I21・22



142
SE111
9I21,10J18

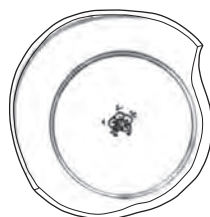


144
SE113
10H5

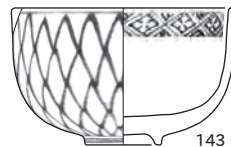


145
SE113
10H4・10

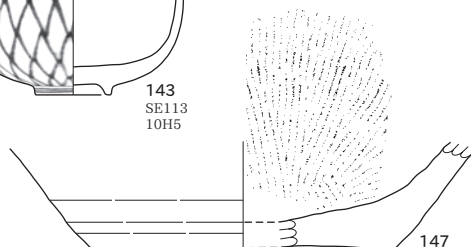
SE113 (143~148)



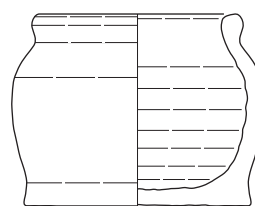
146
SE113
10H5



143
SE113
10H5

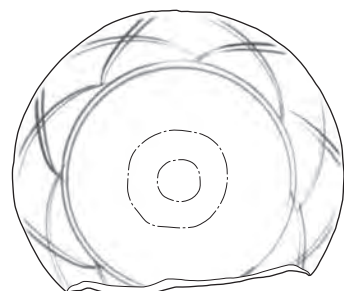


147
SE113
10H5



148
SE113
10H5

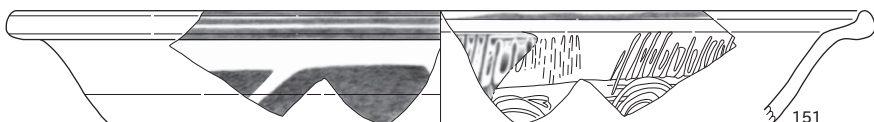
SE118 (149~157)



150
SE118
10I12



149
SE118
10I11



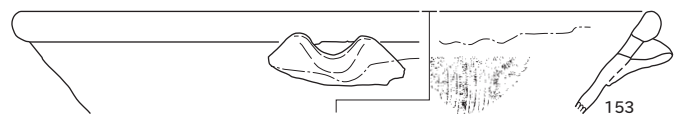
151
SE118
10I12



152
SE118
10I12



155
SE118
10I11



153
SE118
10I11



156
SE118
10I11



157
SE118
10I12

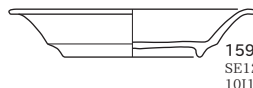
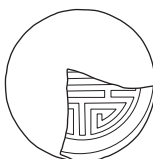


154
SE118
8H21,10I12

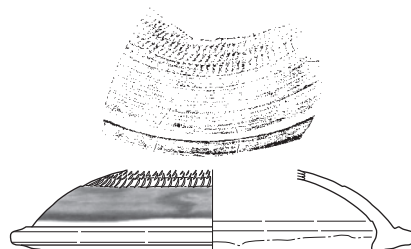
SE120 (158~161)



158
SE120
10H20



159
SE120
10I16

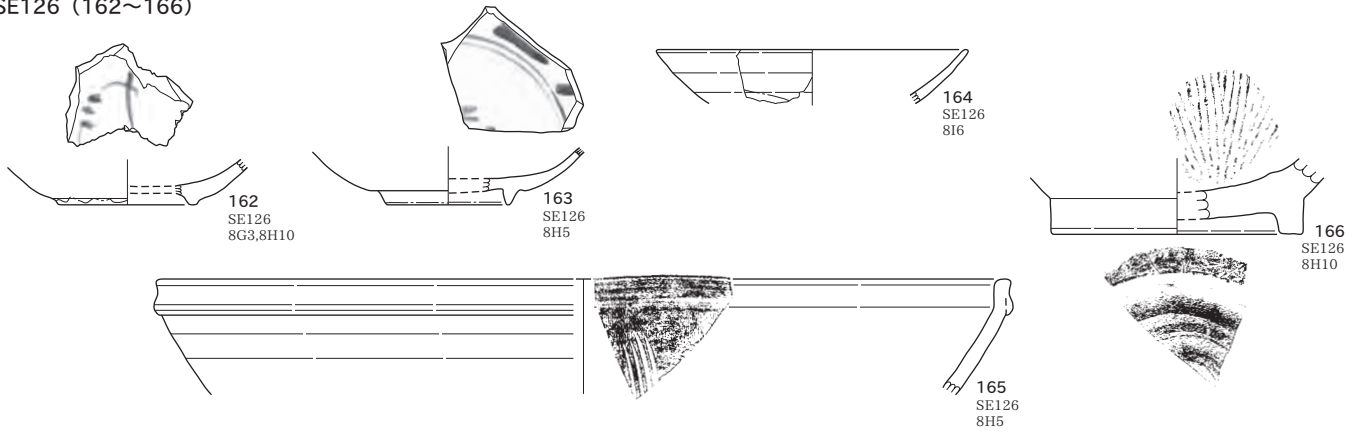


160
SE120
10I16

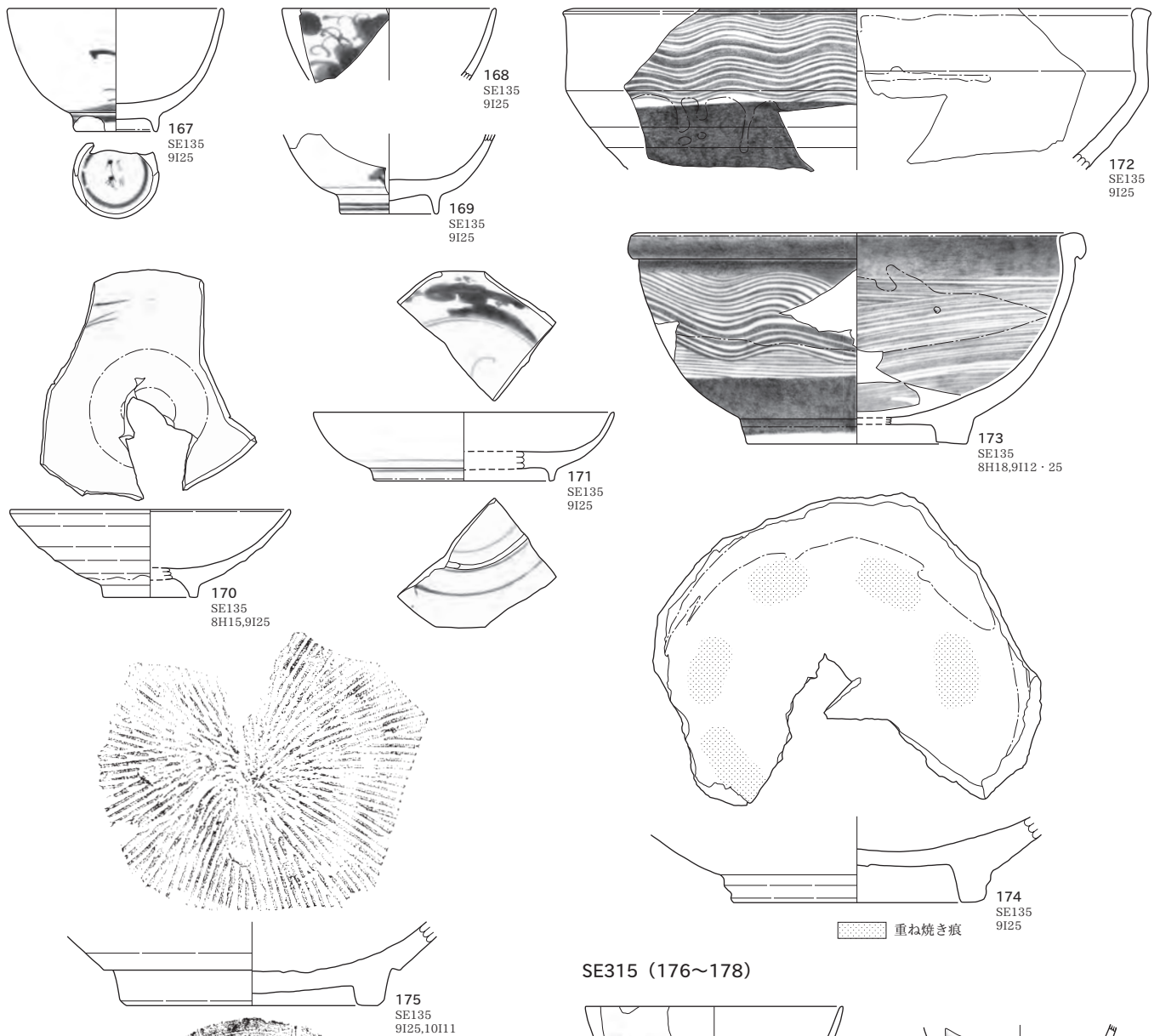


161
SE120
10I16

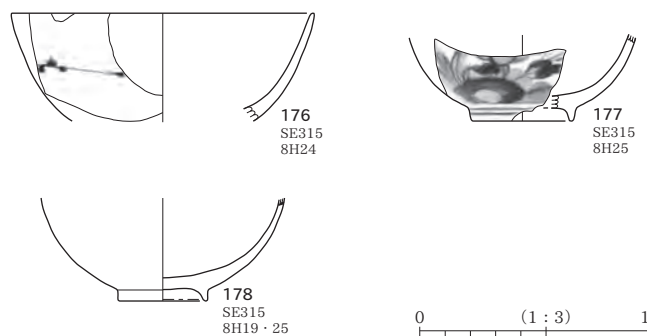
SE126 (162~166)



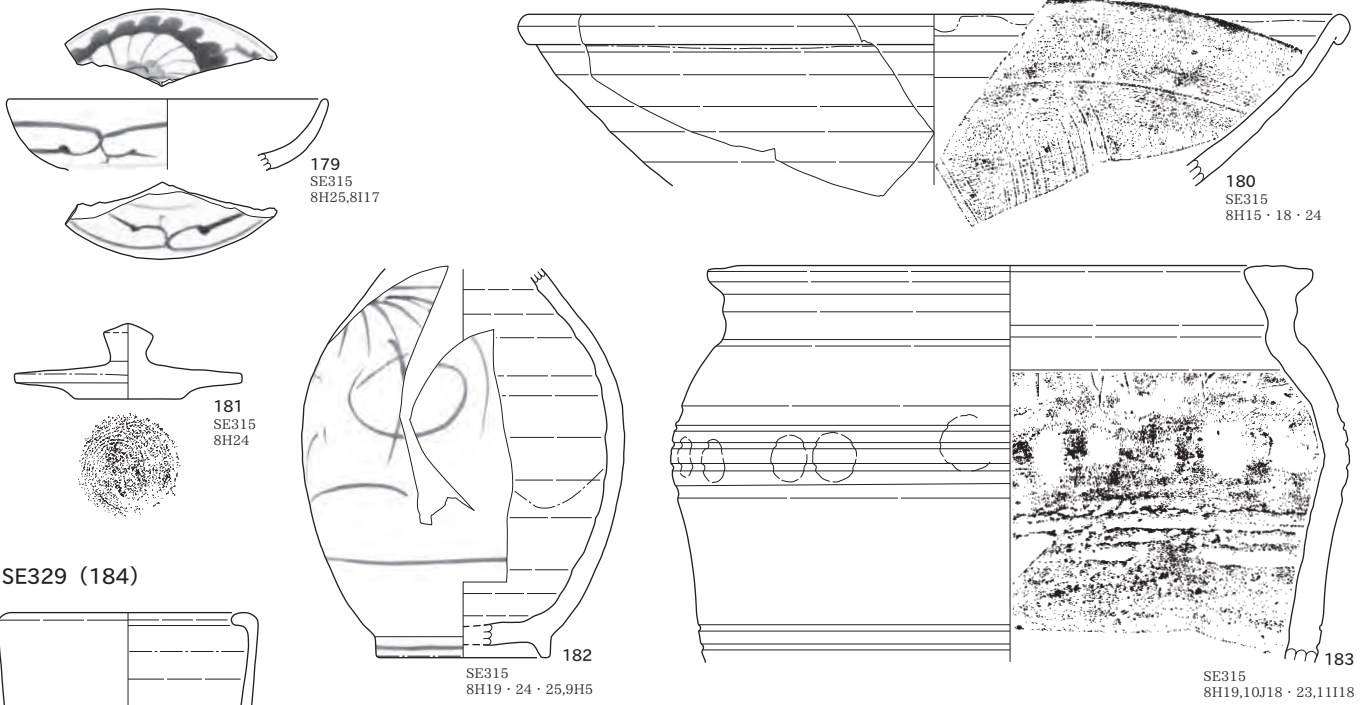
SE135 (167~175)



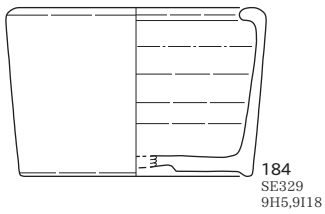
SE315 (176~178)



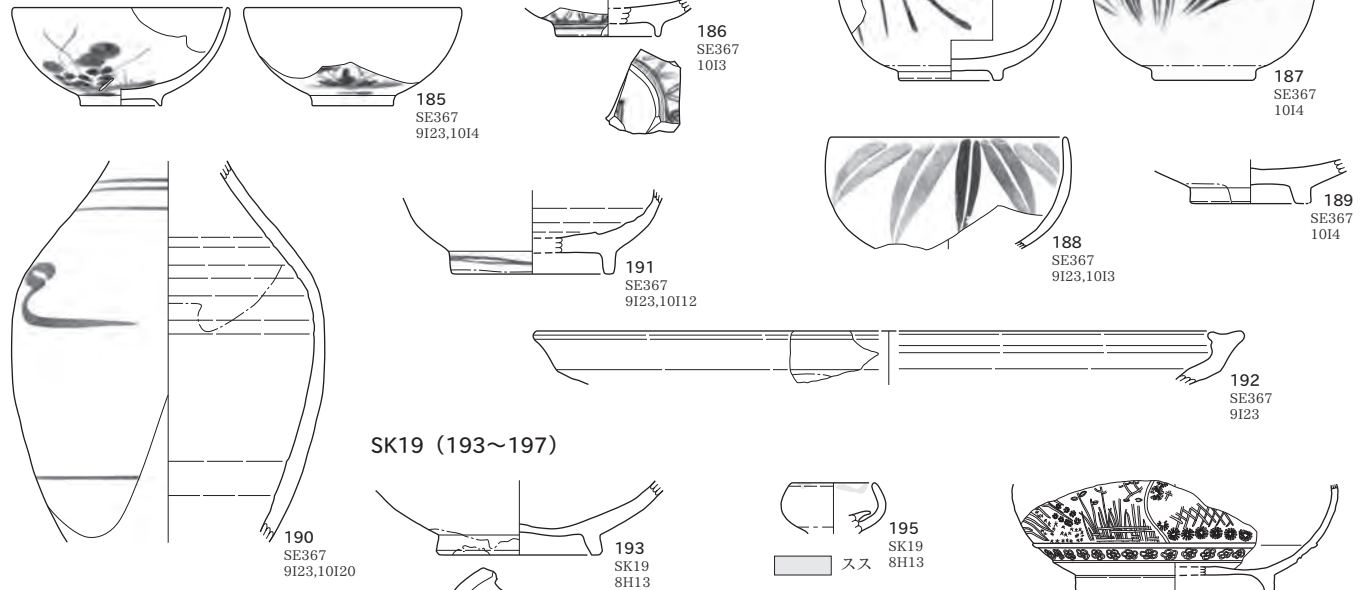
SE315 (179~183)



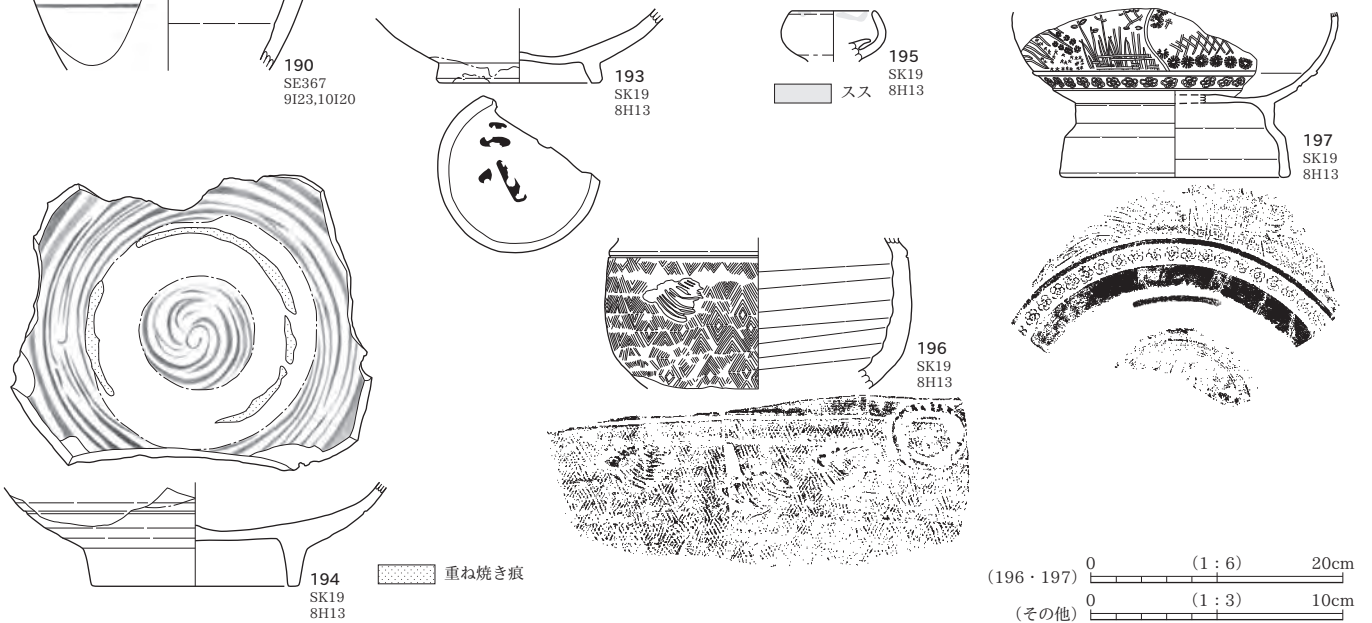
SE329 (184)



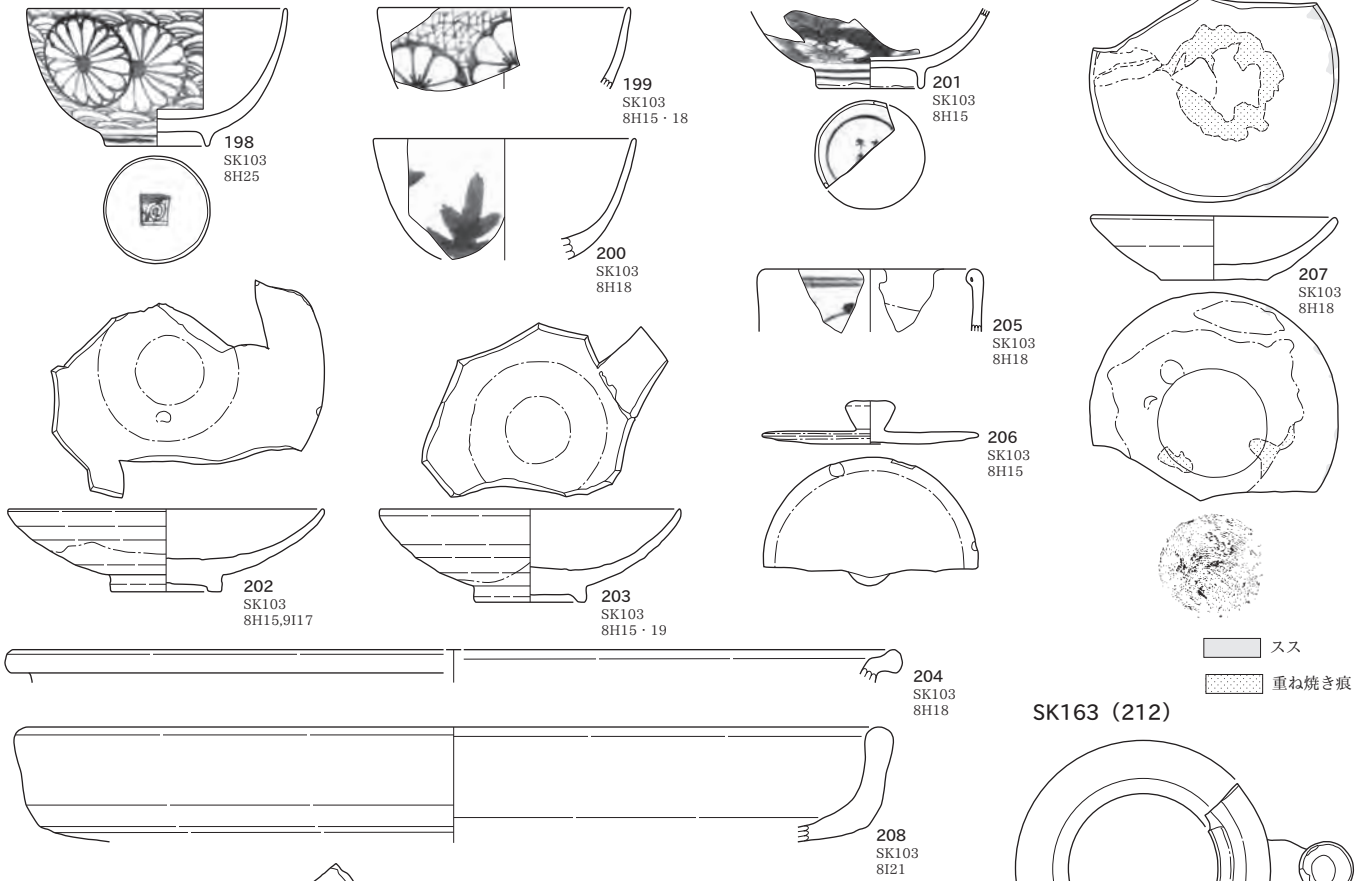
SE367 (185~192)



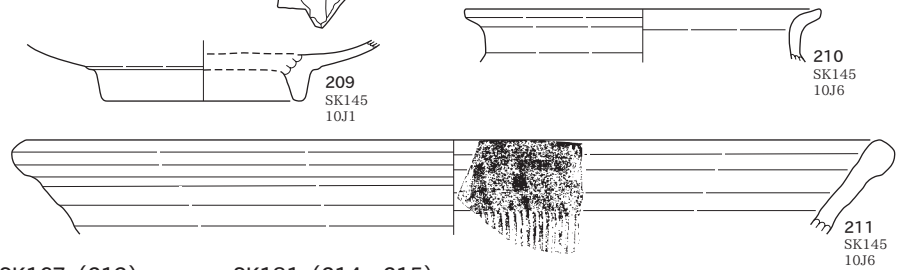
SK19 (193~197)



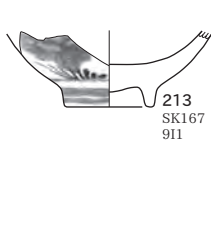
SK103 (198~208)



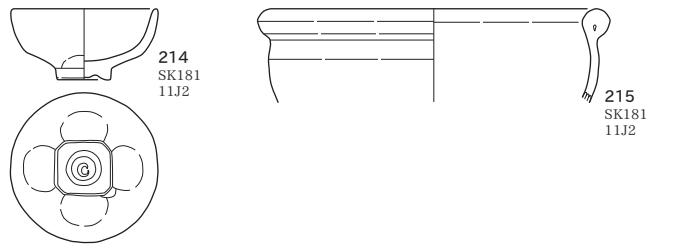
SK145 (209~211)



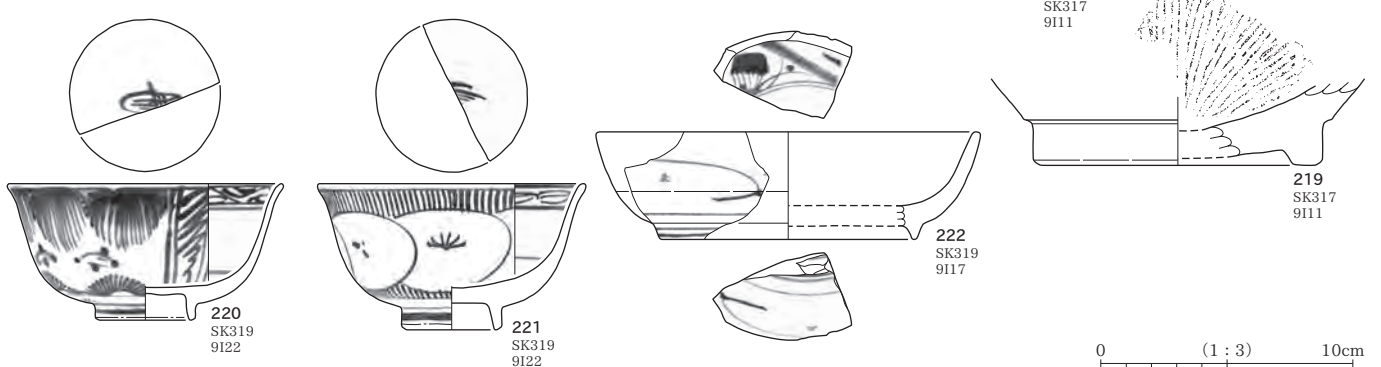
SK167 (213)



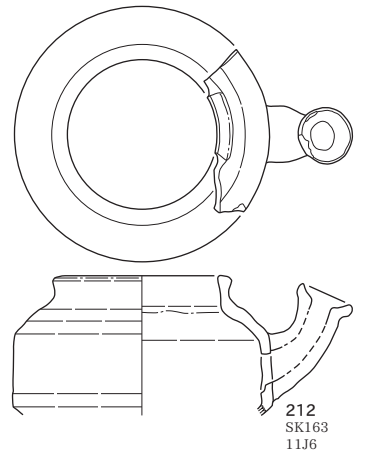
SK181 (214・215)



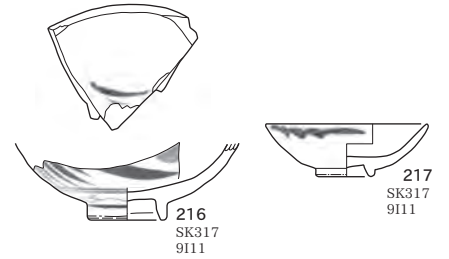
SK319 (220~222)



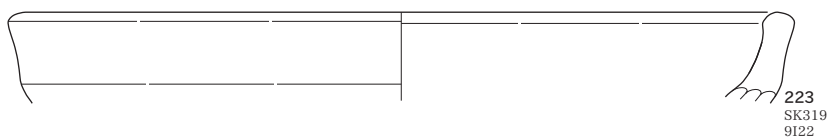
SK163 (212)



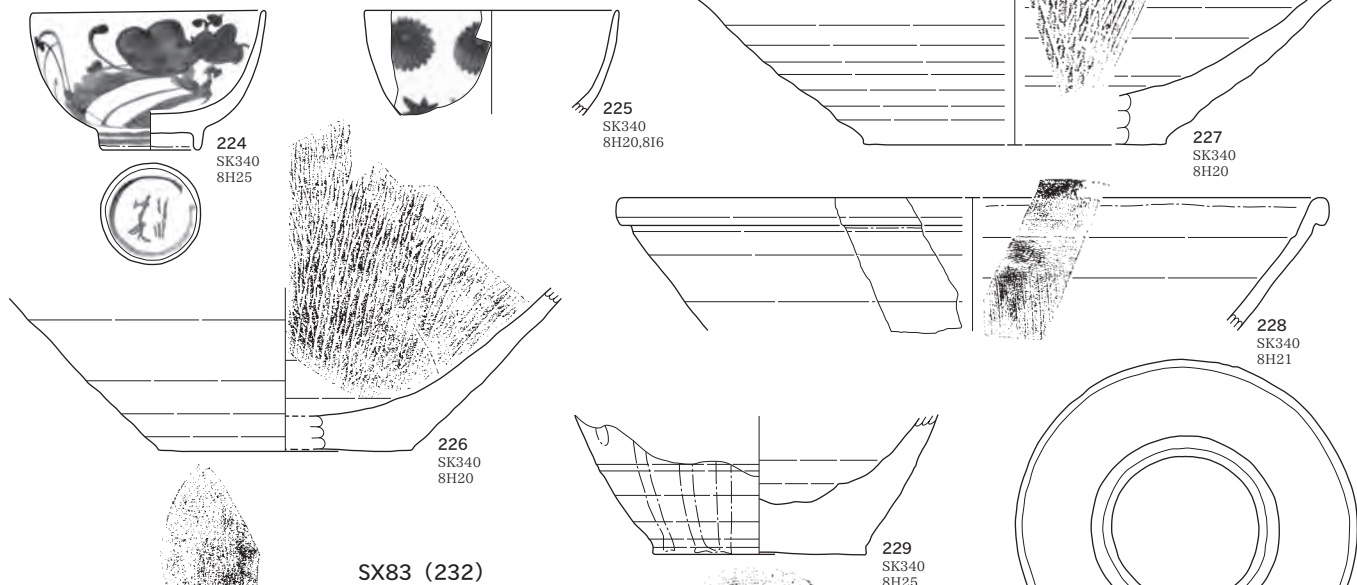
SK317 (216~219)



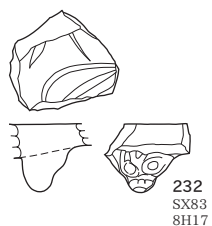
SK319 (223)



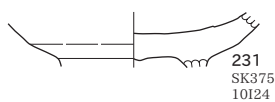
SK340 (224~230)



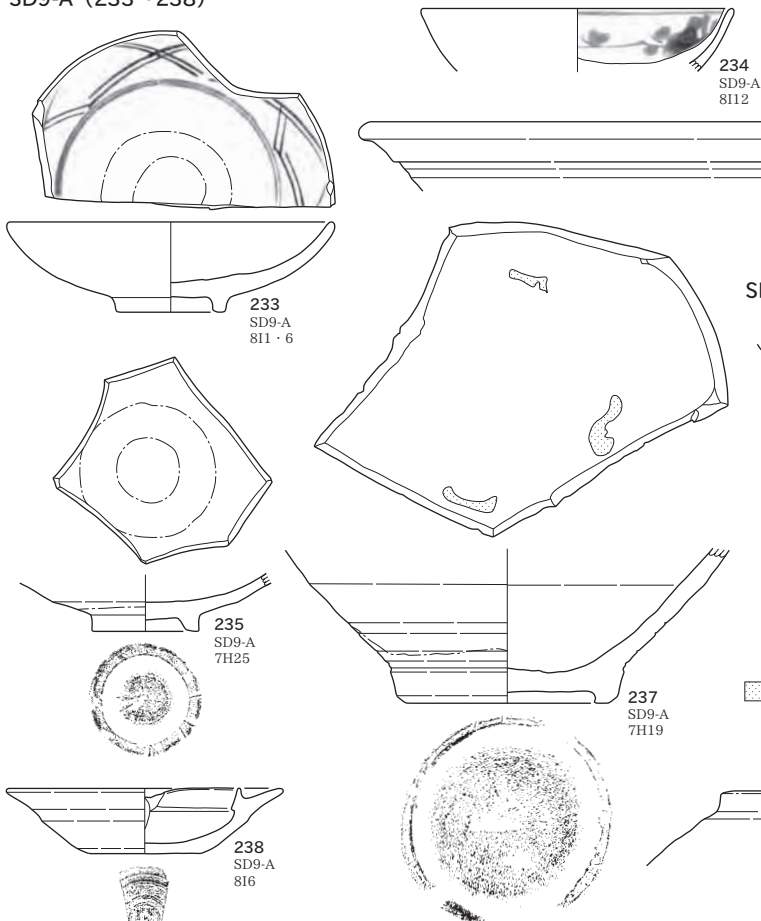
SX83 (232)



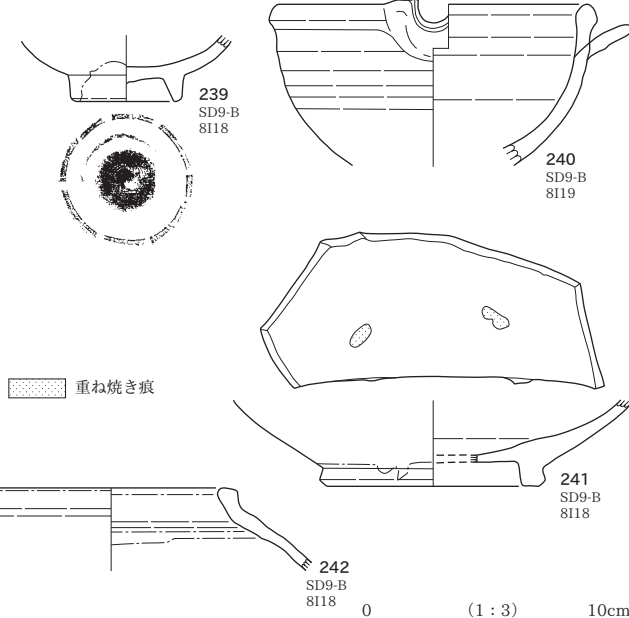
SK375 (231)



SD9-A (233~238)

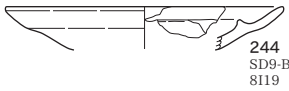
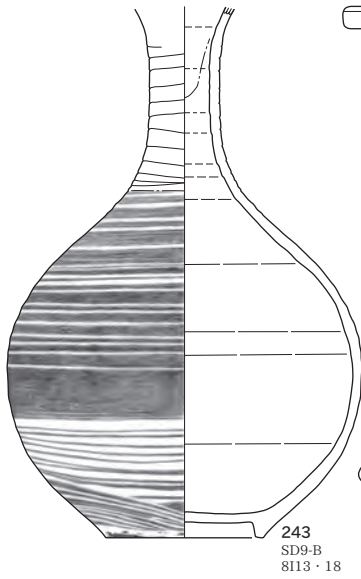


SD9-B (239~242)

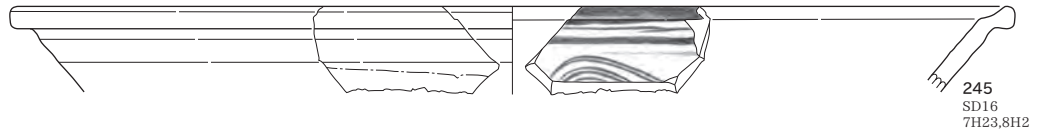


重ね焼き痕

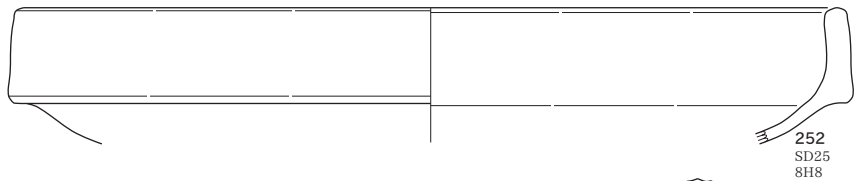
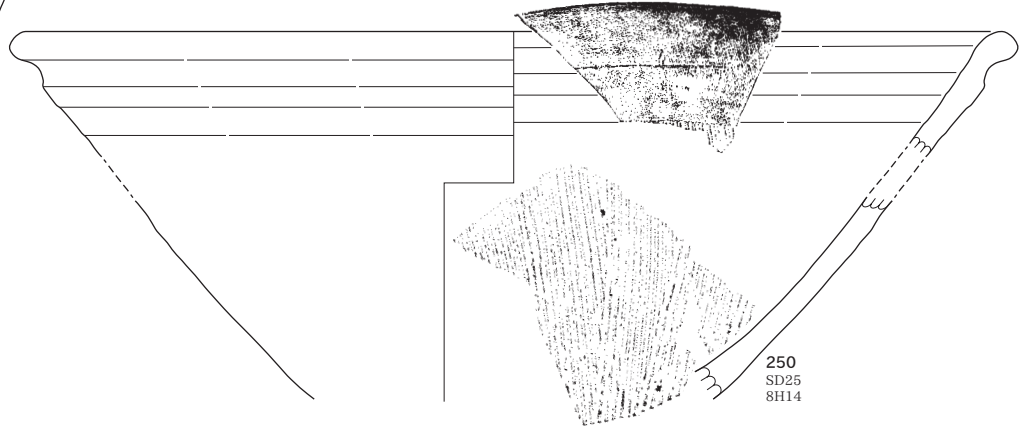
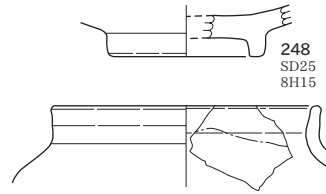
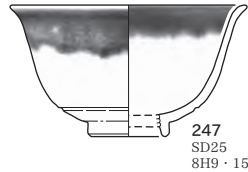
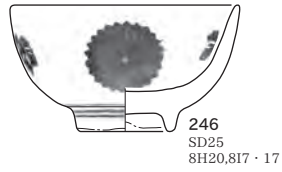
SD9-B (243 · 244)



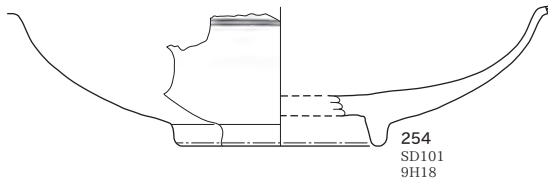
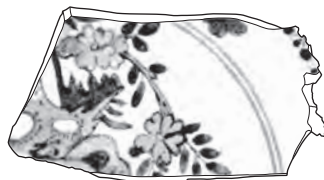
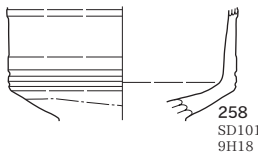
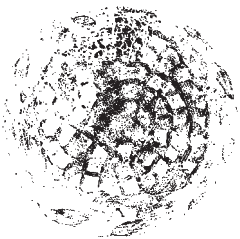
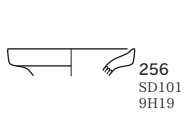
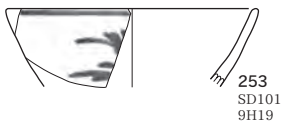
SD16 (245)



SD25 (246~252)

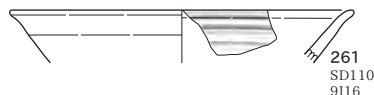
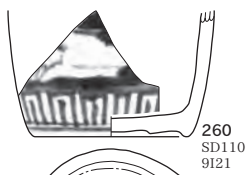


SD101 (253~259)

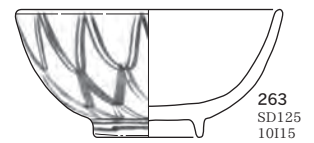
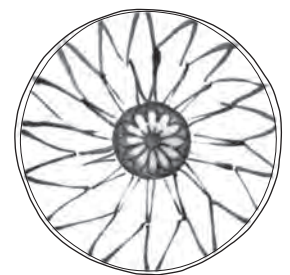
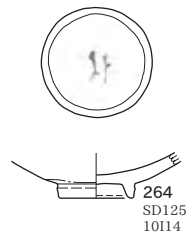
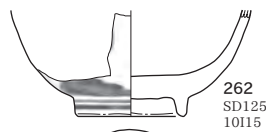


重ね焼き痕

SD110 (260 · 261)

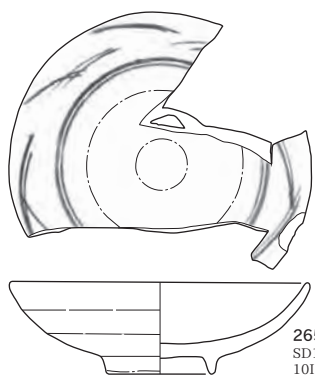


SD125 (262~264)

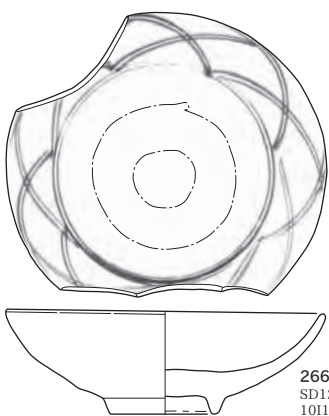


0 (1:3) 10cm

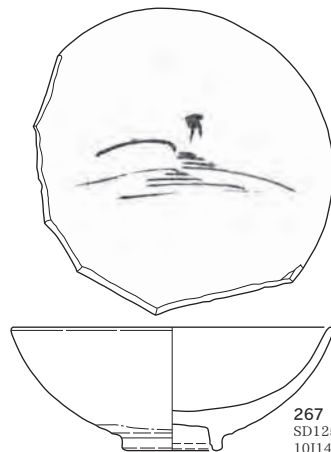
SD125 (265~270)



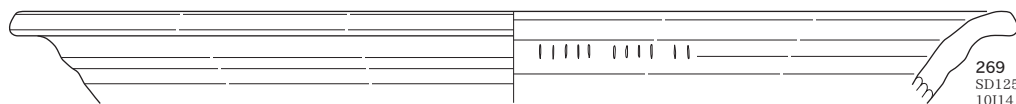
265
SD125
10115



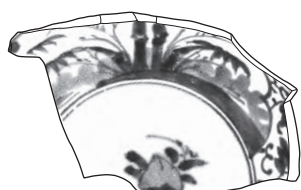
266
SD125
10115



267
SD125
10114



269
SD125
10114



268
SD125
10114



270
SD125
10110 · 15
1016 · 23

SD128 (271~279)



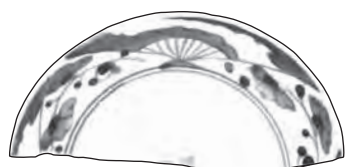
271
SD128
10J7



272
SD128
1113



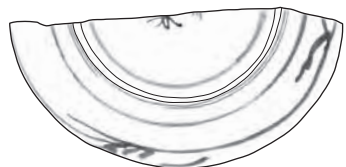
275
SD128
10J11



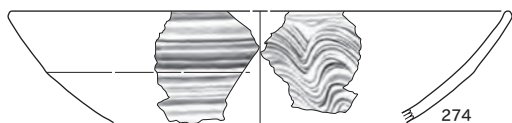
273
SD128
10124



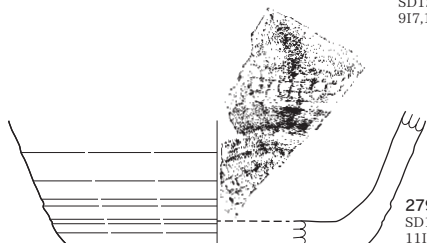
274
SD128
917,10120



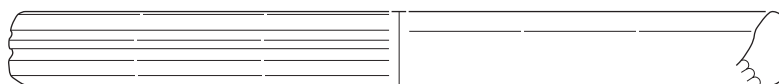
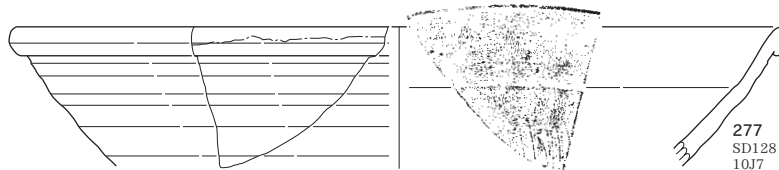
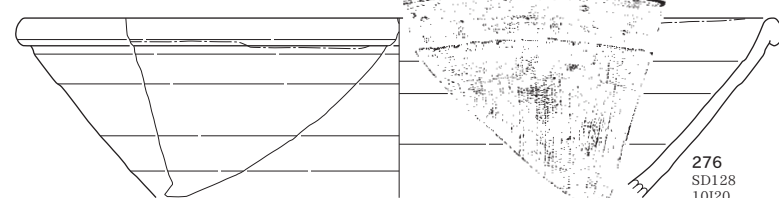
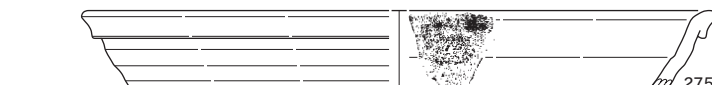
276
SD128
10120



277
SD128
10J7

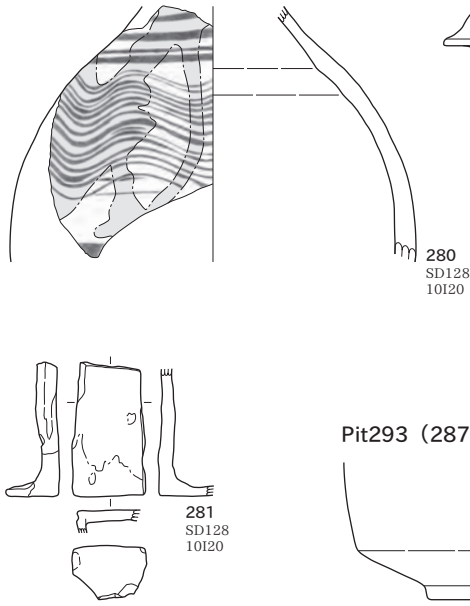


279
SD128
1113

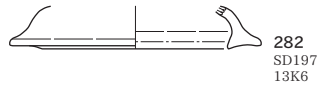


278
SD128
1113

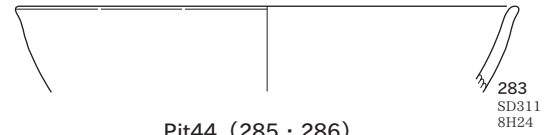
SD128 (280 · 281)



SD197 (282)



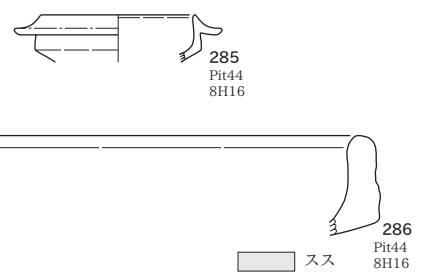
SD311 (283)



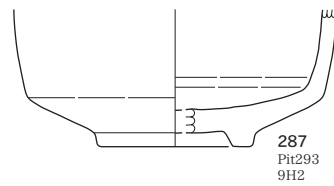
SD438 (284)



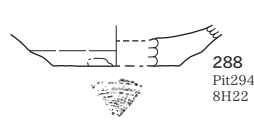
Pit44 (285 · 286)



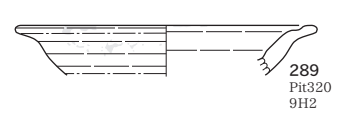
Pit293 (287)



Pit294 (288)



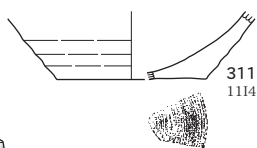
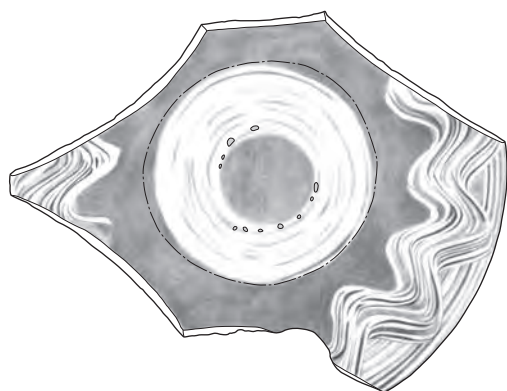
Pit320 (289)



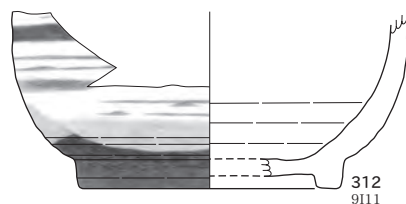
包含層 (290~309)



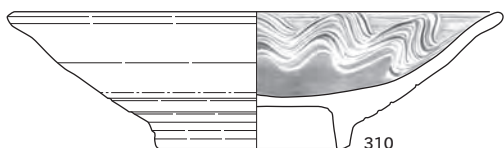
包含層 (310~324)



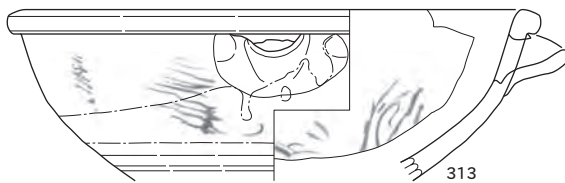
311
1114



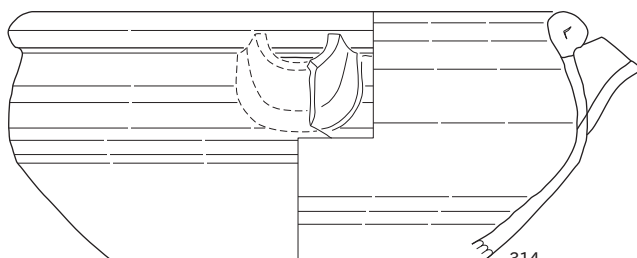
312
9111



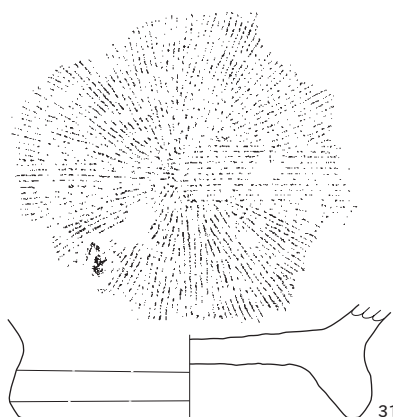
310
811



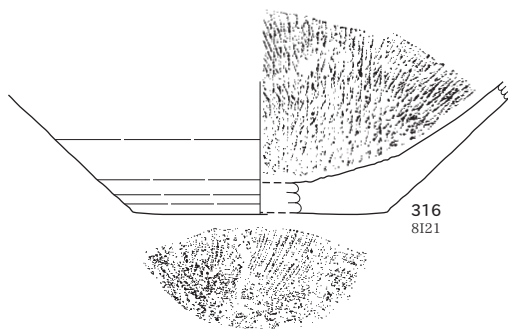
313
7H22



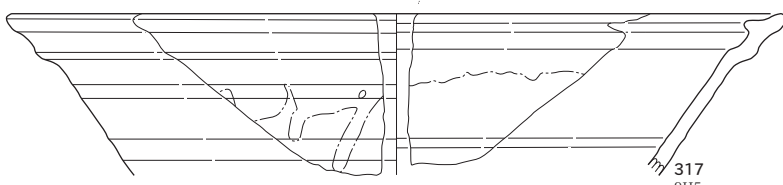
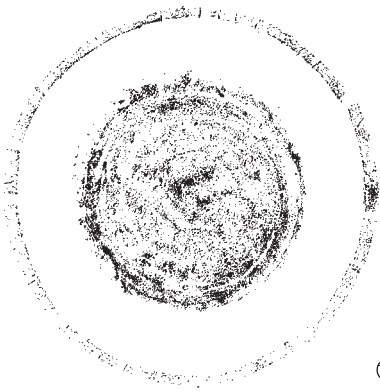
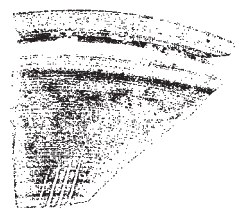
314
10J12



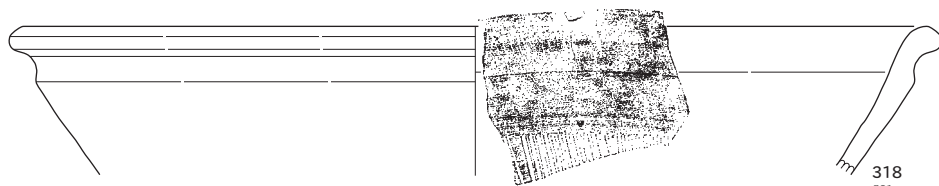
315
1112



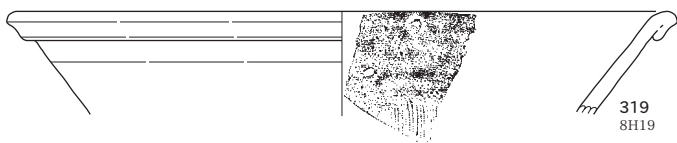
316
8I21



317
9H5



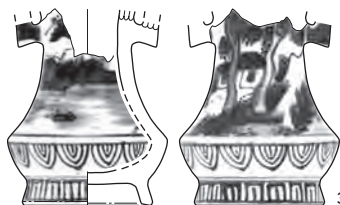
318
811



319
8H19



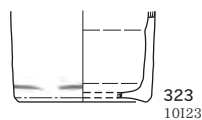
320
8H19



321
7H13



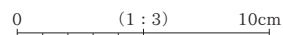
322
811



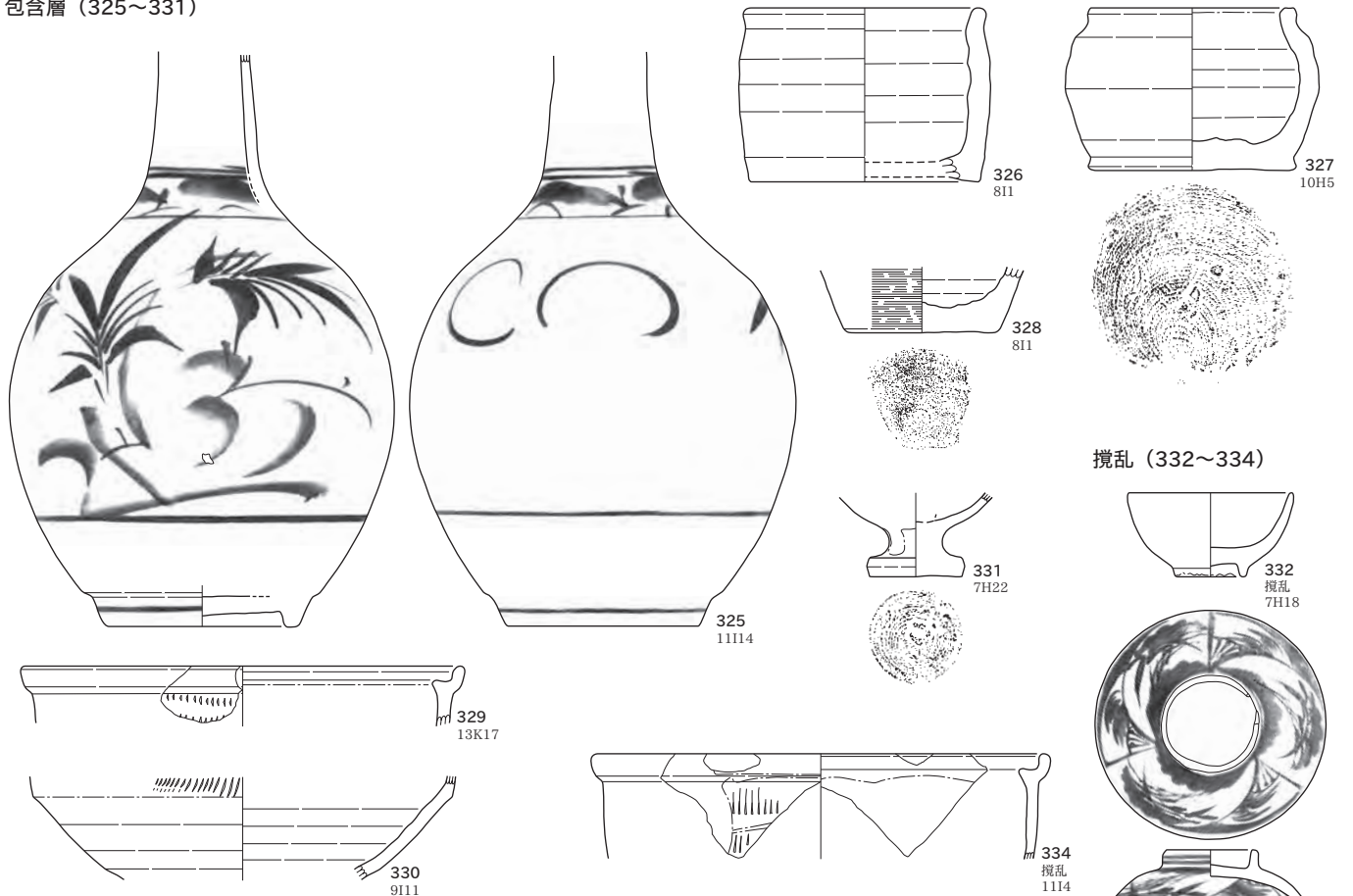
323
10I23



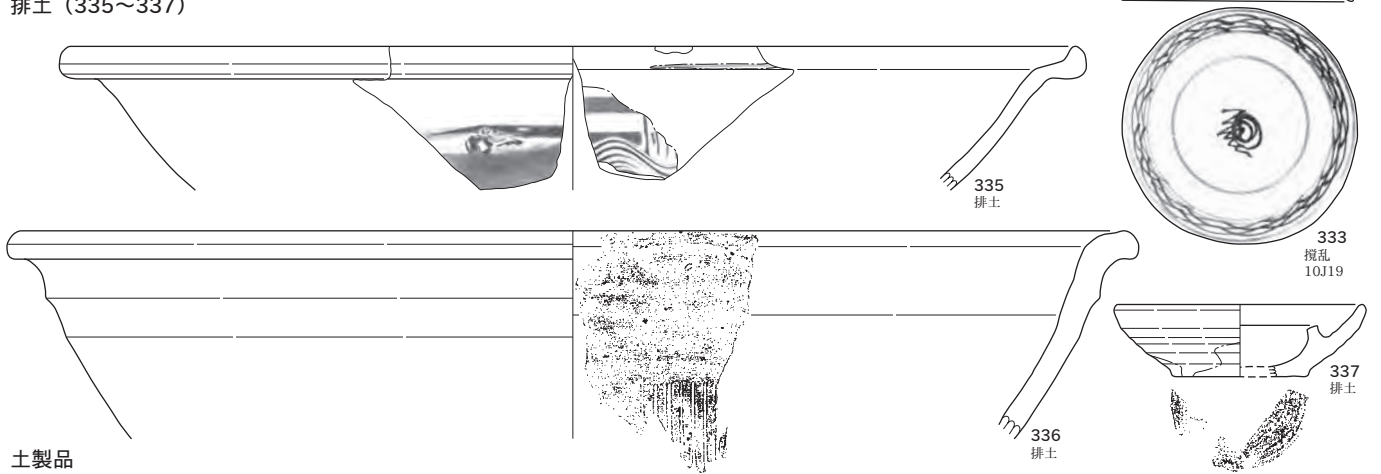
324
9I16



包含層 (325~331)

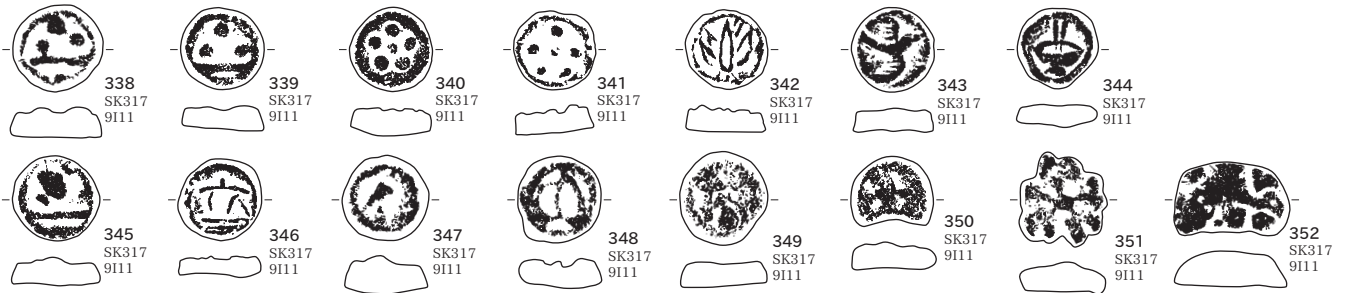


排土 (335~337)



土製品

SK317 (338~352)



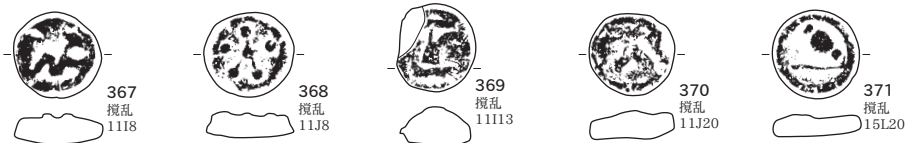
SK・SD・Pit (353~359)



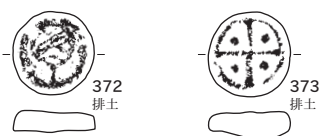
包含層 (360~366)



攪乱 (367~371)



排土 (372・373)



SE102 (374)



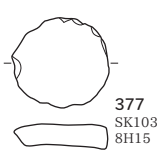
SE105 (375)



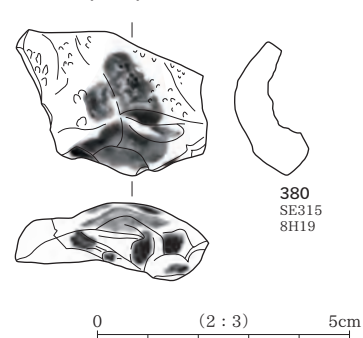
SE315 (376)



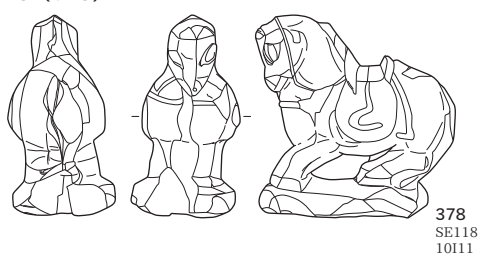
SK103 (377)



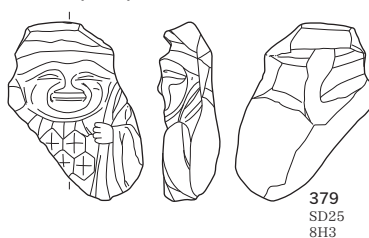
SE315 (380)



SE118 (378)



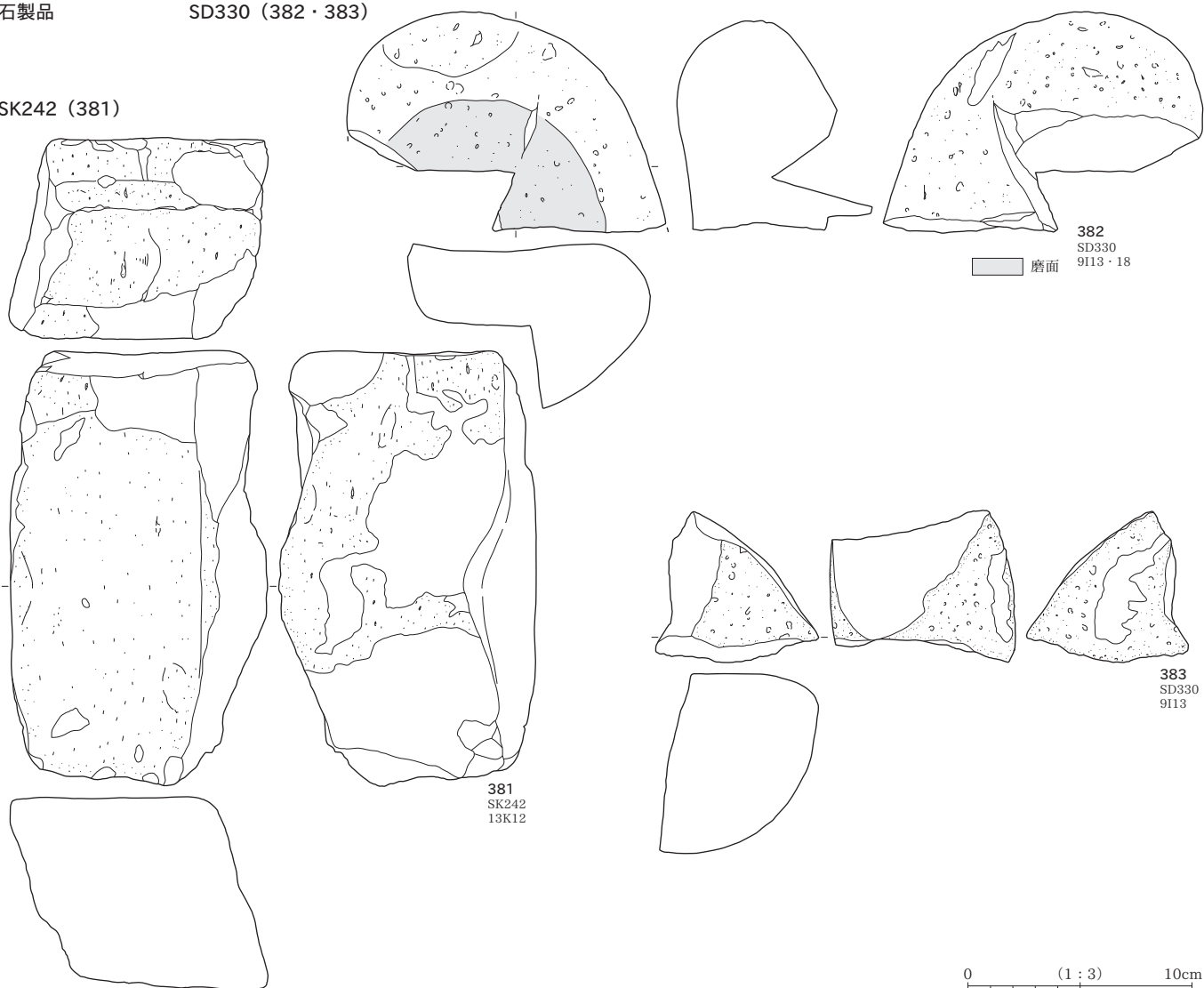
SD25 (379)



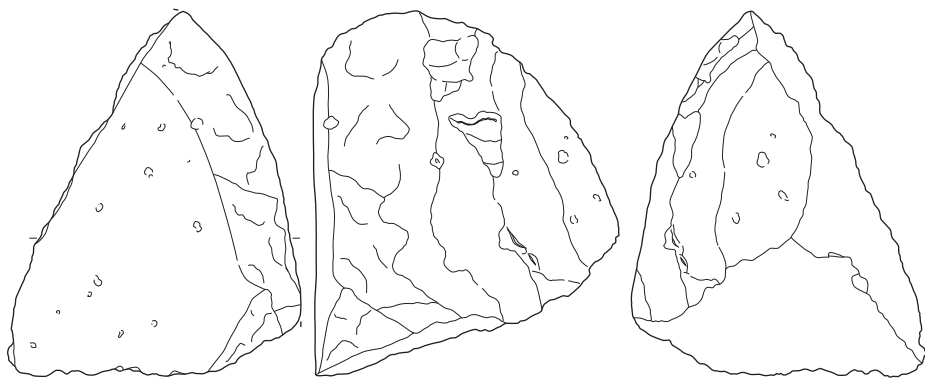
石製品

SD330 (382・383)

SK242 (381)

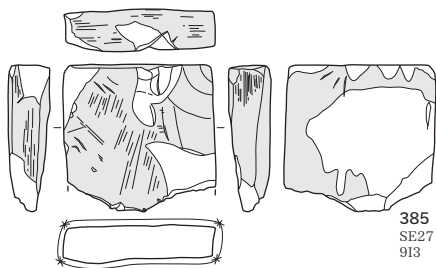


SD358 (384)

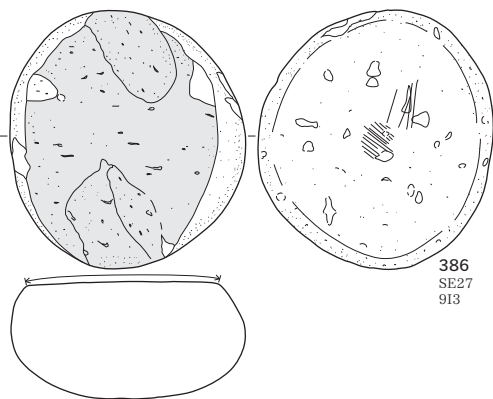


384
SD358
10H4

SE27 (385・386)

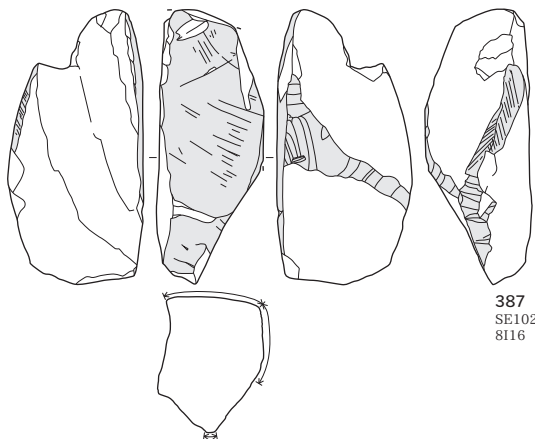


385
SE27
9I3



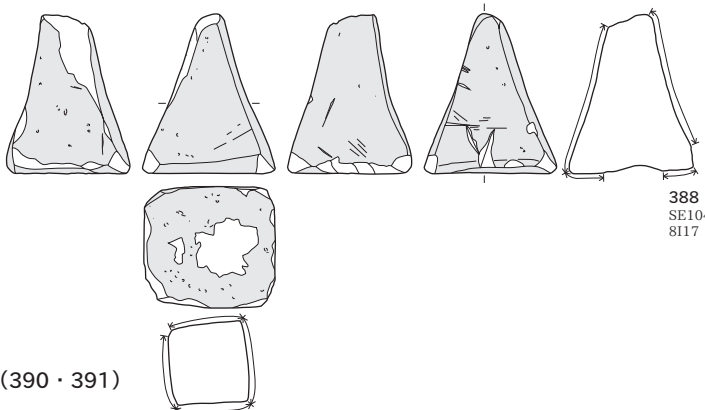
386
SE27
9I3

SE102 (387)



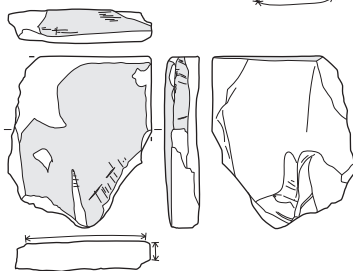
387
SE102
8I16

SE104 (388)



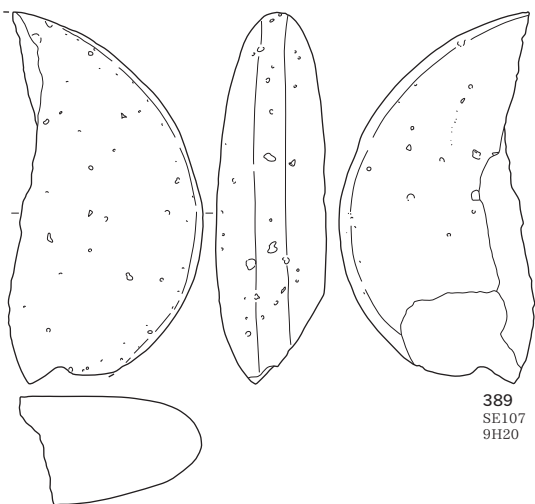
388
SE104
8I17

SE113 (390・391)

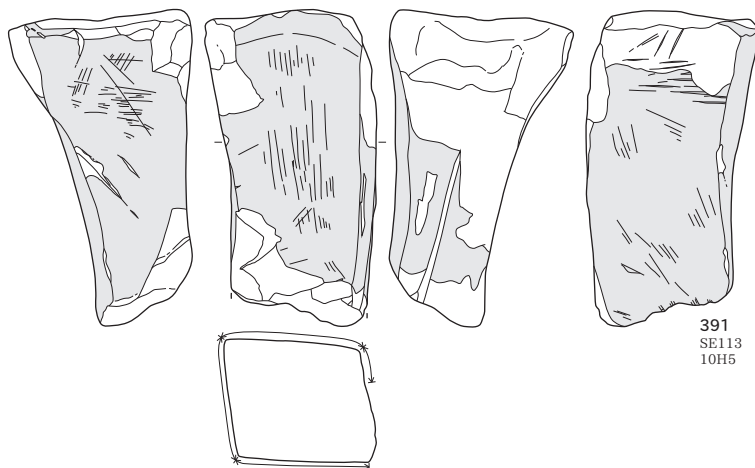


390
SE113
10H10

SE107 (389)



389
SE107
9H20

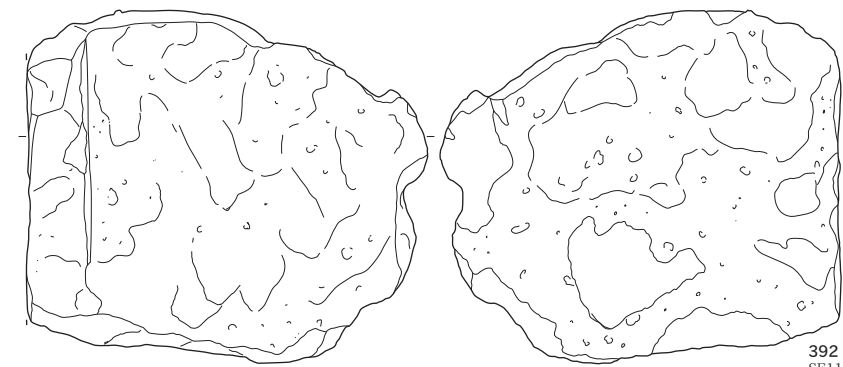


391
SE113
10H5

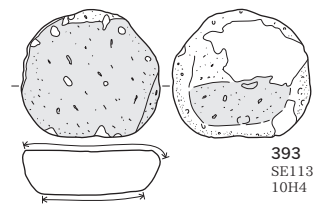
■ 砥面

0 (1:3) 10cm

SE113 (392 · 393)



392
SE113
10H4

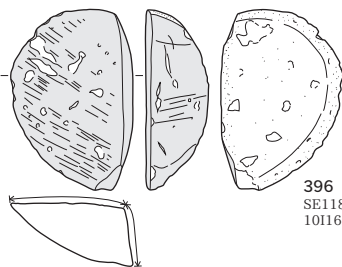


393
SE113
10H4

SE118 (394~396)

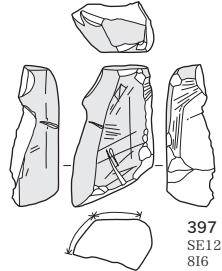


394
SE118
10I12

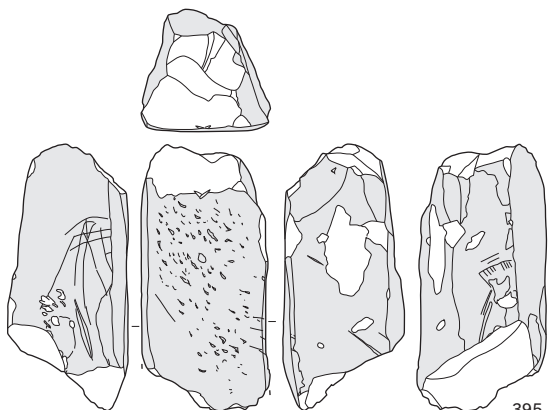
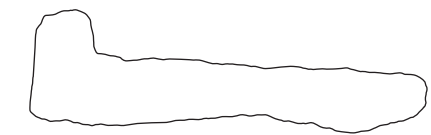


396
SE118
10I16

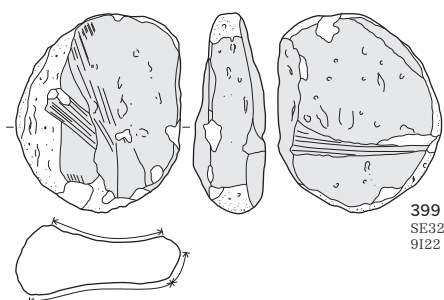
SE126 (397)



397
SE126
8I6

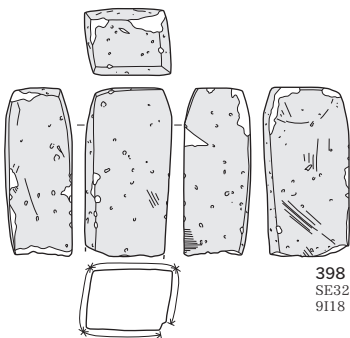


395
SE118
10I12

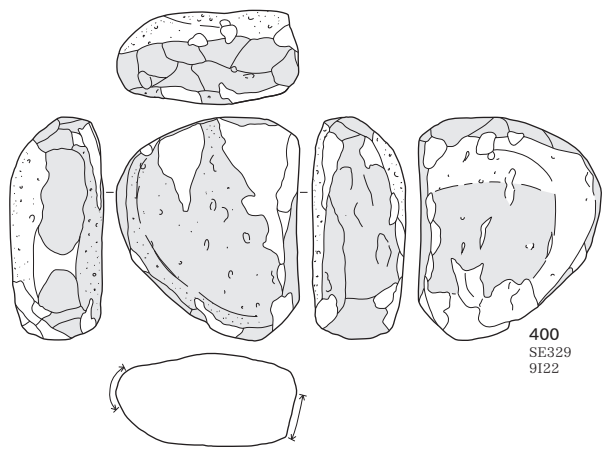


399
SE329
9I22

SE329 (398~400)

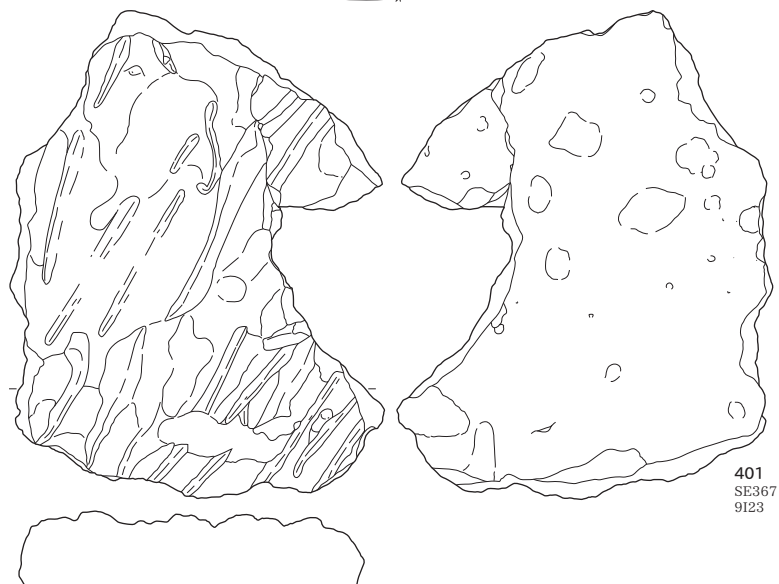


398
SE329
9I18



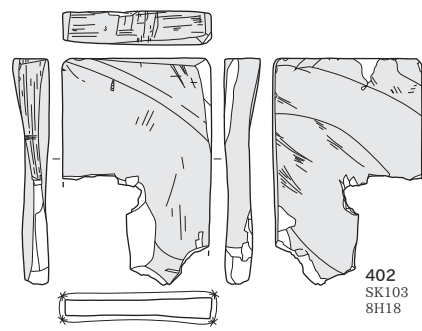
400
SE329
9I22

SE367 (401)



401
SE367
9I23

SK103 (402)

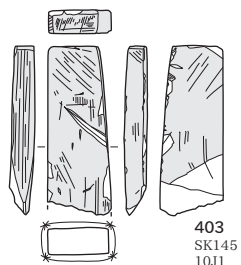


402
SK103
8H18

底面・磨面

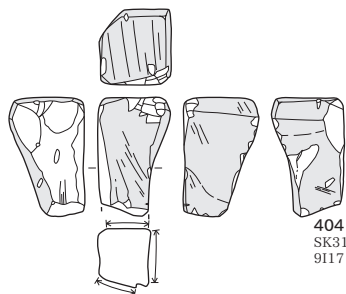
0 (1 : 3) 10cm

SK145 (403)



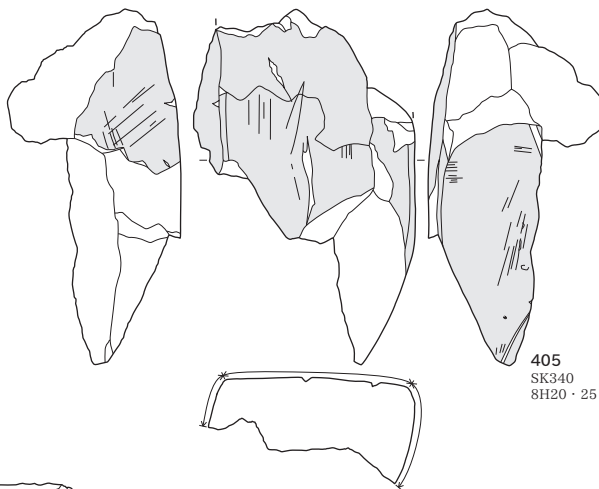
403
SK145
10J1

SK319 (404)

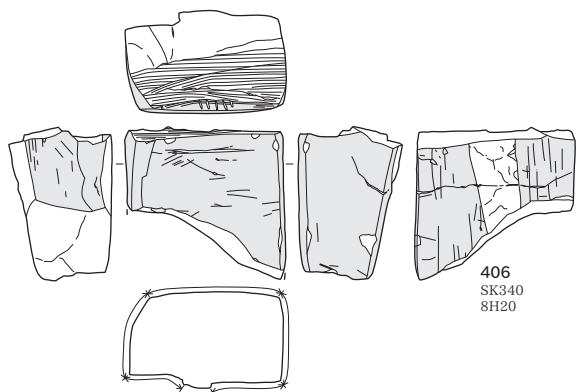


404
SK319
9I17

SK340 (405~407)

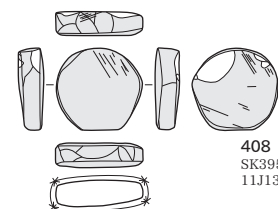


405
SK340
8H20・25



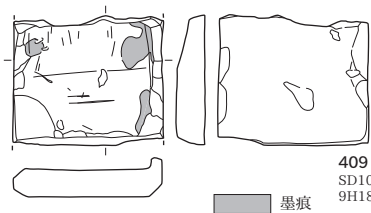
406
SK340
8H20

SK395 (408)



408
SK395
11J13

SD101 (409)



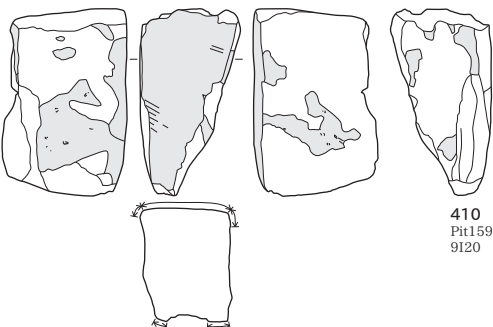
409
SD101
9H18

■ 墨痕



407
SK340
8H20

Pit159 (410)



410
Pit159
9I20

■ 砥面

0 (1:3) 10cm

錢貨
SK340 (411~413)



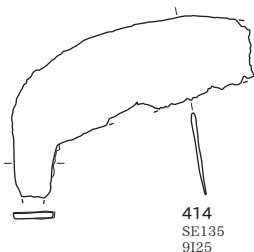
411
SK340
8H20

412
SK340
8H20

413
SK340
8H20

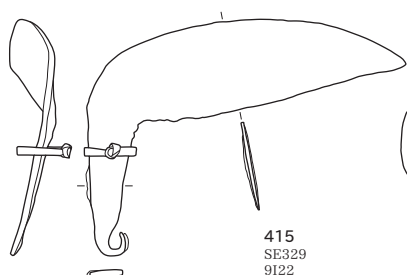
0 (2:3) 5cm

金属製品
SE135 (414)

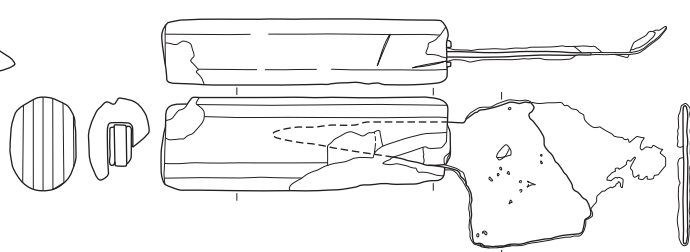


414
SE135
9I25

SE329 (415・416)



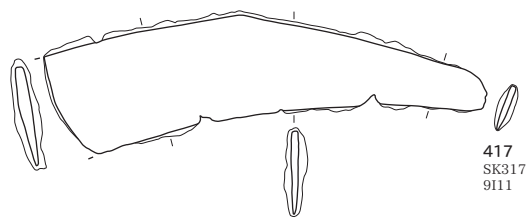
415
SE329
9I22



416
SE329
9I23

0 (1:3) 10cm

SK317 (417)



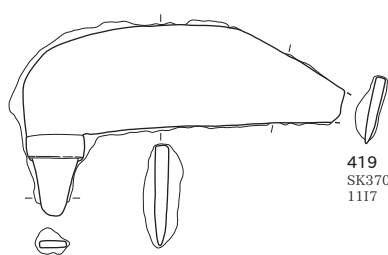
417
SK317
9111

SK319 (418)



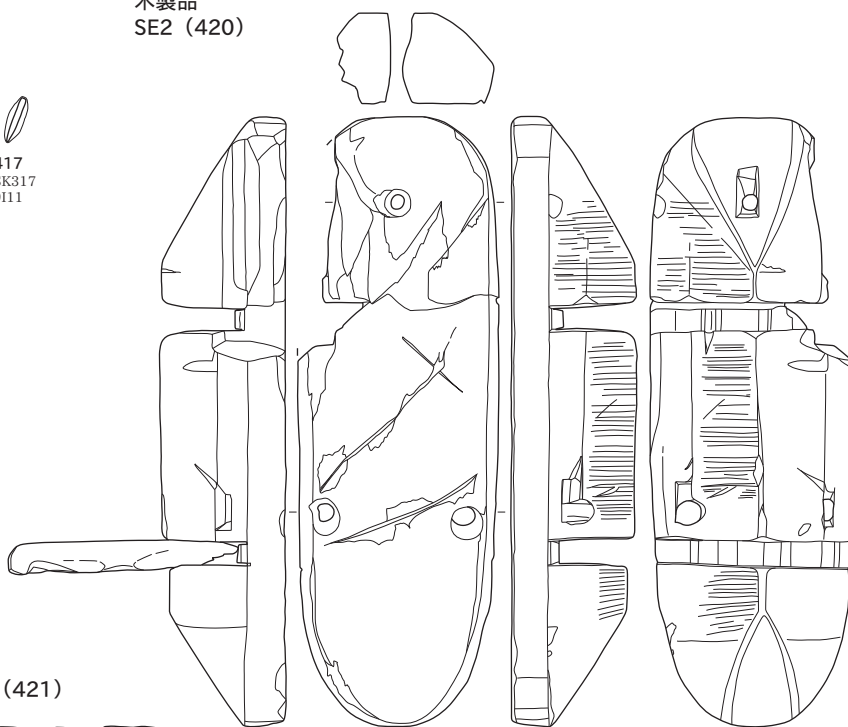
418
SK319
9122

SK370 (419)



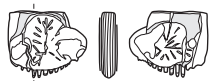
419
SK370
1117

木製品
SE2 (420)



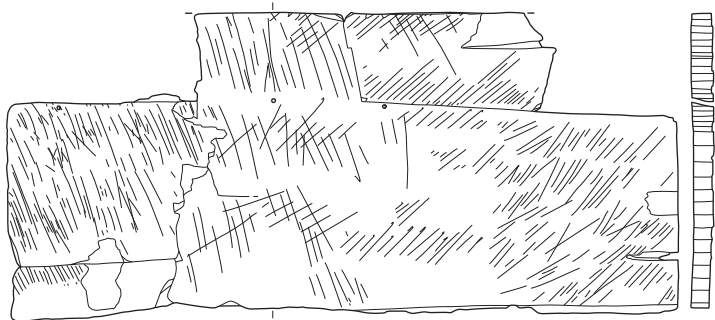
420a
SE2
7H14

SE27 (421)

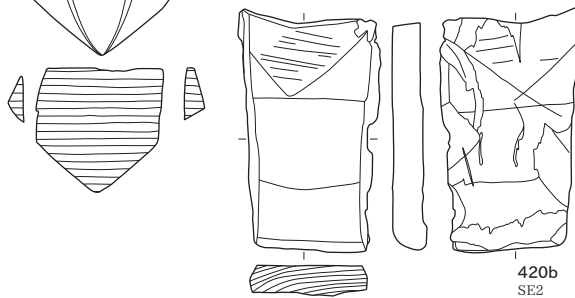


421
SE27
913

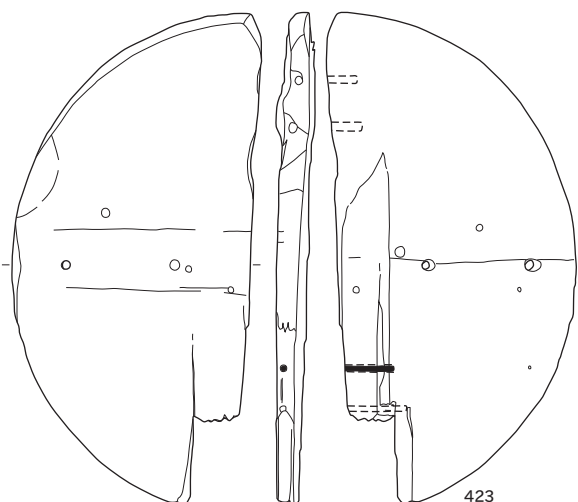
SE113 (422~424)



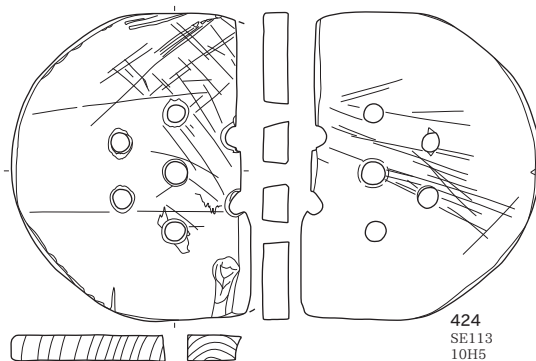
422
SE113
10H5



420b
SE2
7H14



423
SE113
10H5

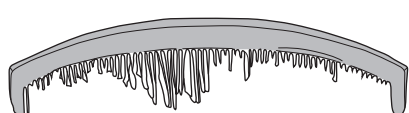


424
SE113
10H5

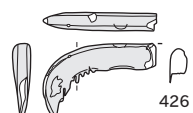


木釘

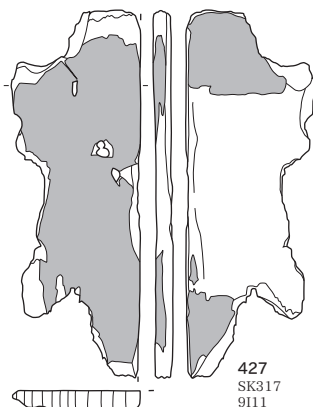
SK317 (425~427)



425
SK317
9111

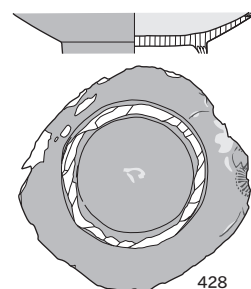


426
SK317
9111



427
SK317
9111

攪乱 (428)



428
攪乱
11118

赤漆
黒漆
金彩

0 (1:3) 10cm



亀田道下遺跡周辺空中写真

米軍撮影 1948 年 9 月 (国土地理院発行)



亀田道下遺跡空中写真 1 (南から)



亀田道下遺跡空中写真 2 (北西から)



亀田道下遺跡空中写真 3 (西から)



亀田道下遺跡空中写真 4 (上が北東)



亀田道下遺跡空中写真 5 (調査区北側)



亀田道下遺跡空中写真 6 (調査区南側)



調査前現況 (北西から)



調査前現況 (南東から)



基本層序 A、SD41 断面 (南東から)



基本層序 B、SX96、Pit301 断面 (北から)



基本層序 C (北東から)



基本層序 D、SD128・373 断面 (北東から)



基本層序 E (北東から)



基本層序 F、SD257 断面 (南東から)



基本層序 G、SD251 断面(南西から)



基本層序 H、SD128・373・374 断面(南西から)



基本層序 I、風倒木検出状況(北西から)



基本層序 J、立木検出状況(北西から)



SK193 断面(南東から)



SK193 完掘(南東から)



SK195 断面(南東から)



SK195 完掘(南東から)



SK215 断面 (南東から)



SK215 完掘 (南東から)



SK238 断面 (北東から)



SK238 完掘 (北東から)



SK242 断面 (南東から)



SK242 完掘 (南東から)



SK252 断面 (南東から)



SK252 完掘 (南東から)



SK254 断面(南西から)



SK254 完掘(南西から)



SK254 遺物出土状況(南西から)



SK283 断面(北東から)



SK283 完掘(北東から)



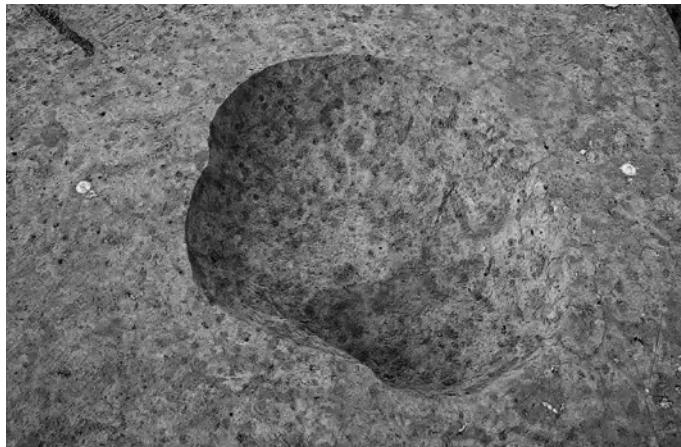
SK457 断面・遺物出土状況(南東から)



SK457 完掘(南東から)



SK495 断面(南東から)



SK495 完掘（南東から）



SD108 断面（南東から）



SD108 完掘（南東から）



SD108 遺物出土状況（南東から）



SD239 断面（南東から）



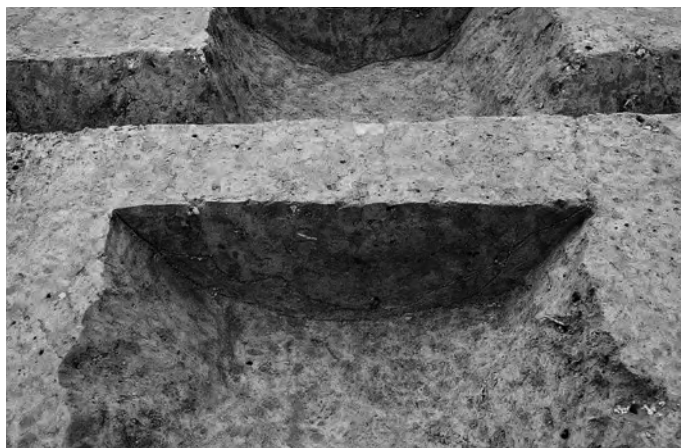
SD239 完掘（南東から）



SD255 断面（南東から）



SD255 完掘（南東から）



SD257 断面 (南東から)



SD257 完掘 (南東から)



SD272 断面 (北東から)



SD272 完掘 (北東から)



SD330 断面 (南東から)



SD330 断面 (南から)



SD330 断面 (南から)



SD330 断面 (北西から)



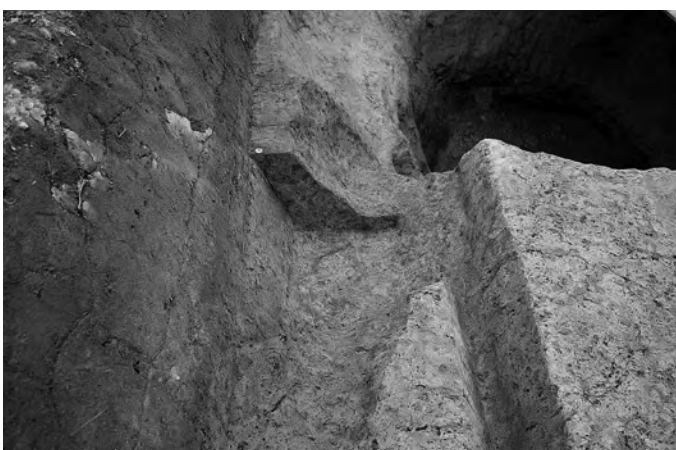
SD330 完掘 (北から)



SD330 完掘 (南から)



SD358 断面 (南から)



SD358 完掘 (南から)



SN503 断面 (南東から)



SN503 完掘 (南東から)



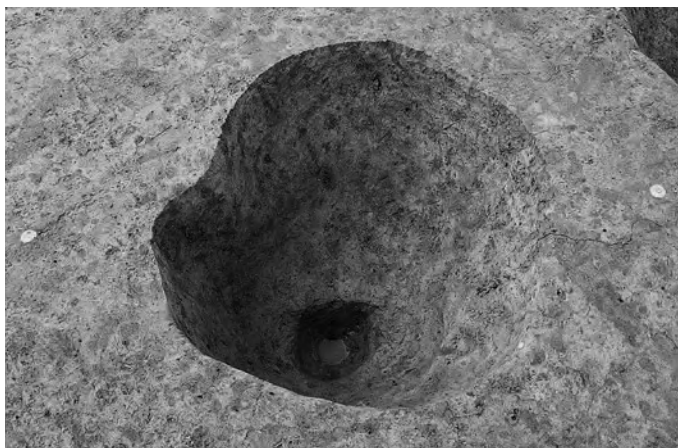
SN504 断面 (南東から)



SN504 完掘 (南東から)



Pit264 断面(南東から)



Pit264 完掘(南東から)



Pit449 断面(南東から)



Pit449 完掘(南東から)



Pit471 断面(南東から)



Pit471 完掘(南東から)



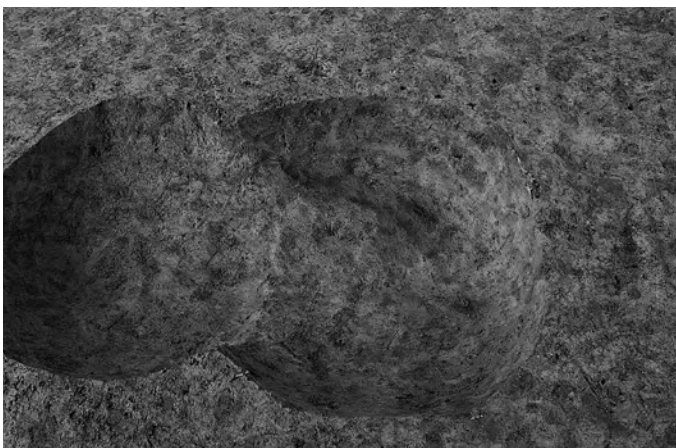
Pit521 断面(東から)



Pit521 完掘(東から)



Pit522 断面(南東から)



Pit522 完掘(南東から)



Pit526 断面(南東から)



Pit526 完掘(南東から)



SE2 断面・完掘(南西から)



SE27 断面(南西から)



SE27 完掘(南西から)



SE87、Pit293 断面(北東から)



SE87 完掘（北東から）



SE102 完掘（南西から）



SE104 断面（南東から）



SE104 完掘（南東から）



SE105 断面（東から）



SE105 完掘（東から）



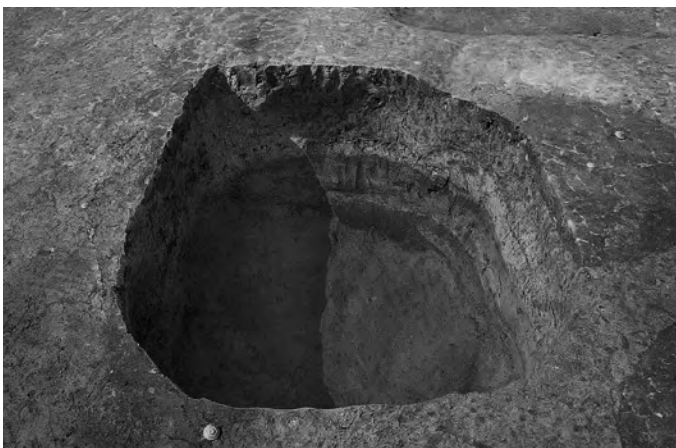
SE107 断面（南東から）



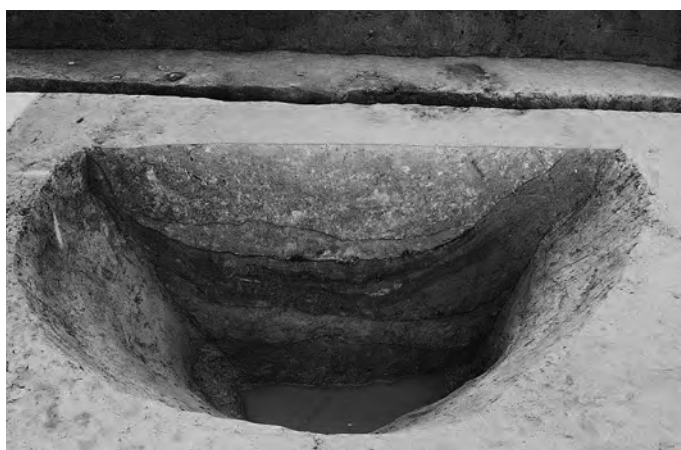
SE107 完掘（南東から）



SE111 断面 (南東から)



SE111 完掘 (南東から)



SE113 断面 (北東から)



SE113 完掘 (北東から)



SE118 断面 (東から)



SE118 完掘 (東から)



SE119・120 断面・完掘 (北東から)



SE120 断面・完掘 (北東から)



SE126 断面（南東から）



SE126 完掘（南東から）



SE135 断面（南東から）



SE135 完掘（南東から）



SE315 断面（北東から）



SE315 タガ1 段目出土状況（北東から）



SE315 タガ2 段目出土状況（北東から）



SE315 完掘（北東から）



SE316 完掘 (南から)



SE329 断面 (北東から)



SE329 完掘 (北東から)



SE367 断面 (南から)



SE367 完掘 (南から)



調査区北東側井戸群 (東から)



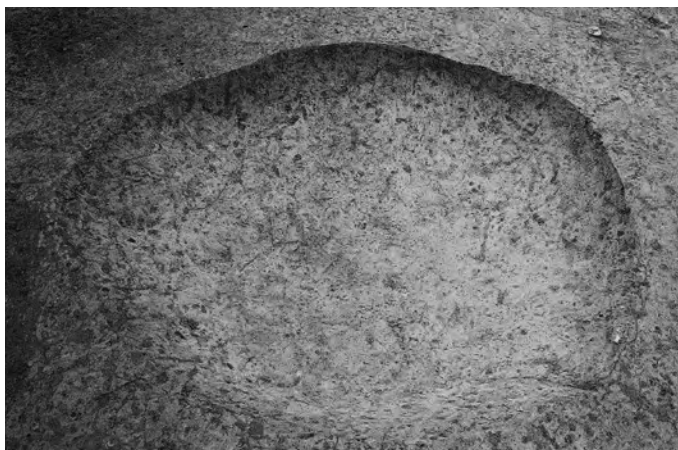
SK10 断面 (南東から)



SK10 完掘 (南東から)



SK18 断面(南東から)



SK18 完掘(南東から)



SK19 断面(北東から)



SK19 完掘(北東から)



SK24、SD25 断面(南東から)



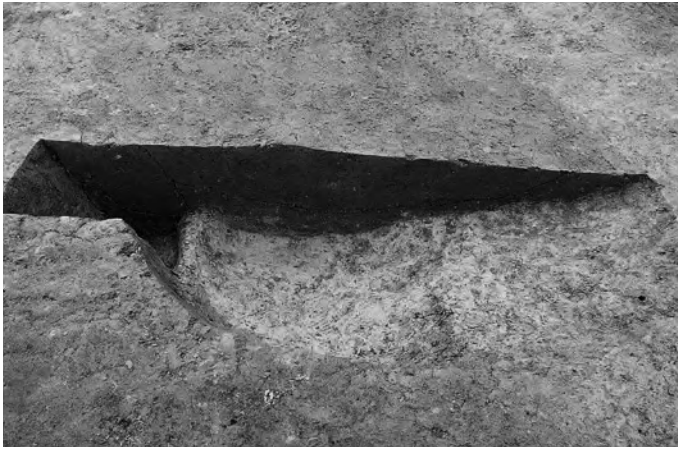
SK24 完掘(南東から)



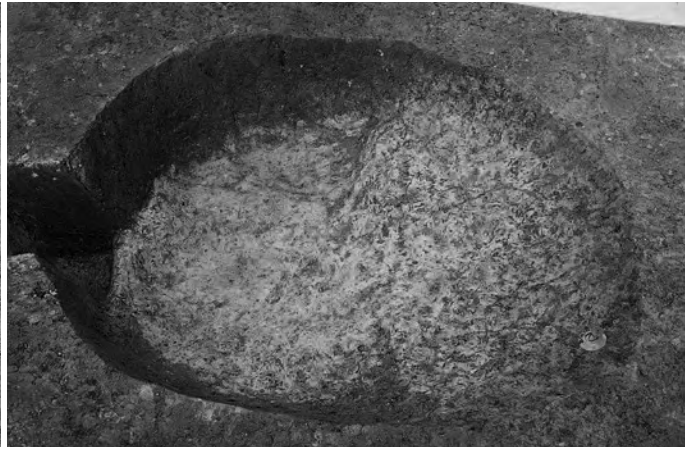
SK37 断面(東から)



SK37 完掘(東から)



SK38 断面 (南東から)



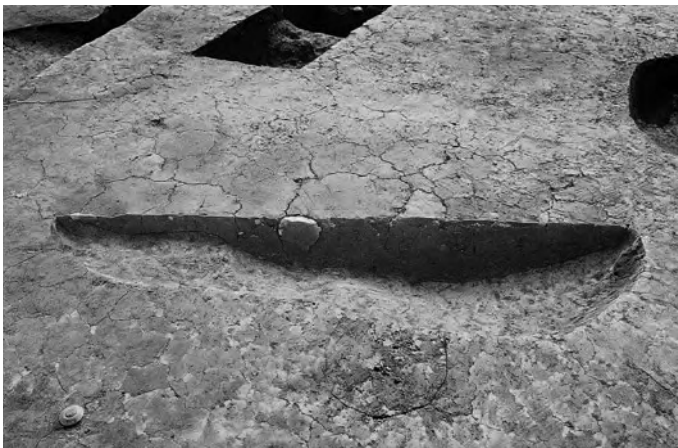
SK38 完掘 (南東から)



SK39 断面 (南東から)



SK39 完掘 (南東から)



SK53 断面 (北東から)



SK53 完掘 (北東から)



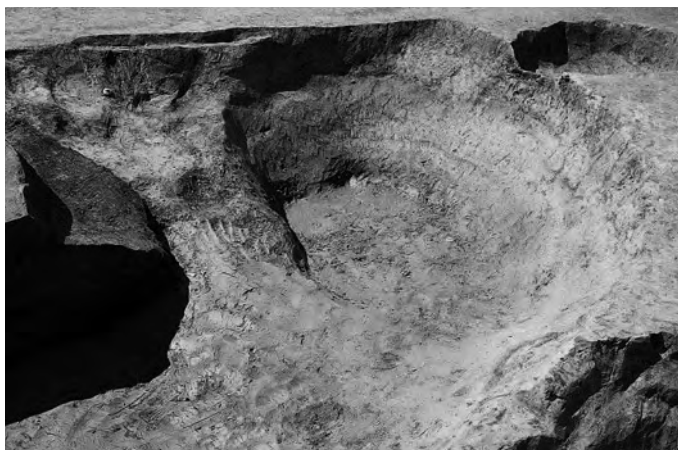
SK88 断面 (南東から)



SK88 完掘 (南東から)



SK103 断面 (北東から)



SK103 完掘 (北東から)



SK109、SD108 断面 (南東から)



SK109 完掘 (南東から)



SK117 断面 (南東から)



SK117 完掘 (南東から)



SK145 断面 (北東から)



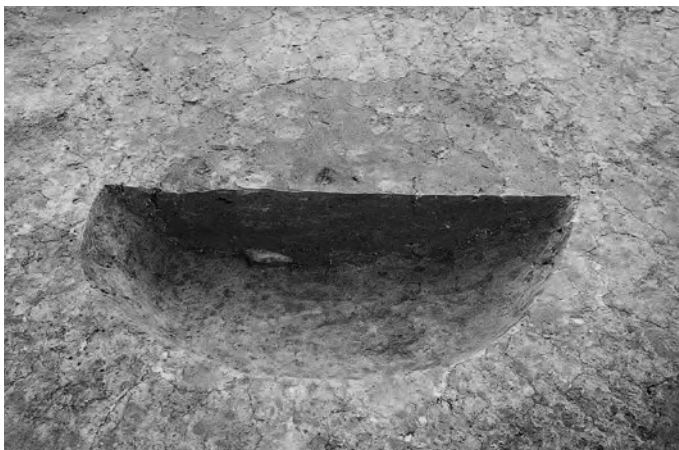
SK145 完掘 (北東から)



SK160 断面(南西から)



SK160 完掘(南西から)



SK163 断面(北東から)



SK163 完掘(北東から)



SK167 断面(西から)



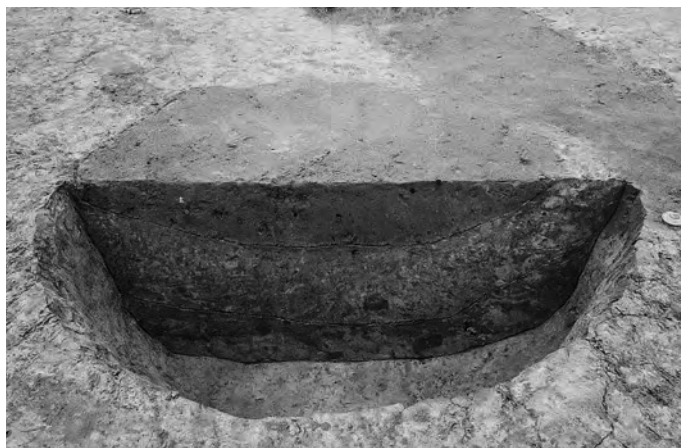
SK167 完掘(西から)



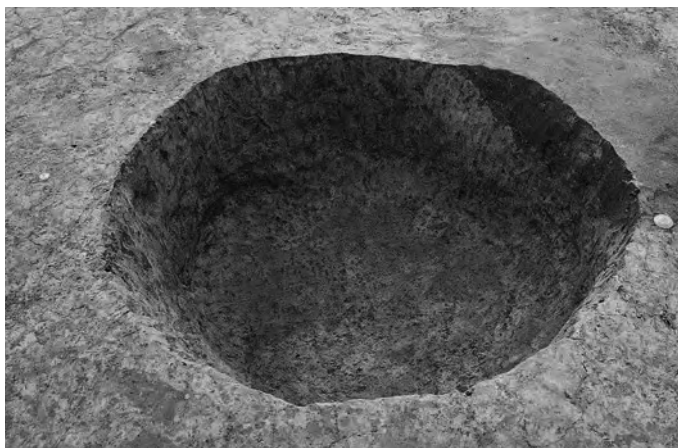
SK180 断面(北東から)



SK180 完掘(北東から)



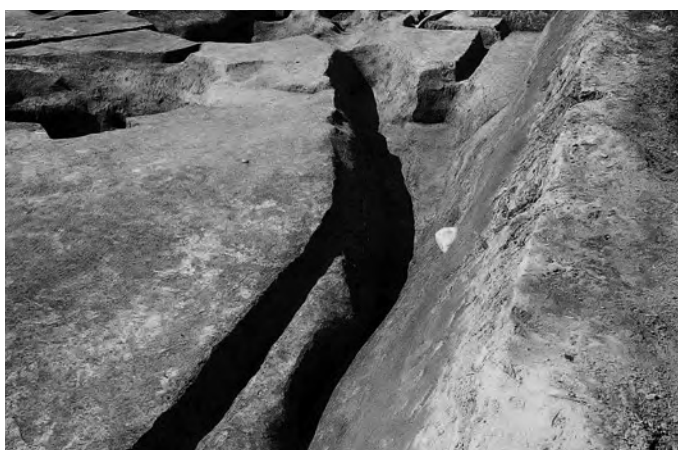
SK181 断面 (北東から)



SK181 完掘 (北東から)



SK280、SD9-B 断面 (南東から)



SK280、SD9-B 完掘 (南東から)



SK317 断面 (南東から)



SK317 完掘 (南東から)



SK319 断面 (北東から)



SK319 完掘 (北東から)



SK340 断面(北東から)



SK340 完掘(北東から)



SK370・372、SD128・373 断面(北東から)



SK370 完掘(北東から)



SK372 完掘(北東から)



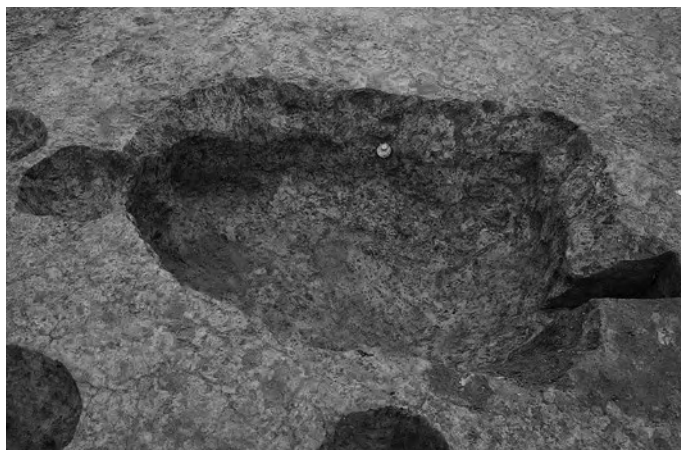
SK375 断面(北東から)



SK375 完掘(北東から)



SK395、Pit394 断面(南東から)



SK395、Pit394 完掘（南東から）



SK518 断面・完掘（南東から）



SX71 断面（南東から）



SX71 完掘（南東から）



SX79、Pit294 断面（北から）



SX79、Pit294 完掘（北から）



SX83 断面（北東から）



SX83 完掘（北東から）



SX96、Pit301 断面・完掘（北から）



SX241 断面（南東から）



SX241 完掘（南東から）



SX302 完掘（南東から）



SD9-A 断面（南東から）



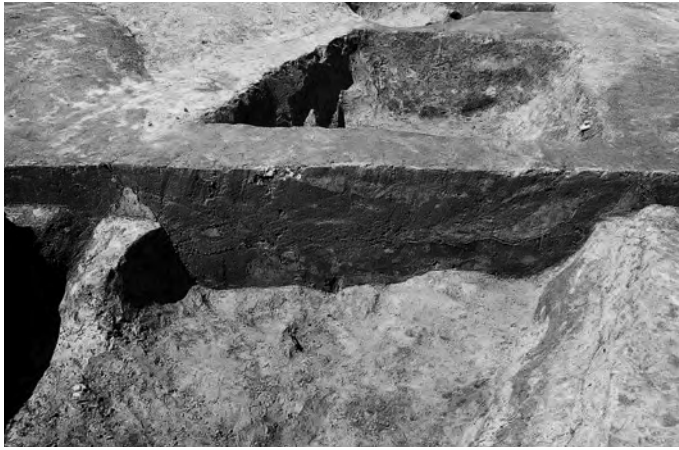
SD9-A 完掘（南東から）



SD17 断面（南東から）



SD16・17 断面・完掘（南東から）



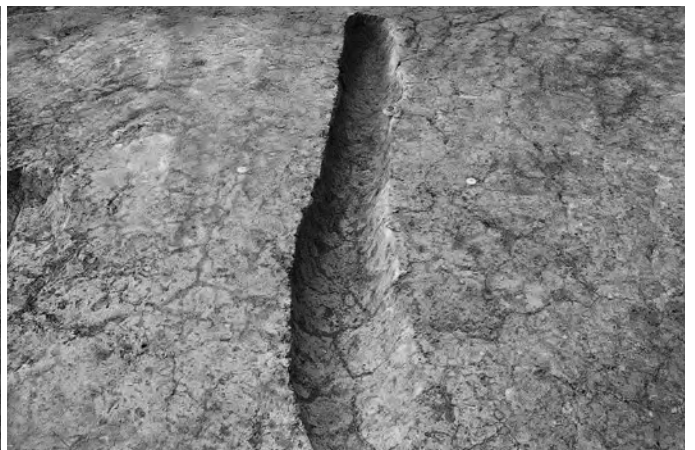
SD25 断面(南東から)



SD25 完掘(南東から)



SD35 断面(南東から)



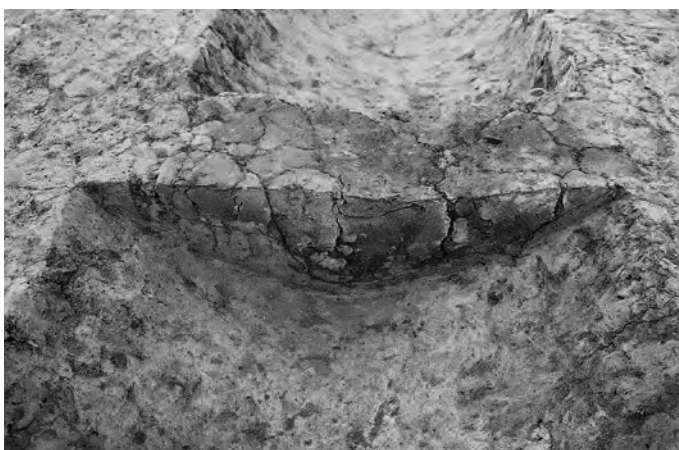
SD35 完掘(南東から)



SD41 断面(南東から)



SD41 完掘(南東から)



SD100・368 断面(南東から)



SD100・368 断面(南東から)



SD100・368 完掘（南東から）



SD101 断面（北東から）



SD101 断面（北東から）



SD101 完掘（北東から）



SD110 断面（北東から）



SD110 完掘（北東から）



SD124 断面（南東から）



SD124 完掘（南東から）



SD125 断面 (北東から)



SD125 断面 (北東から)



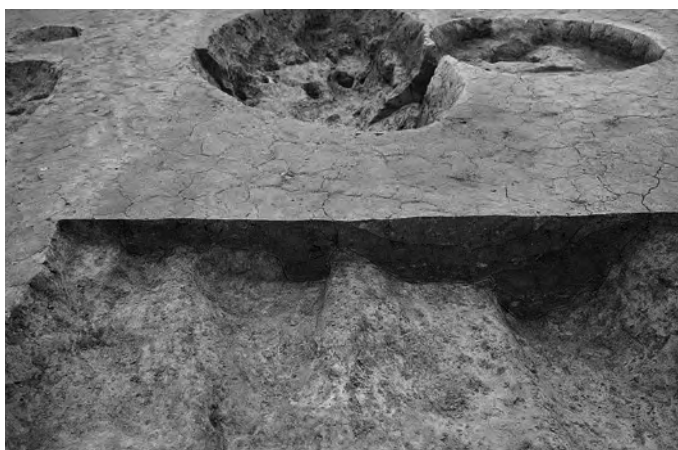
SD125・384 断面 (北東から)



SD125・384 完掘 (北東から)



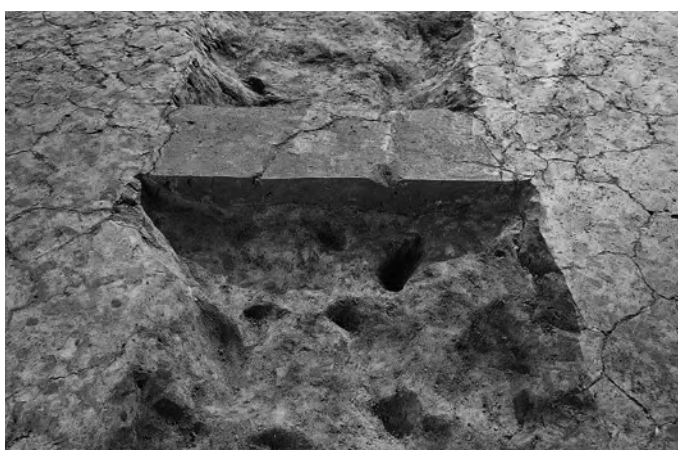
SD128・373 断面 (北東から)



SD128・373・374 断面 (北東から)



SD128・373・374 完掘 (北東から)



SD133 断面 (北東から)



SD133 完掘 (北東から)



SD138、Pit366 断面 (南西から)



SD138、Pit366 完掘 (南西から)



SD150 断面 (南東から)



SD150 断面 (南東から)



SD150 完掘 (南東から)



SD164 断面 (南東から)



SD164 完掘 (南東から)



SD192 断面 (北東から)



SD192 完掘 (北東から)



SD196・197 断面 (北東から)



SD196・197・411 断面 (南東から)



SD197・436 断面 (南東から)



SD248・436 断面 (南東から)



SD411・437・438・439 断面 (北西から)



SD196・197・248・411・436～439 完掘 (南東から)



SD251 断面 (南東から)



SD251 断面 (南東から)



SD251 断面 (南東から)



SD251 完掘 (南東から)



SD291 断面 (南東から)



SD291 完掘 (南東から)



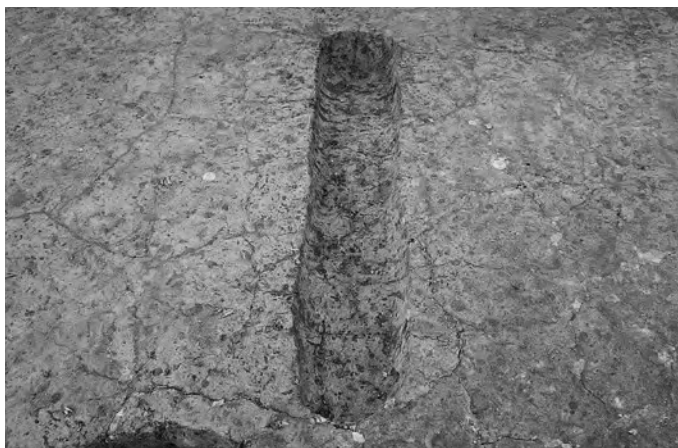
SD292 断面 (南東から)



SD292 完掘 (南東から)



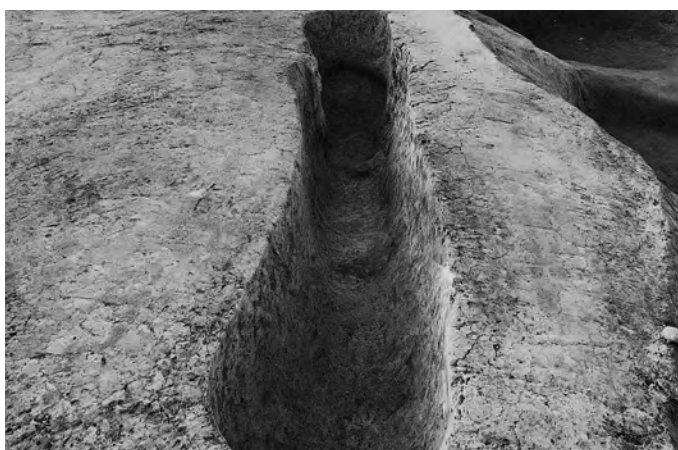
SD308 断面 (南東から)



SD308 完掘 (南東から)



SD311 断面 (南東から)



SD311 完掘 (南東から)



SD355 断面 (南東から)



SD355 完掘 (南東から)



SD359 断面 (南東から)



SD359 完掘 (南東から)



SD381 断面(北東から)



SD381 完掘(北東から)



SD396 断面(南東から)



SD396 完掘(南東から)



SD409 断面(北東から)



SD409 完掘(北東から)



SD445 断面(南から)



SD445 完掘(南から)



SD450 断面 (北東から)



SD450 完掘 (北東から)



SD451 断面 (北東から)



SD451 完掘 (北東から)



SD501 断面 (南東から)



SD501 完掘 (南東から)



SN218 ~ 221 断面 (北東から)



SN218 ~ 221 完掘 (北東から)



SN222 断面 (北東から)



SN222 完掘 (北東から)



SN223・225～230 断面 (北東から)



SN223・225～230 完掘 (北東から)



SN233～237・468・469 断面 (北東から)



SN233～237・468・469 完掘 (北東から)



SN256 断面 (北東から)



SN256 完掘 (北東から)



SB1 完掘（北西から）



Pit3 (SB1) 断面（西から）



Pit3 (SB1) 完掘（西から）



Pit11 (SB1) 断面（南東から）



Pit11 (SB1) 完掘（南東から）



SB2 完掘 (北西から)



Pit44 (SB2) 断面 (北東から)



Pit44 (SB2) 完掘 (北東から)



Pit82 (SB2) 断面 (南東から)



Pit82 (SB2) 完掘 (南東から)



Pit84 (SB2) 断面(東から)



Pit84 (SB2) 完掘(東から)



Pit86 (SB2) 断面(北東から)



Pit86 (SB2) 完掘(北東から)



Pit89 (SB2) 断面(南東から)



Pit89 (SB2) 完掘(南東から)



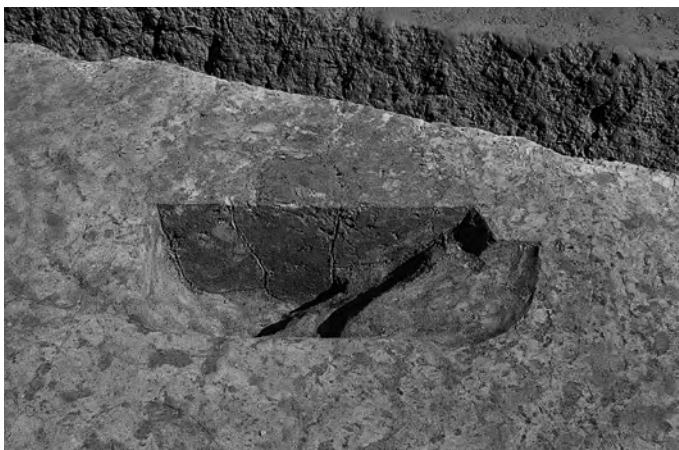
Pit139 (SB2) 断面(南東から)



Pit139 (SB2) 完掘(南東から)



SB3 完掘 (北西から)



Pit28 (SB3) 断面 (南西から)



Pit28 (SB3) 完掘 (南西から)



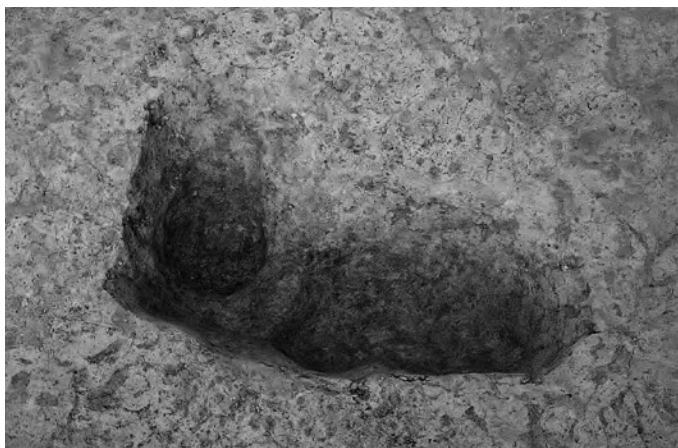
Pit31 (SB3) 断面 (北東から)



Pit31 (SB3) 完掘 (北東から)



Pit62・63 (SB3) 断面 (南東から)



Pit62・63 (SB3) 完掘 (南東から)



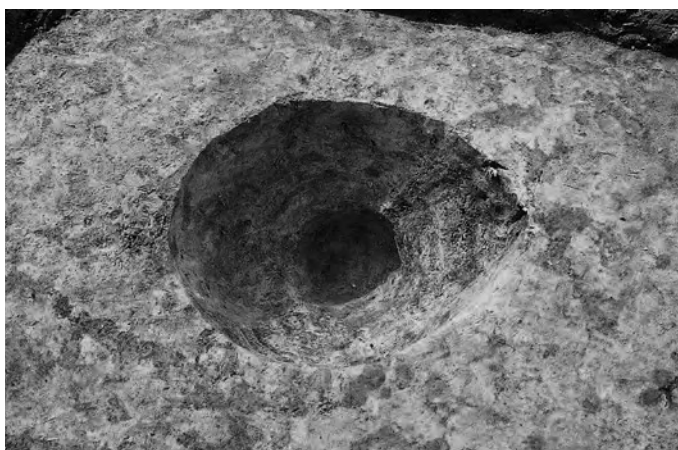
Pit156 (SB3) 断面 (南東から)



Pit156 (SB3) 完掘 (南東から)



Pit159 (SB3) 断面 (北東から)



Pit159 (SB3) 完掘 (北東から)



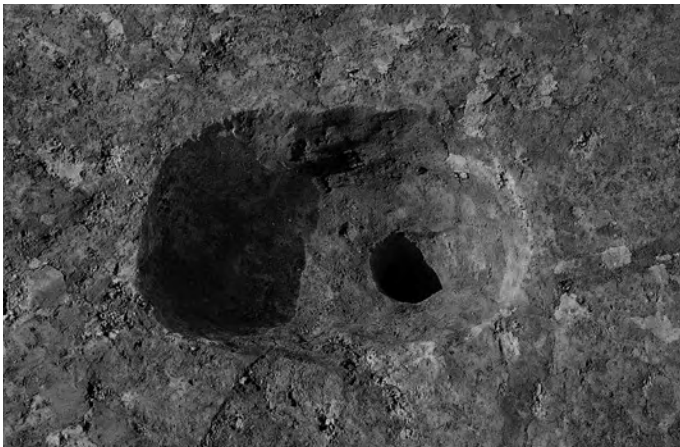
Pit186 (SB3) 断面 (南東から)



Pit186 (SB3) 完掘 (南東から)



Pit187 (SB3) 断面 (南東から)



Pit187 (SB3) 完掘 (南東から)



Pit365 (SB3) 断面 (南西から)



Pit365 (SB3) 完掘 (南西から)



SA4 完掘 (北西から)



SA5 完掘 (北西から)



Pit294 断面 (北から)



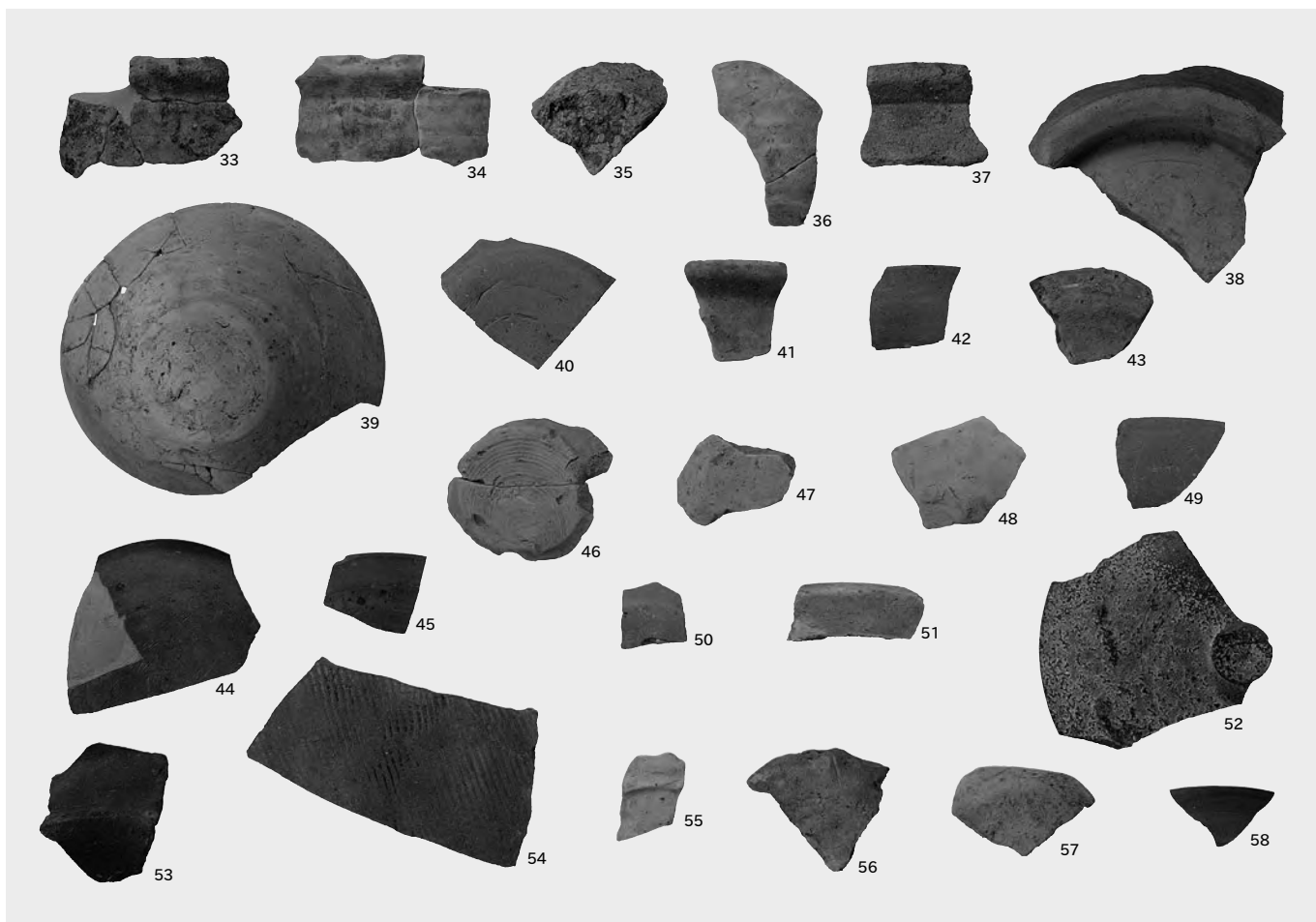
Pit294 完掘 (北から)



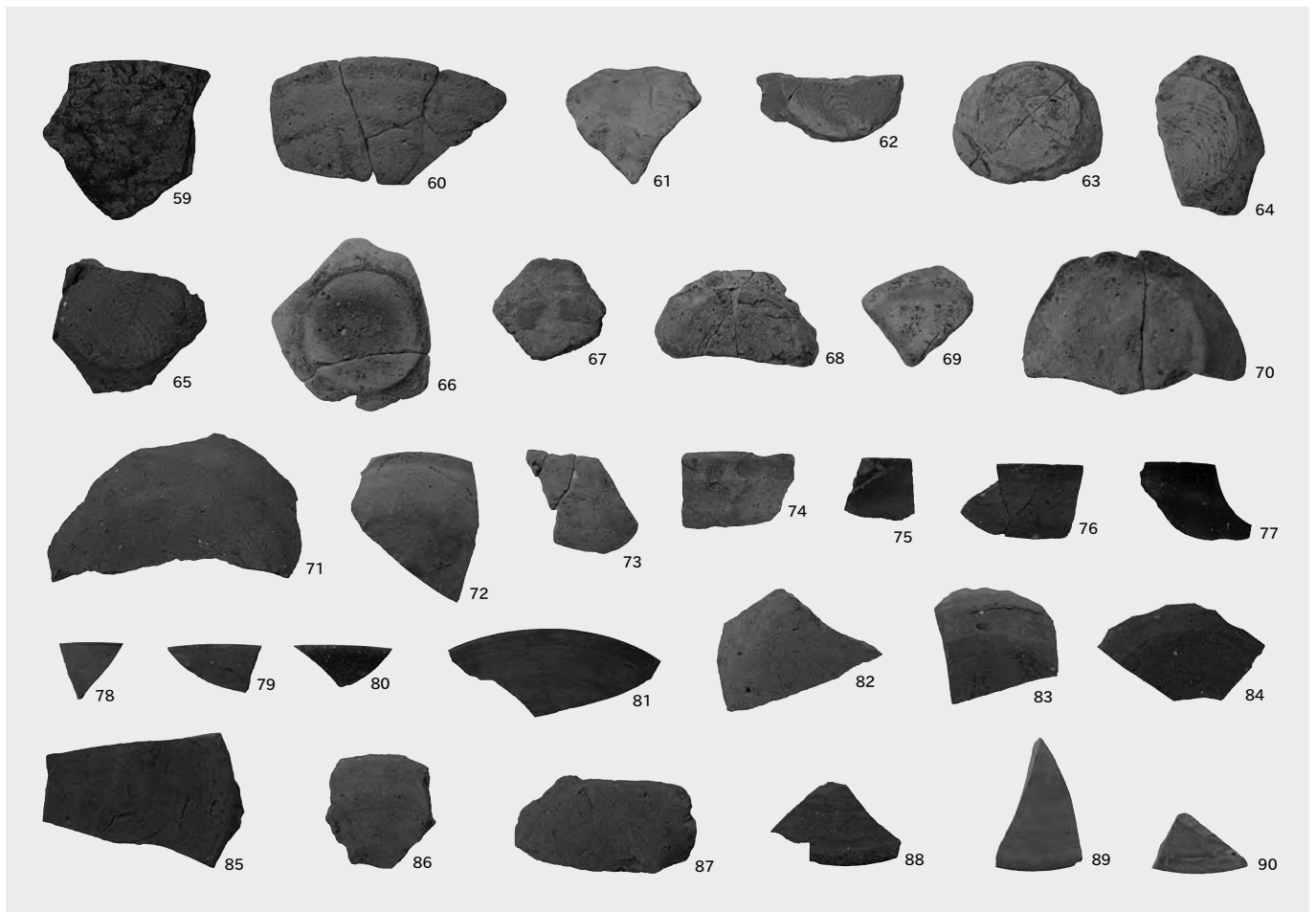
SK193 (1・2)・SK252 (3)・SK254 (4～6)・SK457 (7・8)、SD108 (9～14)



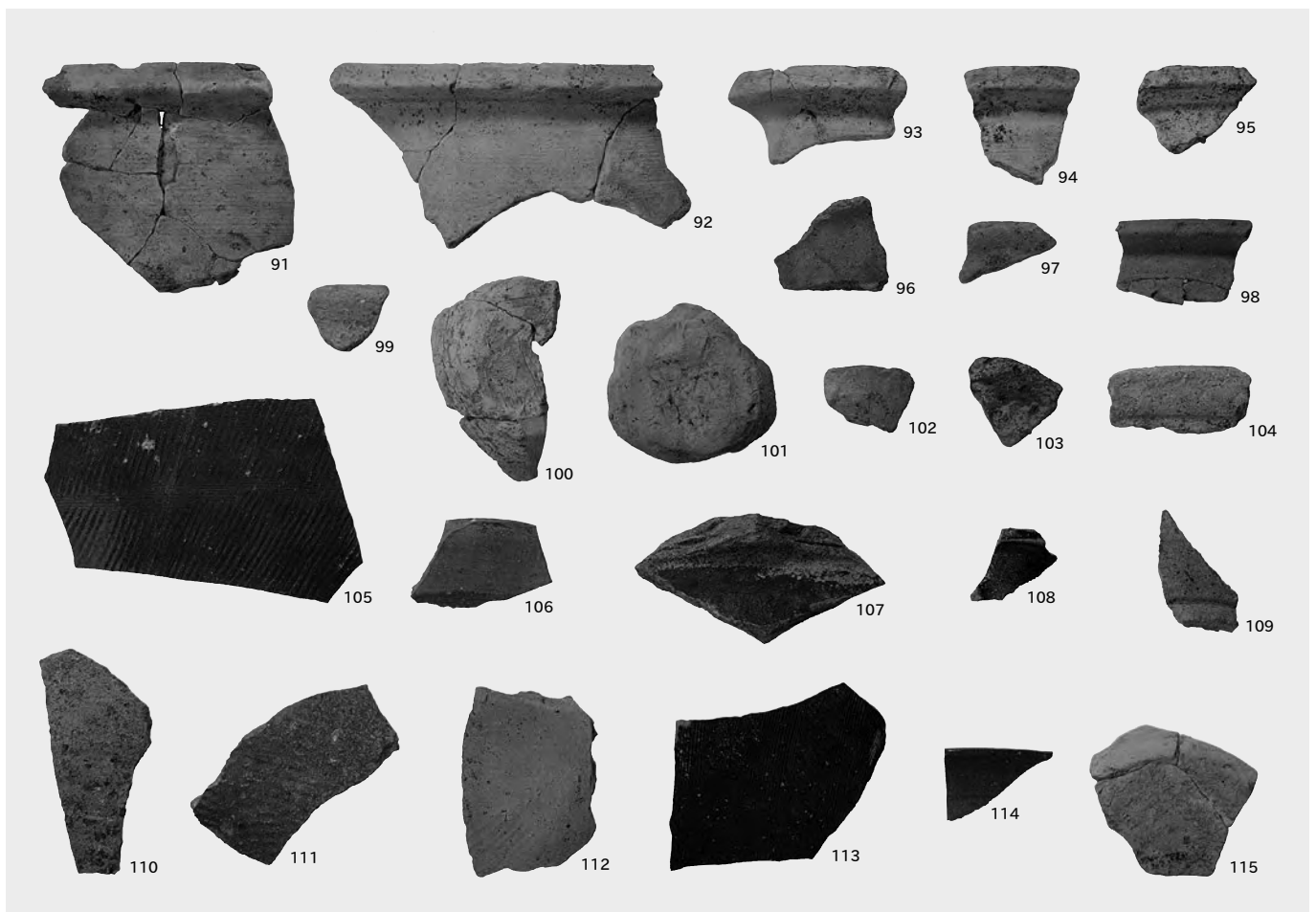
SD108 (15 ~ 18) · SD239 (19 ~ 22) · SD257 (23 ~ 25) · SD330 (26 ~ 32)



SD330 (33 ~ 38) · SD358 (39 ~ 41), Pit183 (42·43), SE105 (44) · SE119 (45) · SE120 (46) · SE329 (47) · SE367 (48), SK340 (49), SD9-B (50) · SD25 (51) · SD101 (52) · SD124 (53) · SD128 (54) · SD197 (55) · SD251 (56·57), Pit186 (58)



包含層 (59 ~ 90)



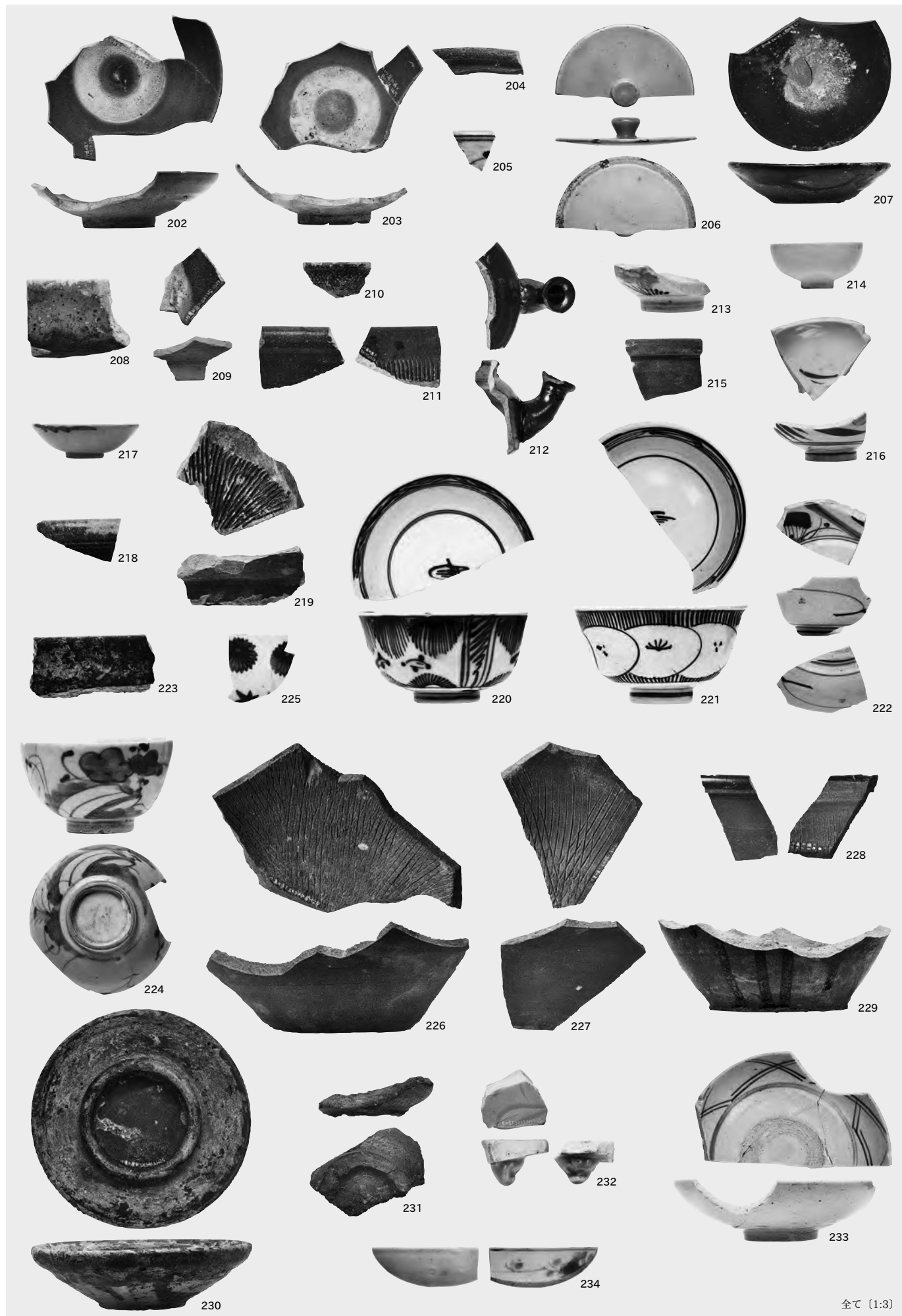
包含層 (91 ~ 113)、攪乱 (114・115)



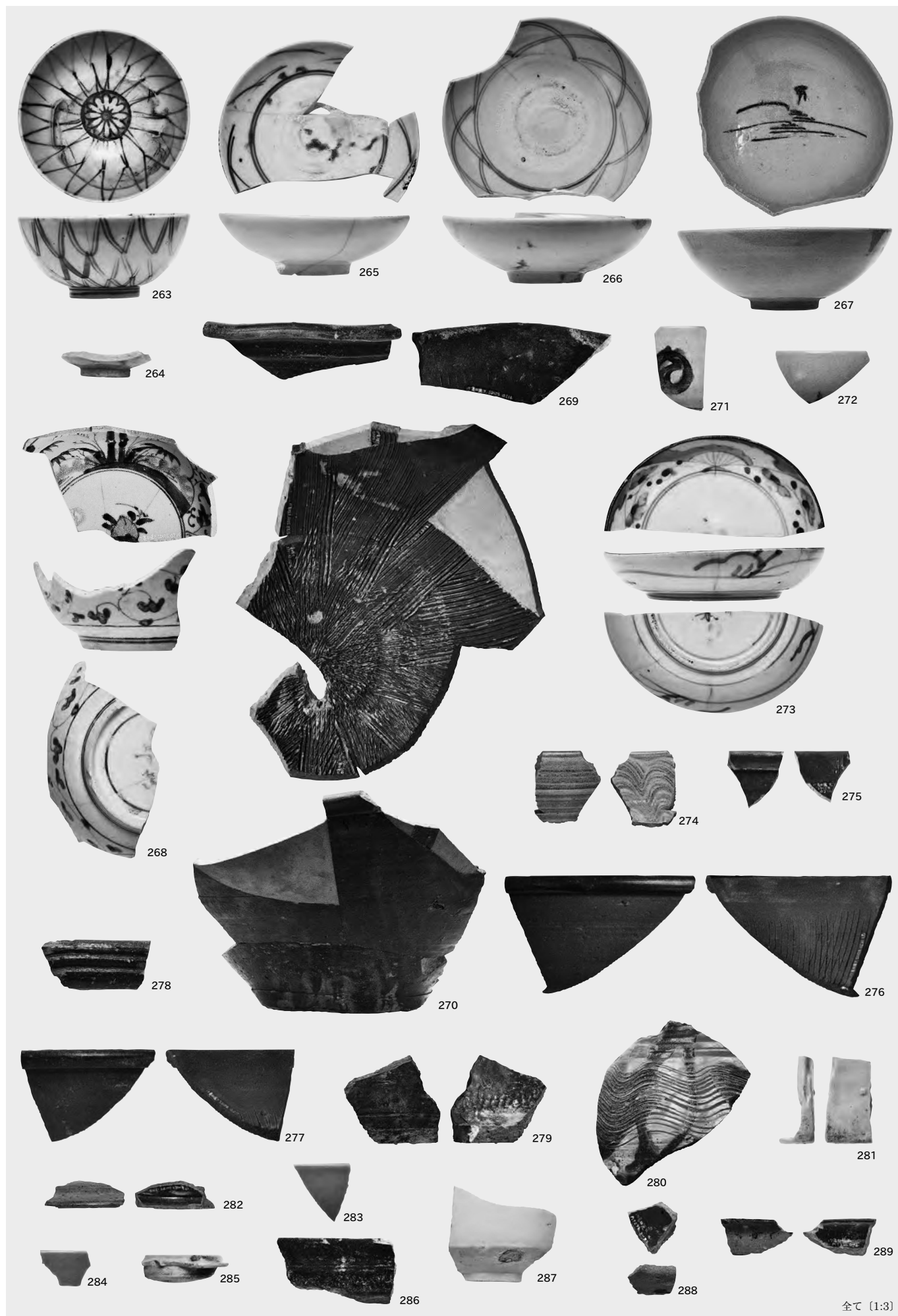


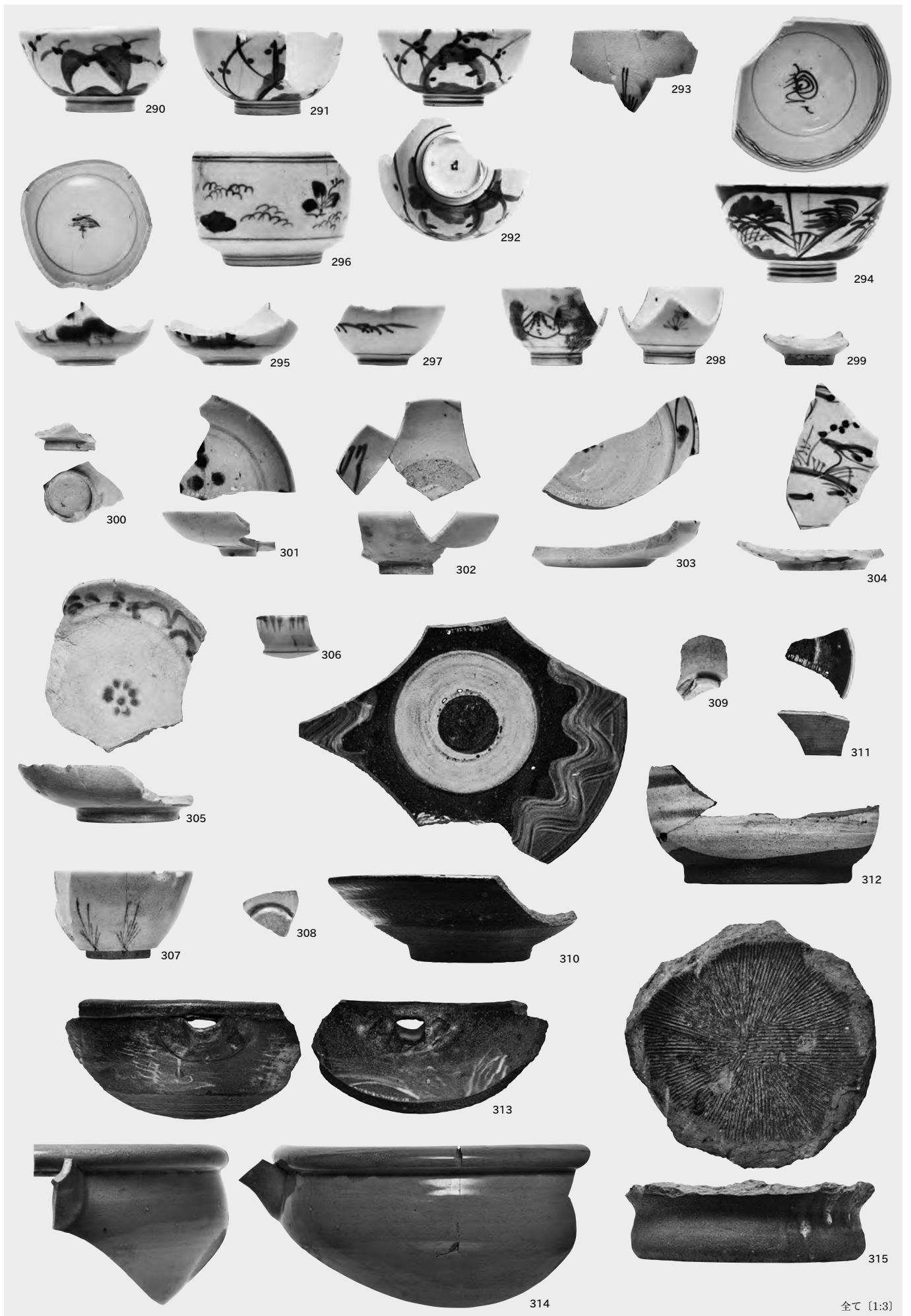


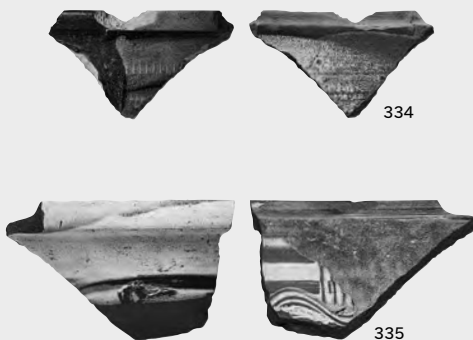
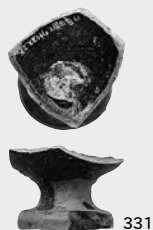
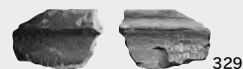
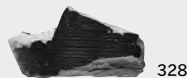
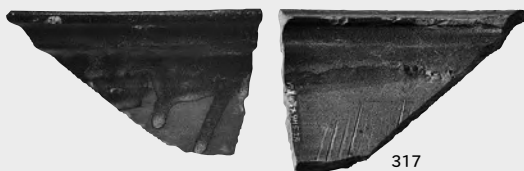
196・197 [1:6]
その他 [1:3]

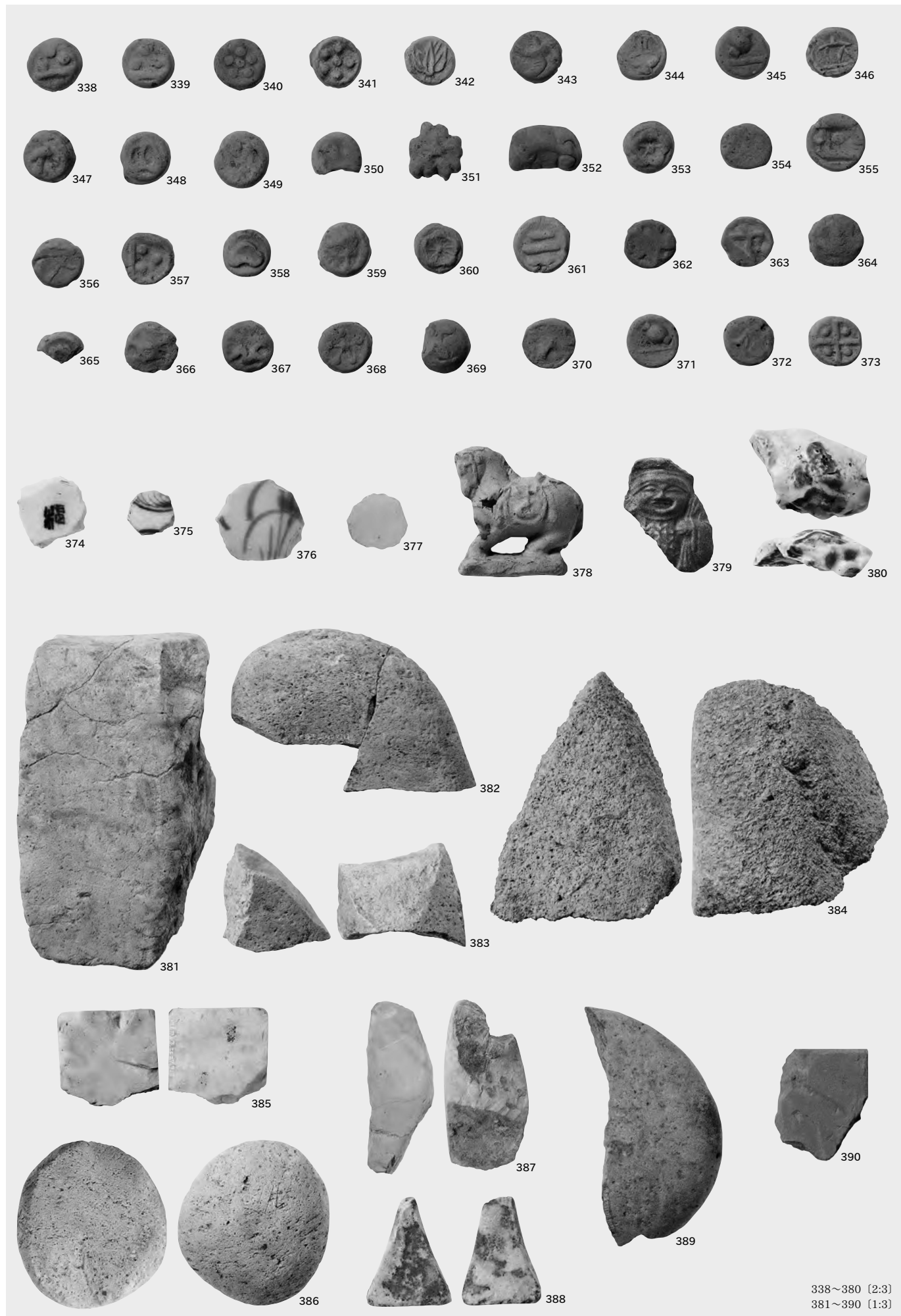




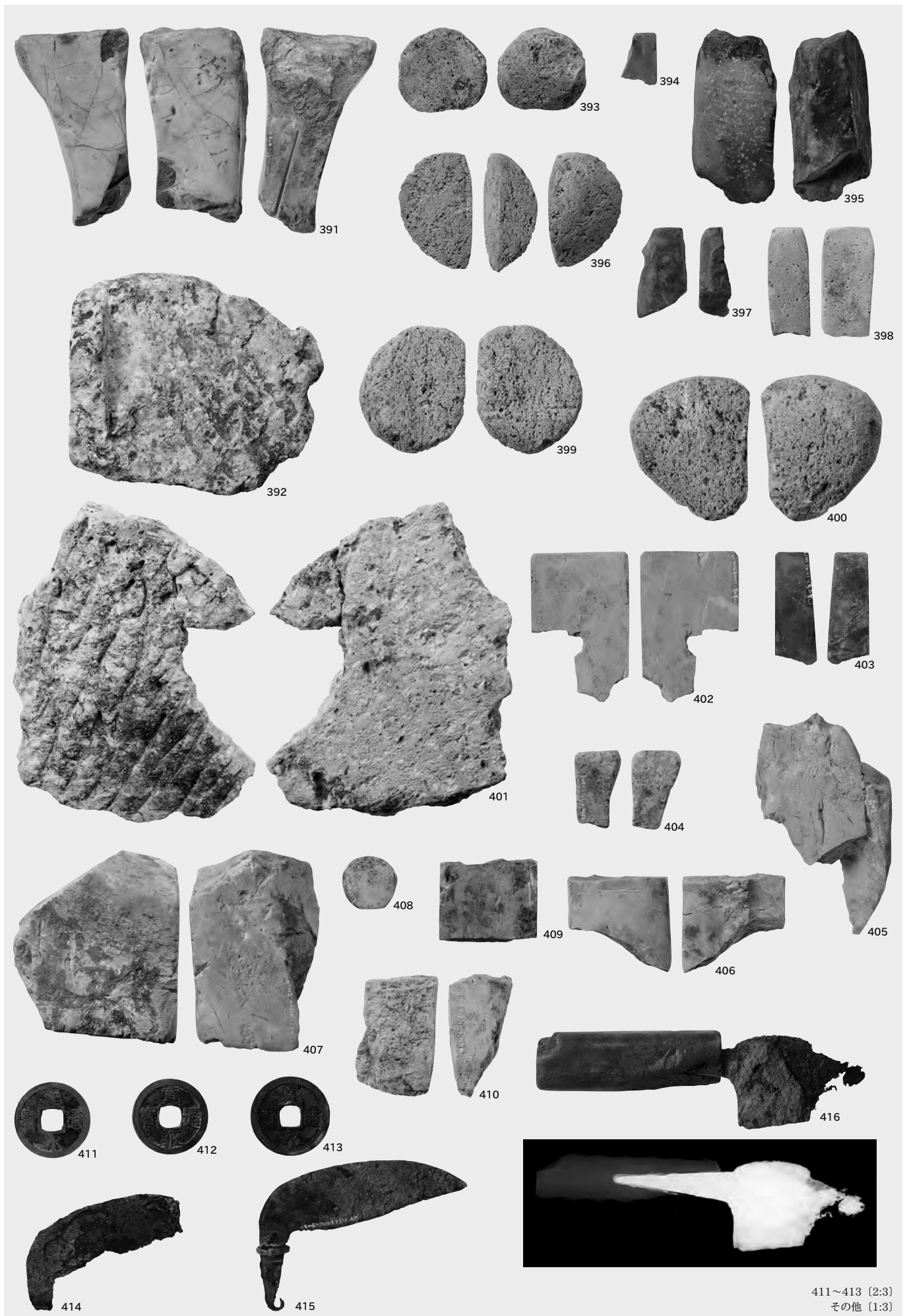




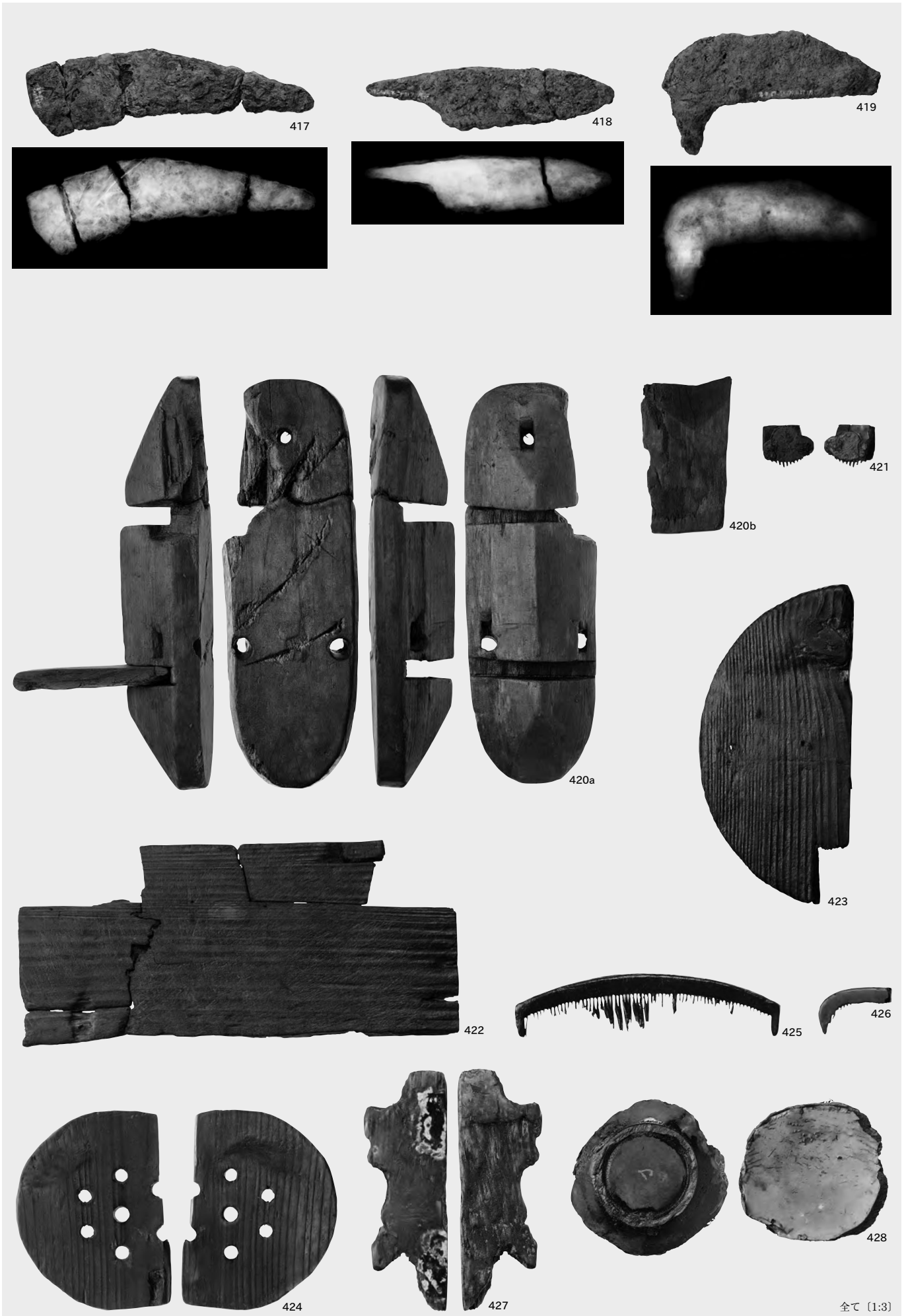




338~380 [2:3]
381~390 [1:3]



411~413 [2:3]
その他 [1:3]



報告書抄録

| ふりがな | かめだみちしたいせき だいにじちようさ | | | | | | | |
|-----------------|--|-----------------------|---|-------------------|--|-----------------------|-----------|--------------------|
| 書名 | 亀田道下遺跡 第2次調査 | | | | | | | |
| 副書名 | 一市道亀田南線建設事業に伴う亀田道下遺跡第2次発掘調査報告書一 | | | | | | | |
| 巻次 | | | | | | | | |
| シリーズ名 | 新潟市埋蔵文化財発掘調査報告書 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | | | | | | | | |
| 編著者名 | 澤野慶子・遠藤恭雄（新潟市文化財センター）・千田幸生（㈱ノガミ）・㈱火山灰考古学研究所・㈱加速器分析研究所 | | | | | | | |
| 編集機関 | 新潟市文化スポーツ部歴史文化課文化財センター | | | | | | | |
| 所在地 | 〒950-1122 新潟市西区木場2748番地1 TEL 025-378-0480 | | | | | | | |
| 発行機関 | 新潟市教育委員会 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 西暦2020年3月13日 | | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所在地 | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 ㎡ | 調査原因 |
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| かめだみち 亀田道下遺跡 | にいがたけんいしがたしこうなんく 新潟県新潟市江南区 おぎそね 荻曽根2丁目14-4他 | 15104 | 768 | 37° 51′ 57″ | 139° 05′ 59″ | 20170801～ 20171130 | 1675.43 | 市道亀田南線建設事業に伴う本発掘調査 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | | 主な遺物 | | 特記事項 | |
| 亀田道下遺跡 | 遺物包蔵地 集落遺跡 | 奈良・ 平安時代 近世 | 土坑(SK)10基、溝(SD)7条、耕作関連遺構(SN)2基、小土坑(Pit)22基 | | 土師器・須恵器・石製品 | | | |
| | | | 井戸(SE)18基、土坑(SK)27基、性格不明遺構(SX)6基、溝(SD)44条、掘立柱建物(SB)3棟、耕作関連遺構(SN)24基、杭列(SA)2基、小土坑(Pit)186基 | | 肥前系陶磁器 越中瀬戸須佐唐津 京・信楽 土師器 鎌 包丁 銭貨 櫛 漆器 椀 砥石 泥面子 | | | |
| 要約 | <p>遺跡は信濃川、阿賀野川、小阿賀野川に囲まれた亀田砂丘の西端部にあたる、沖積地の微高地に立地する。現地標高は、1.6～2m前後で道路用地となる以前の現況は北側が宅地、南側は梅林および畑地となっていた。層序はⅠ層が近世以降の宅地造成に伴う盛土など、Ⅱ層が褐灰色シルト層で近世以降の遺物包含層、Ⅲ層は灰褐色シルトで古代の遺物包含層、Ⅳ層は灰黄褐色シルトで古代の遺構確認面（基盤層）である。Ⅲ層は北東側や南側の一部では削平され検出されていない。</p> <p>古代の遺構は溝(SD)7条、土坑(SK)10基、畑の畝間と推定される小溝(SN)、ピットなどが主に調査区の南側から検出された。遺物は8世紀代とみられる須恵器無台杯・有台杯も出土しているが、9世紀代の須恵器や土師器が主体となる。古代においては、調査地は9世紀を主体とする集落の縁辺部にあったと推定される。</p> <p>近世以降の遺構としては、北西から南東方向およびこれと直交する溝、掘立柱建物跡3棟、井戸18基などが確認された。調査区の南半は主に生産域となっており、畑の畝間が検出された。遺構は調査区中央付近を横断するSD128より北側に集中し、建物や溝の方向は、概ね道路用地になる前の区画と一致がみられる。遺物は18世紀代を主体とする17～19世紀代の陶磁器と、漆器椀や櫛などの木製品、金属製品、土製品が出土している。陶磁器は肥前産の椀・皿、播鉢といった日用雑器が多数を占め、火入・香炉や灰落としなどの嗜好品もみられる。当該地は、道路用地になる以前には、当地名産である藤五郎梅の祖といわれる宇野藤五郎の本家（宇野藤五郎は分家）の屋敷地となっていた。文献資料によれば、遺跡の位置する荻曽根新田は、17世紀前半より新田開発が開始されたとみられ、文化・文政（1804～1829）年間には、梅の産地として知られるようになった。新田開発当初からの様相は不明であるが、調査区は近世以降の井戸の重複関係などから、遅くとも18世紀代から継続的な利用が行われた経済力の高い農家の屋敷地と推定される。</p> | | | | | | | |

亀田道下遺跡 第2次調査

一市道亀田南線建設事業に伴う亀田道下遺跡第2次発掘調査報告書一

2020年3月10日印刷
2020年3月13日発行

編集 新潟市歴史文化課文化財センター
〒950-1122 新潟市西区木場2748番地1
TEL 025 (378) 0480

発行 新潟市教育委員会
〒951-8550 新潟市中央区学校町通一番町602番地1
TEL 025 (228) 1000

印刷・製本 株式会社ハイグラフィック
〒950-2022 新潟市西区小針1丁目11番8号
TEL 025 (233) 0321

報告書抄録

| | |
|--------|---|
| ふりがな | かめだみちしたいせき だいにじちようさ |
| 書名 | 亀田道下遺跡 第2次調査 |
| 副書名 | 一市道亀田南線建設事業に伴う亀田道下遺跡第2次発掘調査報告書一 |
| 巻次 | |
| シリーズ名 | 新潟市埋蔵文化財発掘調査報告書 |
| シリーズ番号 | |
| 編著者名 | 澤野慶子・遠藤恭雄(新潟市文化財センター)・千田幸生(㈱ノガミ)・㈱火山灰考古学研究所・㈱加速器分析研究所 |
| 編集機関 | 新潟市文化スポーツ部歴史文化課文化財センター |
| 所在地 | 〒950-1122 新潟市西区木場2748番地1 TEL 025-378-0480 |
| 発行機関 | 新潟市教育委員会 |
| 発行年月日 | 西暦2020年3月13日 |

| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所在地 | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 m ² | 調査原因 |
|---------------------|--|-------|------|-------------------|--------------------|-----------------------|------------------------|--------------------|
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| かめだみちたいせき 亀田道下遺跡 | にいがたけんにいがたしこうなんく 新潟県新潟市江南区 おぎそね 荻曽根2丁目14-4他 | 15104 | 768 | 37° 51' 57" | 139° 05' 59" | 20170801～ 20171130 | 1675.43 | 市道亀田南線建設事業に伴う本発掘調査 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|--------|---------------|-------------------|---|---|------|
| 亀田道下遺跡 | 遺物包蔵地 集落遺跡 | 奈良・平安時代 近世 | 土坑(SK)10基、溝(SD)7条、畝間状遺構(SN)2基、小土坑(Pit)22基 井戸(SE)18基、土坑(SK)27基、性格不明遺構(SX)6基、溝(SD)44条、掘立柱建物(SB)3棟、畝間状遺構(SN)24基、杭列(SA)2基、小土坑(Pit)186基 | 土師器・須恵器・石製品 肥前系陶磁器 越中瀬戸須佐唐津 京・信楽 土師器 鎌包丁 銭貨 櫛漆器 椀 砥石 泥面子 | |

| | |
|----|--|
| 要約 | <p>遺跡は信濃川、阿賀野川、小阿賀野川に囲まれた亀田砂丘の西端部にあたる、沖積地の微高地に立地する。現地標高は、1.6～2m前後で道路用地となる以前の現況は北側が宅地、南側は梅林および畑地となっていた。層序はⅠ層が近世以降の宅地造成に伴う盛土など、Ⅱ層が褐灰色シルト層で近世以降の遺物包含層、Ⅲ層は灰褐色シルトで古代の遺物包含層、Ⅳ層は灰黄褐色シルトで古代の遺構確認面(基盤層)である。Ⅲ層は北東側や南側の一部では削平され検出されていない。</p> <p>古代の遺構は溝(SD)7条、土坑(SK)10基、畑の畝間と推定される小溝(SN)、ピットなどが主に調査区の南側から検出された。遺物は8世紀代とみられる須恵器無台杯・有台杯も出土しているが、9世紀代の須恵器や土師器が主体となる。古代においては、調査地は9世紀を主体とする集落の縁辺部にあったと推定される。</p> <p>近世以降の遺構としては、北西から南東方向およびこれと直交する溝、掘立柱建物跡3棟、井戸18基などが確認された。調査区の南半は主に生産域となっており、畑の畝間が検出された。遺構は調査区中央付近を横断するSD128より北側に集中し、建物や溝の方向は、概ね道路用地になる前の区画と一致がみられる。遺物は18世紀代を主体とする17～19世紀代の陶磁器と、漆器椀や櫛などの木製品、金属製品、土製品が出土している。陶磁器は肥前産の椀・皿、播鉢といった日用雑器が多数を占め、火入・香炉や灰落としなどの嗜好品もみられる。当該地は、道路用地になる以前には、当地名産である藤五郎梅の祖といわれる宇野藤五郎の本家(宇野藤五郎は分家)の屋敷地となっていた。文献資料によれば、遺跡の位置する荻曽根新田は、17世紀前半より新田開発が開始されたとみられ、文化-文政(1804～1829)年間には、梅の産地として知られるようになった。新田開発当初からの様相は不明であるが、調査区は近世以降の井戸の重複関係などから、遅くとも18世紀代から継続的な利用が行われた経済力の高い農家の屋敷地と推定される。</p> |
|----|--|

亀田道下遺跡 第2次調査

一市道亀田南線建設事業に伴う亀田道下遺跡第2次発掘調査報告書一

2020年3月10日印刷
2020年3月13日発行

編集 新潟市歴史文化課文化財センター
〒950-1122 新潟市西区木場2748番地1
TEL 025 (378) 0480

発行 新潟市教育委員会
〒951-8550 新潟市中央区学校町通一番町602番地1
TEL 025 (228) 1000

印刷・製本 株式会社ハイグラフィック
〒950-2022 新潟市西区小針1丁目11番8号
TEL 025 (233) 0321